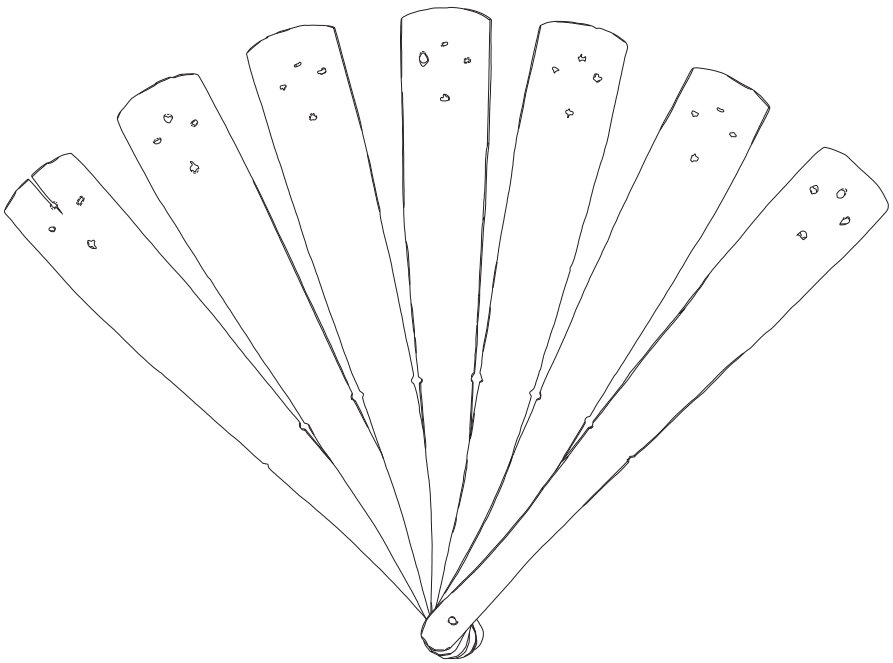
青森市埋蔵文化財調査報告書　第 94 集

石 江 遺 跡 群

発掘調査報告書

―東北新幹線建設事業に伴う発掘調査―



平成 18 年度

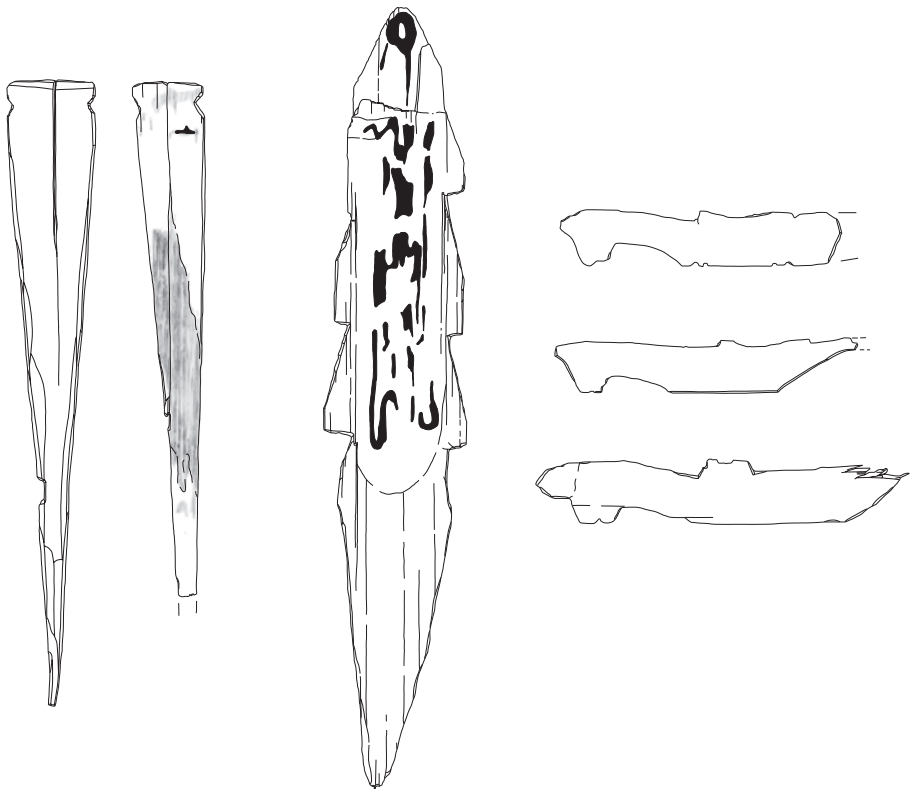
青 森 市 教 育 委 員 会

青森市埋蔵文化財調査報告書　第 94 集

石江遺跡群

発掘調査報告書

－東北新幹線建設事業に伴う発掘調査－



平成 18 年度

青森市教育委員会

04高間(1)調査区遠景(S→)

04高間(1)調査区(真上→)

04高間(1)調査区(真上→)

03・04新田(1)調査区遠景(S→)

04新田(1)調査区(真上→)

03新田(1)調査区全景(ＳＷ→)

03新田(1)調査区(Ｅ→)

03新田(1)調査区(Ｗ→)

03新田(1)調査区東側(真上→)

新田(1)遺跡SD-01出土扇

序

青森市内には現在、３８０ヵ所以上の遺跡が所在し、本市の歴史を知る手掛かりとなる貴重な資料が土の中に埋蔵されております。

市内では毎年、各種公共事業や民間事業者の土木工事が行われておりますが、これらの工事が周知の埋蔵文化財包蔵地内で行われる場合、埋蔵文化財保護との調整により、記録保存を前提とした発掘調査が実施されることになります。

現在、市内の石江地区においては、平成２２年（2010）の東北新幹線八戸・青森間の開業に向けて、新青森駅駅舎などの建設工事が急ピッチで進んでおります。本書は、これに先立ち、平成１５年度及び１６年度の２ヵ年に実施した路線上に所在する高間（１）遺跡及び新田（１）遺跡における発掘調査の成果をまとめたものであります。

調査の結果、古代の扇や木簡など青森県内の遺跡では新発見の資料などが見つかり、不鮮明であった古代中期～後期にかけての青森県の歴史を知る上で貴重な資料となることが予想されます。この遺跡は、当委員会では調査実績が少ない西部地区の住宅地内に所在する遺跡であり、これまでの山間部付近の調査成果とは異なる貴重な資料を得ることとなりました。

最後に、本書を刊行するにあたり、調査委託者である独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設局をはじめ、関係各機関及び関係者各位のご理解・ご協力に対しまして深く感謝の意を表します。

平成 19 年 3 月

青森市教育委員会

教育長　**角 田　詮二郎**

例　　言

1．本書は、独立行政法人鉄道建設･運輸施設整備支援機構鉄道本部東北新幹線建設局より委託を受け、青森市教育委員会が平成１５～１７年度に範囲確認調査・発掘調査を実施した石江遺跡群の発掘調査報告書である。

2．本書に記載される内容は、石江遺跡群のうち東北新幹線新青森駅建設予定箇所に該当した高間（1）遺跡（青森県遺跡台帳番号０１０７０）と新田（1）遺跡（青森県遺跡台帳番号０１０７８）についてまとめたものである。

3．石江遺跡群は青森市西部の石江地区に所在する７遺跡〔高間（1）･（6）遺跡、新田（1）･（2）遺跡、新城平岡（2）･（4）･（5）遺跡〕を便宜的に統括した呼称で、平成１３・１４年度青森市教育委員会が実施した石江土地区画整理事業に伴う試掘・確認調査で既存の１１遺跡を７遺跡に統廃合している（青森市教育委員会２００３）。なお本報告において掲載した遺跡範囲については、平成１８年度青森市教育委員会および青森県埋蔵文化財調査センターが実施した発掘調査成果をもとに平成１９年３月５日付け青教文第１３８１号で新田（1）遺跡及び新田（2）遺跡（青森県遺跡台帳番号０１０８０）の範囲変更を行っており、その成果を反映した図を掲載した。

4．東北新幹線建設事業に係る範囲確認調査は、平成１５年度と平成１７年度に実施しており、調査の概要については第Ⅲ章中に記載した。また、発掘調査は、平成１５年度に新田（1）遺跡の一部と平成１６年度に高間（1）遺跡と新田（1）遺跡を対象に行っている。

5．第Ⅶ章を除く本書の執筆および本書の編集は青森市教育委員会が行い、木村淳一が担当した。

6．調査に関わる出土遺物及び記録図面・写真関係資料は、現在、青森市教育委員会で保管している。

7．本書は次の方々から玉稿を賜った。銘記して感謝申し上げる。

第Ⅶ章第１節　奈良文化財研究所　埋蔵文化財センター　光谷 拓実 氏

第Ⅶ章第４節　パレオ・ラボ　佐々木由香 氏，森林総合研究所　能城修一 氏

第Ⅶ章第５節　学習院大学　鐘江 宏之 氏

8．木製品の樹種同定及び漆器の塗膜構造分析は（株）吉田生物研究所に委託し、結果については第Ⅶ章第２・３節中に掲載した。

9．出土石器及び石製品の石質鑑定は青森県総合学校教育センター 工藤一彌 氏に、出土陶磁器は青森市史編さん室 工藤清泰 氏に、新田(1)遺跡Ｂ－１拡張区の掘立柱建物跡は八戸市教育委員会 佐々木浩一氏にご教示頂いた。感謝申し上げる次第である。

10．発掘調査及び本書作成にあたり、下記の方をはじめ多くの方々からご指導・ご協力をいただいた。（順不同・敬称略）

奈良文化財研究所、青森県教育庁文化財保護課、青森県埋蔵文化財調査センター、伊藤武士、伊藤博幸、岩井浩介、岩田安之、宇部則保、小笠原雅行、越田賢一郎、小松隆史、小松有希子、齋藤淳、榊原滋高、佐藤甲二、佐野忠史、高橋学、茅野嘉雄、中嶋友文、畠山昇、福島正和、藤原弘明、古川淳一、村田晃一、三浦圭介、山本崇、吉田歓、吉田浩一、四柳嘉章、渡辺晃宏、伊藤由美子、木立未来、倉内純子、白崎恵理、若山真由美

11．調査体制については第Ⅰ章中に記述したが、発掘調査・確認調査には以下の方々が屋外作業に従事した。（順不同・敬称略）石山沢光、天野憲子、大見百合子、金沢順子、高坂正子、古賀千夜子、坂上豊子、澤谷晴美、鹿戸京子、柴田まつ子、渋谷美由紀、中村照美、鳴海テル子、藤川恵美子、山口絵利奈、山口鶴子、佐藤義和、筑田昌昭、荒内美枝子、石塚洋子、大平咲子、大柳タケ子、金原登志子、神野和子、古川きよみ、古川幸子、佐々木タツエ、佐々木やす子、佐藤千枝子、佐藤久子、七戸良子、神しぎ子、清野千鳥、寺山人美、畠山淳子、福岡昭子、三上千恵子、山崎まさ子、山田里美、若佐谷秋子、若佐谷厚子、和田久子、石坂いく子、小山内幸子、川村光、木村美津甫

凡　　例

1．　図版番号は、本文中に図示したものについては「第〇図」とした。表番号については「第〇表」とした。第Ⅶ章中のものについては原稿中の表記に基づいた。

2．　遺構の掲載について

(1)　方位は国土地理院第Ｘ系平面直角座標系に基づく座標北である。座標系は旧測地系に基づいている。

(2)　各図の縮尺は以下の縮尺を基本とし、それ以外のものについてはスケールを付して図示した。
1/25,000　1/10,000　1/2,500　1/500　1/100　1/60　1/30

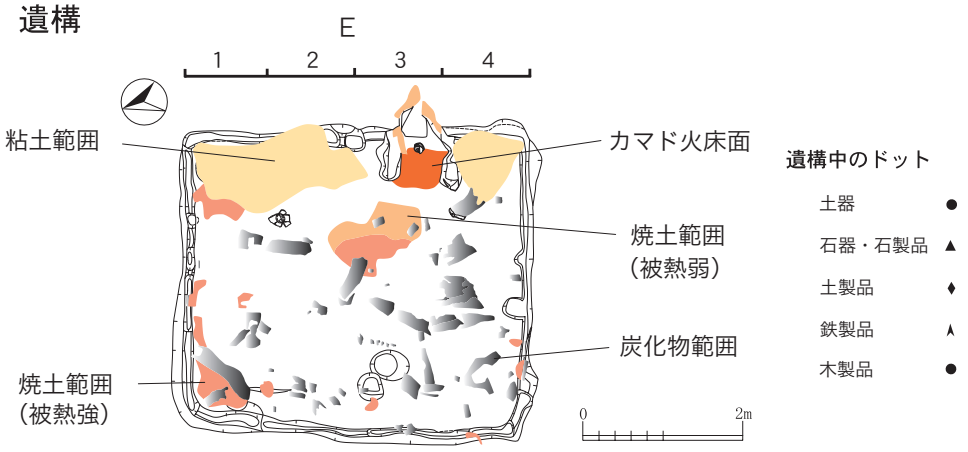
(3)　水平基準は海抜高をメートル（m）で表示した。

(4)　遺構の略号は、SI ＝竪穴建物（住居）跡、SK ＝土坑、SP ＝ピット、SD ＝溝跡、SB ＝掘立柱建物跡（第Ⅴ・Ⅵ章中のものについては調査時に認定した遺構名をそのまま使用。第Ⅴ章中の表記に際しては遺構略号の前に調査年度の H15 を付して H15SB としている。）、SN ＝焼成遺構、SX ＝その他の遺構である。本書で用いられる遺構の名称のうち、掘立柱建物跡とピットについては整理時に認定された資料も含まれる。整理時認定の資料については遺構略号の末尾にａを付した。具体的にはＳＢａ－０１のような表記の仕方である。

(5)　本書の土層の注記については、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 1996）に準拠した。

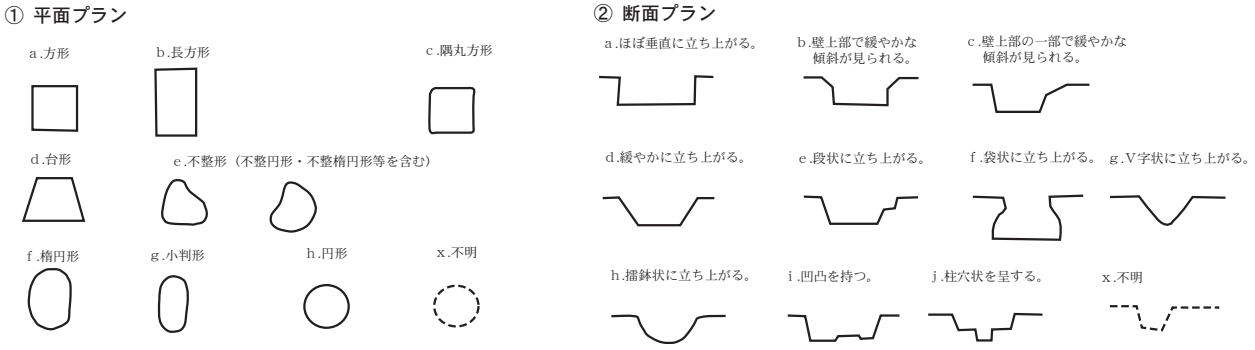
(6)　遺構の規模については、基本的に長軸×短軸×深さをｃｍで表示した。このうち深さについては、遺構確認面からの計測値を記した。

(7)　本書の遺構図中で使用されるドット等の指示については下図のとおりである。



(8)　カマドの設置位置については、設置している壁側の壁長を４分割し、内側から見た場合の左手側（具体的には東壁だと北側）を１とし、右側に向かって２・３・４と分割し、カマドがどの位置にあたるかを方位を表すアルファベット（例：東＝E, 南＝S）＋分割位置の数字を組み合わせて表示した。（７）の図をこの取扱いで表現するとＥ３ということになる。

(9)　第Ⅵ章内のピット観察表中で標記されている類型化の記号は当委員会が平成 14 年度に刊行した『雲谷山吹（4）～（7）遺跡発掘調査報告書』（青森市教育委員会 2003）で提示した類型化に基づき提示している。

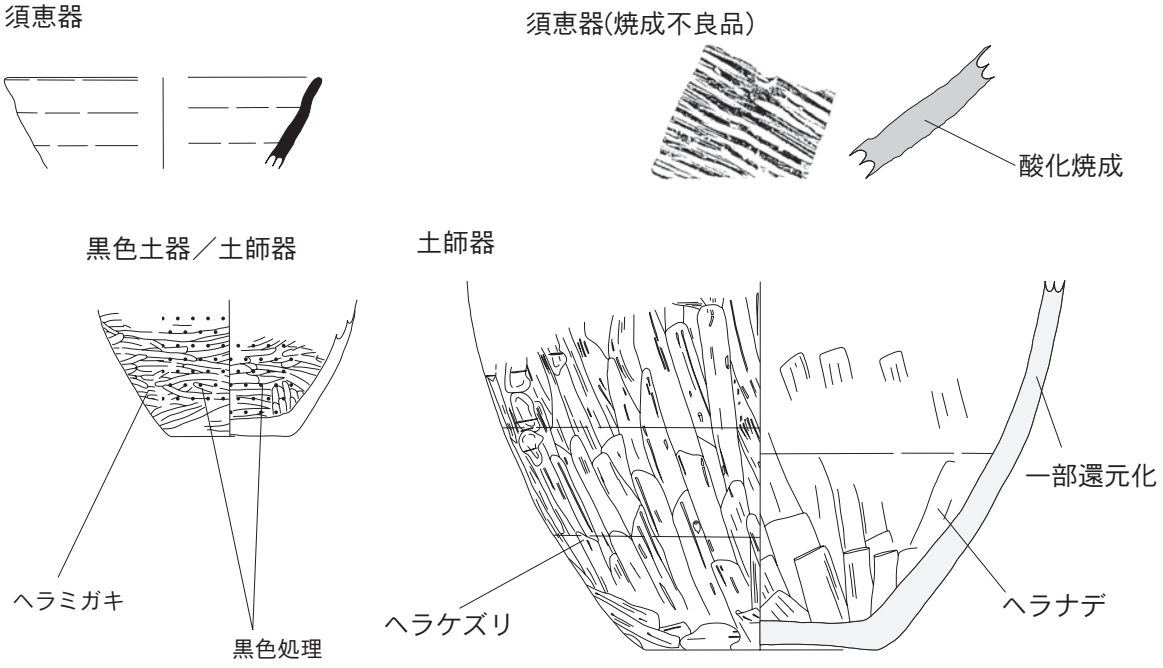


3．遺物の掲載について

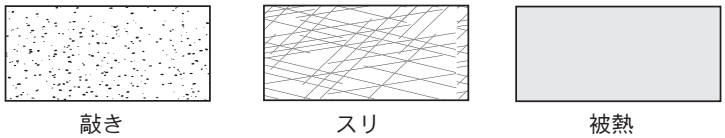
(1) 各図の縮尺は以下のとおりである。

土器 1/3　石器　1/2・1/3　土製品 1/2・1/3　木製品 1/3・1/4・1/12・石製品 1/2・1/3

(2) 遺物実測図の表現



石器の遺物図版中で使用される網掛けの指示については下図のとおりである。



目　　次

巻首図版
序
例言
凡例
目次
図版目次
表目次
写真図版目次

第Ⅰ章　調査経緯と経過
　第１節　調査に至る経緯と経過 …… 1
　第２節　調査要項 …… 2
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境
　第１節　遺跡の位置と地理的環境 …… 7
　第２節　歴史的環境 …… 8
第Ⅲ章　調査の概要
　第１節　第一次試掘・確認調査 …… 11
　第２節　本調査（石江土地区画整理事業エリア内） …… 13
　第３節　第二次試掘・確認調査 …… 13
第Ⅳ章　高間(1)遺跡
　第１節　基本層序 …… 17
　第２節　遺構
　　1.竪穴建物跡 …… 18
　　2.土坑 …… 24
　　3.性格不明遺構 …… 28
　　4.ピット …… 28
　　5.掘立柱建物跡 …… 30
　　6.溝跡 …… 35
　第３節　遺物
　　1. 土器…… 51
　　2. 石器・石製品…… 54
　　3. 土製品…… 54
　第４節　小結 …… 55

第Ⅴ章　新田(1)遺跡(沖積地部分)
　第１節　遺構
　　1.ピット …… 69
　　2.溝跡 …… 73
　第２節　遺物
　　1.土器 …… 89
　　2.石器・石製品 …… 92
　　3.木製品 ……104
　　4.金属製品 ……109
　第３節　小結 ……109
第Ⅵ章　新田(1)遺跡(丘陵地部分)
　第１節　遺構
　　1.竪穴建物跡 ……179
　　2.土坑 ……186
　　3.焼成遺構 ……197
　　4.性格不明遺構 ……197
　　5.ピット ……197
　　6.掘立柱建物跡 ……231
　　7.溝跡 ……234
　第２節　遺物
　　1.土器 ……261
　　2.石器・石製品 ……266
　第３節　小結 ……267
第Ⅶ章　分析と考察
　第１節　年輪年代法による新田(1)、高間(1)遺跡出土木材の年輪年代 ……281
　第２節　青森市新田(1)遺跡出土漆器の塗膜構造調査 ……286
　第３節　青森市新田(1)遺跡出土木製品の樹種調査結果 ……288
　第４節　新田(1)遺跡から出土した編組製品の素材同定と観察 ……305
　第５節　新田(1)遺跡出土の木簡について …… 314(1)

まとめ ……315
引用参考文献……316
報告書抄録

図版目次

第 1 図　新田(1)遺跡・高間(1)遺跡位置図 … 6
第 2 図　位置図 …… 7
第 3 図　周辺の遺跡位置図 …… 9
第 4 図　石江神明宮の移転の変遷概略図 … 10
第 5 図　第一次調査トレンチ配置図 …… 12
第 6 図　第二次調査トレンチ配置図 …… 14
第 7 図　高間(1)遺跡遺構配置図…… 15・16
第 8 図　高間(1)遺跡基本層序…… 17
第 9 図　SI-01-1 …… 19
第 10 図　SI-01-2 …… 20
第 11 図　SI-01-3 …… 21
第 12 図　SI-01-4 …… 22
第 13 図　SI-01-5 …… 23
第 14 図　SK ① …… 25
第 15 図　SK ② …… 26
第 16 図　SK ③, SX …… 27
第 17 図　SP…… 29
第 18 図　SB ① …… 31・32
第 19 図　SB ② …… 33・34
第 20 図　SD ① …… 36
第 21 図　SD ② …… 37
第 22 図　SD ③ …… 38
第 23 図　SD ④ …… 39・40
第 24 図　SD ⑤ …… 41
第 25 図　SD ⑥ …… 43
第 26 図　出土遺物 1(土器)…… 56
第 27 図　出土遺物 2(土器)…… 58
第 28 図　出土遺物 3(土器・土製品) …… 60
第 29 図　出土遺物 4(石器・石製品) …… 62
第 30 図　新田(1)遺跡遺構配置図① … 65・66
第 31 図　新田(1)遺跡遺構配置図②
　　(沖積地部分)…… 67
第 32 図　新田(1)遺跡遺構配置図③
　　(丘陵地部分)…… 68
第 33 図　H15 SB-01…… 70
第 34 図　SD-01-1 …… 72
第 35 図　SD-01-2 …… 74
第 36 図　SD-03-1 …… 75
第 37 図　SD-03-2, SD-04 …… 76
第 38 図　SD-05, SD-06-1 …… 78
第 39 図　SD-06-2 …… 79
第 40 図　SD-08a …… 80
第 41 図　SD-08-1, SD-08b …… 81・82
第 42 図　SD-08-2 …… 83
第 43 図　SD-08-3 …… 84
第 44 図　出土遺物 1(土器)…… 94
第 45 図　出土遺物 2(土器)…… 96
第 46 図　出土遺物 3(土器)…… 98
第 47 図　出土遺物 4(石器・石製品)……100
第 48 図　出土遺物 5(石器・石製品)……102
第 49 図　出土遺物 6(木製品)……110
第 50 図　出土遺物 7(木製品)……111
第 51 図　出土遺物 8(木製品)……112
第 52 図　出土遺物 9(木製品)……113
第 53 図　出土遺物 10(木製品) ……114
第 54 図　出土遺物 11(木製品) ……115
第 55 図　出土遺物 12(木製品) ……116
第 56 図　出土遺物 13(木製品) ……117
第 57 図　出土遺物 14(木製品) ……118
第 58 図　出土遺物 15(木製品) ……119
第 59 図　出土遺物 16(木製品) ……120
第 60 図　出土遺物 17(木製品) ……121
第 61 図　出土遺物 18(木製品) ……122
第 62 図　出土遺物 19(木製品) ……123
第 63 図　出土遺物 20(木製品) ……124
第 64 図　出土遺物 21(木製品) ……125
第 65 図　出土遺物 22(木製品) ……126
第 66 図　出土遺物 23(木製品) ……127
第 67 図　出土遺物 24(木製品) ……128
第 68 図　出土遺物 25(木製品) ……129
第 69 図　出土遺物 26(木製品) ……130
第 70 図　出土遺物 27(木製品) ……131
第 71 図　出土遺物 28(木製品) ……132
第 72 図　出土遺物 29(木製品) ……133
第 73 図　出土遺物 30(木製品) ……134
第 74 図　出土遺物 31(木製品) ……135

第 75 図　出土遺物 32(木製品) ……136
第 76 図　出土遺物 33(木製品) ……137
第 77 図　出土遺物 34(木製品) ……138
第 78 図　出土遺物 35(木製品) ……139
第 79 図　出土遺物 36(木製品) ……140
第 80 図　出土遺物 37(木製品) ……141
第 81 図　出土遺物 38(木製品) ……142
第 82 図　出土遺物 39(木製品) ……143
第 83 図　出土遺物 40(木製品) ……144
第 84 図　出土遺物 41(木製品) ……145
第 85 図　出土遺物 42(木製品) ……146
第 86 図　出土遺物 43(木製品) ……147
第 87 図　出土遺物 44(木製品) ……148
第 88 図　出土遺物 45(木製品) ……149
第 89 図　出土遺物 46(木製品・金属製品) ……150
第 90 図　SI-05-1 ……180
第 91 図　SI-05-2 ……181
第 92 図　SI-05-3 ……182
第 93 図　SI-05-4 ……183
第 94 図　SI-05-5 ……184
第 95 図　SI-05-6 ……185
第 96 図　SI-07 ……187
第 97 図　SK ① ……188
第 98 図　SK ② ……189
第 99 図　SK ③ ……191
第 100 図　SK ④ ……192
第 101 図　SK ⑤ ……194
第 102 図　SK ⑥ ……196
第 103 図　SN・SX ……198
第 104 図　ピット分割区分図 ……209
第 105 図　ピット分割図Ａ ……210
第 106 図　ピット分割図Ｂ ……211
第 107 図　ピット分割図Ｃ ……212
第 108 図　ピット分割図Ｄ ……213
第 109 図　ピット分割図Ｅ ……214
第 110 図　ピット分割図Ｆ ……215
第 111 図　ピットセクション図等Ａ ……216
第 112 図　ピットセクション図等Ｂ　219・220
第 113 図　ピットセクション図等Ｃ ……221
第 114 図　ピットセクション図等Ｄ ……224
第 115 図　ピットセクション図等Ｅ ……225
第 116 図　ピットセクション図等Ｆ ……226
第 117 図　SB-01・02・03 位置図……227
第 118 図　SB-02・03 セクション ……228
第 119 図　SB-01 セクション ……229・230
第 120 図　SBa-01・02 ……232
第 121 図　SBa-03 ～ 05 ……233
第 122 図　SD ①……235・236
第 123 図　SD ②……237
第 124 図　SD ③……238
第 125 図　SD ④……239・240
第 126 図　SD ⑤……241
第 127 図　SD ⑥……242
第 128 図　SD ⑦……243
第 129 図　SD ⑧……244
第 130 図　SD ⑨……245
第 131 図　SD ⑩……246
第 132 図　SD ⑪……247
第 133 図　出土遺物 1(土器) ……268
第 134 図　出土遺物 2(土器) ……270
第 135 図　出土遺物 3(土器) ……272
第 136 図　出土遺物 4(土器) ……274
第 137 図　出土遺物 5(土器) ……276
第 138 図　出土遺物 6(土器) ……278
第 139 図　出土遺物 7(石器・石製品) ……279

表目次

第 1 表　遺跡一覧表 …… 9
第 2 表　第二次調査トレンチ調査結果 …… 13
第 3 表　遺物観察表 1…… 57
第 4 表　遺物観察表 2…… 59
第 5 表　遺物観察表 3…… 61
第 6 表　遺物観察表 4…… 61
第 7 表　遺物観察表 5…… 63
第 8 表　遺物観察表 1…… 95
第 9 表　遺物観察表 2…… 97
第 10 表　遺物観察表 3 …… 99
第 11 表　遺物観察表 4 ……101
第 12 表　遺物観察表 5 ……103
第 13 表　遺物観察表 6 ……170

第 14 表　遺物観察表 7 ……171
第 15 表　遺物観察表 8 ……172
第 16 表　遺物観察表 9 ……173
第 17 表　遺物観察表 10 ……174
第 18 表　遺物観察表 11 ……175
第 19 表　遺物観察表 12 ……176
第 20 表　遺物観察表 13 ……177
第 21 表　遺物観察表 14 ……178
第 22 表　ピット (SP) 観察表 1……199
第 23 表　ピット (SP) 観察表 2……200
第 24 表　ピット (SP) 観察表 3……201
第 25 表　ピット (SP) 観察表 4……202
第 26 表　ピット (SP) 観察表 5……203
第 27 表　ピット (SP) 観察表 6……204
第 28 表　ピット (SP) 観察表 7……205
第 29 表　ピット (SP) 観察表 8……206
第 30 表　ピット (SP) 観察表 9……207
第 31 表　ピット (SB) 観察表 10 ……207
第 32 表　ピット (SB) 観察表 11 ……208
第 33 表　遺物観察表 1 ……269
第 34 表　遺物観察表 2 ……271
第 35 表　遺物観察表 3 ……273
第 36 表　遺物観察表 4 ……275
第 37 表　遺物観察表 5 ……277
第 38 表　遺物観察表 6 ……278
第 39 表　遺物観察表 7 ……280

写真図版目次

写真 1　A-5- ⑧ …… 14
写真 2　A-4- ⑥ …… 14
写真 3　A-3- ④遺構確認面 …… 14
写真 4　A-2- ② …… 14
写真 5　A-1- ① …… 14
写真 6　A-5- ⑨ …… 14
写真 7　A-4- ⑦ …… 14
写真 8　A-3- ⑤ …… 14
写真 9　A-2- ③ …… 14
写真 10　A-1 区基本層序 (E →) …… 17
写真 11　A-2 区基本層序 (S →) …… 17
写真 12　SI-01 東西セクション (S →) …… 44
写真 13　SI-01 南北セクション (W →) …… 44
写真 14　SI-01 炭・焼土・遺物出土状況 (W →)…… 44
写真 15　SI-01 完掘 (W →) …… 44
写真 16　SI-01 カマドセクション① (S →)…… 44
写真 17　SI-01 カマドセクション② (S →) …… 44
写真 18　SI-01 カマド遺物出土状況 (W →) …… 44
写真 19　SI-01 カマド完掘 (W →) …… 44
写真 20　SI-01Pit1 セクション (W →) …… 45
写真 21　SI-01Pit2 セクション (W →) …… 45
写真 22　SI-01(旧) 完掘 (W →) …… 45
写真 23　SI-01Pit7 セクション (W →) …… 45
写真 24　SI-01Pit9 セクション (N →) …… 45
写真 25　SI-01Pit10 セクション (N →) …… 45
写真 26　SK-01 セクション (W →) …… 45
写真 27　SK-02 セクション (E →) …… 45
写真 28　SK-03 セクション (E →) …… 45
写真 29　SK-01 完掘 (E →) …… 45
写真 30　SK-02 完掘 (E →) …… 45
写真 31　SK-03 完掘 (E →) …… 45
写真 32　SK-08 セクション (S →) …… 46
写真 33　SK-08 完掘 (S →) …… 46
写真 34　SK-09 セクション (SE →) …… 46
写真 35　SK-09 完掘 (SE →) …… 46
写真 36　SK-10 セクション (S →) …… 46
写真 37　SK-10 完掘 (S →) …… 46
写真 38　SK-11 セクション (S →) …… 46
写真 39　SK-11 完掘 (N →)…… 46
写真 40　SD-01 セクション (N →)…… 47
写真 41　SD-01 セクション (S →) …… 47
写真 42　SD-01 セクション (E →) …… 47
写真 43　SD-01 完掘 (S →) …… 47
写真 44　SD-02 完掘 (E →) …… 47
写真 45　SD-02 セクション (W →)…… 47
写真 46　SD-02a セクション (W →) …… 47
写真 47　SD-02・03 セクション (NW →) …… 47
写真 48　SD-02・03 セクション (S →)…… 47
写真 49　SB-01 完掘 (真上→)…… 48
写真 50　SB-01Pit1 セクション (E →) …… 48
写真 51　SB-01Pit7 セクション (E →) …… 48

写真 52　SB-01Pit12 遺物出土状況(E →) …… 48
写真 53　SB-01Pit12 セクション(E →) …… 48
写真 54　SB-01Pit15 セクション(E →) …… 48
写真 55　SB-01Pit17 セクション(E →) …… 48
写真 56　SB-01Pit21 セクション(E →) …… 48
写真 57　SB-01Pit29 セクション(W →) …… 48
写真 58　SB-01Pit33 セクション(W →) …… 48
写真 59　SD-03 セクション(N →)…… 49
写真 60　SD-03 完掘(N →)…… 49
写真 61　SD-04・06 セクション(SE →) …… 49
写真 62　SD-04 セクション(W →)…… 49
写真 63　SD-04 完掘(N →)…… 49
写真 64　SD-05 完掘(N →)…… 49
写真 65　SD-02・05 セクション(SE →) …… 49
写真 66　SD-05 セクション(SE →) …… 49
写真 67　SD-06 セクション(N →)…… 50
写真 68　SD-06 セクション(S →) …… 50
写真 69　SD-06 粘土範囲(N →)…… 50
写真 70　SD-06 完掘(S →) …… 50
写真 71　SD-07a・b セクション(W →) …… 50
写真 72　SD-07a・b 完掘(W →) …… 50
写真 73　SD-08 セクション(W →)…… 50
写真 74　SD-08 セクション(S →) …… 50
写真 75　出土遺物 1 …… 57
写真 76　出土遺物 2 …… 59
写真 77　出土遺物 3 …… 61
写真 78　出土遺物 4 …… 63
写真 79　H15SB-01Pit1･2 セクション(SE →) …… 85
写真 80　H15SB-01Pit3 遺物出土状況(SE →) …… 85
写真 81　H15SB-01Pit4 セクション(S →) …… 85
写真 82　H15SB-01Pit5・7・8 セクション(SE →)…… 85
写真 83　H15SB-01Pit5 セクション(SW →)…… 85
写真 84　H15SB-01Pit10 セクション(SW →) …… 85
写真 85　H15SB-01Pit11・12 セクション(SE →) …… 85
写真 86　H15SB-01Pit14 セクション(E →) …… 85
写真 87　H15SB-01Pit15 セクション(E →) …… 85
写真 88　H15SB-01Pit16 セクション(N →) …… 85
写真 89　SD-01 セクション(E →) …… 86
写真 90　SD-01 下駄出土状況(N →)…… 86
写真 91　SD-01 菰槌出土状況(N →)…… 86
写真 92　SD-01 菰槌？出土状況(E →)…… 86
写真 93　SD-01 木製品出土状況 …… 86
写真 94　SD-01 木器椀･瓢箪出土状況(N →) …… 86
写真 95　SD-01 木製品出土状況(S →)…… 86
写真 96　SD-01 斎串出土状況(N →)…… 86
写真 97　SD-01 曲物出土状況 …… 87
写真 98　SD-01 扇出土状況(N →)…… 87
写真 99　SD-01 編組製品出土状況(N →) …… 87
写真 100　SD-01 木簡状木製品出土状況(N →) …… 87
写真 101　W-851 ～ 873 拡大(N →) …… 87
写真 102　SD-03・03 b・03 c セクション(E →) …… 87
写真 103　SD-03 b・03 c セクション(W →)…… 87
写真 104　SD-05 セクション(E →) …… 88
写真 105　SD-06 セクション(E →) …… 88
写真 106　SD-08・08a・08 b セクション(W →) …… 88
写真 107　SD-08 杭列検出状況(N →) …… 88
写真 108　SD-03 木簡出土状況(S →) …… 88
写真 109　SD-08 木製品出土状況(S →) …… 88
写真 110　SD-08 斎串(木簡)出土状況(W →) …… 88
写真 111　SD-08 馬形(E →) …… 88
写真 112　SD-08 馬形(E →) …… 88
写真 113　SD-08 馬形(E →) …… 88
写真 114　出土遺物 1…… 95
写真 115　出土遺物 2…… 97
写真 116　出土遺物 3…… 99
写真 117　出土遺物 4……101
写真 118　出土遺物 5……103
写真 119　出土遺物 6……151
写真 120　出土遺物 7……152
写真 121　出土遺物 8……153
写真 122　出土遺物 9……154
写真 123　出土遺物 10 ……155
写真 124　出土遺物 11 ……156
写真 125　出土遺物 12 ……157
写真 126　出土遺物 13 ……158
写真 127　出土遺物 14 ……159
写真 128　出土遺物 15 ……160
写真 129　出土遺物 16 ……161
写真 130　出土遺物 17 ……162
写真 131　出土遺物 18 ……163

写真 132　出土遺物 19 ……164
写真 133　出土遺物 20 ……165
写真 134　出土遺物 21 ……166
写真 135　出土遺物 22 ……167
写真 136　出土遺物 23 ……168
写真 137　出土遺物 24 ……169
写真 138　SI-05 完掘（NW →）……248
写真 139　SI-05 焼土・灰出土状況（E →）……248
写真 140　SI-05 カマド東西セクション（S →）248
写真 141　SI-05 カマド南北セクション（W →）…248
写真 142　SI-05 カマド完掘（N →）……248
写真 143　SI-05 掘り方完掘（NW →）……248
写真 144　SI-05Pit1 セクション（E →）……248
写真 145　SI-05Pit4 セクション（SE →）……248
写真 146　SI-05Pit5 セクション（NE →）……248
写真 147　SI-05Pit8 セクション（W →）……248
写真 148　SI-05Pit15 セクション（N →）……248
写真 149　SI-05Pit38 セクション（N →）……248
写真 150　SI-07 完掘（W →）……249
写真 151　SI-07Pit1 セクション（E →）……249
写真 152　SI-07Pit8 セクション（N →）……249
写真 153　SI-07Pit10 セクション（N →）……249
写真 154　SI-07Pit12 セクション（E →）……249
写真 155　SI-05Pit15 セクション（N →）……249
写真 156　SI-05Pit8・19 セクション（E →）…249
写真 157　SI-07 セクション（E →）……249
写真 158　SI-07 壁溝セクション（E →）……249
写真 159　SK-111 セクション（E →）……249
写真 160　SK-111 完掘（E →）……249
写真 161　SK-112 セクション（E →）……250
写真 162　SK-112 完掘（S →）……250
写真 163　SK-115 セクション（W →）……250
写真 164　SK-115 完掘（S →）……250
写真 165　SK-116 セクション（SW →）……250
写真 166　SK-116 完掘（NW →）……250
写真 167　SK-117 セクション（W →）……250
写真 168　SK-117 完掘（SW →）……250
写真 169　SK-120・134 セクション（SE →）251
写真 170　SK-120 完掘（W →）……251
写真 171　SK-134 完掘（W →）……251
写真 172　SK-159 セクション（S →）……251
写真 173　SK-133・SD-87 セクション（E →）…251
写真 174　SK-133 完掘（E →）……251
写真 175　SK-161 セクション（NW →）……251
写真 176　SK-161 完掘（W →）……251
写真 177　SK-165（下）・SD-81（上）セクション（S →）
……252
写真 178　SK-165 完掘（S →）……252
写真 179　SK-176 セクション（S →）……252
写真 180　SK-176 完掘（NE →）……252
写真 181　SK-303・304 セクション（E →）…252
写真 182　SK-304 セクション（N →）……252
写真 183　SK-303・328 セクション（S →）…252
写真 184　SK-303・304・324・328 完掘（W →）
……252
写真 185　SK-305 セクション（S →）……253
写真 186　SK-305・306 完掘（S →）……253
写真 187　SK-306 セクション（W →）……253
写真 188　SK-306 セクション（N →）……253
写真 189　SK-307 セクション（S →）……253
写真 190　SK-307 完掘（W →）……253
写真 191　SK-308 セクション（SW →）……253
写真 192　SK-308 完掘（S →）……253
写真 193　SK-309 セクション（E →）……254
写真 194　SK-309 完掘（NE →）……254
写真 195　SK-310 セクション（SE →）……254
写真 196　SK-310 完掘（W →）……254
写真 197　SK-311 セクション（E →）……254
写真 198　SK-311 完掘（S →）……254
写真 199　SK-312 セクション（E →）……254
写真 200　SK-312 完掘（S →）……254
写真 201　SK-313 セクション（E →）……255
写真 202　SK-313 完掘（NW →）……255
写真 203　SK-320 セクション（S →）……255
写真 204　SK-320 完掘（S →）……255
写真 205　SK-321・SD-86・SP-1180 セクション（S →）
……255
写真 206　SK-321（右）・SD-86（左）完掘（S →）
……255
写真 207　SK-324 セクション（S →）……255

写真 208　SK-329 セクション(S →)……255
写真 209　SN-50 セクション(E →) ……256
写真 210　SN-50 セクション(S →) ……256
写真 211　SN-50 焼成面(N →) ……256
写真 212　SN-50 完掘(N →) ……256
写真 213　SB-01Pit5 セクション(SE →)……256
写真 214　SB-01Pit6 セクション(SE →)……256
写真 215　SB-01Pit10 セクション(SE →) …256
写真 216　SB-01Pit11 セクション(SE →) …256
写真 217　SB-01Pit12 セクション(SE →) …256
写真 218　SB-01Pit13 セクション(SE →) …256
写真 219　SB-01Pit17 セクション(NW →)…256
写真 220　SB-01Pit18 セクション(W →) …256
写真 221　SB-01Pit19 セクション(NW →)…256
写真 222　SB-01Pit20 セクション(SE →) …257
写真 223　SB-01Pit22 漆紙出土状況(NW →) 257
写真 224　SB-01Pit22 セクション(NW →)…257
写真 225　SB-01Pit24 セクション(NW →)…257
写真 226　SB-01Pit25 セクション(NW →)…257
写真 227　SB-01Pit26 セクション(NW →)…257
写真 228　SB-01Pit27・SP-2978 セクション(SE →)
……257
写真 229　SB-01Pit28 セクション(SE →) …257
写真 230　SB-01Pit30 セクション(NW →)…257
写真 231　SB-01Pit31 セクション(E →)……257
写真 232　SB-01Pit32 セクション(NW →)…257
写真 233　SB-01Pit34 セクション(SE →) …257
写真 234　SB-02Pit1 セクション(SE →)……257
写真 235　SB-02Pit3 セクション(NW →) …257
写真 236　SB-02Pit4 セクション(NW →) …257
写真 237　SB-02Pit6 セクション(NW →) …257
写真 238　SB-02Pit7 セクション(SE →)……257
写真 239　SB-03Pit1 セクション(E →) ……257
写真 240　SX-33 セクション(NW →) ……258
写真 241　SX-33 完掘(NE →) ……258
写真 242　SX-38 セクション(S →) ……258
写真 243　SX-38 完掘(S →) ……258
写真 244　SD-81(右)・SK-310(左)セクション(N →)
……258
写真 245　SD-81(右)・SK-320(左)セクション(W →)
…… 258
写真 246　SD-54(SD-126)・86 セクション(E →)
……258
写真 247　SD-111 セクション(E →)……258
写真 248　SD-85・SP-2776 セクション(N →)
……259
写真 249　SD-85・SP-2813a セクション(SW →)
……259
写真 250　SD-87 セクション(E →) ……259
写真 251　SD-87・SP-3104 セクション(E →)
……259
写真 252-1 ～ 3
SD-81・99・111・126・SP-2756
セクション(E →) ……259
写真 253　SD-81・86・87・111・126(真上→)
……259
写真 254　平成 16 年度新田(1)調査区全景(SW →)
……260
写真 255　土地区画整理事業調査区(E →) …260
写真 256　新幹線調査区（真上→) ……260
写真 257　新幹線調査区・土地区画整理事業調査区
（真上→) ……260
写真 258　出土遺物 1(土器) ……269
写真 259　出土遺物 2(土器) ……271
写真 260　出土遺物 3(土器) ……273
写真 261　出土遺物 4(土器) ……275
写真 262　出土遺物 5(土器) ……277
写真 263　出土遺物 6(土器) ……278
写真 264　出土遺物 7(石器・石製品) ……280

第Ⅰ章　調査経緯と経過

第１節　調査に至る経緯と経過

東北新幹線八戸・新青森間工事延長８１.２km（線路延長８１.８km）の区間については、平成８年１２月の政府・与党合意でフル規格での建設が決定された以降、平成１０年３月に工事実施計画認可・着工が行われている。

平成１４年１２月１日には盛岡以北の区間である盛岡・八戸間（９６.６km）が開業し、青森までの早期開業の気運も高まってきている。そのような中、八戸・青森間の建設予定内の埋蔵文化財の取扱いについては青森県教育庁文化課（平成１３年度から文化財保護課）による協議・調整の下、平成１１年度から上北地方の埋蔵文化財包蔵地の発掘調査が実施され、青森地区についても平成１２年度から青森県埋蔵文化財調査センター（以下埋文センターとする）による朝日山（２）遺跡の発掘調査を皮切りに実施されるようになった。青森市教育委員会（以下当委員会とする）も、平成１３年度には八甲田トンネルの梨ノ木工区で排出される土砂の土捨場用地として計画された月見野森林公園内の予定地に対し、試掘調査を実施したところ製炭土坑や溝跡等が発見され、新規に深沢（３）遺跡（青森県遺跡台帳番号 01311）として登録し、平成１３・１４年度に発掘調査を実施している（青森市教育委員会 2003：青森市埋蔵文化財調査報告書第６７集)。平成１４年度に入って本格的に当委員会が東北新幹線の発掘調査事業の協議に加わり、平成１４年１１月には日本鉄道建設公団（以下鉄建公団とする。平成１５年度から独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構となっており、以下鉄道・運輸機構とする）から青森市南部に所在する新町野遺跡の発掘調査の依頼があり、受託する回答がなされ、平成１５年度から発掘調査を継続実施した。平成１５・１６年度調査分については平成１７年度に発掘調査報告書が刊行されており、平成１７・１８年度分については次年度刊行予定となっている。周辺の合子沢松森（２）遺跡についても当委員会が平成１６・１７年度に発掘調査を実施しており、今年度青森市埋蔵文化財調査報告書第９３集として報告予定である。

青森市西部の石江地区の東北新幹線新青森駅周辺に対し青森市が土地区画整理事業を計画しており、付近の埋蔵文化財包蔵地について調査事例が皆無で分布調査の成果のみでしか様相がわからなかった状況にあったため、平成１３・１４年度に対象地区に対し、試掘・範囲確認調査を当委員会が実施した。その結果事業実施予定地内に所在した既存の１０遺跡について統廃合・範囲拡張を実施し、６遺跡に変更を行った（青森市教育委員会 2003：青森市埋蔵文化財調査報告書第６９集)。これまで不鮮明であった石江地区の土地区画整理事業施工エリア内に、縄文時代・平安時代・近世等の遺跡が所在することが判明し、近世以降の資料であるが市内では最初の資料である木簡なども見つかり、本調査が必要であると判断された。ただし、この時点では既存の建物が残っていたり、調査の土地承諾が叶わなかった地区があり、当時西バイパス（２）遺跡と呼ばれていた新田（１）遺跡や西バイパス（４）遺跡と登録されていた新田（２）遺跡の部分などは調査が出来ない状況にあった。また、東北新幹線の新青森駅周辺の路線上については調査実施がされていない状況にあった。

区画整理事業に伴う範囲認定の結果、東北新幹線の路線については新青森駅から新城川までの路線上に南側から高間（６）遺跡、高間（１）遺跡、新田（１）遺跡の３遺跡が所在することとなった。

平成１５年度から青森市の土地区画整理事業予定地に対しては前述の調査を基に本格的な発掘調査が実施されることになったが、東北新幹線の新青森駅周辺の路線上については用地が一部未取得であったことや、区画整理事業関連で実施した調査だけでは新田（１）遺跡の状況が不鮮明であったり、高間（１）・（６）遺跡についても密度がまばらであったことから、試掘先行の調査業務の依頼が鉄建公団から平成１４年度末の平成１５年２月２０日付け盛支用一第 426 号にて青森市教育長宛になされた。当委員会では平成１５年２月２８日付け青市教委文第 23 号にて受託の回答をし、平成１５年度は平成１５年６月１６日～７月１８日の期間で、３遺跡及び路線上の遺跡の隣接地に対し試掘・範囲確認調査を実施した（第Ⅲ章第１節参照）。それらの調査結果を基に、平成１６年度は高間（１）遺跡及び新田（１）遺跡を対象に発掘調査を実施した（第Ⅲ章第２節参照）。

また、平成１７年度には国道７号西バイパスの北側の新田（１）遺跡について範囲確認調査を実施することとなり（第Ⅲ章第３節参照）、調査の結果を受けて本調査の必要性が生じたが、当委員会の調査体制を超える作業量となることが判明したため、県教育庁文化財保護課、埋文センター、当委員会の三者で協議を進め、北側の新田（１）遺跡の調査について調査担当を埋文センターとすることとし、調査が継続実施されている状況にある。

第２節　調査要項

（平成１５年度）

１．調査目的

日本鉄道建設公団東北新幹線建設事業に係る工事に先立ち、予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の試掘・確認調査を実施し、遺跡の内容を確認・把握し、本調査のための範囲確定及び積算のための資料を得る。

２．遺跡名及び所在地

高間（１）遺跡　（青森県遺跡番号　01070）　青森市石江字高間 109-2 ほか
高間（６）遺跡　（青森県遺跡番号　01075）　青森市石江字高間 135-13 ほか
新田（１）遺跡　（青森県遺跡番号　01078）　青森市石江字高間 57-3 ほか

３．調査期間　　平成１５年６月１６日～７月１８日

４．調査面積　　1,800 m^2　（調査対象面積 18,000 m^2）

５．調査委託者　　日本鉄道建設公団盛岡支社

６．調査受託者　　青森市

７．調査担当機関　青森市教育委員会文化財課

８．調査指導機関　青森県教育庁文化財保護課

９．予算措置　　調査委託者側で措置

10. 調査体制

調査事務局　青森市教育委員会

教　育　長	角　田　詮二郎
教 育 部 長	大　柴　正　文
教 育 次 長	竹　内　　徹
事務局参事	
文化財課長事務取扱	遠　藤　正　夫
文化財課長補佐	多　田　弘　仁
主　　査	木　浪　貴　子

文化財主事	小　野　貴　之
〃	木　村　淳　一（調査担当）
〃	児　玉　大　成
〃	設　楽　政　健
主　　事	足　澤　愛　子（庶務担当）

（平成１６年度）

１．調査目的

鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設事業に係る工事に先立ち、予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用に資する。

２．遺跡名及び所在地

高間（１）遺跡　（青森県遺跡番号　01070）　青森市石江字高間 109-2 ほか

新田（１）遺跡　（青森県遺跡番号　01078）　青森市石江字高間 57-3 ほか

３．調査期間　　平成１６年６月１１日～１１月１２日

４．調査面積　　高間（１）遺跡　　2,700 ㎡

新田（１）遺跡　　1,200 ㎡

５．調査委託者　　独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部盛岡支社

６．調査受託者　　青森市

７．調査担当機関　青森市教育委員会文化財課

８．調査指導機関　青森県教育庁文化財保護課

９．予算措置　　調査委託者側で措置

10．調査体制

調査事務局　青森市教育委員会

教　育　長	角　田　詮二郎
教 育 部 長	古　山　善　猛
教 育 次 長	最　上　　進

事務局参事

文化財課長事務取扱	遠　藤　正　夫
文化財課主　　幹	多　田　弘　仁
主　　査	辻　　文　子
文化財主事	小　野　貴　之
〃	木　村　淳　一（調査担当）
〃	児　玉　大　成
〃	設　楽　政　健
主　　事	足　澤　愛　子（庶務担当）
埋蔵文化財調査員	蝦　名　　純（高間(1)遺跡調査担当）
〃	松　橋　智佳子（新田(1)遺跡調査担当）
調査補助員	伊　藤　敦　子
〃	小　野　弥　生
〃	齋　藤　奈穂子
〃	嶋　中　加那子

〃	内　田　祐　子
〃	小　倉　悠紀子
整理作業員	川村恵利子・齋藤美穂・本間順子・
	三上直美・滝吉美加子
事務補助員	小笠原恵美

(平成１７年度)

１．調査目的

鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設事業に係る工事に先立ち、予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用に資する。

２．遺跡名及び所在地

高間（１）遺跡　（青森県遺跡番号　01070）　整理作業

新田（１）遺跡　（青森県遺跡番号　01078）　青森市新田字忍 25-2 ほか　範囲確認調査

３．調査期間　　平成１７年７月４日～７月１１日

４．調査面積　　新田（１）遺跡　　219.6 m^2　（調査対象 944 m^2）

５．調査委託者　独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設局

６．調査受託者　青森市

７．調査担当機関　青森市教育委員会文化財課

８．調査指導機関　青森県教育庁文化財保護課

９．予算措置　　調査委託者側で措置

10. 調査体制

調査事務局　青森市教育委員会

教　育　長		角　田　詮二郎
教 育 部 長		古　山　善　猛
教 育 次 長		最　上　　進
事務局参事		
文化財課長事務取扱		遠　藤　正　夫
文化財課	主　　幹	多　田　弘　仁
	文化財主事	小　野　貴　之
	〃	木　村　淳　一（調査担当）
	〃	児　玉　大　成
	〃	設　楽　政　健（調査担当）
	主　　事	足　澤　愛　子（庶務担当）
	〃	宮　本　大　輔（庶務担当）
	調査補助員	齋　藤　奈穂子（確認調査時）
	〃	本　間　順　子（確認調査時）
	〃	秋　元　莉　絵（整理）
	〃	工　藤　恵　美（整理）
	〃	豊　島　厚　子（整理）
	整理作業員	前田ひとみ・雪田加代子・齋藤美穂・吉谷和賀子
	事務補助員	手 塚 正 史

（平成１８年度）

１．事業目的

鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設事業に係る工事に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の記録保存のための発掘調査を実施した新田（1）遺跡・高間（1）遺跡ついて、発掘調査報告書を作成・刊行し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用に資する。

２．対象遺跡名

高間（1）遺跡　　（青森県遺跡番号 01070）

新田（1）遺跡　　（青森県遺跡番号 01078）

３．委 託 者　　独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部東北新幹線建設局

４．受 託 者　　青森市

５．担当機関　　青森市教育委員会事務局文化財課

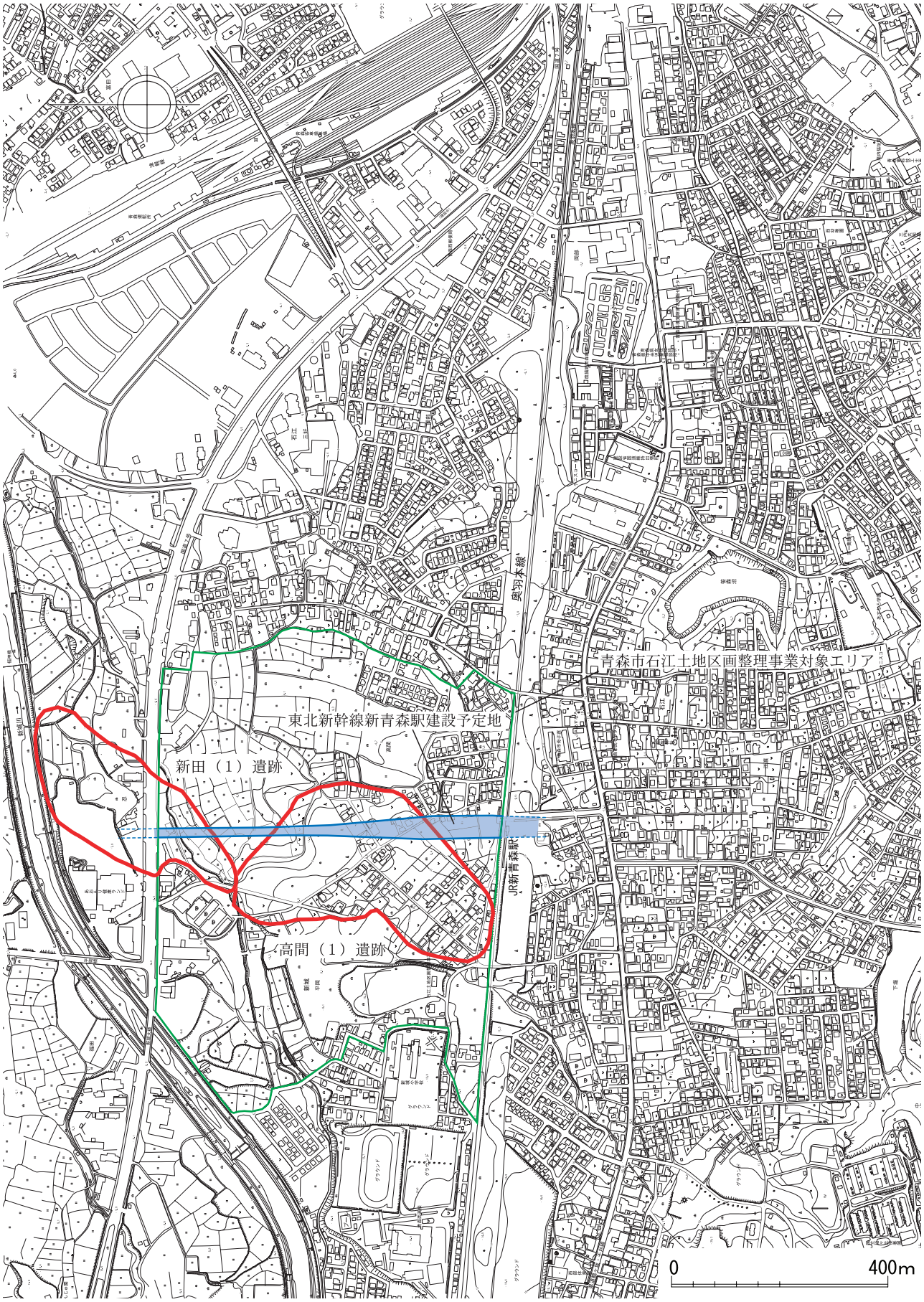
６．指導機関　　青森県教育庁文化財保護課

７．予算措置　　委託者側で措置

８．体制

担当事務局　青森市教育委員会事務局

教　育　長		角　田　詮二郎
教 育 部 長		古　山　善　猛
教 育 次 長		相　馬　政　美
事務局参事		
文化財課長事務取扱		遠　藤　正　夫
文化財課	主　　幹	多　田　弘　仁
	主　　査	工　藤　幸　子
	文化財主事	小　野　貴　之
	〃	木　村　淳　一（担当）
	〃	児　玉　大　成
	〃	設　楽　政　健
	主　　事	竹ヶ原　亜　希
	〃	當　麻　良　人（庶務担当）
	〃	越　谷　美由紀（庶務担当）
	調査補助員	土　橋　弘　美（整理）
	〃	高　谷　千　香（整理）
	〃	豊　島　厚　子（整理）



第１図　新田(1)遺跡・高間(1)遺跡位置図

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置と地理的環境

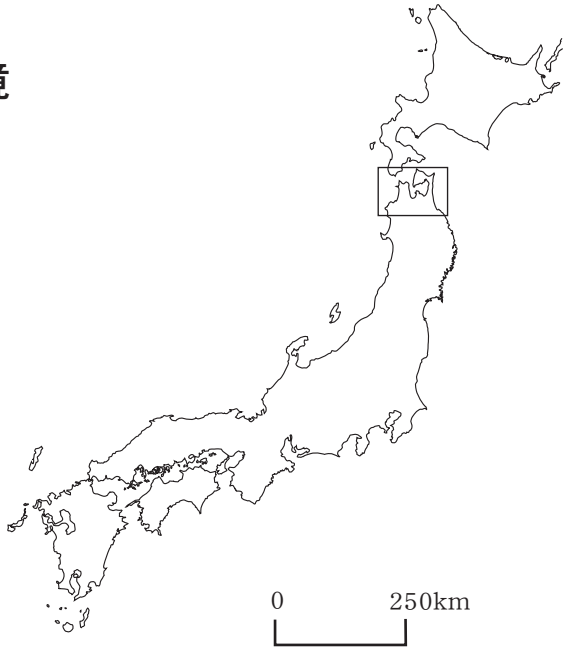
石江遺跡群は、青森市西部の東北新幹線新青森駅建設予定地周辺に計画された石江土地区画整理事業対象予定地内及び周辺に所在する複数の遺跡を便宜的に統括した呼称で、高間（１）遺跡、高間（６）遺跡、新田（１）遺跡、新田（２）遺跡、新城平岡（２）遺跡、新城平岡（４）遺跡、新城平岡（５）遺跡の７遺跡が含まれる。

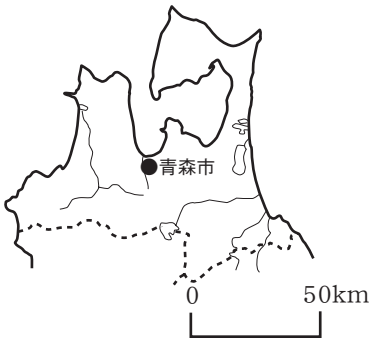
本遺跡群の所在する青森市は平成17年(2005)4月に南津軽郡浪岡町と新設合併し、面積 824.57km^2、人口約 ３１万人となった青森県の県都である。

合併前の旧青森市域と旧浪岡町域とは大釈迦丘陵で区切られており、分水嶺などが大きく異なっている。旧浪岡町域は津軽平野の南東部にあたり、大釈迦川右岸の低位段丘には平安期の集落が数多く所在している。

一方、旧青森市域は市街地を中心に東西約10km、南北約５km の青森平野が広がっている。陸奥湾を臨んだ北側以外の部分はU字状に丘陵に囲まれている地形である。

旧市域西部（大釈迦丘陵の東南端にあたる部分）には平野部と丘陵地との境に入内断層が走っている。





第２図　位置図

入内断層は西部の丘陵部分と八甲田山火砕流堆積物によって形成された丘陵をも区切っている。南部の丘陵は青森市南部に所在する八甲田山の火砕流堆積物により形成された台地であり、荒川、合子沢川、横内川等八甲田山麓から市街地へ北流する河川により開析が進み、比較的傾斜の緩やかな丘陵が広がっている。

本遺跡群は旧市域西部の緩やかな丘陵地のうち、新城川（新田川）右岸の標高５～１０ｍの沖積地及び丘陵地上に立地する。遺跡群の北側に所在する新田（１）遺跡を東西方向に主要幹線である国道７号西バイパスが横断しており、交通量は一日を通して著しい状況にある。沿線にはガソリンスタンドや自動車販売、温泉等の店舗・施設が立ち並んでいる。また、高間（１）遺跡及び高間（６）遺跡の南端にはＪＲ奥羽本線が東西方向に横断して走っており、東北新幹線の路線と交差する部分には既存のＪＲ新青森駅（１９８６年開業）がある。現在は、近くに所在する県立高校への通学などで朝夕には生徒の往来が激しい状況にある。石江土地区画整理事業及び東北新幹線新青森建設予定地は国道７号西バイパスとＪＲ奥羽本線に挟まれたエリア内を対象としている。このエリアは国道７号西バイパスに面した店舗施設の立ち並ぶ部分以外は道幅の狭い道路沿線に建てられた住宅が数多くあり、区画整理事業施工エリア外の石神町会

の人々が所有する田畑や杉林・雑木林などがあった。ＪＲ新青森駅が開業後、駅周辺には新興の住宅地等が建設されるようになってきたが、土地区画整理事業の進捗によって移転が進められている状況にある。

第２節　歴史的環境

石江遺跡群が所在する沖館川と新城川（新田川）に挟まれた丘陵群では、平成１５年度に刊行された江渡遺跡報告書（青森市教育委員会 2004：青森市埋蔵文化財調査報告書第７５集）の時点では調査事例が沖館川右岸に展開する三内丸山遺跡を代表とする遺跡群に比べ格段に少なく、不明な点も数多い状況にあった。しかしながら、その後、東北新幹線建設事業に伴う発掘調査や民間開発に伴う発掘調査などによって件数は増加傾向にある。

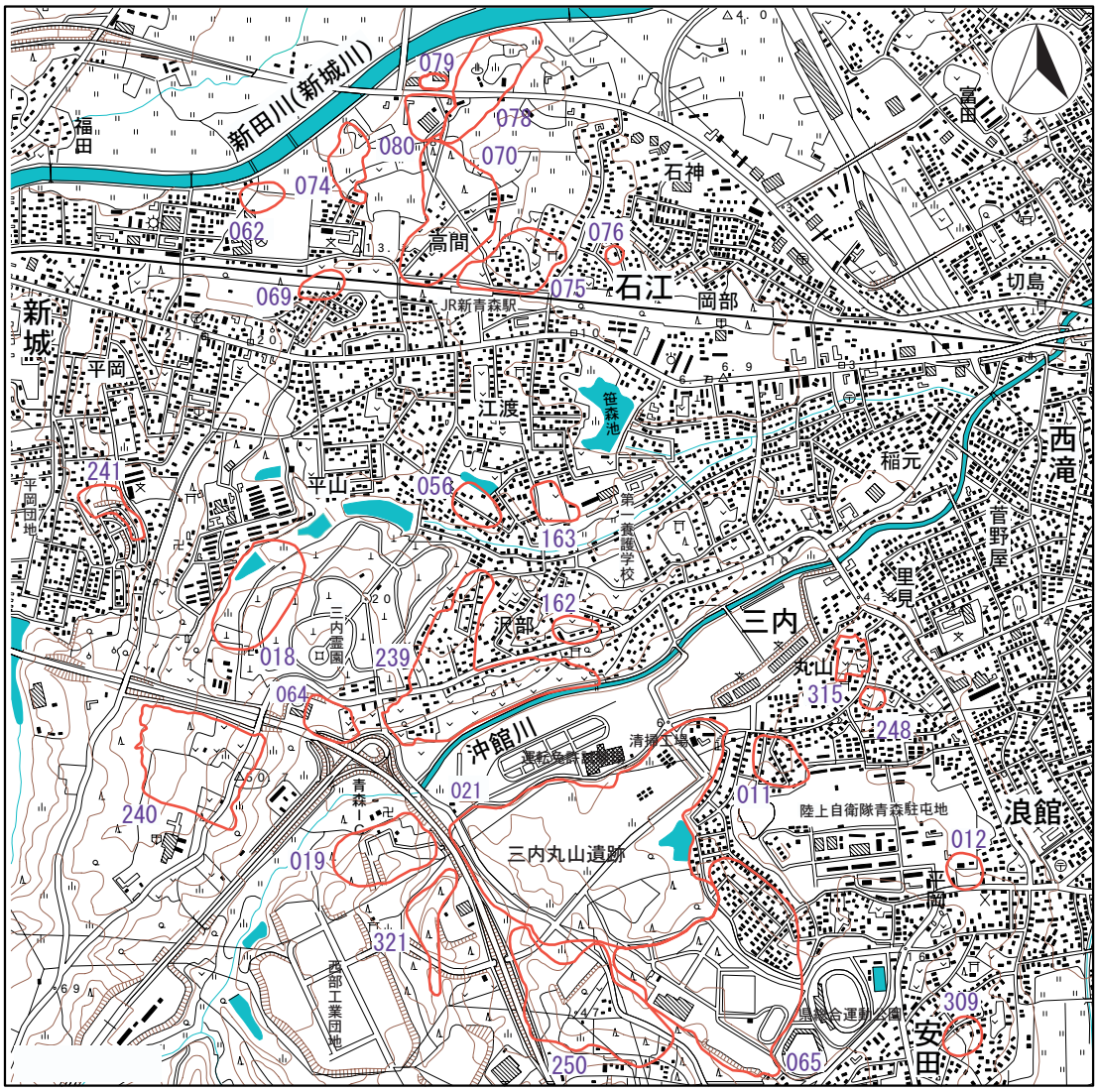
既往の調査における最古の資料は、遺構外出土の資料ではあったが、縄文時代早期白浜式期段階が出土した三内沢部（１）遺跡である。遺跡は、沖館川の左岸上の丘陵地標高約１３～２０m付近に所在し、昭和５１年度に東北縦貫自動車道関連の調査として青森県教育委員会によって実施されている。調査の結果、縄文時代前期については、円筒下層ｂ式期の遺物包含層が検出し、２km 南西に離れた沖館川の上流域にあたる熊沢遺跡と比較される。また、縄文時代中期については円筒上層ｃ式～最花式期の竪穴住居跡３９軒、埋設土器遺構３基等を検出している。検出した住居跡のうち９軒は最花式が伴う住居跡であり、うち４軒が複式炉を持ち得ており、石囲炉に２個一対の小ピットが伴う長楕円のくぼみが伴うタイプで、市川金丸氏は「沢部型複式炉」と呼称している。同様の事例は、沖館川の右岸の丘陵地上に立地する三内遺跡や三内丸山遺跡等でも検出している。

縄文時代中期の資料について他に、三内沢部（１）遺跡の北西側に立地する三内霊園遺跡で昭和３６年に調査が青森市教育委員会により実施されている。部分的な調査であり、報告されている内容についても不明な点が多いが、土坑状の掘り込みが６基検出し、円筒上層ａ式を主体とした縄文時代前・中期の遺物が出土したと記載されている。

平成１２年度から当委員会による試掘・確認調査による対応が増加しており、沖館川左岸に面した丘陵地上に立地する三内沢部（３）遺跡でも民間業者による開発行為に伴う確認調査を実施している。調査の結果、縄文時代中期の土坑や平安時代の竪穴住居跡等が確認され、開発が一時中止になったが、平成１７年度に規模を縮小して再度開発の計画がなされ、それに伴い発掘調査を当委員会で実施している。調査の結果、縄文時代の土坑２基や時期不明の溝跡などが見つかっている。また、当委員会が調査した地点より西側の地点では東北新幹線建設事業に伴う発掘調査が青森県埋蔵文化財調査センターにより平成１５年度に実施されており、縄文時代中期後葉～末葉の竪穴住居跡３軒、平安時代の竪穴住居跡２軒、中世の掘立柱建物跡３棟等を検出している。沖館川支流右岸上の丘陵の北側についても新幹線建設事業に伴う調査の結果、遺跡範囲が拡張されており、沖館川支流左岸上に関しては、青森県埋蔵文化財調査センターが石江遺跡の調査を実施している。その東側に立地する江渡遺跡は当委員会が平成１５年度に民間の宅地造成に伴い発掘調査を実施し、縄文時代中期末葉の大木１０式併行期の竪穴住居跡１軒、埋設土器遺構１基、平安時代の竪穴住居跡５軒等が検出している。古代の遺構については十和田ａ（Ｔｏ－ａ）火山灰降灰前に継続した集落跡であることが判明している。

このように平成１５年度以降、本遺跡群の周辺は急激に発掘調査が実施されており、この地区の遺跡の内容が徐々に明らかになりつつある。

本遺跡群についても土地区画整理事業対象地内は平成１５年度から継続調査が実施されており、これまで、新田（１）遺跡、高間（１）遺跡、高間（６）遺跡、新城平岡（４）遺跡に対し発掘調査が実施されてきた。また、新田（１）遺跡の国道７号西バイパスの北側の新幹線建設事業の地区については青森県埋



第３図　周辺の遺跡位置図

第１表　遺跡一覧表

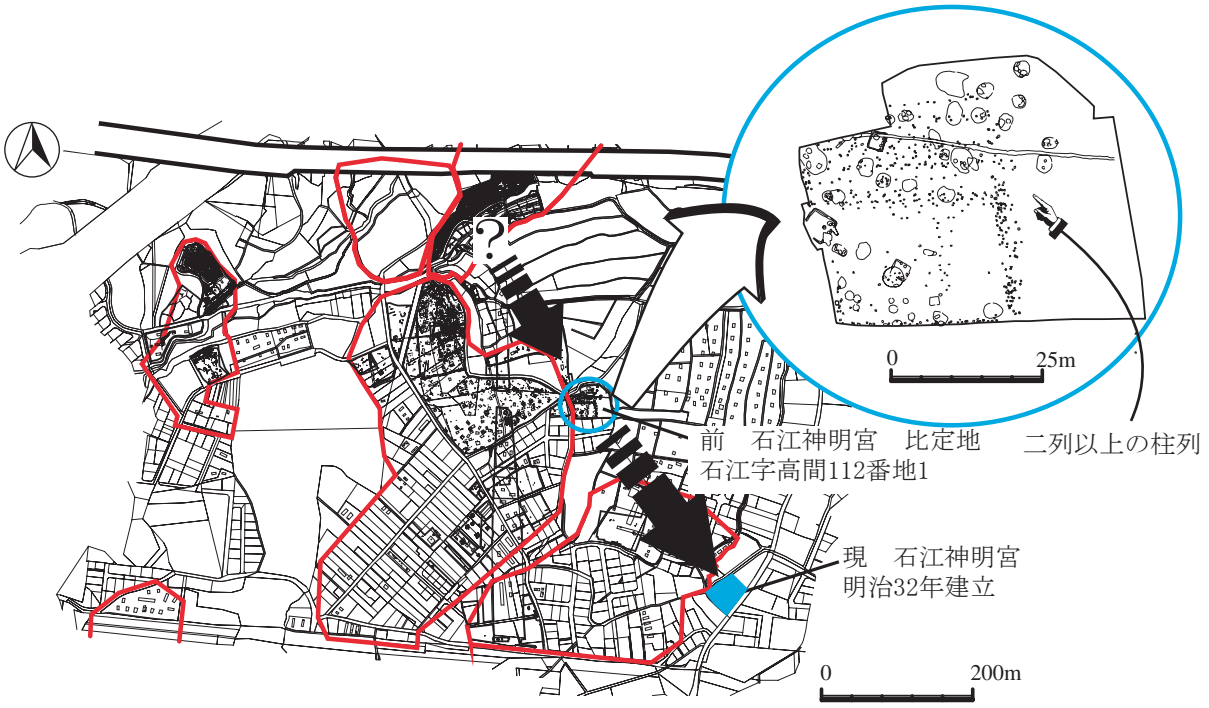
台帳番号	遺跡名	種別	所在地	時期	備考
078	新田（1）遺跡	集落跡	青森市新田字忍ほか	縄文（前・中・後・晩）・平安・中世	石江遺跡群
080	新田（2）遺跡	集落跡	青森市新田字忍	平安・中世	石江遺跡群
070	高間（1）遺跡	集落跡	青森市石江字高間	縄文（前～晩）・平安・中世・近世・近代	石江遺跡群
075	高間（6）遺跡	集落後	青森市石江字高間	縄文（中・後）・平安・近世	石江遺跡群
069	新城平岡（2）遺跡	集落跡	青森市新城字平岡	縄文（後）・平安	石江遺跡群
074	新城平岡（4）遺跡	集落跡	青森市新城字平岡	縄文（前～晩）・平安・近世	石江遺跡群
079	新城平岡（5）遺跡	散布地	青森市新城字平岡	平安	石江遺跡群
076	岡部遺跡	散布地	青森市石江字岡部	縄文	
062	西高校遺跡	散布地	青森市新城字平岡	弥生・平安	
163	江渡遺跡	集落跡	青森市石江字江渡	縄文（前～後）・平安・近代	青森市教育委員会 2004
056	石江遺跡	散布地	青森市石江字平山	縄文（前）	青森県埋蔵文化財調査センター調査
239	三内沢部（3）遺跡	集落跡	青森市三内字沢部	縄文・平安	青森市教育委員会 2002・2006、青森県教育委員会 2005
162	三内沢部（2）遺跡	散布地	青森市三内字沢部	縄文（中）	
064	三内沢部（1）遺跡	集落跡	青森市三内字沢部	縄文（早・前・中・後）	青森県教育委員会 1978
018	三内霊園遺跡	集落跡	青森市三内字沢部	縄文（前・中）	青森市教育委員会 1962
019	三内遺跡	集落跡	青森市三内字丸山	縄文・平安	青森県教育委員会 1978
021	三内丸山遺跡	集落跡	青森市三内字丸山	縄文・平安・中世	青森県教育委員会 1994 ほか
250	三内丸山（5）遺跡	集落跡	青森市三内字丸山	縄文（中～晩）	青森県教育委員会 1999
065	近野遺跡	集落跡	青森市安田字近野ほか	縄文（中）・平安	青森県教育委員会 1974 ほか
309	安田近野（2）遺跡	散布地	青森市安田字近野	縄文（前）	
012	浪館（2）遺跡	散布地	青森市浪館字平岡	縄文（前・晩）	
011	浪館（1）遺跡	散布地	青森市三内字丸山	縄文（前）	
248	三内丸山（3）遺跡	散布地	青森市三内字丸山	平安	平成 14 年度三内丸山（7）遺跡から変更
315	三内丸山（8）遺跡	集落跡	青森市三内字丸山	縄文・平安	青森市教育委員会 2005
321	三内丸山（9）遺跡	集落跡	青森市三内字丸山	縄文（中・晩）・平安	青森県埋蔵文化財調査センター調査

蔵文化財調査センターにより発掘調査が平成１７年度から継続実施されている。新田（２）遺跡についても平成１８年度には当委員会が水道工事に伴う発掘調査を国道７号西バイパス沿いで実施しており、平成１９年度から青森市教育委員会及び青森県埋蔵文化財調査センターによる本発掘調査が実施される予定である。今後当地区の歴史を知る上で欠くことのできない資料となりうることが予察される。

本遺跡群は現在の住所で大字石江字高間〔高間（１）・（６）遺跡と新田（１）遺跡の一部〕、大字新田字忍〔新田（１）・（２）遺跡〕、大字新城字平岡〔新城平岡（２）・（４）遺跡〕という異なる字名でこの系譜は江戸時代、明治時代には異なる村であったことを意味している。高間（１）遺跡等が所在する石江字高間は江戸時代には石神村と呼ばれた地区（石江という大字名ももともとは、石神村と江渡村との合併による名称）である。

江戸時代の菅江真澄の『栖家能山』に石神村の祠の脇に文永の碑があったという記述が残されている。現在の石神町会の中にある石江神明宮にそれと推定される板碑があるという話であるが詳細は不明である。因みに現在の石江神明宮は明治３２年５月１６日に創建されたものであるが、昭和６０年刊行の『石江史実』および地元民によると神社の移転が３回なされているという話であり、『石江史実』に記されていた二度目に建立された地点に記されている地番（石江高間１１２番地１号）については平成１６年度に土地区画整理事業の発掘調査によって調査した結果、神社の配置を示す多数の柱穴が見つかっており、考古学的に裏付けられている。最初に建立された地点についても社殿から北西方向へ１５００ｍという記載が見られているが、その地点について地元の人々による話によると新田（１）遺跡～新田（２）遺跡が存在するエリア周辺であるという話である。しかしながら、現時点で、高間（１）遺跡内で見られたような具体的な建物配置が確認されておらず、今後の区画整理事業に伴う調査の進捗により検討可能な状況になると思われる資料である。

近世以降、具体的な文献資料の少ない本地域では口承的に残る情報等と考古学的な資料との比較が今後も重要視される事例である。



第４図　石江神明宮の移転の変遷概略図

第Ⅲ章　調査の概要

試掘･範囲確認調査は､第Ⅰ章でも触れたが平成１５年度に石江土地区画整理事業エリア内の高間（1）･高間（6）遺跡、新田（1）遺跡を対象に実施している。また、平成 17 年度には、新田（1）遺跡の国道７号西バイパスの北側の青森健康ランド敷地内の橋脚建設予定箇所に対して新田（1）遺跡を対象に調査を実施している。

各調査の結果に基づき、土地区画整理事業エリア内については本書所収のとおり平成１６年度に本調査を当委員会が実施しており、新田（1）遺跡の北側のエリアについては青森県埋蔵文化財調査センターにより調査が実施されており、次年度以降も調査は継続の予定である。

本章では各試掘・確認調査の概略について報告することにする。記述に際し調査年度毎に節単位で記述し、平成１５年度調査を第一次試掘・確認調査、平成１７年度調査を第二次試掘・確認調査とする。

第１節　第一次試掘・確認調査

第一次試掘・確認調査は、前述のとおり平成１５年度に石江土地区画整理事業エリア内の高間（1）･高間（6）遺跡、新田（1）遺跡の３遺跡及び遺跡の隣接地の約 1,800 ㎡を対象にして実施した。

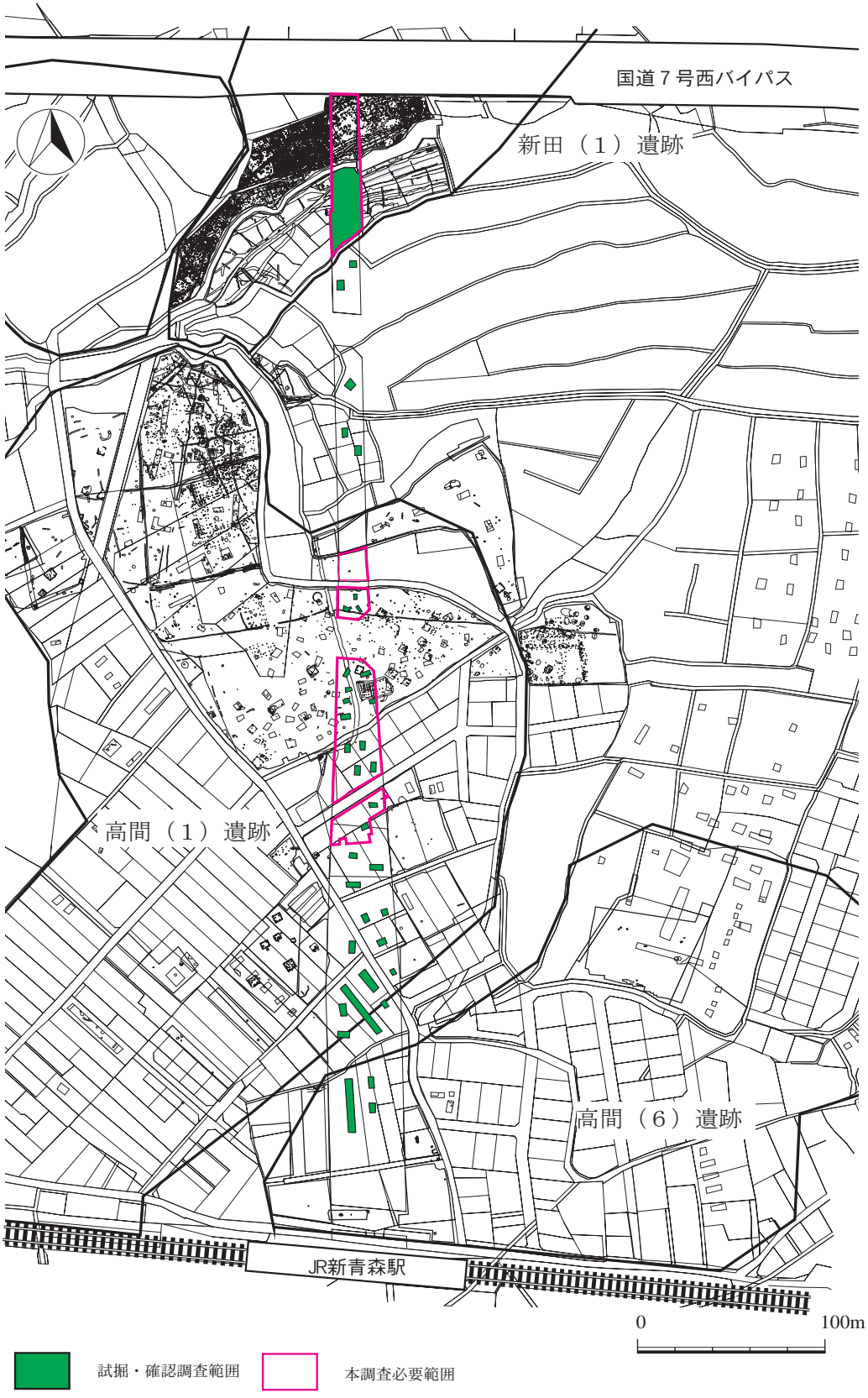
対象地の調査前の現況は高間（6）遺跡が畑地や休耕地、高間（1）遺跡は畑地、宅地、道路、杉林、荒蕪地等、新田（1）遺跡は休耕田、道路、店舗撤去地等で、立木の伐採が完了していた高間（1）遺跡から調査可能な箇所に任意にトレンチを設定し、人力及び重機による掘削により調査した。総トレンチ数は３９カ所であった。

調査の結果、高間（1）遺跡の杉林のあった地区を中心に平安時代の竪穴住居跡や土坑、溝跡等が確認され、縄文土器や平安時代の土師器が出土した。高間（6）遺跡の調査区内のトレンチからは一部遺物が包含する箇所も認められたが、本調査を必要とするような遺構の検出が認められなかったことから発掘調査不要と判断した。

また、高間（1）遺跡と新田（1）遺跡の間の水田部分から近世以降の陶磁器の出土が認められたトレンチが一部あったが、本調査を必要とするような遺構の検出は認められなかった。

新田（1）遺跡の沖積地上の休耕田の箇所からは多量の土師器等の遺物が出土し、遺構についても土地区画整理事業整理事業の調査区で見つかった遺構とつながる溝跡などが見つかったことから、区画整理事業の調査と連動して面的に調査を一部実施した。その部分の調査成果については第Ⅴ章では平成 15 年度分の調査区として取り扱っている。一段高い丘陵部分は、旧店舗の基礎が残ったままの状況で、調査がトレンチ一カ所のみであったが、そのトレンチから土坑が確認された。堆積土も上面が盛土や耕作によりカクランが生じているが基盤層に火山性台地と同様の地山土が確認され、周辺の土地区画整理事業に伴う丘陵部分の範囲確認調査の結果、居住域と推定される柱穴や溝跡などが多数確認されたことから丘陵部分の路線については全面発掘調査が必要と判断した。

以上の結果を踏まえ、平成１６年度の本発掘調査対象地区については、次ページに掲載した第５図のピンク色の囲み線のエリアについて実施することとなった。



第５図　第一次調査トレンチ配置図

第２節　本調査（石江土地区画整理事業エリア内）

試掘・範囲確認調査の結果を受けて、高間（１）遺跡約 2,700m², 新田（１）遺跡約 1,200m²に対し、本調査を実施することとなった。発掘調査期間については、隣接部分の石江土地区画整理事業に伴う発掘調査が平成１６年６月１１日から調査開始が予定されており、調査担当者が新幹線の調査区と土地区画整理事業の調査区の調査を兼務していた関係で、同一月日からの調査開始となった。
調査は、高間（１）遺跡から調査開始を始め、新幹線調査区に安全上支障をきたす土地区画整理事業に関する立木の伐採作業や新田（１）遺跡部分の新幹線路線上にあった旧店舗の基礎除去作業など進捗状況に影響のある状況に対応しながら、両遺跡の調査を対応し、高間（１）遺跡については予定期間内の１１月１２日で終了し、新田（１）遺跡の丘陵部分については一部残務整理等の作業がそのまま継続し、１２月１０日で調査は完了した。

第３節　第二次試掘・確認調査

第一次試掘・確認調査の時点で既に国道７号西バイパスより北側の新幹線建設予定箇所についても遺跡の所在の可能性を指摘していたが、平成１６年度の調査の結果集落の居住域が延びる可能性が高いことが想定され、北側部分についても本調査の必要性が考慮された。平成１７年度当初の時点では発掘調査の依頼が青森市にあり、前年度迄の対応を前提に受託の回答をし契約を行った。しかし、予定地の現況は建築物や駐車場として利用されており、土地所有者との交渉の進捗が年度当初の時点では滞ったままの状況であった。ボーリング調査の結果等は入手していたが、北側の様相について不明瞭な点が多いことや建設計画が東北新幹線の車両基地へ向かう路線と北海道新幹線の路線へ向かう側と二手に分かれる地点にあたり、送電設備等も周辺に大規模に建設計画があるなどの状況も踏まえ、橋脚部分の建設予定地に対し、試掘・確認調査を実施することとなり、土地承諾がとれた平成１７年７月４日～１１日までの期間で、調査対象面積９４４m²に対し、約２１９.６m²に対し重機によるトレンチ掘りによる調査を行った。

調査の結果、古代の遺構面や縄文時代前期の表館土器などが出土する面などが確認され本調査の必要性が生じた。その後の経過については第Ⅰ章に記述したとおり、この地区については青森県埋蔵文化財調査センターにより本発掘調査が実施されている。

第２表　第二次調査トレンチ調査結果

トレンチ番号	面　積 (m²)	深　さ (m)	備　考
A-1-①	15.40	平安＝ 1.2 縄文＝ 2.2	・全体深掘り。柱穴確認。遺物有。
A-2-②	27.50	平安＝ 1.5 縄文＝ 2.7	・全体深掘り。遺構（SK/SD/SP）確認。遺物有。
A-2-③	27.50	平安＝ 1.5 縄文＝ 2.8	・一部深掘り。遺構（SK/SD/SP）確認。遺物有。
A-3-④	28.60	平安＝ 2.0 縄文＝ 2.8	・一部深掘り。遺構（SP・その他）確認。遺物有。
A-3-⑤	15.20	平安＝ 1.4 縄文＝未確認	・一部電線の埋設により掘削面積は狭い。遺物有。
A-4-⑥	26.40	平安＝ 3.7 縄文＝ 4.6 ～	・南東側に排水パイプがあった為、３度掘り直した。遺物有。
A-4-⑦	20.68	平安＝ 2.0 縄文＝ 3.6	・一部（西側）深掘り。平安の層の東側で骨片を確認した。遺物有。
A-5-⑧	30.72	平安＝ 2.9 縄文＝ 5 ～	・一部（東側）深掘り。排水溝がある為約5m以下については未確認。遺物無。
A-5-⑨	27.60	平安＝ 3.1 縄文＝ 6.4 ～	・一部（東側）深掘り。約 6m 以下は未確認。遺物有。
	219.60		

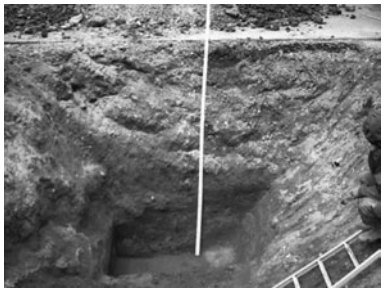


写真1　A-5-⑧

写真2　A-4-⑥

写真3　A-3-④遺構確認面

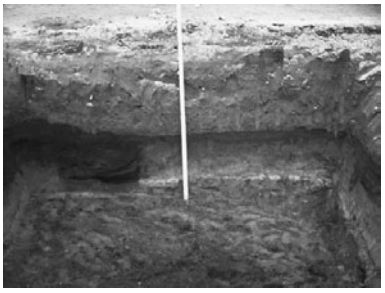


写真4　A-2-②

写真5　A-1-①

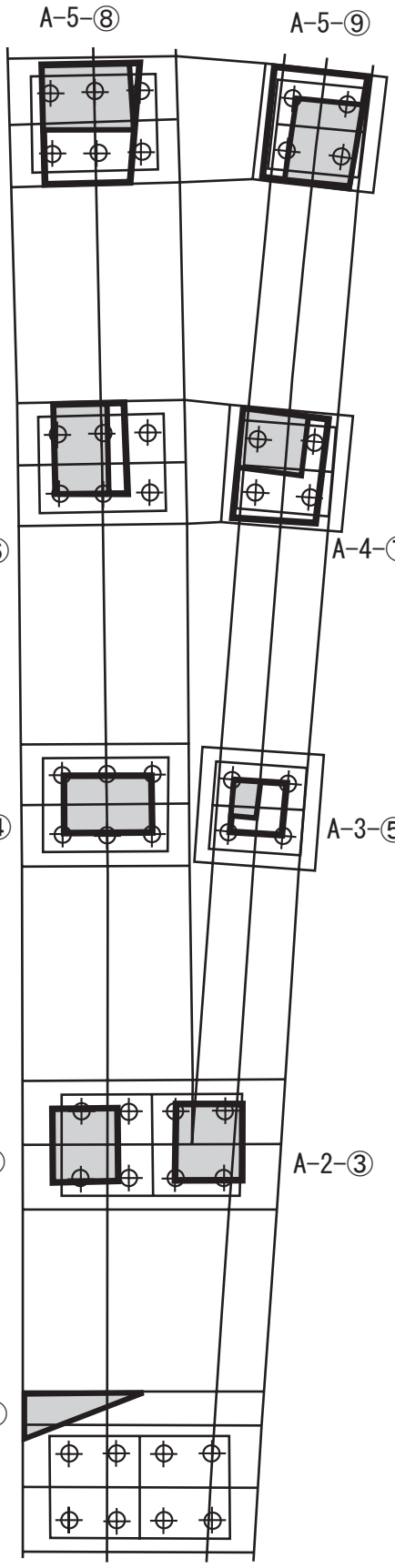


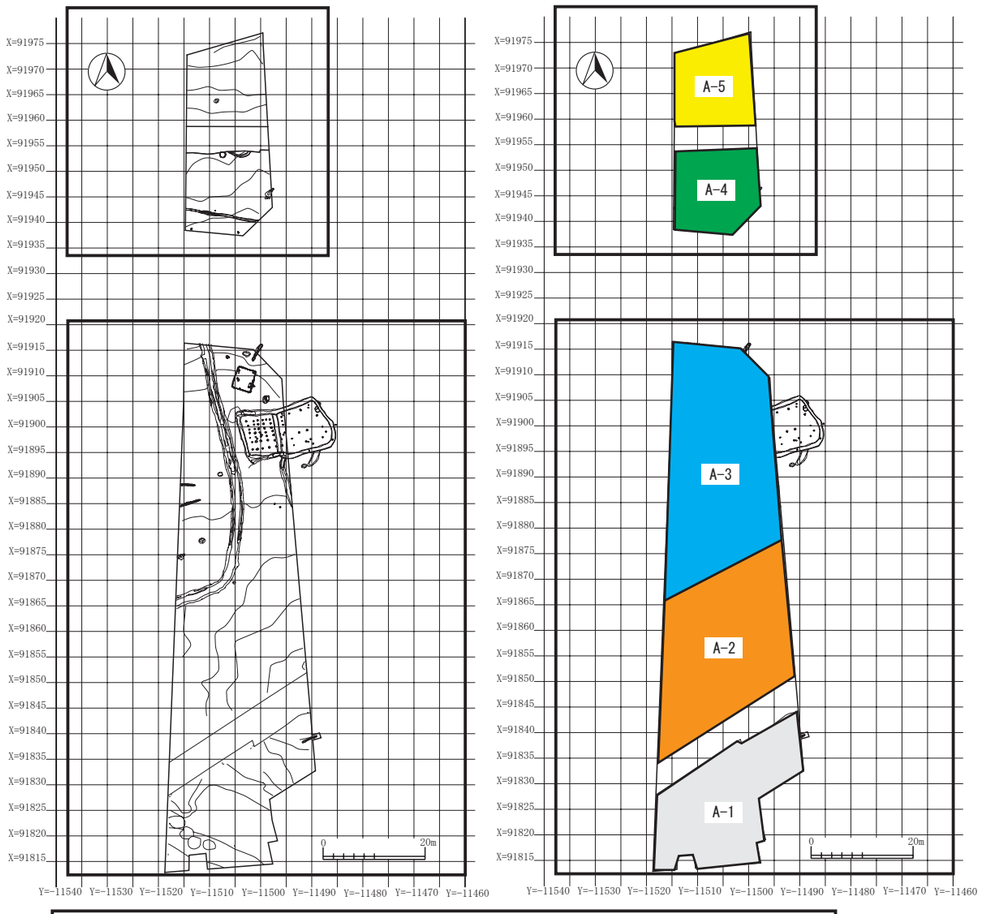
写真6　A-5-⑨

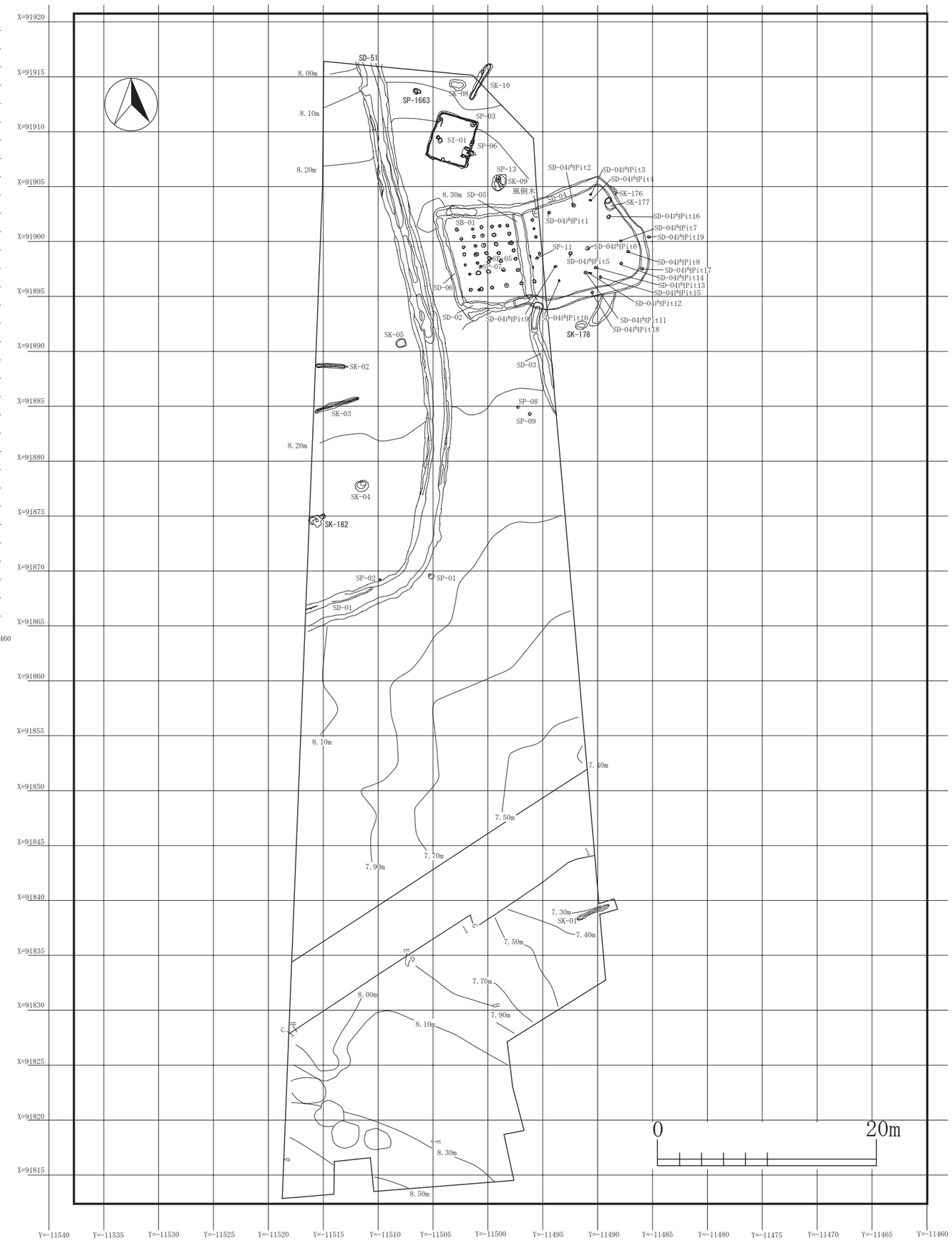
写真7　A-4-⑦

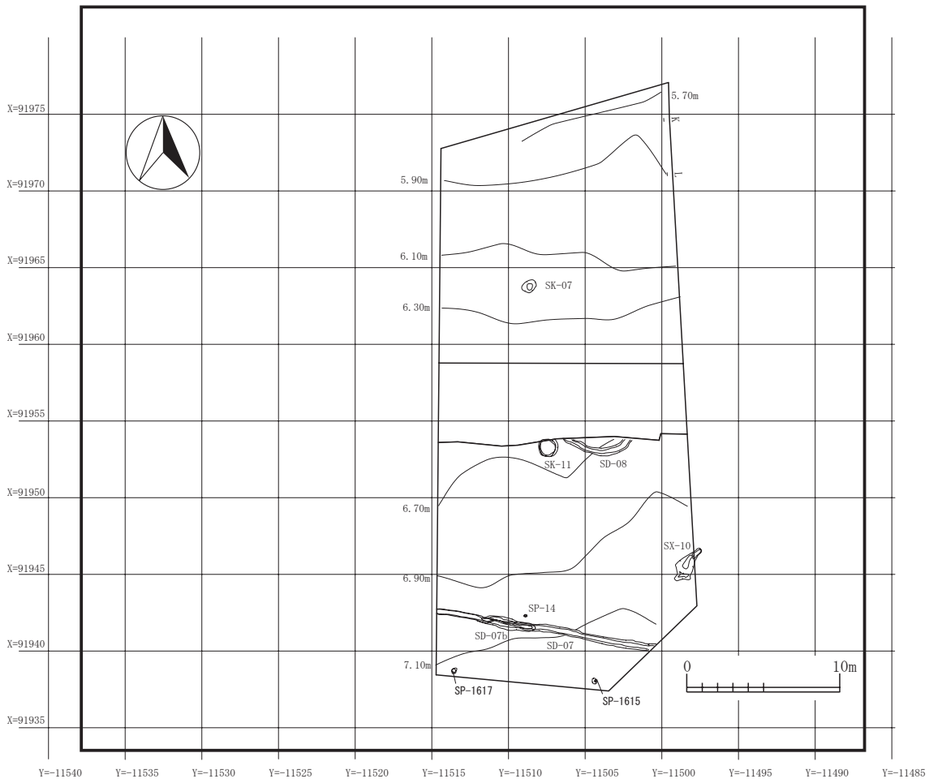
写真8　A-3-⑤

写真9　A-2-③

第６図　第二次調査トレンチ配置図







第７図　高間(1)遺跡遺構配置図

第Ⅳ章　高間(1)遺跡

第１節　基本層序

発掘調査区は南北に約１６０ｍほどの長さで、調査前の土地利用状況も畑地・宅地・山林・荒蕪地・休耕田など多岐にわたっていた。

基本層序については各調査区の掘削した壁面を観察箇所とし、必要に応じてセクション図を作成した。上面は耕作や宅地造成の影響等撹乱の影響が大きいが、中層以下の堆積についてはプライマリーな堆積状況を呈する箇所が多い。第Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ層中からＢ－Ｔｍ火山灰を検出しており、Ⅵ層の上面付近から当時の土地利用が活発化しているようである。

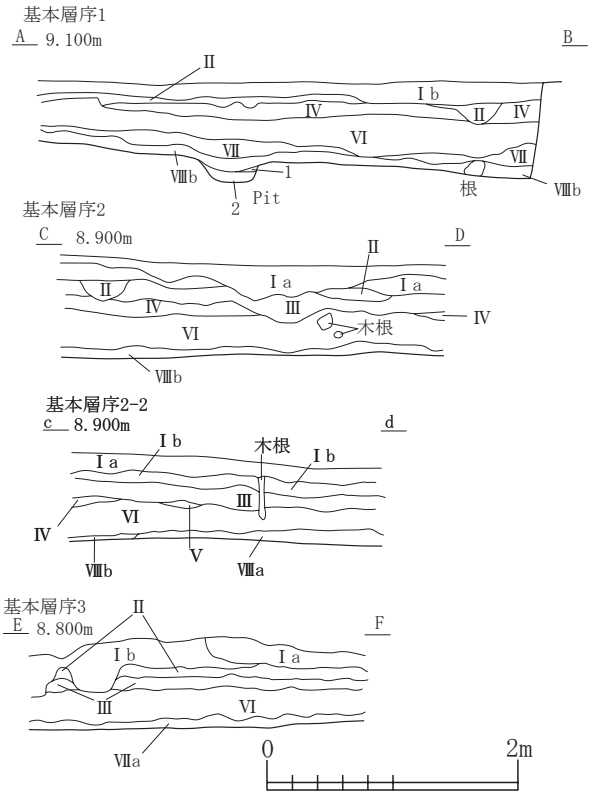


写真10　A-1区基本層序(Ｅ→)

写真11　A-2区基本層序(Ｓ→)

第８図　高間(1)遺跡基本層序

第Ⅰa層　10YR2/1　黒色土　　表土,現生活面,全体に撹乱をうける
第Ⅰb層　10YR2/3　黒褐色土　表土,畑の耕作による削平,盛土
第Ⅱ層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒（φ1～3mm）微量,焼土粒（φ1mm）微量,硬化面
第Ⅲ層　10YR2/1　黒色土　　ローム粒（φ1mm）微量,炭化粒（φ1mm）微量,焼土粒（φ1mm）微量,B-Tm（φ0.5mm）極微量
第Ⅳ層　10YR2/1　黒色土　　暗褐色土少量混入,ローム粒（φ1mm）微量,焼土粒（φ1mm）微量B-Tm粒状で極微量混入
第Ⅴ層　10YR3/1　黒褐色土　褐色土,部分的に堆積している
第Ⅵ層　10YR1.7/1黒色土　　ローム粒（φ1mm）微量,Ⅳ層に比べ粘性がある,B-Tm（φ0.5mm）極微量
第Ⅶ層　10YR1.7/1黒色土　　10YR4/3にぶい黄褐色土少量混入
第Ⅷa層　10YR4/3にぶい黄褐色土と10YR2/1黒色土との混合土　漸移層
第Ⅷb層　10YR4/3にぶい黄褐色土と7.5YR2/2黒褐色土との混合土　漸移層（部分的に存在）
Pit
第１層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒少量
第２層　10YR6/8　明黄褐色土　しまりに欠ける。

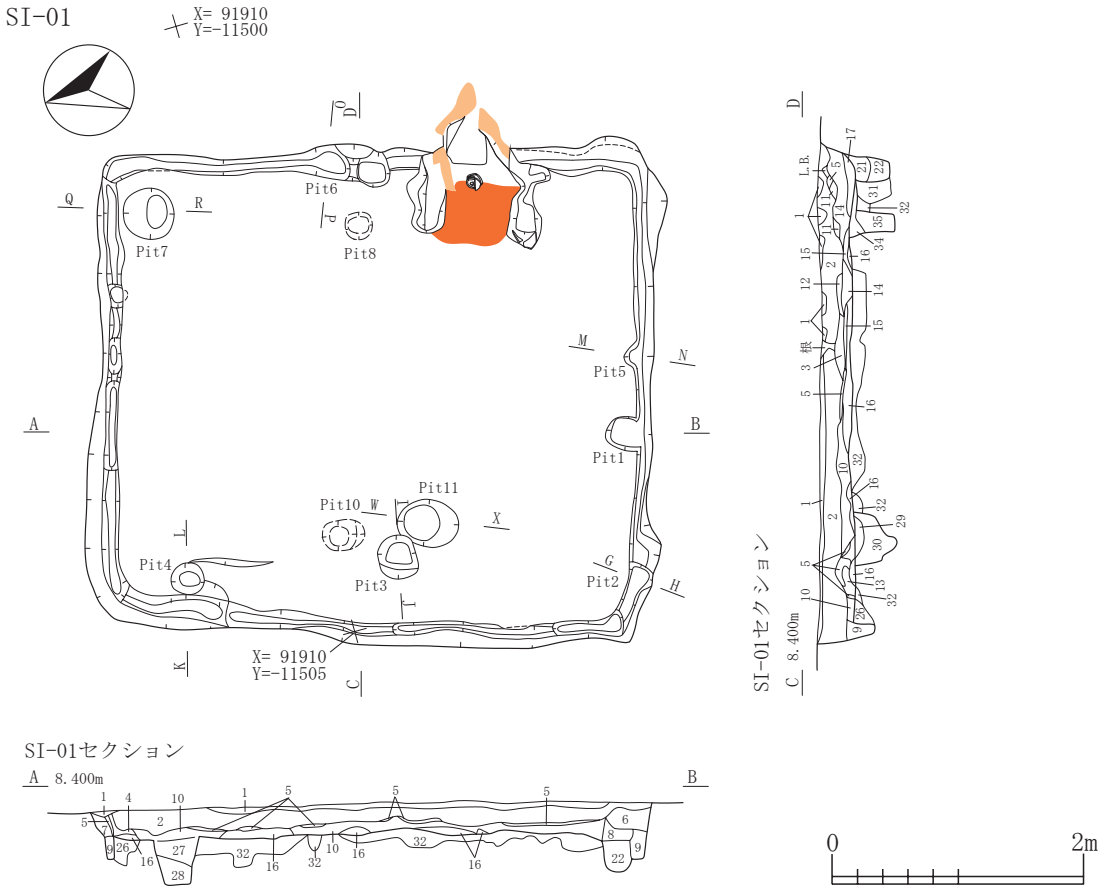
第２節　遺構

１.竪穴建物跡

ＳＩ－０１（第９～13図）

Ａ－３区X 91909.000, Y -11503.000 付近で検出した。平面形は不整方形で、カマド設置壁面を天とした場合、横幅の長さの方が縦幅より長く、３９４×４３７×３１ｃｍ、面積１７.２２m²を測る。壁溝が全周し、床面から１５～２５ｃｍの深さを持ち、壁柱穴があったと推定されるピット痕も北壁を中心に確認されている。壁溝の脇を中心に小規模なピットが掘削されているが、柱穴と判断できるのはＰｉｔ１・３・７のみで、カマド設置壁側の様相が不明瞭である。図版中のメインセクション中の分層上は３５層に分かれているが掘り方やピット等の土層堆積が含まれており、廃絶時点から埋没過程まで関連する土層については調査時の分層では第１～２０層が相当する。本遺構は焼失建物跡であり、床面より一段高い第１５層中から焼土化した土を多く確認し、同一面の第５層とした部分が炭化材・物の主要堆積層で、炭化材はほぼ全面から検出した。南壁の壁溝部分には腰板の一部が確認されたが、他の箇所では腰板と判断できる炭化材はほとんど確認されず、柱穴と判断できるピットからも炭化材は確認されなかった。また、カマド設置壁側には粘土の堆積が広範囲に認められ、土壁があった可能性が考慮される。出土遺物は土師器甕が第１４層を中心に出土しており、カマド上面に堆積している資料と接合関係にあり、破片化した状態での被熱痕が観察される。逆に床面出土資料や床面直上出土の資料については被熱している資料が少ない状況にある。最終段階の床面の掘り方の充填土の中にＴｏ－ａ火山灰がブロック状に微量確認されたが、その他の箇所では肉眼レベルでほとんど確認できない状況である。また、Ｂ－Ｔm火山灰については存在した可能性があるが、目視では確認されていない。本遺構は基本的には炭化材の堆積層である第５層直上にパミスブロックを多量に含む第２層が全面に堆積し埋没が完了している。Ｐｉｔ１の堆積土ついては東壁側にも同質の堆積土が認められており、また８層と２２層の層界面の箇所に焼失時の被熱痕があることから廃絶時にはＰｉｔ１の箇所については埋没が完了していたものと判断できる。また、Ｐｉｔ７についてもブロック等の伴う急激な埋戻し土でピット内や堆積土中に焼成の痕跡が皆無であることから、主柱等を除去した後、廃棄の伴う焼失建物であると考えられる。カマドは東壁Ｅ３（６８：３２）の箇所から１基検出した。主軸方位はＮ－１０６°－Ｅ、構造は半地下式で袖部幅８０ｃｍ、煙道長４８ｃｍを測る。支脚相当位置に輪積成形の円筒状の土製支脚が出土している。その他火床面直上から土師器甕の破片資料などが出土しているが、被熱により変質・剥落している資料が多く見受けられる。袖部は右袖側が一部抉れた箇所があり、その周辺から礫がまとまって出土しており、右袖側の破壊についても考慮される。

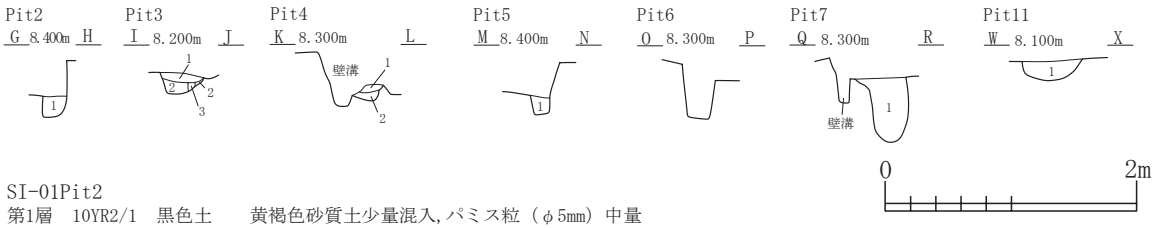
本遺構は改築された資料であると判断できる資料で、旧段階の建物跡は、掘り方を確認時に最終段階のものよりひとまわり小さな規模の壁溝を検出し確認した。壁溝から確認した規模は３２３×３９２ｃｍで床面は新（最終）段階のものとほぼ同一の深さである。旧段階の壁溝は掘り方の幅が新段階のものよりも幅広で、長めの単位で掘削されている。柱穴については新段階のものと床面が同一であるため、一部誤認の可能性が残されるがＰｉｔ９・１０・１２が帰属する可能性を持っている。カマドは北東隅の床面から９０×６０ｃｍの規模で焼土範囲を確認した。本遺構の廃絶時点は焼失を受けているが、前述のとおり床面上での焼失の要素が低いため、カマドの火床面としての可能性を有するものである。ただし構築材やカマド単体の掘り方を検出した訳ではないので、詳細は不明と言わざるを得ない。



SI-01

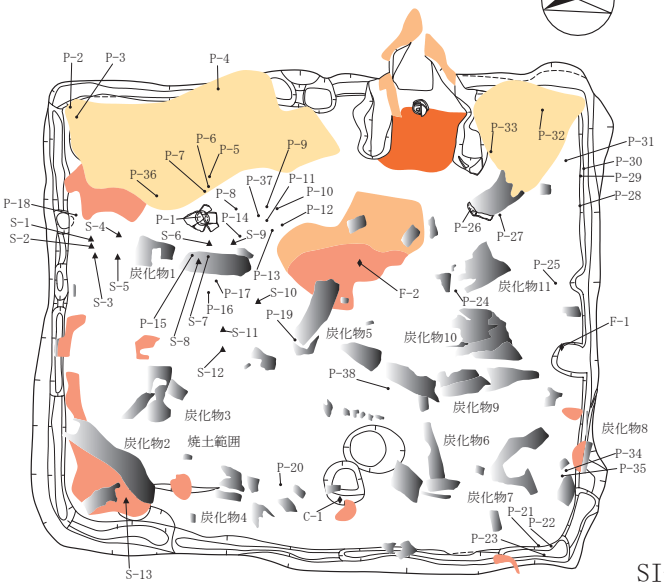
第1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒（φ4～5mm）少量,炭化物･粒微量,焼土粒少量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒（φ4～5mm）少量,ロームブロック（φ10～20mm）少量,焼土粒少量
第3層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒中量,炭化物･粒少量
第4層　5YR5/8　明赤褐色土　炭化粒（φ4～5mm）少量
第5層　10YR1.7/1 黒色土　炭化物層
第6層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒（φ4～6mm）少量,ローム粒中量･ブロック（φ10～20mm）少量
第7層　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒中量,炭化物･粒中量
第8層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒（φ4～5mm）中量･ブロック（φ20～60mm）多量
第9層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒（φ5～6mm）･ブロック（φ20～30mm）中量
第10層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック（φ10～15mm）少量,炭化粒（φ4～5mm）少量,焼土粒微量
第11層　10YR4/4　褐色土　焼土粒少量
第12層　7.5YR4/6　褐色土　炭化物･粒中量
第13層　10YR3/4　暗褐色土　ロームブロック（φ10～20mm）微量,炭化物少量,焼土粒（φ4～5mm）少量
第14層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒（φ2～3mm）少量,ローム粒少量,炭化物･粒少量,焼土粒微量
第15層　7.5YR4/4　褐色土　パミス粒（φ4～6mm）少量,炭化物･粒少量,赤褐色土（5YR4/6）焼土粒（φ4～5mm）中量
第16層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック（φ10～20mm）中量,ローム粒中量･ブロック（φ50～80mm）少量
第17層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒（φ4～5mm）少量,炭化物･粒少量
第18層　10YR4/3にぶい黄褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合土　炭化物（φ10～20mm）微量,焼土ブロック（φ10～20mm）微量
第19層　10YR3/4　暗褐色土　焼土粒（φ5mm）微量
第20層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒微量
第21層　10YR3/4　暗褐色土　パミスブロックφ10～30mm）微量,焼土粒（φ5mm）微量
第22層　10YR3/4　暗褐色土　黄褐色土（10YR5/6）砂質土少量混入,パミスブロック（φ15～20mm）少量（Pt1）
第23層　5YR4/4　にぶい赤褐色土　炭化物･粒少量
第24層　7.5YR3/4　暗褐色土　炭化物･粒少量,焼土粒少量
第25層　10YR3/4　暗褐色土　パミスブロック（φ10～40mm）多量,ローム粒多量
第26層　10YR4/4　褐色土　ロームブロック（φ10～30mm）中量
第27層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック（φ10～20mm）少量,ローム粒（φ4～5mm）少量
第28層　10YR5/6黄褐色土と10YR4/3にぶい黄褐色土との混合土（旧壁溝）
第29層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物･粒少量（旧壁溝）
第30層　10YR4/6　褐色土　ローム粒（φ4～5mm）多量,火山灰微量（旧壁溝）
第31層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒（φ4～5mm）多量,炭化物･粒少量
第32層　10YR4/4　褐色土　ロームブロック（φ20～50mm）多量,炭化物･粒少量
第33層　10YR4/4　褐色土　炭化物･粒少量
第34層　7.5YR3/4　暗褐色土　焼土粒少量,焼土ブロック（φ20～30mm）少量（Pit8）
第35層　10YR3/4　暗褐色土　パミスブロック（φ20～30mm）中量,炭化物･粒中量,焼土粒中量（Pit8）

第９図　SI-01-1

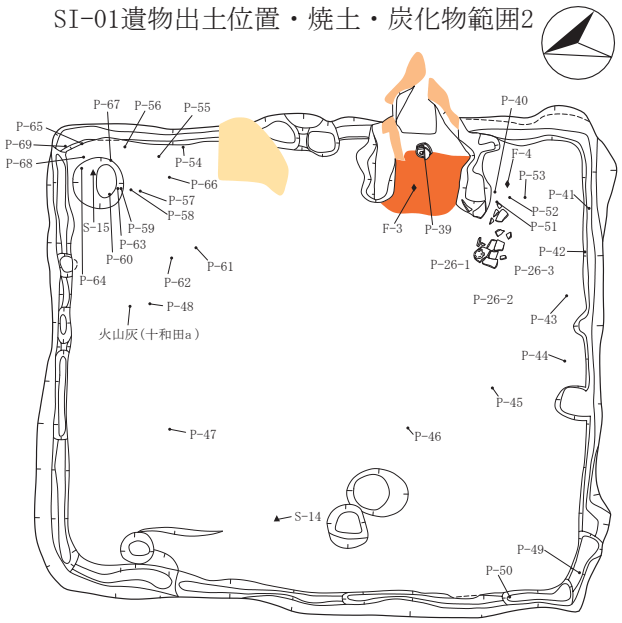


SI-01Pit2
第1層　10YR2/1　黒色土　　黄褐色砂質土少量混入, パミス粒（φ5mm）中量
SI-01Pit3
第1層　10YR2/1　黒色土　　10YR4/3にぶい黄褐色土少量混入, ローム粒（φ10mm）少量
第2層　10YR5/6　黄褐色土　暗褐色土少量混入, ローム粒（φ5～10mm）多量
第3層　10YR3/4　暗褐色土　黄褐色砂質土混入
SI-01Pit4
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック（φ10～20mm）少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック（φ50～60mm）多量
SI-01Pit5
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック（φ20～30mm）中量, ローム粒中量
SI-01Pit7
第1層　10YR3/4　暗褐色土　パミスブロック（φ10～20mm）中量, ローム粒中量
　　炭化物･粒少量, 焼土粒（φ4～10mm）少量
SI-01Pit11
第1層　10YR4/4　褐色土　パミス粒（φ4～5mm）中量･ブロック（φ40～50mm）微量, 炭化物･粒少量

SI-01遺物出土位置・焼土・炭化物範囲1

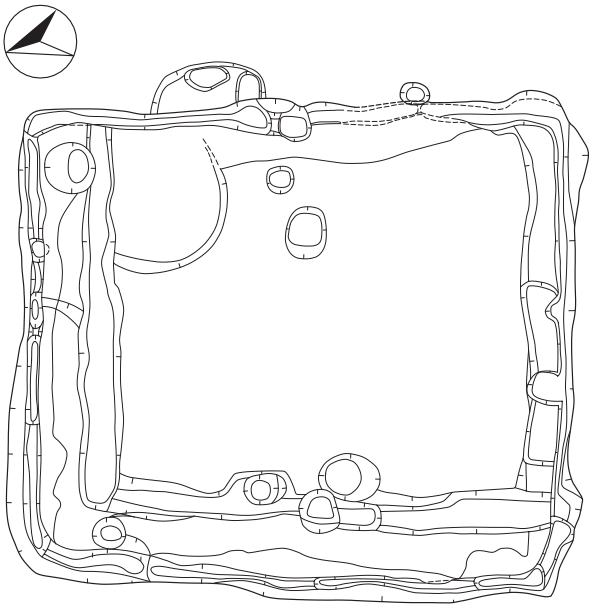


SI-01遺物出土位置・焼土・炭化物範囲2

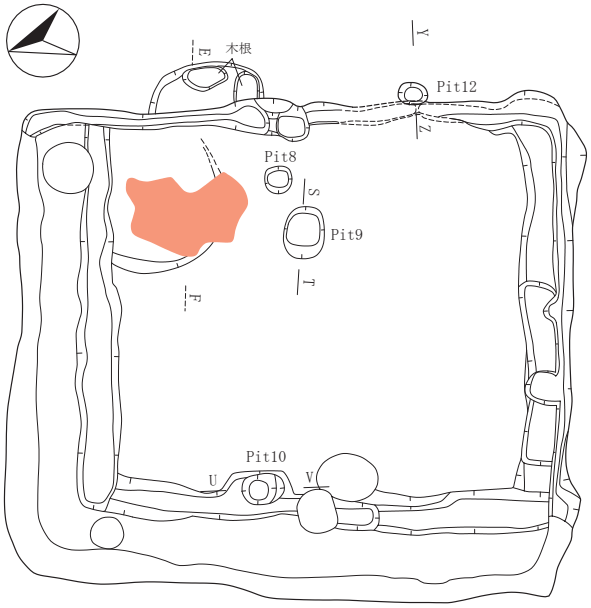


第 10 図　SI-01-2

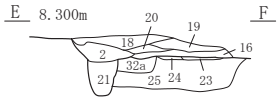
SI-01掘り方



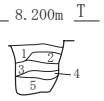
SI-01(旧)



SI-01焼土範囲セクション

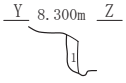


Pit9



Pit10

Pit12



SI-01焼土範囲セクション（※層番号は住居セクションと対応）
第２層　10YR3/3　暗褐色土　　パミス粒（φ4～5mm）少量,ロームブロック（φ10～20mm）少量,焼土粒少量
第16層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック（φ10～20mm）中量,ローム粒中量･ブロック（φ50～80mm）少量
第18層　10YR4/3にぶい黄褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合土　炭化物（φ10～20mm）微量,焼土ブロック（φ10～20mm）微量
第19層　10YR3/4　暗褐色土　焼土粒（φ5mm）微量
第20層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒微量
第21層　10YR3/4　暗褐色土　パミスブロック（φ10～30mm）微量,焼土粒（φ5mm）微量
第23層　5YR4/4　にぶい赤褐色土　炭化物･粒少量
第24層　7.5YR3/4　暗褐色土　炭化物･粒少量,焼土粒少量
第25層　10YR3/4　暗褐色土　パミスブロック（φ10～40mm）多量,ローム粒多量
第32a層　10YR3/4 暗褐色土　パミス粒・ブロック（φ1～30mm）中量

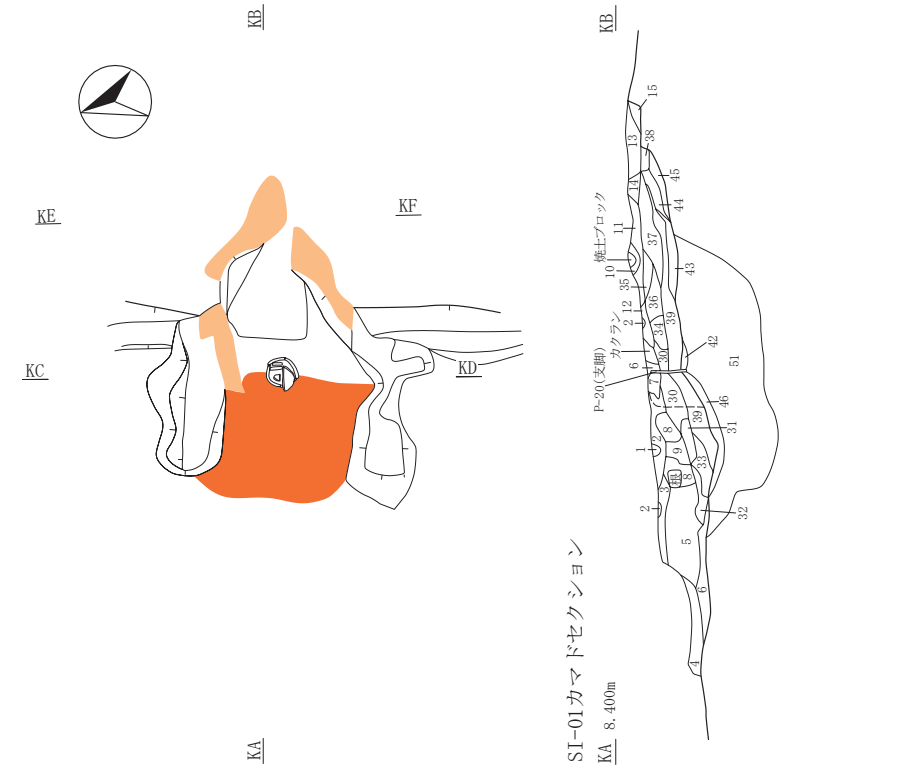
SI-01Pit9
第1層　10YR4/6　褐色土　　パミスブロック（φ10～50mm）少量,炭化物･粒少量,焼土粒少量
第2層　7.5YR4/4　褐色土　　炭化物･粒少量,焼土粒少量
第3層　10YR4/4　褐色土　　ローム粒中量,炭化物･粒少量
第4層　7.5YR4/3　褐色土　　炭化物･粒少量,焼土粒少量
第5層　10YR6/6　明黄褐色土　パミスブロック（φ10～30mm）中量,炭化物･粒少量

SI-01Pit10
第1層　10YR4/6　褐色土　ローム粒多量･ブロック（φ30～50mm）中量

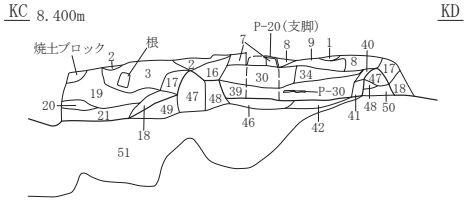
SI-01Pit12
第1層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒（φ2～9mm）少量,炭化粒（φ2～6mm）極微量,焼土粒（φ3～9mm）微量

第 11 図　SI-01-3

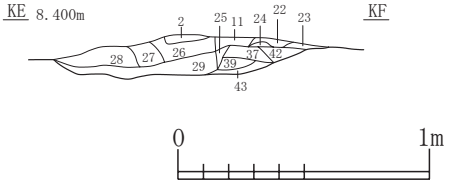
SI-01カマド



SI-01カマドセクション



SI-01カマドセクション

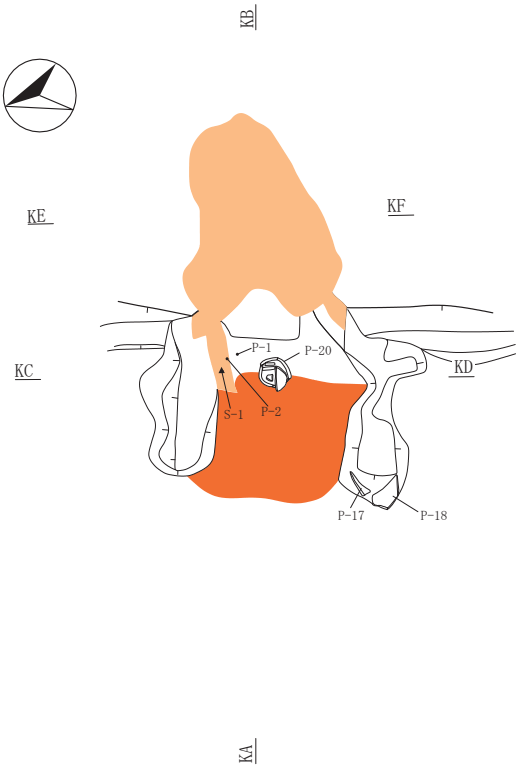


SI-01カマド

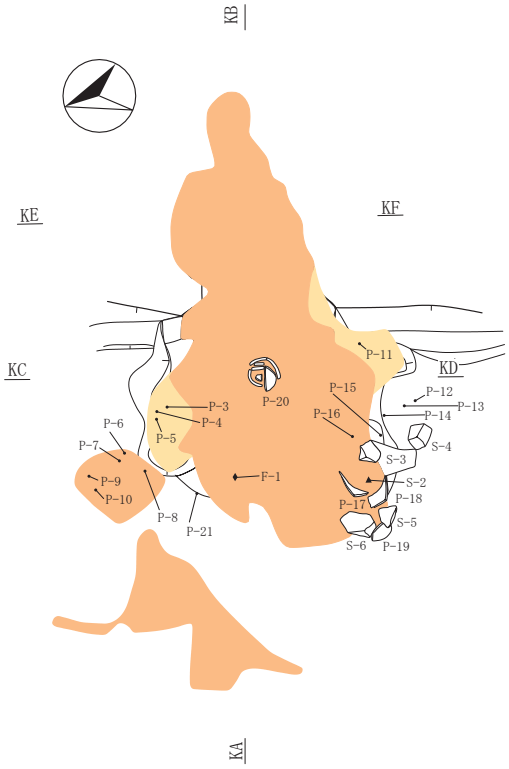
第１層	10YR3/4	暗褐色土	焼土粒少量
第２層	10YR3/1	黒褐色土	炭化物･粒少量, 焼土粒少量
第３層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化物･粒少量, 焼土粒微量
第４層	10YR4/4	褐色土	ローム粒少量, 炭化物･粒少量, 焼土粒中量
第５層	10YR4/6	褐色土	炭化物･粒少量
第６層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒（φ5～10㎜）少量, 炭化物･粒少量
第７層	5YR4/8	赤褐色土	
第８層	7.5YR4/4	褐色土	焼土粒中量
第９層	5YR4/8赤褐色土と7.5YR5/6明褐色土の混合土		
第10層	10YR2/2	黒褐色土	焼土粒（φ5㎜）微量
第11層	7.5YR4/3	褐色土	黒褐色土少量混入, 焼土粒（φ2～3㎜）微量
第12層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	焼土粒（φ2～3㎜）極微量
第13層	7.5YR3/3	暗褐色土	焼土粒（φ2～3㎜）少量
第14層	7.5YR4/3	褐色土	炭化粒（φ1～3㎜）極微量
第15層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒（φ1～3㎜）微量
第16層	7.5YR3/3	暗褐色土	焼土粒（φ1～3㎜）微量
第17層	7.5YR4/6	褐色土	炭化粒（φ3～5㎜）極微量, 焼土粒（φ2～5㎜）微量
第18層	7.5YR4/3	褐色土	炭化粒（φ3～5㎜）極微量
第19層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒（φ5～10㎜）微量, 焼土粒（φ3～5㎜）少量
第20層	10YR3/2	黒褐色土	パミスブロック（φ20㎜）極微量
第21層	7.5YR4/3	褐色土	焼土粒（φ3～5㎜）少量
第22層	5YR4/6	赤褐色土	黒色土微量混入
第23層	10YR3/3	暗褐色土	焼土粒（φ3～5㎜）少量
第24層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒（φ1～3㎜）微量, 焼土粒（φ3～5㎜）極微量
第25層	10YR2/2	黒褐色土	焼土粒（φ1～3㎜）微量
第26層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒（φ1～2㎜）極微量
第27層	10YR3/3	暗褐色土	黒色土少量混入, 焼土粒（φ3～5㎜）少量
第28層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒（φ5㎜）微量, 焼土粒（φ1～3㎜）極微量
第29層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒（φ5～7㎜）中量
第30層	7.5YR4/6	褐色土	焼土ブロック（φ5～6㎜）多量
第31層	5YR4/8	赤褐色土	炭化物･粒微量
第32層	7.5YR4/4	褐色土	焼土粒（φ2～3㎜）少量
第33層	7.5YR4/6	褐色土	焼土粒少量
第34層	10YR5/6	黄褐色土	ロームブロックの層
第35層	7.5YR3/4	暗褐色土	炭化物･粒少量, 焼土粒中量
第36層	5YR3/6	明赤褐色土	パミス粒（φ4～5㎜）微量
第37層	7.5YR4/3	褐色土	パミス粒（φ4～5㎜）少量, 焼土粒（φ5～10㎜）少量
第38層	10YR2/1	黒色土	炭化物･粒少量, 焼土粒少量
第39層	7.5YR4/4	褐色土	パミスブロック（φ10～20㎜）少量, 炭化物･粒少量
第40層	5YR4/4	にぶい赤褐色土	炭化物･粒少量
第41層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化物･粒少量, 焼土粒少量
第42層	5YR4/8	赤褐色土	焼土粒（φ4～6㎜）中量
第43層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒（φ2～3㎜）少量
第44層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒少量
第45層	10YR2/2	黒褐色土	炭化物･粒少量, 焼土粒少量
第46層	5YR5/8	明赤褐色土	炭化物･粒少量, 焼土粒少量
第47層	10YR4/6	褐色土	粘土の層, 焼土粒少量
第48層	7.5YR4/4	褐色土	炭化物･粒少量, 焼土粒少量
第49層	10YR5/6	黄褐色土	粘土の層
第50層	10YR4/4	褐色土	パミス粒（φ4～5㎜）少量, 焼土粒少量
第51層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒（φ2～5㎜）多量

第 12 図　SI-01-4

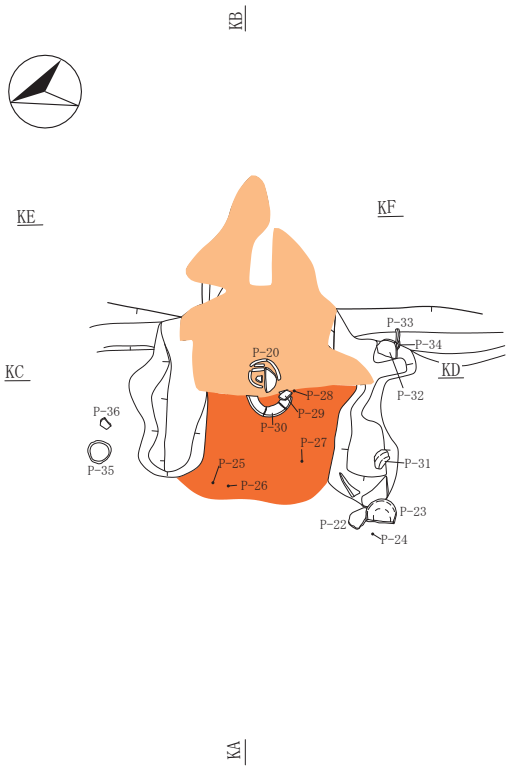
SI-01カマド焼土範囲・遺物出土位置図



SI-01カマド焼土・粘土範囲・遺物出土位置図1面目



SI-01カマド焼土範囲・遺物出土位置図2面目



第 13 図　SI-01-5

2.土坑

ＳＫ－０１（第 14 図）

Ａ－２区X 91839.000, Y -11490.000 付近で検出した。一部区画整理の調査区へ遺構が延びているが、本遺構に関しては調査を行っており、規模は３１７×２９×７６ｃｍを測る。溝状土坑である。

ＳＫ－０２（第 14 図）

Ａ－３区X 91889.000, Y -11514.000 付近で検出した。規模は２６３×４０×９０ｃｍを測る。溝状土坑である。

ＳＫ－０３（第 14 図）

Ａ－３区X 91885.000, Y -11514.000 付近で検出した。規模は４１６×３３×９４ｃｍを測る。溝状土坑である。ＳＫ－０２と近接しており、堆積土についても類似した土が堆積している。

ＳＫ－０４（第 15 図）

Ａ－３区X 91878.000, Y -11511.000 付近で検出した。規模は１１８×９９×２６ｃｍを測る。ＳＰ－０４と重複しており、本遺構が新しい。平面形は不整楕円形を呈し、底面は凹凸が顕著である。

ＳＫ－０５（第 15 図）

Ａ－３区X 91891.000, Y -11508.000 付近で検出した。規模は８９×７８×１６ｃｍを測る。平面形は不整方形を呈する。

ＳＫ－０７（第 15 図）

Ａ－３区X 91964.000, Y -11509.000 付近で検出した。規模は９２×７２×２２ｃｍを測る。平面形は不整楕円形を呈する。

ＳＫ－０８（第 15 図）

Ａ－３区X 91914.000, Y -11503.000 付近で検出した。規模は１４７×９８×４２ｃｍを測る。平面形は小判形ではあるが南側の一部が不整形を呈している。全般的にパミス混じりの暗褐色土主体の堆積土である。

ＳＫ－０９（第 15 図）

Ａ－３区X 91905.000, Y -11499.000 付近で検出した。規模は１６６×１３１×３５ｃｍを測る。平面形は不整円形で中央が一段窪んだ形状を呈する。ＳＰ－１３と重複しているが新旧関係の詳細は不明である。ＳＫ－０８と同様にはあるが南側の一部が不整形を呈している。全般的にパミス混じりの暗褐色土主体の堆積土である。

ＳＫ－１０（第 15 図）

Ａ－３区X 91915.000, Y -11501.000 付近で検出した。一部区画整理の調査区へ遺構が延びているが、本遺構に関しては調査を行っており、規模は３７２×６７×７６ｃｍを測る。溝状土坑である。開口部が浅い落ち込みがあり、短軸側の断面形も袋状を呈した形状である。

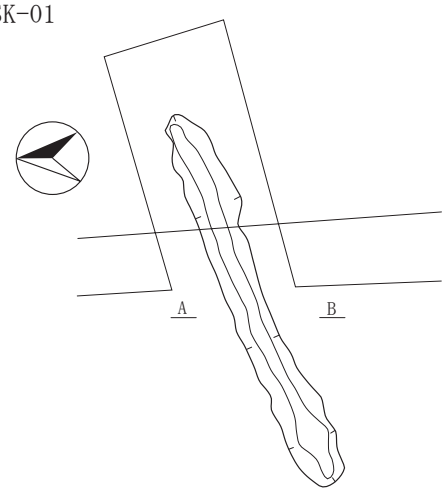
ＳＫ－１１（第 15 図）

Ａ－４区X 91953.000, Y -11507.000 付近で検出した。現代の用水によって切られており、北側の情報が欠落しているが、残存部の規模は１２３×１０７×９２ｃｍを測る。平面形は不整円形で底径が開口部径より大きなフラスコ状土坑である。

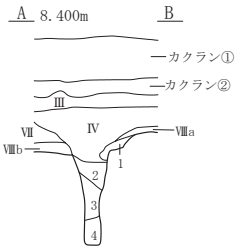
ＳＫ－１８２（第 16 図）

Ａ－３区X 91875.000, Y -11516.000 付近で検出した。規模は１５６×９６×４２ｃｍを測る。平面形は不整形で、東側にピット状の小さな落ち込みがある。

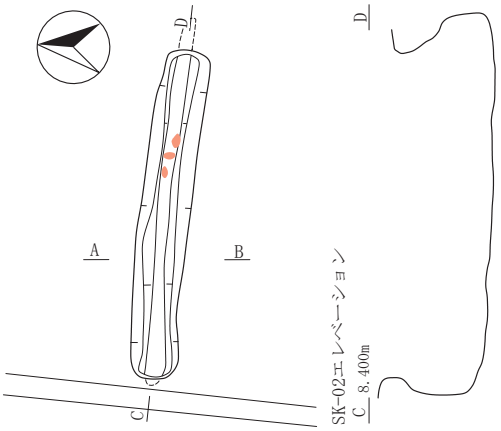
SK-01



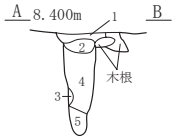
SK-01セクション



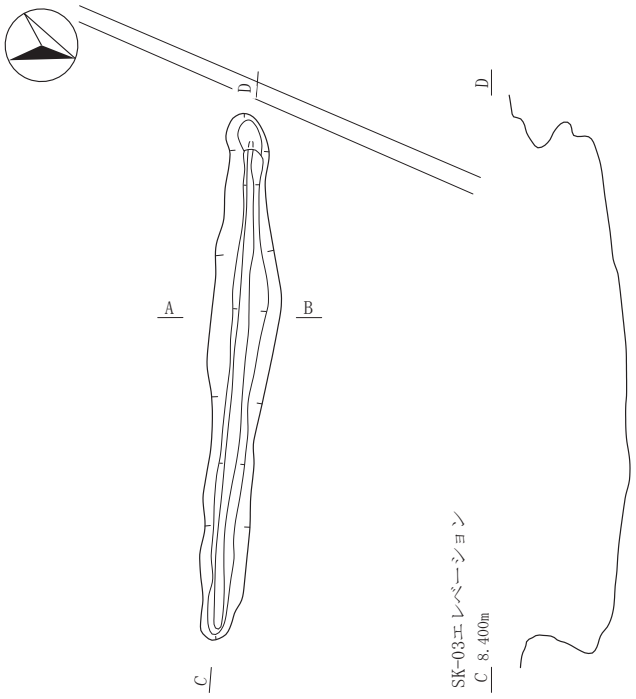
SK-02



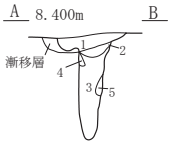
SK-02セクション



SK-03



SK-03セクション

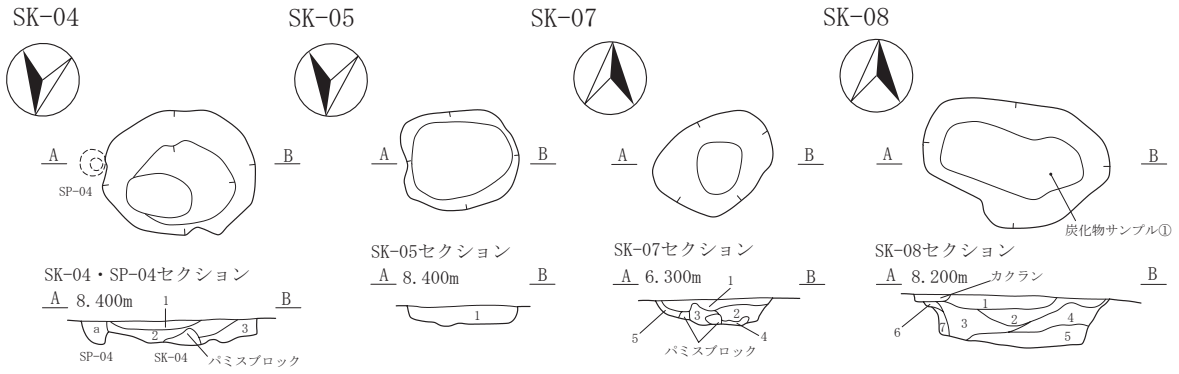


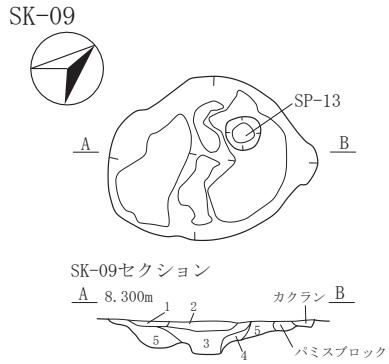
SK-01
カクラン①　宅地下の砂礫
カクラン②　10YR2/2　黒褐色土　　パミス粒(φ5mm),
　　宅地造成時の盛土
第1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ1～2mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　壁際にパミス粒(φ1～2mm)微量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～2mm)極微量,
　　ロームブロック(φ10～15mm)
　　微量,焼土粒(φ1～2mm)極微量
第4層　10YR3/3　暗褐色土　黒色土(φ1～2mm)粒状で少量
　　混入,パミス粒(φ1～2mm)中量

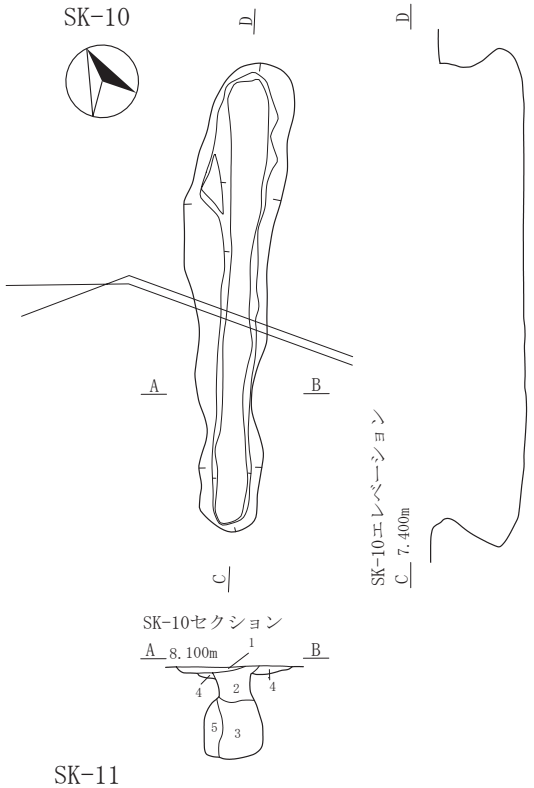
SK-02
第1層　10YR2/1　黒色土　10YR3/1黒褐色土少量混入,
　　パミス粒(φ1～3mm)極微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)微量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第4層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)微量
第5層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ30～40mm)少量

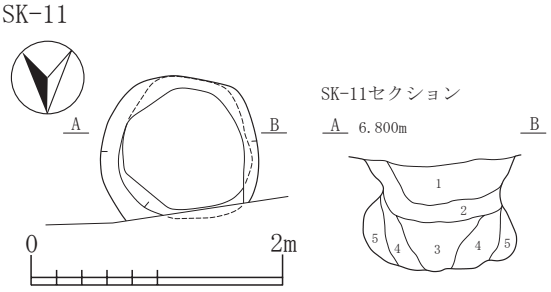
SK-03
第1層　10YR2/1　黒色土　10YR黒褐色土微量混入,
　　ロームブロック(φ50mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)微量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)微量
第4層　10YR5/6　黄褐色土　壁崩落土
第5層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)微量

第 14 図　SK ①









SK-04
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)中量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SP-04
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)少量

SK-05
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)少量

SK-07
第1層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ2～5mm)微量
第2層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ2～5mm)微量,炭化物(φ10～15mm)極微量
第3層　10YR3/3　褐色土　パミス粒(φ2～9mm)中量・ブロック(φ10～30mm)少量
第4層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)中量・ブロック(φ10～20mm)少量
第5層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ2～5mm)少量

SK-08
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ2～9mm)・ブロック(φ10～25mm)少量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ2～9mm)微量・ブロック(φ10～30mm)極微量
第3層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ2～9mm)・ブロック(φ10～20mm)少量,炭化粒(φ2～5mm)極微量
第4層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ2～9mm)中量・ブロック(φ10～25mm)微量
第5層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ2～9mm)多量・ブロック(φ10～20mm)中量,炭化物・粒(φ2～40mm)微量
第6層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ2～6mm)少量
第7層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ2～9mm)中量

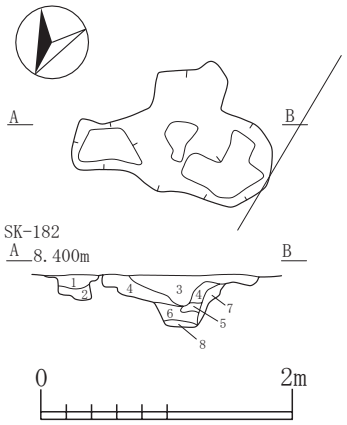
SK-09
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)少量,炭化粒(φ2～6mm)極微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)少量・ブロック(φ10～20mm)微量
第3層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ2～9mm)中量・ブロック(φ10～60mm)少量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)少量・ブロック(φ10～15mm)微量
第5層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)中量

SK-10
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～9mm)少量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～5mm)微量・ブロック(φ10～20mm)極微量,炭化粒(φ2～3mm)極微量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～9mm)少量・ブロック(φ10～30mm)微量,炭化粒(φ2～3mm)極微量
第4層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～9mm)中量
第5層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～9mm)少量,ローム粒(φ2～9mm)・ブロック(φ10～50mm)少量,炭化粒(φ3～9mm)極微量

SK-11
第1層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ2～5mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～9mm)少量・ブロック(φ10～20mm)微量,パミス粒一部層状に混入
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)少量・ブロック(φ10～40mm)極微量
第4層　10YR3/3　暗褐色土　10YR2/2黒褐色土一部混入,パミスブロック(φ10～60mm)中量
第5層　10YR3/3　暗褐色土　10YR2/1黒色土層状に堆積(厚さ5cm)パミスブロック(φ300～400mm)少量,ロームブロック(灰白色)

第 15 図　SK ②

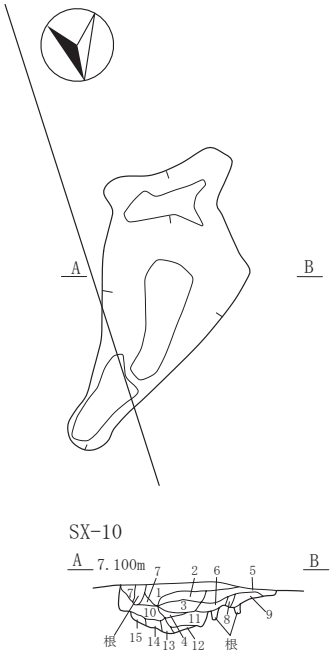
SK-182



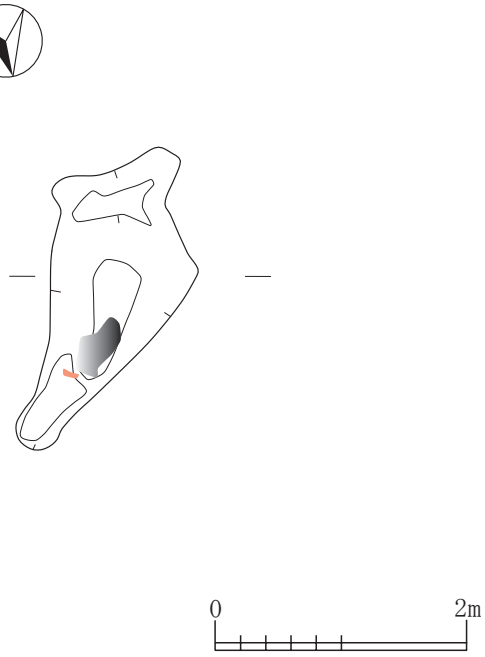
SK-182

第1層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ5㎜)微量, ローム粒(φ1～5㎜)少量・ブロック(φ10㎜)極微量
第2層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ1～3㎜)少量･ブロック(φ10～15㎜)微量
第3層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1～3㎜)極微量
第4層	10YR3/2	黒褐色土	ローム粒(φ1～5㎜)少量・ブロック(φ10～30㎜)微量
第5層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ1～5㎜)少量・ブロック(φ10㎜)微量
第6層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1～5㎜)極微量・ブロック(φ10～20㎜)極微量
第7層	10YR3/2	黒褐色土	ローム粒(φ1～5㎜)少量・ブロック(φ10～30㎜)中量
第8層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1～5㎜)極微量・ブロック(φ10～30㎜)中量

SX-10



SX-10炭化物・焼土範囲



SX-10

第１層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ3～5㎜)少量･ブロック(φ15㎜)微量, 炭化粒(φ3～5㎜)微量, B-Tmブロック(φ30㎜)少量
第２層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～3㎜)少量, 焼土粒(φ5～9㎜)少量
第３層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ5～9㎜)中量, 炭化粒･材(φ1～15㎜)少量
第４層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～3㎜)少量, 炭化材(φ15㎜)少量
第５層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ3～5㎜)･ブロック(φ10～20㎜)少量, 炭化粒(φ5㎜)微量
第６層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ3～5㎜)･ブロック(φ10～15㎜)中量
第７層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1～3㎜)少量･ブロック(φ20㎜)微量
第８層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1～3㎜)多量
第９層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1～3㎜)･ブロック(φ15～20㎜)中量
第10層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1～5㎜)多量
第11層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～5㎜)極多量･ブロック(φ15～20㎜)微量, 焼土粒(φ5～9㎜)･ブロック(φ15㎜)少量
第12層	10YR3/1	黒褐色土	パミスブロック(φ15～20㎜)中量
第13層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミスブロック(φ10～15㎜)少量
第14層	10YR5/6	黄褐色土	パミスブロック層
第15層	10YR3/2	黒褐色土	パミスブロック(φ15㎜)少量

第 16 図　SK ③, SX

３.性格不明遺構

ＳＸ－１０（第 16 図）

Ａ－４区X 91946.000, Y -11498.000 付近で検出した。規模は１７５×１１５×５２ｃｍを測る。ほぼ南北を主軸とするが、北側の部分に北東方向の張り出しを有する。張り出し基部周辺の床面５ｃｍ前後の高さから炭化物及び焼土が検出している。火山灰についてはＢ－Ｔｍ火山灰を第１層からブロック状に検出している。

４.ピット

ＳＰ－０１（第 17 図）

Ａ－３区X 91869.000, Y -11505.000 付近で検出した。規模は５１×４６×５３ｃｍを測る。平面形は楕円形、断面形は円筒形を呈する。柱穴状の堆積状況を呈するが、付近には類似した規模の柱穴がなく、建物の柱穴として機能したかどうかは不明である。

ＳＰ－０２（第 17 図）

Ａ－３区X 91869.000, Y -11510.000 付近で検出した。規模は２０×１７×１２ｃｍを測る。平面形は楕円形、断面形はほぼ円筒形を呈する。ＳＰ－０１同様周辺にピットがなく、ＳＤ－０１に近接した位置にあるが、具体的な関連や施設等の要素については不明である。

ＳＰ－０３（第 17 図）

Ａ－３区X 91911.000, Y -11501.000 付近で検出した。ＳＩ－０１と重複しており、本遺構が新しい。規模は２９×２８×７ｃｍを測る。平面形は不整方形、断面形は底部のみの形状であるが擂鉢形を呈する。

ＳＰ－０４（第 15 図）

Ａ－３区X 91878.000, Y -11511.000 付近で検出した。ＳＫ－０４と重複しており、本遺構の方が古い。平面測量データ不足のため、平面形・規模等の詳細は不明であるが、断面図からの情報で幅２０ｃｍ、深さ１７ｃｍほどの規模である。

ＳＰ－０５（第 17・18 図）

Ａ－３区X 91898.000, Y -11500.000 付近で検出した。規模は４２×２７×９ｃｍを測る。平面形は小判形、断面形は擂鉢形を呈する。周辺にＳＢ－０１と取り扱った掘立柱建物跡があり、詳細は後述するが、複数の建物跡の可能性があり、本遺構についても柱穴として機能した可能性がある。

ＳＰ－０６（第 17 図）

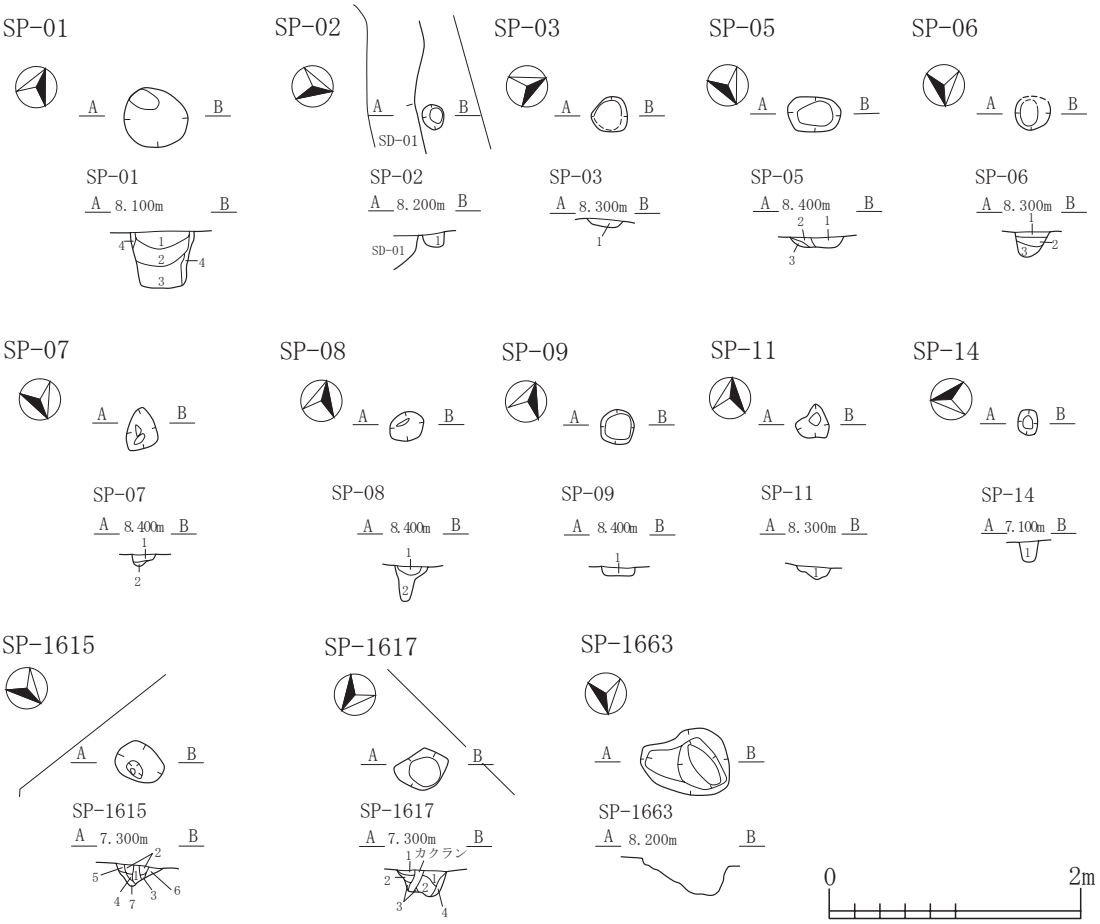
Ａ－３区X 91909.000, Y -11501.000 付近で検出した。ＳＩ－０１と重複し、本遺構が新しい。規模は２８×２７×２１ｃｍを測る。平面形は円形、断面形は擂鉢形を呈する。

ＳＰ－０７（第 17・18 図）

Ａ－３区X 91898.000, Y -11501.000 付近で検出した。規模は３１×２４×１８ｃｍを測る。平面形は不整形、断面形は段状に立ち上がる形状を呈する。ＳＰ－０５と同様柱穴として機能した可能性がある。

ＳＰ－０８（第 17 図）

Ａ－３区X 91885.000, Y -11497.000 付近で検出した。規模は２６×２３×２９ｃｍを測る。平面形は楕円形、断面形は柱穴状の形状で坑上部で緩やかに立ち上がる形状を呈する。周辺にはＳＰ－０９があるが、形状・堆積土等が異なり、関連性については不明である。



SP-01
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)極微量,
炭化粒(φ1～2mm)極微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)少量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)中量
第4層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)中量

SP-02
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)少量

SP-03
第1層　10YR2/1　黒色土　炭化物･粒少量,焼土粒微量

SP-05
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス混入

SP-06
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ2～5mm)少量,
炭化粒(φ1～3mm)極微量
焼土粒(φ1～3mm)極微量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ2～9mm)少量,
炭化粒(φ1～3mm)極微量
焼土粒(φ1～3mm)極微量
第3層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ2～5mm)微量,
炭化粒(φ1～2mm)極微量

SP-07
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)中量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)少量

SP-08
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)少量

SP-09
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SP-11
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量

SP-14
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～5mm)微量

SP-1615
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ30mm)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5mm)微量
第3層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第4層　10YR6/6　明黄褐色土　B-Tm火山灰層
第5層　7.5YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第6層　10YR3/4　暗褐色土　B-Tm火山灰粒(φ5mm)中量
第7層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量

SP-1617
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～6mm)少量,
炭化粒(φ1mm)極微量
第2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ1～3mm)中量･
ブロック(φ10～30mm)微量,
炭化粒(φ1mm)微量
第3層　10YR6/6　明黄褐色土
第4層　10YR4/4　褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量

第 17 図　SP

ＳＰ－０９（第 17 図）

Ａ－３区Ｘ 91884.000, Ｙ -11496.000 付近で検出した。規模は２８×２６×７ｃｍを測る。平面形は円形、断面形は円筒形を呈する。

ＳＰ－１０　欠番

ＳＰ－１１（第 17・18 図）

Ａ－３区Ｘ 91899.000, Ｙ -11496.000 付近で検出した。規模は２７×２６×１１ｃｍを測る。平面形は不整形、断面形は段状の立ち上がりを有する形状である。ＳＰ－０５・０７と同様ＳＢ－０１付近にあることから関連性が考えられる。

ＳＰ－１２・１３　欠番

ＳＰ－１４　（第 17 図）

Ａ－４区Ｘ 91942.000, Ｙ -11509.000 付近で検出した。規模は２０×１６×１７ｃｍを測る。平面形は隅丸方形、断面形は円筒形を呈する。

ＳＰ－１６１５（第 17 図）

Ａ－４区Ｘ 91938.000, Ｙ -11504.000 付近で検出した。規模は３９×２９×２２ｃｍを測る。平面形は小判形、断面形はＶ字形を呈する。柱穴状の堆積状況で、第４・６層中にＢ－Ｔｍ火山灰層が混入している。

ＳＰ－１６１７（第 17 図）

Ａ－４区Ｘ 91939.000, Ｙ -11514.000 付近で検出した。規模は３３×３０×２１ｃｍを測る。平面形は不整方形を呈し、断面形は緩やかな段状の形状を有している。

ＳＰ－１６６３（第 17 図）

Ａ－３区Ｘ 91914.000, Ｙ -11506.000 付近で検出した。規模は７０×５３×３５ｃｍを測る。平面形は不整形、断面形は底面がほぼ平坦で、一方の壁が緩やかに立ち上がり、他方がやや急激に立ち上がる形状である。

５. 掘立柱建物跡

ＳＢ－０１　（第 18・19 図）

Ａ－３区Ｘ 91899.000, Ｙ -11499.000 付近で検出した。調査時にはＰｉｔ１～３５まで１棟の取扱いで措置しているが、複数の建物跡の複合である可能性が考えられ、本遺構に関連したと考えられるＳＤ－０２～０５についても併せて考慮しなければならない。ここでは調査時の情報の記載に留めることとする。Ｐｉｔ１＝３２×３０×１９ｃｍ、Ｐｉｔ２＝４８×３７×２２ｃｍ、Ｐｉｔ３＝３２×２７×１９ｃｍ、Ｐｉｔ４＝３２×３０×１７ｃｍ、Ｐｉｔ５＝３４×３０×２４ｃｍ、Ｐｉｔ６＝３２×３１×１５ｃｍ、Ｐｉｔ７＝３７×３２×２４ｃｍ、Ｐｉｔ８＝３５×３３×２４ｃｍ、Ｐｉｔ９＝２９×２４×２２ｃｍ、Ｐｉｔ１０＝３３×２９×２６ｃｍ、Ｐｉｔ１１＝３４×３３×１６ｃｍ、Ｐｉｔ１２＝３８×３６×２４ｃｍ、Ｐｉｔ１３＝３３×（３２）×３４ｃｍ、Ｐｉｔ１４＝４３×３５×１８ｃｍ、Ｐｉｔ１５＝４０×３０×１３ｃｍ、Ｐｉｔ１６＝３２×２５×１０ｃｍ、Ｐｉｔ１７＝４４×３２×１５ｃｍ、Ｐｉｔ１８＝３１×３１×１９ｃｍ、Ｐｉｔ１９＝２６×２６×３０ｃｍ、Ｐｉｔ２０＝３４×２８×１８ｃｍ、Ｐｉｔ２１＝４６×３３×２２ｃｍ、Ｐｉｔ２２＝２６×２４×１４ｃｍ、Ｐｉｔ２３＝４９×３７×１５ｃｍ、Ｐｉｔ２４＝３５×３０×１７ｃｍ、Ｐｉｔ２５＝２８×２６×２２ｃｍ、Ｐｉｔ２６＝３０×２６×２２ｃｍ、Ｐｉｔ２７＝３０×２８×１３ｃｍ、Ｐｉｔ２８＝２１×２１×１２ｃｍ、Ｐｉｔ２９＝２６×２６×２２ｃｍ、Ｐｉｔ３０＝２０×１８×２７ｃｍ、Ｐｉｔ３１＝２５×２２×２５

SB-01

区画調査区

X= 91900
Y=-11505

X= 91895
Y=-11500

Pit44 Pit38 SP-37 Pit41 Pit43 Pit36 Pit25 Pit19 Pit13 Pit7 Pit1 Pit26 Pit20 Pit14 Pit8 Pit2 Pit27 Pit21 Pit15 Pit9 Pit3 SP-05 Pit22 Pit16 Pit10 Pit4 Pit28 SP-07 Pit11 Pit5 Pit39 Pit23 Pit17 Pit40 Pit45 Pit24 Pit18 Pit12 Pit6

Pit29 Pit30 Pit31 Pit32 Pit42 SP-11 Pit33 Pit34 Pit35

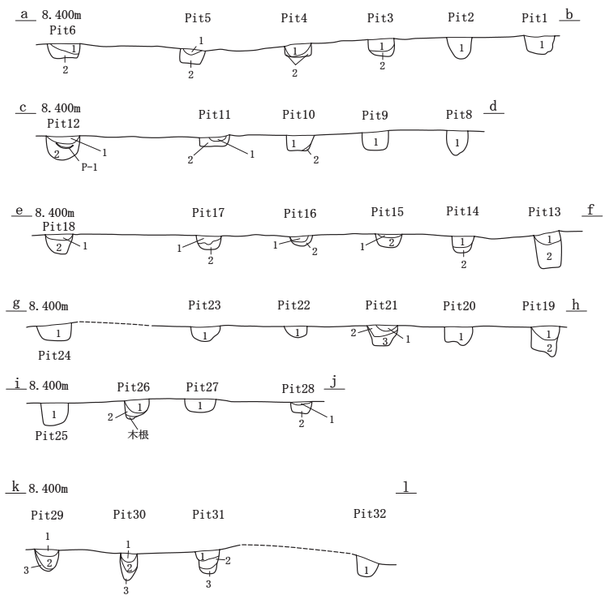
風倒木

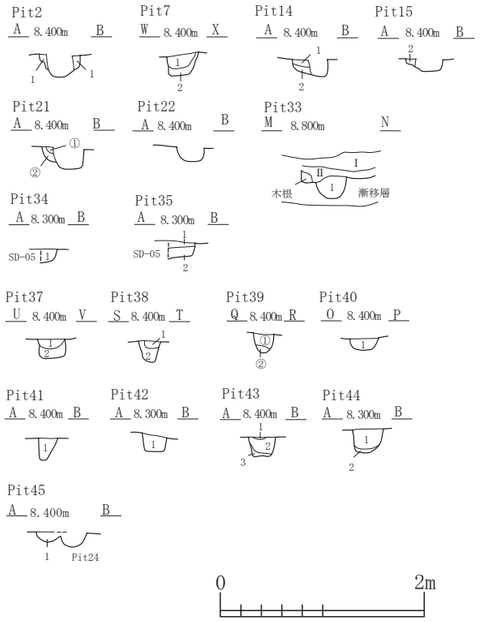
SD-04内Pit1 SD-04内Pit2 SD-04内Pit3 SD-04内Pit4 SK-176 SK-177 SD-04内Pit16 SD-04内Pit19 SD-04内Pit7 SD-04内Pit6 SD-04内Pit5 SD-04内Pit8 SD-04内Pit9 SD-04内Pit12 SD-04内Pit13 SD-04内Pit14 SD-04内Pit11 SD-04内Pit15 SD-04内Pit10 SD-04内Pit17 SD-04内Pit18 SK-178

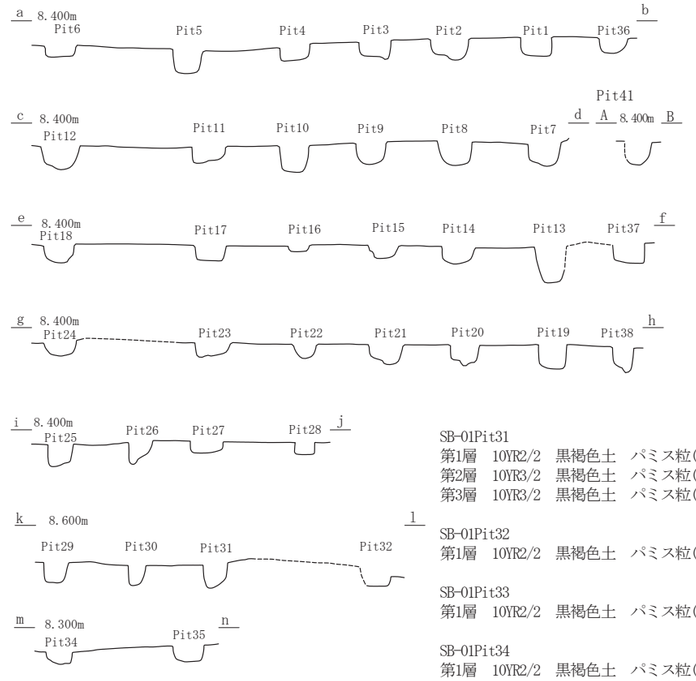
0 2m

第 18 図　SB ①

SB-01







SB-01Pit1
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit2
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit3
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit4
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit5
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit6
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit7
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit8
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit9
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit10
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit11
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit12
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit13
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit14
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit15
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)微量

SB-01Pit16
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit17
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit18
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit19
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit20
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit21
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量
第3層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量･ブロック(φ15～20mm)中量
第①層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)中量･ブロック(φ15～20mm)少量
第②層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit22
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit23
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit24
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit25
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit26
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit27
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit28
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit29
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)多量

SB-01Pit30
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)多量

SB-01Pit31
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)多量

SB-01Pit32
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit33
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit34
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)中量･ブロック(φ10～50mm)少量,
炭化粒(φ2～9mm)微量

SB-01Pit35
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)中量･ブロック(φ10～50mm)少量,
炭化粒(φ2～9mm)微量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ2～9mm)少量,炭化粒(φ2～5mm)極微量

SB-01Pit37
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit38
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量

SB-01Pit39
第①層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第②層　10YR2/3　黒褐色土

SB-01Pit40
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit41
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit42
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量

SB-01Pit43
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～9mm)中量,炭化粒(φ2～3mm)極微量,
火山灰少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)少量
第3層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ2～9mm)中量･ブロック(φ10～20mm)微量

SB-01Pit44
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)少量･ブロック(φ10～15mm)少量,
炭化粒(φ2～3mm)極微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)多量,炭化粒(φ2～5mm)極微量

SB-01Pit45
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量

第 19 図　SB ②

ｃｍ、Ｐｉｔ３２＝３２×２０×２１ｃｍ、Ｐｉｔ３３＝２９×（−）×２１ｃｍ、Ｐｉｔ３４＝２５×（１３）×１３ｃｍ、Ｐｉｔ３５＝３０×（２６）×１８ｃｍ、Ｐｉｔ３６＝３０×２７×１６ｃｍ、Ｐｉｔ３７＝３１×２８×１９ｃｍ、Ｐｉｔ３８＝２４×２３×２６ｃｍ、Ｐｉｔ３９＝２３×２０×２０ｃｍ、Ｐｉｔ４０＝３３×２９×１２ｃｍ、Ｐｉｔ４１＝３０×２６×２２ｃｍ、Ｐｉｔ４２＝２５×（１４）×１８ｃｍ、Ｐｉｔ４３＝２８×２６×２０ｃｍ、Ｐｉｔ４４＝３１×３１×２４ｃｍ、Ｐｉｔ４５＝２４×２２×１０ｃｍ

前項のピットの部分でも記述したが、ＳＰ－０５・０７・１１が本遺構周辺に位置しており、関連した可能性がある。また、本遺構の外周にはＳＤ－０２・０４・０６が巡っておりＰｉｔ６・３４・３５・４２とＳＤ－０５が重複関係にある。調査時にはＳＤ－０５の方が新しいという認識で調査されているが、図面上では新旧関係について検証できる有効な情報が得られていない状況にある。写真等の情報を確認するとＰｉｔと重複する部分の溝の覆土上には、重複関係の無い部分に堆積する土層には見られない柱穴の堆積土に類似する土が確認できる。また、ＳＤ－０５の堆積土はパミスブロック等を多量に含む土が急激に埋め戻された堆積状況を呈しており、本遺構の構築面の整地等の要素も考慮されるため、これらの柱穴についてはＳＤ－０５より新しい可能性を否定できない状況にある。また、新幹線調査区の東側の土地区画整理事業の調査区側にＳＤ－０２とＳＤ－０４は延び、平成１７年度の土地区画整理事業の発掘調査で、双方の溝跡は連結することが判明している。また、溝跡内に柱穴と考えられるピットが複数確認されている。図版上では双方の資料を含めた上で掲載している。

６.溝跡

ＳＤ－０１　（第 20・21 図）

Ａ－３区X 91916.000, Y -11511.000 ～X 91866.000, Y -11516.000 付近で検出した。なお、調査区外の土地区画整理事業の調査区に延伸しており、区画整理事業の調査ではSD －５１と呼称している。幅１７４～２６１ｃｍ、深さ８４～１１３ｃｍを測る。断面形は開き気味の箱形で、掘り方を有する箇所が部分的にある。土地区画整理事業の調査区の調査が断片的で最終結論を出せない状況にあるが、南北２３０ｍ、東西１５０ｍの範囲を区画する区画溝である可能性を持っている遺構である。

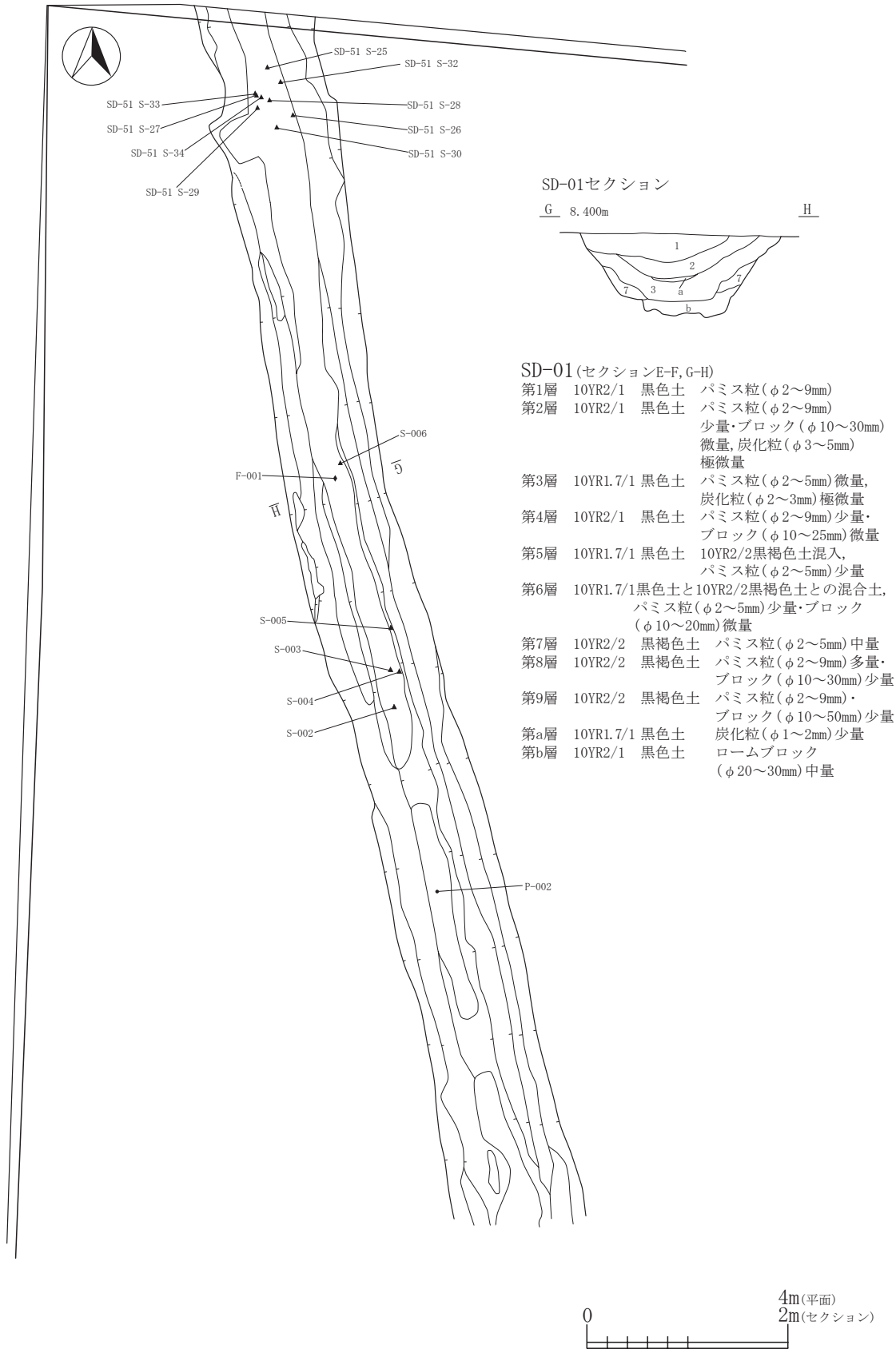
ＳＤ－０２　（第 22 ～ 24 図）

Ａ－３区X 91894.000, Y -11500.000 ～X 91894.000, Y -11495.000 付近で検出した。調査区内ではＳＤ－０６と、東側の土地区画整理事業の調査区側とはＳＤ－０４と接しており、実質的に連続した同一のものである。また、ＳＤ－０３・０５と重複しており、ＳＤ－０５より新しく、ＳＤ－０３より古い関係にある。規模は幅６４～１１２ｃｍ、深さ３５ｃｍ、長さは４１２ｃｍを測る。調査時にはＳＤ－０６の南西部分にもう一つの流路の痕跡を確認し、この流路と本遺構が連続していると想定して調査がされ、途中で風倒木という認識を持ち、調査が撹乱扱いと同質に扱われている。ＳＤ－０５の堆積土などの状況をみても急激に埋め戻された要因が強い場所であることから本報告ではＳＤ－０２ａと表記し測量した情報はそのまま掲載している。

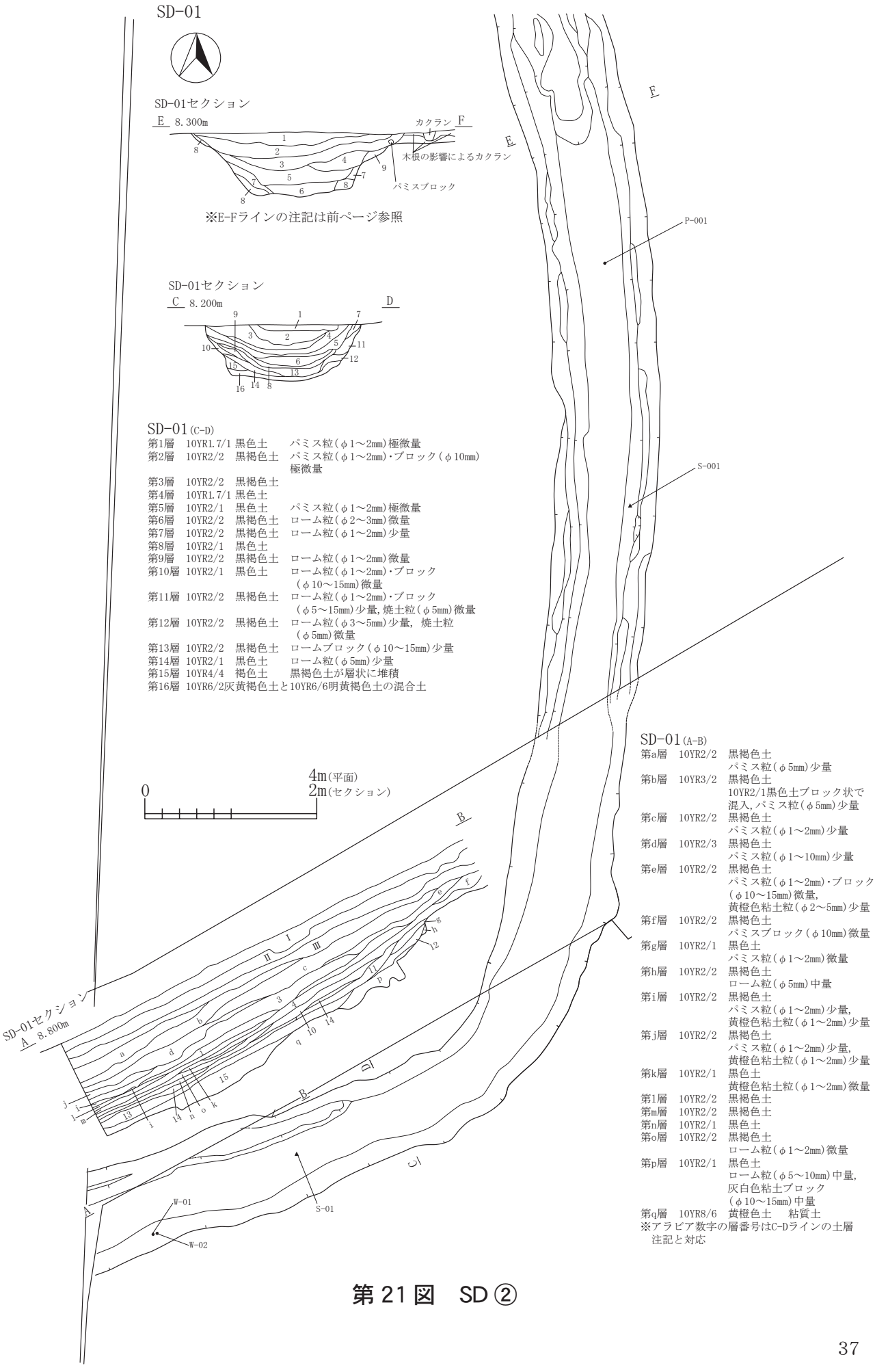
ＳＤ－０３　（第 22 ～ 24 図）

Ａ－３区X 91894.000, Y -11495.000 ～X 91885.000, Y -11494.000 付近で検出した。南側が区画整理の調査区へ延びているが調査が未実施の箇所であるため、総延長についての情報は不明であるが、調査区内の規模は幅７９～１２３ｃｍ、深さ７４ｃｍ、長さ９４０ｃｍを測る。前述のとおり、ＳＤ－０２より新しい。ＳＤ－０２と接する部分は他の部分よりも一段下がった状態で掘削されている。

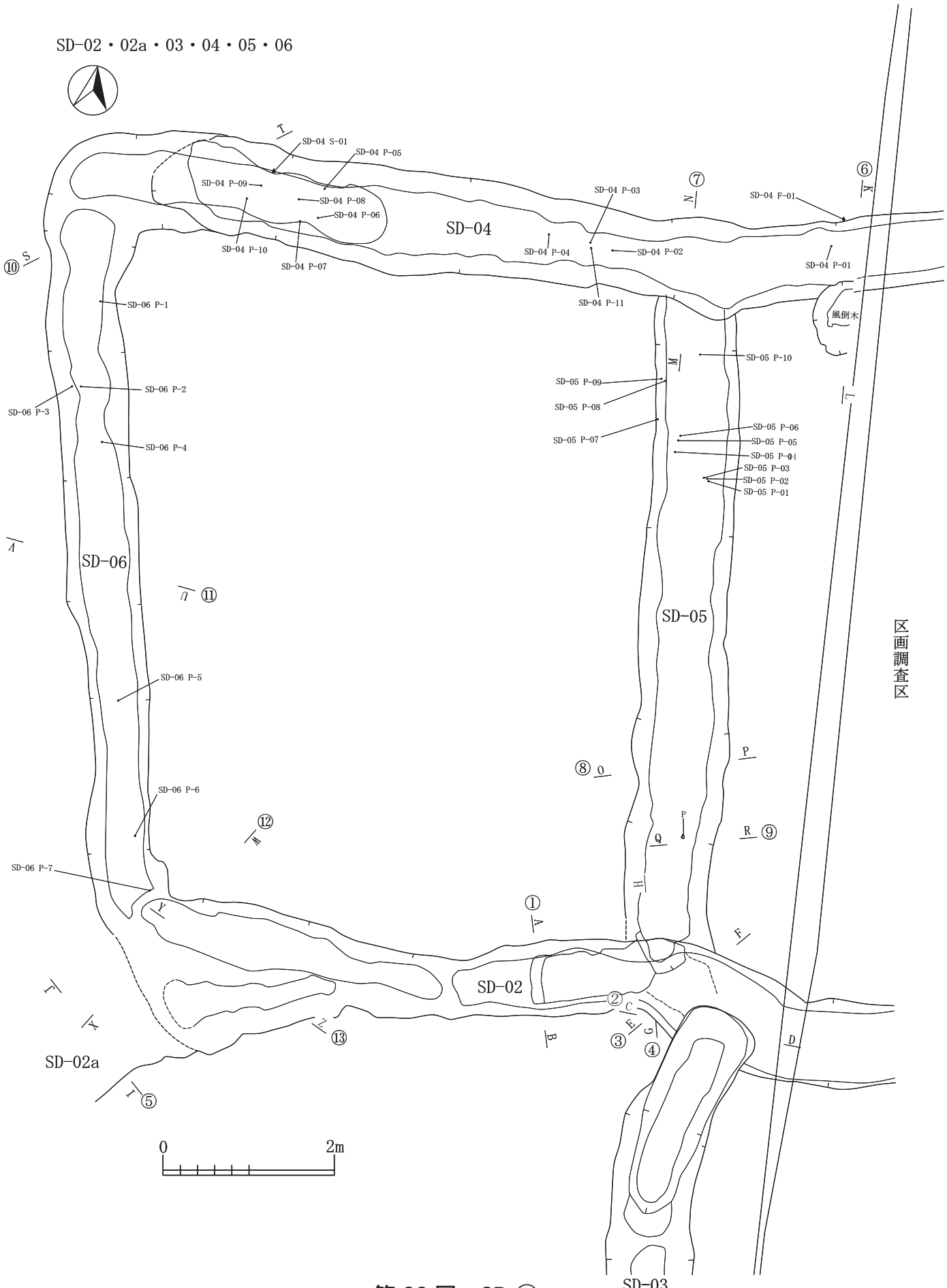
SD-01



第 20 図　SD ①


SD-01
SD-01セクション
E 8.300m
カクラン
F
木根の影響によるカクラン
パミスブロック
※E-Fラインの注記は前ページ参照
SD-01セクション
C 8.200m
D
P-001
S-001
SD-01(C-D)
第1層 10YR1.7/1 黒色土 パミス粒(φ1～2mm)極微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1～2mm)・ブロック(φ10mm)極微量
第3層 10YR2/2 黒褐色土
第4層 10YR1.7/1 黒色土
第5層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ1～2mm)極微量
第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ2～3mm)微量
第7層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～2mm)少量
第8層 10YR2/1 黒色土
第9層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～2mm)微量
第10層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～2mm)・ブロック(φ10～15mm)微量
第11層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～2mm)・ブロック(φ5～15mm)少量,焼土粒(φ5mm)微量
第12層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ3～5mm)少量, 焼土粒(φ5mm)微量
第13層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(φ10～15mm)少量
第14層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ5mm)少量
第15層 10YR4/4 褐色土 黒褐色土が層状に堆積
第16層 10YR6/2灰黄褐色土と10YR6/6明黄褐色土の混合土
0
4m(平面)
2m(セクション)
SD-01セクション
A 8.800m
B
C
W-01
W-02
S-01
SD-01(A-B)
第a層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ5mm)少量
第b層 10YR3/2 黒褐色土 10YR2/1黒色土ブロック状で混入,パミス粒(φ5mm)少量
第c層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1～2mm)少量
第d層 10YR2/3 黒褐色土 パミス粒(φ1～10mm)少量
第e層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1～2mm)・ブロック(φ10～15mm)微量,黄橙色粘土粒(φ2～5mm)少量
第f層 10YR2/2 黒褐色土 パミスブロック(φ10mm)微量
第g層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ1～2mm)微量
第h層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5mm)中量
第i層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1～2mm)少量,黄橙色粘土粒(φ1～2mm)少量
第j層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1～2mm)少量,黄橙色粘土粒(φ1～2mm)少量
第k層 10YR2/1 黒色土 黄橙色粘土粒(φ1～2mm)微量
第l層 10YR2/2 黒褐色土
第m層 10YR2/2 黒褐色土
第n層 10YR2/1 黒色土
第o層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～2mm)微量
第p層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ5～10mm)中量,灰白色粘土ブロック(φ10～15mm)中量
第q層 10YR8/6 黄橙色土 粘質土
※アラビア数字の層番号はC-Dラインの土層注記と対応

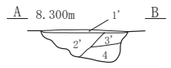
第21図　SD②


SD-02・02a・03・04・05・06
SD-04 S-01
SD-04 P-05
SD-04 P-09
SD-04 P-08
SD-04 P-06
SD-04 P-10
SD-04 P-07
SD-04
SD-04 P-03
SD-04 P-04
SD-04 P-02
SD-04 P-11
SD-04 F-01
SD-04 P-01
風倒木
SD-05 P-10
SD-05 P-09
SD-05 P-08
SD-05 P-07
SD-05 P-06
SD-05 P-05
SD-05 P-04
SD-05 P-03
SD-05 P-02
SD-05 P-01
SD-06 P-1
SD-06 P-2
SD-06 P-3
SD-06 P-4
SD-06
SD-05
SD-06 P-5
SD-06 P-6
SD-06 P-7
SD-02
SD-02a
SD-03
区画調査区
0
2m

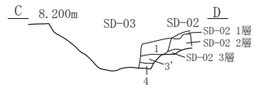
第 22 図　SD ③

SD-02・02a・03・04・05・06

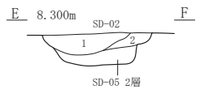
①SD-02セクション



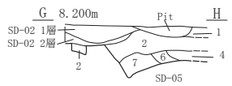
②SD-02・03セクション



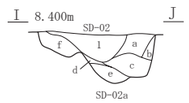
③SD-02・05セクション



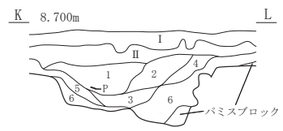
④SD-02・05セクション



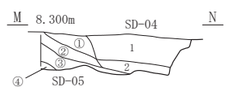
⑤SD-02aセクション



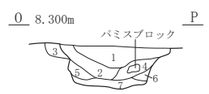
⑥SD-04セクション



⑦SD-04・05セクション

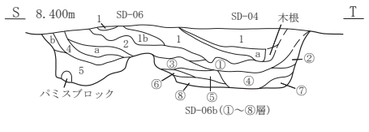


⑧SD-05セクション

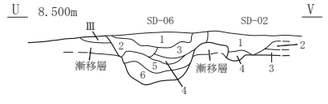


⑨SD-05セクション

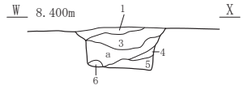
⑩SD-04・06・06b



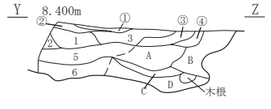
⑪SD-02・06セクション

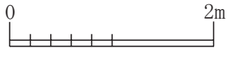


⑫SD-06セクション



⑬SD-06セクション





第23図　SD④

SD-02(セクション①～⑤)

第1層	10YR1.7/1	黒色土	パミス粒(φ1～3mm)微量
第1'層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1～5mm)少量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～3mm)少量
第2'層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1～9mm) 中量・ブロック(φ30mm)微量
第3層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ2～9mm)多量
第3'層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～5mm)中量
第4層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～9mm)中量

SD-02(セクション⑪)

漸移層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ1～10mm)微量
第Ⅲ層	10YR2/1	黒色土	
第1層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1～9mm)少量
第2層	10YR2/1	黒色土	10YR3/2黒褐色土中量混入,パミス粒(φ1～3mm)少量
第3層	10YR2/1	黒色土	10YR3/2黒褐色土少量混入,パミス粒(φ1～9mm)中量,パミスブロック(φ15～20mm)少量
第4層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1～9mm)少量,下層に10YR4/3にぶい黄褐色土堆積

SD-02a(セクション⑤)

第a層	10YR3/2	黒褐色土	パミスブロック(φ150～200mm)少量
第b層	10YR3/2	黒褐色土	パミスブロック(φ30～50mm)中量
第c層	10YR3/2	黒褐色土	パミスブロック(φ30～50mm)少量
第d層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ5～9mm)微量
第e層	10YR2/2	黒褐色土	パミスブロック(φ150mm)少量
第f層	10YR3/2	黒褐色土	パミスブ粒(φ5～9mm)中量

SD-03(セクション②・⑭)

第1層	10YR2/1	黒色土	
第2層	10YR1.7/1	黒色土	パミス粒(φ1～5mm)微量
第3層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1～5mm)少量
第3'層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ2～5mm)微量
第4層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1～10mm)中量・ブロック(φ15～30mm)少量

SD-04(セクション⑥・⑦・⑩)

第1層	10YR1.7/1	黒色土	パミス粒(φ2～9mm)微量,炭化粒(φ2～3mm)極微量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ2～6mm)微量,炭化粒(φ2～3mm)極微量
第3層	10YR2/2	黒褐色土	10YR1.7/1黒色土20%混入,パミス粒(φ2～9mm)少量,ロームブロック(φ10～20mm)微量,炭化粒(φ2～4mm)極微量
第4層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ2～9mm)少量
第5層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ2～5mm)微量,炭化粒(φ2～3mm)極微量
第6層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ2～9mm)中量・ブロック(φ10～25mm)少量,炭化粒(φ3～9mm)極微量
第a層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ2～9mm)微量,炭化粒(φ2～5mm)極微量

SD-05(セクション④・⑧)

第1層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～10mm)・ブロック(φ15～20mm)少量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～10mm)中量・ブロック(φ15～20mm)少量
第4層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～10mm)少量
第5層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1～5mm)少量
第6層	10YR5/8	黄褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土	パミスブロック(φ20～60mm)中量
			ロームブロック(φ20～40mm)中量
第7層	10YR5/8	黄褐色土	パミス粒(φ2～9mm)少量,ロームブロック(φ20～60mm)極多量

SD-05(セクション⑦)

第①層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ5～10mm)微量
第②層	10YR2/2	黒褐色土	パミスブロック(φ50～60mm)多量
第③層	10YR2/1	黒色土	パミス(φ5～10mm)極微量
第④層	10YR2/1	黒色土	パミス(φ3～5mm)少量

SD-05(セクション⑨)

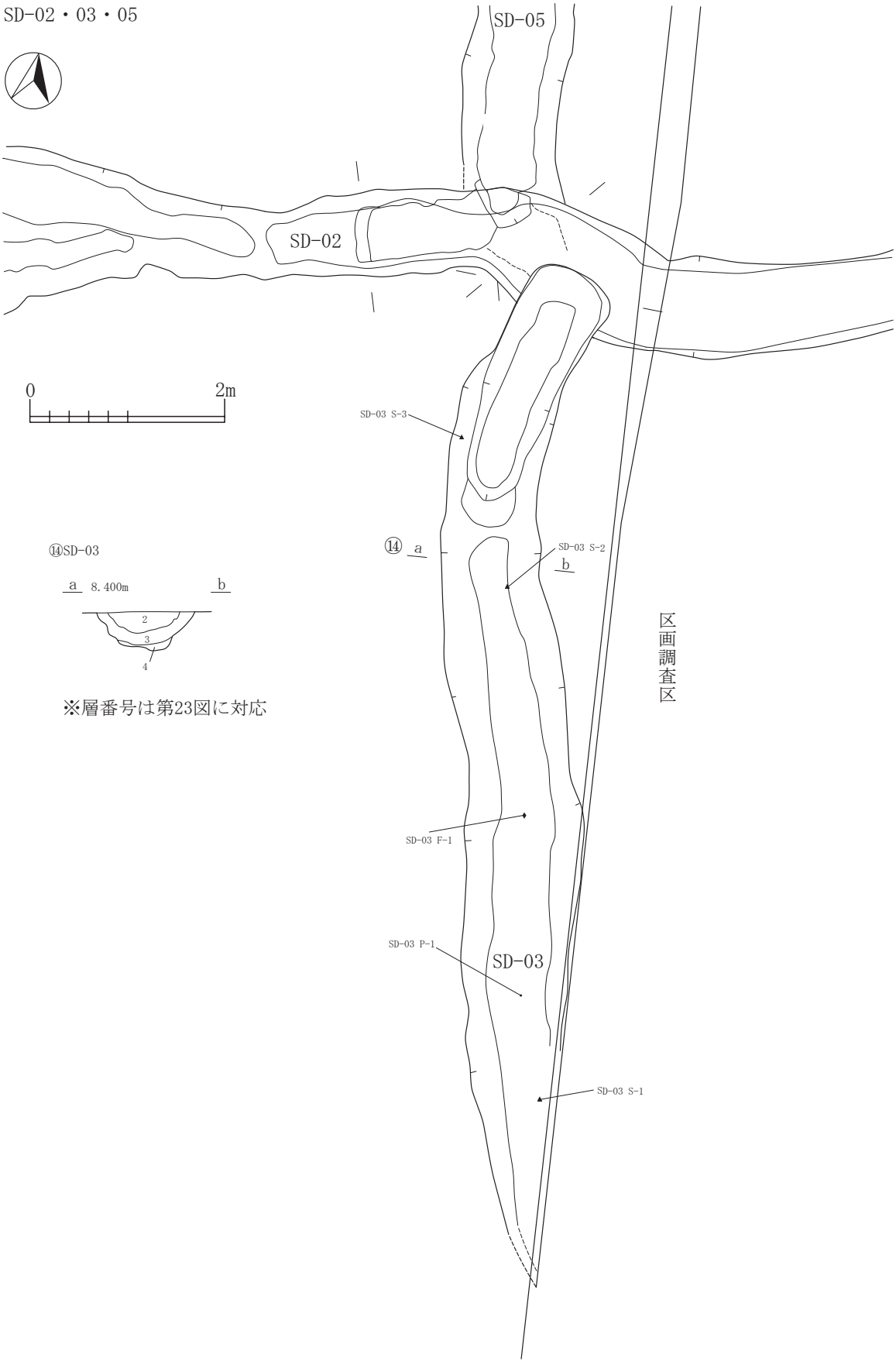
第A層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～2mm)極微量
第B層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ2～9mm)微量,パミスブロック(φ10～15mm)少量,炭化粒(φ3～6mm)微量,火山灰(B-Tm)少量
第C層	10YR2/1黒色土と10YR2/2黒褐色土の混合土		パミス粒(φ2～9mm)・ブロック(φ10～25mm)微量,炭化粒(φ3～6mm)極微量,火山灰(B-Tm)ブロック(φ50mm)少量 ※一部ブロック状に混入している

SD-06(セクション⑩～⑬)

第1層	10YR6/8	明黄褐色土	10YR2/2黒褐色土中量混入　パミス層
第1b層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ2～9mm)少量,パミスブロック(φ10～60mm)多量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	層中央に10YR3/2黒褐色の砂質土が帯状に堆積,パミス粒(φ1～10mm)少量
第3層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1～3mm)微量
第4層	10YR1.7/1	黒色土	
第5層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1～10mm)少量
第6層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1～10mm)・ブロック(φ15～50mm)中量
第①層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ3～5mm)微量
第②層	10YR4/4	褐色土	パミス粒(φ3～5mm)少量・ブロック(φ50～70mm)極微量
第③層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ3～5mm)微量
第④層	10YR2/2	黒褐色土	暗褐色土少量混入,パミス粒(φ1～5mm)微量
第a層	10YR2/2	黒褐色土	
第b層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ5～9mm)極微量
第A層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1～10mm)少量
第B層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ3～5mm)少量
第C層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ3～5mm)少量
第D層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1～10mm)・ブロック(φ15～50mm)中量

SD-06b(セクション⑩)

第①層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ2～9mm)少量
第②層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ2～9mm)少量,炭化粒(φ2～3mm)極微量
第③層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ2～9mm)中量,パミスブロック(φ10～15mm)微量
第④層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ2～9mm)中量,パミスブロック(φ10～20mm)少量,炭化粒(φ2～3mm)極微量
第⑤層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ2～9mm)中量,パミスブロック(φ10～20mm)少量
第⑥層	10YR5/8	黄褐色土	パミス粒(φ2～9mm)少量
第⑦層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ2～9mm)中量,パミスブロック(φ10～15mm)極微量
第⑧層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ2～9mm)少量,パミスブロック(φ10～25mm)少量


SD-02・03・05
SD-05
SD-02
0
2m
SD-03 S-3
⑭SD-03
a
8.400m
b
2
3
4
⑭ a
SD-03 S-2
b
区画調査区
※層番号は第23図に対応
SD-03 F-1
SD-03 P-1
SD-03
SD-03 S-1

第 24 図　SD ⑤

ＳＤ－０４　（第 22・23 図）

Ａ－３区 X91903.000,Y-11503.000 ～X 91903.000, Ｙ -11496.000 付近で検出した。西隅でＳＤ－０６と接しており、東側は土地区画整理事業の調査区側に延びている。ＳＤ－０２の項目で記述したが、本遺構は新幹線調査区の東側の土地区画整理事業の調査区内でコ字状に曲がり、新幹線調査区内のＳＤ－０２と接し一連の区画溝となる。ただし、北西隅のＳＤ－０４・０６のセクションライン上で確認できたが、ＳＤ－０５と同様のパミスブロック主体の埋戻土が中層に堆積しており、パミスブロックの下層の土についてはＳＤ－０６の中層～上層にかけての土とＳＤ－０４の下層の土が共通で、パミスブロックの上層の土についてはＳＤ－０６側では見られず、ＳＤ－０４側には上層から中層に堆積する土と共通である。このことから掘立柱建物跡であるＳＢ－０１の構築時点にはすべての溝跡が開口していた訳ではなさそうである。また、ＳＤ－０５と重複しており、本遺構の方が新しい。調査区内での規模は、幅５６～１１３ｃｍ、深さ４７ｃｍ、長さ８５６ｃｍを測る。調査区外を含めた総延長は２４．４６ｍを測る。

ＳＤ－０５　（第 22 ～ 24 図）

Ａ－３区X 91902.000, Ｙ -11497.000 ～X 91895.000, Ｙ -11496.000 付近で検出した。ＳＢ－０１の項目で記述したが、ＳＢ－０１Ｐｉｔ６・３４・３５・４２と重複関係にあり、新旧関係については前述のとおりである。また、ＳＤ－０２とも重複しており本遺構が古い。それ以外に本遺構の南側の延長線上にはＳＤ－０３が存在するが、一段深くなった部分の軸線が北東側にずれるため一連のものではないと調査されている。規模は、幅９３～１１４ｃｍ、深さ４５ｃｍ、長さ８２５ｃｍを測る。堆積土にはパミスブロック等が多く混入し、急激な埋め戻し等の要因が考慮できる。

ＳＤ－０６　（第 22・23 図）

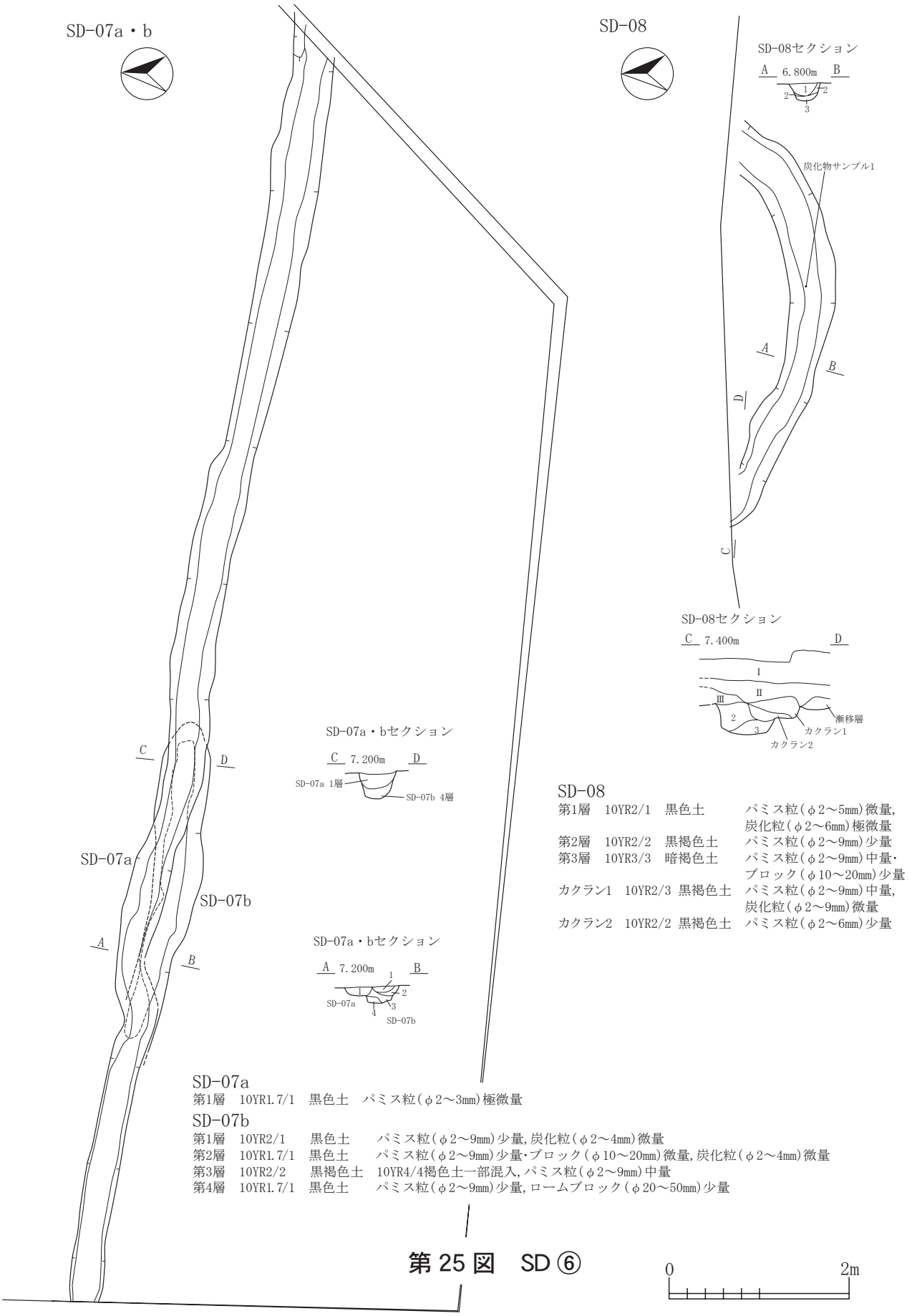
Ａ－３区X 91903.000, Ｙ -11504.000 ～X 91894.000, Ｙ -11501.000 付近で検出した。ＳＤ－０２・０４と重複しており、前述のとおり基本的には一連のものであるが、ＳＤ－０４付近ではＳＤ－０４の古い段階と併行すると考えられる。また、ＳＤ－０２についてもＳＤ－０２そのものと併行し、ＳＤ－０２ａとしたものについては本遺構の方が新しい関係にある。規模は、幅６２～１１５ｃｍ、深さ６３ｃｍ、長さ１１ｍ４３ｃｍを測る。

ＳＤ－０７　（第 25 図）

Ａ－４区X 91943.000, Ｙ -11514.000 ～X 91940.000, Ｙ -11501.000 付近で検出した東西軸の溝跡である。調査区の東端及び西端についてはいずれも土地区画整理事業の調査区へ延伸している。本調査区内で掘り込みの一部が再掘削されており、新しいものをＳＤ－０７ａ、最初に掘削されたものをＳＤ－０７ｂとして調査している。ＳＤ－０７ａとしたものについては交差部分の基部についてＳＤ－０７ｂとしたものに繋がる形であることから、局所的な改築であると判断できる。

ＳＤ－０８　（第 25 図）

Ａ－４区X 91954.000, Ｙ -11514.000 ～X 91954.000, Ｙ -11502.000 付近で検出した。北側が現代の用水により破壊されているため、全容は不明であるが、緩やかな弧状を呈する溝跡で、幅３４～５８ｃｍ、深さ３６ｃｍ、長さ４５４ｃｍを測る。



SD-08
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～5㎜)微量,炭化粒(φ2～6㎜)極微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)少量
第3層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)中量・ブロック(φ10～20㎜)少量
カクラン1　10YR2/3 黒褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)中量,炭化粒(φ2～9㎜)微量
カクラン2　10YR2/2 黒褐色土　パミス粒(φ2～6㎜)少量

SD-07a
第1層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ2～3㎜)極微量

SD-07b
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～9㎜)少量,炭化粒(φ2～4㎜)微量
第2層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ2～9㎜)少量･ブロック(φ10～20㎜)微量,炭化粒(φ2～4㎜)微量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　10YR4/4褐色土一部混入,パミス粒(φ2～9㎜)中量
第4層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ2～9㎜)少量,ロームブロック(φ20～50㎜)少量

第 25 図　SD ⑥

写真12　SI-01東西セクション(S→)

写真13　SI-01南北セクション(W→)

写真14　SI-01炭･焼土･遺物出土状況(W→)

写真15　SI-01完掘(W→)

写真16　SI-01カマドセクション①(S→)

写真17　SI-01カマドセクション②(W→)

写真18　SI-01カマド遺物出土状況(W→)

写真19　SI-01カマド完掘(W→)

写真20 SI-01Pit1ｾｸｼｮﾝ(W→)

写真21 SI-01Pit2ｾｸｼｮﾝ(W→)

写真22　SI-01(旧)完掘(W→)

写真23 SI-01Pit7ｾｸｼｮﾝ(W→)

写真24 SI-01Pit9ｾｸｼｮﾝ(N→)

写真25 SI-01Pit10ｾｸｼｮﾝ(N→)

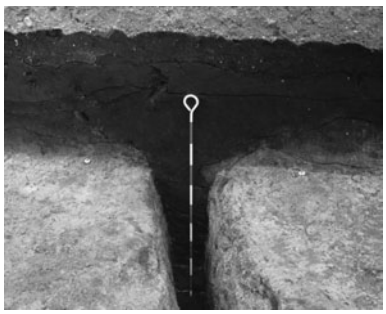


写真26 SK-01セクション(W→)

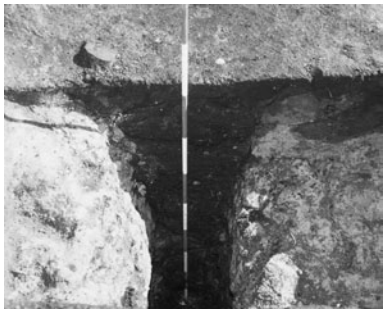


写真27 SK-02セクション(E→)

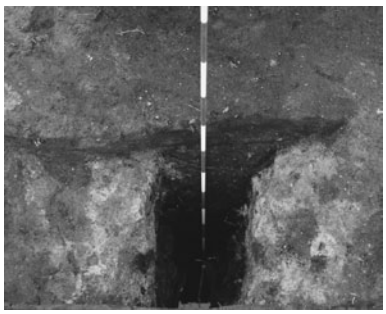


写真28 SK-03セクション(E→)

写真29 SK-01完掘(E→)

写真30 SK-02完掘(E→)

写真31 SK-03完掘(E→)

写真32 SK-08セクション(S→)

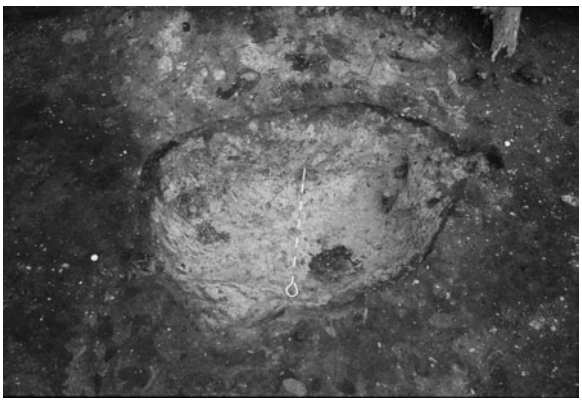


写真33 SK-08完掘(S→)

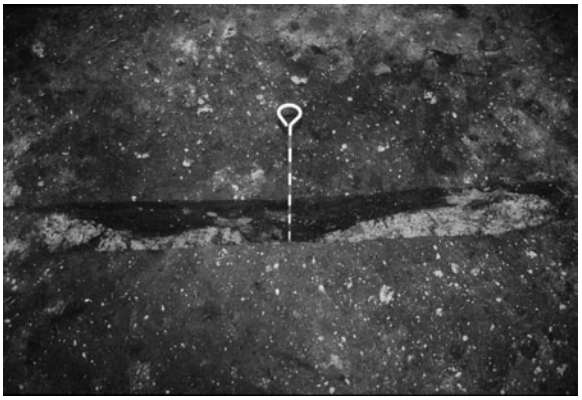


写真34 SK-09セクション(S E→)

写真35 SK-09完掘(S E→)

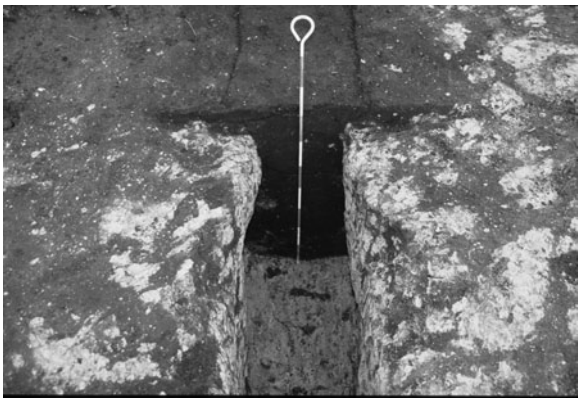


写真36 SK-10セクション(S→)

写真37 SK-10完掘(S→)

写真38 SK-11セクション(S→)

写真39 SK-11完掘(N→)

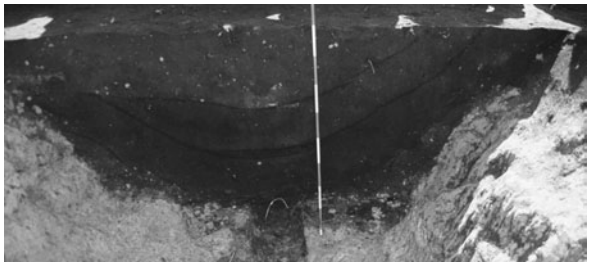


写真40 SD-01セクション(N→)

写真41 SD-01セクション(S→)

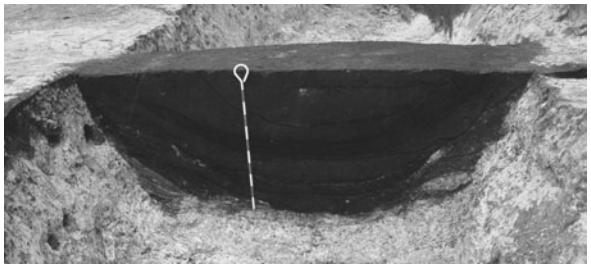


写真42 SD-01セクション(E→)

写真43 SD-01完掘(S→)

写真44 SD-02完掘(E→)

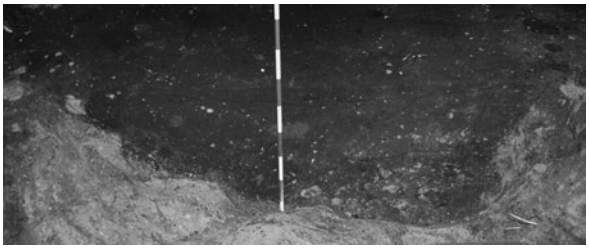


写真45 SD-02セクション(W→)

写真46 SD-02aセクション(W→)

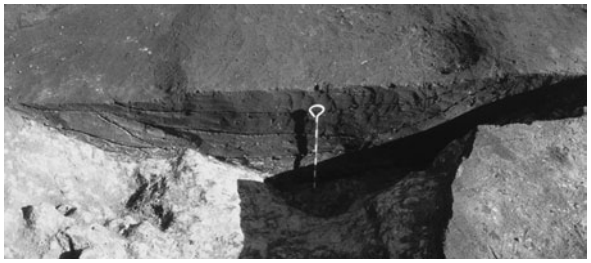


写真47 SD-02･03セクション(NW→)

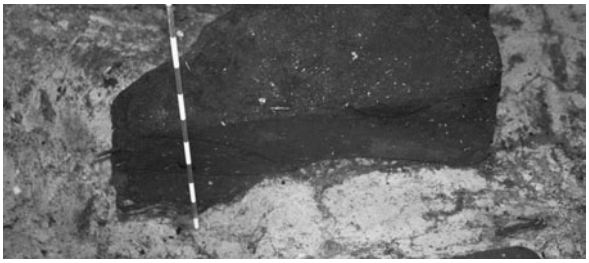


写真48 SD-02･03セクション(S→)

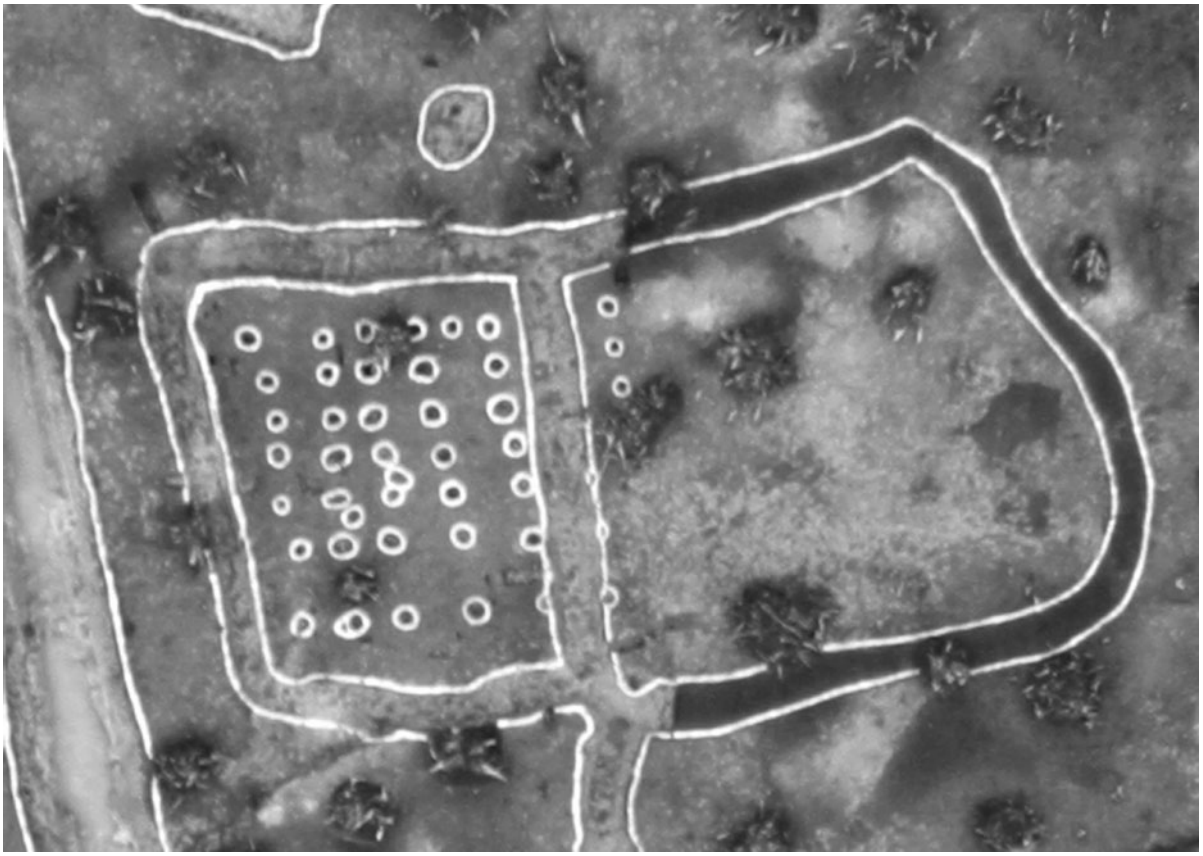


写真49 SB-01完掘(真上→)

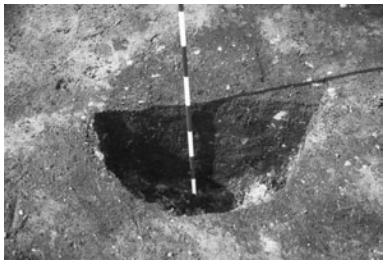


写真50 SB-01Pit1ｾｸｼｮﾝ(E→)

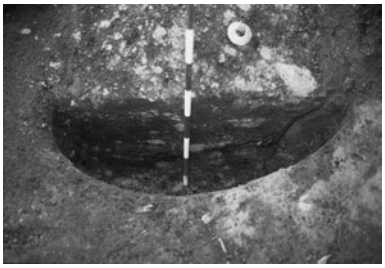


写真51 SB-01Pit7ｾｸｼｮﾝ(E→)

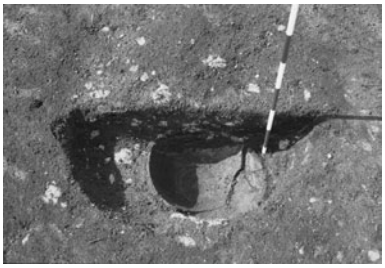


写真52 SB-01Pit12遺物(E→)

写真53 SB-01Pit12ｾｸｼｮﾝ(E→)

写真54 SB-01Pit15ｾｸｼｮﾝ(E→)

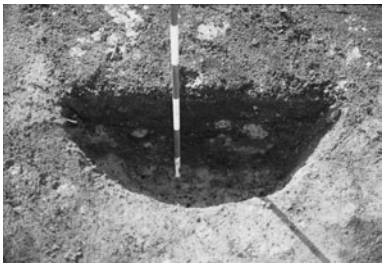


写真55 SB-01Pit17ｾｸｼｮﾝ(E→)

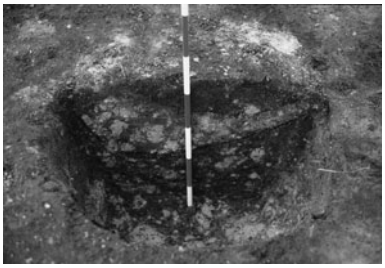


写真56 SB-01Pit21ｾｸｼｮﾝ(E→)

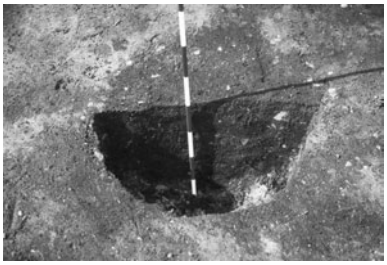


写真57 SB-01Pit29ｾｸｼｮﾝ(W→)

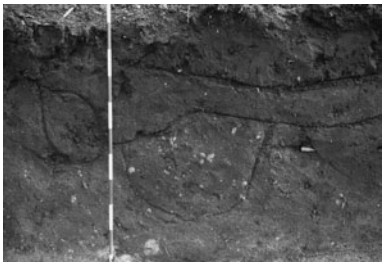


写真58 SB-01Pit33ｾｸｼｮﾝ(W→)

写真60 SD-03完掘(N→)

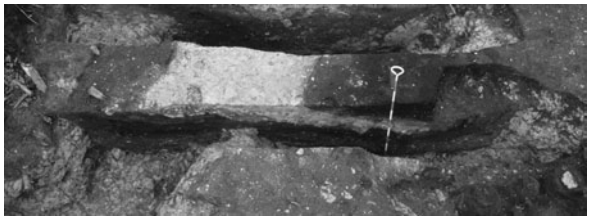


写真61 SD-04･06セクション(S E→)

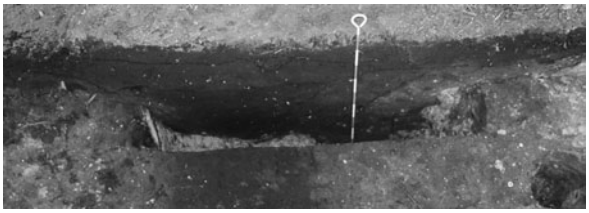


写真62 SD-04セクション(W→)

写真64 SD-05完掘(N→)

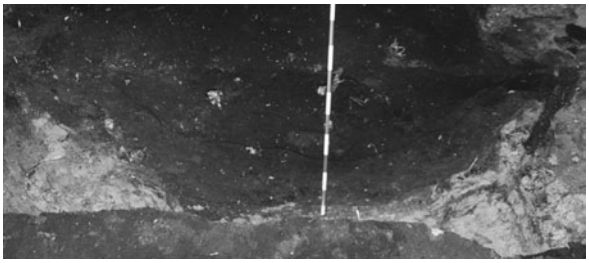


写真59 SD-03セクション(N→)

写真63 SD-04完掘(N→)

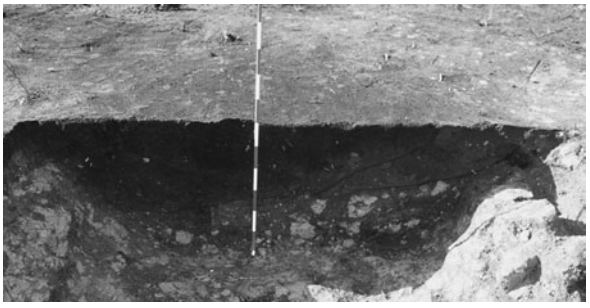


写真65 SD-02･05セクション(S E→)

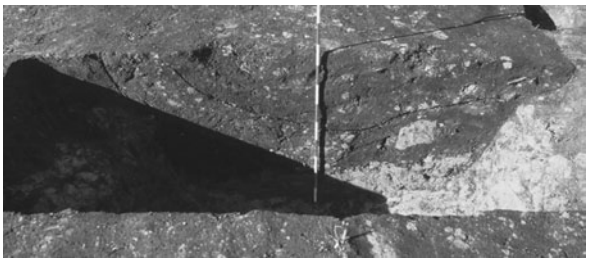


写真66 SD-05セクション(S E→)

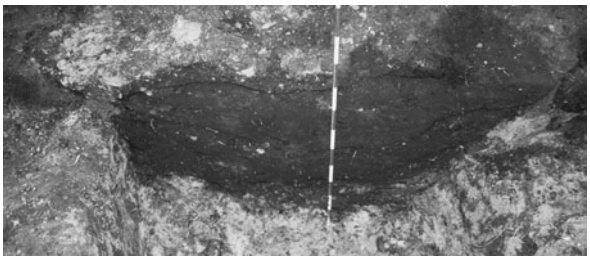


写真67 SD-06セクション(N→)

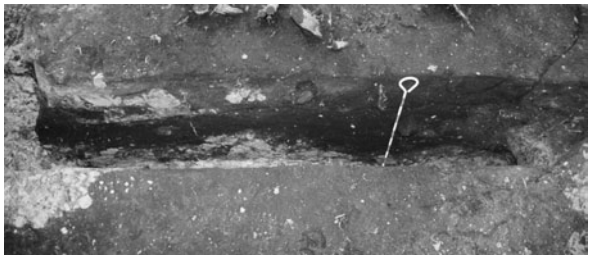


写真68 SD-06セクション(S→)

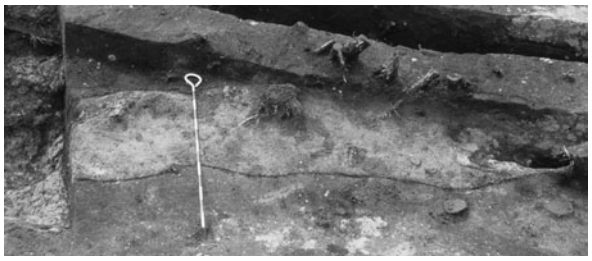


写真69 SD-06粘土範囲(N→)

写真70 SD-06完掘(S→)

写真72 SD-07a･b完掘(W→)

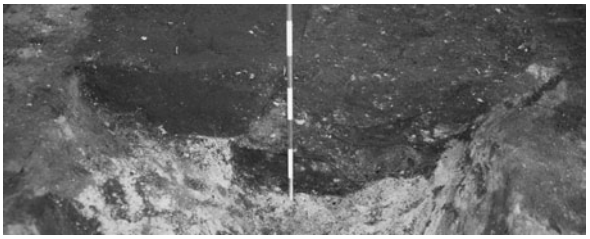


写真71 SD-07a･bセクション(W→)

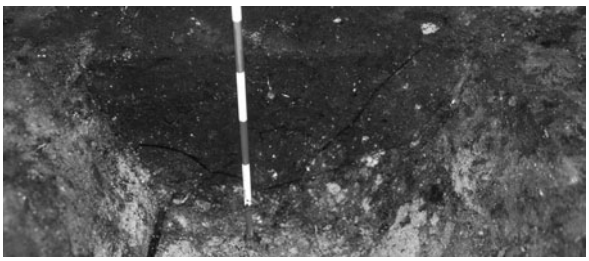


写真73 SD-08セクション(W→)

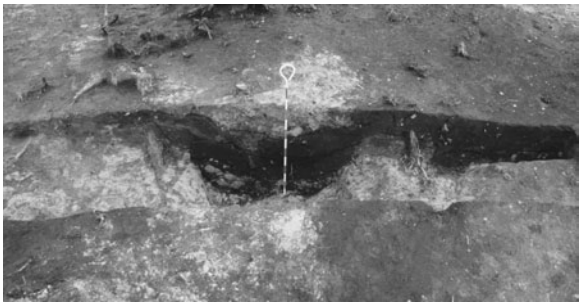


写真74 SD-08セクション(S→)

第３節　遺物

１.土器

ＳＩ－０１（第 26 図－１～第 27 － 18）

図示した資料は１～１８である。１は第１８層出土の黒色土器椀で、口径１７．２ｃｍを測る。大型の部類に入るサイズである。二次被熱の要素がなく、色調は内面から外面の口縁部にかけて黒色、体部は浅黄色である。砂粒や赤色粒をやや多く含む資料で､海綿骨針についても少量含む。底部は欠損しているが、体部下半は稜段が顕著で、体部は肥厚化が強く、口縁部は体部より２ｍｍほど薄くさせ、軽く内側につまみ入れ、緩やかに外反させるように立ち上げている。内面及び外面の黒色化した部分にはやや幅広のヘラにより磨きが施されており、外面の口縁部は平行に、内面は上下方向にやや斜行させ磨きを施した後、見込み周辺を平行に近い角度で磨き調整している。２は１と同様に第１８層出土と、第１０層出土の黒色土器椀の底部資料で、底径７．４ｃｍを測る。底径から見ると１に対応するような大型の部類に入るものと考えられる。１とは近接した箇所から出土しているが、接点は無いことから類似品の破片の廃棄の要素が考えられる。剥落した破片が多く、全体的に二次被熱を受けているが、破片単位で非整合があり、接合面についても二次被熱痕が観察されることから、体部～口縁部にかけての資料が欠損していることや出土位置等を含めて本遺構の焼失時には破片化した状態で既に廃棄されていたことが考えられる。色調は内面は黒色であるが、剥落部分が多く器壁が露出している。外面は二次被熱により色調が変色しており、褐色～黒褐色を呈しており二次被熱の要素を除けば生焼けに近い状況であった可能性がある。胎土は粒度の細かい砂粒を少量、海綿骨針も微量含み、赤色粒についても微量含んでいる。底部に一段明瞭な稜があり、１と類似したような立ち上がりを有する。底面は周縁が粘土の厚みにより中央より高くなっている。幅広の低回転の糸切による切離し後、ヘラ状の工具によるオコシ痕が観察され、底面を指で押しつけたり、持ち上げた時の指頭の跡が顕著に観察される。また、平行の柾目状の痕跡が観察され、土器を乾燥させる時点での置き台等について考慮される。３はカマド第３９層及び堆積土第２層出土の図上復元資料の土師器椀で、口径１３．８ｃｍ、器高（５．５）ｃｍ、底径５．４ｃｍを測り、器高指数３９．９、底径指数３９．１である。口縁部の資料で同一個体になる資料については断面図のみの形で７・８で図示した。カマド出土の破片は二次被熱等による変質や風化の影響を受けており、破断面についても丸みを帯びていることから破片化した状態で流動していた要素が考慮できる。色調は前述の影響が少ない箇所はにぶい黄橙色を呈している。胎土は粒度がかなり細かい砂粒を中量含み、砂粒の中には浮石なども含まれ、海綿骨針についても均一に含まれている。底部から体部下半にかけやや開き気味に立ち上がり、体部から口縁部にかけ引き上げるように立ち上げている。底面は周縁のみであるため糸切痕が不明瞭で、２の底面と類似したオコシ痕等が観察される。４はカマド第１８・２１層出土の土師器椀の口縁部片で、口径１４．６ｃｍを測る。内面側が二次被熱が顕著で色調は橙色、外面側が摩滅・脱色等の要素が強く黄橙色を呈する。やや砂質がかった粒度の細かな胎土で、かなりきめ細かい砂粒が中量、海綿骨針は少量混入する。口縁部が厚みを持ち、口唇部が丸みを帯びた形状で、内面には布などを当てた回転ナデの痕跡が観察される。外面の体部下半にも丸みを帯びた稜が二段観察され、体部下半から開き気味に立ち上がる形状を呈する。５は床直、第１０・１４層出土の土師器椀で、口径１２．８ｃｍ、器高５．８ｃｍ、底径５．０ｃｍを測り、器高指数４５．３、底径指数３９．１である。内外面とも約半分がススやタール状の炭化物が付着しており、変色・変質している。また、本資料は転用等の再使用されている可能性がある資料で、外面の体部～底面にかけて多量の円形の打欠痕がある。色調は前述のとおりの要因を持っている個体であるが、明黄褐色を基調と

した色調である。胎土は砂礫が少なく、やや砂質がかった質感で海綿骨針は含まれていない。底部切離しは回転糸切で、体部下半はヘラ削りによる再調整がなされている。器壁は非常に薄作りで、口縁部直下まで緩やかに引き上げた後、強く外反を意識させ、つまみ上げるように外反させている。また口縁部直下の外面側にはコテないしは布をあて回転させた線条痕が観察される。６はカマド第８層等から出土した土師器椀で、口径１２．８ｃｍ、器高５．９ｃｍ、底径６．４ｃｍを測り、器高指数４６、底径指数５０である。内外面とも半円状に二次被熱による色調の差異が生じており、カマドの支脚で使用された土器同質の色調の変化が生じており、外面は橙色、内面は灰黄褐色～橙色を呈する。胎土は砂粒を極多量含みザラザラした質感を有し、海綿骨針についても多量含んでいる。底径幅があり、見込み部分にやや奥行きを持っている。摩滅が著しいが外面はロクロナデによる稜段の間隔が狭く顕著で、口縁部付近にやや厚みを持っている。口縁部内部は斜め方向に平滑に面取りをするように伸ばし上げ外反させている。口唇部は先細りの形状である。底部切離しは、静止糸切で糸の幅が広いものが用いられている。土師器煮沸具は９～１６で、９は第２・１０・１６層出土の土師器甕底部で、底径９．６ｃｍを測る。体部の一部が第２・１０層出土の資料で、それ以外のほとんどは床面直上に堆積する第１６層出土の資料であることから廃絶時には床面直上にあったと考えられる資料である。焼成時に起因するか、それとも使用時によるものなのか不明であるが、底面の一部以外はほとんど還元化した状況で、器壁も硬質である。内面の見込みには黒斑が観察されることから、焼失時の可能性が考慮される。砂粒の多く含まれる胎土で、外面の調整上下方向のヘラ削りの後、横方向のヘラ削りが施され、内面はヘラで上下方向になでられた後、指で撫で消されている。１０はカマド第１・２層などから出土した土師器非ロクロ小甕で、口径１５．４ｃｍを測る。熱による変色や器壁の剥落が生じている。調整は外面が頸部まで縦方向のヘラ削り、口縁部は横ナデ、内面は体部の調整が図では表現されていないが、ヘラによる横方向のナデ調整の後、指でヘラの調整痕が撫で消されている。１１は第１・２層、カマド堆積土から出土した製塩土器の底部資料で、底径１１．６ｃｍを測る。砂質がかった胎土で、剥落が著しく、粘土紐の接合箇所に空洞が空いている状況である。底面は柾目状圧痕が観察される。１２は第1・2・１０・１６及びカマド上面から出土した土師器小甕の体部～底部にかけての資料で、底径６．８ｃｍを測る。第２層出土の破片が最も多いが、浸食等により、器面が変色・摩滅しているものが多く見られた。体部下半に煮沸による煮沸痕が顕著に見られ、局所的には１０Ｒ６／６赤橙色まで変色した箇所が観察される。外面調整は上下方向のヘラ削り、内面は一部工具を使った可能性も考えられるが、指によるナデの痕跡しか観察されなかった。底面には網状脈の木葉痕が観察される。１３は第１０・２５層及びカマド第５０層から出土した土師器甕底部で、底径８．０ｃｍを測る。第１０層出土の破片が最も多いが、カマド右袖周辺出土の破片は、被熱及び剥離、摩滅が顕著で、掘り方に相当する第２５層出土の資料も小片で被熱痕が観察され、第１０層出土の資料とは非整合な色調が観察されることから、破片化した状態で、建物跡内に破片化した状態で、ある程度の期間存在していた可能性が考えられる。外面調整は上下方向のヘラ削りの後、横方向のヘラ削り、内面は指ナデによる調整である。底面は１２同様網状脈の木葉痕が観察される。１４は第２・１４・２７層及びカマド第８層から出土した土師器甕で、口径２０．６ｃｍ、器高３１．２ｃｍ、底径８．８ｃｍを測る。床面直上に堆積する第１４層出土の資料がほとんどで、口縁部破片がカマドの上面の第８層から、体部の小破片が掘り方の充填土に相当する第２７層（開口や撹拌の可能性も考慮される）から出土している状態で、体部から口縁部にかけては約半分が欠損しており、建物跡出土の破片だけでは完形にならない状態である。外面側は体部中半～下半にかけて粘土が付着しており、他の器面と連続性のある色調を呈している。外面調整は粘土の付着等で観察できない箇所があるが、体部から底部にかけて縦方向の浅いヘラ削りの後、底部周辺は底部側から左上がりのヘラ削り、

口縁部は幅広く横ナデによる調整で、口唇部直下を強めになでつけることによって、口唇端部が内傾させるように面取りされている。内面は幅広のヘラによる横方向のナデで、粘土紐の接合痕がなで消されていない箇所が体部下半にかけて所々見受けられる。底面は無調整であるが、中央付近に須恵器の当て具痕のような圧痕が観察される。１５は第２５層出土のロクロ小甕で、口径１７．０ｃｍを測る。砂礫を多く含む胎土で、海綿骨針は含まない。内外面ともロクロナデによる調整であるが、外面の体部は稜段をつけた調整がされている。口縁端部は面取りがされておらず、丸みを帯びた形状を呈する。１６はＰｉｔ８の堆積土とカマドの左袖脇の床面（遺物出土情報上ではカマド下層及びカマド袖下）から出土した土師器ロクロ小甕の体部～底部にかけての資料で、底径６．６ｃｍを測る。Ｐｉｔ８出土の資料に比べ床面出土の資料については摩滅・脱色・被熱による変色があり、破片化した状態で流動したものと考えられる。内外面ともロクロナデで、底部切離しは右回転糸切で、二本平行のヘラ起し痕が観察される。１７・１８は同一個体と考えられる床直出土の縄文土器で、鉢形の粗製土器である。地文にＬＲが施され、内面はミガキであるが、口唇端部は内側部分が削られ面取りされている。縄文時代晩期に属する。

ＳＢ－０１　（第 27 図－ 19）

１点図示した。１９はＰｉｔ１２から出土した土師器椀で口径１７．６ｃｍ、器高６．２ｃｍ、底径７．０ｃｍを測り、器高指数３５、底径指数３９．８である。出土時には柱穴の中から正位の状態で出土している。礫を含まず、粒土のきめ細かい砂粒を微量含んだ胎土で、海綿骨針を微量含む。巻上げ成形によるもので、ロクロによる整形及び切離しが行われている。図面では表現されていないが、口唇部の内面側が一部開き気味に外反し平滑に伸ばされており、口をつけることを意識した作りとなっている。底部切離しは幅の広い右回転糸切である。

ＳＤ－０１　（第 27 図－ 20）

１点図示した。２０は下層出土の須恵器甕の体部片である。同質の資料は距離の離れたＡ－１区の遺構外からも出土しているが、遺構外資料の方が摩滅が著しく流動していたことが考えられる。須恵器であるが酸化焼成で、土師器甕に比べると硬質ではあるが、焼き締めが不十分な資料である。外面の叩き目の条は幅広で、３ｃｍあたりの条数は６である。内面の当て具痕は残存しており、放射状の崩れた形状のものである。放射状のものは瀬谷子窯跡群等に見られるが、外面の叩き条数が間隔が広い点など本資料に対比可能な資料が管見されていないため、産地等の詳細は不明である。

ＳＤ－０３　（第 27 図－ 21）

１点図示した。２１は堆積土出土の縄文土器深鉢の口縁部破片資料である。口唇部を工具により抉り波状の形態を作り上げている。縄文時代晩期に帰属するが無文であるため詳細は不明である。

ＳＤ－０４　（第 27 図－ 22・23）

２点図示した。２２は堆積土出土の土師器甕で、口径１５．８ｃｍを測る。頸部が短く口縁部は軽く折り曲げた程度の形状で外面のヘラによる調整もやや粗雑な印象を与える。２３は堆積土から出土した縄文土器片で、隆帯にはＬ圧痕、地文にはＬとＲの平行圧痕とＬの爪形圧痕が観察される。円筒上層ａ式に属する。

ＳＤ－０５　（第 27 図－ 24）

１点図示した。２４は第１層から出土した縄文土器片で胎土中には繊維痕が見られる。地文は結束第一種で縄文時代前期後半に帰属する。

ＳＤ－０６　（第 27 図－ 25 ～ 28）

４点図示した。２５は堆積土出土の土師器甕の底部資料である。剥落が著しいが、底面には平行脈の木葉痕が観察される。２６は堆積土出土の縄文土器の体部片で、繊維の混入痕が見られ地文はＲＬＲが施されている。縄文時代前期末に帰属する。２７は堆積土出土の口縁部片で、砂粒を多く含む脆い胎土で、繊

維痕入痕が観察される。地文に結節回転文が施される。円筒下層ａ式併行に帰属すると考えられる。２８堆積土出土の体部片で、２６・２７同様繊維の痕入痕が観察される。地文はＲＬが施されている。前期末に帰属すると考えられる。

遺構外出土土器（第 28 図－ 29 ～ 35）

２９はＡ－１区撹乱部分から出土した縄文土器深鉢の口縁部資料で、口唇端部にＬＲ、口縁部にはＬＲの側面圧痕、体部にはＬＲ縄文が施される。縄文時代前期末円筒下層ｄ$_2$式に帰属する。同一個体の可能性がある資料は３０としても掲載した。３１はＡ－２区表土から出土した縄文土器深鉢の体部資料で多軸絡条体が施される。詳細な時期は不明であるが、縄文時代前期末～中期初頭に属する。３２はＡ－４区風倒木から出土した深鉢の体部資料で、ＲＬ縄文が縦位に施されている。縄文時代中期に帰属すると考えられる。３３はＡ－２区の表土から出土した縄文土器深鉢の体部片で、ＲＬ縄文が縦位に施されている。縄文時代中期に属すると考えられる。３４はＡ－１区の耕作土から出土した酸化焼成の須恵器の甕底部資料である。ＳＤ－０１の資料と同質で外面の３ｃｍあたりの叩き条数は６である。内面には瀬谷子窯跡群に見られる放射状の当て具痕が観察されるが、ＳＤ－０１の資料同様幅広の叩き条数の問題などで明確な産地特定には至らない。３３は肥前系唐津の鉢の底部で底径１０．２ｃｍを測る。内面は刷毛目により釉がけがされており、一部露体している。１７世紀後半～１８世紀前半に帰属する。

２.石器・石製品

ＳＩ－０１（第 29 図－ 45・46）

２点図示した。４５はＳＩ－０１第２・１０層から出土した石皿の破片で長さ１７．２×幅１０．１×厚さ５．４ｃｍを測り、１１４９．７ｇを量る。石質は安山岩である。機能面はほぼ全体が擦りの痕跡が確認できるが、打撃が加えられて破損されており、側縁も剥離による欠損が多い。本遺構は平安時代に帰属するため、転用や廃絶の堆積土の紛れ込みの要因が考慮できる。４６は第１０層出土の敲磨器で、１４．７×７．５×５．７ｃｍを測り、８９８．０ｇを量る。石質は安山岩である。本遺構の焼失に関連するかどうか不明であるが、熱によるハジケが生じており、ピッチ等の付着が観察される。４５と同様に紛れ込みや転用の可能性が考慮できる。

ＳＤ－０１（第 29 図－ 47）

１点図示した。４７は下層出土の敲磨器の欠損資料で、１０．９×５．３×４．８ｃｍを測り、２１４．５ｇを量る。石質は安山岩である。側縁の一部に敲打痕が観察される。

ＳＤ－０３（第 29 図－ 48）

１点図示した。４８は堆積土出土の砥石で、１６．６×７．７×３．９ｃｍを測り、３２３．６ｇを量る。石質は凝灰岩である。凹凸部以外をほぼ全面利用しており、擦痕が顕著である。

遺構外出土資料（第 29 図－ 49）

１点図示した。４９はＡ－５区風倒木確認面出土の石皿で、２３．７×２６．１×９．１ｃｍを測り、５３４８．１ｇを量る。石質は安山岩である。欠損資料であるが、平坦面の両側ほぼ全面が擦られており、中央側へかけて凹状にくぼんでいる。

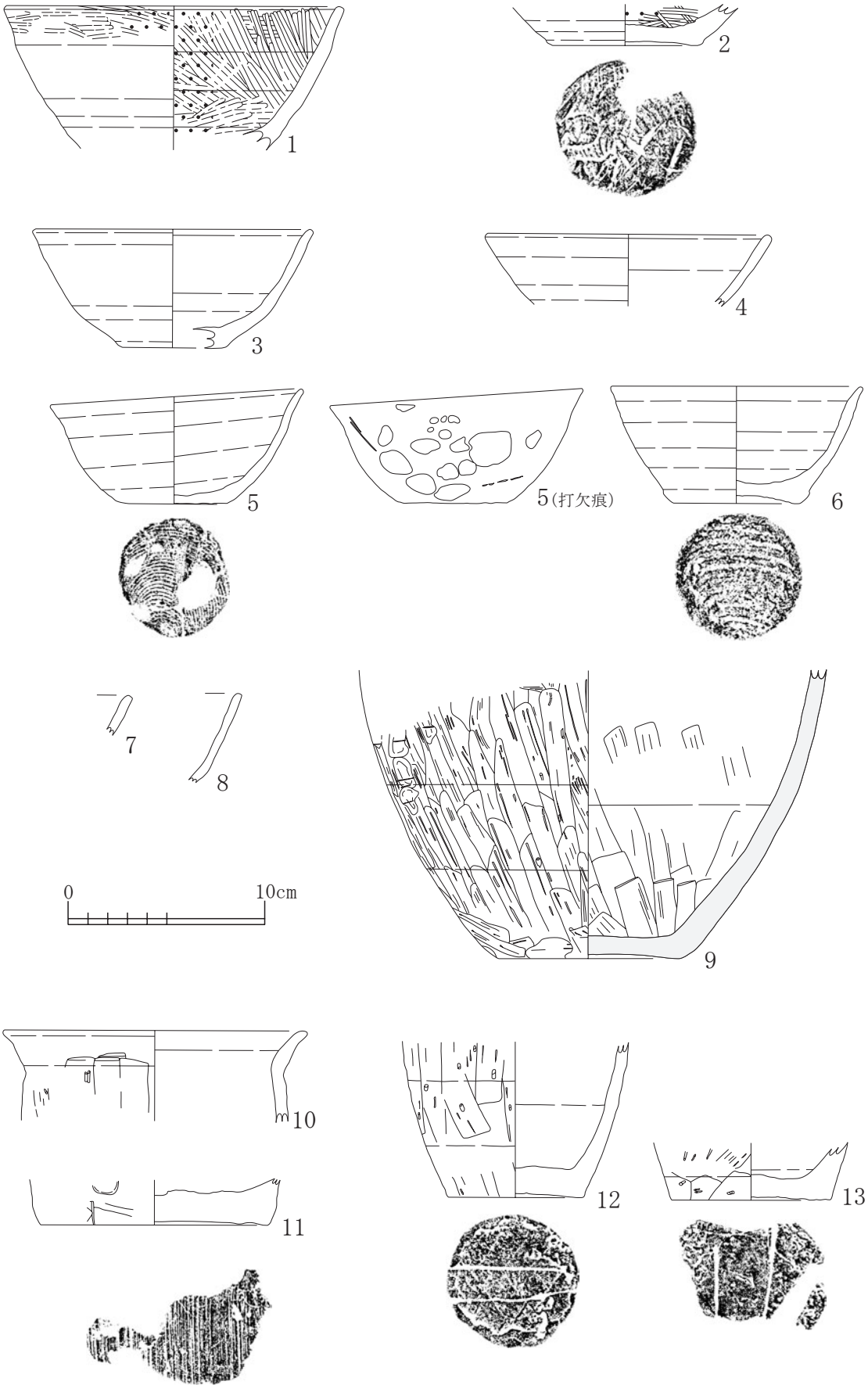
３．土製品（第 28 図－ 36 ～ 44）

ＳＩ－０１出土資料のみ９点図示した。３６はカマド支脚に相当する土製支脚で底径８．５ｃｍ、器高１４．１ｃｍ、上部径９．３ｃｍを測り、９１６．０ｇを量る。粘土紐の輪積みによる成形で使用時下段（製作時上段）の輪積みが１～１．７ｃｍ程度の幅の粘土紐の積み上げによる成形である。底部（製作時：口縁部）の同一軸線上の箇所をアーチ状に切り込みを入れ脚部としている。上面（製作時：底部）は中央がくぼん

だ形状であるが、砂粒等を付着させていない。３７は床面直上から出土した土製支脚で、底径１４．１ｃｍ、器高１４．１ｃｍ、上部径９．３ｃｍを測り、３６と同一規格であるが、重量はこちらの方がやや重く９５４．０ｇを量る。３６同様粘土紐の輪積みによる成形で、使用時下段の輪積みが１．６～２．５ｃｍの幅で３６より広く積み上げられている。底部は中心軸からずれた位置に逆Ｖ字状の切り込みを入れ脚部としている。上面は中央がくぼんだ状況で、周縁は砂粒が付されている。本資料の出土位置はＰｉｔ３に近接した位置から出土しており、付近にカマドはない状態であるが、下半部の被熱の状況から実際カマドの中で使用されたものであり、本遺構から同一規格の土製支脚が出土していることなどを併せて考えると周辺の建物跡のカマドで使用されたものの廃棄の可能性が考えられる。３８～４４は建物跡内から出土した焼成粘土塊で、製品を指向しない不定形の焼成された粘土塊である。３８は床面から出土した資料で長さ１．８×幅２．４×厚さ１．２ｃｍを測り、２．７ｇを量る。ヘラ状の工具によるナデが一部されており、粘土紐の接合箇所も観察される。焼成は良好である。３９は第２５層出土の資料で、３．４×４．３×２．０ｃｍを測り、１９．５ｇを量る。他の資料に比べややパサパサした質感を有する胎土で、柾目部分でのナデにより刷毛目状の調整痕が残されている。４０は壁溝出土の資料で１．７×２．３×１．２ｃｍを測り、２．９ｇを量る。丸みを帯びた形状を呈しており、中央を指で押しつぶしたようなくぼんだ形状を呈している。４１は堆積土出土の資料で、１．８×２．６×１．４ｃｍを測り、３．１ｇを量る。藁等の繊維痕が観察される。４２は堆積土出土の資料で、１．８×２．６×１．４ｃｍを測り、２．８ｇを量る。４１と同質の胎土である。４３は堆積土出土の資料で、１．８×２．６×１．１ｃｍを測り、２．３ｇを量る。４１・４２と同質の胎土である。４４はカマド上面から出土した資料で、２．４×１．０×１．４ｃｍを測り、１．７ｇを量る。一部指によるナデが確認できるが、それ以外の箇所は凹凸のままである。

第４節　小結

東北新幹線建設事業に伴う高間（１）遺跡の調査区は標高５．７～８．５ｍの丘陵地部分の調査で、平安時代の竪穴建物跡１軒、土坑１１基（うち４基は縄文時代に帰属すると考えられる溝状土坑、１基はフラスコ状土坑)、ピット１３基、掘立柱建物跡１棟以上、溝跡９条、その他の遺構１基を検出した。また、出土遺物は縄文時代前期中葉円筒下層ａ式、前期末葉d_2式、中期初頭円筒上層ａ式、その他中期、晩期の縄文土器・石器、平安時代の土師器・須恵器・石製品・土製品、近世の陶器などである。隣接する区画整理事業との調査区の調査成果も複合した上で考察する必要性があるが、本調査区からの成果は①縄文時代の落とし穴状の遺構が検出した。②平安時代については改築時点の掘り方の充填土にＴｏ－ａ火山灰が混入する（すなわちＡ．Ｄ．９１５年以降）の竪穴住居跡が１軒が検出し、廃絶に際して焼失が伴うものであることが判明した。③掘立柱建物跡は溝跡によって囲まれる中に構築されており、複数の変遷過程がある資料になると考えられる。④大規模な範囲を区画する可能性がある溝跡を検出した。などの内容である。今後、区画整理事業の調査区の報告に際して再検討の余地がある。



第 26 図　出土遺物 1（土器）

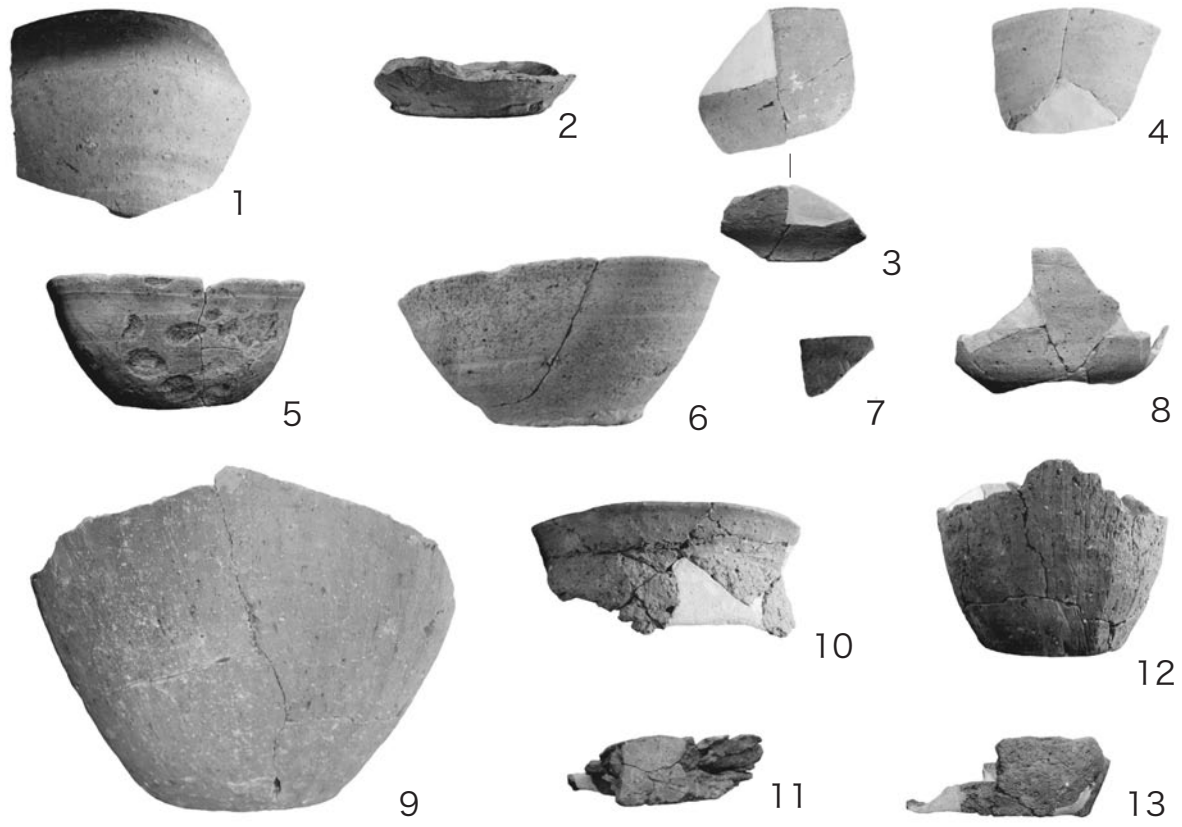
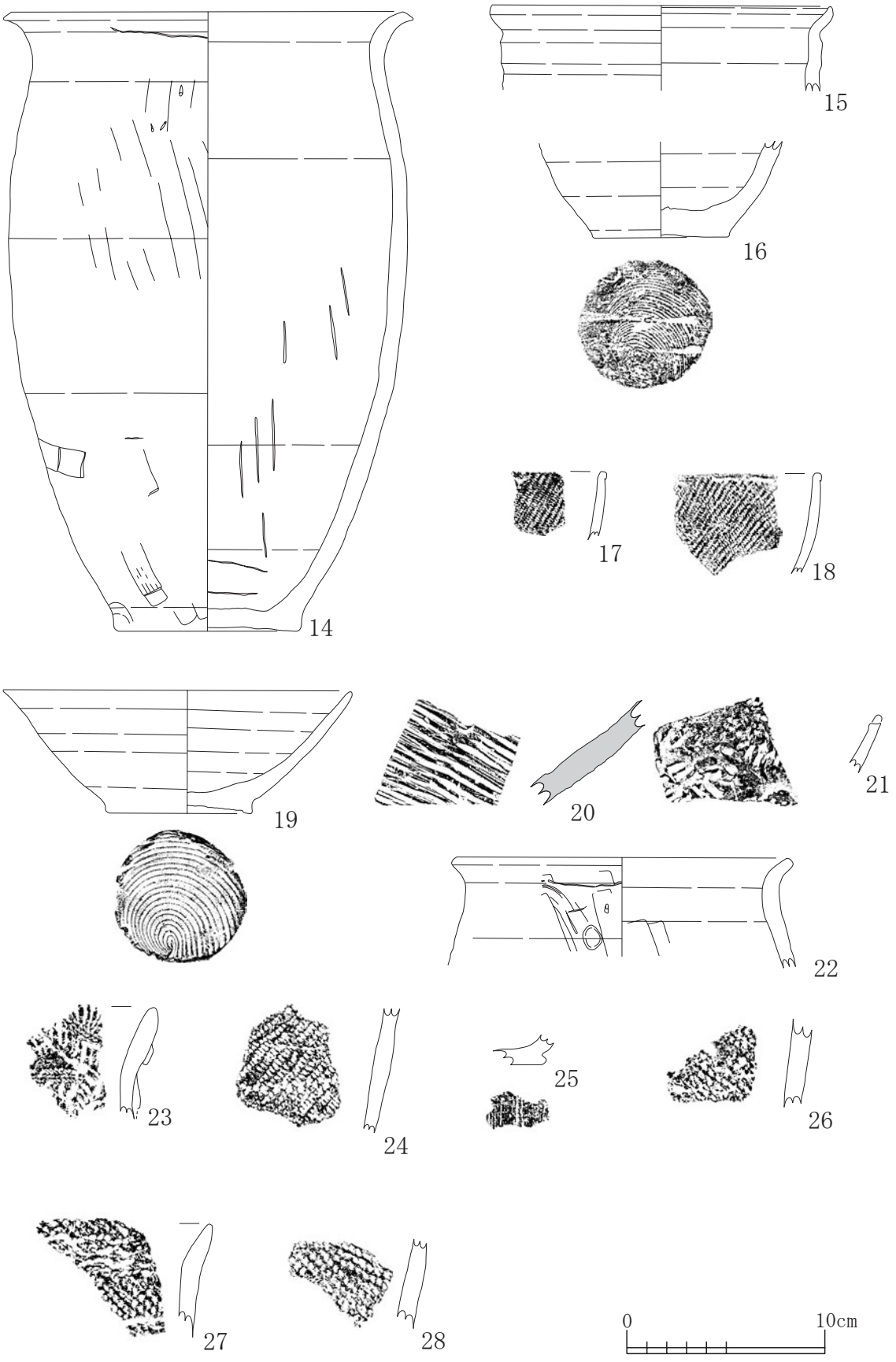


写真 75　出土遺物 1

第 3 表　遺物観察表 1

No.	出土地区	遺構名	層位	種別	器種	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率 口縁部	残存率 底部	色調 外面	色調 内面	焼成	礫	砂	骨	赤	外面調整	内面調整	底部調整	備考
1	A-3	SI-01	ﾌｶ 18P-58	黒色土器	椀	口縁～体部	17.2	-	-	1.6/12		2.5Y7/3	N3/0	良	少	やや多量	少	中	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ / ﾍﾗﾐｶﾞｷ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ / ﾍﾗﾐｶﾞｷ (黒色処理)		
2	A-3	SI-01	ﾌｶ 10P-16, ﾌｶ 18P-59・60	黒色土器	椀	底部	-	-	7.4		11/12	7.5YR5/4 ～ 10YR3/1	N3/0	不良	微	少	微	微	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ (黒色処理)	右回転糸切 / ﾍﾗﾅﾃﾞ 指頭圧痕有	内外面に剥離有，底面粘土付着，糸切後付着？
3	A-3	SI-01	SN ﾌｶ 39P-27, ﾌｶ 2P-14, ﾌｶ P-X	土師器	椀	口縁～底部	13.8	(5.5)	5.4		1.3/12	10YR6/4	10YR6/4	並	微	中	微	少	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	不明	7,8 と同一個体の可能性有
4	A-3	SI-01	SN ﾌｶ 21P-10, SN ﾌｶ 18P-14	土師器	椀	口縁部	14.6	-	-	2/12		10YR8/6	7.5YR7/6	良	微	中	少	多	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		
5	A-3	SI-01	床直 P-40, ﾌｶ 10P-25・27・28・30, ﾌｶ 14P-26-4, ﾌｶ P-X	土師器	椀	口縁～底部	12.8	5.8	5.0	9.5/12	12/12	10YR7/6	10YR7/6	並	微	少	-	微	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	右回転糸切	外面粘土付着，油痕・ｽｽ付着，剥離は油痕やｽｽがない部分でみられる。胴部の破面にｽｽ付着。器高指数 46.1，底径指数 45.3
6	A-3	SI-01	SN ﾌｶ 8 P-19・23・24, SN ﾌｶ P-X	土師器	椀	口縁～底部	12.8	5.9	6.4	5/12	12/12	2.5YR6/6 ～ 7.5YR7/6	2.5YR6/6 ～ 10YR6/2	並	微	極多	多	少	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	静止糸切	内面ｽｽ付着
7	A-3	SI-01	SN ﾌｶ P-X	土師器	椀	口縁部	-	-	-	0.8/12		7.5YR7/6	5YR7/8	良	-	中	-	微	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		3 と同一個体の可能性有
8	A-3	SI-01	ﾌｶ 18P-54・55・57, ﾌｶ P-X	土師器	椀	口縁部	-	-	-	0.3/12		10YR7/4	10YR7/3	良	-	中	微	-	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		3 と同一個体の可能性有
9	A-3	SI-01	ﾌｶ 2P-12, ﾌｶ 10P-17, ﾌｶ 16P-1	土師器	甕	体～底部	-	-	9.6		12/12	2.5Y5/2	5Y5/1	良	少	多	微	微	ﾍﾗﾅﾃﾞ / ﾍﾗﾅﾃﾞﾘ 指頭圧痕有	ﾍﾗﾅﾃﾞ		
10	A-3	SI-01	SN ﾌｶ 21P-7, SN 上面ﾌｶ P-X, SN ﾌｶ P-X, ﾌｶ 1P-33	土師器	甕	口縁部	15.4	-	-	3.5/12		5YR6/4	5YR6/6	不良	少	中	-	微	ナデ / ヘラ	ナデ		口唇部面取り
11	A-3	SI-01	SN ﾌｶ P-X, ﾌｶ 1P-5・36, ﾌｶ 2P-12, ﾌｶ P-X	土師器	製塩土器	底部	-	-	11.4		0.7/12	7.5YR7/4	7.5YR7/4	不良	微	中	-	微	ナデ / ヘラ	ナデ	ハケメ	剥離が目立つ
12	A-3	SI-01	SN ﾌｶ上面 P-X, ﾌｶ 1P-8・9, ﾌｶ 2P-11・13, ﾌｶ 10P-37, ﾌｶ 16P-23, ﾌｶ P-X	土師器	甕	体～底部	-	-	6.8		12/12	10YR6/4	10YR7/4	並	微	多	-	多	ヘラ	ナデ	木葉痕	
13	A-3	SI-01	SN ﾌｶ 50P-31, ﾌｶ 10P-51・52, ﾌｶ 25P-X	土師器	甕	底部	-	-	8.0		3.8/12	7.5YR6/4	10YR6/3	不良	微	多	-	中	ヘラ	ナデ	木葉痕	底部外面に剥離，ﾊｼﾞｹによるもの？底面黒色付着物（油痕？）



第 27 図　出土遺物 2（土器）

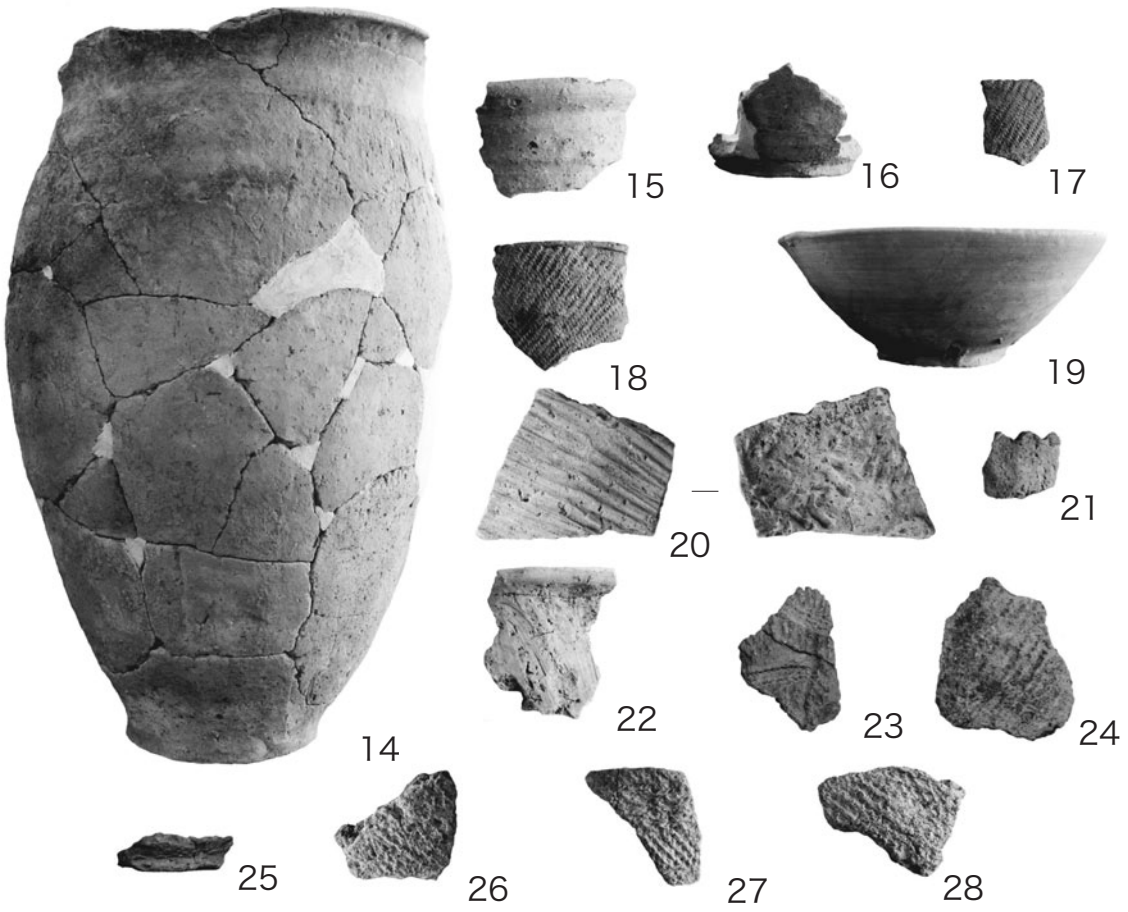
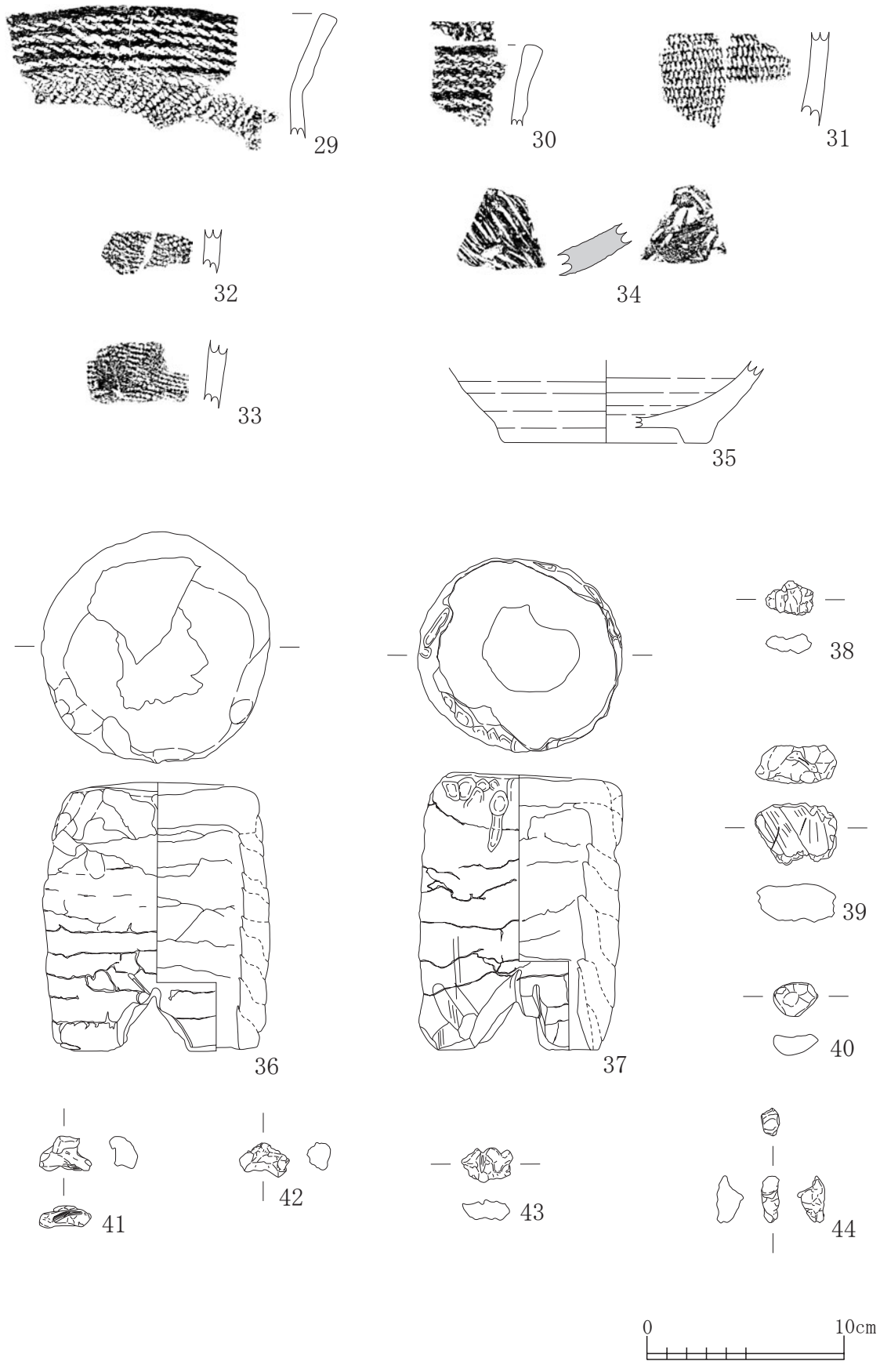


写真 76　出土遺物 2

第 4 表　遺物観察表 2

No.	出土地区	遺構名	層　位	種　別	器　種	部　位	口　径 (cm)	器　高 (cm)	底　径 (cm)	残存率 口縁部	残存率 底　部	色調外面	色調内面	焼成	礫	砂	骨	赤	外面調整	内面調整	底部調整	備　考
14	A-3	SI-01	SN ﾌｶ 8P-17・18・22, ﾌｶ 14P-26-1・2・3・5・6・7・8・9・10・11・12・13, ﾌｶ 27P-X	土師器	甕	口縁～底部	20.6	31.2	8.8	1.3/12	12/12	10YR7/4	10YR7/4	並	微	少	微	微	ﾅﾃﾞ / ﾍﾗ	ﾅﾃﾞ / ﾍﾗ	無調整	口縁部はｶﾏﾄﾞﾌｶ土, 体部はﾌｶ土, ｶﾏﾄﾞ付近から出土　炭化物・粘土付着, 黒斑有
15	A-3	SI-01	ﾌｶ 25P-X	土師器	甕	口縁部	17.0	-	-	1.2/12		10YR7/3	10YR7/4	良	中	多	-	微	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ		
16	A-3	SI-01 SI-01 Pit8	SN ｶﾏﾄﾞ下 P-35, SN ｶﾏﾄﾞｿﾘﾃﾞ下 P-36 ﾌｶ P-X	土師器	甕	底部	-	-	6.6		12/12	10YR8/4	10YR7/4	並	微	微	微	微	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	右回転糸切	底面 2 条ﾍﾗｵｺ痕有
17	A-3	SI-01	床直 P-43	縄文	鉢	口縁部	-	-	-	0.6/12		7.5YR6/4	7.5YR6/4	良	微	微	-	微	LR	ﾐｶﾞｷ		口唇部内面面取り, 折り返し, 外面ｽｽ付着, 内外面赤色部有
18	A-3	SI-01	床直 P-45	縄文	鉢	口縁部	-	-	-	1.5/12		5YR6/6	7.5YR6/4	良	少	少	-	微	LR	ﾐｶﾞｷ		口唇部内面面取り,折り返し,No.16と同一個体
19	A-3	SB-01 Pit12	ﾌｶ 2P-1	土師器	椀	口縁～底部	17.6	6.2	7.0	12/12	12/12	7.5YR6/5	7.5YR6/5	良	-	微	微	微	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	右回転糸切	外面底部粘土付着, ｽｽ付着, 口唇部一部面取り
20	A-3	SD-01	ﾌｶ下 P-1	須恵器	甕	体部	-	-	-			10YR6/3	10YR6/3	並	-	少	-	少	ﾀﾀｷ(平行)	当て具痕		
21	A-3	SD-03	ﾌｶ P-1	縄文	鉢	口縁部	-	-	-	-		10YR6/4	7.5YR6/4	並	-	中	微	少	ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ		波状口縁
22	A-3	SD-04	ﾌｶ P-2	土師器	甕	口縁部	15.8	-	-	1/12		10YR7/4	7.5YR7/4	並	微	中	-	少	ﾅﾃﾞ / ﾍﾗﾅﾃﾞﾘ	ﾅﾃﾞ / ﾍﾗﾅﾃﾞﾘ		口唇部折り返し
23	A-3	SD-04	ﾌｶ P-5	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-			7.5YR6/4	7.5YR6/4	良	微	少	-	微	隆帯 L 押圧 /L・R 押圧 / L 押圧(爪形)	ﾐｶﾞｷ		
24	A-3	SD-05	ﾌｶ 1P-1	縄文	深鉢	胴部	-	-	-			7.5YR6/4	7.5YR6/4	並	少	少	微	微	結束第一種	ﾅﾃﾞ		
25	A-3	SD-06	ﾌｶ P-5	土師器	甕	底部	-	-	-		2.5/12	5YR6/8	10YR5/6	良	-	微	-	-	ﾅﾃﾞ	ﾍﾗ		
26	A-3	SD-06	ﾌｶ P-2	縄文	深鉢	胴部	-	-	-			5YR6/6	10YR7/2	並	少	少	-	-	RLR	ﾅﾃﾞ		内面輪積痕有, 断面黒褐色
27	A-3	SD-06	ﾌｶ P-X	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	0.8/12		10YR6/4	10YR7/6	並	少	少	-	-	結節回転文	ﾅﾃﾞ		円筒下層 a 式
28	A-3	SD-06	ﾌｶ P-X	縄文	深鉢	胴部	-	-	-			7.5YR7/4	10YR7/2	並	少	少	-	-	RL	ﾅﾃﾞ		断面黒色



第 28 図　出土遺物 3（土器・土製品）

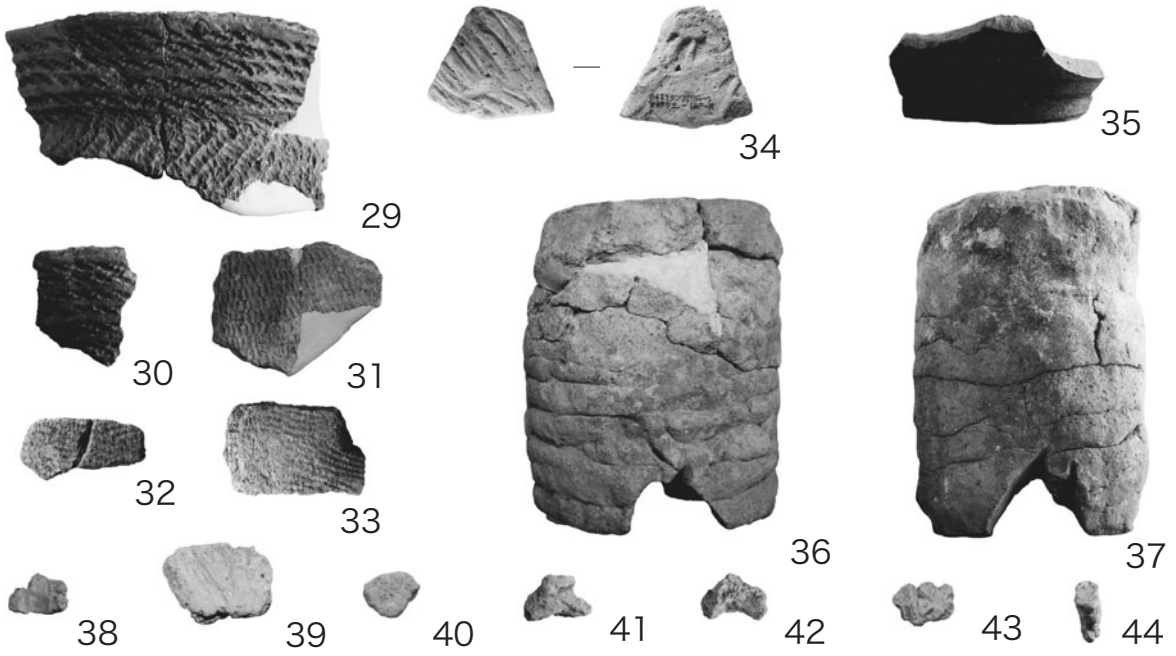


写真 77　出土遺物 3

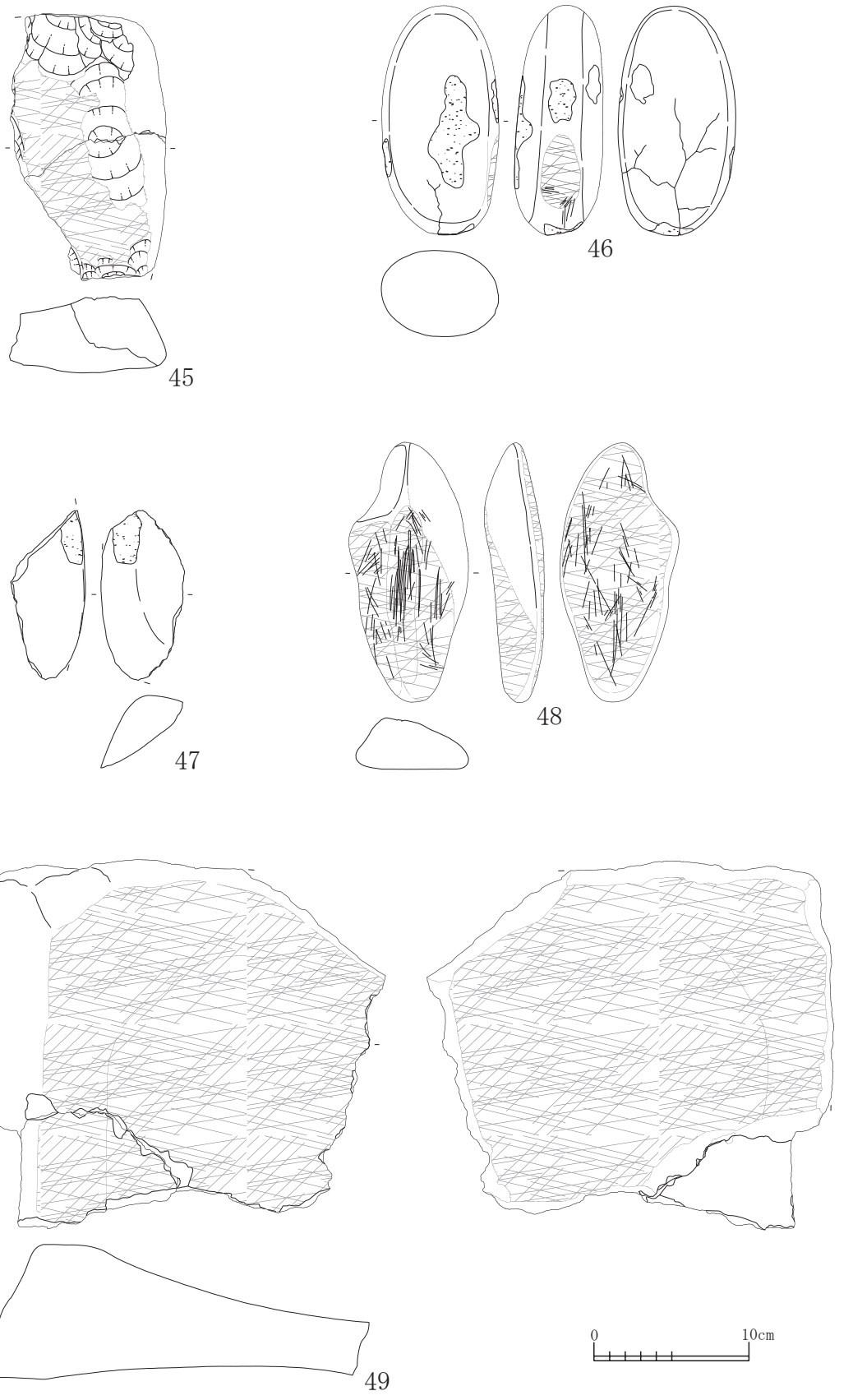
第 5 表　遺物観察表 3

No.	出土地区	遺構名	層　位	種　別	器　種	部　位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 口縁部	残存率 底部	色調外面	色調内面	焼成	礫	砂	骨	赤	外面調整	内面調整	底部調整	備考
29	A-1	遺構外	ｶｸﾗﾝ P-1・5・6・7・X	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	7.5YR6/3	10YR7/4	良	微	微	微	微	LR(口唇部)/ LR 側面圧痕 /LR	ﾐｶﾞｷ		口縁部肥大 , 断面黒色 , 円筒下層 d_2 式相当
30	A-1	遺構外	ｶｸﾗﾝ P-4	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	-	-	10YR3/1	10YR7/3	良	微	微	微	微	LR(口唇部)/ LR 側面圧痕 /LR	ﾐｶﾞｷ		No.30 と同一個体外面・断面黒色 , 円筒下層 d_2 式相当
31	A-2	遺構外	表土 P-X	縄文	深鉢	体部	-	-	-	-	-	5YR6/6	5YR6/6	良	微	少	-	微	多軸絡状体	ﾐｶﾞｷ		断面黒色
32	A-4	遺構外	風倒木 P-X	縄文	深鉢	体部	-	-	-	-	-	5YR6/6	7.5YR6/3	並	少	少	-	微	RL(縦位)	ﾐｶﾞｷ		
33	A-2	遺構外	表土 P-X	縄文	深鉢	体部	-	-	-	-	-	7.5YR5/4	7.5YR6/4	並	少	少	微	微	RL(縦位)	ﾅﾃﾞ		
34	A-1	遺構外	耕作土 P-X	須恵器	甕	体部	-	-	-	-	-	2.5Y7/3	10YR7/4	並	微	少	-	少	ﾀﾀｷ（平行）	当て具痕		土師器質の胎土
35	A-5	遺構外	耕作土 P-X	肥前	鉢	体部	-	-	10.2	-	3/12	10YR4/2	2.5Y6/1 ・10YR8/3	良	-	微	-	微	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ＋ﾊｽﾞﾘ	ﾛｸﾛﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ /ﾊｽﾞﾘ	17C 後～ 18C 前

第 6 表　遺物観察表 4

No.	出土地区	遺構名	層　位	器　種	法量・計量値 (cm,g) 上径	高さ	底径	重量	色　調 外　面	内　面	焼成	礫	砂	骨	赤	調　整 外面	内面	備　考
36	A-3	SI-01	ﾌｶ 16P-34, SN ﾌｶ 39P-20	支脚	9.3	14.1	8.5	916.0	5YR6/8	2.5YR6/8	並	少	少	-	少	ﾅﾃﾞ / ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	工具痕有 , 輪積成形
37	A-3	SI-01	床直 C-1	支脚	9.3	14.1	8.5	954.0	5YR5/6	2.5YR5/6	並	中	多	-	中	ﾅﾃﾞ / 指ｵｻｴ	ﾅﾃﾞ	砂粒付着 , 輪積成形

No.	出土地区	遺構名	層位	器種	計測・計量値 (cm,g) 長さ	幅	厚さ	重量	色調	焼成	礫	砂	骨	赤	調整	備考
38	A-3	SI-01	床面 P-X	焼成粘土塊	1.8	2.4	1.2	2.7	5YR5/6	良	-	少	-	少	ﾍﾗ	
39	A-3	SI-01	ﾌｶ 25P-X	焼成粘土塊	3.4	4.3	2.0	19.5	2.5YR6/8	良	中	-	-	-	ﾍﾗ	棒状工具の刺突
40	A-3	SI-01	壁溝 P-X	焼成粘土塊	1.7	2.3	1.2	2.9	5YR7/6	並	-	少	-	少	指ｵｻｴ	
41	A-3	SI-01	ﾌｶ P-X	焼成粘土塊	1.8	2.6	1.4	3.1	5YR7/6	並	-	中	-	-	ﾍﾗ	
42	A-3	SI-01	ﾌｶ P-X	焼成粘土塊	1.8	2.6	1.4	2.8	5YR6/6	並	-	少	-	少	ﾅﾃﾞ	
43	A-3	SI-01	ﾌｶ P-X	焼成粘土塊	1.8	2.6	1.1	2.3	5YR6/6	並	-	微	-	-	ﾅﾃﾞ	
44	A-3	SI-01	ｶﾏﾄﾞ上面 P-1	焼成粘土塊	2.4	1.0	1.4	1.7	5YR6/6	良	-	微	-	-	ﾅﾃﾞ	



第 29 図　出土遺物 4（石器・石製品）

45

46

47

48

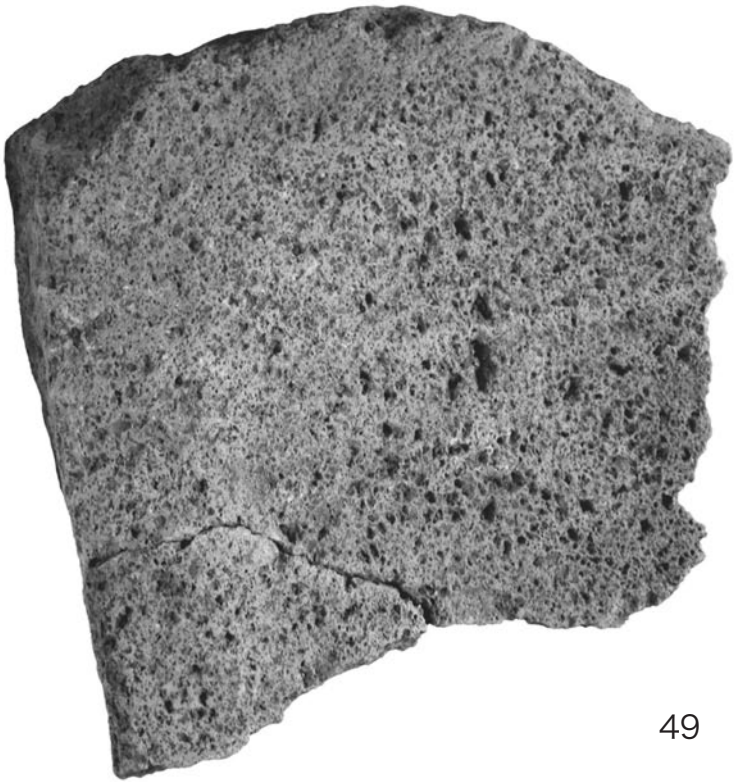
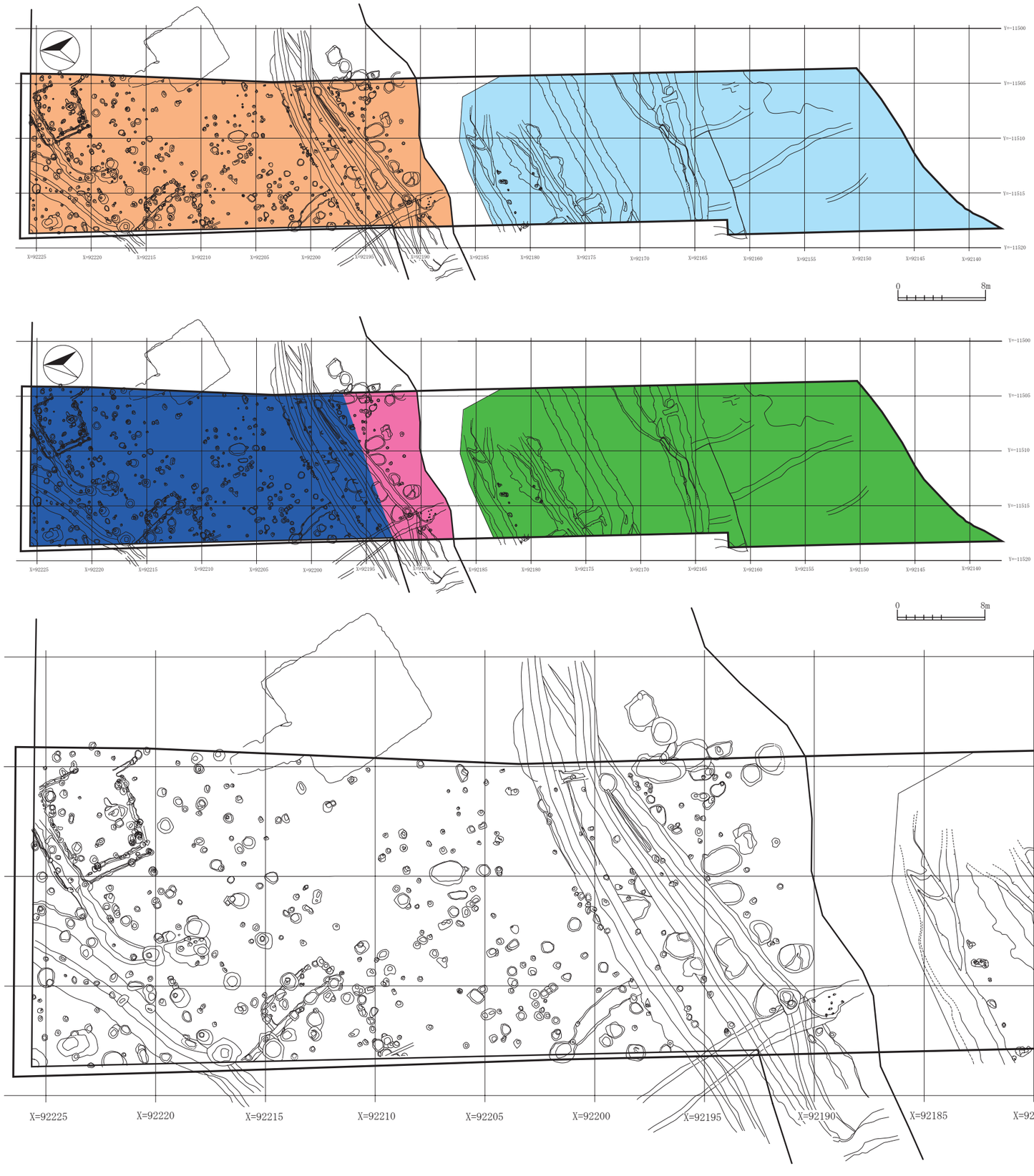

49

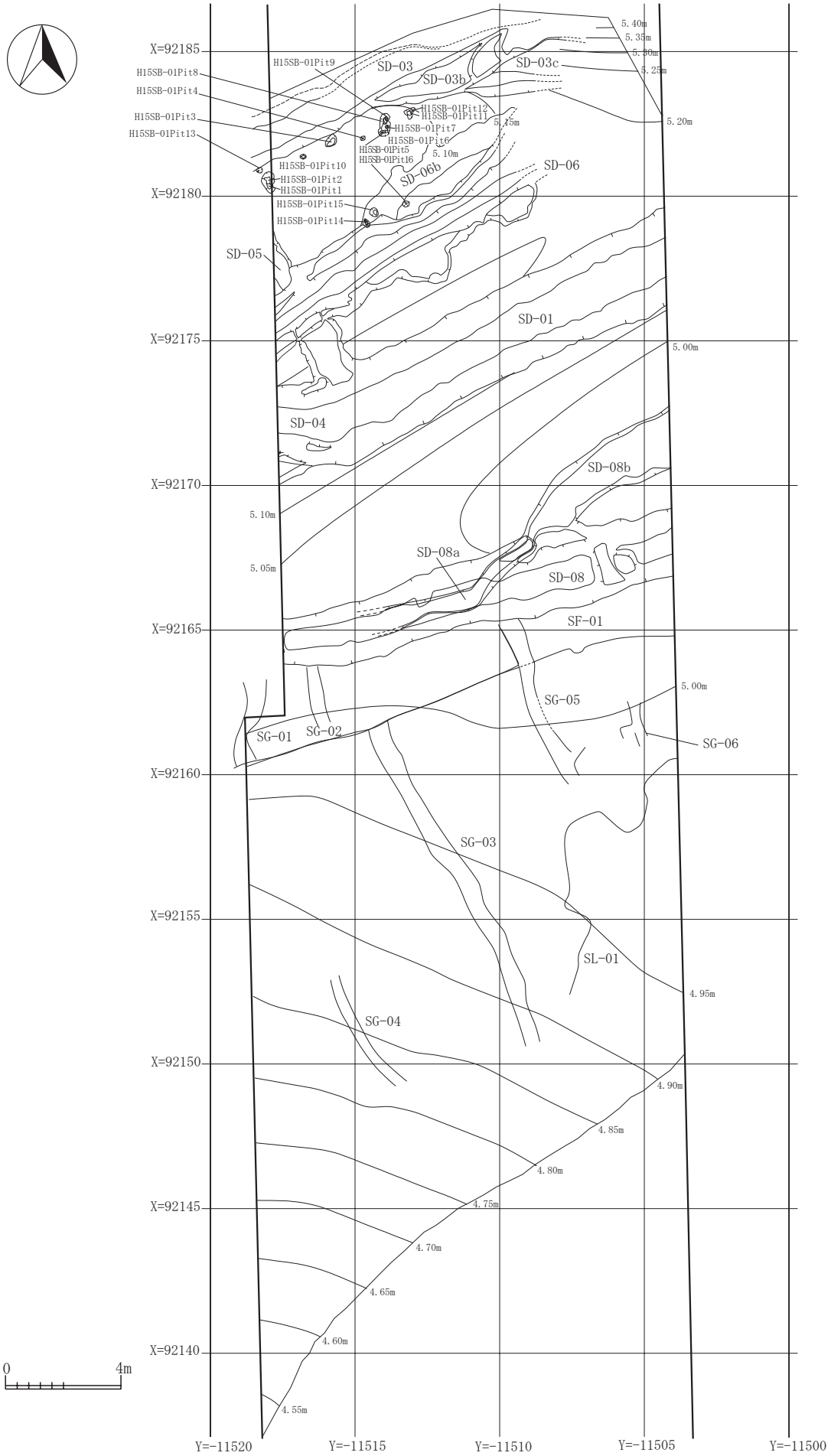
写真 78　出土遺物 4

第 7 表　遺物観察表 5

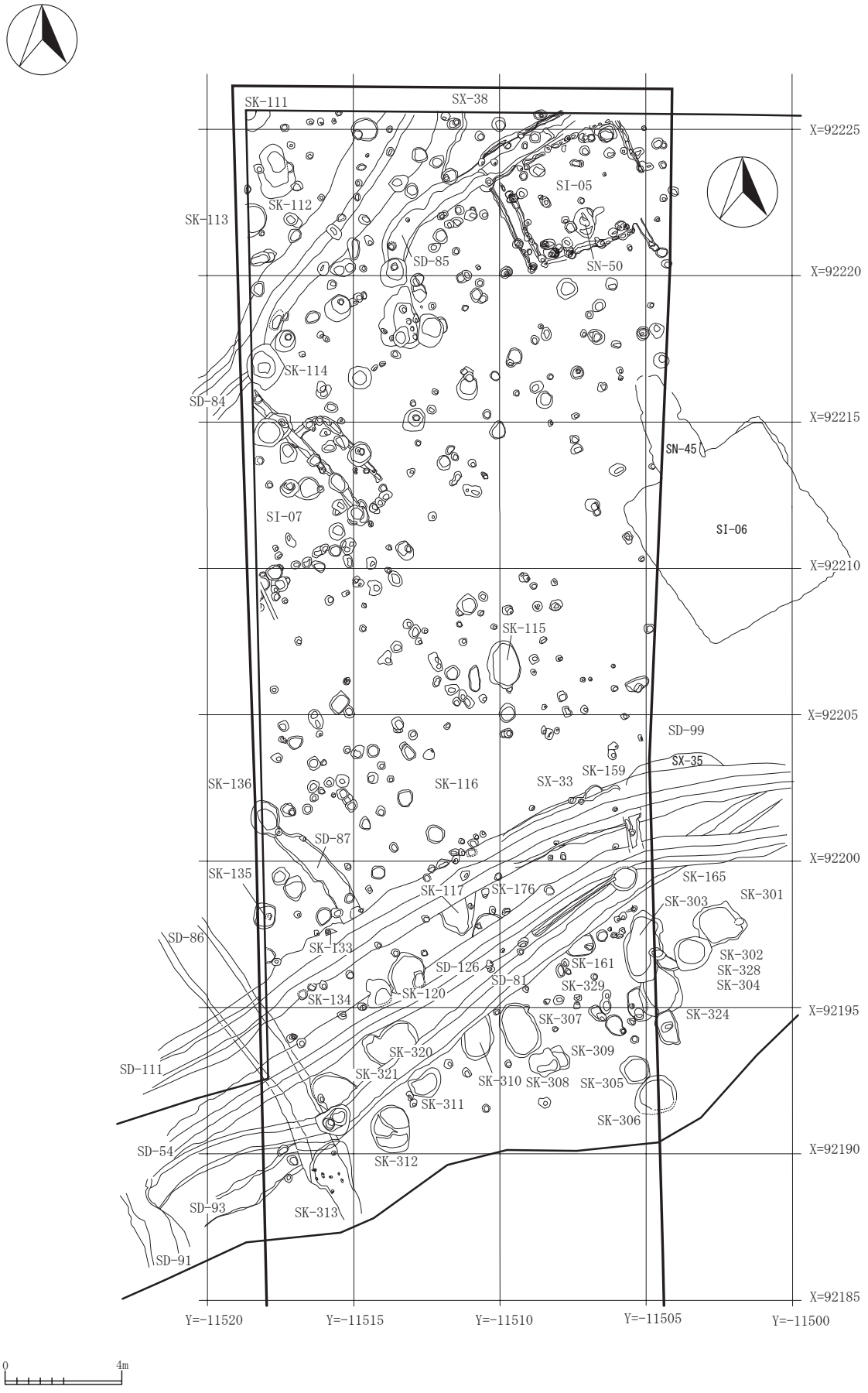
No.	種　別	出土地区	遺構名	層　位	最大計測値(cm)・計量値(g)				石　質	備　考
					長　さ	幅	厚　さ	重　量		
45	石皿	A-3	SI-01	ﾌｶ 2S-6、ﾌｶ 10S-11	17.2	10.1	5.4	1149.7	安山岩	接合
46	敲磨器	A-3	SI-01	ﾌｶ 10S-13	14.7	7.5	5.7	898.0	安山岩	ﾊｼﾞｹ, 油痕有
47	敲磨器	A-3	SD-01	下層 S-2	10.9	5.3	4.8	214.5	安山岩	
48	砥石	A-3	SD-03	ﾌｶ S-2	16.6	7.7	3.9	323.6	凝灰岩	
49	石皿	A-5	風倒木	確認面 S-X	23.7	26.1	9.1	5348.1	安山岩	接合



第 30 図　新田 (1) 遺跡遺構配置図 ①



第 31 図　新田(1)遺跡遺構配置図 ②（沖積地部分）



第 32 図　新田 (1) 遺跡遺構配置図 ③ (丘陵地部分)

第Ⅴ章　新田(1)遺跡（沖積地部分）

新田（１）遺跡の調査は第Ⅲ章でも記述したが、平成１５年度に沖積地部分の溝跡主体の調査を土地区画整理事業の発掘調査に連動して実施しており、平成１６年度に一段高い丘陵部の居住施設中心の発掘調査を実施している。それぞれの年度の調査区は性格が異なっており、遺構と出土遺物の量について多寡があることから、調査年次毎に章立てを分け報告することとする。なお、いずれの調査区でも隣接する土地区画整理事業の発掘調査区内に遺構が延びており、溝跡などの遺構の規模については両地区の成果を併せなければ判断できない資料が多々あることをあらかじめ断っておく。

第１節　遺構

１.ピット

調査時には掘立柱建物跡の柱穴の可能性を前提に調査されている。柱穴として機能した可能性があるものもあるが、建物跡として一連のものとしては認定できず、ここでは個別のピットとして報告する。遺構名に関しては調査時のまま（平成 15 年度調査区という H15 を略号前に付している）報告することとする。

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ１（第３３図）

Ａ区 X92180.000, Ｙ -11518.000 付近で検出した。規模は（３５）×２４×１９ｃｍを測る。Ｐｉｔ２と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は長方形、断面形は残存部に関して箱形を呈する。パミスブロックの酸化鉄の混入が多く見られる。

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ２（第３３図）

Ａ区Ｘ 92181.000, Ｙ -11518.000 付近で検出した。規模は（４５）×４４×２０ｃｍを測る。Ｐｉｔ１と重複しており、本遺構の方が新しい。平面形は不整形、断面形は凹凸がある形状である。Ｐｉｔ１同様酸化鉄の混入が顕著である。

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ３（第３３図）

Ａ区Ｘ 92182.000, Ｙ -11516.000 付近で検出した。規模は４８×３２×１０ｃｍを測る。平面形は不整楕円形、断面形は浅く凹凸のある形状である。なお、本遺構内から握り拳大の礫が出土している。

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ４（第３３図）

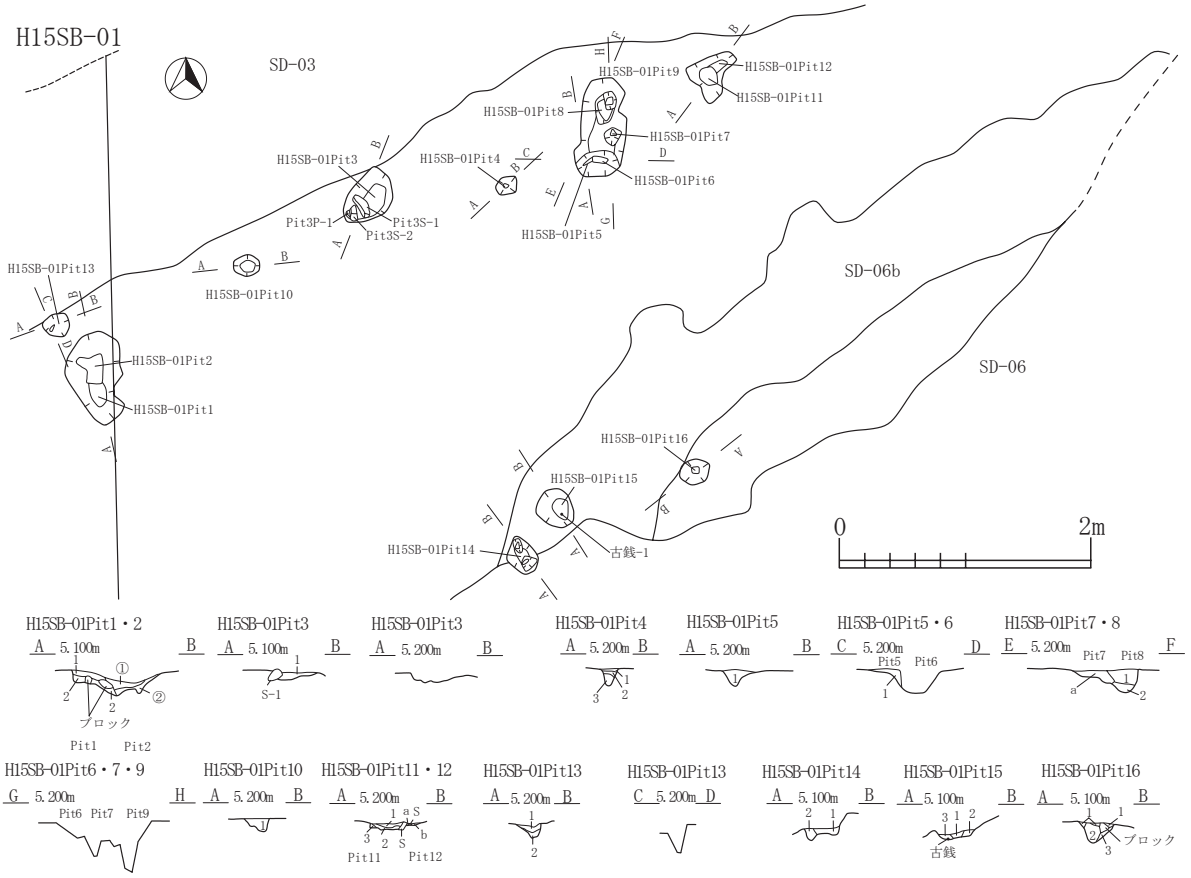
Ａ区Ｘ 92182.000, Ｙ -11515.000 付近で検出した。規模は１６×１４×１４ｃｍを測る。平面形は不整楕円形、断面形は円筒形を呈する。酸化鉄の混入があり、第２層には砂礫層の堆積が認められる。

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ５（第３３図）

Ａ区Ｘ 92182.000, Ｙ -11514.000 付近で検出した。規模は２７×（１４）×２２ｃｍを測る。Ｐｉｔ６・７と重複しており、Ｐｉｔ７→Ｐｉｔ５→Ｐｉｔ６の関係である。平面形は不整楕円形、断面形はＶ字形に近い形状を呈している。

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ６（第３３図）

Ａ区Ｘ 92182.000, Ｙ -11514.000 付近で検出した。規模は（２７）×２０×２３ｃｍを測る。Ｐｉｔ５・７と重複しており、新旧関係は前述のとおり本遺構が最も新しい。平面形は不整楕円形、断面形は擂鉢形を呈する。



H15SB-01Pit1
第1層　10YR2/2　黒褐色砂　10YR2/1黒色土少量, パミス粒(φ1～5mm)多量, 暗赤褐色(5YR3/4)鉄分微量
第2層　10YR2/2　黒褐色砂　パミス粒(φ1～7mm)多量, ブロック(φ50～100mm)中量, 炭化粒(φ7～10mm)少量, 暗赤褐色(5YR3/4)鉄分中量
H15SB-01Pit2
第①層　10YR3/3 暗褐色砂　10YR2/1黒色土微量, パミス粒(φ1～3mm)少量, 暗赤褐色(5YR3/4)鉄分極微量
第②層　10YR2/2 黒褐色砂　パミス粒(φ1～7mm)少量, 暗赤褐色(5YR3/4)鉄分中量
H15SB-01Pit3
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3mm)少量, ローム粒(φ2mm)極微量, 赤褐色(5YR4/8)鉄分微量
H15SB-01Pit4
第1層　10YR2/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)少量, ローム粒(φ5mm)極微量, 暗赤褐色(5YR3/6)鉄分極微量
第2層　10YR4/6　褐色土(礫層) 10YR2/2黒褐色土微量, パミス粒(φ1～5mm)少量, 暗赤褐色(5YR3/6)鉄分微量
第3層　10YR6/6　明黄褐色土　暗赤褐色(5YR3/6)鉄分微量
H15SB-01Pit5
第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～3mm)微量, 炭化粒(φ2mm)極微量, 褐色(7.5YR4/6)鉄分少量
H15SB-01Pit7
第a層　10YR6/4　にぶい黄褐色土(ローム層)　10YR3/2黒褐色土中量, パミスブロック(φ10～20mm)少量, 褐色(7.5YR4/6)鉄分微量
H15SB-01Pit8
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)少量, ローム粒(φ1～5mm)少量, 炭化粒(φ2～3mm)極微量, 褐色(7.5YR4/6)鉄分微量
第2層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)中量, 褐色(7.5YR4/6)鉄分微量
H15SB-01Pit10
第1層　10YR6/4　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量, 炭化粒(φ1mm)微量, 鉄分(φ2mm)少量, 褐灰色土(10YR6/1)シルト(φ2～4mm)少量
H15SB-01Pit11
第1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ2～3mm)微量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ2～3mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　焼土粒(φ2mm)微量, 鉄分多量
第3層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ2mm)微量, 炭化粒(φ2mm)微量, 鉄分(φ1mm)微量
H15SB-01Pit12
第a層　10YR2/1　黒色土　焼土粒(φ1mm)微量
第b層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ1mm)微量
H15SB-01Pit13
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1mm)・ブロック(φ20mm)微量, 鉄分(φ1mm)微量, 黒色土ブロック(φ30～40mm)少量
第2層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1mm)微量, 鉄分(φ1mm)微量
H15SB-01Pit14
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量, ローム粒(φ5mm)極微量, 炭化粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)微量・ブロック(φ10mm)極微量, 炭化粒(φ1～2mm)極微量
H15SB-01Pit15
第1層　7.5YR4/6 褐色砂　パミス粒(φ1～3mm)微量, 炭化粒(φ1～3mm)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)微量, ローム粒(φ5mm)極微量, 炭化粒(φ1～2mm)極微量
第3層　10YR4/6　褐色土　礫(φ3～5mm)多量
H15SB-01Pit16
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)極微量・ブロック(φ10～60mm)
第2層　10YR6/4　にぶい黄橙色土(ローム層)　明褐色(7.5YR5/6)鉄分少量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　ロームブロック(φ10～20mm)多量, 黒色土(10YR1.7/1)ブロック少量

第 33 図　H15SB-01

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ７（第３３図）

Ａ区Ｘ92182.000,Y-11514.000付近で検出した。規模は３５×２１×２８ｃｍを測る。Ｐｉｔ５・６・８と重複しており、新旧関係は本遺構が最も古い。平面形は不整長方形を呈し、断面形は段状に立ち上がる形状を呈する。

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ８（第３３図）

Ａ区Ｘ92183.000,Y-11514.000付近で検出した。規模は（３５）×（２６）×２２ｃｍを測る。Ｐｉｔ７・９と重複しており、新旧関係はＰｉｔ７→Ｐｉｔ８→Ｐｉｔ９の関係である。平面形は楕円形を呈し、断面形は円筒形を呈する。

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ９（第３３図）

Ａ区Ｘ92183.000,Y-11514.000付近で検出した。規模は（２５）×（１７）×４２ｃｍを測る。Ｐｉｔ８と重複しており、本遺構の方が新しい。平面形は不整円形を呈し、断面形は柱穴状を呈する。

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ１０（第３３図）

Ａ区Ｘ92181.000,Y-11517.000付近で検出した。規模は２１×１７×１２ｃｍを測る。平面形は楕円形、断面形は段状の形状を呈する。

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ１１（第３３図）

Ａ区Ｘ92183.000,Y-11513.000付近で検出した。規模は３３×（２２）×８ｃｍを測る。Ｐｉｔ１２と重複しており、本遺構の方が新しい。平面形は不整形で、断面形は箱形を呈する。本遺構内からＰｉｔ３同様握り拳大の礫が出土している。

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ１２（第３３図）

Ａ区Ｘ92183.000,Y-11513.000付近で検出した。規模は（１９）×１３×７ｃｍを測る。Ｐｉｔ１１と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は不整長方形、断面形は浅い皿形を呈する。

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ１３（第３３図）

Ａ区Ｘ92181.000,Y-11518.000付近で検出した。規模は１９×１９×２４ｃｍを測る。平面形は不整円形で、断面形はＶ字形を呈する。

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ１４（第３３図）

Ａ区Ｘ92179.000,Y-11515.000付近で検出した。規模は２７×２１×２０ｃｍを測る。ＳＤ－０６・０６ｂと重複しており、本遺構の方が古い。平面形は不整楕円形、断面形は段状を呈する。上面がＳＤ－０６ｂの堆積土によって削平されているが、残存部分の堆積は柱穴の堆積状況を呈しており、柱設置相当部分にはブロック混じりの土が堆積していた。

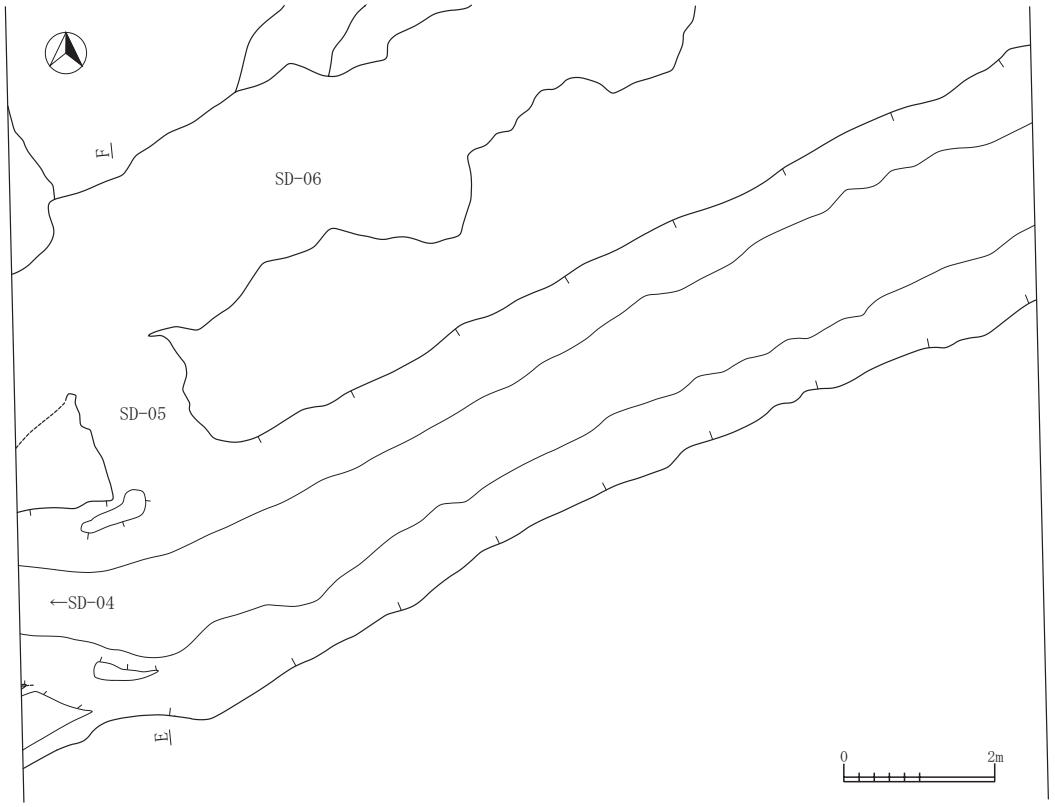
Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ１５（第３３図）

Ａ区Ｘ92179.000,Y-11514.000付近で検出した。規模は３１×２６×１４ｃｍを測る。ＳＤ－０６ｂと重複しており、本遺構の方が古い。平面形は不整楕円形、断面形は浅い箱形を呈する。Ｐｉｔ１４同様上面がＳＤ－０６ｂの堆積土によって削平されているが、残存部分の堆積は柱穴の堆積状況を呈しており、柱設置相当部分には砂混じりの地山土が堆積していた。判読不能の古銭１点が出土している。

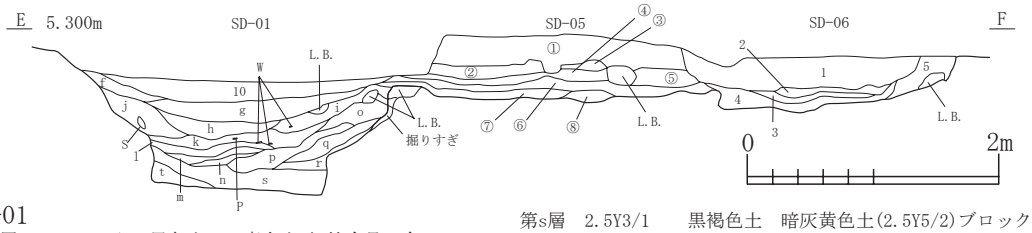
Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ１６（第３３図）

Ａ区Ｘ92180.000,Y-11513.000付近で検出した。規模は２５×２０×２４ｃｍを測る。平面形は不整円形、断面形はＵ字形を呈している。柱穴の堆積状況を呈しており、柱設置相当部分にはロームブロックが充填されていた。

SD-01



SD-01・05・06セクション



SD-01

第10層	10YR1.7/1	黒色土	腐食土,根等多量に含
第f層	10YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ1～3mm)少量
第g層	2.5Y3/1	黒褐色土	
第i層	2.5Y3/1	黒褐色土	ローム粒(φ2～8mm)多量 ・ロームブロック含,炭化粒 (φ2～3mm)少量,炭化粒 (φ2～3mm)少量
第h層	2.5Y3/1	黒褐色土	ローム粒(φ2～4mm)少量
第j層	2.5Y3/1	黒褐色土	パミス粒(φ3～5mm)少量, ローム粒(φ3～8mm)やや多量
第k層	2.5Y3/1	黒褐色土	木材含
第l層	2.5Y5/3	黄褐色土	暗灰黄色土(2.5Y5/2) ブロック状に少量,砂質土が 薄い層状に混入
第m層	2.5Y4/1	黄灰色砂	ローム粒(φ2～4mm)・ ブロック(φ12mm)少量
第n層	2.5Y3/1	黒褐色土	ローム粒(φ2mm)少量
第o層	2.5Y4/1	黄灰色土	黒褐色土粒(φ5mm)やや多量, ローム粒(φ5mm)やや多量
第p層	2.5Y4/1	黄灰色土	ローム粒(φ5～8mm)・ローム ブロック(φ20～30mm)多量, 黒色土粒(φ5～8mm)やや多量 ・ブロック(φ20mm)少量
第q層	2.5Y4/1	黄灰色土	ロームブロック(φ10mm)少量, 黒色土粒(φ3～10mm)少量
第r層	2.5Y4/1	黄灰色土	ローム粒(φ5mm)・ローム ブロック(φ10～20mm)やや多量, 砂質土層下部に混入
第s層	2.5Y3/1	黒褐色土	暗灰黄色土(2.5Y5/2)ブロック (φ20～50mm)やや多量, にぶい黄褐色(10YR5/4)ロームブロック (φ10～20mm)少量混入
第t層	2.5Y2/1	黒色土	地山崩落ブロック(φ40mm), 暗灰黄色(2.5Y5/2)ロームブロック (φ10～30mm)多量

SD-05

第①層	10YR3/2	黒褐色土	薄い層状に砂粒混入
第②層	10YR2/1	黒色土	根等多量
第③層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1～2mm)やや多量
第④層	10YR1.7/1	黒色土	パミス粒(φ1～2mm)少量
第⑤層	2.5Y3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1～2mm)少量
第⑥層	10YR3/1	黒褐色土	ロームブロック(φ10～30mm)北側に 少量混入
第⑦層	10YR4/1	褐灰色土	ローム粒・ブロック(φ5～10mm)多量, 砂質土層上部に層状に混入
第⑧層	2.5Y2/1	黒色土	パミス粒(φ2～3mm)少量,砂質土層中央に 層状に混入

SD-06

第1層	7.5YR3/1	黒褐色土	ロームブロック(10～20mm)少量,炭化粒 (φ5mm)少量,暗灰黄色土(2.5Y5/2)がブ ロック状に混入,層下部に薄い層状・ブ ロック状で砂粒混入
第2層	10YR4/1	褐色土	細砂少量
第3層	2.5Y4/1	黄灰色砂	ロームブロック(φ20mm)少量,粗砂縞状に 多量混入
第4層	2.5Y4/1	黄灰色砂	ロームブロック(φ40mm)少量,粗砂縞状に 多量,小礫(φ2～10mm)やや多量
第5層	7.5YR3/1	黒褐色土	ローム粒(φ5mm)微量

第34図　SD-01-1

２．溝跡

ＳＤ－０１（第３４・３５図）

Ａ区Ｘ92178.000,Ｙ-11504.000～Ｘ92171.000,Ｙ-11518.000付近で検出した。土地区画整理事業の調査区に延びるが調査区内での規模は幅２６４～３２３ｃｍ、深さ１４０ｃｍ、長さ（１５２０）ｃｍを測る。本調査区内の西隅部分で溝跡は北西方向に流路が曲がっており、その部分から発掘調査時にはＳＤ－０４という呼称を使用している。

本遺構は堆積状況から中～下層段階の使用の後、ＳＤ－０５の使用段階が入り、その後に上層の使用段階があるものと判断できる。古代の土器や木製品は中層～下層から主体的に出土し、扇、荷札木簡状木製品・馬形・斎串、編組製品、木器椀などの木製品は下層を中心に出土している。堆積状況は溝の各地点で様相は異なるが、調査区内については中層の下部にパミスブロック主体の堆積層が確認されることから埋没過程の途中で、流路としての画期があった可能性がある。

ＳＤ－０３（第３６・３７図）

Ａ区Ｘ92185.000,Ｙ-11513.000～Ｘ92182.000,Ｙ-11518.000付近で検出した。現代の用水により北側の部分が破壊されているため、幅については現存長であるが、幅（１４３）～（１７１）ｃｍ、深さ８７ｃｍ、長さ（６２２）ｃｍを測る。本遺構は調査区内ではＳＤ－０３ｂ・０３ｃとした溝跡と重複しており、また、調査区外ではＳＤ－０４と重複しているＳＤ－０４との関係は本遺構の方が新しく、ＳＤ－０３ｂ・０３ｃとの関係はいずれよりも本遺構の方が古い。調査区外の土地区画整理事業調査区内の下層の地点から物忌札が１点、「西」と底面に刻書された木器椀１点が出土している。堆積状況は急激な埋め戻しによる堆積状況を呈しており、層の撹拌等の要因が大きい。また、北側の一部には撹拌されていない土層堆積が認められることから埋没過程に流路の幅が狭くなった可能性が考慮される。

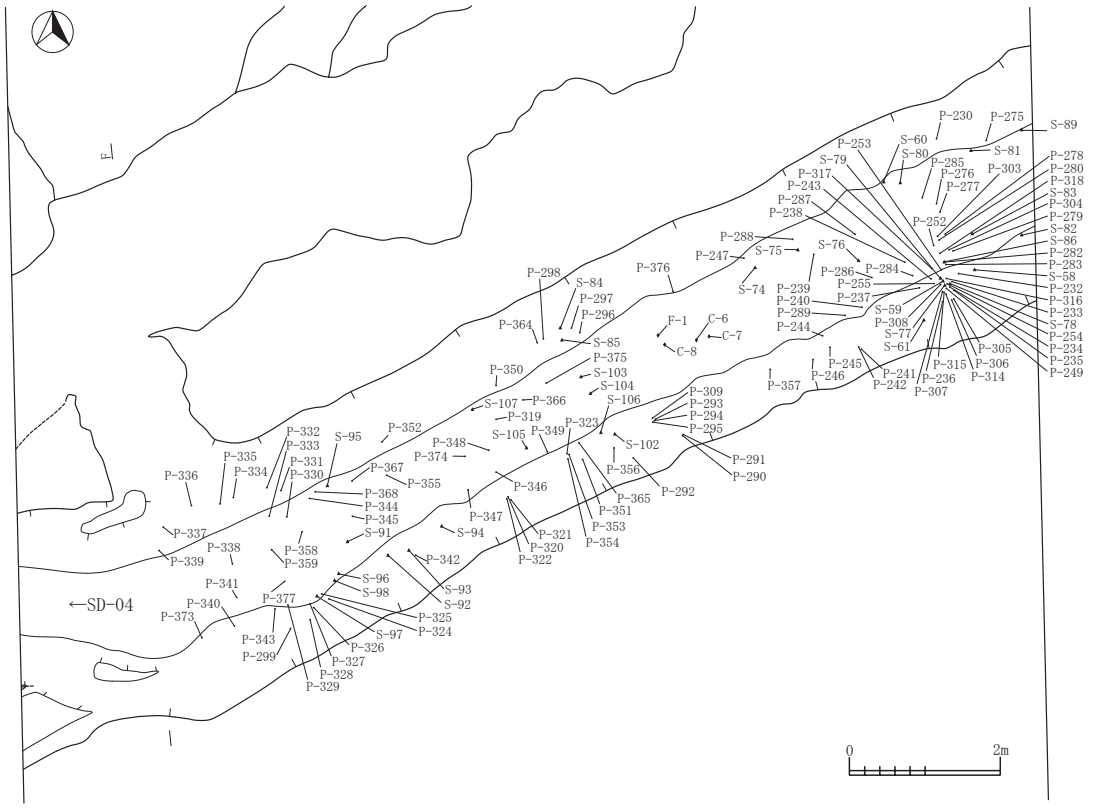
ＳＤ－０３ｂ（第３６・３７図）

Ａ区Ｘ92186.000,Ｙ-11508.000～Ｘ92183.000,Ｙ-11514.000付近で検出した。ＳＤ－０３同様北側の部分は現代の用水により破壊されており、また、一部についてはＳＤ－０３の調査優先で欠落している部分が西側の一部に存在している。上面に堆積する第①・②層の段階と下層に堆積する第③・④層の段階の間にＳＤ－０３ｃの第２段階と新段階の時期変遷が加わっており、流路の変遷が頻繁であった可能性がある。規模は古段階のものが幅８０ｃｍ以上、深さ６１ｃｍ、長さ４８４ｃｍ、新段階のものが幅１００ｃｍ、深さ２５ｃｍ、長さ６７０ｃｍを測る。

ＳＤ－０３ｃ（第３６・３７図）

Ａ区Ｘ92184.000,Ｙ-11508.000～Ｘ92174.000,Ｙ-11515.000付近で検出した。本遺構は前述のとおり、ＳＤ－０３ｂと取り扱ったものの時期変遷とも関連しており、本遺構名として取り扱ったものについても三時期にまたがっており、ＳＤ－０３ｂを含めた変遷は五段階にまたがる。古段階の資料は流路が現代の用水側に幅が広がっており、幅１００ｃｍ以上、深さ５６ｃｍを測り、長さは７５０ｃｍ以上と推定される。下層に堆積する第５層が縞状の黒色砂の堆積が認められることから、水量が少ないかあるいは澱んでいた状況であったと考えられる。その段階の後に東側の流路が現代の用水側にほぼ重複するような時期が存在する。西側の地点では幅１２０ｃｍ以上、深さ５５ｃｍを測り、長さ７００ｃｍ以上であると推定される。最終段階の資料は、ＳＤ－０３ｂの新段階の変遷を経た後の流路で、軸線がほぼ東西軸となっている。幅８０～１１５ｃｍ、深さ４０ｃｍ、長さ（８００）ｃｍを測る。新段階の資料については下層にパミスブロック主体の地山土が堆積しており、水が流れていた可能性が低い。

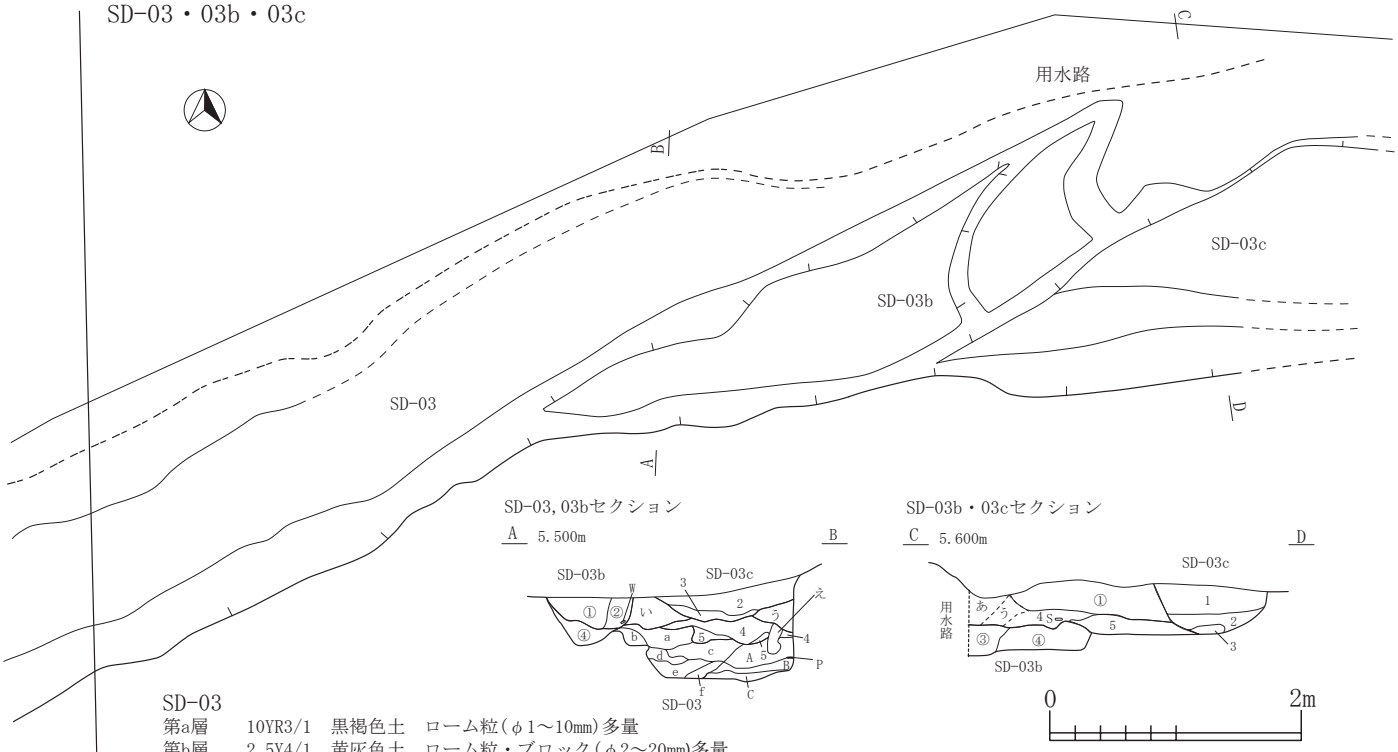
SD-01土器・石器



SD-01木製品

第 35 図　SD-01-2

SD-03・03b・03c



SD-03, 03bセクション

SD-03b・03cセクション

SD-03

第a層　10YR3/1　黒褐色土　ローム粒(φ1～10mm)多量
第b層　2.5Y4/1　黄灰色土　ローム粒・ブロック(φ2～20mm)多量
第c層　2.5Y3/1　黒褐色土　ローム粒･ブロック(φ2～20mm)やや多量,
黒色土粒(φ2～5mm)少量,砂粒少量混入
第d層　2.5Y2/1　黒色土　ローム粒(φ2～5mm)多量,
黄褐色土(2.5Y4/1)粒(φ5～10mm)少量
第e層　2.5Y4/1　黄灰色土　暗灰黄色土(2.5Y5/2)･灰オリーブ色土(5Y3/2)
ブロック(φ10～30mm)多量,黒色土粒(φ5mm)
やや多量
第f層　2.5Y4/1　黄灰色土　暗灰黄色土(2.5Y5/2)ブロック(φ10～20mm)
やや多量,黒色土粒(φ2～3mm)少量
第A層　7.5Y2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第B層　2.5Y4/3　オリーブ褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)中量
第C層　2.5Y5/2　暗灰黄色土　第e層の黄灰色土少量混入

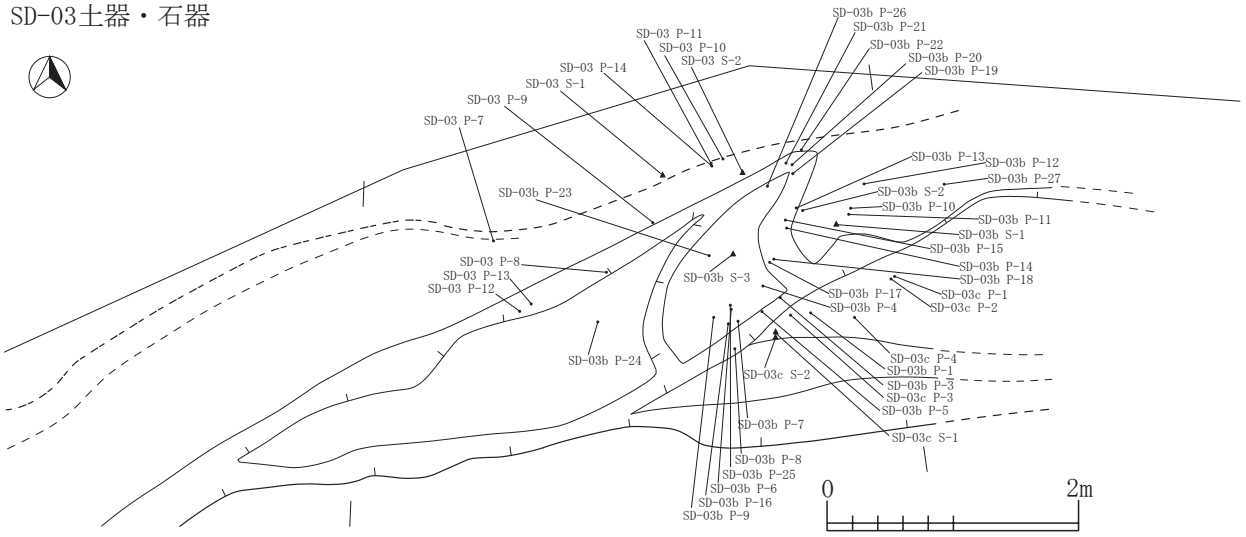
SD-03b

第①層 7.5YR3/1　黒褐色土　ローム粒･ブロック(φ5～20mm)
少量,脇に粗砂･小礫
ブロック状に混入
第②層 10YR4/2　灰黄褐色土 ローム粒(φ5～9mm)中量
第③層 2.5Y4/1　黄灰色土　ローム粒(φ1～5mm)少量
第④層 10YR3/1　黒褐色土　ローム粒･ブロック(φ1～30mm)
多量,炭化粒(φ2～5mm)少量,
褐灰色土(10YR4/1)ブロック
(φ10～20mm)層上部に少量混入

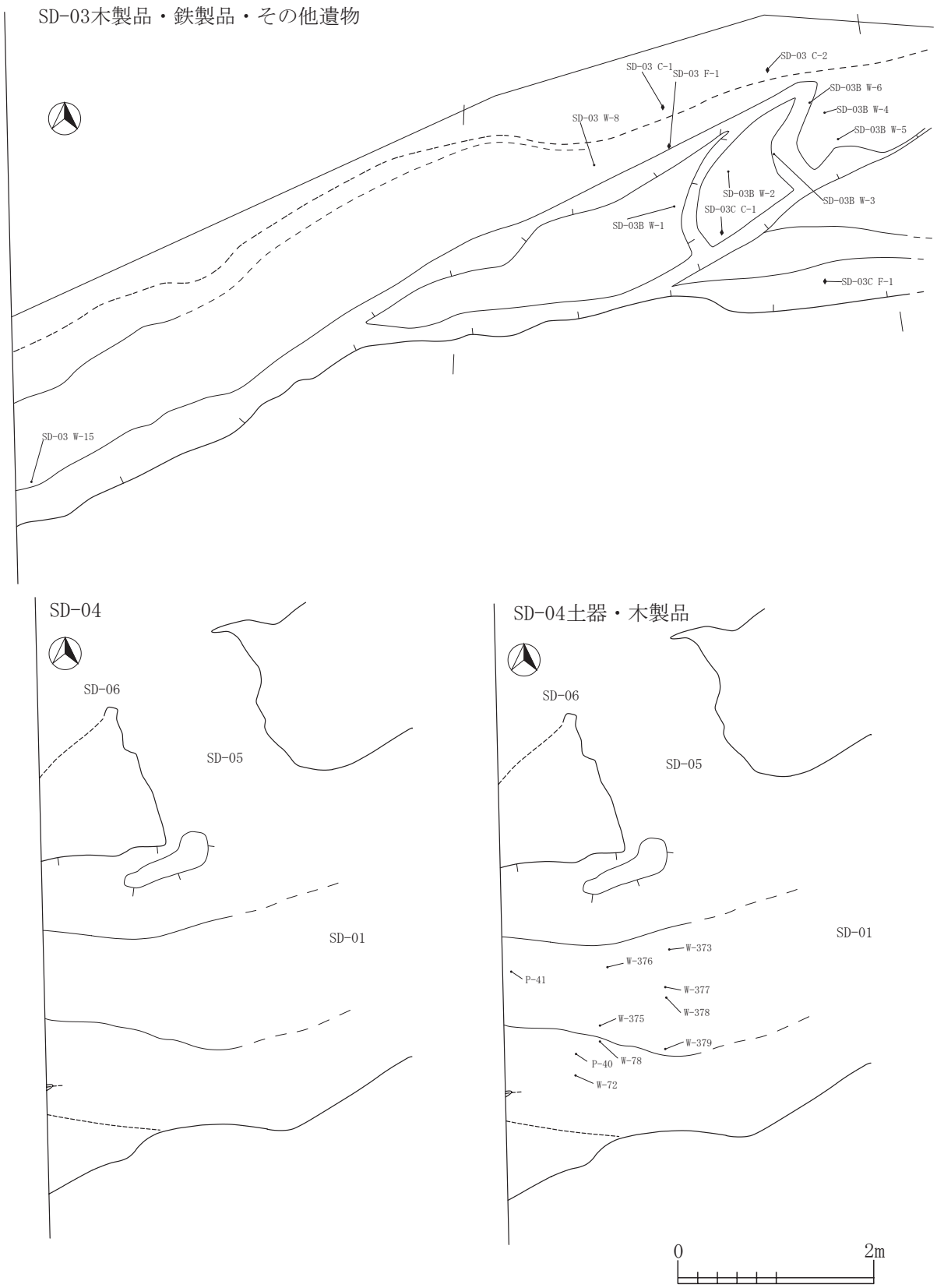
SD-03c

第１層 10YR4/2　灰黄褐色土　ローム粒･ブロック(φ1～20mm)
やや多量,若干砂混じり,鉄分を
多量含
第２層 7.5YR5/4 にぶい褐色土　明黄褐色(10YR6/6)ローム層
の下部にブロック混入
第３層 2.5Y4/1　黄灰色砂　黒褐色砂粒多量混入
第あ層 10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)微量
第い層 2.5Y3/1　黒褐色土　ローム粒･ブロック(φ1～12mm)やや多量
第う層 7.5YR3/1 黒褐色土　砂粒多量混入
第え層 2.5Y3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)微量
第４層 2.5Y3/1　黒褐色砂　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)少量
第５層 2.5Y3/1　黒褐色砂(縞状)　ローム粒(φ1～3mm)少量

SD-03土器・石器



第 36 図　SD-03-1



第 37 図　SD-03-2,SD-04

ＳＤ－０４（第３７図）

ＳＤ－０１の項目で記述したが、ＳＤ－０１がX92172.000,Y-11516.000付近で北西方向に蛇行しており、その部分から西側の部分についてＳＤ－０４として調査が実施されている。本調査区内では蛇行終点（西側が上流のため蛇行の実質的な始点は土地区画整理事業の調査区内に所在）部分の約２ｍ分の調査となった。規模としては幅２５９～２９０ｃｍ、深さ１３５ｃｍ、長さ１９５ｃｍを測る。ＳＤ－０１同様下層主体で木製品が出土している。

ＳＤ－０５（第３４・３８図）

Ａ区X92178.000,Y-11518.000～X92174.000,Y-11518.000付近で検出した。調査区内での規模は幅１３４～１５８ｃｍ、深さ５２ｃｍ、長さ５８０ｃｍを測る。なお、本遺構は土地区画整理事業の丘陵部分の溝跡と連結している。ＳＤ－０１・０６と重複しており、新旧関係はＳＤ－０１下～中層段階→ＳＤ－０５→ＳＤ－０１上層→ＳＤ－０６という関係である。

ＳＤ－０６（第３４・３８・３９図）

Ａ区X92181.000,Y-11510.000～X92175.000,Y-11518.000付近で検出した。調査区内の規模は幅１４７～２５６ｃｍ、深さ６４ｃｍ、長さ１１２０ｃｍを測る。ＳＤ－０５・０６ｂと重複しており、本遺構の方が新しい。なお、本遺構からは昭和１５年の一銭硬化やセルロイド製の櫛などが出土し、同軸線の流路換えと判断されるＳＤ－０６ｂについても近接した時期の帰属になると判断されたことからＳＤ－０６ｂについては上場のみの記録にとどめた。

ＳＤ－０８ａ（第４０・４１図）

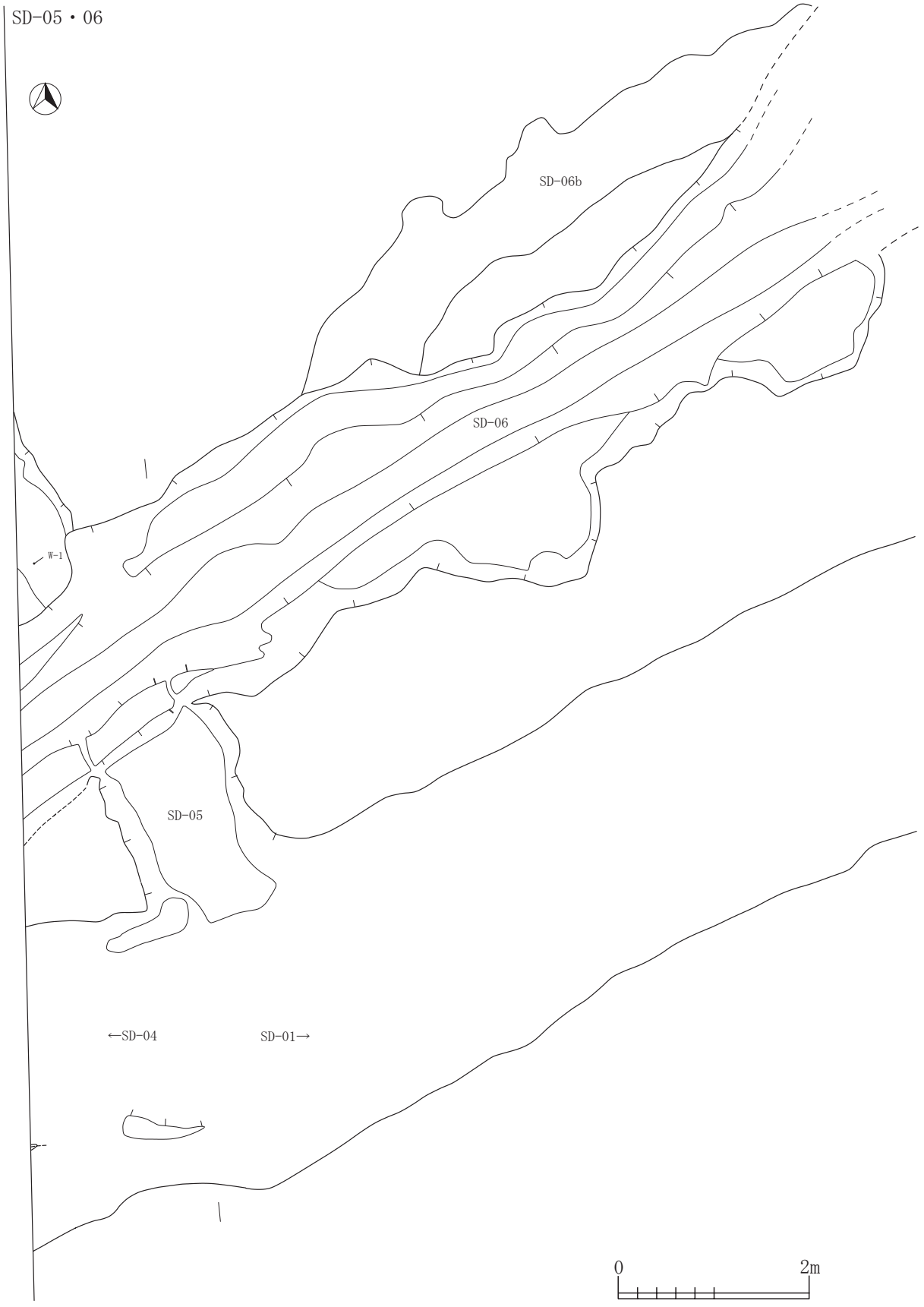
Ａ区X92168.000,Y-11509.000～X92165.000,Y-11514.000付近で検出した。ＳＤ－０８と重複している関係で部分的な調査にとどまった。検出部分の規模は幅５１～８１ｃｍ、深さ２１ｃｍ、長さ５７５ｃｍを測る。ＳＤ－０８・０８ｂと重複しており、新旧関係については、ＳＤ－０８下～中層→ＳＤ－０８ａ→ＳＤ－０８上層→ＳＤ－０８ｂという関係になっている。流路的にはＳＤ－０８ｂ側に延びている。

ＳＤ－０８（第４１～４３図）

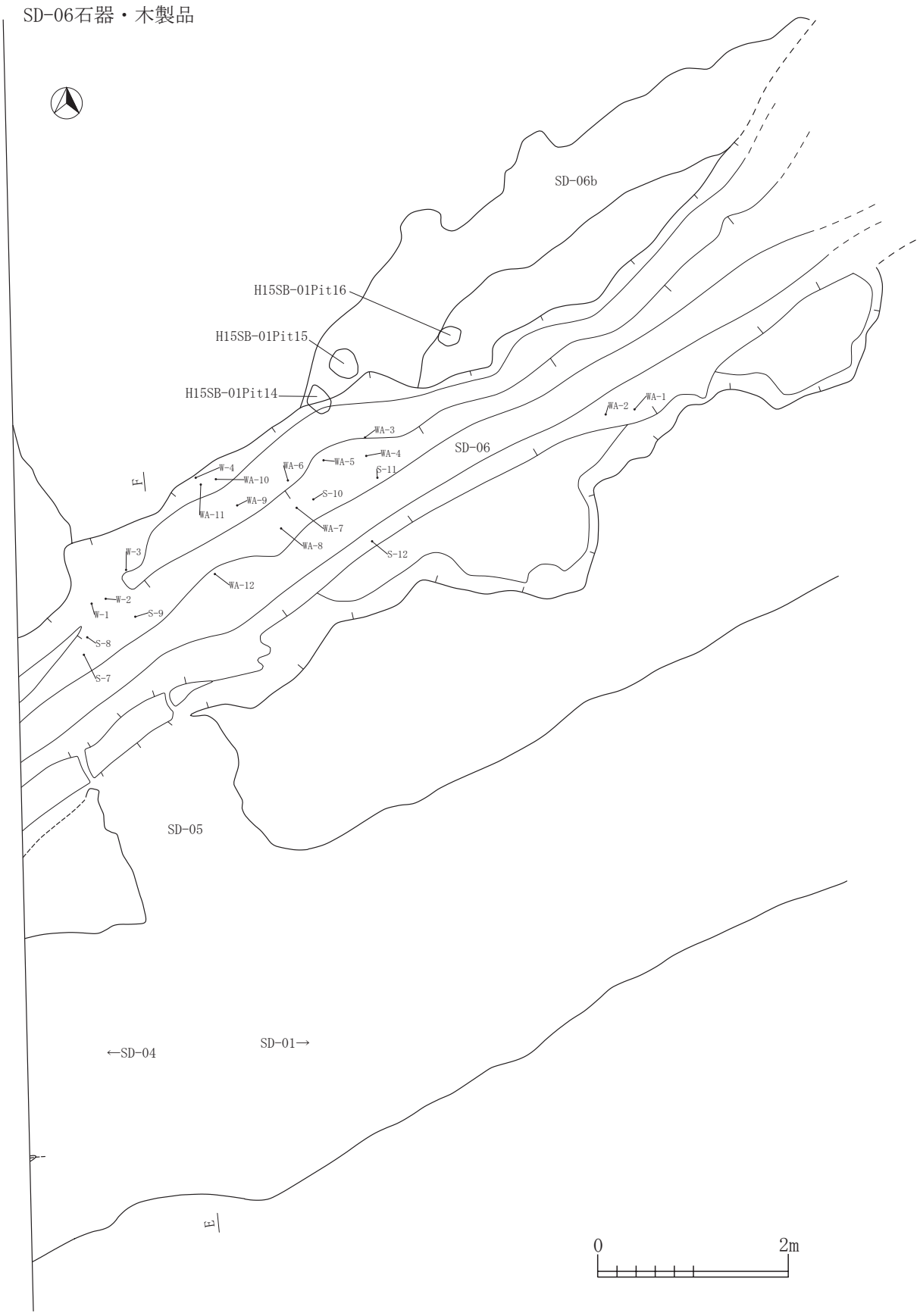
Ａ区X92168.000,Y-11504.000～X92165.000,Y-11517.000付近で検出した。ＳＤ－０１同様東西端は土地区画整理事業の調査区に延びている。調査区内の規模は幅１５７～２７０ｃｍ、深さ１６４ｃｍ、長さ１３９２ｃｍを測る。重複関係及び新旧関係については前述のＳＤ－０８ａの項目で記載したとおりである。本遺構はＢ－Ｔｍ火山灰が堆積する層を切った形で構築されており、構築については１０世紀の第２四半期以降の構築であると判断できる。溝底面は段状に掘削されており、テラス部分と底面との比高差は２０ｃｍ程度ある。水量の調節の機能がある。また、本遺構の中層から南側の壁面が脆弱な黒色土の堆積層側を中心に両端を削った杭状の木製品が列状に並んだ状態で検出した。

ＳＤ－０８ｂ（第４１図）

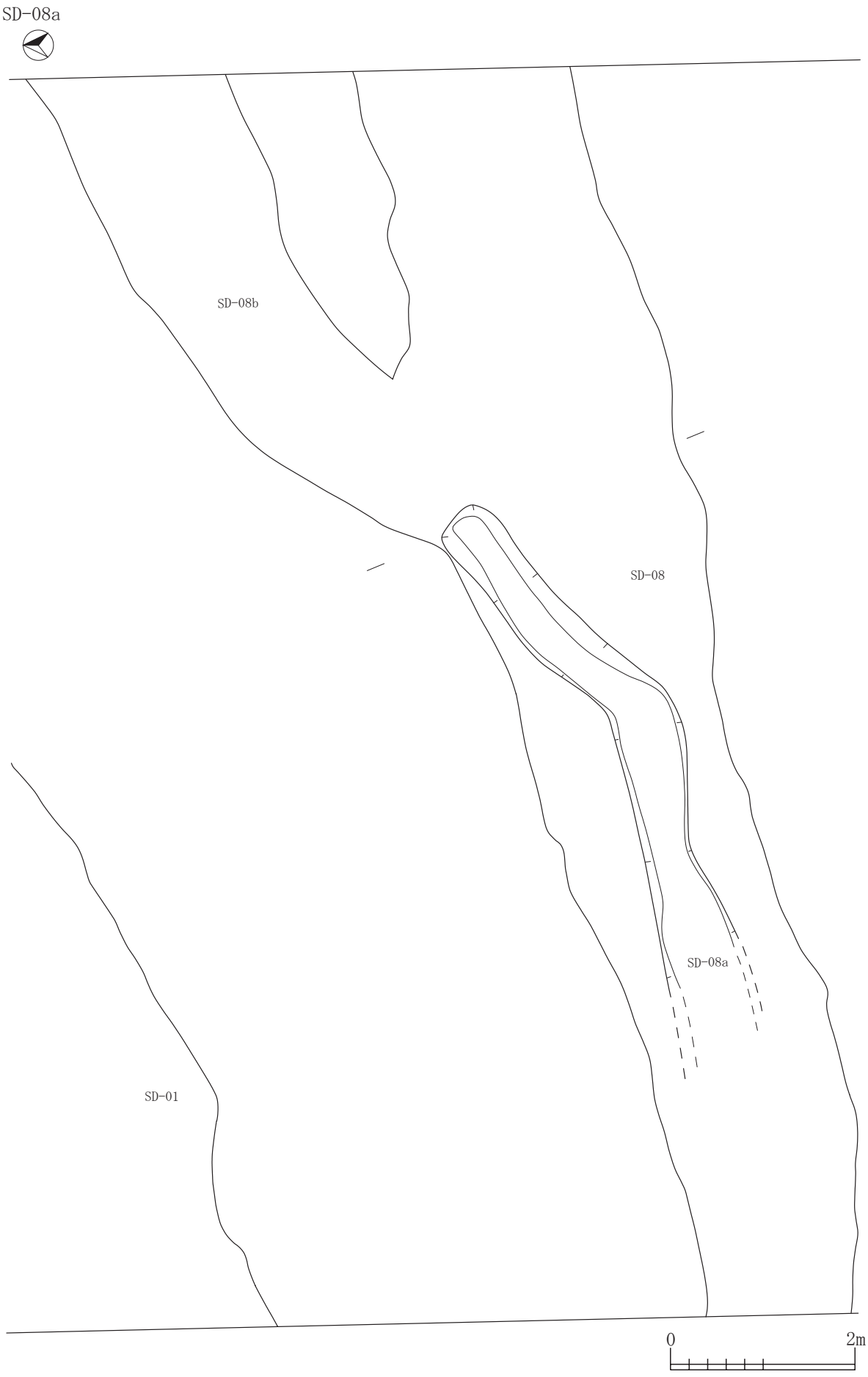
Ａ区X92172.000,Y-11504.000～X91169.000,Y-116508.000付近で検出した。ＳＤ－０８・０８ａと重複しており、東端は土地区画整理事業の調査区に延びている。調査区内の規模は幅１４３～１８６ｃｍ、深さ５０ｃｍ、長さ７２０ｃｍを測る。重複関係及び新旧関係については前述のとおりである。



第 38 図　SD-05,SD-06-1

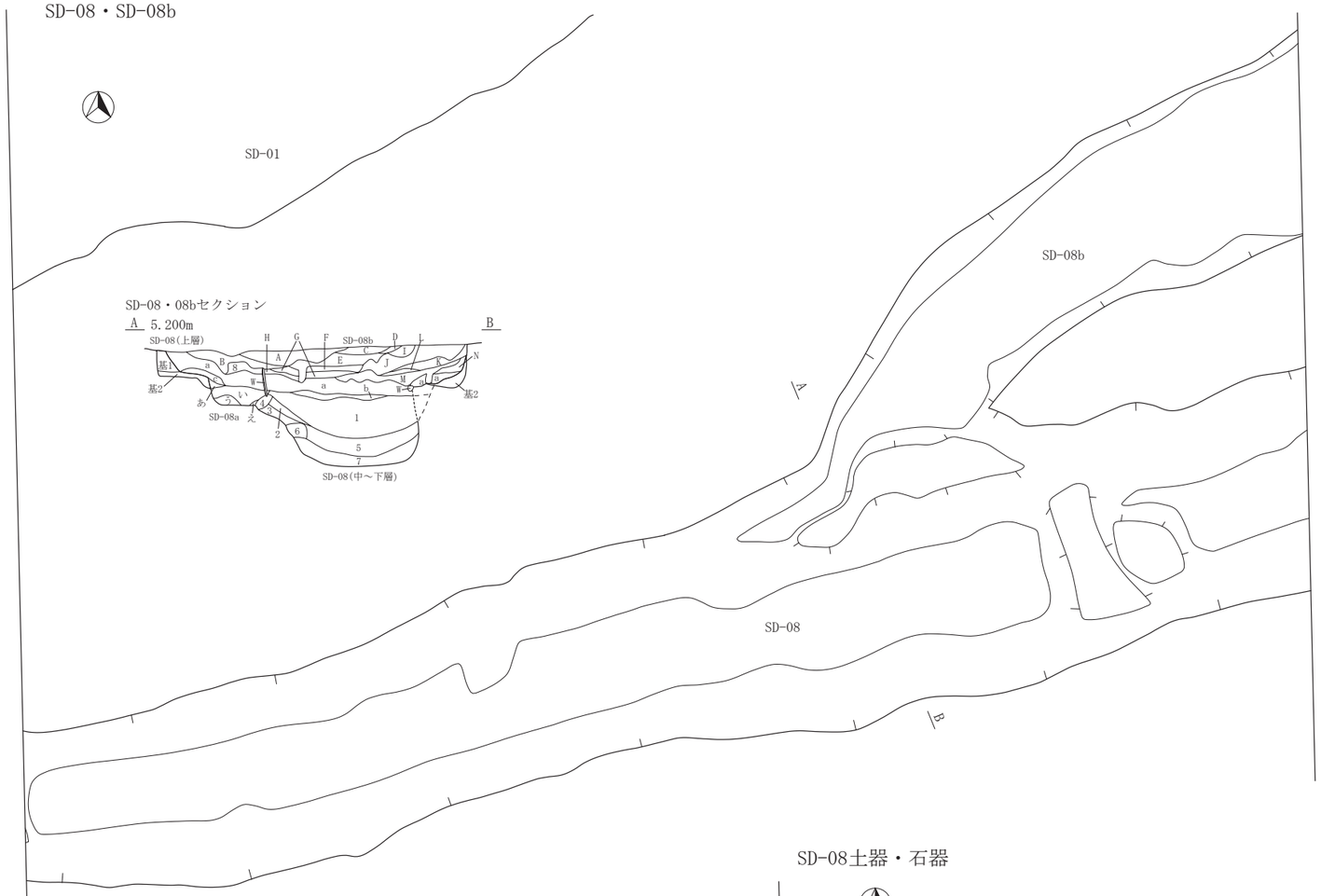

SD-06石器・木製品
SD-06b
H15SB-01Pit16
H15SB-01Pit15
H15SB-01Pit14
SD-06
SD-05
←SD-04
SD-01→
F
E
W-1
W-2
W-3
W-4
S-7
S-8
S-9
S-10
S-11
S-12
WA-1
WA-2
WA-3
WA-4
WA-5
WA-6
WA-7
WA-8
WA-9
WA-10
WA-11
WA-12
0
2m

第 39 図　SD-06-2



第 40 図　SD-08a

SD-08・SD-08b



SD-08(上層)
第a層　10YR3/1　黒褐色土　　パミスブロック(φ10～20㎜)中量,炭化粒・
炭化物(φ5～10㎜)中量,砂質ブロック(φ30㎜)微量
第b層　2.5Y4/3オリーブ灰パミスと砂の混合層　砂粒(φ1～5㎜)多量
第c層　10YR3/1　黒褐色土

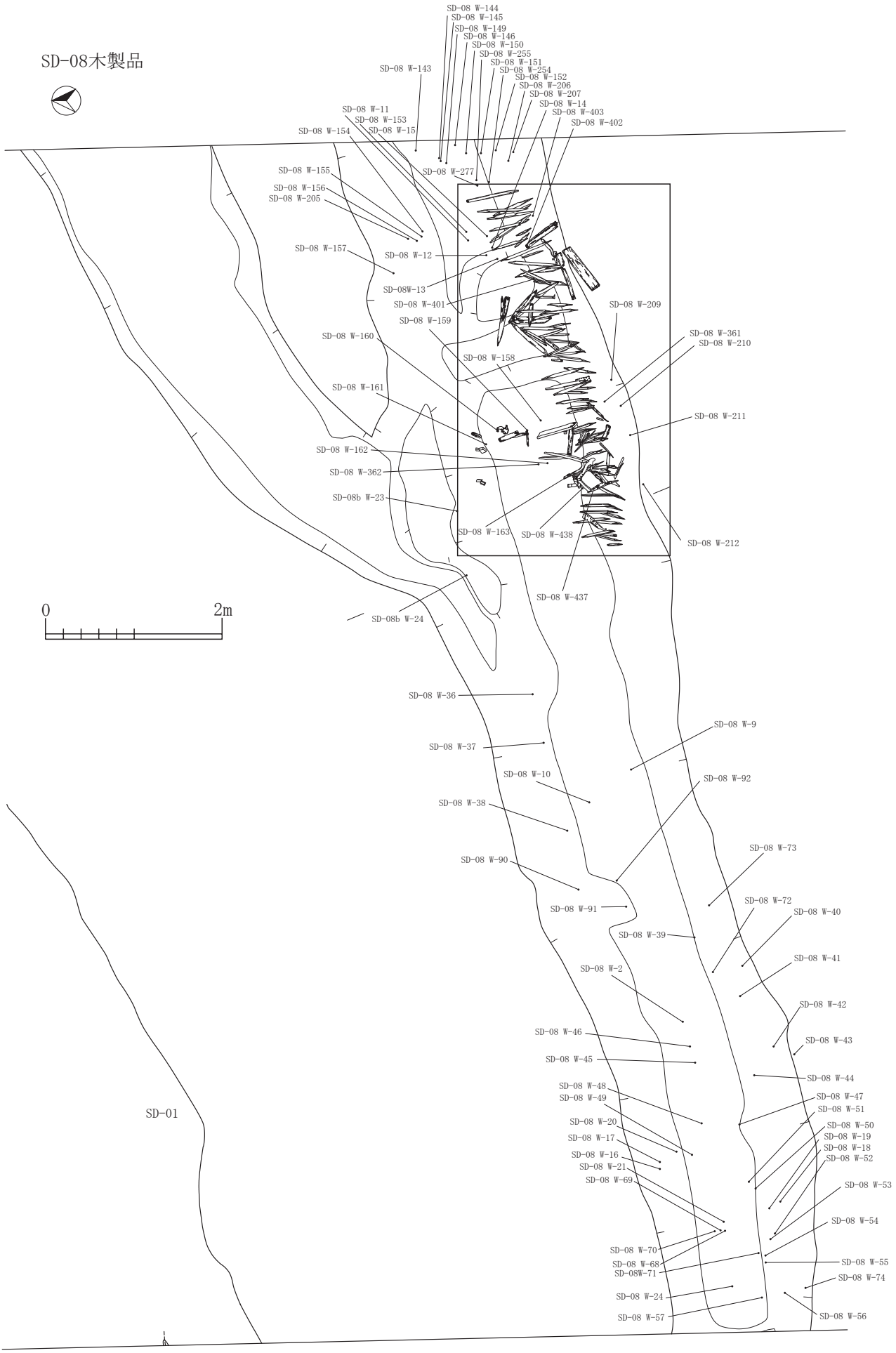
SD-08(中～下層)
第1層　10YR1.7/1 黒色土　　パミスブロック(φ10～40㎜)中量,砂粒(φ1～10㎜)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20㎜)多量,砂粒(φ1～5㎜)極多量
第3層　10YR2/2　黒褐色土
第4層　2.5Y5/3　黄褐色土パミス　崩落ブロック①
第5層　2.5Y3/1　黒褐色土　有機物中量
第6層　2.5Y4/6　オリーブ褐色土　崩落ブロック②
第7層　2.5Y2/1　黒色土　　青灰色粘土ブロック(φ20～30㎜)中量

SD-08a
第あ層　10YR2/3　　黒褐色土
第い層　10YR1.7/1　黒色土　　ロームブロック(φ20～30㎜)中量
第う層　10YR4/3　　にぶい黄褐色パミス混じりシルト　パミス粒・ブロック(φ1～30㎜)多量,
ローム粒・ブロック(φ1～30㎜)多量
第え層　10YR3/2　　黒褐色砂混じりシルト　砂粒(φ5㎜)多量

SD-08b
第A層　10YR5/3　にぶい黄褐色砂　　砂粒(φ1～10㎜程度)主体,粘質土ブロック
(φ10～15㎜)微量
第B層　10YR4/1　褐灰色砂　　砂粒(φ5～10㎜程度)主体(粘質土混じり)
第C層　10YR5/4　にぶい黄褐色パミス　砂粒(φ1～5㎜)中量
第D層　10YR2/2　黒褐色土　　パミス粒・ブロック(φ1～15㎜)中量
第E層　10YR6/3　にぶい黄橙色砂　　砂粒(φ1㎜程度)主体,暗褐色土(10YR3/3)ブロック(φ50～100㎜)少量,
ピット状の落ち込み部分は粒度の粗い砂礫(φ3～15㎜)が堆積
第F層　10YR3/2　黒褐色粘質土　　砂粒(φ1～5㎜)層状に堆積
第G層　10YR4/2　灰黄褐色粘質土　有機質腐食土が縞状に堆積,層下面に炭化物層
局所的に確認
第H層　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト質粘質土　褐灰色土(10YR4/1)が縞状に堆積
第I層　10YR2/2　黒褐色シルト・砂・粘土の混合層　パミスブロック(φ10～30㎜)少量,砂粒(φ1～5㎜)多量
第J層　10YR3/2　黒色粘質土　　黒褐色土(10YR2/2)と暗褐色土(10YR3/3)が縞状に混合した状態で堆積
第K層　10YR2/2　黒褐色土　　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
第L層　10YR5/3　にぶい黄褐色砂(パミス起源)　粒度のきめ細かい砂粒(φ1～2㎜)多量
第M層　10YR3/1　黒褐色土
第N層　10YR5/3　にぶい黄褐色土

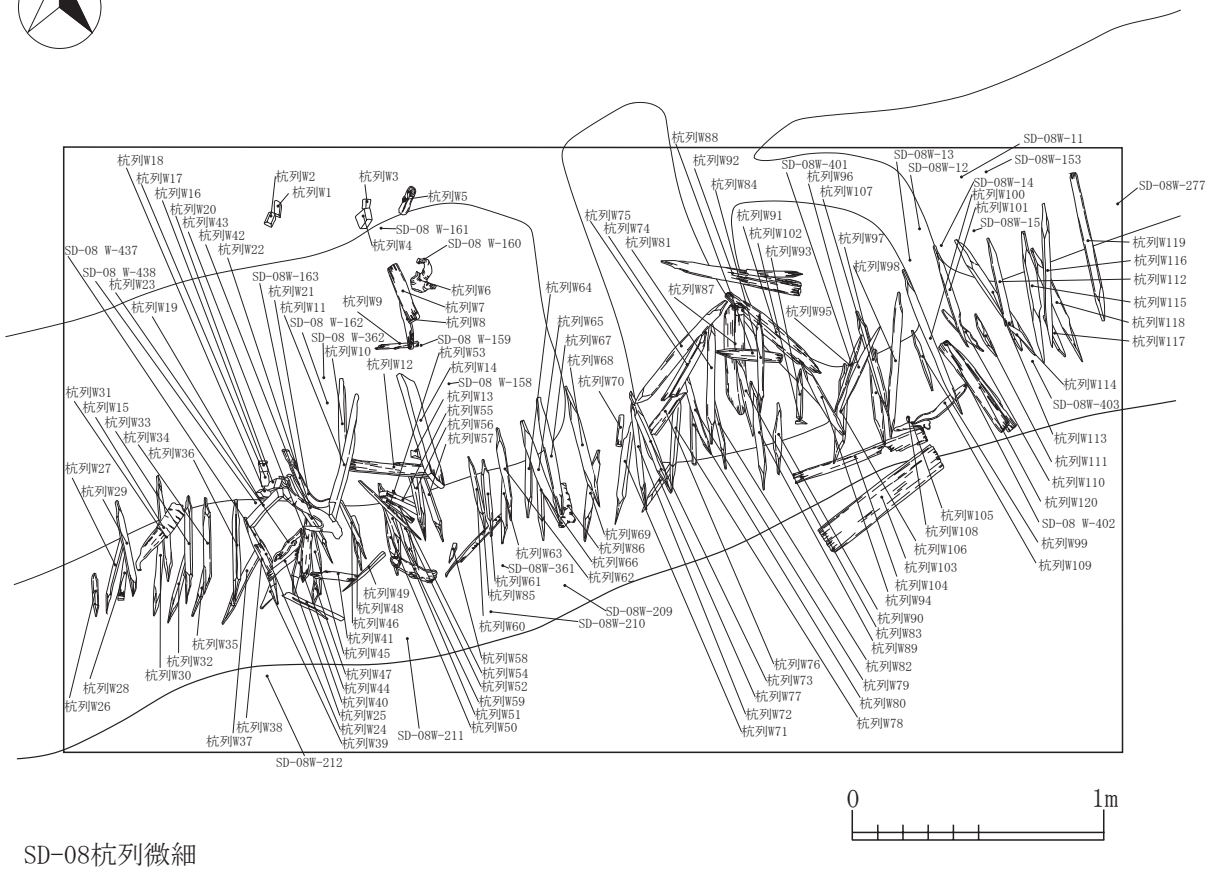
SD-08土器・石器

第41図　SD-08-1,SD-08b


SD-08木製品
SD-08 W-144
SD-08 W-145
SD-08 W-149
SD-08 W-146
SD-08 W-150
SD-08 W-255
SD-08 W-151
SD-08 W-254
SD-08 W-152
SD-08 W-206
SD-08 W-207
SD-08 W-14
SD-08 W-403
SD-08 W-402
SD-08 W-143
SD-08 W-11
SD-08 W-153
SD-08 W-154
SD-08 W-15
SD-08 W-155
SD-08 W-277
SD-08 W-156
SD-08 W-205
SD-08 W-157
SD-08 W-12
SD-08W-13
SD-08 W-401
SD-08 W-209
SD-08 W-159
SD-08 W-361
SD-08 W-160
SD-08 W-210
SD-08 W-158
SD-08 W-161
SD-08 W-211
SD-08 W-162
SD-08 W-362
SD-08b W-23
SD-08 W-163
SD-08 W-438
SD-08 W-212
SD-08 W-437
0
2m
SD-08b W-24
SD-08 W-36
SD-08 W-9
SD-08 W-37
SD-08 W-10
SD-08 W-92
SD-08 W-38
SD-08 W-73
SD-08 W-90
SD-08 W-72
SD-08 W-91
SD-08 W-40
SD-08 W-39
SD-08 W-41
SD-08 W-2
SD-08 W-42
SD-08 W-46
SD-08 W-43
SD-08 W-45
SD-08 W-44
SD-08 W-48
SD-08 W-47
SD-08 W-49
SD-08 W-51
SD-08 W-20
SD-08 W-50
SD-08 W-17
SD-08 W-19
SD-08 W-16
SD-08 W-18
SD-08 W-21
SD-08 W-52
SD-08 W-69
SD-08 W-53
SD-08 W-54
SD-08 W-70
SD-08 W-68
SD-08 W-55
SD-08W-71
SD-08 W-74
SD-08 W-24
SD-08 W-57
SD-08 W-56
SD-01

第 42 図　SD-08-2

SD-08杭列微細



SD-08杭列微細

第 43 図　SD-08-3

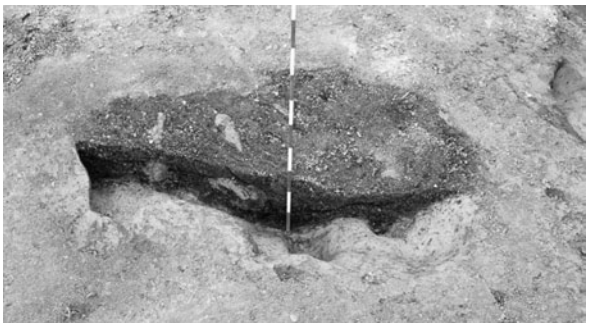


写真79 H15SB-01Pit1・2セクション(SE→)

写真80 H15SB-01Pit3遺物出土状況(SE→)

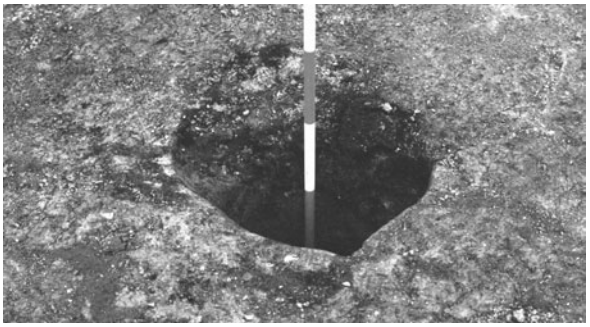


写真81 H15SB-01Pit4セクション(S→)

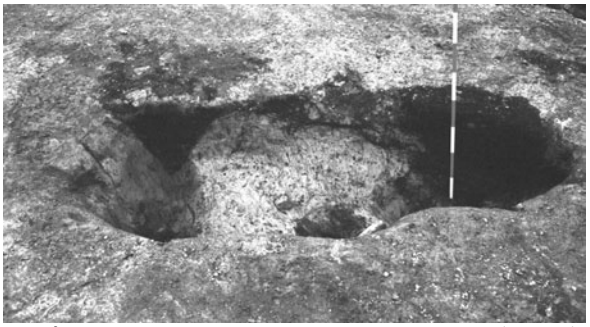


写真82 H15SB-01Pit5・7・8セクション(SE→)

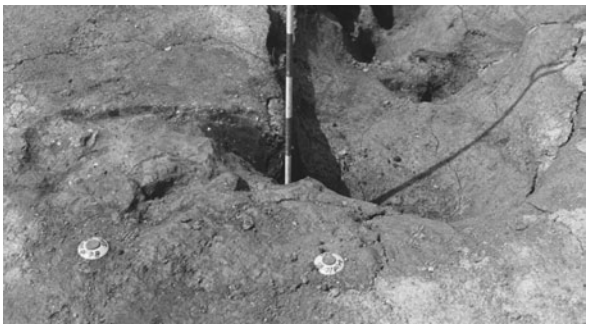


写真83 H15SB-01Pit5セクション(SW→)

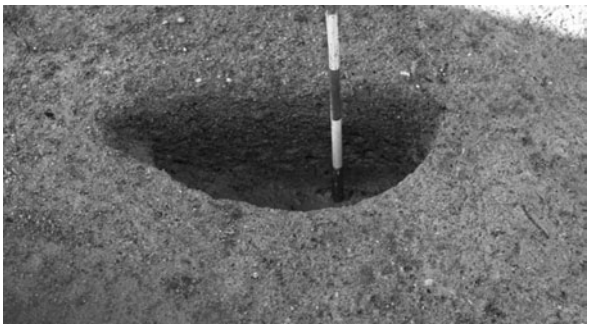


写真84 H15SB-01Pit10セクション(SW→)

写真85 H15SB-01Pit11・12セクション(SE→)

写真86 H15SB-01Pit14セクション(E→)

写真87 H15SB-01Pit15セクション(E→)

写真88 H15SB-01Pit16セクション(N→)

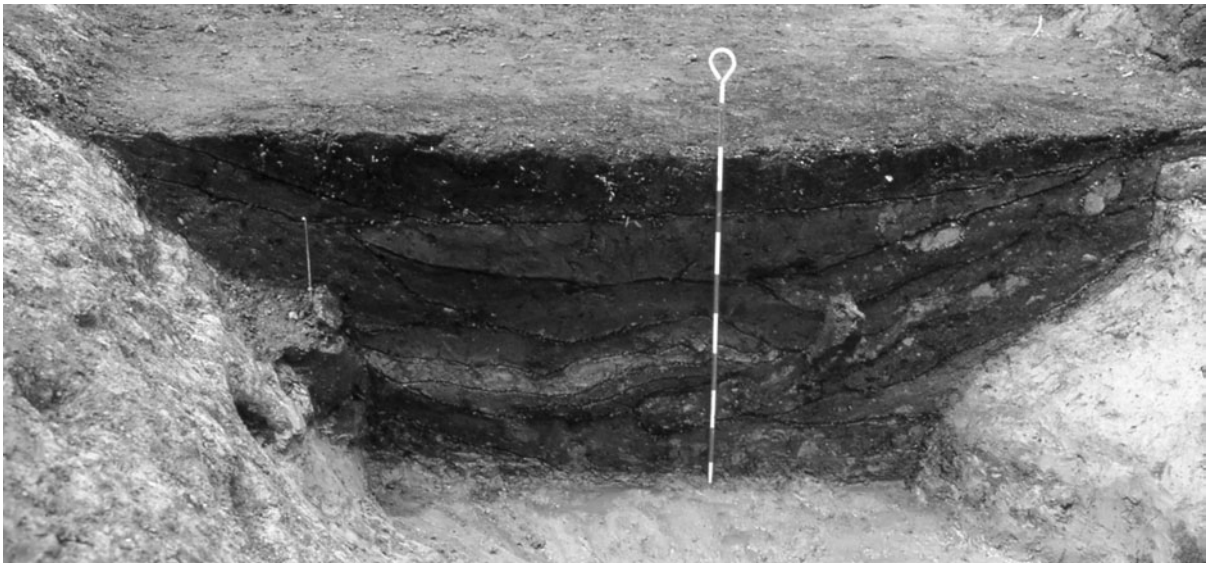


写真89 SD-01セクション(E→)

写真90 SD-01下駄出土状況(N→)

写真91 SD-01菰槌出土状況(N→)

写真92 SD-01菰槌?出土状況(E→)

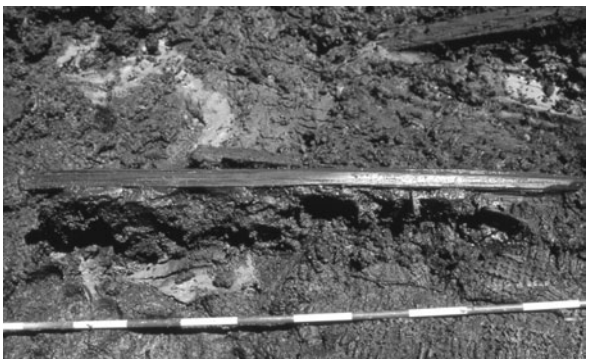


写真93 SD-01木製品出土状況

写真94 SD-01木器椀・瓢箪出土状況(N→)

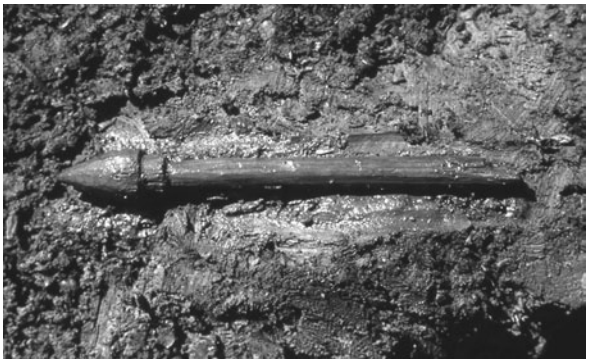


写真95 SD-01木製品出土状況(S→)

写真96 SD-01斎串出土状況(N→)

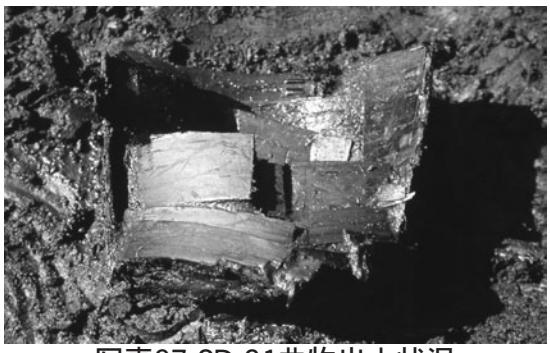


写真97 SD-01曲物出土状況

写真98 SD-01扇出土状況(N→)

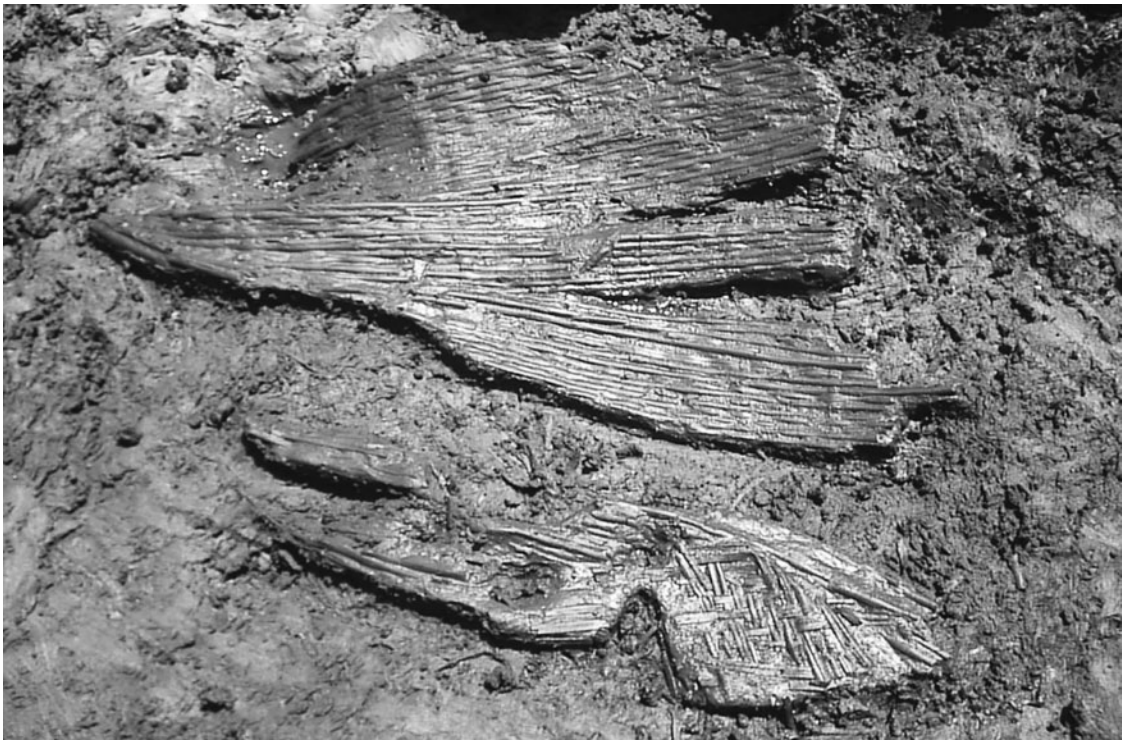


写真99 SD-01編組製品出土状況(N→)

写真100 SD-01木簡状木製品出土状況(N→)

写真101 W-851～873拡大(N→)

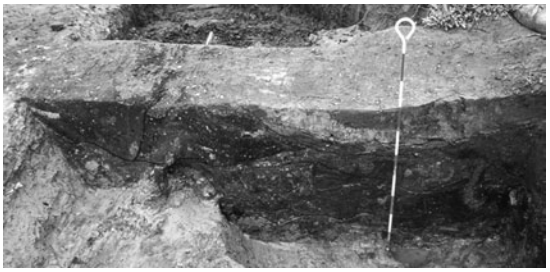


写真102 SD-03・03b・03cセクション(E→)

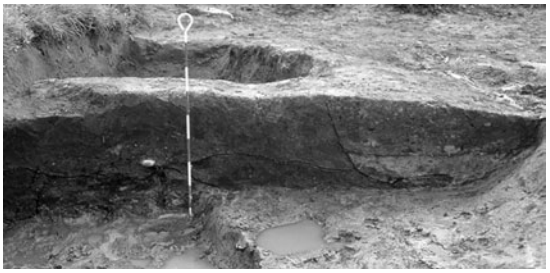


写真103 SD-03b・03cセクション(W→)

写真104 SD-05セクション(E→)

写真105 SD-06セクション(E→)

写真106 SD-08・08a・08bセクション(W→)

写真107 SD-08杭列検出状況(N→)

写真108 SD-03木簡出土状況(S→)

写真109 SD-08木製品出土状況(S→)

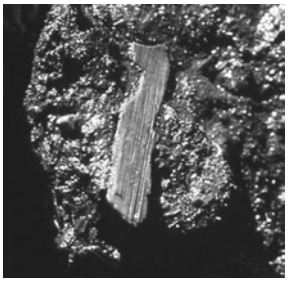


写真111 SD-08馬形(E→)

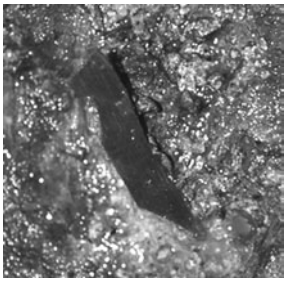


写真112 SD-08馬形(E→)

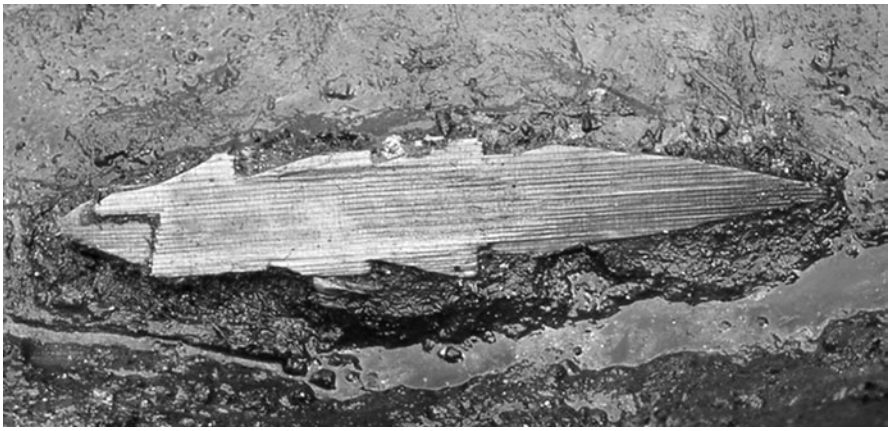


写真110 SD－08斎串(木簡)出土状況(W→)

写真113 SD-08馬形(E→)

第２節 遺物

１.土器

新田（１）遺跡の土器については山形市教育委員会の武田和宏氏が紹介したブラシを使用しない洗浄方法について（武田 2003）具体的に実践した。その結果、遺物の破断面について出土時点での情報の欠落が少なくなり、破片化した時点での状況について検討できる状況となった。そこで、新田（１）遺跡の土器資料については破断面の情報についても記述することとする。

Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ３（第４４図－１）

１点図示した。１は堆積土２層から出土した珠州焼甕の体部資料で条線の細かな叩き目が施されている。色調は明るめな褐灰色を呈する。

ＳＤ－０１（第４４図－２～１７）

１６点図示した。調査区内の本遺構で出土した資料は全体形の追える資料が少ない状況にある。本遺構は第１節の項目内で記述したが、上層と中層～下層との間に他の流路が介在する時期的な断絶が確認されており、初期の段階の資料は中～下層にかけての資料が該当する。中層と下層の接合資料については２～４の資料が該当する。２は土師器椀で、口径１４.６ｃｍ、器高５.８ｃｍ、底径５.８ｃｍを測り、器高・底径指数とも３９.７である。胎土中に海綿骨針を含むが、パサパサした質感を有する胎土で、器形は楕円形に撓んだおり、断面形は逆ハ字状を呈しており、外面側の口縁部直下には浅い稜が観察される。内面側は体部中半から布等を当てたことにより、面的に砂粒が動いた痕跡が観察される。底部切離しは右回転糸切である。３は非黒色処理の土師器椀で、口径１２.４ｃｍを測る。器面が内外面とも磨かれているので、観察箇所が限られるが、観察可能な箇所では海綿骨針がなく、砂粒・赤色粒が少ない状況にある。内外面ともヘラミガキによる調整であるが、外面側はやや粗雑で右上がりの方向主体で工具の幅も広めな痕跡が観察される。内面は通常の黒色土器同様交差と平行が基本である。４は内黒の土師器広口壺で、口径１０.６ｃｍを測る。廃棄後流動した可能性が高い資料で、内外面とも剥落が著しく、破断面についても摩滅より、丸みを帯び接合面に空隙が多い状況である。海綿骨針を含む粘りのある胎土で、外面の色調は赤みの強い色調であるが、中層出土の破片は退色が著しい状況にある。内外面ともヘラミガキによる調整で精緻に磨かれている。黒色処理については口縁部の一部が黒色処理が不十分であるが、それ以外については十分黒色化されている。５は中層出土の土師器把手付小甕の把手部である。破断面が摩滅により丸みを帯びていることから破片化した状態で流動していた可能性が高い資料である。ヘラによる調整がされている。６は中層出土の須恵器壺の体部資料である。砂礫をやや多く含む胎土で、骨針は観察箇所からは見つからなかった。内外面ともロクロナデによる調整痕が観察される。

７～１７が下層出土の資料である。７は土師器椀で口径１４.８ｃｍを測る。砂粒を多く含む胎土で、海綿骨針も少量混入している。破断面に関しては鋭利な状態であるが、内面の口唇部が全面にわたって打ち欠かれており、その部分については摩滅した痕跡が観察される。器形は口縁部付近から緩やかに外反する。８は土師器皿で、口径１２.６ｃｍを測る。砂粒が少なく、海綿骨針を含まない胎土で、ザラザラした質感を有する。口縁部のみの資料ではあるが、９などと同様に体部に膨らみを持つ形状であったものと考えられる。口縁部は口唇部付近で軽く折り曲げたような形状で、内面口唇部は面取りされており、鋭利な形状を呈する口唇部となっている。９は土師器皿で、口径１３.８ｃｍ、器高３.５ｃｍ、底径６.０ｃｍを測り、器高指数２５.４、底径指数４３.５を測る。海綿骨針を含むややパサパサした質感を有する胎

土で、礫を含んだ箇所は膨張し、膨んだ箇所が観察される。本資料は意図的なＶ字形の打欠痕が３カ所観察され、不定形の欠損部分の内面側にはスス状の炭化物が観察される。また、炭化物付着部分の対面側の口縁部は二次被熱による変色が生じており、使用の継続幅が転用も含めて長い資料であると判断される。底部切離しは右回転糸切である。１０は土師器椀の底部資料で、底径６．０ｃｍを測る。胎土は９と類似しており、海綿骨針を多量含む。内面側が洗浄痕と推定される擦痕が顕著で、使用の頻度が高かったものと推定される。底部切離しは右回転糸切である。１１は非ロクロ土師器椀の底部資料で底径６．２ｃｍを測る。流動の要因が大きく、器面は摩滅・退色しており、破断面についても丸みを帯びた箇所が多く観察される。海綿骨針を微量含む粘りのある胎土である。内面側にヘラによる調整痕が観察され、底面には網代痕が観察される。１２～１５は下層出土の土師器甕の口縁部資料である。１２は口径１８．６ｃｍを測る。甕としては硬質なザラザラした質感を有する胎土で、剥落した箇所について摩滅した状況が観察でき、破片化した状況で流動した可能性がある。外面は口唇部直下までススが付着しているが剥落部分には付着が見られない。頸部の幅が短く、口唇部は丸みを帯びた形状で、口唇部直下までヘラによる抉りが顕著である。１３は口径１８．８ｃｍを測る。内外面とも付着物が付着していることから元々の胎土の観察が難しい状況にあるが、露体部分の観察した限りでは１５と類似した胎土で、砂粒を多く含むやや粘りのある胎土である。口縁部は折り曲げたような形状を呈しており、内面のナデが顕著である。１４は口径１５．８ｃｍを測る。流動の要因が高く器面及び破断面が摩滅により摩耗・退色している状況である。短頸化が著しい器形で、つまみ返すように折り返し強くなでることによって口縁部を作出している。１５は口径１８．４ｃｍを測る。１３と類似した胎土である。口縁部がヘラによるナデ上げが行き届いている箇所は頸部が短い形状を呈するが、調整が及ばず輪積痕が残存する箇所は幾分緩やかな括れを有する形状である。内面側の頸部にはヘラによる調整痕が連続して段状に残存している。１６は須恵器の壺の体部片で内面は緩やかな横方向のナデ、外面は縦方向のヘラケズリによる調整である。内面にススが付着しているが、破断面に及んでいない。１７は半裁竹管による押し引き沈線文で縄文時代前期初頭早稲田６類に属する。

ＳＤ－０３（第４５図－１８～２０）

３点図示した。なお、本遺構はＳＤ－０１同様複数の時期変遷を経た資料であり、上層と取り扱ったものと下層と取り扱ったものとの間にはかなりの時期幅が存在する。１８は上層出土の青磁碗で底径５．０ｃｍを測る。青磁碗Ｂ－４類で図示していないが内面見込みの一部に線描き蓮弁文の一部が残存している。１９は上層出土の縄文地文にＬＲ縄文が施された後、体部上半には幅広の工具により連繋入組文ないしは横位連続工字文が施されている。縄文時代晩期大洞C_2～Ａ式期に属する。２０は下層出土の土師器甕で、口径２１．６ｃｍを測る。破断面の一部に被熱があるが、割れ口には摩滅がほとんどないことから破片化した状態で廃棄され、出土地点付近に存在していたものと考えられる。短頸化したタイプで胎土はやや硬質なザラザラしたタイプである。外面のヘラは口唇部直下まで一部及んでいるものもあるが頸部付近で粘土が寄せられている箇所がある。内面は頸部以下を横方向のヘラによるナデが施された後、指等によるナデによる調整がされている。

ＳＤ－０３ｂ（第４５図－２１～３３）

１３点図示した。２１～２９が上層出土、３０～３３が下層出土という取扱いである。２１は白磁碗で、底径６．５ｃｍを測る。外面側は釉がかかっておらず、内面側も非常に薄い状態である。１３世紀末～１４世紀前半の帰属する。２２は青磁の鉢ないし碗の口縁部資料で、口径１３．０ｃｍを測る。薄手の作りで口縁部はつまみ返したように外反させている。１４世紀後半～１５世紀前半に帰属する。２３は上

層出土の珠洲焼の壺で体部中～下半にかけての資料である。ロクロナデによる調整で、外面には「＼」がヘラ描きされている。２４は土師器椀の底部資料で、底径８．８ｃｍである。破断面は摩滅により丸みを帯びている。粘りのある胎土で砂粒等の混入も少ない。底部が非常に薄作りであるが、大型品になるものと思われる。粘土紐の接合痕が観察されることから巻上げ成形後、調整・切離しにおいてロクロ回転を利用しているものと考えられる。２５は土師器椀で、底径５．０ｃｍを測る。流動の要因が大きく、摩滅・退色が著しい。海綿骨針を多く含むややザラザラした質感を有する胎土で、内面側にはススが付着している。底部切離しは右回転糸切である。２６は土師器椀底部資料で、底径（７．６）ｃｍを測る。流動の可能性が強く摩滅・剥落・退色が著しい。砂粒を多く含むパサパサした質感を有する胎土で、輝石の混入が顕著に見られる。底部切離しは静止糸切である。２７は土師器甕底部で底径８．４ｃｍを測る。流動の要因が高く破断面の摩滅が著しい。砂粒をやや多く含む硬質な胎土で、外面は底部側から上方向に向かったヘラケズリ、内面は横方向のヘラナデによる調整である。底部は簾状の網代痕である。２８は縄文土器の底部に近い体部資料で外面は斜位にＲＬ縄文が施され、内面はナデによる調整である。詳細な時期は不明であるが、縄文時代前期初頭に属すると考えられる。２９は同様に縄文土器の破片資料で、外面には樹皮等による太い原体によるループ文が施されており、縄文時代前期初頭表館式に属する。３０は須恵器体部片で断面がチョコレート色を呈している。海綿骨針が微量含まれる。３１は擦文土器で、摩滅の状況が著しい。流動により器面の砂粒が露出した状態で、粘りのある胎土である。綾杉状の刺突文が施される。３２は擦文土器の体部片で、３１同様摩滅等の要因がある。やや硬質でザラザラした質感を有する胎土で、内面側に炭化物が付着している。外面はハケメによる調整の後、綾杉状の沈線文を施している。３３は摩滅・剥離が著しい破片資料であるが、胎土の特徴が擦文土器と類することから、擦文土器として取り扱った。粒度の細かい砂粒を多く含むザラザラした質感を有する胎土で、粘土紐の接合痕の目に沿って剥落している。摩滅が著しく、器面・破断面等の摩滅が著しい。外面に沈線が二条施される。

ＳＤ－０３ｃ（第４５図－３４～３９）

６点図示した。上層出土が３４～３６、下層出土が３７～３９である。３４は非ロクロの土師器椀で口径（１３．６）ｃｍ、を測る。輝石を多く含む粘りのある胎土で、摩滅が著しく、破断面についても丸みを帯びている。巻上げ成形痕がわずかに残存しているが、ほとんど撫で消されている。３５は縄文土器の体部片で、摩滅が著しい。多軸絡条体が施されている。縄文時代前期末～中期初頭に帰属すると考えられる。３６はＳＤ－０３ｂ出土の２９と類似した縄文土器片であるが、摩滅が２９に比べて著しい状況である。表館式に帰属する。３７は明確な産地不詳の陶器の鉢で、信楽にも類似した胎土である。１４世紀後半～１５世紀前半に帰属する。３８は珠洲焼の擂鉢で卸目が細かくつけられている。１５世紀後半に帰属する。３９は土師器の小型の椀形を呈する底部資料で、底径５．０ｃｍを測る。海綿骨針を含む粘りのある胎土で、破断面は摩滅している。底部切離しは右回転糸切である。

ＳＤ－０４（第４６図－４０・４１）

２点図示した。遺構の項目で記述したように実質的にはＳＤ－０１からの連続部にあたる。４０は土師器椀の底部資料で、底径５．６ｃｍを測る。海綿骨針を含む粘りのある胎土で、砂粒の混入は少ない。破断面は鋭利で、丸みを帯びていない。底部切離しは右回転離し糸切で、切り離した後に細い棒状の工具でＸ字状に差し込まれた痕跡が観察される。４１は非ロクロの土師器椀の底部資料で、底径７．６ｃｍを測る。ザラザラした質感を有する砂礫を含む胎土で、摩滅・剥落が著しく、破断面も丸みを帯びている。粘土紐の積上げ痕が一部残存して観察されるが、器面はヘラによるナデにより調整されている。底部はヘラケズリにより調整されている。

ＳＤ－０８（第４６図－４２～４７）

６点図示した。遺構の項目で記述したようにＳＤ－０１やＳＤ－０３同様本遺構も上層の部分と下層の部分において時期的な変遷が加わっており、中層～下層の間にはＳＤ－０８ｂの段階が伴っている。

４２は上層出土の資料と遺構外（ＳＦ－０１南側地点）出土の資料との接合資料の黒色土器椀の底部資料で、底径５．４ｃｍを測る。遺構外出土の資料は摩滅剥落が著しく、一方ＳＤ－０８出土の資料は破断面が鋭利な状態であり、溝跡に廃棄の時点で破片化した資料の一部は遺構外へ流入し、一部の破片は溝跡に入ったものと判断できる。海綿骨針を含むザラザラした質感を有する胎土で、外面はロクロナデによる稜が顕著である。内面のヘラミガキは油分の付着や摩滅等により観察が難しいが放射状が乱れたような磨き方がされている。底部切離しは右回転糸切である。４３～４６が中層出土の資料で、４３は土師器椀底部で底径４．８ｃｍを測る。砂礫を含む粘りのある胎土で、破断面が鋭利な箇所と丸みを帯びた箇所があり、破片化した状態で時間的な差があるものと判断できる。外面にスス状の炭化物が付着している。底部切離しは右回転糸切である。４４は土師器椀の底部で底径６．０ｃｍを測る。やや硬質でザラザラした質感を有する胎土で、体部側の一部の破断面が丸みを帯び被熱を受けているが、それ以外の割れ口は鋭利である。底部切離しは右回転糸切で、ヘラオコシ痕が観察される。４５は下層と堆積土一括との接合資料の土師器椀の底部資料で、底径７．４ｃｍを測る。比較的大型な部類に入る。粘りのある胎土で、破断面は鋭利な状態で、各破片に剥落している箇所が多く見受けられる。また堆積土一括の資料は下層出土の破片より退色した状態である。内外面ともスス状の炭化物の付着物が見られる。底部切離しは右回転糸切でヘラオコシ痕が観察される。４６は縄文土器の口縁部資料で、口唇部はやや内傾させている。口縁部付近はヘラ状の工具による連続刺突がなされ、下部はコンパス文と推定される半円状の連続した沈線文が施される。縄文時代前期初頭表館式に比定される。４７は下層出土の土師器椀で底径６．０ｃｍを測る。砂粒をほとんど含まない硬質でややザラザラした質感を有する胎土で、破断面については鋭利な箇所とやや摩耗があり、付着物が破断面上にある箇所もあることから破片化した状態である程度二次的な影響を受けていたことが考えられる。底部付近が高台状に少し高くなっており、底部から内側に入り込んで立ち上がり、高台状の部分の端点から椀状に緩やかに膨らみながら立ち上がっている。底部切離しは右回転離し糸切である。

ＳＤ－０８ｂ（第４６図－４８）

中層出土の１点のみ図示した。４８は土師器甕の底部資料で底径９．６ｃｍを測る。砂粒を多く含む粘りのある胎土で、底面の被熱は著しく、外面は器面の剥落が顕著で、破断面は鋭利な状態である。外面の残存部分の調整はヘラケズリ、内面はナデによる調整である。

２．石器・石製品

ＳＤ－０１（第４７図－４９～５５）

下層からの出土資料７点を図示した。４９は不定形石器で９．３×５．０×１．９ｃｍを測り、５７．６ｇを量る。石質は珪質頁岩である。微細剥離が若干認められるのみである。５０は敲磨器で、１０．０×７．６×６．５ｃｍを測り、５５４．３ｇを量る。石質は安山岩である。握り拳大に打ち欠かれており、礫面の一部が敲打により凹みが生じている。５１は敲磨器として取扱いはしたが、珪質頁岩の原礫で、側面に敲打痕があることから、石器加工の母岩の可能性もある。８．３×５．４×３．１ｃｍを測り、１８８．６ｇを量る。５２は敲磨器で、１６．２×６．５×５．４ｃｍを測り、９５０．０ｇを量る。石質はデイサイトである。磨り面が一部にあるが、側縁部を敲打に利用している。５３は台石の欠損品で、１１．１×６．８×５．０を測り、６６０．０ｇを量る。石質は安山岩である。磨りが顕著で、側縁部に敲打痕がある。５４は敲磨器で、１１．２×５．３×３．１を測り、１２７．１ｇを量る。石質は凝灰岩である。溝跡出土資料であるため、表

面に酸化鉄状のものが付着している影響があるため使用痕についても観察しづらい状況であるが、磨り面の近くに敲打痕が観察され、一連の行為に伴う使用であることが考えられる。５５は７．６×５．１×３．７ｃｍを測り、４５．７ｇを量る。磨りが顕著であることから敲磨器としたが、石質が軽石でそれ以外の用途の要素がある。一部に焼土のような赤色物が付着している。

ＳＤ－０３（第４７図－５６）

上層出土の１点のみ図示した。５６は磨製石斧で、（５．４）×６．０×２．５ｃｍを測り、１００．１ｇを量る。石質は閃緑岩である。刃部中心の残存で、刃部は使用の影響によるものなのか、剥落が生じている。

ＳＤ－０３ｂ（第４８図－５７）

上層出土の１点のみ図示した。５７は台石で、１５．０×１２．９×２．８ｃｍを測り、９００ｇを量る。石質は安山岩である。一面のみが磨り面として利用されている。

ＳＤ－０３ｃ（第４８図－５８）

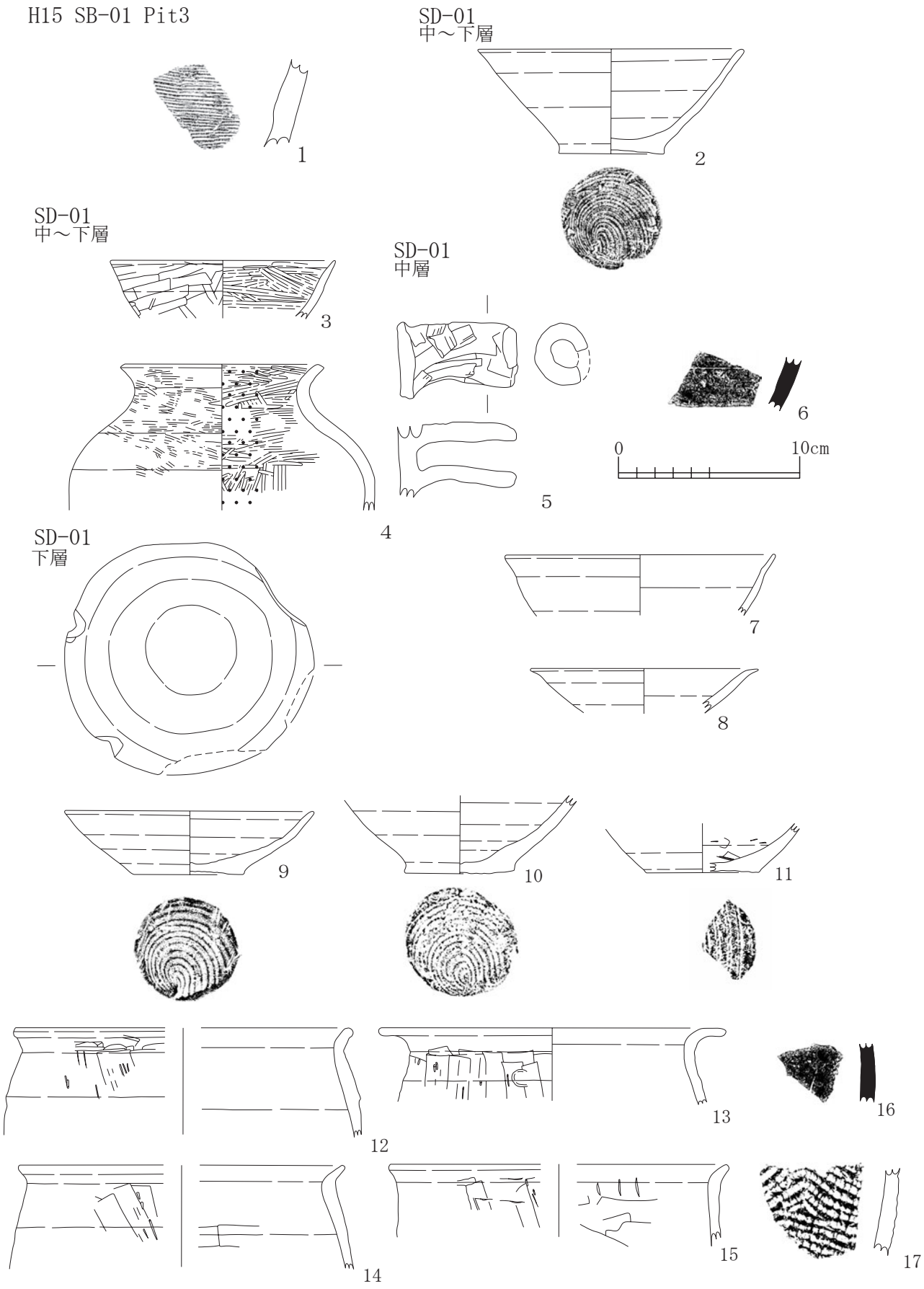
下層出土の１点のみ図示した。５８は不定形石器で、（２．８）×４．４×１．６ｃｍを測り、２０．２ｇを量る。石質は珪質頁岩である。側縁を中心に連続剥離がなされ刃部が作出されている。

ＳＤ－０６（第４８図－５９～６１）

下層出土の３点図示した。５９は不定形石器で、５．７×３．６×０．６ｃｍを測り、１３．６ｇを量る。石質は頁岩である。両側縁部を調整することによって刃部を作出している。主要剥離面側の中央に雨垂石状の敲打痕がある。６０は敲磨器で９．４×５．３×３．５ｃｍを測り、２８２．５ｇを量る。石質は安山岩である。全面的に弱い磨りがある。６１は台石で、１６．８×１１．２×４．３ｃｍを測り、１０００．０ｇを量る。石質はデイサイトである。両面とも磨りが行われている。

ＳＤ－０８（第４８図－６２～６４）

３点図示した。６２は最上面（遺構確認面）出土の石鏃で、１．９×１．６×０．３ｃｍを測り、０．６ｇを量る。石質は玉髄質の珪質頁岩である。凸基で基部が欠損している。６３は中層出土の不定形石器で、７．５×５．４×２．６ｃｍを測り、１１４．９ｇを量る。石質は珪質頁岩である。右側縁部の刃部は潰し的な使用がされている。６４は中層出土の敲磨器で(９．０)×４．８×４．１ｃｍを測り、２６９．９ｇを量る。石質はデイサイトである。全面的に磨りが行われており、各面の中央付近は敲きに利用されており、一部凹み状になっている箇所がある。



第 44 図　出土遺物 1（土器）

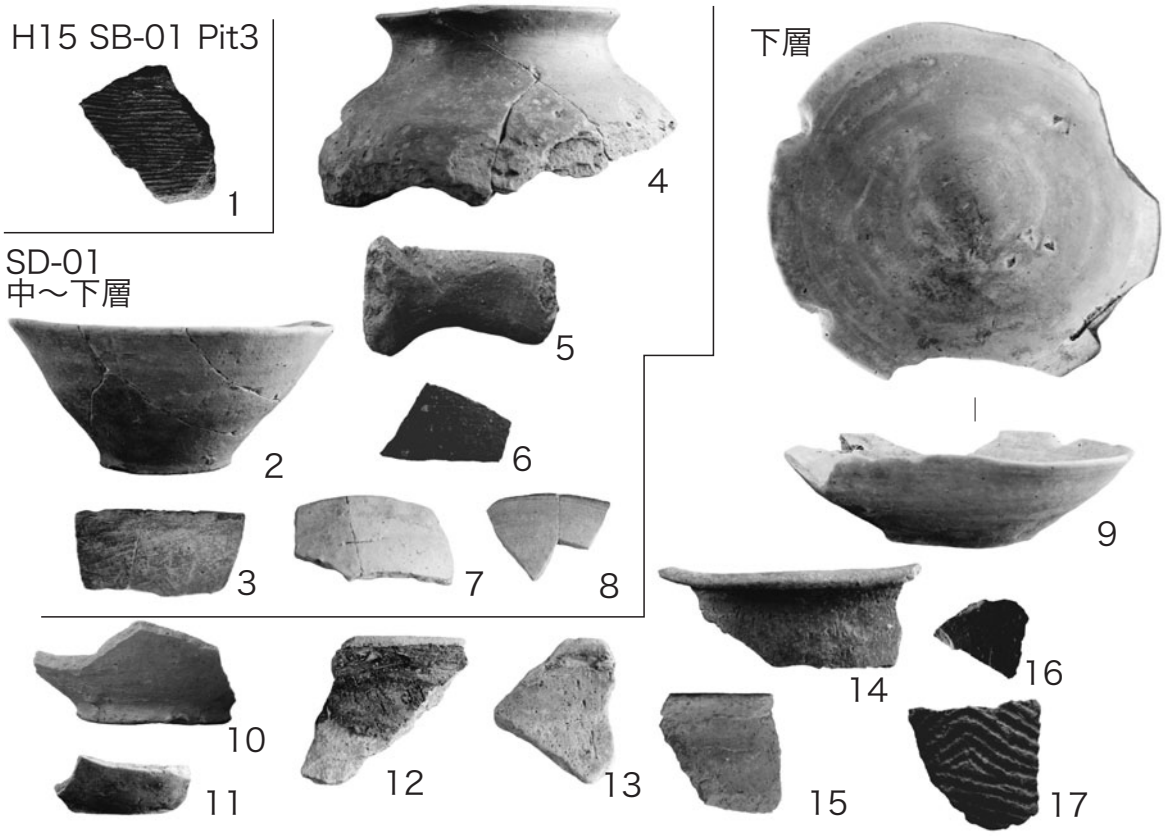
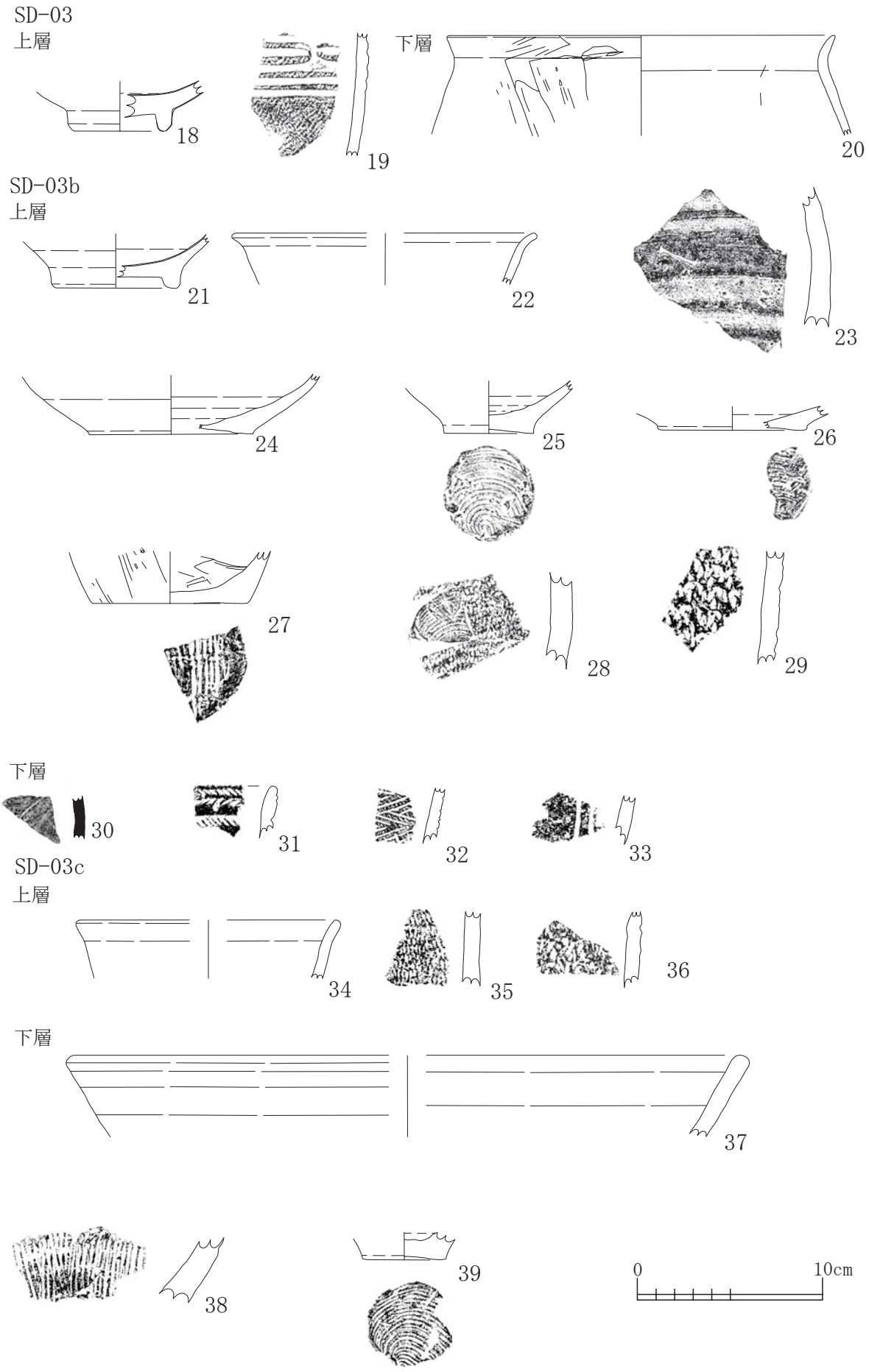


写真 114　出土遺物 1

第 8 表　遺物観察表 1

No.	出土地区	遺構名	層位	種別	器種	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率 口縁部	残存率 底部	色調外面	色調内面	焼成	礫	砂	骨	赤	外面調整	内面調整	底部調整	備考
1	A	SB-01Pit3	フク 2P-1	珠洲焼	甕	体部	-	-	-			10YR5/1	10YR5/1	良	-	中	-	-	タタキ	ナデ		
2	A	SD-01	フク中 P-294・295・309、フク下 P-293	土師器	椀	口縁部～底部	14.6	5.8	5.8	10.5/12	12/12	10YR6/2	10YR6/3	良	微	微	中	微	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	炭化物付着，灯明痕，粘土付着
3	A	SD-01	フク中 P-242、フク下 P-281	土師器	椀	口縁部	12.4	-	-	2.3/12		2.5YR5/2	2.5Y6/3	並	-	少	-	微	ロクロナデ/ヘラミガキ	ロクロナデ/ヘラミガキ		
4	A	SD-01	フク中 P-X、フク下 P-143・276	黒色土器	広口壺	口縁部～体部	10.6	-	-	7/12		7.5YR7/4	N1.5/0	良	-	少	少	中	ヘラミガキ	ヘラミガキ		内面黒色処理
5	A	SD-01	フク中 P-299	土師器	小甕	把手	-	-	-			7.5YR5/4	7.5YR5/4	並	微	中	-	少	ナデ/ヘラ	ナデ		
6	A	SD-01	フク中 P-238	須恵器	壺	体部	-	-	-			10YR4/1	10YR4/1	良	中	中	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		
7	A	SD-01	フク下 P-350・366	土師器	椀	口縁部	14.8	-	-	1.4/12		2.5Y6/2	2.5Y6/1	並	微	少	少	-	ロクロナデ	ロクロナデ		付着物有
8	A	SD-01	フク下 P-304・317	土師器	Ⅲ	口縁部	12.6	-	-	1.4/12		10YR6/3	7.5YR6/3	並	-	微	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ		炭化物付着
9	A	SD-01	フク下 P-349	土師器	Ⅲ	口縁部～底部	13.8	3.5	6.0	7.5/12	12/12	10YR7/3	10YR6/3	良	多	少	微	微	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	スス付着，打欠痕三ヶ所有
10	A	SD-01	フク下 P-325	土師器	椀	底部	-	-	6.0		12/12	7.5YR6/3	10YR7/3	良	微	少	多	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	内面見込み部分擦痕顕著
11	A	SD-01	フク下 P-377	土師器	椀	底部	-	-	6.2		2.5/12	2.5Y7/2	10YR6/4	並	-	微	微	中	ナデ	ナデのちヘラ	網代痕	
12	A	SD-01	フク下 P-342	土師器	甕	口縁部	18.6	-	-	1/12		10YR7/3	10YR6/4	並	微	少	-	少	ナデ/ヘラ	ナデ		スス付着
13	A	SD-01	フク下 P-244	土師器	甕	口縁部	18.8	-	-	2.2/12		7.5YR5/6	10YR5/4	並	-	中	-	微	ナデ/ヘラ	ナデ		付着物有，煮沸痕
14	A	SD-01	フク下 P-343	土師器	甕	口縁部	15.8	-	-	0.3/12		10YR6/3	10YR7/3	並	微	中	-	-	ナデ/ヘラ	ナデ/ヘラ		粘土付着，炭化物付着
15	A	SD-01	フク下 P-375	土師器	甕	口縁部	18.4	-	-	0.9/12		5YR5/6	10YR6/4	並	-	中	-	少	ナデ/ヘラ	ナデ/ヘラ		輪積み痕有
16	A	SD-01	フク下 P-332	須恵器	壺	体部	-	-	-			N4/0	N4/0	良	-	微	微	-	ヘラケズリ	ナデ		スス付着
17	A	SD-01	フク下 P-346	縄文	深鉢	体部	-	-	-			10YR5/2	10YR5/1	並	-	微	-	-	竹管押引文	ミガキ		



第 45 図　出土遺物 2（土器）

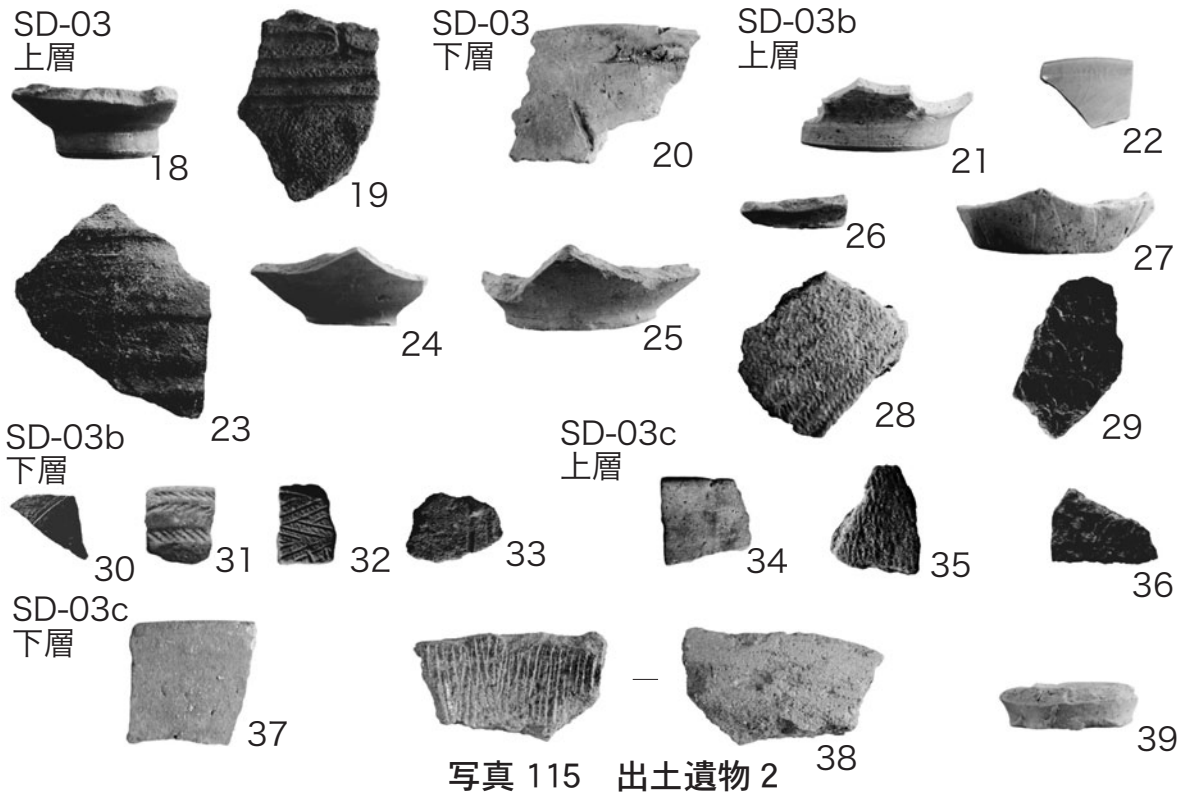
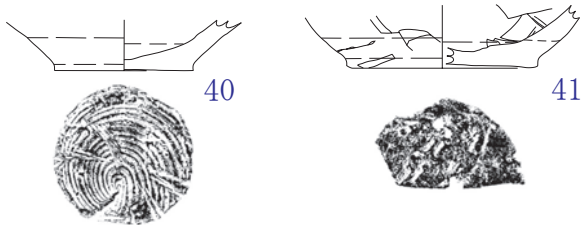


写真 115　出土遺物 2

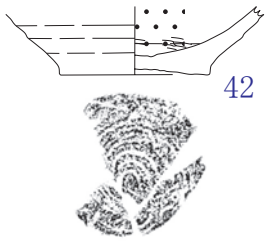
第 9 表　遺物観察表 2

No.	出土地区	遺構名	層　位	種　別	器　種	部 位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率		色調外面	色調内面	焼成	礫	砂	骨	赤	外面調整	内面調整	底部調整	備　考
										口縁部	底　部											
18	A	SD-03	フク上P-9	青磁	碗	底部	-	-	5.0		4/12	5GY6/1	5GY6/1	並	-	微	-	-	ロクロナデ	線描蓮弁文	ロクロナデ	B4 類
19	A	SD-03	フク上P-13	縄文	深鉢	体部	-	-	-			7.5YR4/4	10YR6/4	並	-	少	-	-	沈線 /LR	摩滅		
20	A	SD-03	フク下P-7	土師器	甕	口縁部	21.6	-	-	2/12		7.5YR5/4	5YR6/6	並	中	少	-	-	ヘラケズリ	ヘラ＋ナデ		
21	A	SD-03b	フク上P-18	白磁	碗	底部	-	-	6.5		4.5/12	7.5Y7/1	10Y8/1	並	-	少	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	
22	A	SD-03b	フク上P-16	青磁	鉢 or 碗	口縁部	13.0	-	-	0.9/12		2.5GY6/1	2.5GY6/1	並	-	微	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		
23	A	SD-03b	フク上P-22	珠洲焼	壷	体部	-	-	-			10YR4/1	N5/0	良	-	少	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		
24	A	SD-03b	フク上P-26	土師器	椀	底部	-	-	8.8		2.5/12	10YR7/4	10YR6/3	並	-	少	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	
25	A	SD-03b	フク上P-6	土師器	椀	底部	-	-	5.0		12/12	5YR6/6	10YR4/2	並	微	中	多	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	スス付着
26	A	SD-03b	フク上P-20	土師器	椀	底部	-	-	(7.6)		3.7/12	7.5YR7/6	10YR7/4	並	微	中	-	少	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切	
27	A	SD-03b	フク上P-8	土師器	甕	底部	-	-	8.4		3.2/12	10YR8/2	10YR8/3	並	少	中	-	-	ヘラケズリ	ヘラナデ	網代痕	
28	A	SD-03b	フク上P-1	縄文	深鉢	体部	-	-	-			5YR5/6	7.5YR5/6	良	-	微	-	-	RL	ナデ		
29	A	SD-03b	フク上P-24	縄文	深鉢	体部	-	-	-			10YR3/1	10YR4/2	並	-	少	-	-	ループ文	ミガキ		
30	A	SD-03b	フク下P-X	須恵器	壷	体部	-	-	-			10YR4/1	10YR4/1	良	-	少	微	-	ヘラケズリ	ロクロナデ		
31	A	SD-03b	フク下P-X	擦文	甕	口縁部	-	-	-			10YR7/4	5YR5/6	並	微	多	-	微	綾杉状刺突，ミガキ	ミガキ		
32	A	SD-03b	フク下P-X	擦文	甕	体部	-	-	-			7.5YR6/4	2.5Y3/1	良	微	少	-	-	ハケメ＋沈線			内面スス付着
33	A	SD-03b	フク下P-X	擦文	甕	体部	-	-	-			7.5YR6/4	10YR6/3	並	微	中	微	-	沈線	ナデ		
34	A	SD-03c	フク上P-X	土師器	甕	口縁部	(13.6)	-	-	0.3/12		7.5YR6/6	10YR5/4	並	少	中	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		
35	A	SD-03c	フク上P-X	縄文	深鉢	体部	-	-	-			7.5YR6/6	2.5Y3/1	並	中	中	-	-	多軸絡条	摩滅		
36	A	SD-03c	フク上P-X	縄文	深鉢	体部	-	-	-			10YR4/3	10YR4/1	並	少	中	-	-	ループ文	ミガキ		
37	A	SD-03c	フク下P-3	産地不詳	鉢	口縁部	(35.6)	-	-	0.6/12		10YR5/2	7.5YR5/3	並	微	少	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		
38	A	SD-03c	フク下P-4	珠洲焼	擂鉢	体部	-	-	-			5Y5/1	5Y5/1	並	-	少	-	-	ロクロナデ			
39	A	SD-03c	フク下P-1	土師器	椀	底部	-	-	5.0		5.5/12	7.5YR7/4	7.5YR7/4	並	微	少	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	

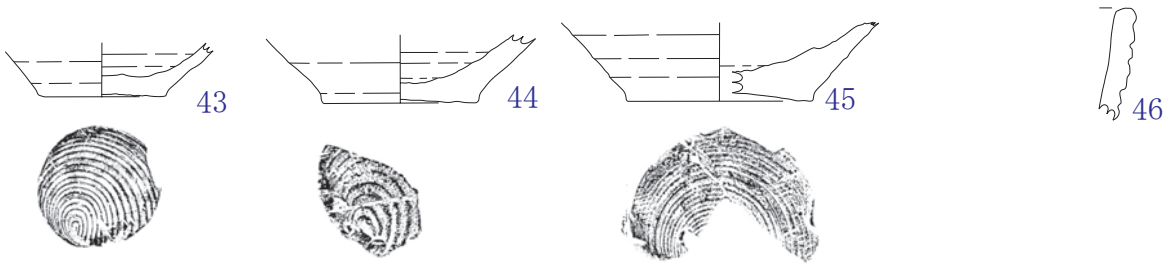
SD-04
下層



SD-08
上層+SF-01南側

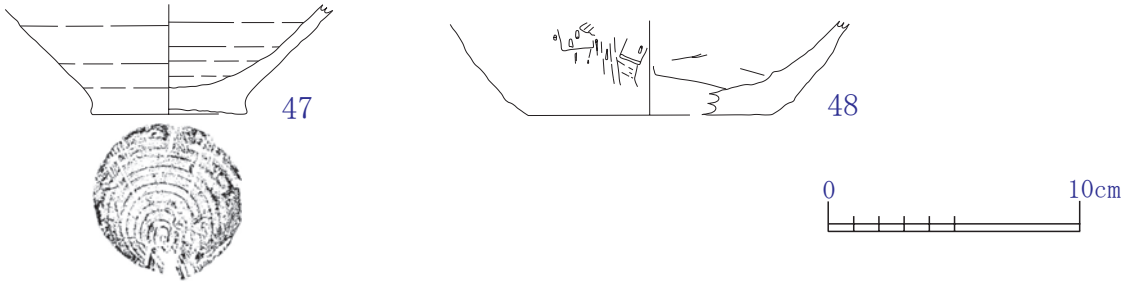


中層



SD-08b
中層

下層



第 46 図　出土遺物 3（土器）

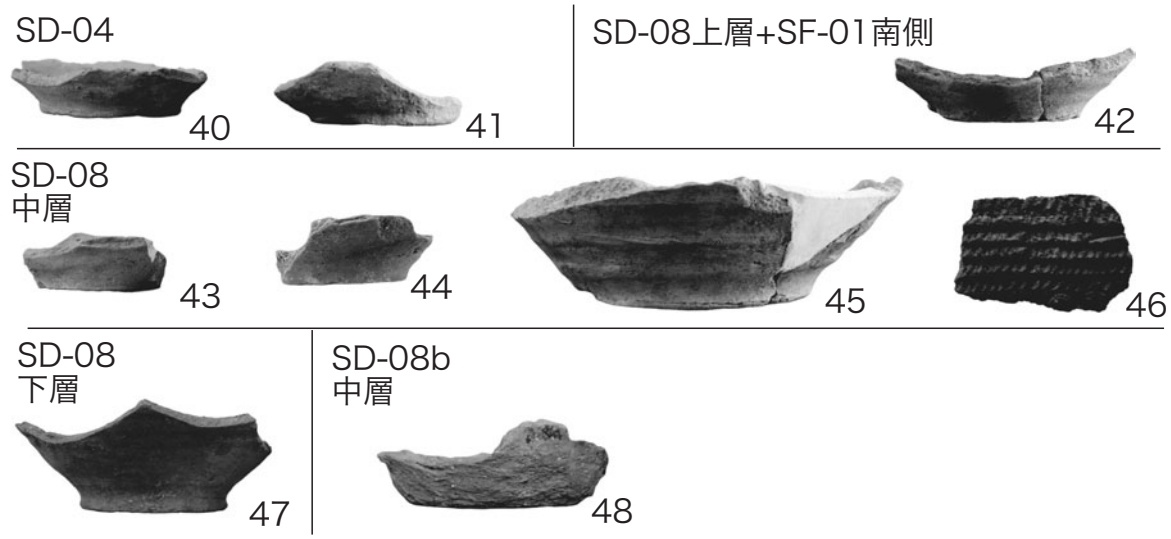
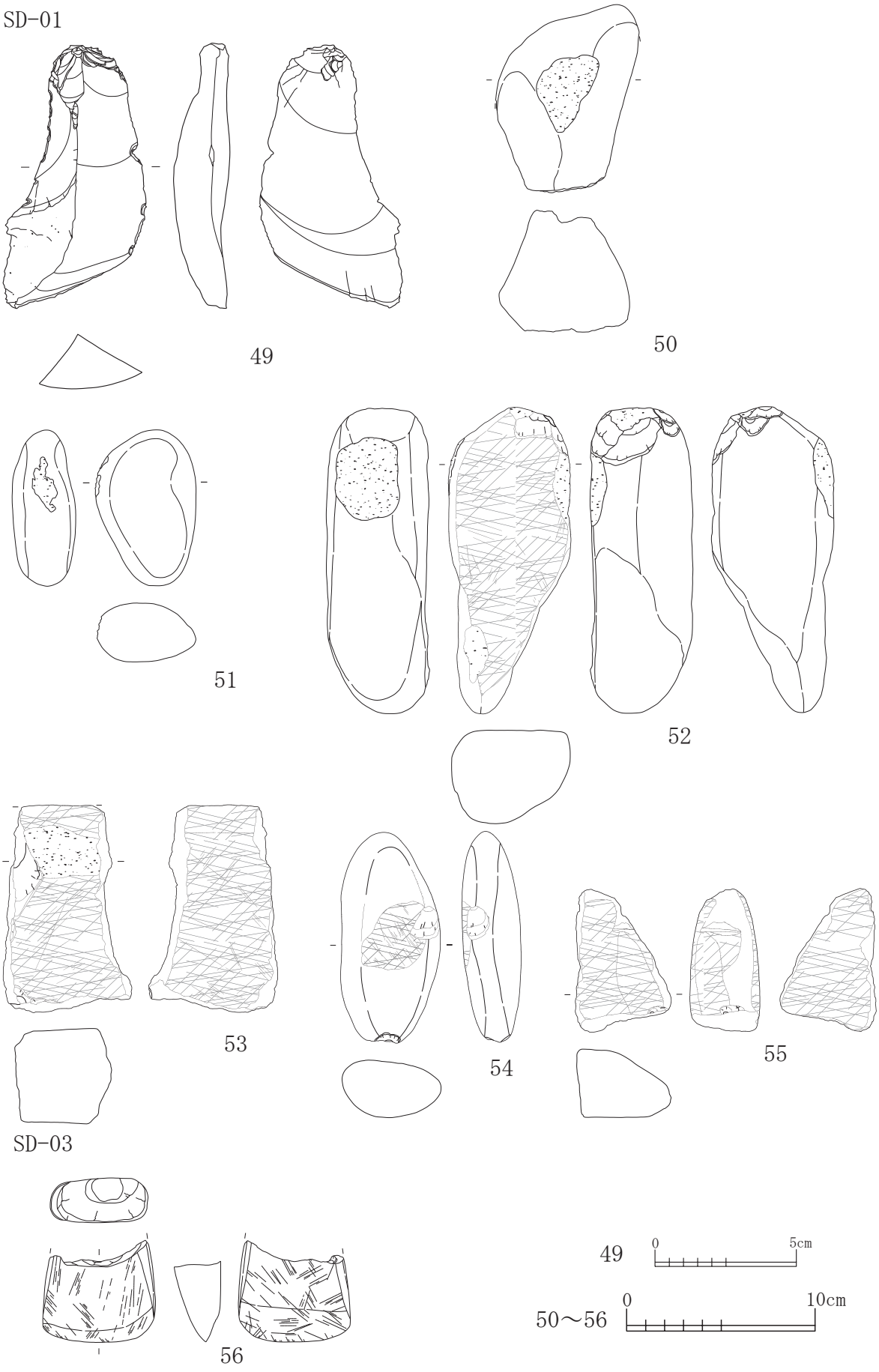


写真 116　出土遺物 3

第 10 表　遺物観察表 3

No.	出土地区	遺構名	層位	種別	器種	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率 口縁部	残存率 底部	色調外面	色調内面	焼成	礫	砂	骨	赤	外面調整	内面調整	底部調整	備考
40	A	SD-04	フク下P-40	土師器	椀	底部	-	-	5.6		12/12	2.5Y5/2	5Y5/1	並	-	少	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切（離し糸切）	
41	A	SD-04	フク下P-41	土師器	椀	底部	-	-	7.6		4/12	2.5Y7/3	2.5Y7/3	並	微	少	-	-	ヘラ	ヘラ	ヘラケズリ	輪積痕有
42	A	SD-08 SF-01南①	フク上P-3 包含層P-X	黒色土器	椀	底部	-	-	5.4		10/12	2.5Y5/2	7.5Y3/1	並	-	中	微	微	ロクロナデ	ロクロナデ/ヘラミガキ	右回転糸切	内面黒色処理
43	A	SD-08	フク中P-111	土師器	椀	体部～底部	-	-	4.8		12/12	10YR6/3	10YR6/4	良	微	中	-	少	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	スス状炭化物付着
44	A	SD-08	フク中P-109	土師器	椀	体部～底部	-	-	6.0		3.1/12	7.5YR7/4	7.5YR7/4	並	微	少	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	ヘラオコシ痕有
45	A	SD-08	フク中P-29、フク土P-X	土師器	椀	体部～底部	-	-	7.4		5.5/12	10YR6/3	10YR6/2	並	-	少	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	スス状炭化物付着,ヘラオコシ痕有
46	A	SD-08	フク中P-4	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-			10YR4/3	10YR3/2	並	中	中	中	-	竹管文刺突/沈線	ミガキ		付着物有
47	A	SD-08	フク下P-2	土師器	椀	体部～底部	-	-	6.0		12/12	10YR5/6	2.5Y4/1	良	-	微	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切（離し糸切）	粘土付着,付着物有
48	A	SD-08b	フク中P-2	土師器	甕	底部	-	-	9.6		3/12	10YR5/3	7.5YR6/3	並	微	多	-	多	ヘラ/ナデ	ナデ/ヘラ	ヘラケズリ	炭化物付着,粘土付着,スス付着



第 47 図　出土遺物 4（石器・石製品）

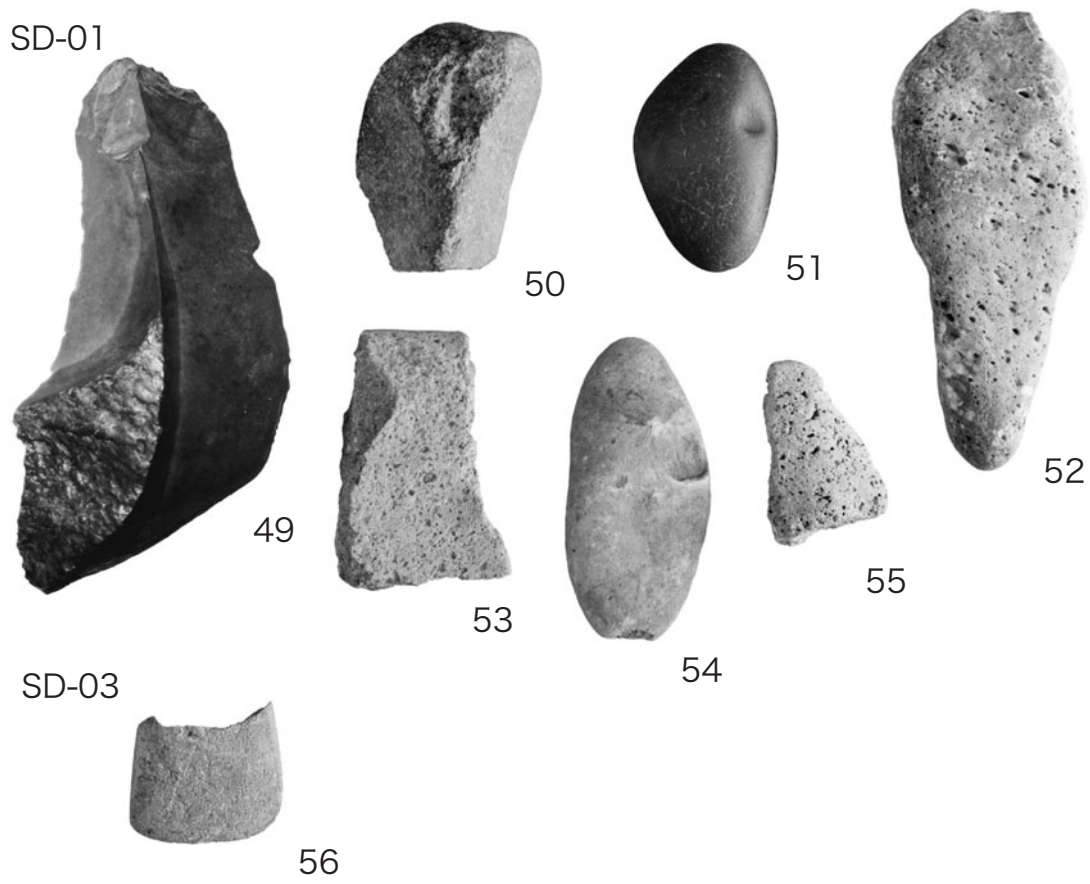
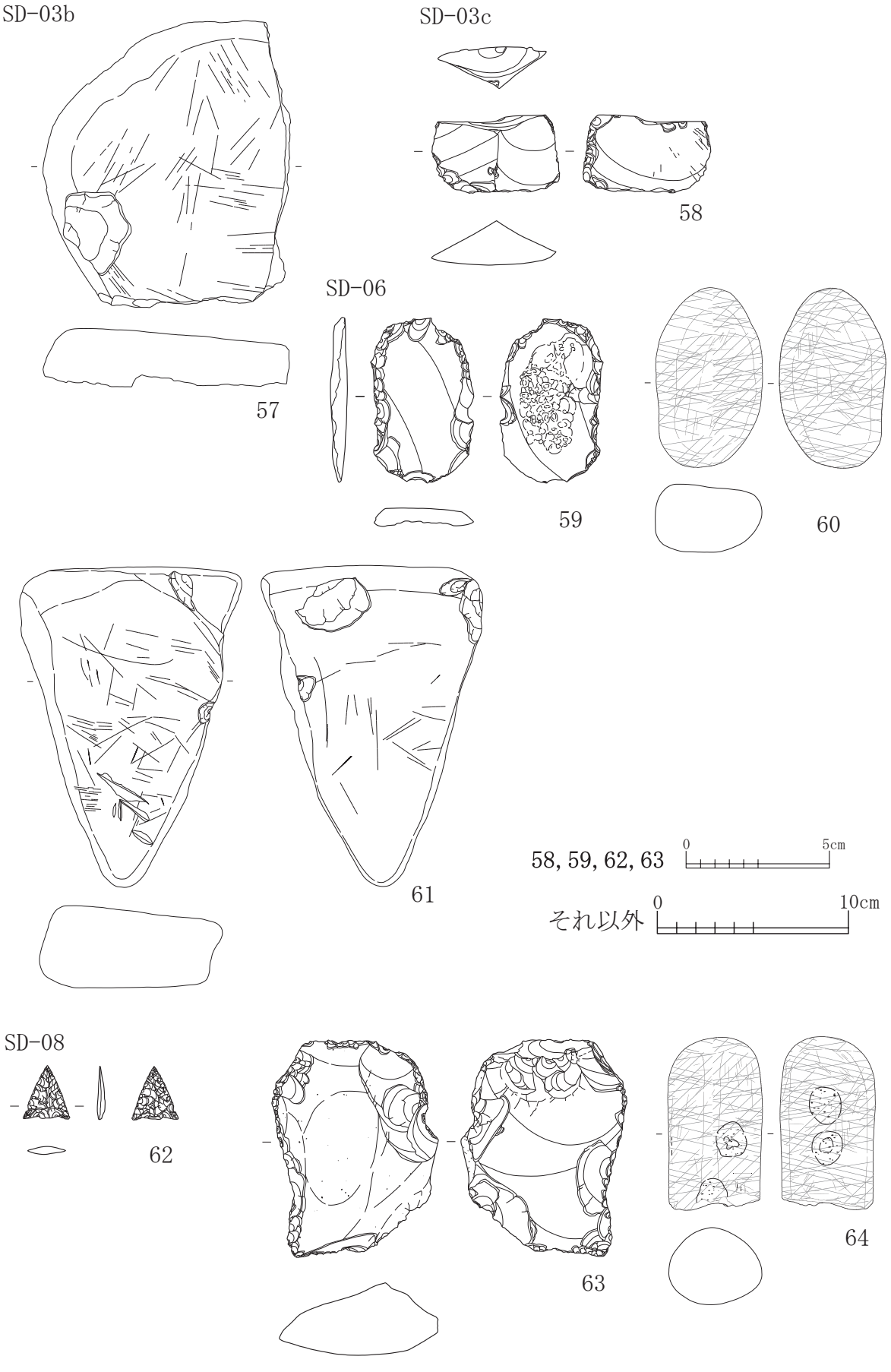


写真 117　出土遺物 4

第 11 表　遺物観察表 4

No.	種　別	出土地区	遺構名	層　位	最大計測値 (cm)・計量値 (g)				石　質	備　考
					長さ	幅	厚さ	重量		
49	不定形	A	SD-01	フク下 S-58	9.3	5.0	1.9	57.6	珪質頁岩	
50	敲磨器類	A	SD-01	フク下 S-107	10.0	7.6	6.5	554.3	安山岩	
51	敲磨器類	A	SD-01	フク下 S-60	8.3	5.4	3.1	188.6	珪質頁岩	
52	敲磨器類	A	SD-01	フク下 S-61	16.2	6.5	5.4	950.0	デイサイト	
53	台石	A	SD-01	フク下 S-92	11.1	6.8	5.0	660.0	安山岩	
54	敲磨器類	A	SD-01	フク下 S-102	11.2	5.3	3.1	127.4	凝灰岩	
55	敲磨器類	A	SD-01	フク下 S-104	7.6	5.1	3.7	45.7	軽石	赤色物付着
56	磨製石斧	A	SD-03	フク上 S-1	(5.4)	6.0	2.5	100.1	閃緑岩	



第 48 図　出土遺物 5（石器・石製品）

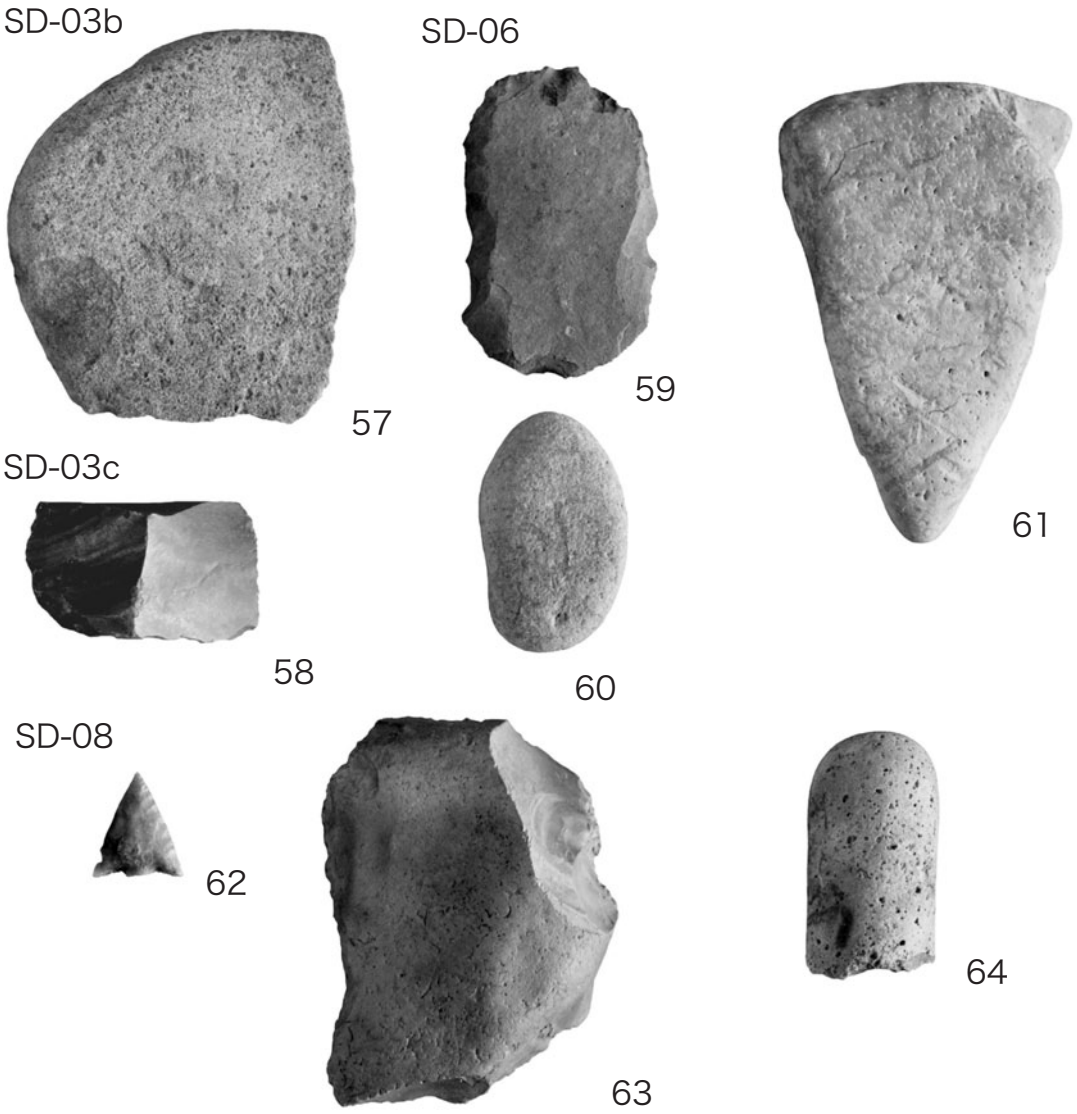


写真 118　出土遺物 5

第 12 表　遺物観察表 5

No.	種　別	出土地区	遺構名	層　位	最大計測値 (cm)・計量値 (g)				石　質	備　考
					長さ	幅	厚さ	重量		
57	台石	A	SD-03b	フク上 S-1	15.0	12.9	2.8	900.0	安山岩	
58	不定形	A	SD-03c	フク下 S-2	(2.8)	4.4	1.6	20.2	珪質頁岩	
59	不定形	A	SD-06	フク下 S-7	5.7	3.6	0.6	13.6	頁岩	
60	敲磨器類	A	SD-06	フク下 S-12	9.4	5.3	3.5	282.5	安山岩	スリ弱
61	台石	A	SD-06	フク下 S-11	16.8	11.2	4.3	1000.0	デイサイト	
62	石鏃	A	SD-08	最上面 S-9	1.9	1.6	0.3	0.6	珪質頁岩 (玉髄)	
63	不定形	A	SD-08	フク中 S-16	7.5	5.4	2.6	114.9	珪質頁岩	
64	敲磨器類	A	SD-08	フク中 S-4	(9.0)	4.8	4.1	269.9	デイサイト	

３．木製品

本遺跡出土の木製品は炭化した資料を除き沖積地上の調査区の溝跡出土の資料がほとんどである。丘陵地部分については土地区画整理事業の調査区内の井戸跡から古代の土師器とともに木製の仏像や木簡等も出土しており、第Ⅶ章第１節の年輪年代分析では既分析の土地区画整理事業の新田（１）遺跡の丘陵地部分の調査区の成果や、高間（１）遺跡の中世の井戸跡出土の年代値についても報告している。また、ＳＤ－０３出土の物忌札については土地区画整理事業の調査区内出土であるが、既に公表されている資料であることから掲載することとする。それ以外にも木簡資料については２００３年時点で公表された資料について第Ⅶ章の第５節中で学習院大学の鐘江宏之氏に釈読いただいている。

なお、事実記載については土地区画整理事業の調査区も含めると 2,000 点を超える出土点数があり、本報告に際しても掲載点数が 237 点と多いことから全てに対し記述対象とはせず、主たるものに対し行うこととする。

ＳＤ－０１（第４９～５９図）

７１点図示した。第４９図は下層から出土した扇で、檜扇と同様の形状である。樹種はヒノキ科アスナロ属である。写真９８で掲載したように出土時に７枚がやや開いた状態で出土している。周辺ではＳＤ－０８から類似した資料が出土しているが、本資料とは大きさが異なることから別資料という扱いになり、本資料は７枚セットであったことが考えられる。なお、本資料については資料番号６５に下側出土の資料を－１、上側出土の資料を－２，３‥というように補助番号を付けて表記したが、各資料の大きさは６５－１が長さ２５４．０mm、幅３６．５mm、厚さ２．３mmで、以下６５－２＝２５５．０mm×３５．０mm×１．５mm、６５－３＝２５６．５×３５．５×２．０mm、６５－４＝２５６．５×３５．５×２．０mm、６５－５＝２５７．０×３６．５×２．０mm、６５－６＝２５７．０×３７．０×２．３mm、６５－７＝２５６．０×３６．０×２．８mmを測る。厚さから６５－７が他のものより１mm近く厚いことから親骨である可能性が考えられる。それぞれがほぼ同一形状で、上端の形状が開いた時に併せて加工されるようなことはされていない。末の平面形状は半円形で、要の綴じ穴は１つであるが、木鋲等などは共伴していない。上端側にはそれぞれ４箇所穴があけられており、中位から末寄りの側縁の両端には三角形状の浅い切り込みが施され紐綴じがされていたようである。本資料の年輪年代分析の伐採年の上限値は８８０年という数値が得られているが辺材資料ではないため時期については幅を持っている資料であることが報告されている（第Ⅶ章第１節）。本資料は古代の資料としては青森県で初めての出土である。第５０図－６６は下層出土の挽物の木器皿（椀）で、口径１３．２ｃｍ器高２．９ｃｍ、底径８．０ｃｍを測り、器高指数２２．０、底径指数６０．６である。樹種はモクレン属である。下地に柿渋と木炭粉が塗られ、明漆が１層塗られたのみの資料であるが底面は塗りがなく、内面の見込み部分については剥げ落ちている。底面には木根による貫入が著しいが、ロクロの爪跡らしき箇所についても観察される。６７は曲物で口径２３．４ｃｍ、器高２２．８ｃｍ、底径２３．０ｃｍを測る。樹種はアスナロ属である。底板ほぼ円形に近い形状で輪の部分と底板の接合部分は６箇所木釘によって接合されている。側板の綴合わせは一列ずつ２箇所で、１の縫いは７箇所、２の縫いは１３箇所紐通しの穴が開けられ、樺皮によって縫われている。６８・６９は下層出土の瓢箪で、出土地点が同一であることから同一資料である可能性が高いが個別に図示した。６８が形状について検討可能な資料で長さ（９６．０）mm×幅（８８．５）mm×厚さ７．０mmを測り、６９は（４６．０）mm×（２９．０）mm×３．２mmを測る。ギボシ型のヒョウタンであっ

た可能性がある。果皮の部分には漆が塗られており、容器として使用された可能性についても検討される資料である。第５１図－７０～第５３図－８８までは、木簡学会の０３３型式（木簡学会 2004）の付札（荷札）木簡（長方形の材の一端の左右に切り込みをいれ、他端を尖らせたもの）状の形態を呈するものと考えられる資料群である。樹種はヒノキ科アスナロ属が主体を占め一部ヒノキ科クロベ属クロベが含まれる。出土地点についてもほとんどがまとまった出土状況（写真１００・１０１）で一括廃棄によるものであると考えられる。本遺構の土地区画整理事業の調査区からもブロック的にまとまった出土がされているが、本報告資料に比べやや細身で割れが無い資料が多い状況にある。

本報告資料については長さが２５ｃｍ前後の扇と類似した規格のもの（７０・７１・７４・７６・７９・８０・８１・８２・８４）が多い。上端の切り込み部分直下やや幅広の肩が張ったような形状であるが、下端に向けて尖った鋭角三角形に近い形状を呈しており、先端については平形や凸形等の形状を呈している。本資料は全て割れている資料で、上端側から割れが入っているが、８２・８４などは上端側の中央に抉入痕があることから意図的に割れを入れていることが考えられる。そのような前提で見た場合、本資料は７０・７１・７２・７４・７９・８０・８１・８２・８３・８４などのように中央部分を上端側から割れ込みを入れた製品として機能していたものと考えられる。７８～８０までの資料のように墨痕が残るものも見受けられることから木簡として機能した可能性もあるが、本資料群についてはその要素以外の機能についても考慮できる。その他第５３図－８９に図示した資料のように切り込みが入っているが切り込み上部の大きさが他よりも大きいものや、９１のように切り込みとはならず丸みを帯びた部分に突起状の先端がつくような形状を呈する用途不明の資料がある。９０は下層出土の斎串で、４０２．０×２５×４．５ｍｍを測る。圭頭状のケズリの角度が短く浅いことから図示に関して天地逆の可能性もある。

第５４図－９２・９３は用途不明の資料である。９２は中空で把手状の形状で、９３は先端が突起状に尖らせた形状であるが、軸の部分は中段に４ｍｍほどの穴が貫通しており、それ以外に組み合わせた部品があった可能性が考えられる。９４は下層出土の箸で、２４５．０×５．５×５．５ｍｍを測る。丁寧な加工がなされており、先端部はやや細身の形状を呈するように加工されている。９５は下層出土の鏃形ないしは木針状の形状を呈する資料で６５．５×８．５×５．５ｍｍを測る。片面側を隆起させたまま加工されており、裏面側の加工は平滑な面の作出が志向されている。９６は上端が欠損している木錐状ないしはそれ以外の用途に使用されたと考えられる資料で、（７１．５）×１２．５×１２．５ｍｍを測る。下端はケズリにより棒状の端部のような加工がされており、柄に相当する部分の一箇所浅いスリットが入れられている。９７は下層出土の菰槌で６２．０×１１０．５×５０．０ｍｍを測る。中央に樹皮の縄紐が巻き付いた状態で出土した（写真９１）が、出土後外れてしまった関係で図示に際しては分離して図化した。菰槌本体の樹種はクリで、縄紐の樹種は針葉樹であるという分析結果が得られている。なお、９９に図示した資料は規格的には菰槌とほぼ同じ規格の資料（９５．０×５６．８×５３．０ｍｍ）であるが、基部の削りが一方向側からのみで、削り込みの無い側はドアノブ状の平滑な面ができている。そのため、別な用途の可能性がある。９８は中層出土の下駄で、（１９５．０）×１０９．０×３５．０ｍｍを測る。柾目材を使用し、前壺は前歯の外側の中央にあけており、後壺は、後歯の内側の部分の側縁寄りにあけているが、後壺左側の穴がやや小ぶりな状態で一部歯にかかるような位置にあけられている。前側の摩耗の状態から左足用であったことが考えられ、後側には刻線により模様が施されている。歯は削りだしによって作出されており、歯の摩耗は後ろ側左側縁が減っている状態にある。第５５図－１００－１・２は編組製品で共伴した出土状況（写真９９参照）から同一個体であると考えられる資料である。１００－１が下半の曲線を有する形

状の部分にあたり、長さ１７０．０mm、幅４９１．０mmを測る。また、１００－２は長さ３２８．０mm、幅６３４．０mmを測る。本資料については第Ⅶ章第４節で考察されている。第５６図－１０１～第５７図－１０９は杭として使用されたと考えられる資料である。１０１や１０２などのように後述するＳＤ－０８の杭列出土資料の資料群と類似する両端が削られた資料や扁平な針葉樹の板材の下端を削り杭状にしたもの（１０４・１０５）角材を削り杭状にしたもの（１０３・１０７・１０８）や部材等を割り削いたものの一端を削り杭状に加工したもの（１０６）、芯持の広葉樹等の低灌木をそのまま削り杭状にしているもの（１０９）などがある。１１０は、下層出土の板材で（８３７．０）×７２．０×１２．０mmを測る。柾目材で図示した上端はキリオリで端部であると認定できるが、下端は欠損資料であると認定できる。第５８図－１１１～１１８は板状の短冊形資料で、欠損資料が多い。ただし、１１８のように両端をキリオリにより加工されている資料もあり、具体的な用途が不明な資料である。１１９・１２０は箆状の木製品で、このうち１２０は炭化した資料である。第５９図－１２１は棒状の欠損資料、１２２は板目の裂いた資料の先端を削った資料で具体的用途は不明である。１２３は残核と考えられる資料で、６２．０×４２．５×２２．０mmを測る。表面の一部が炭化している。１２４・１２５は広葉樹の芯持の枝の一部を加工して製品としているものであるが、具体的な用途等は不明である。なお、これらの資料よりも大型の広葉樹の主枝ないしは亜主枝を加工した資料は１２７・１２８で、１２７については下端を削り尖らせ杭状にしている。また１２８は側枝部分を抉りとるように削りが入っている資料である。１２６は針葉樹の棒状木製品で５５６．０×２８．０×２８．０mmを測る。下端の上部から上端にかけて１／３程度欠損しているが、杖状の棒状の形態で、上端側は何かを掛けるか巻き付けることができるような浅い削りの加工がなされている。

ＳＤ－０３（第６０図－１２９・１３０）

土地区画整理事業調査区出土の参考資料１点を含む合計２点図示した。１２９は下層出土の用途不明の木製品で１１４．５×２６．５×７．４mmを測る。柾目材で両端はキリオリのままで、両端の側縁を内側に削りだすように加工し、形状を作出している。定形品であると考えられるが具体的な用途等については不明である。１３０は参考資料の土地区画整理事業調査区内の下層から出土した木簡で、（１９０．０）×（４７．０）×６．０mmを測る。釈文については第Ⅶ章第５節中で第六号木簡として報告されているのでそちらを参照されたい。樹種はヒノキ科アスナロ属である。

ＳＤ－０３ｂ（第６０図－１３１・１３２）

上層出土の資料２点を図示した。１３１は曲物の底板で、（１９６．０）×（１１５．０）×２２．０mmを測る。焼成を受け炭化している資料で、残存部に関しては側面に３箇所木釘痕が確認できる。１３２は芯持の杭状の柱で、２５１７．０×７４．０×７４．０mmを測る。側枝部分は鉈切りされたような切り払われ方である。

ＳＤ－０４（第６０図－１３３～１４０）

８点図示した。１３３と１３４はいずれも下層出土の菰槌である。１３３については左右非対称の資料で、図面上の左側の部分がやや直線的で膨らみを持たない形状に加工されている。１３５は板材で、（３７．０）×（１０６．５）×２１．５mmを測る。やや厚みのある資料であるが、全体形については不明である。１３６～１４０は、ＳＤ－０１の第５９図１２４と同様に広葉樹の側枝部分を加工した棒状木製品である。核資料ともそれぞれのサイズで完形である。両端を削り、一部１３６～１３８のように抉るような削りがなされるケースがある。この削り方については第５９図－１２８のような大型のものについては側枝の除去部分に主に用いられる削り方である。具体的用途については不明である。

ＳＤ－０５（写真１３７－２９０）

下層出土の炭化した１点のみの出土であった。具体的な用途等は不明である。

ＳＤ－０８（第６１図－１４１～第８８図－２８５）

杭列出土の資料を含めて１４９点図化した。１４１は上層出土の扇で（２３１．０）×３８．０×３．３mmを測る。樹種はヒノキ科アスナロ属である。ＳＤ－０１出土の資料と異なり、１枚のみの出土で下端が欠損している資料である。ＳＤ－０１出土の資料と異なる点は①綴りの穴が３箇所しかないこと。②中位より下端側の両側縁部に三角状の切り込みが無いことなどが上げられる。綴り穴が３つの資料については秋田県能代市の樋口遺跡（秋田県教育委員会２００６）ＳＴ－３０出土の資料（１０枚一組：長さ２８．５～２８．８ｃｍ、幅２．４～３．３ｃｍ、厚さ０．３～０．４ｃｍ遺跡の時代は１０世紀第２四半期併行と本遺跡より古い）などにも見られる。樋口遺跡出土の資料は本遺跡出土の資料より直線的で、綴穴が都城出土の資料と同様に小さく中央に集中している特徴があるが、本遺跡出土の資料は間隔が広く穴の大きさが大きい特徴がある。１４２は下層出土の第九号木簡とした斎串で３０９．５×５７．０×６．５mmを測る。樹種はヒノキ科アスナロ属である。青森県つがる市石上神社遺跡（青森県教育委員会１９７７）出土の資料（第Ⅶ章第５節中の図に参考資料図として掲載）と類似した卒塔婆形の形状を呈している。両遺跡出土資料を比較すると、石上神社遺跡出土資料は四段切り込みが入っているが、本遺跡出土資料は三段で、上端の側面に切り込みが入り挟み込めるような形状を呈しているという差異がある。１４３は下層出土の斎串で、４８２．０×１１．０×６．０mmを測る細身のタイプで、上端は圭頭状に加工し、下端はやや厚みがあり、鋭利に尖らせた形状である。樹種はヒノキ科アスナロ属である。１４４～１４６は馬形である。１４４は中層出土の資料で、１５．０×（７４．０）×２．０mmを測る。樹種はヒノキ科クロベ属クロベである。尾側の部分は欠損しているが背側の鞍の部分や腹側部分にも浅い切り込みが二箇所あり、脚を意識しているか鞍の装着箇所を表現している可能性がある。１４５は下層出土の資料で、１４．５×（７９．５）×１．８mmを測る。樹種はヒノキ科アスナロ属である。尾側の末端が欠損しているがほぼ全体形がわかる資料である。１４４にくらべやや直線的で背側の鞍の作りも小さく、腹の部分はほぼまっすぐである。１４６は下層出土の資料で、１７．０×９８．５×２．０mmを測る。樹種はヒノキ科アスナロ属である。頭側の先端が裂けており、尾側の上端がささくれた状態になっている。背側は鞍の作りがやや狭く、腹側は１４５と同様に直線的である。１４７は上層出土の用途不明の資料で、２０５．５×５３．０×４１．５mmを測る。上端が球状で、軸側は断面形が円形の棒状で軸の末端には径６mmほどの穴があいている。第６２図－１４８は下層出土の部材で、５７２．０×７２．０×３６．０mmを測る。下端部の一部が炭化しており、原形から変異した可能性があるが、上側が柄のように一方が細くなるように加工されており、加工された側の中～下側にかけては刃部のように若干削りを入れた加工がなされている。櫂などの他の用途についても検討される。１４９は中層出土の両端に差し込み口状の切り込みが作られた田下駄状の部材で、３３９．０×７２．０×８．５mmを測る。樹種はヒノキ科アスナロ属である。本調査区内ではＳＤ－０８ｂから出土例があり、また、土地区画整理事業の調査区からも類似した形状のものや若干幅が狭い資料なども出土している。本資料やＳＤ－０８ｂ出土資料もそうであるが、中央に刻書されているケースや土地区画整理事業の調査区出土の未発表資料で墨絵がある資料などもある。１５０は下層出土の用途不明の資料で、１８６．０×３２．５×１８．５mmを測る。木簡の０３１型式のように両端の左右に切り込みを入れたものであるが、厚みがあり、切り込み部分も幅が広く何かに組み合わされるような形状である。類似した形状で大型の資料は、第６３図－１５１で、６３１．０×４３．０×２９．０mmを測る。

側縁に紐がけしたかのような痕跡が三箇所確認できる。１５０の資料については長野県更埴市屋代遺跡群（長野県教育委員会ほか１９９９）では木札状木製品として２１．８～２３．２ｃｍのサイズの類似した形態の資料について新潟県新潟市的場遺跡（新潟市教育委員会１９９１・１９９３）出土の浮子とした資料を引用し、浮子の可能性について指摘している。本資料は同質の資料にあたる可能性がある。１５２は上層出土の木錐ないしは木栓と考えられる資料で、１５５．５×１８．０×１８．５mmを測る。棒状の材を加工し、下端は鋭利に尖らせた形状に加工している。１５３・１５４は柾目の板状の細身の短冊形の資料で、１５４については文字判読に至らなかったが墨痕があり木簡である。なお、本資料は整理作業で追加で見つかった資料で、第Ⅶ章第５節報告資料の中には含まれていない。１５５は下層出土の箆状の木製品で１４５．０×７．５×５．０mmを測る。図上の下端側の右側縁側が刃部のように薄造りに削られており、上端側の中央には穴が一つあけられている。第６４図－１５６～第６５図－１６５は板状の資料で、基本的に柾目材であり、一部１６２のようにキリオリが入った加工品の資料も含まれるが、ほとんど破壊も含む欠損資料であると認定できる。１６６～１６８は角材状の形状を呈する加工資料で、１６６は先端を平滑に刃部のように加工した箆状木製品である。１６９は中層出土の用途不明の資料で、（４２０．０）×２２．５×２１．０mmを測る。斜め材が使用され、上側が削りにより細身の形状を呈している。１７０・１７１は側枝の加工材で、１７０ｃｍを超える長さの資料である。いずれの資料も端部の一部を加工している。１７２～１８２は杭で、１７２は上層出土の資料で、1,７４７．０×８５．０×８４．０mmである。角材のほぞ穴がある部材を転用して先端を削り杭状にしている。転用の時点でやや乱雑な再調整がされており、先端の剣先部分は一方向から連続した加工により作出されている。１７３～１８２は杭列出土資料とほぼ同質である資料で、長さが３７～６６ｃｍ程度の大きさである。１７６や１７９のように一端を細く杭状に削り、もう一端の木口は平滑にした資料や、両端を尖らせた形状を呈する資料（１７３・１７４・１７５・１８１）などがある。

第６７図１８３～第８８図－２８５で図示したＳＤ－０８の杭列出土資料として取り扱った資料群についても同様で、①一端を細く杭状に削り、もう一端の木口は平滑ないしはもともとの原材のままである資料（１８５～１９３,２１６・２１７・２４１・２４４・２５８）、②一端を細く杭状に削りもう一端を剣先状に鋭利に削る資料（１９４・１９５・１９７,１９８～２１５,２１８～２３７,２３９・２４０・２４３,２４５～２５７,２５９・２６０,２６４～２６６,２６８～２７０,２７２～２７３）の２つが主体を占める。これらの資料については設置されていた時点で、剣先状に鋭利に細い部分は天側で、地側の埋め込まれていた方は天側に比べるとそれほど細くない形状のものであった。また、端部の形状に無関係で、１８６・１８７・１９４・１９８・２０４・２１８・２４５・２５７・２７４のようにＶ字状に中央が落ち込む面を一面持つ資料や、１８９・２０１のようにＶ字状に落ち込む形状を有する面が二面ある資料などがある。その他③角材資料（第８６図－２７５・２７６）、④板材資料（第８７図－２７７～２８１）、⑤柱状の丸杭資料（第８８図－２８２～２８５）⑥それ以外の欠損資料（２４１,２６１～２６３,２６７・２７１）などが本資料群の構成である。

ＳＤ－０８ｂ（第８９図－２８６～２８９）

４点図示した。２８６は上層出土の田下駄状の部材資料で、３１９．５×８３．０×１２．５mmを測る。ＳＤ－０８出土資料（第６２図－１４９）とほぼ同一の形状であるが、本資料の方が流動の影響が大きく摩滅が著しい状況にある。１４９の資料の記述の際に触れたように本資料の中央にも刻書がされている。２８７は上層出土の箆状の資料で、（２０３．５）×２０．０×６．０mmを測る。木口部分が丸みを帯びた

加工がなされており、もう一端については欠損しているため詳細は不明である。板状の資料についてはやや大型の欠損資料について２８８に図示した。（３５５．０）×３５．０×６．５mmを測る。２８９は杭の状の角材で、（４９９．０）×３８．５×２７．０mmを測る。

４．金属製品（第８９図－２９０）

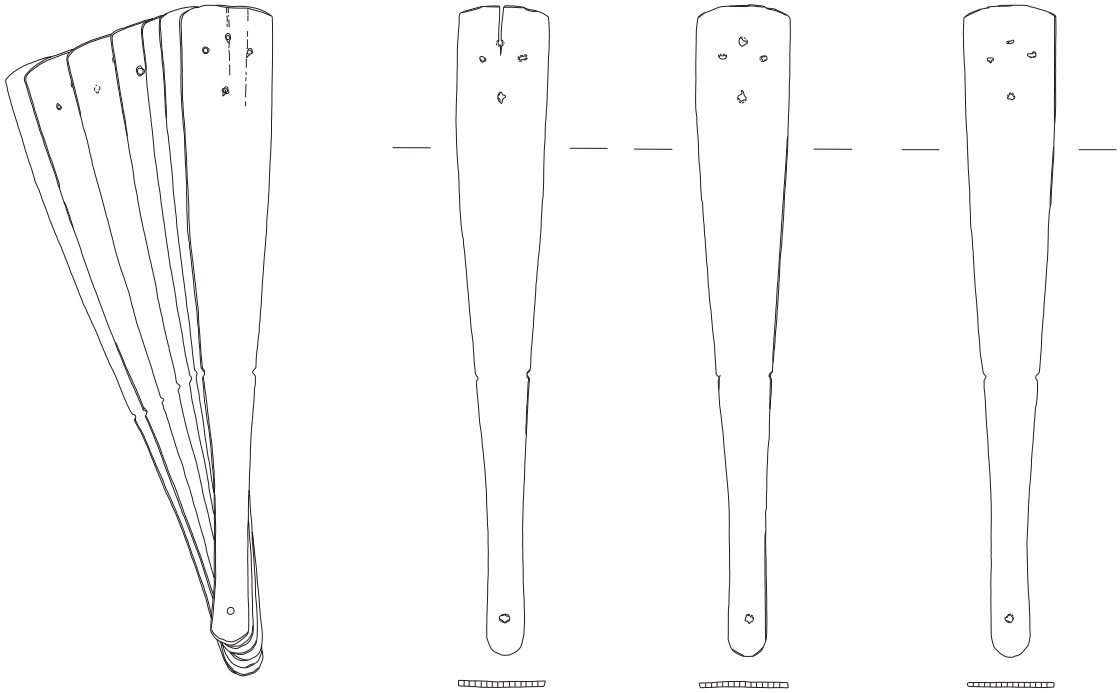
Ｈ１５ＳＢ－０１Ｐｉｔ１５出土の古銭１点を掲載した。直径２．２ｃｍ、穿径０．６ｃｍ、外輪幅０．２ｃｍ、外輪厚０．０８ｃｍを測り、１．６ｇを量る。表側には文字の配置が認められるが、摩耗が著しく判読不能であった。

第３節　小結

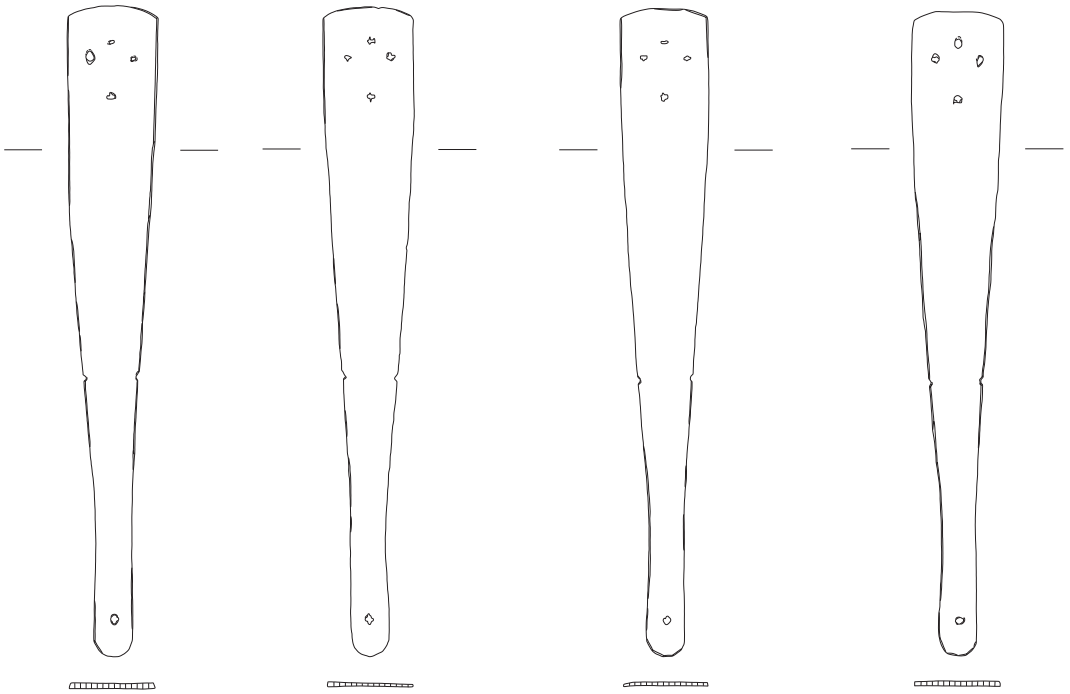
新田（１）遺跡の平成１５年度の調査区は標高４．５～５．４ｍの沖積地部分の調査で、平安時代の溝跡６条、平安時代以降の溝跡２条、近代～現代の溝跡２条、中世以降のピット１６基を検出した。その他本調査区では第３１図の遺構配置図上に掲載したが、ＳＦ－０１と名付けた道跡や近世以降の畦畔（ＳＧ－０１～０６）やＳＬ－０１と名付けた島状の土手などの遺構が確認されている。遺物などが伴わず、遺構の様相についても土地区画整理事業の調査区の成果と連動することから、本報告には詳細は掲載していないが、土地区画整理事業の調査区の報告の際統括して報告することとする。本調査区は古代における水利事業の様相を知る上で、ＳＤ－０１や０８で見られた流量の調整やＳＤ－０８杭列など新たな情報を加えることができた。流路の変遷過程については報告したとおり幾重にも重なって行われている状況で、一部は一段高い丘陵側につながっている遺構もあり、大きな範囲を対象とした区画等の要素も含んだ解釈が必要である。

本調査区は古代のみではなく、中世そして、近世から現代にわたって脈々と土地利用が続けられている状況である。現代の水田利用の時点でも用水として流路は利用されている箇所もあり、その祖形が古代の時点で形成されていたことを物語っている。現時点では一部分の報告であることから全容について検討することはできない。今後土地区画整理事業の調査区の成果の報告の際、改めて再検討を行う予定である。

SD-01



65(出土時)　65-1　65-2　65-3

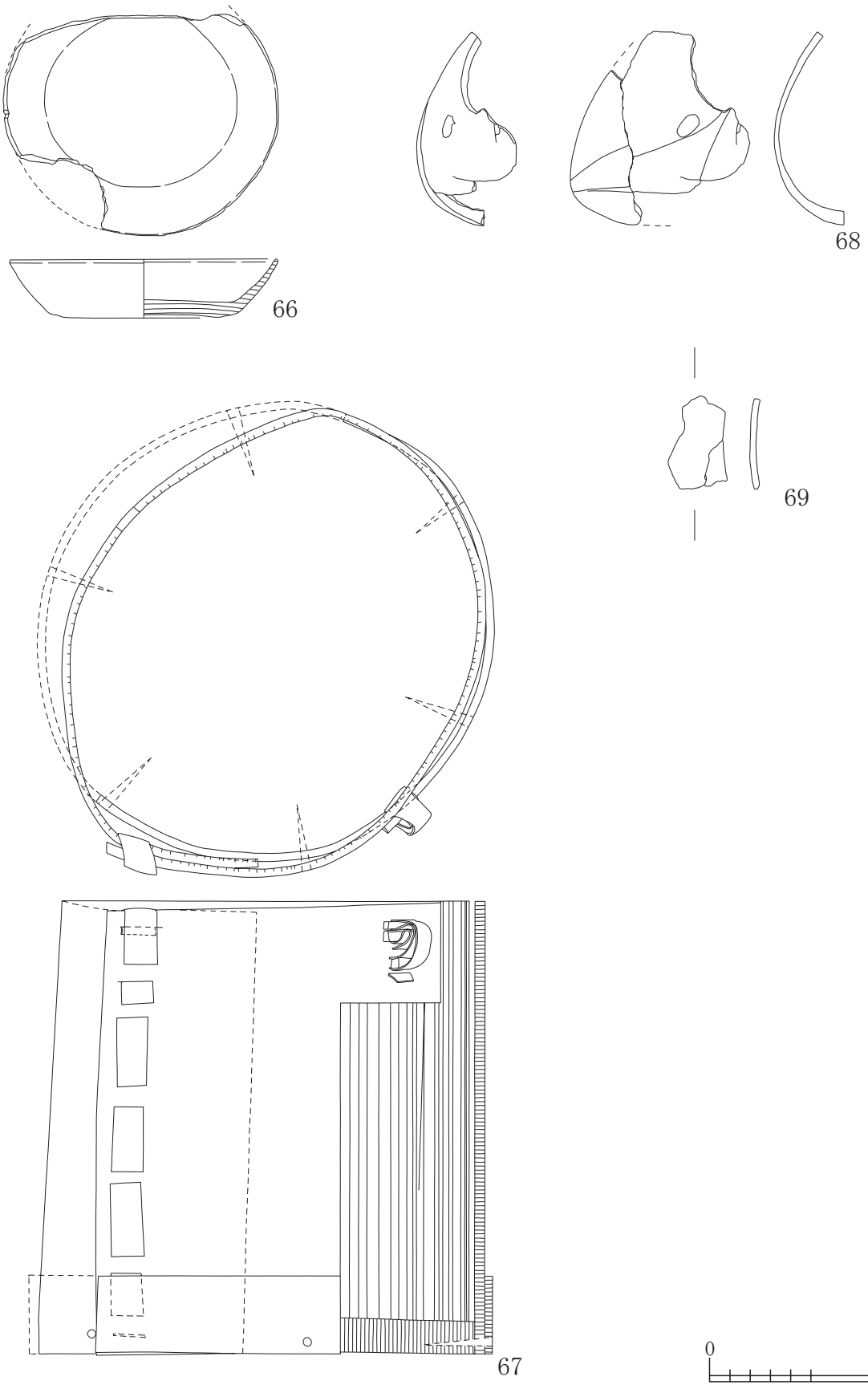


65-4　65-5　65-6　65-7

0　10cm

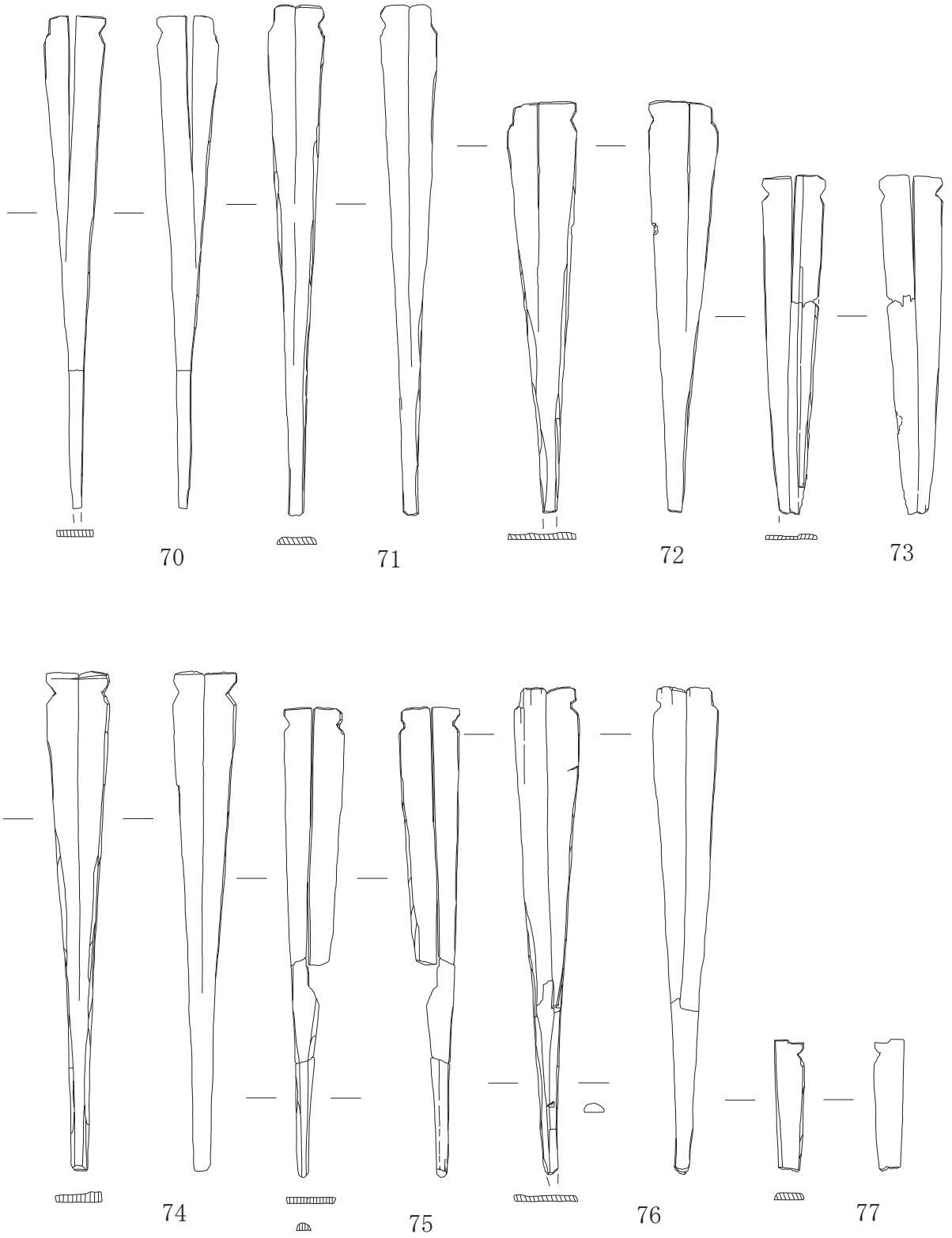
第 49 図　出土遺物 6 (木製品)

SD-01

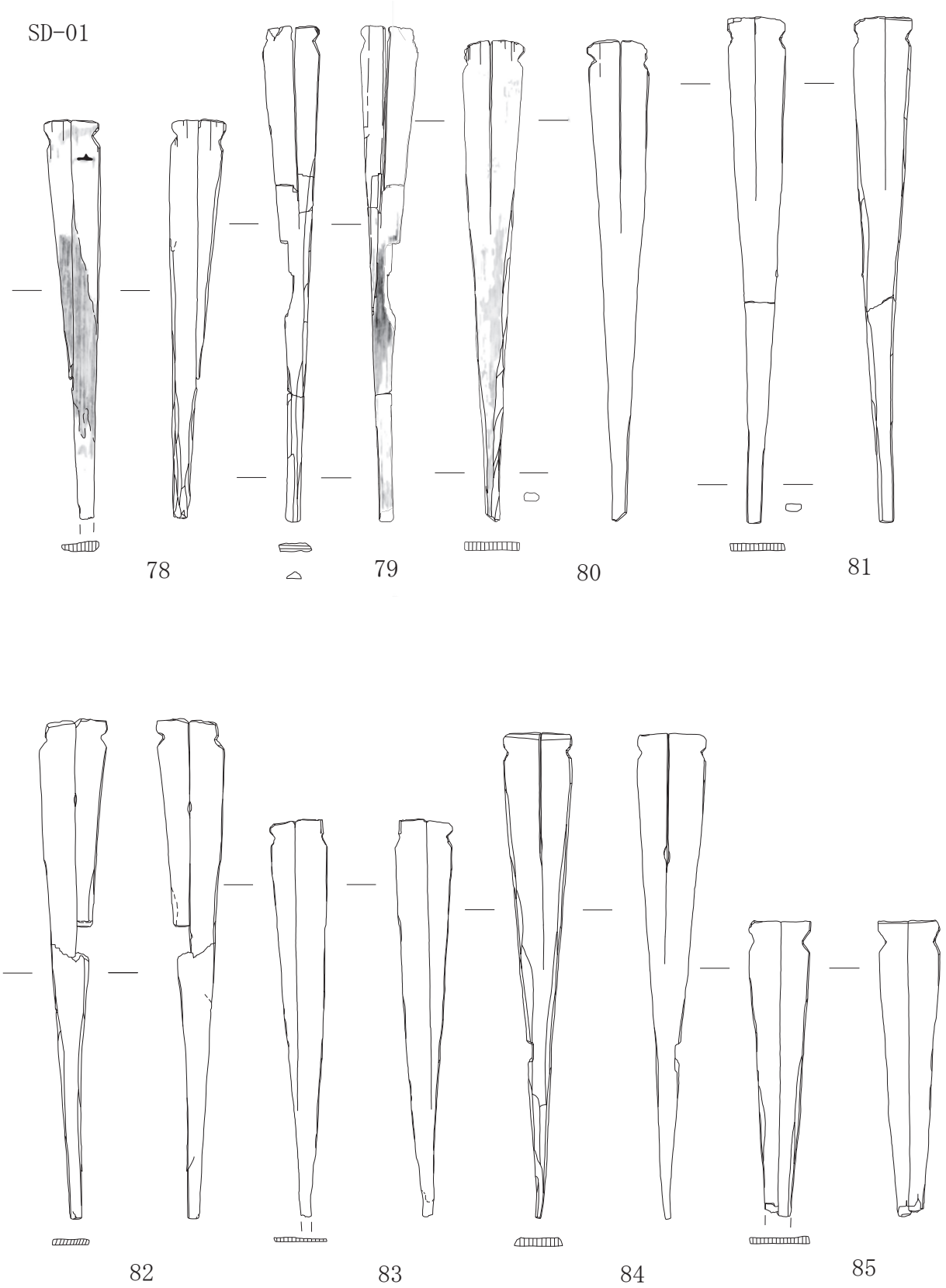


第 50 図　出土遺物 7（木製品）

SD-01

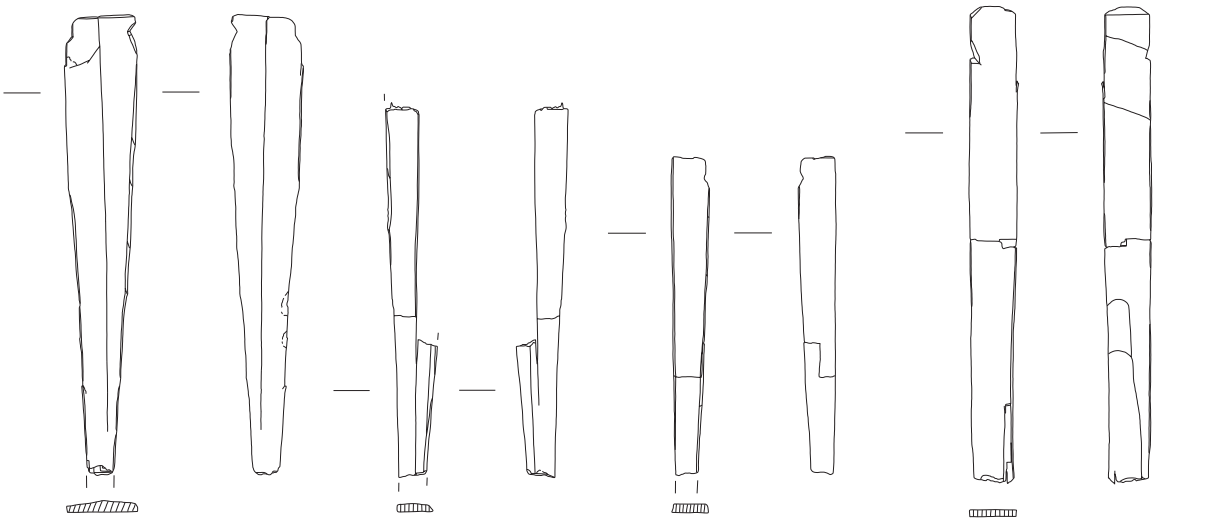


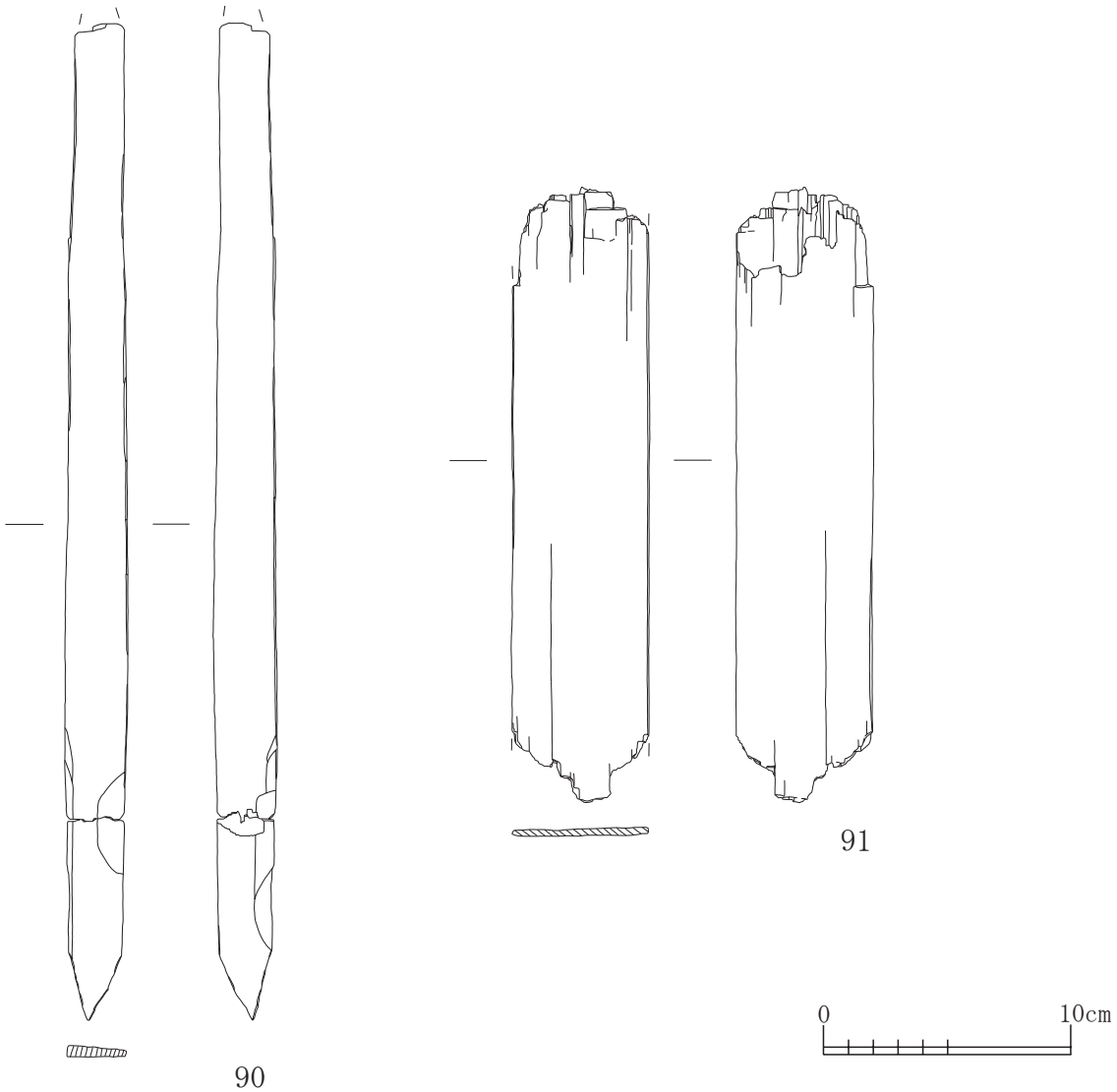
第 51 図　出土遺物 8（木製品）



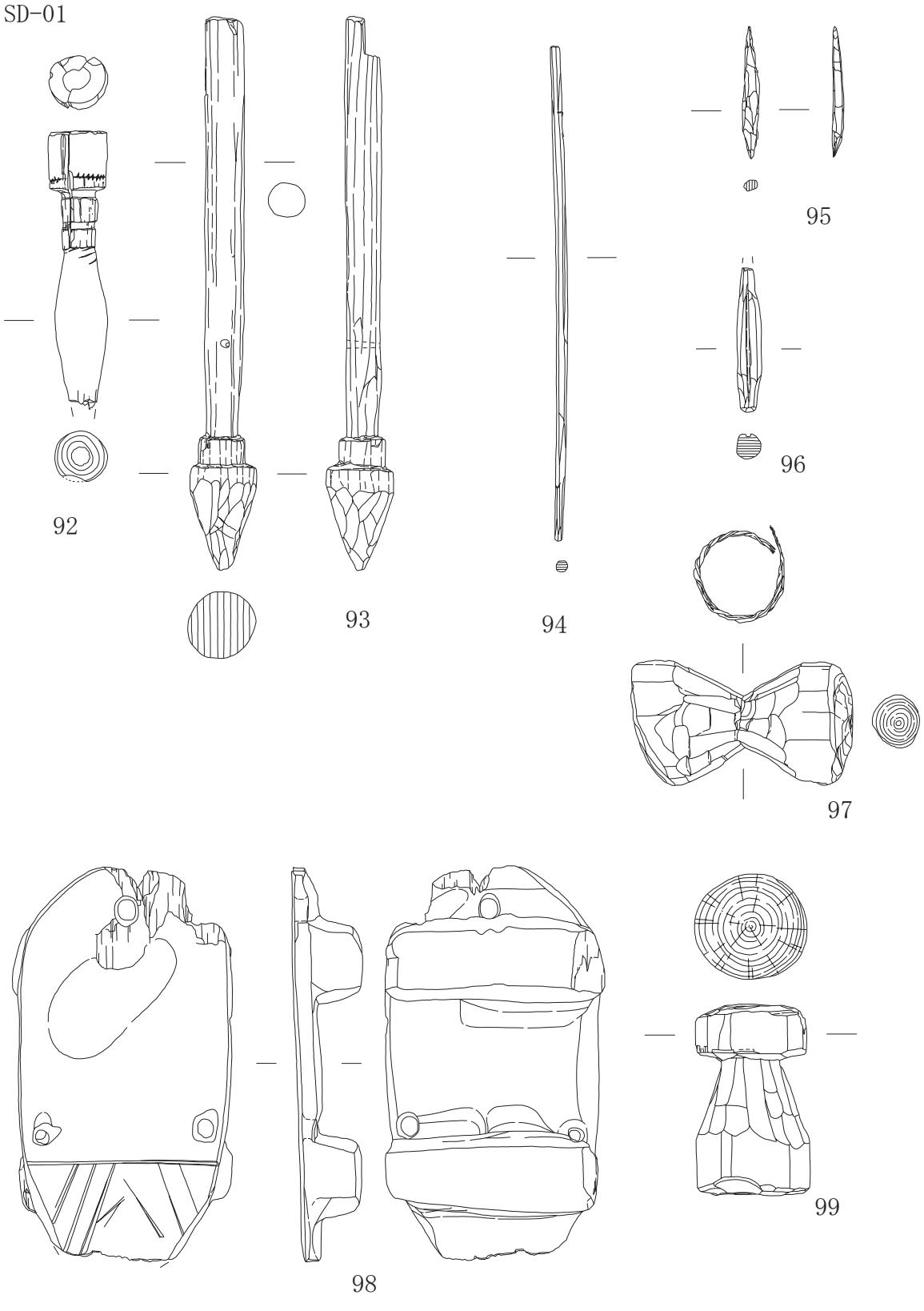
第 52 図　出土遺物 9（木製品）

SD-01



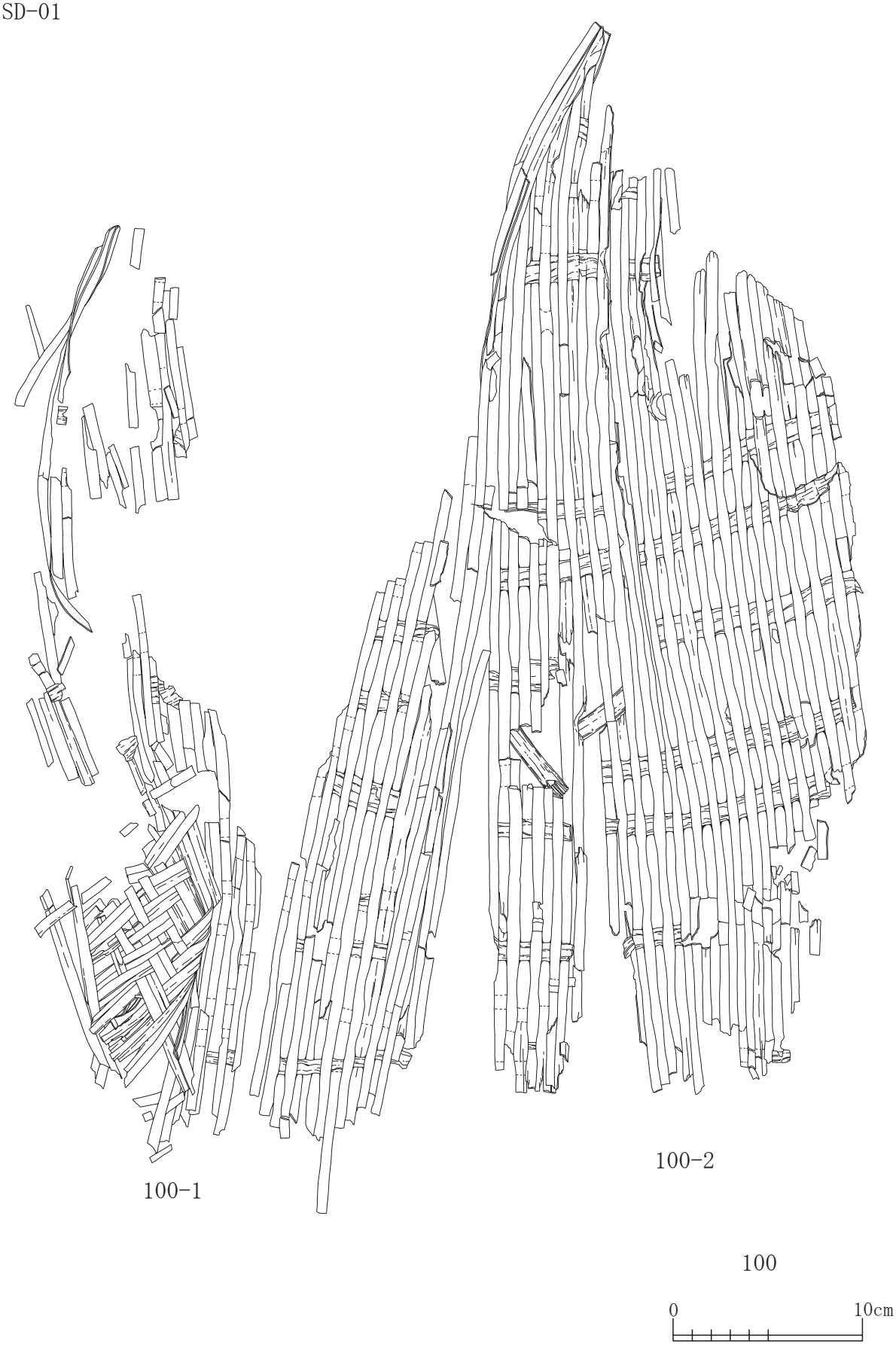


第 53 図　出土遺物 10（木製品）

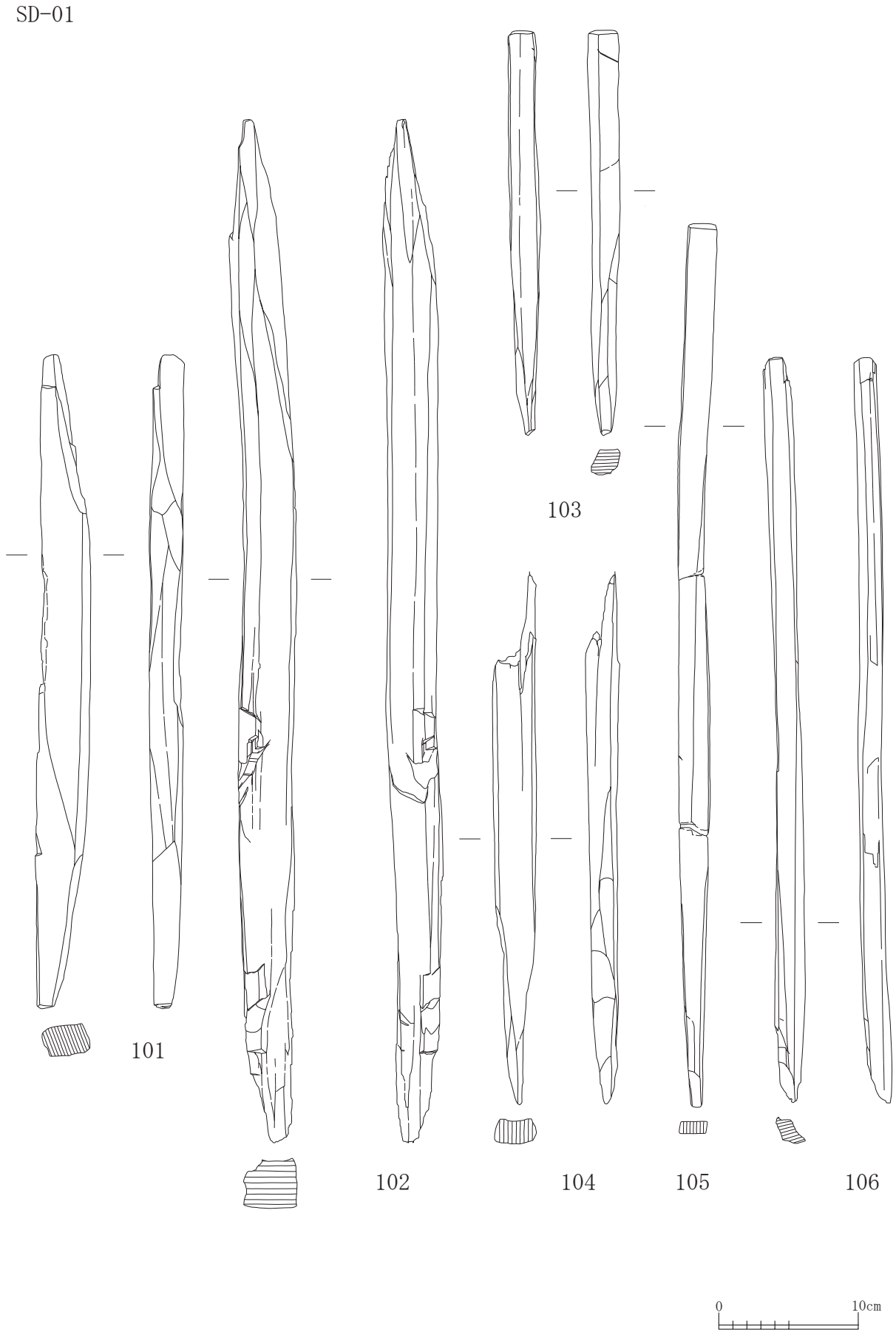


第 54 図　出土遺物 11（木製品 ）

SD-01

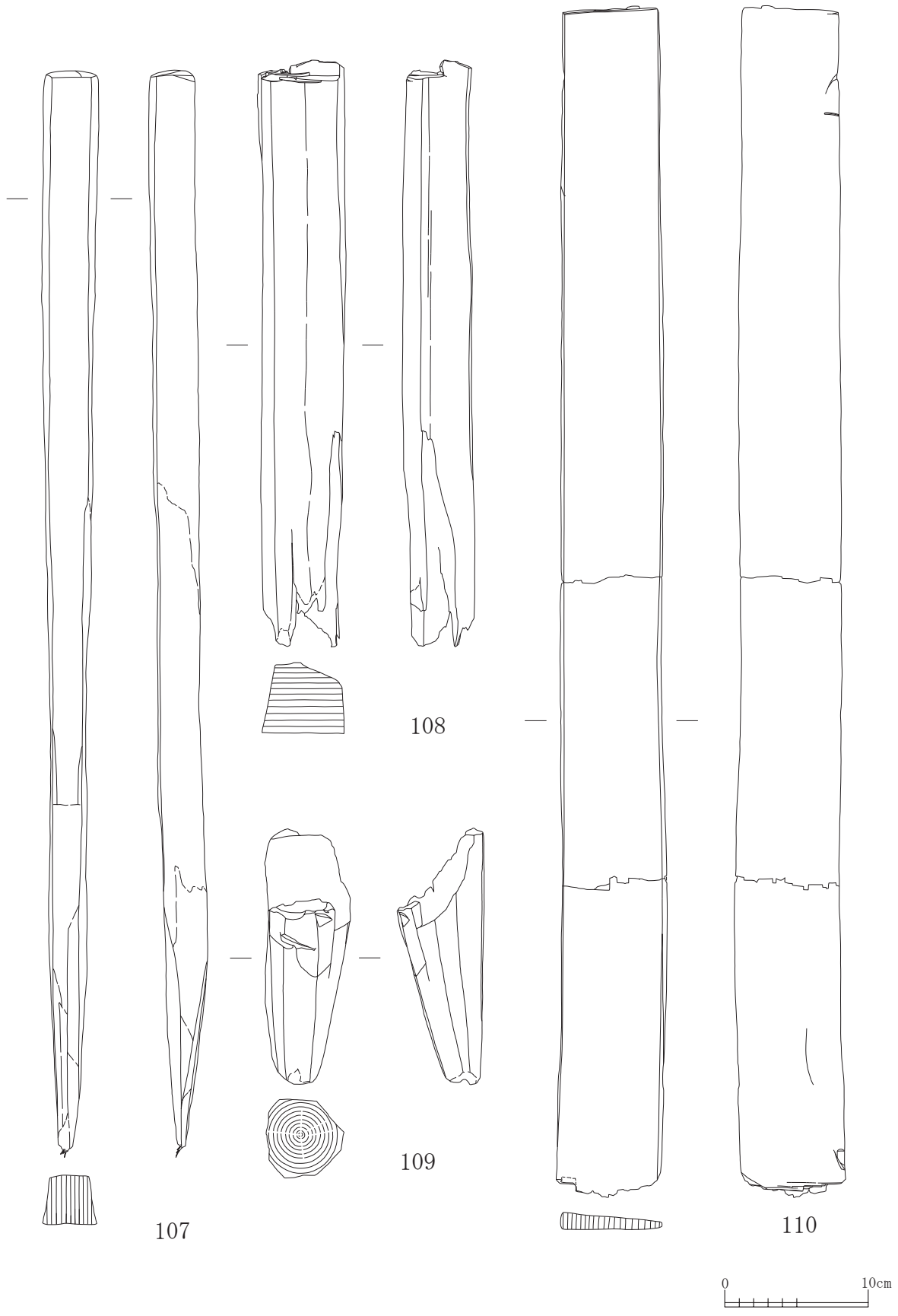


第 55 図　出土遺物 12（木製品）

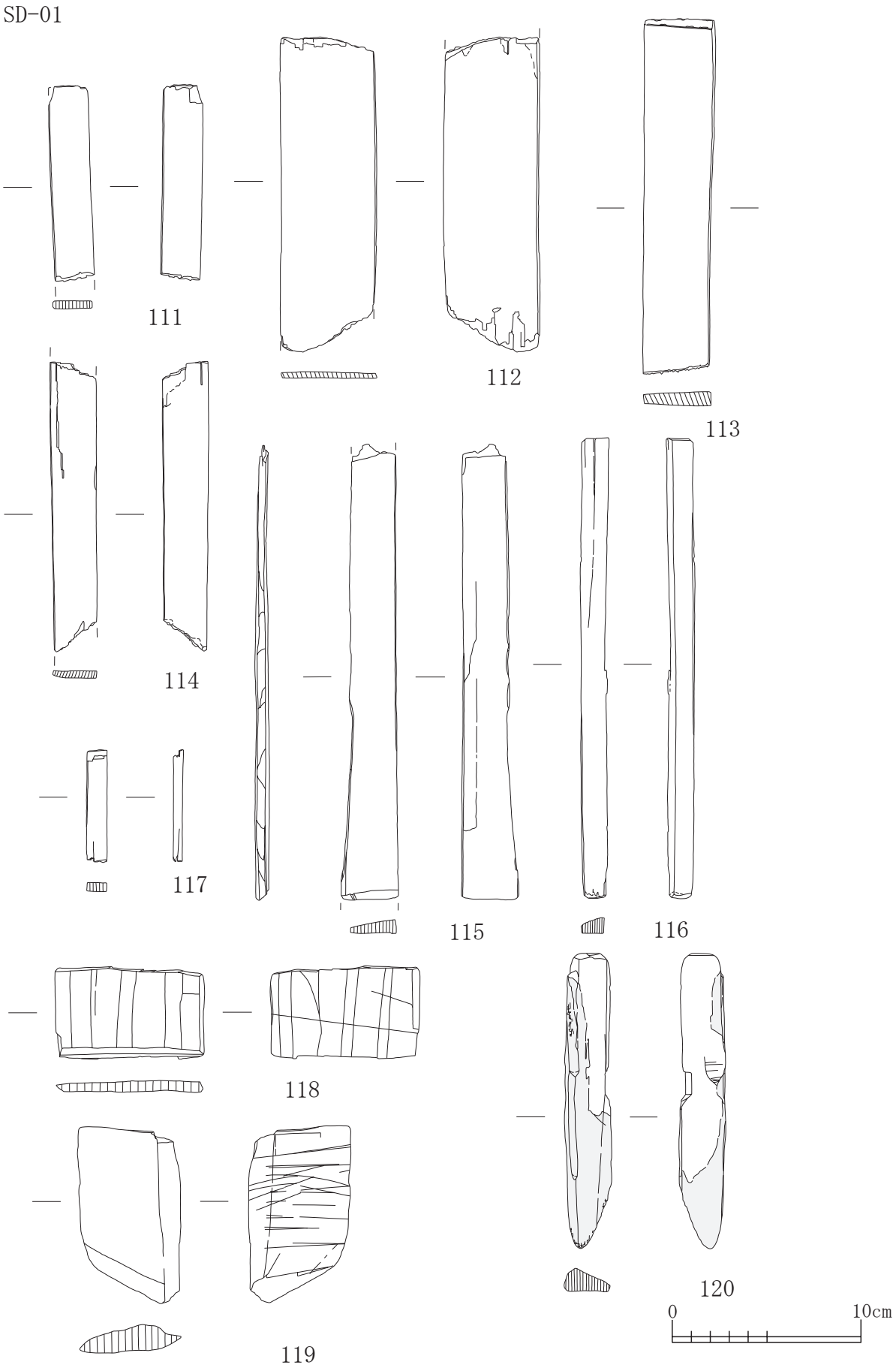


第 56 図　出土遺物 13（木製品）

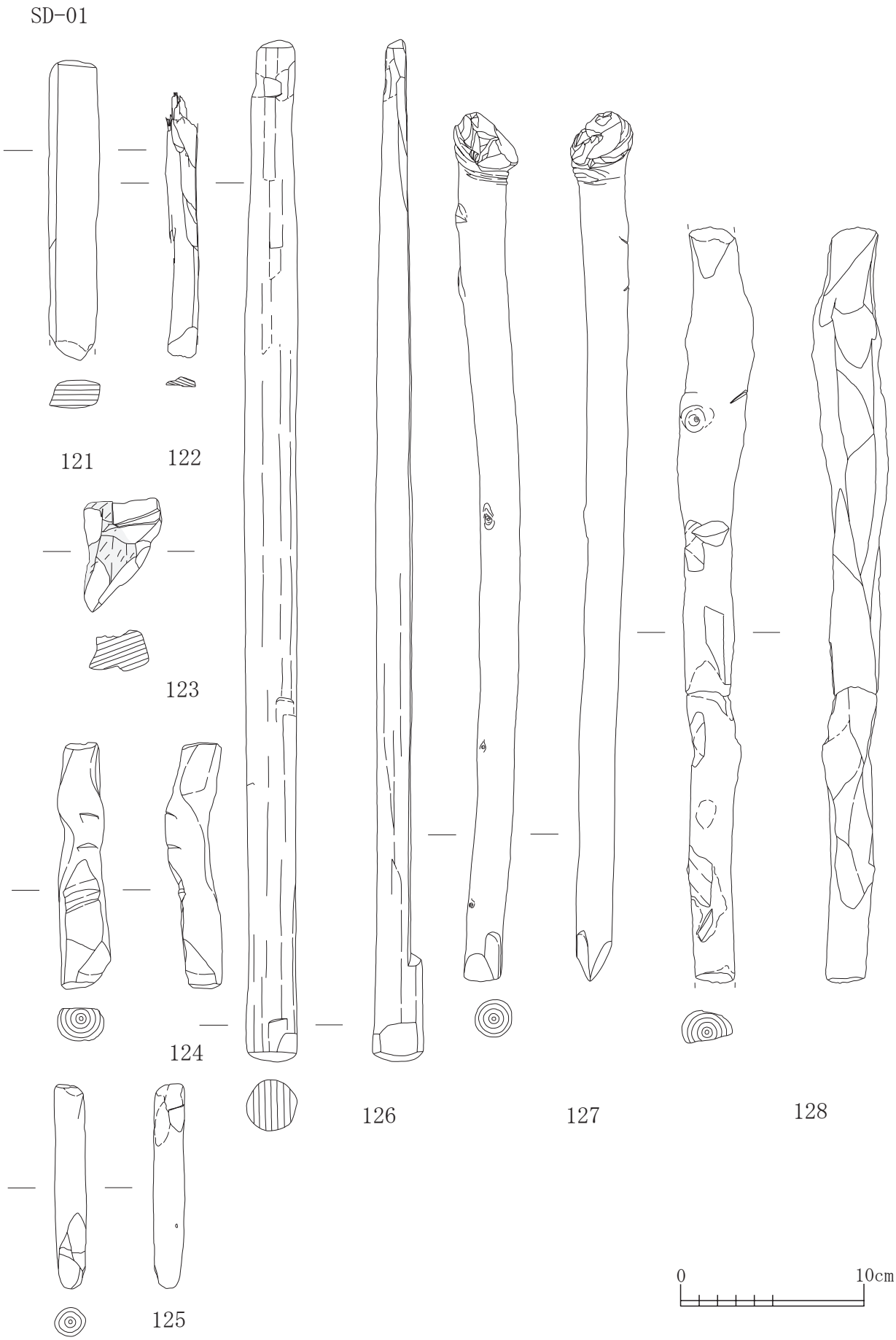
SD-01



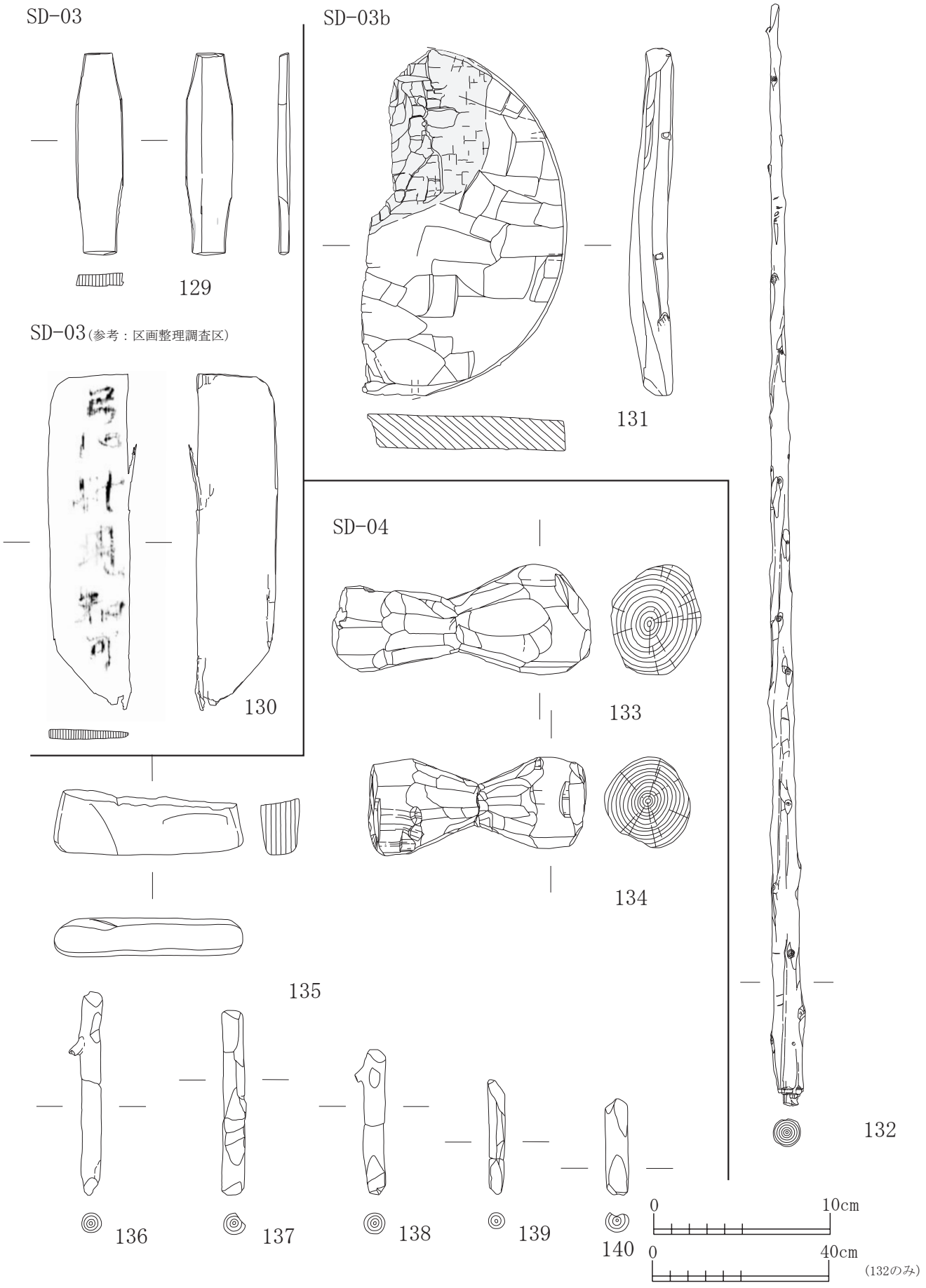
第 57 図　出土遺物 14（木製品）



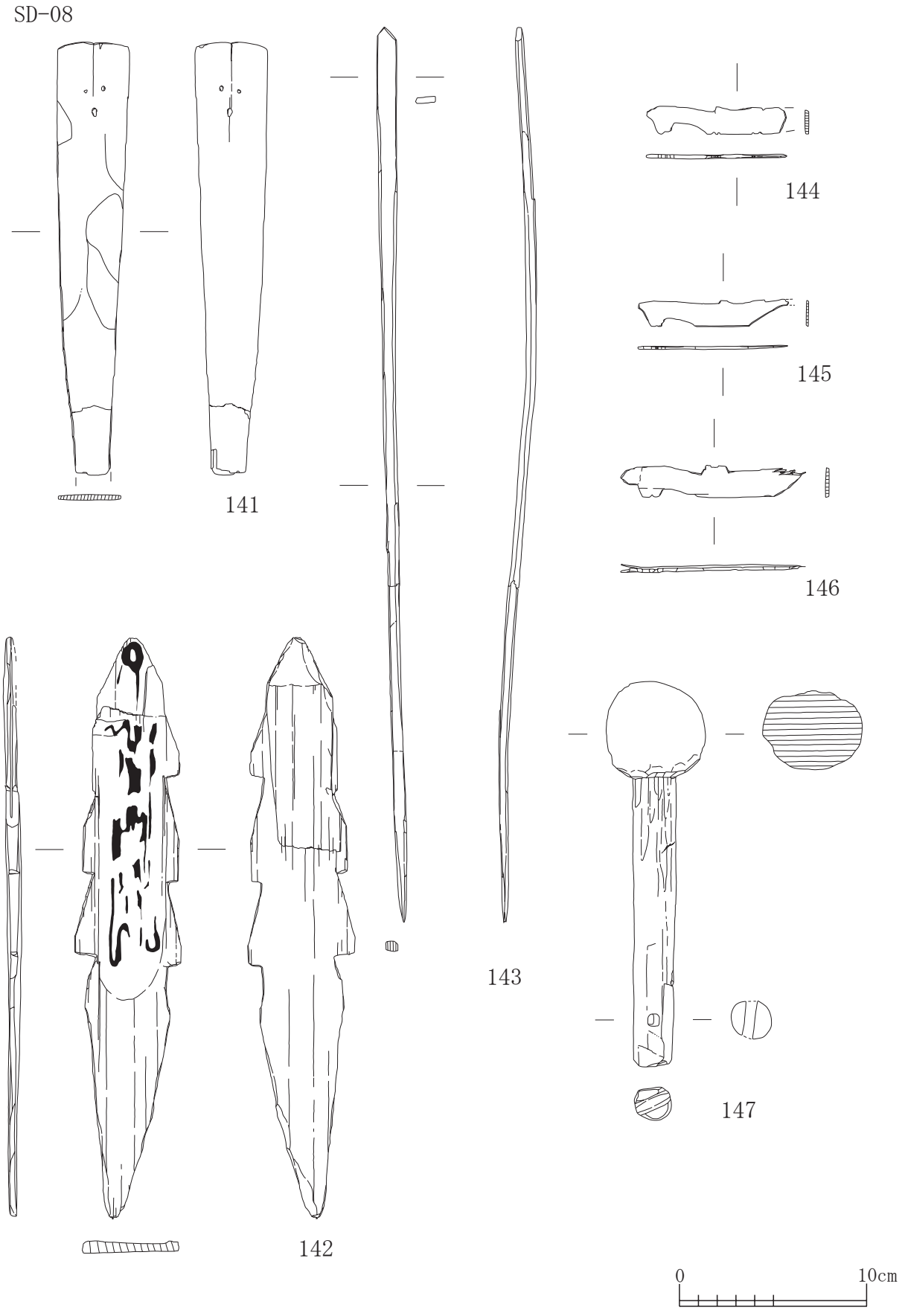
第 58 図　出土遺物 15（木製品 ）



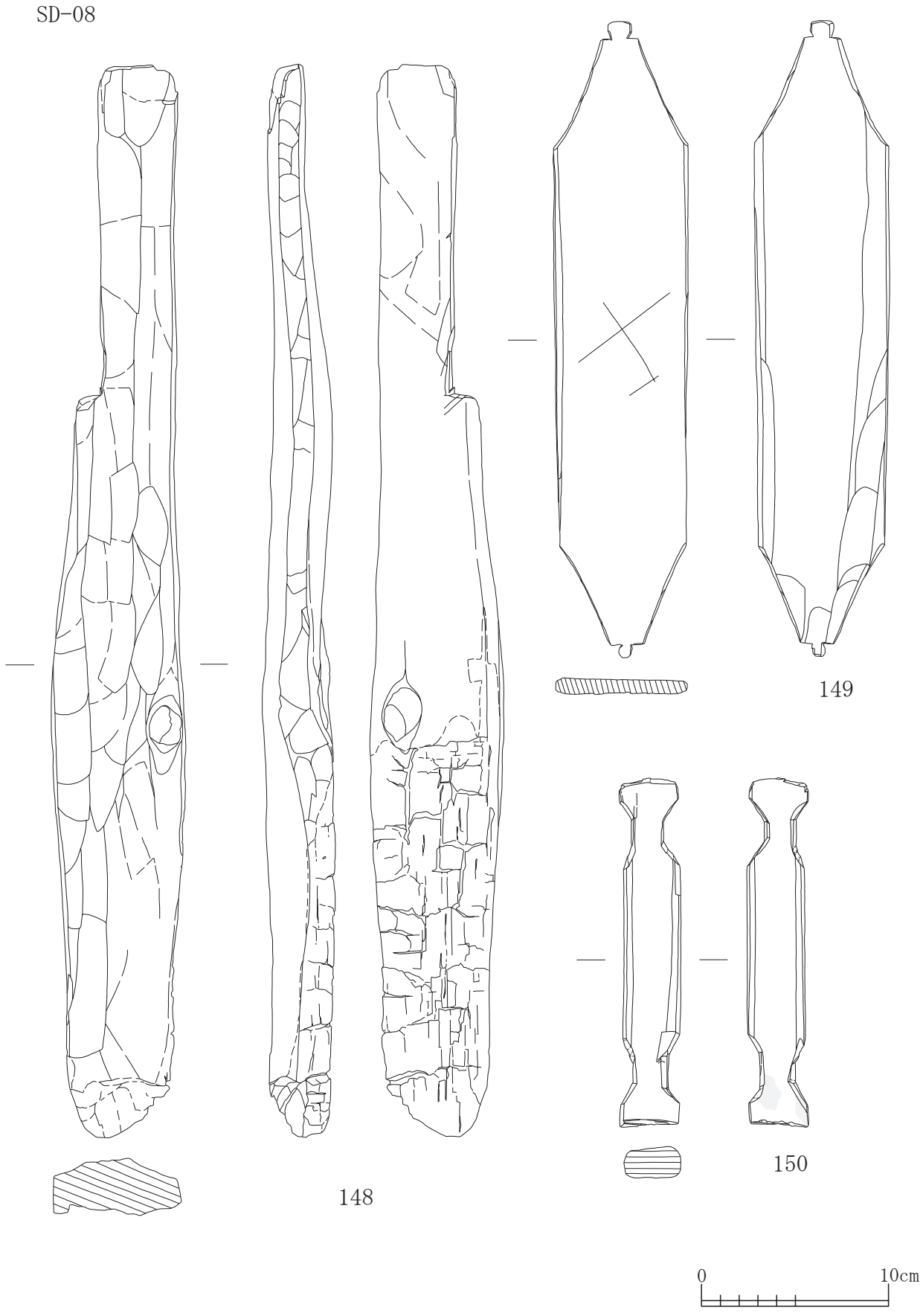
第 59 図　出土遺物 16（木製品）



第 60 図　出土遺物 17（木製品）

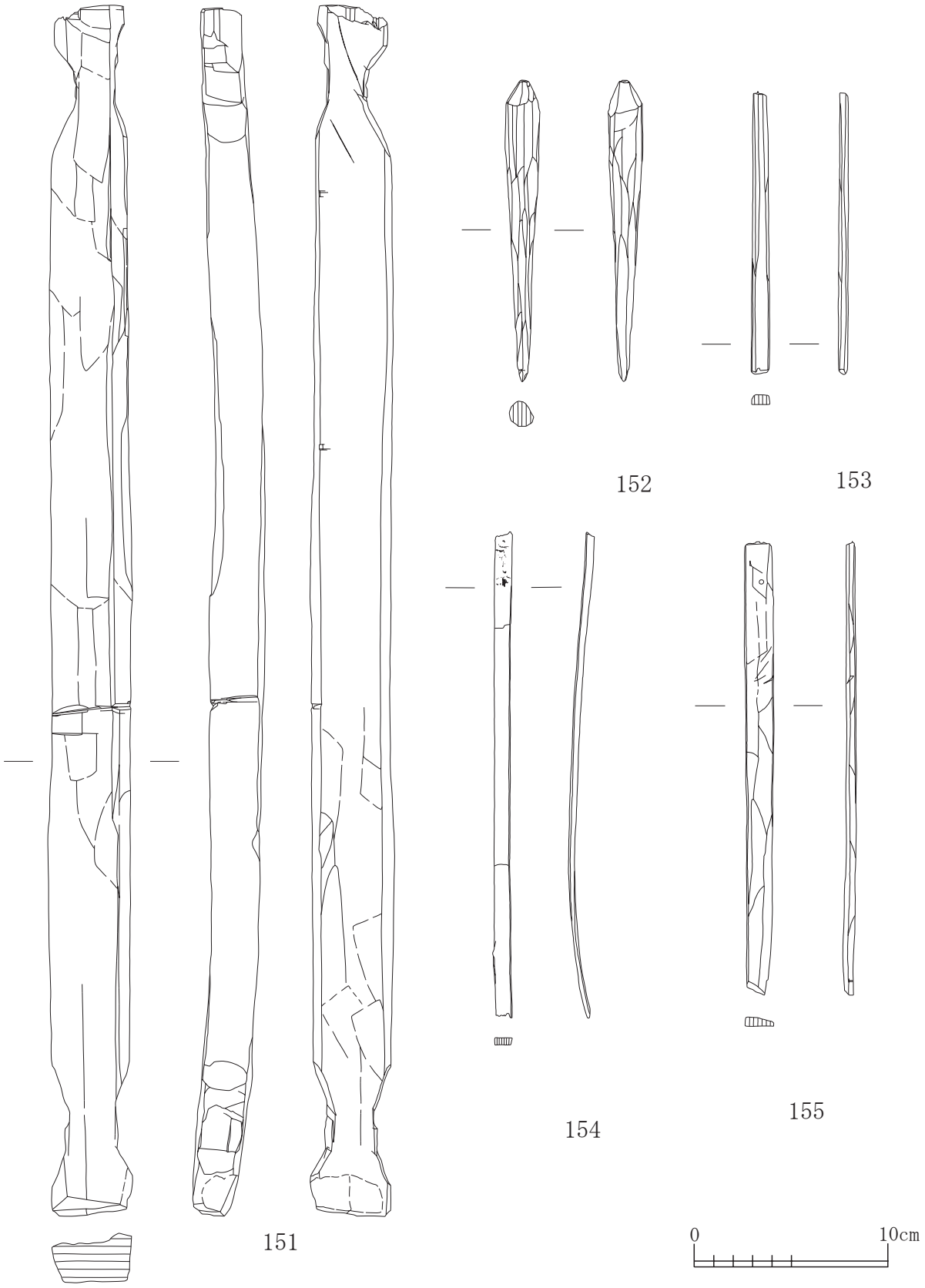


第 61 図　出土遺物 18（木製品）

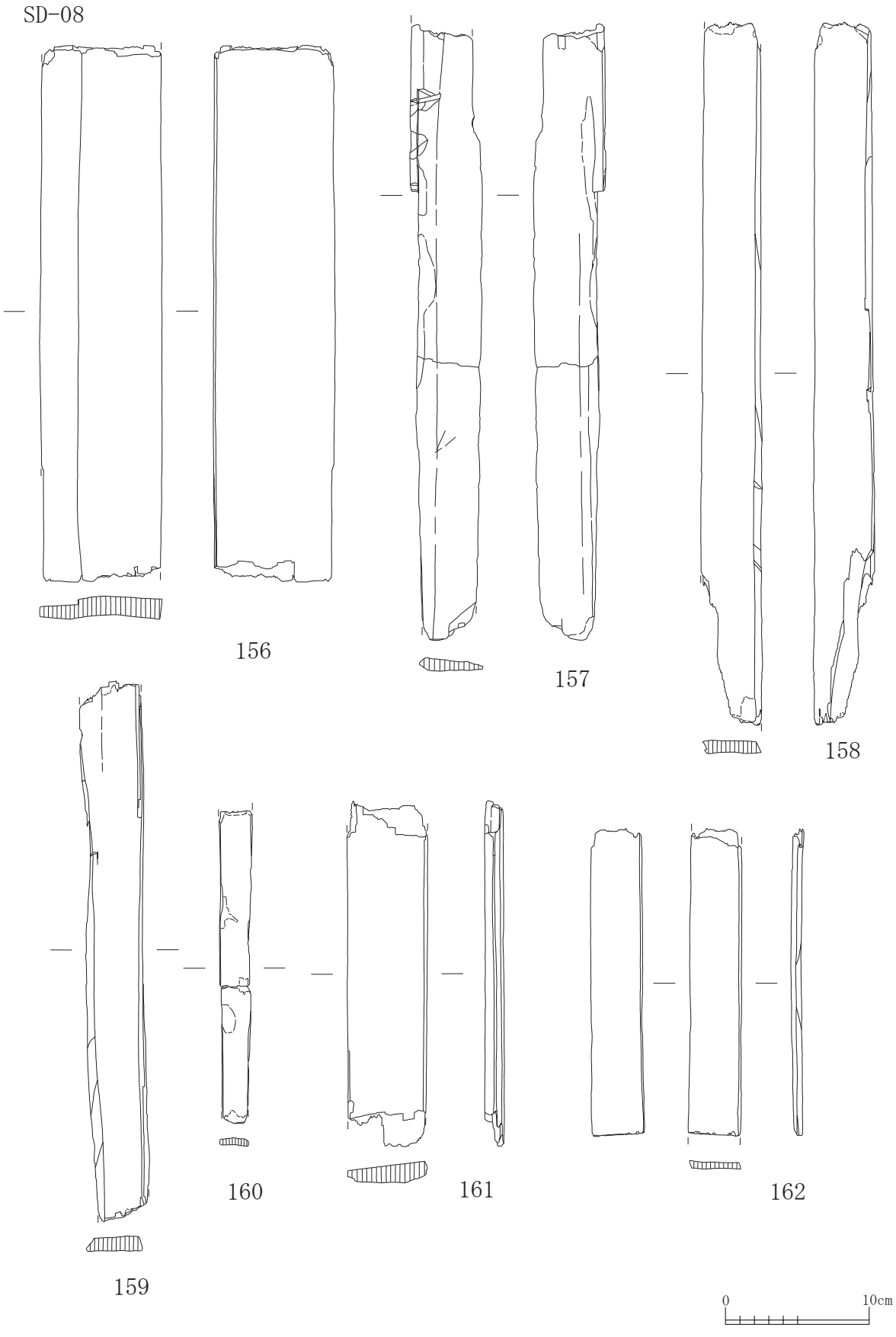


第 62 図　出土遺物 19（木製品）

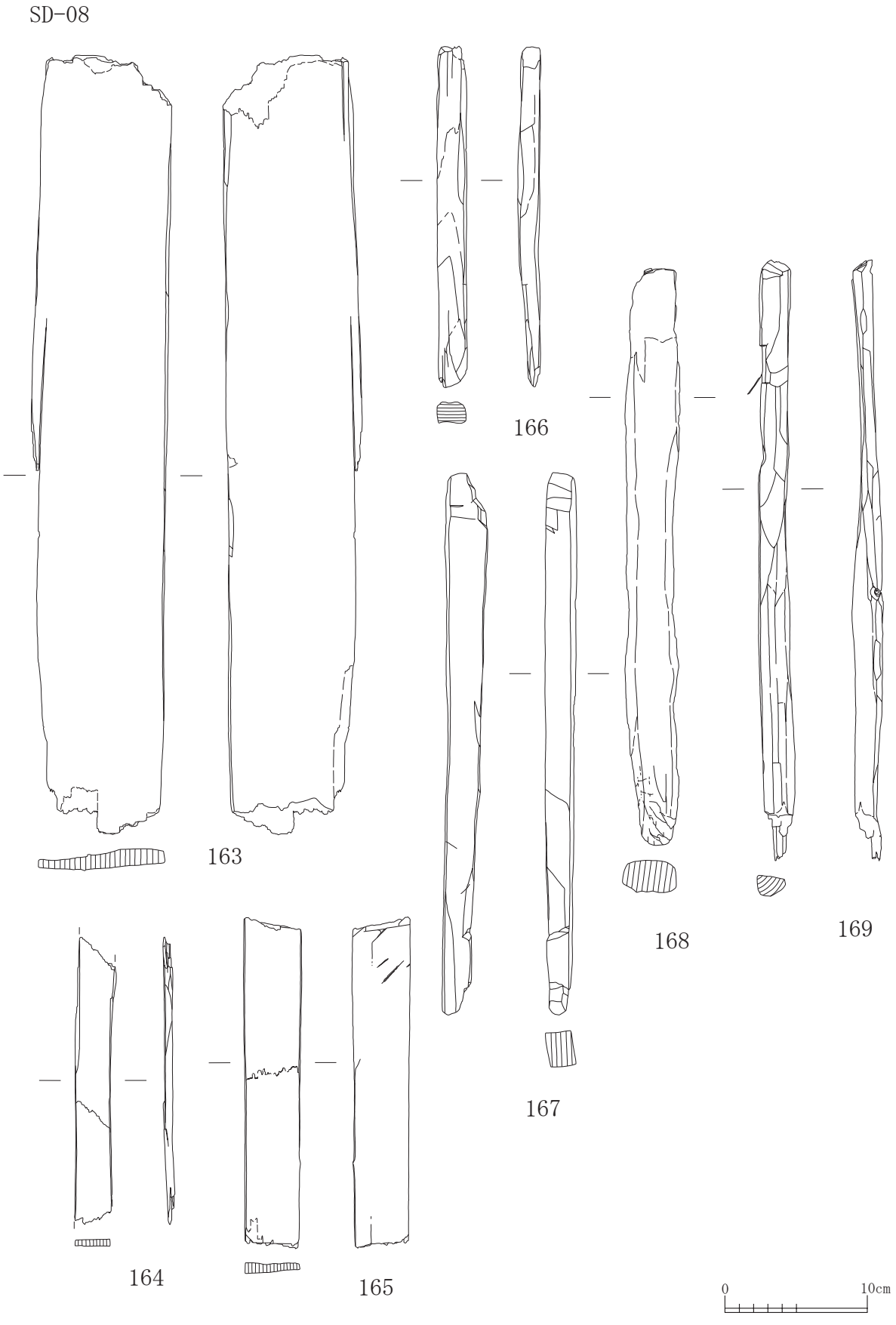
SD-08



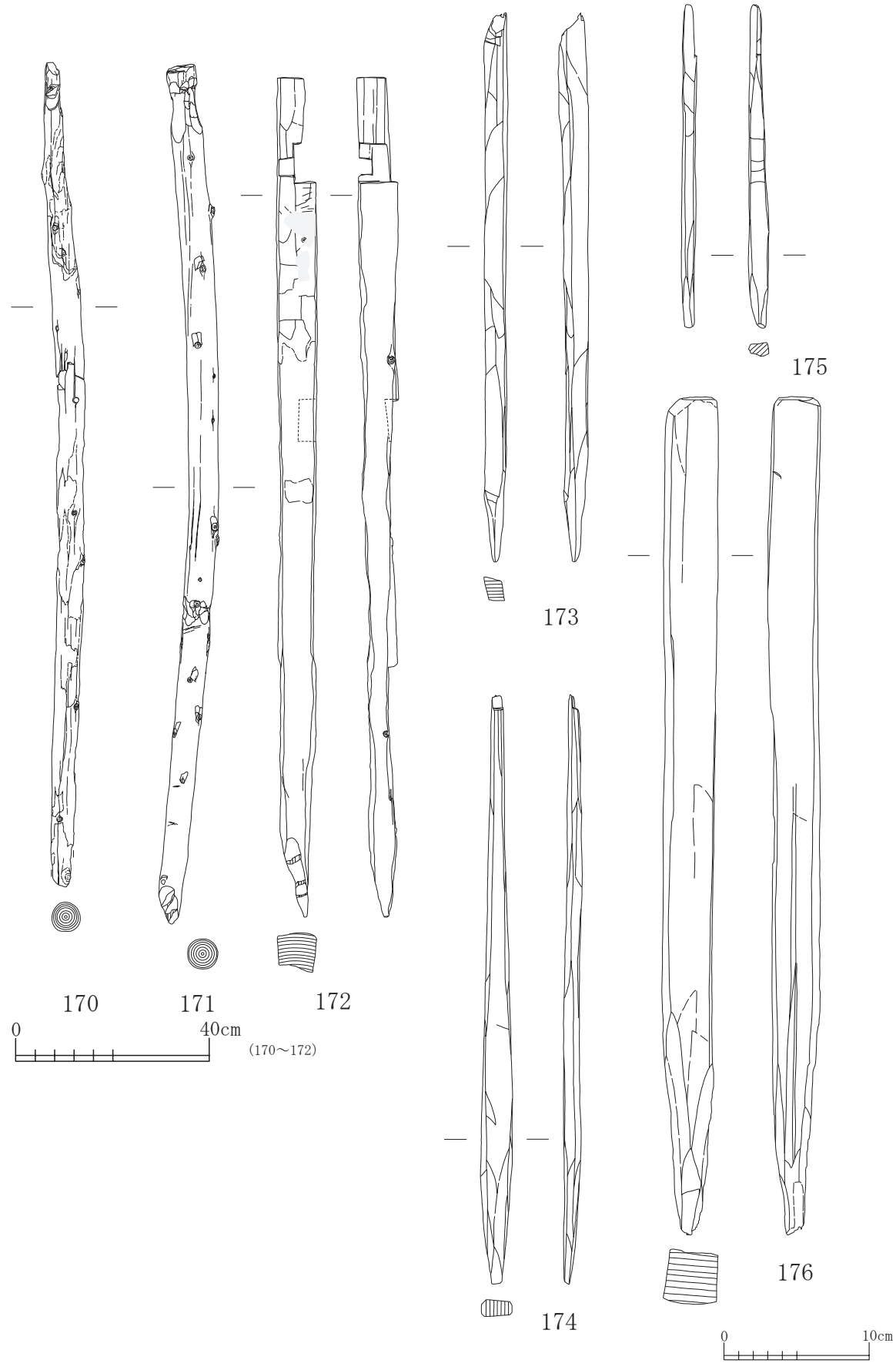
第 63 図　出土遺物 20（木製品）



第 64 図　出土遺物 21（木製品）

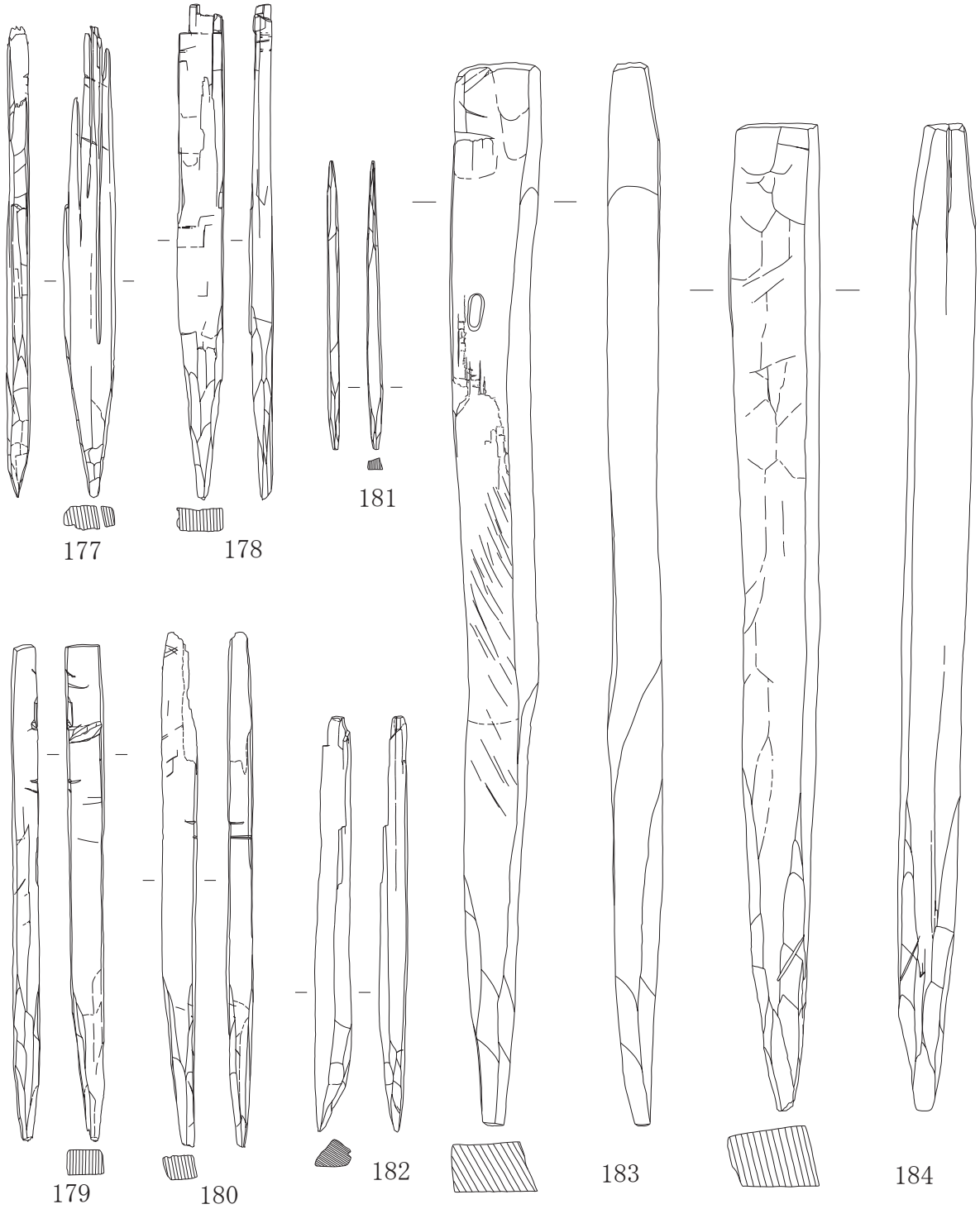


第 65 図　出土遺物 22（木製品）



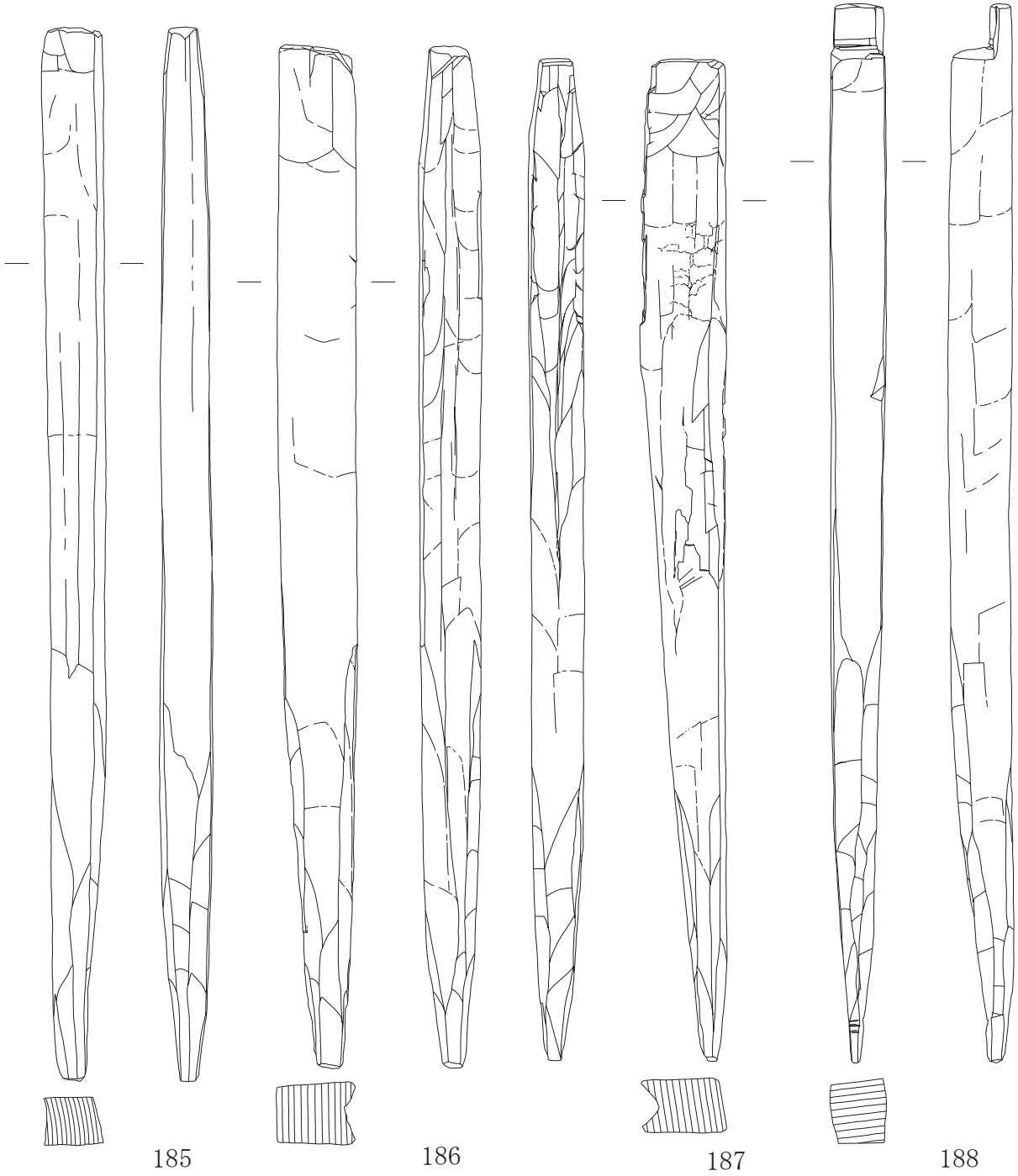
第 66 図　出土遺物 23（木製品）

SD-08　　SD-08杭列



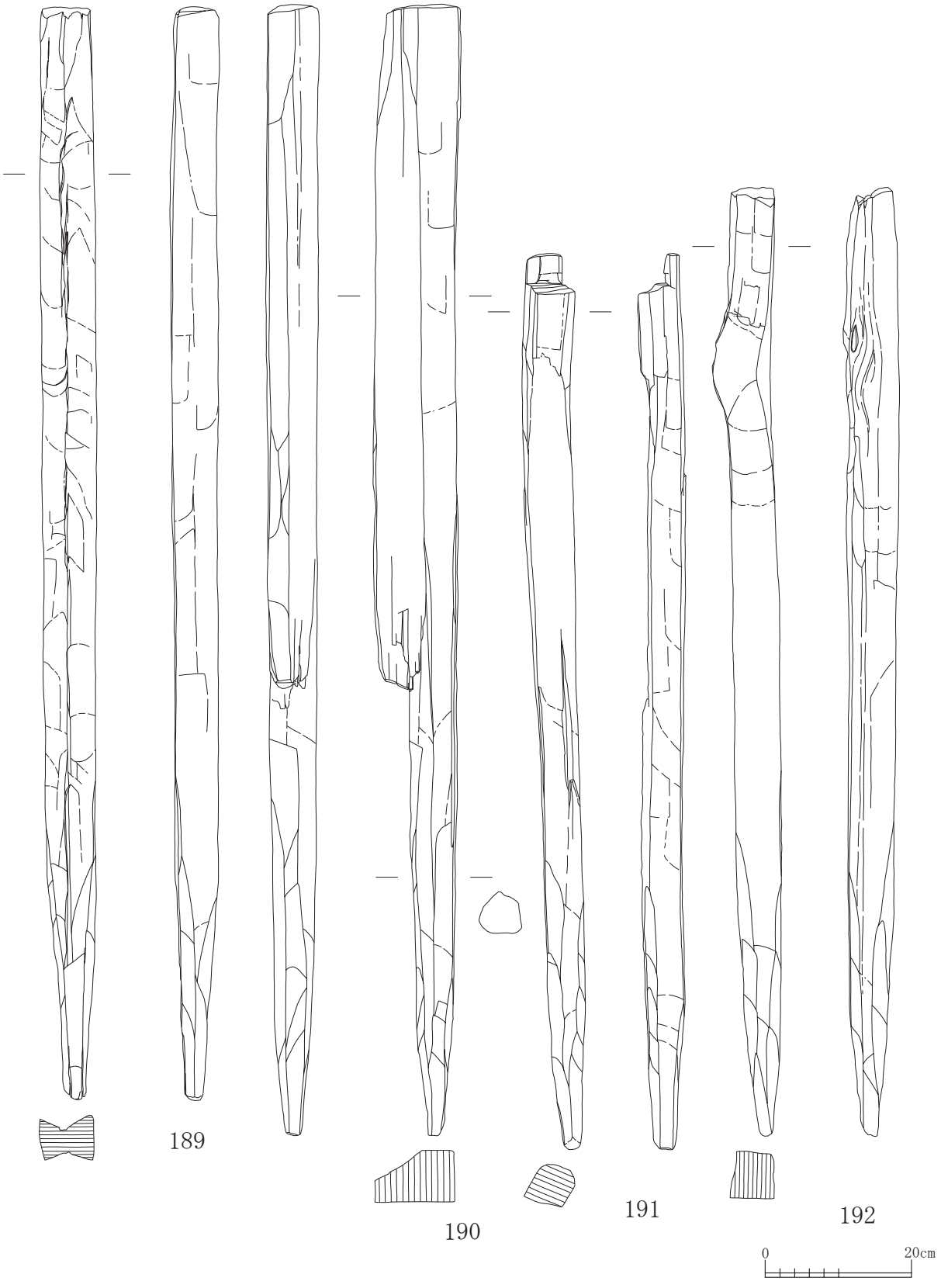
第 67 図　出土遺物 24（木製品 ）

SD-08杭列



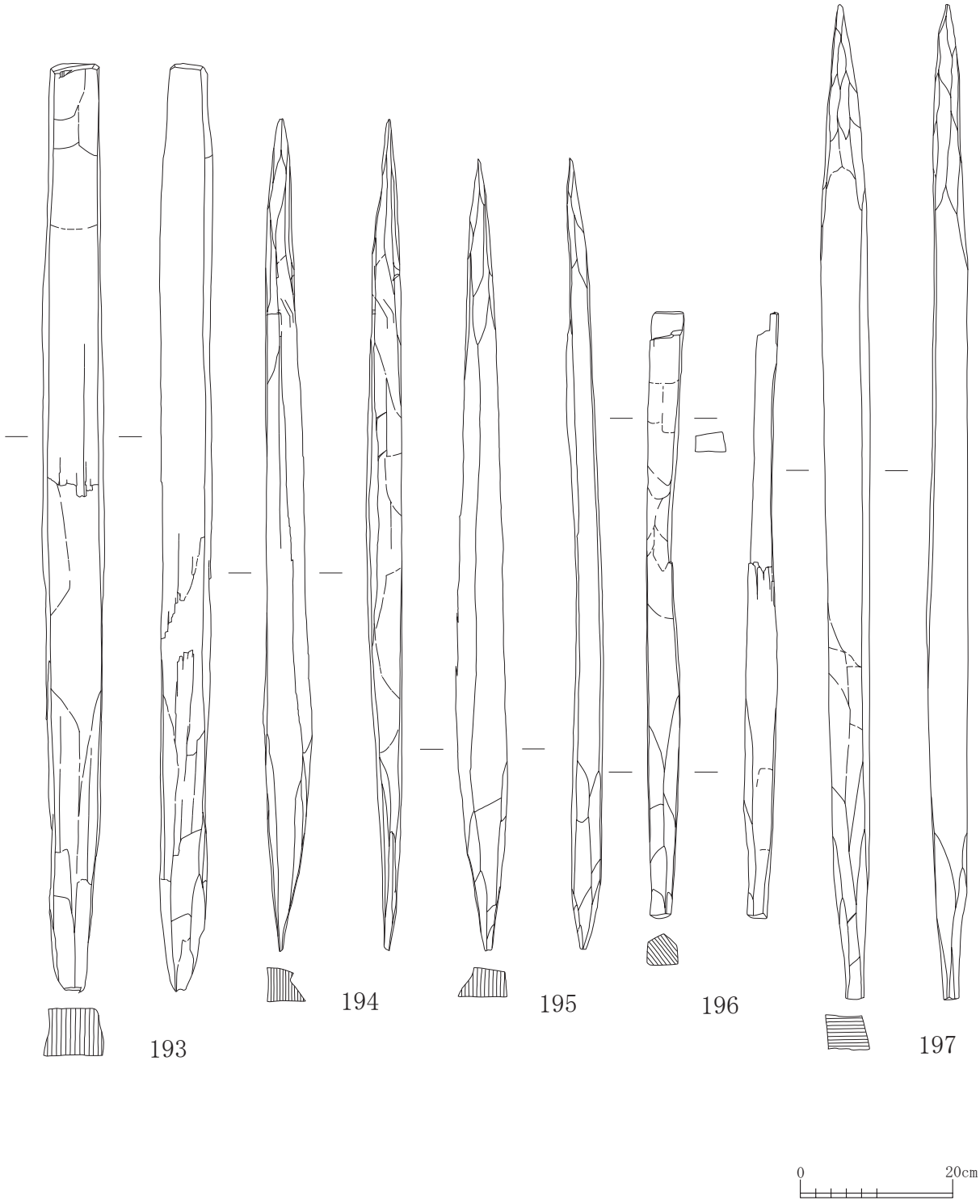
第 68 図　出土遺物 25（木製品 ）

SD-08杭列



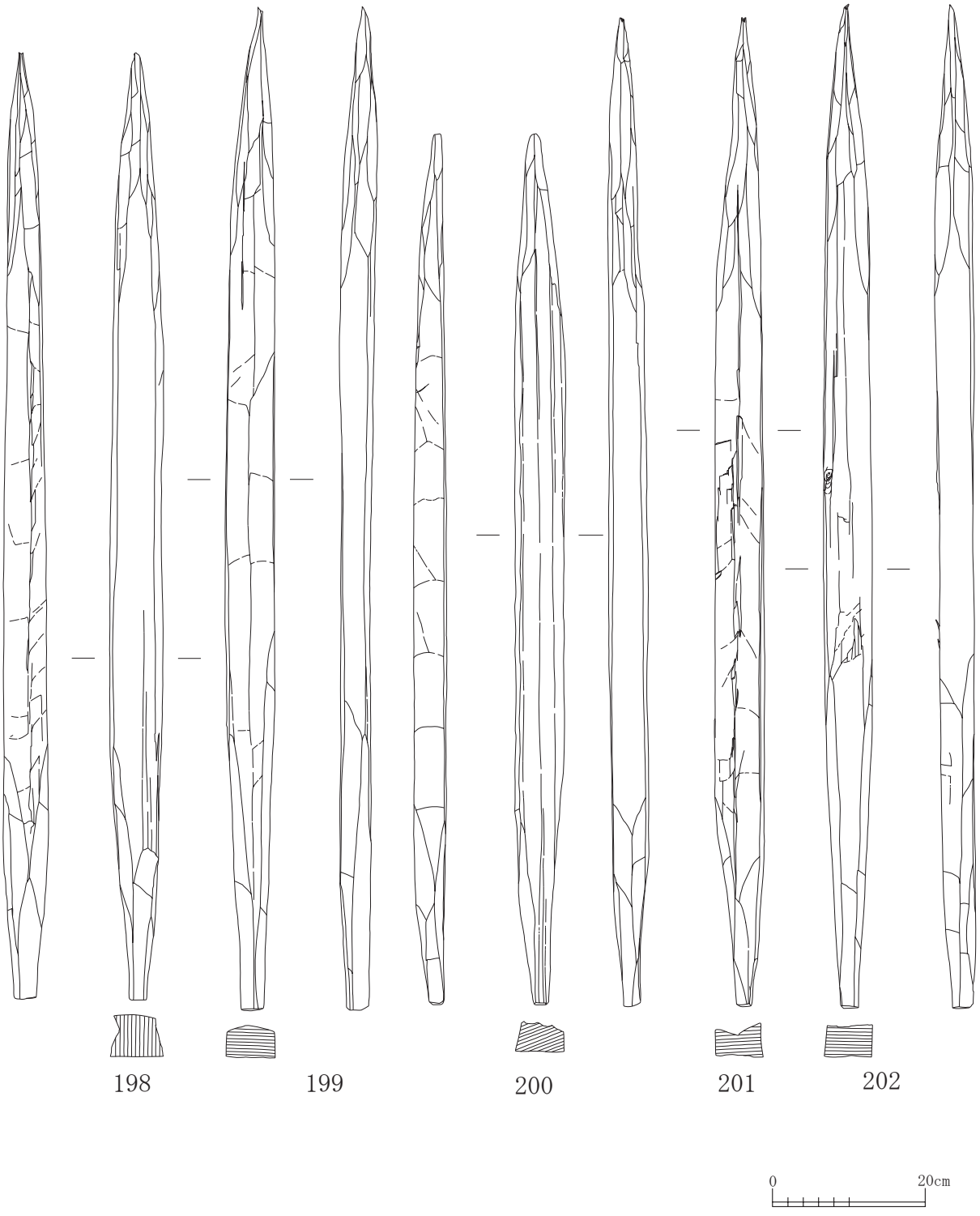
第 69 図　出土遺物 26（木製品 ）

SD-08杭列



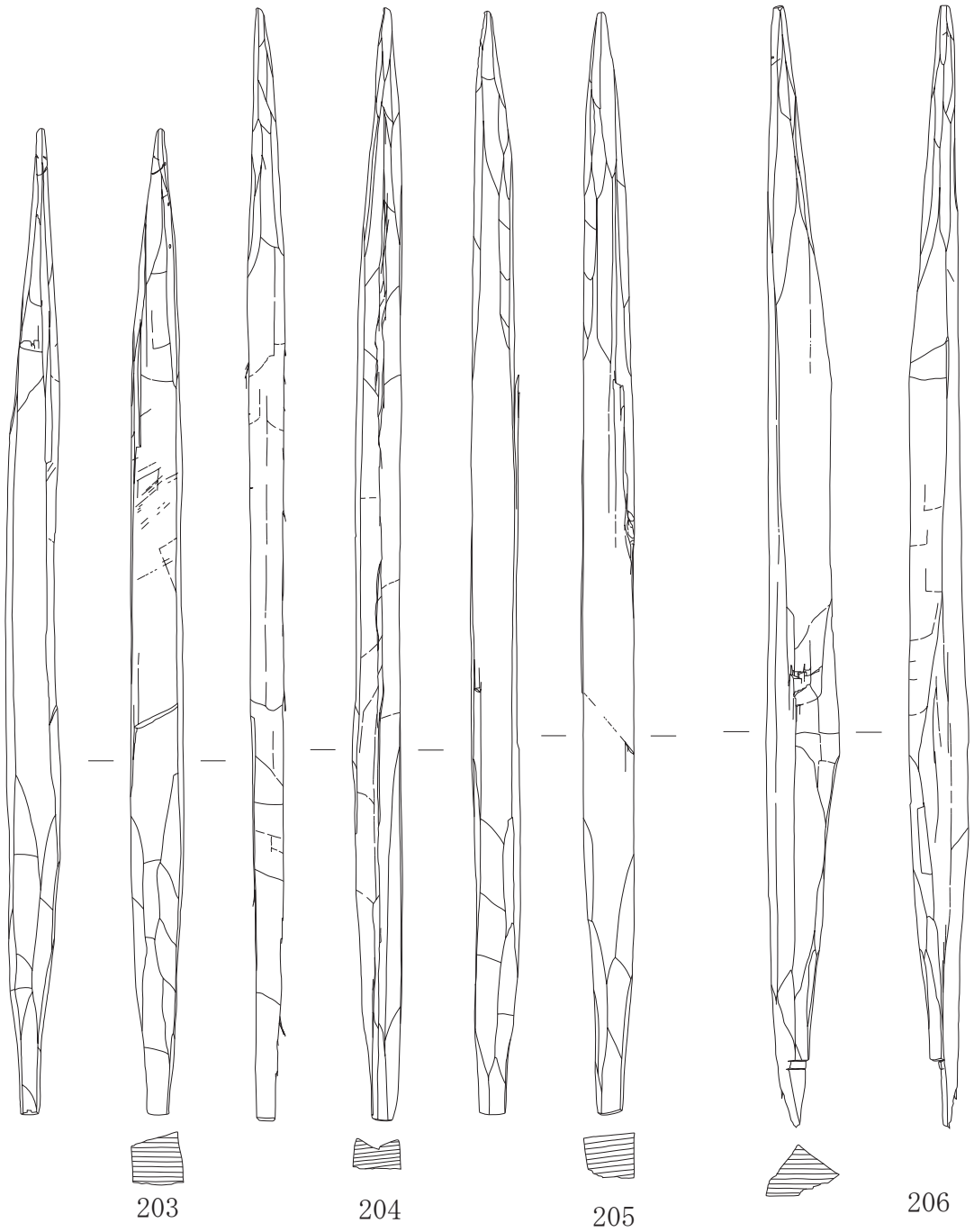
第 70 図　出土遺物 27（木製品 ）

SD-08杭列



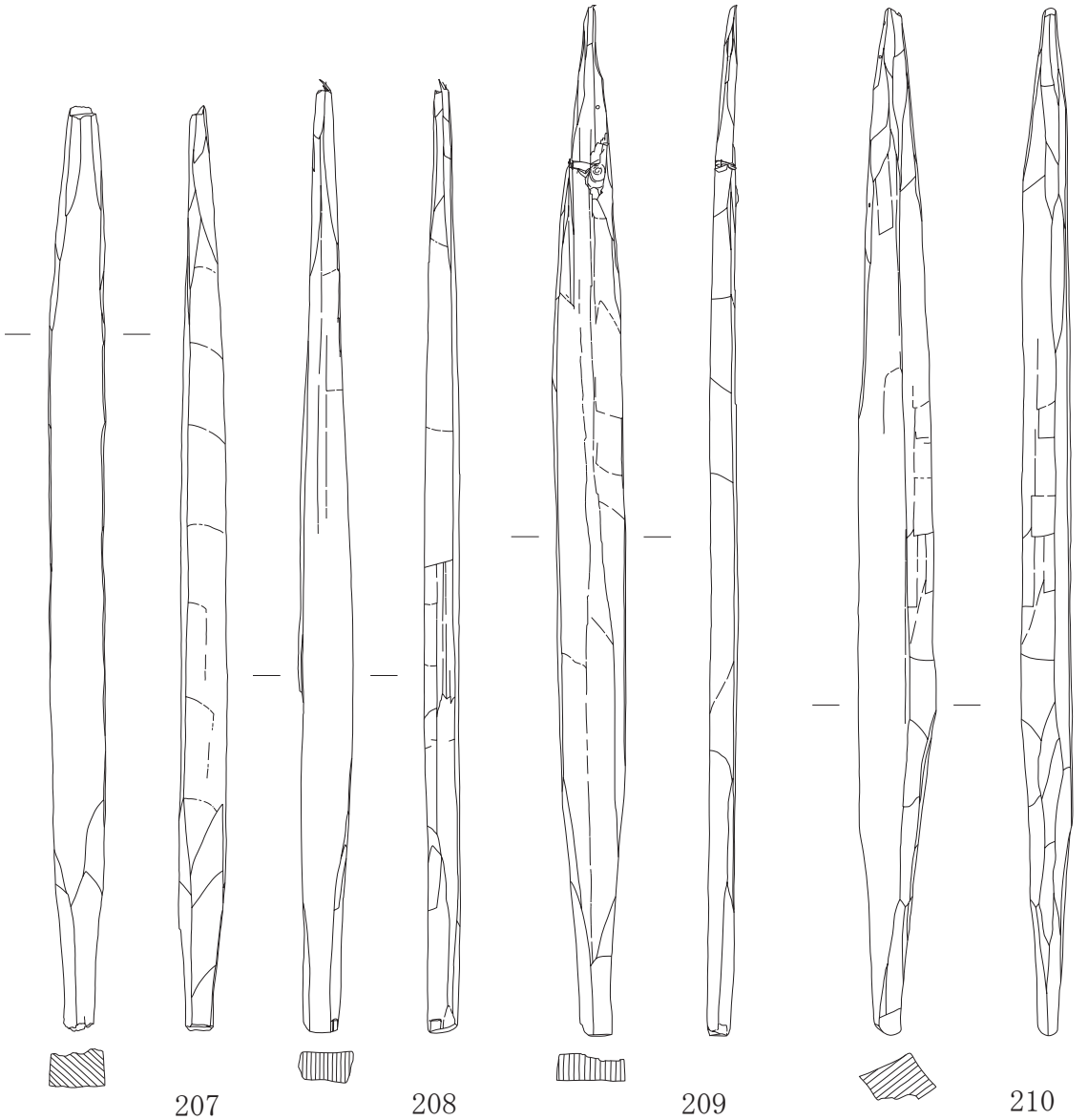
第 71 図　出土遺物 28（木製品 ）

SD-08杭列



第 72 図　出土遺物 29（木製品 ）

SD-08杭列

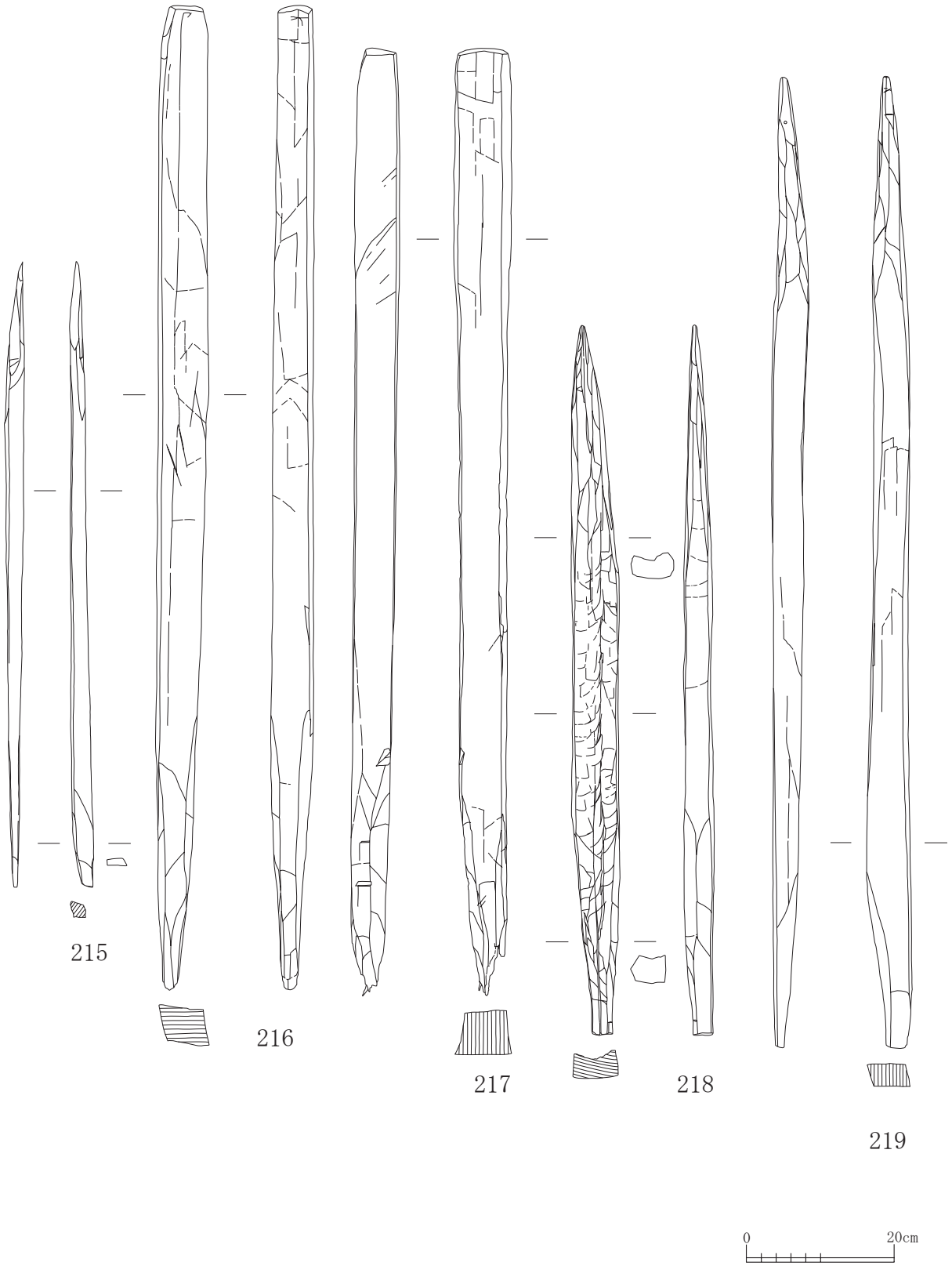


第 73 図　出土遺物 30（木製品 ）

SD-08杭列

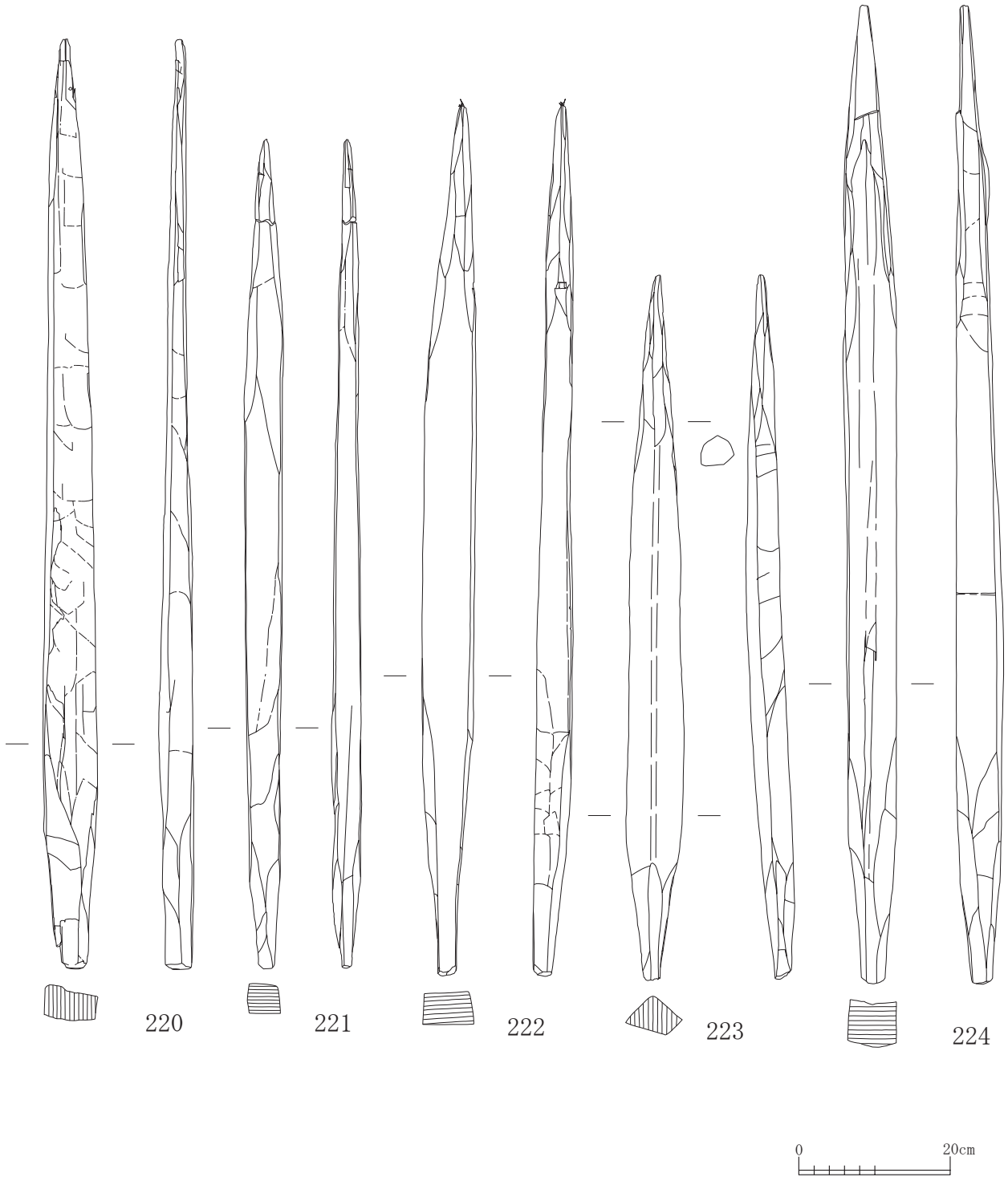
第 74 図　出土遺物 31（木製品 ）

SD-08杭列



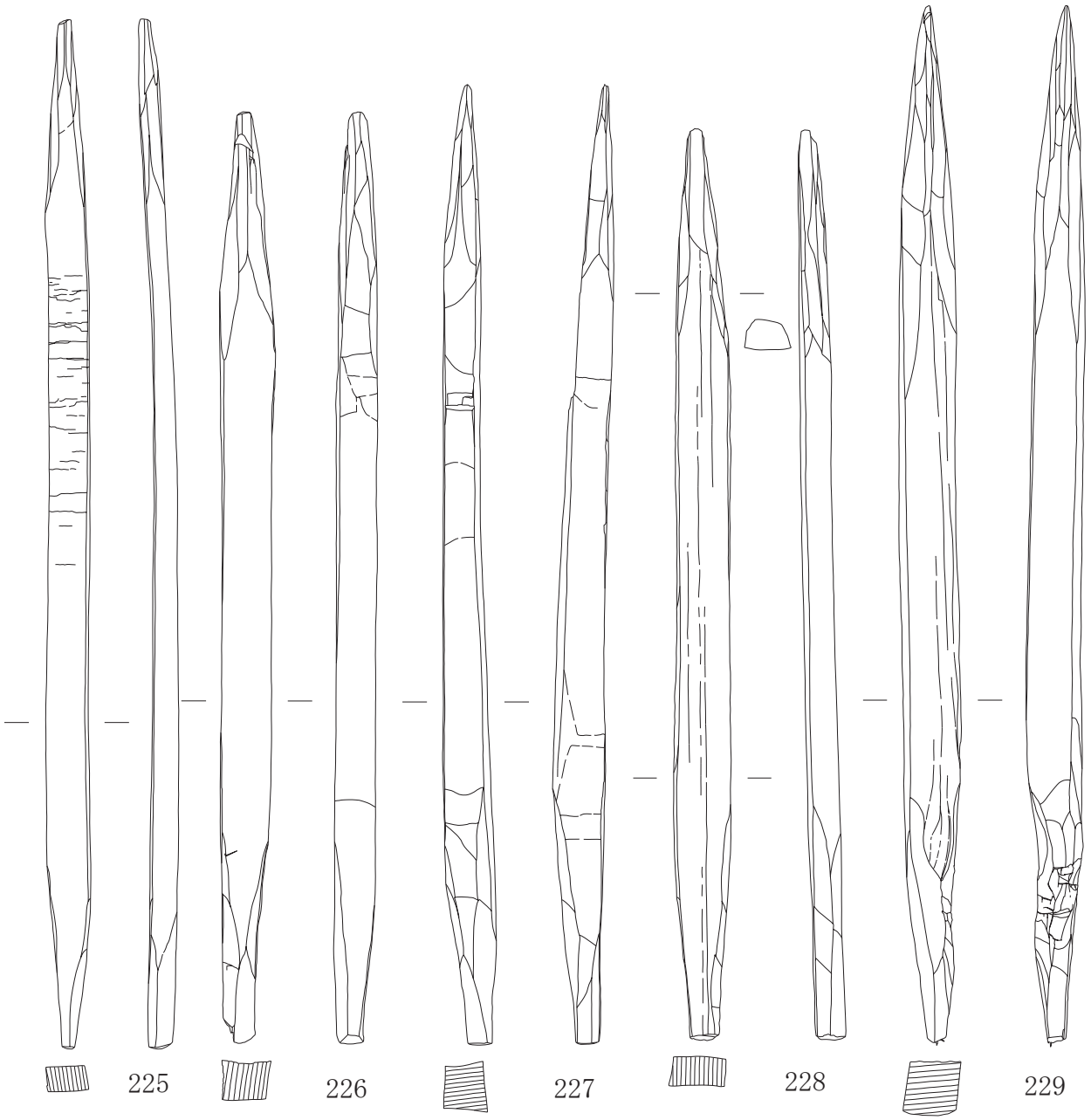
第 75 図　出土遺物 32（木製品）

SD-08杭列



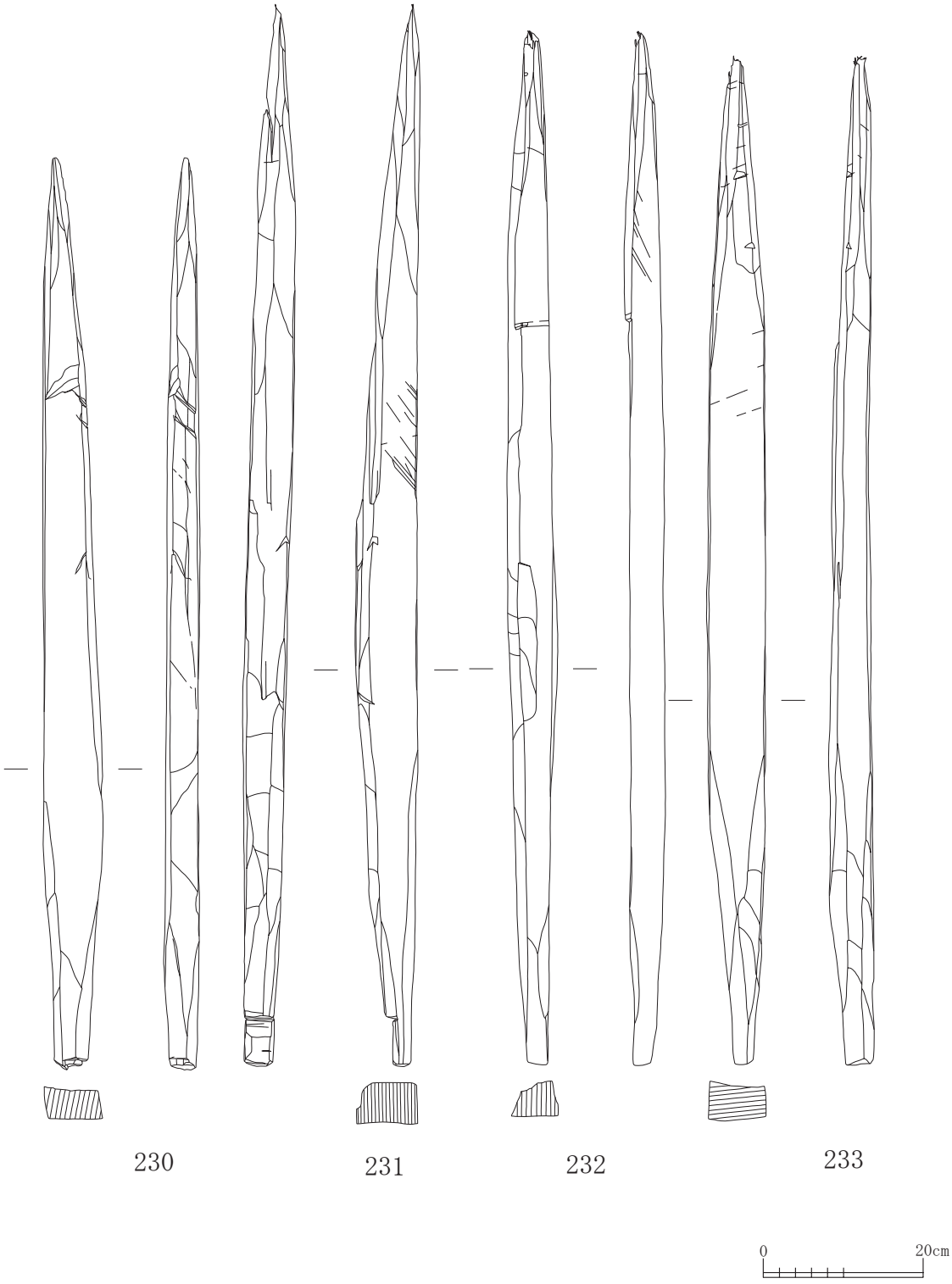
第 76 図　出土遺物 33（木製品 ）

SD-08杭列



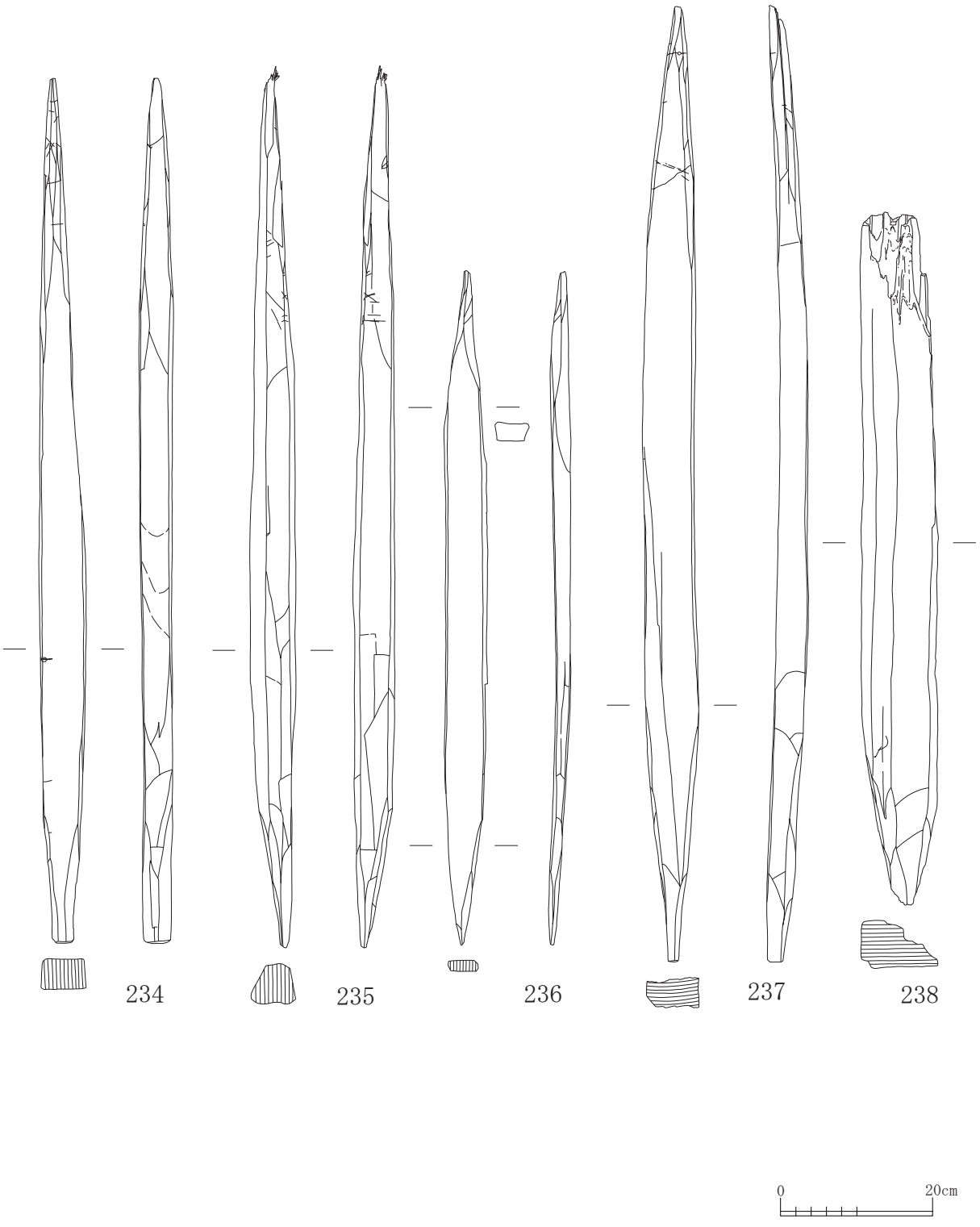
第 77 図　出土遺物 34（木製品 ）

SD-08杭列



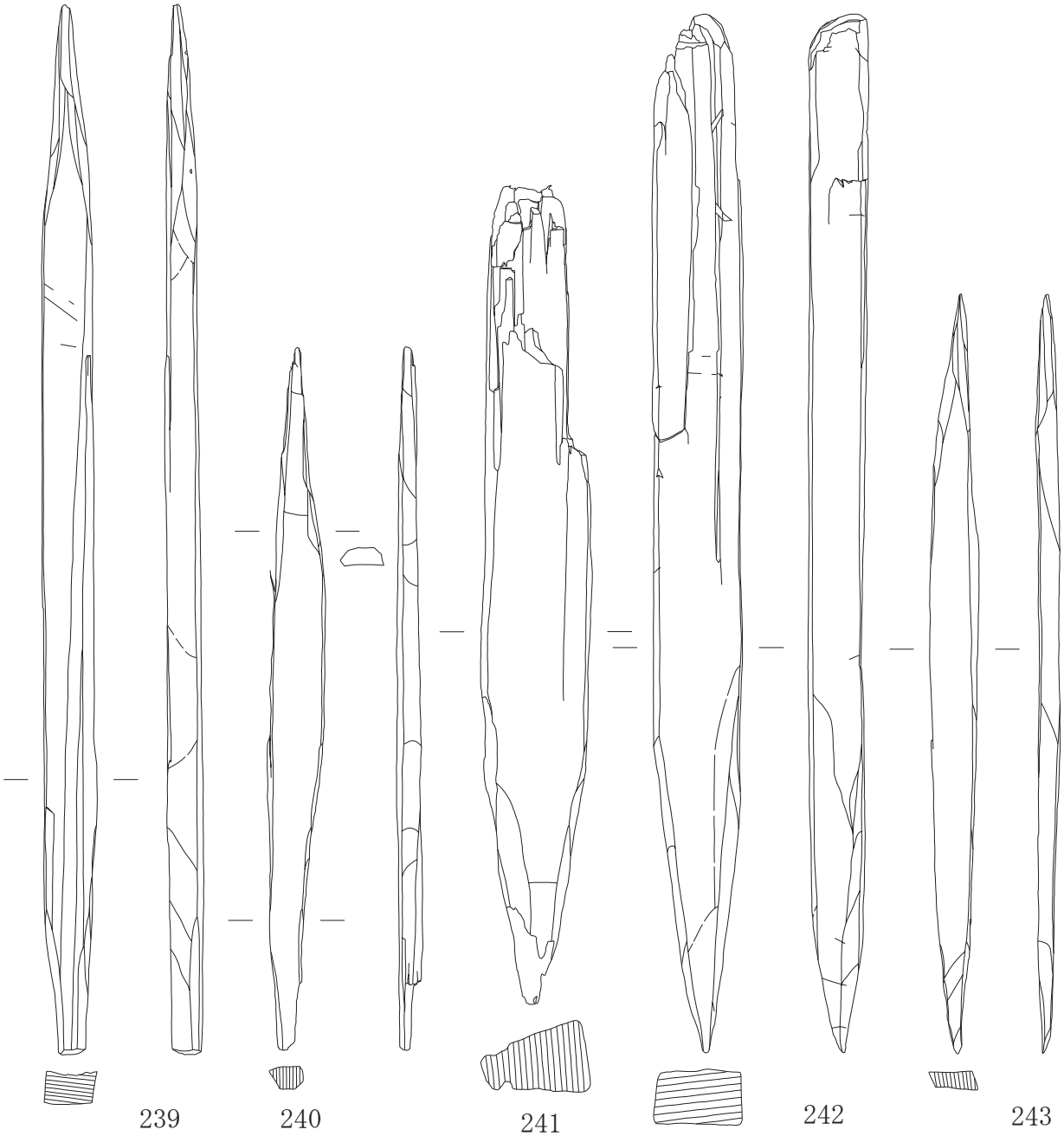
第 78 図　出土遺物 35（木製品）

SD-08杭列



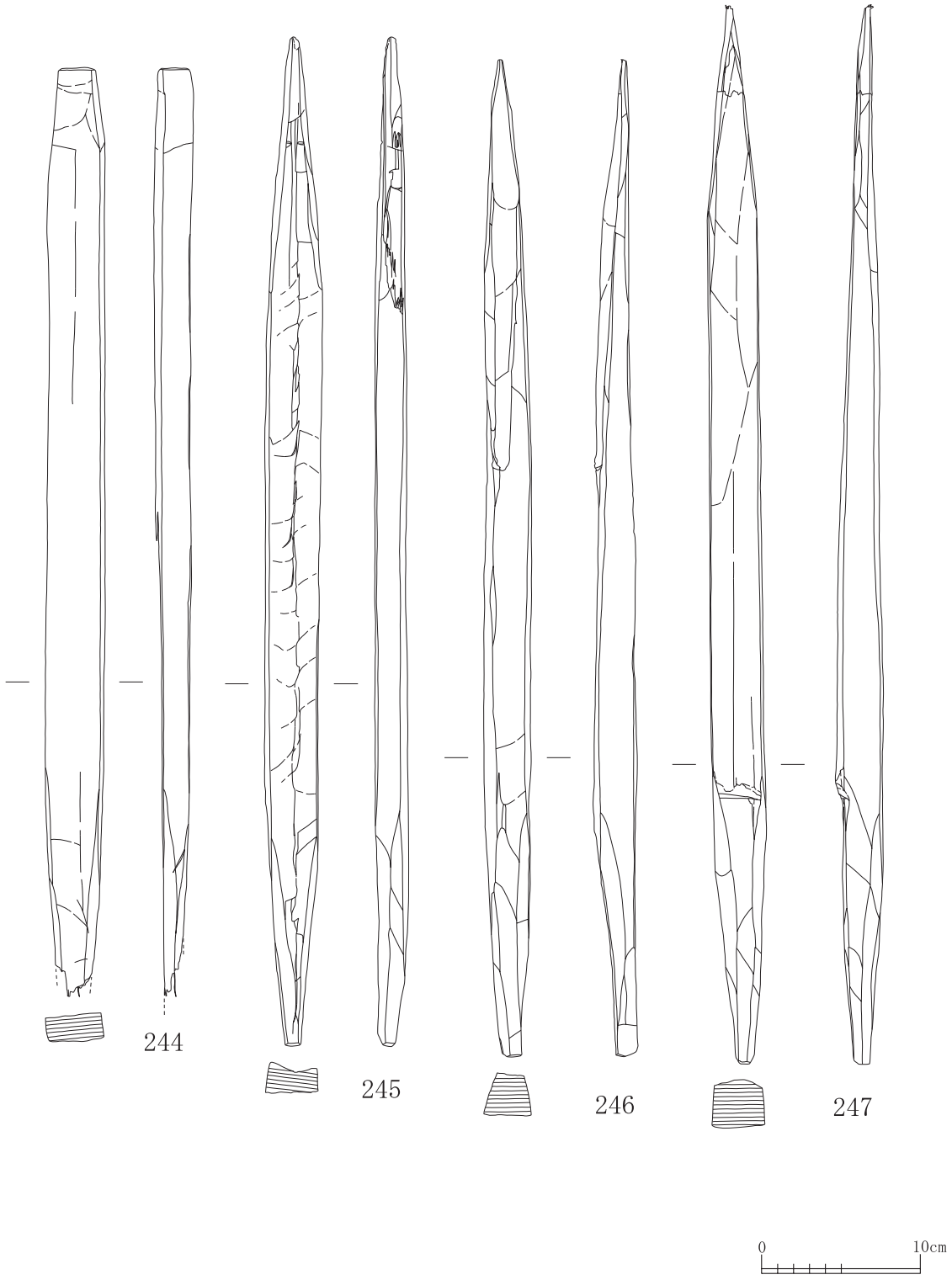
第 79 図　出土遺物 36（木製品 ）

SD-08杭列



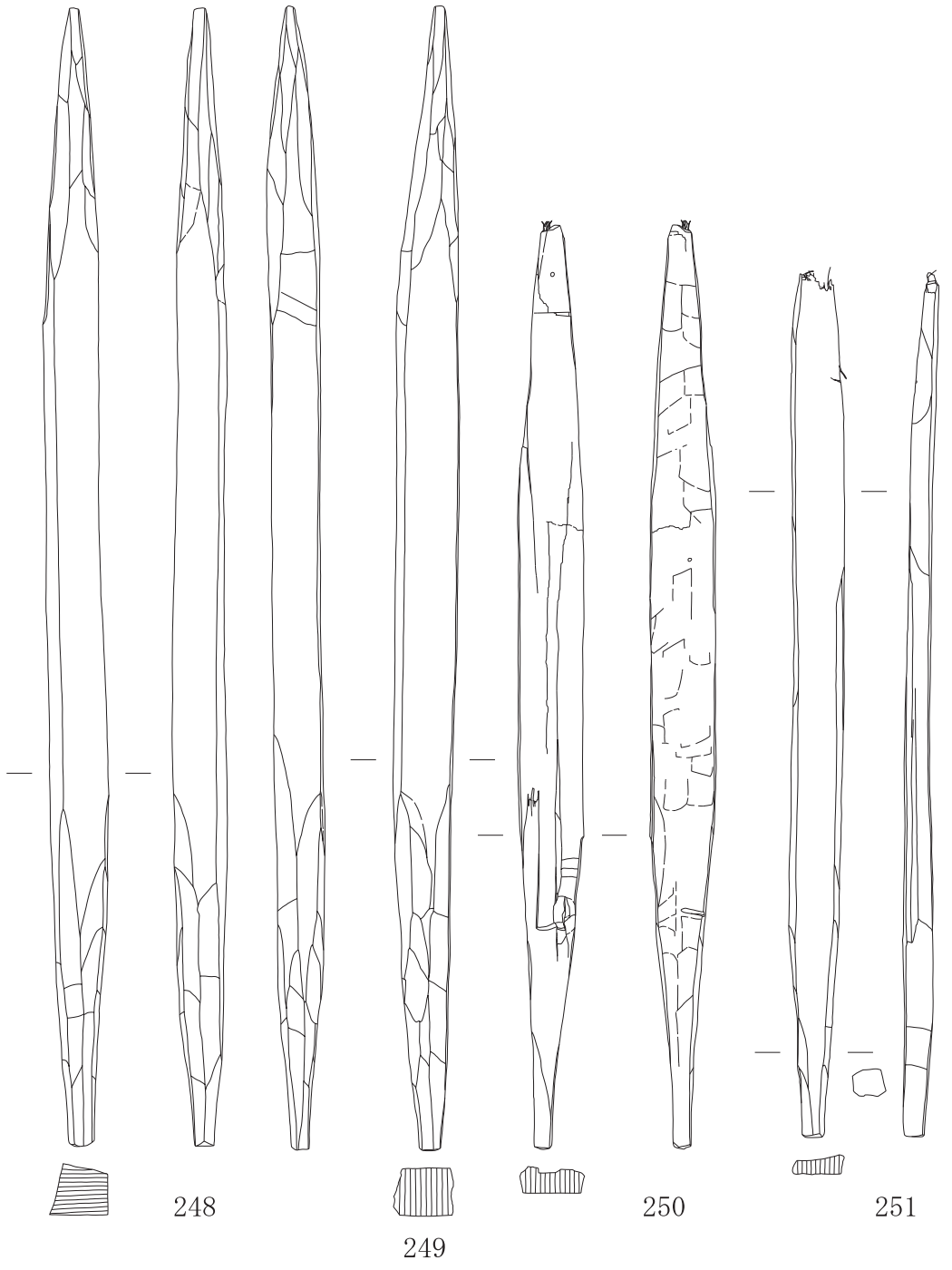
第 80 図　出土遺物 37（木製品 ）

SD-08杭列



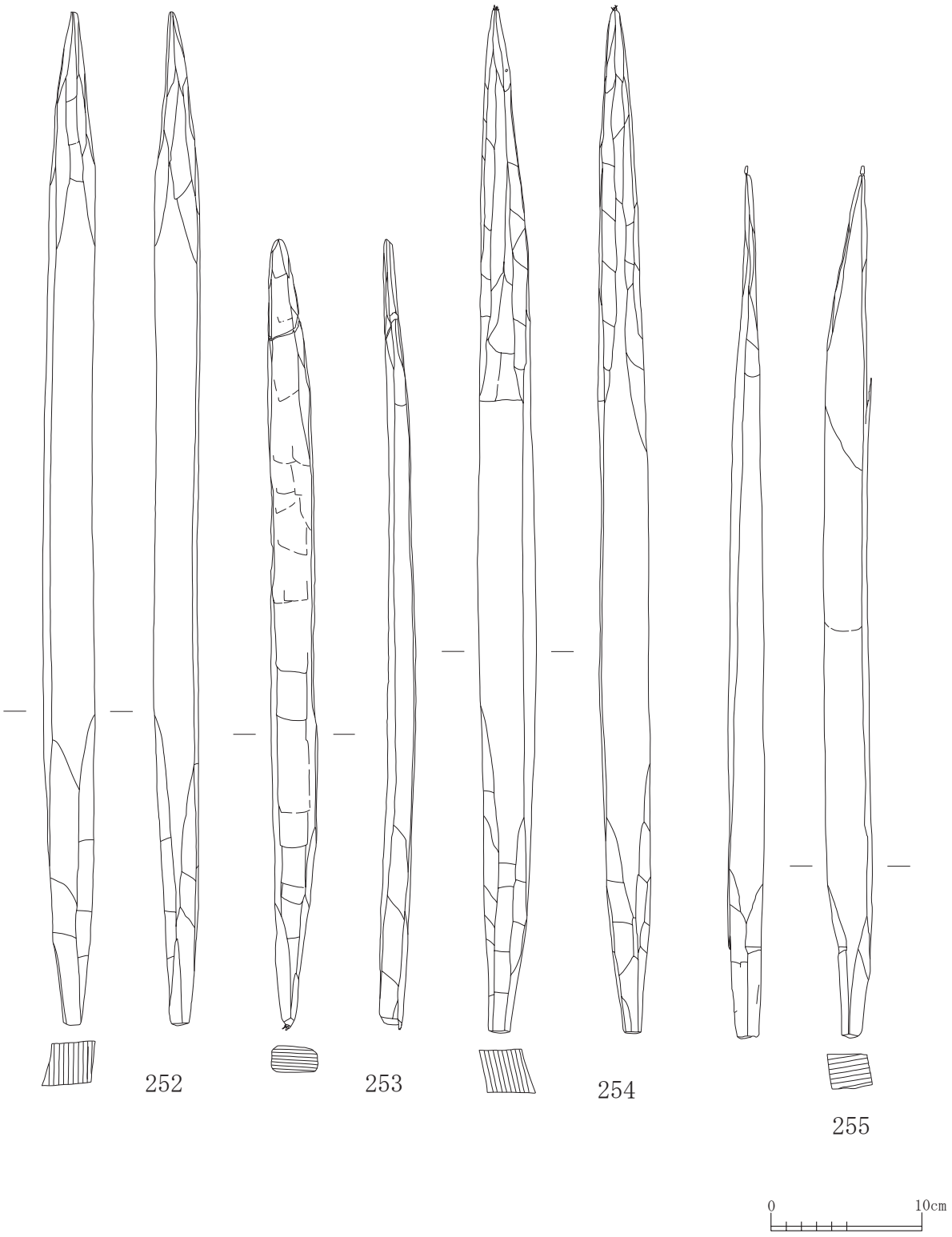
第 81 図　出土遺物 38（木製品 ）

SD-08杭列



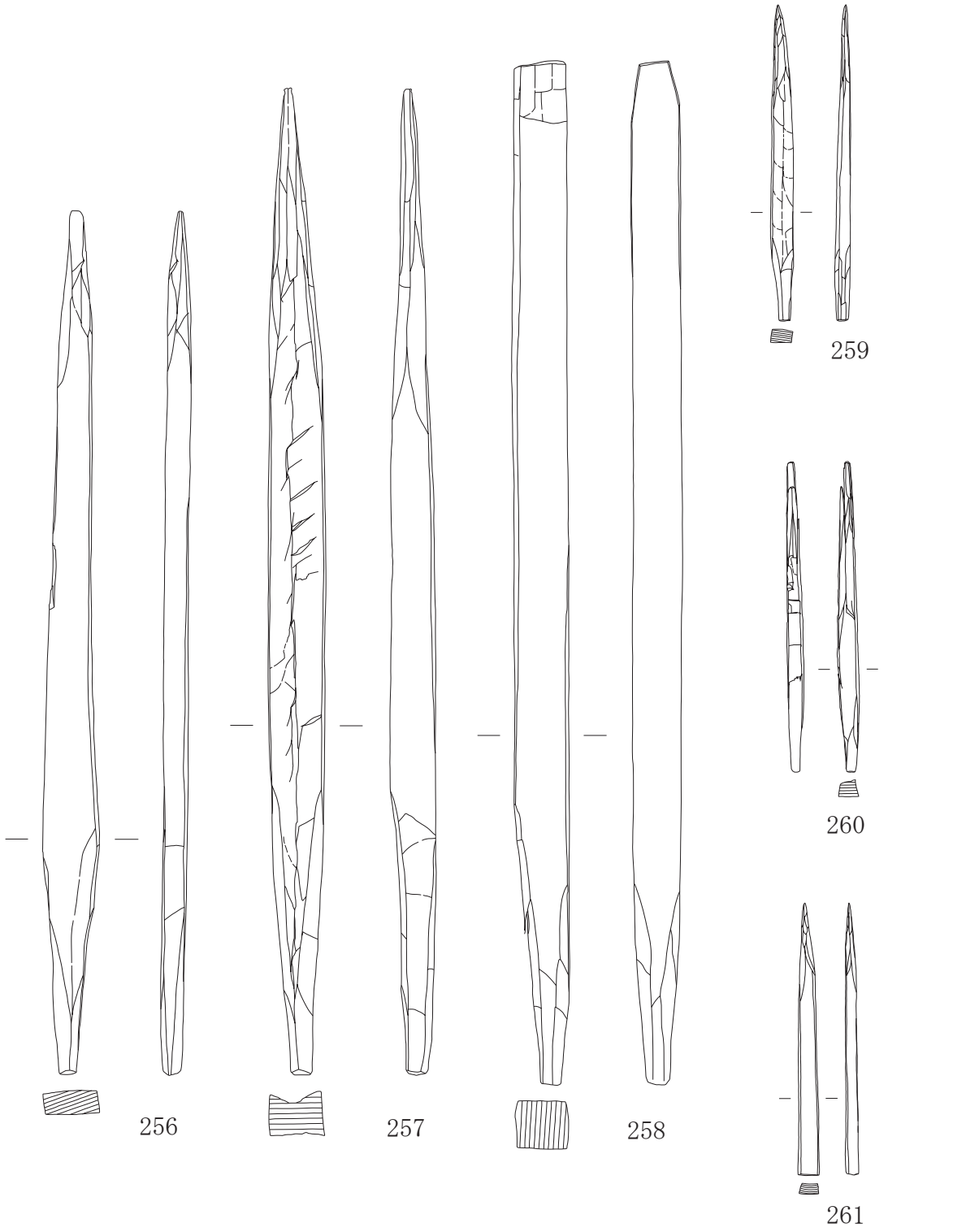
第 82 図　出土遺物 39（木製品 ）

SD-08杭列

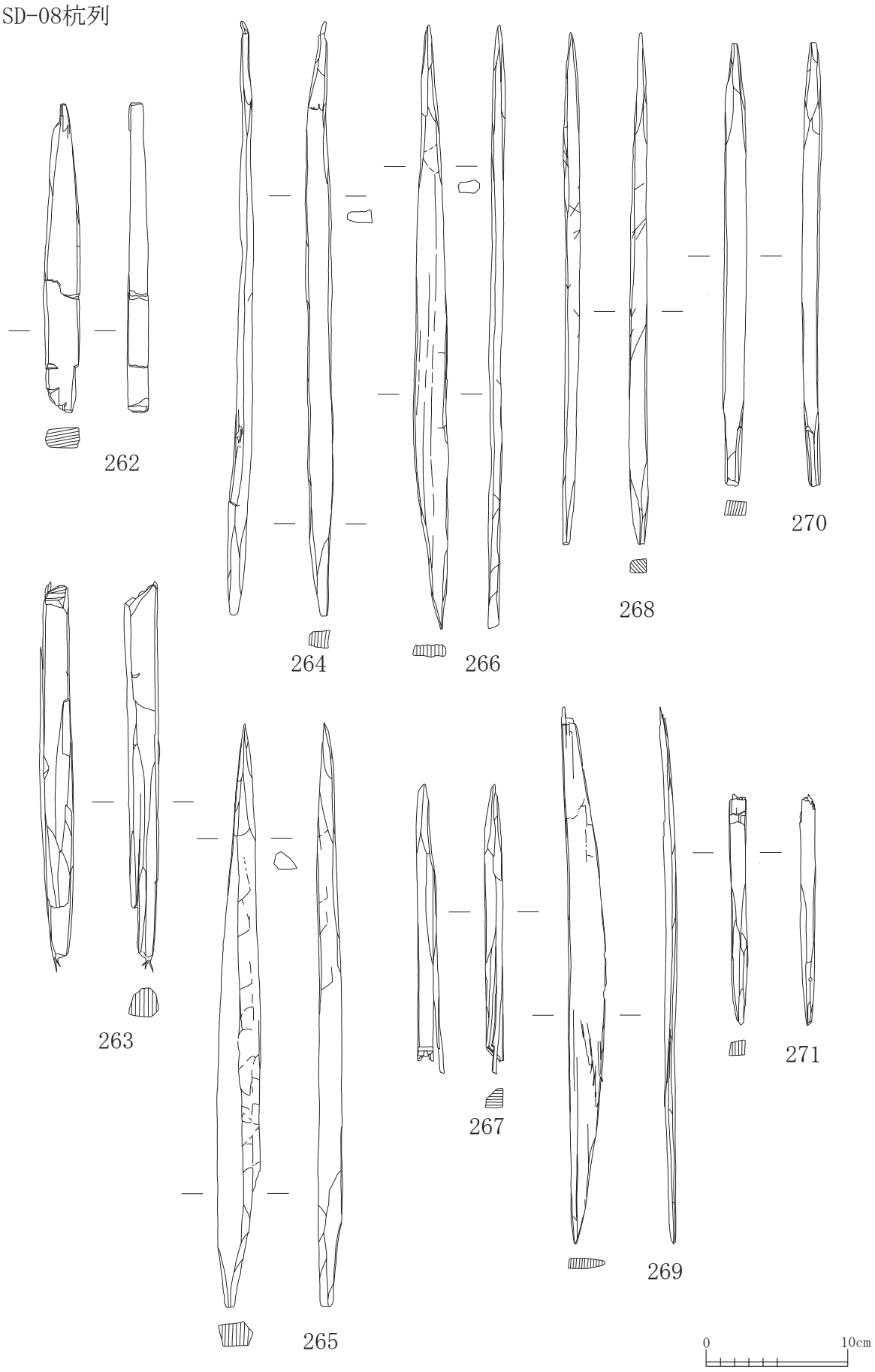


第 83 図　出土遺物 40（木製品）

SD-08杭列

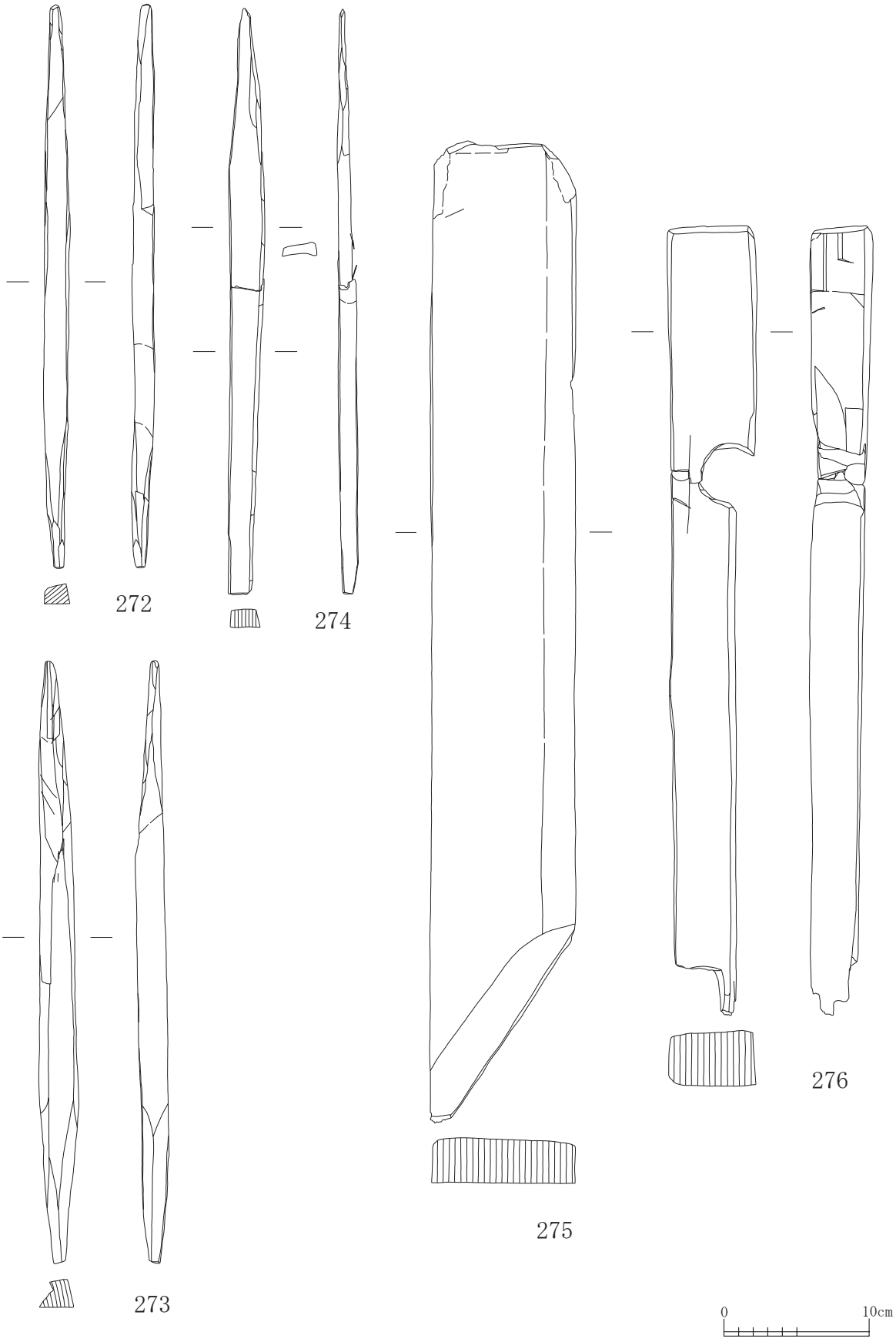


第 84 図　出土遺物 41（木製品）



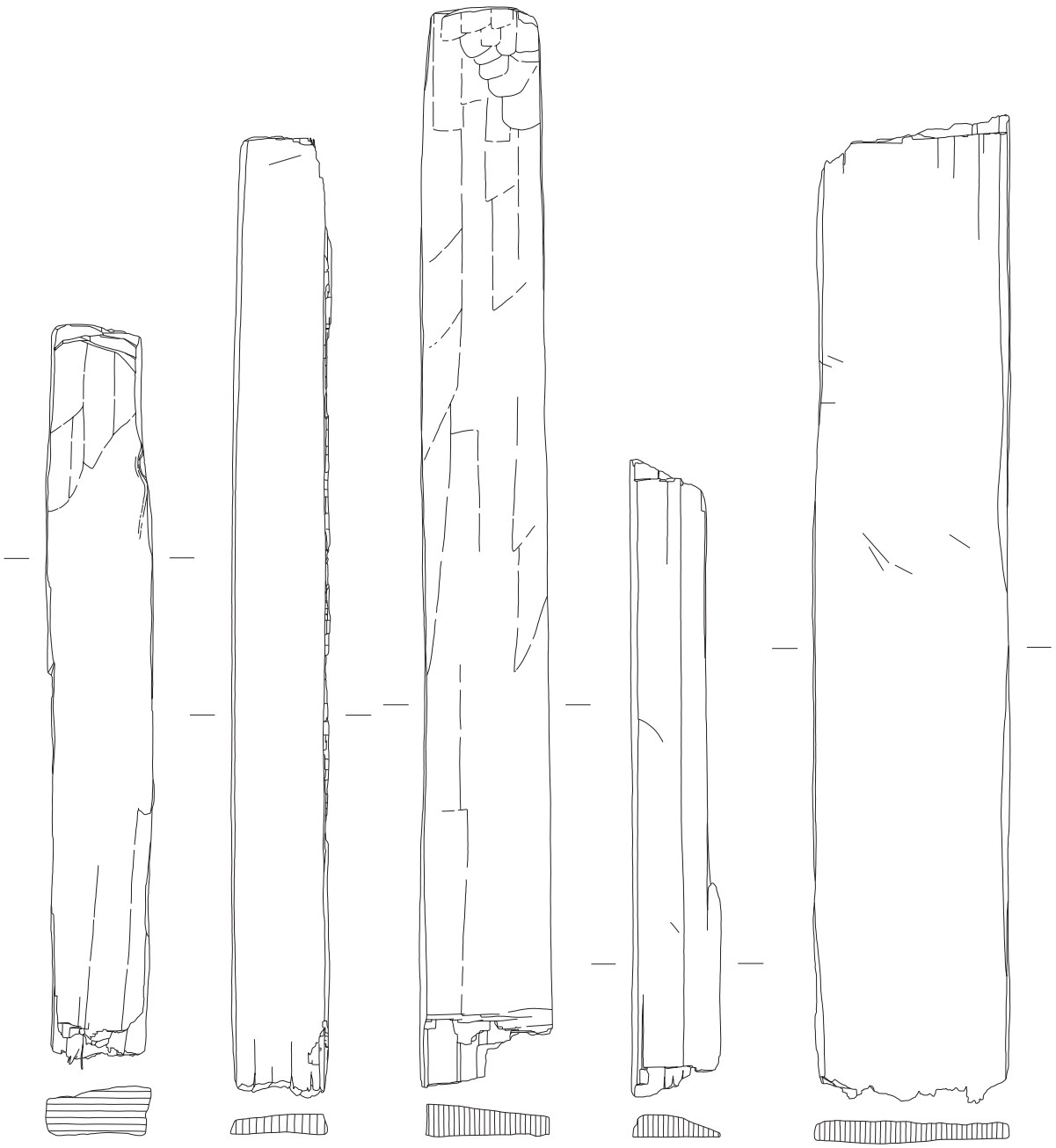
第 85 図　出土遺物 42（木製品）

SD-08杭列



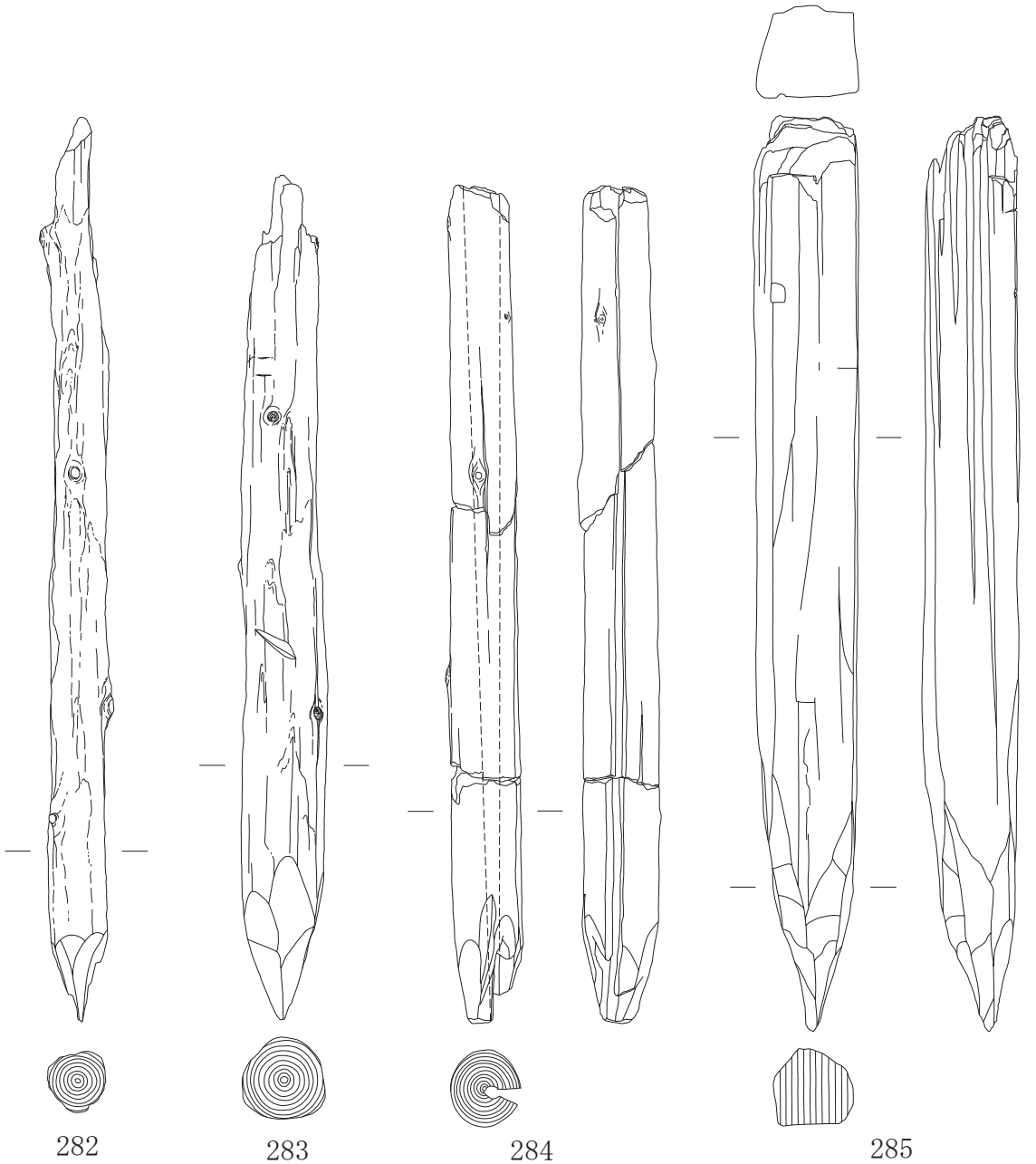
第 86 図　出土遺物 43（木製品）

SD-08杭列

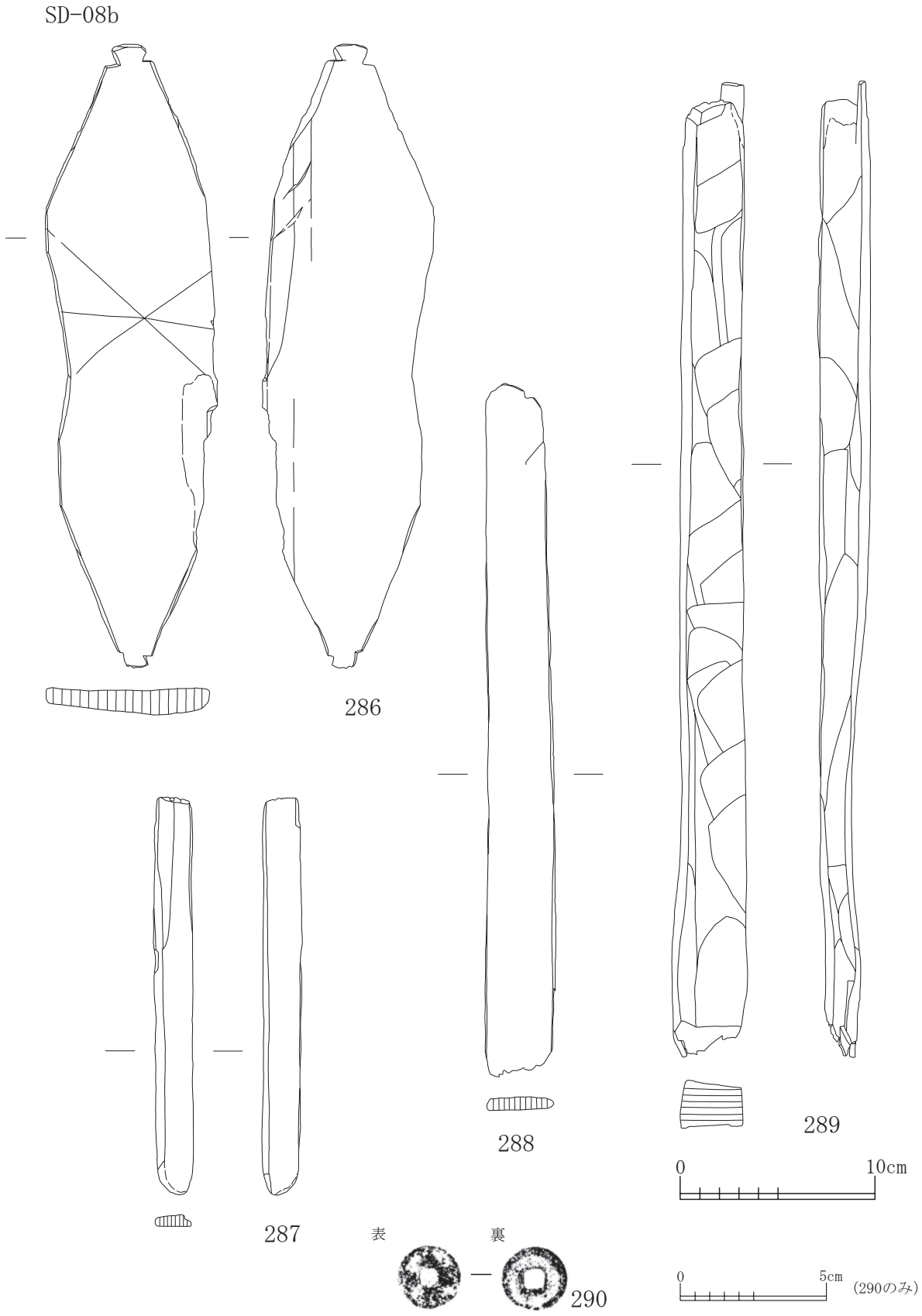


第 87 図　出土遺物 44（木製品）

SD-08杭列



第 88 図　出土遺物 45（木製品）



第 89 図　出土遺物 46（木製品・金属製品 ）

写真 119　出土遺物 6

写真 120　出土遺物 7

写真 121　出土遺物 8

SD-01

写真 122　出土遺物 9

写真 123　出土遺物 10

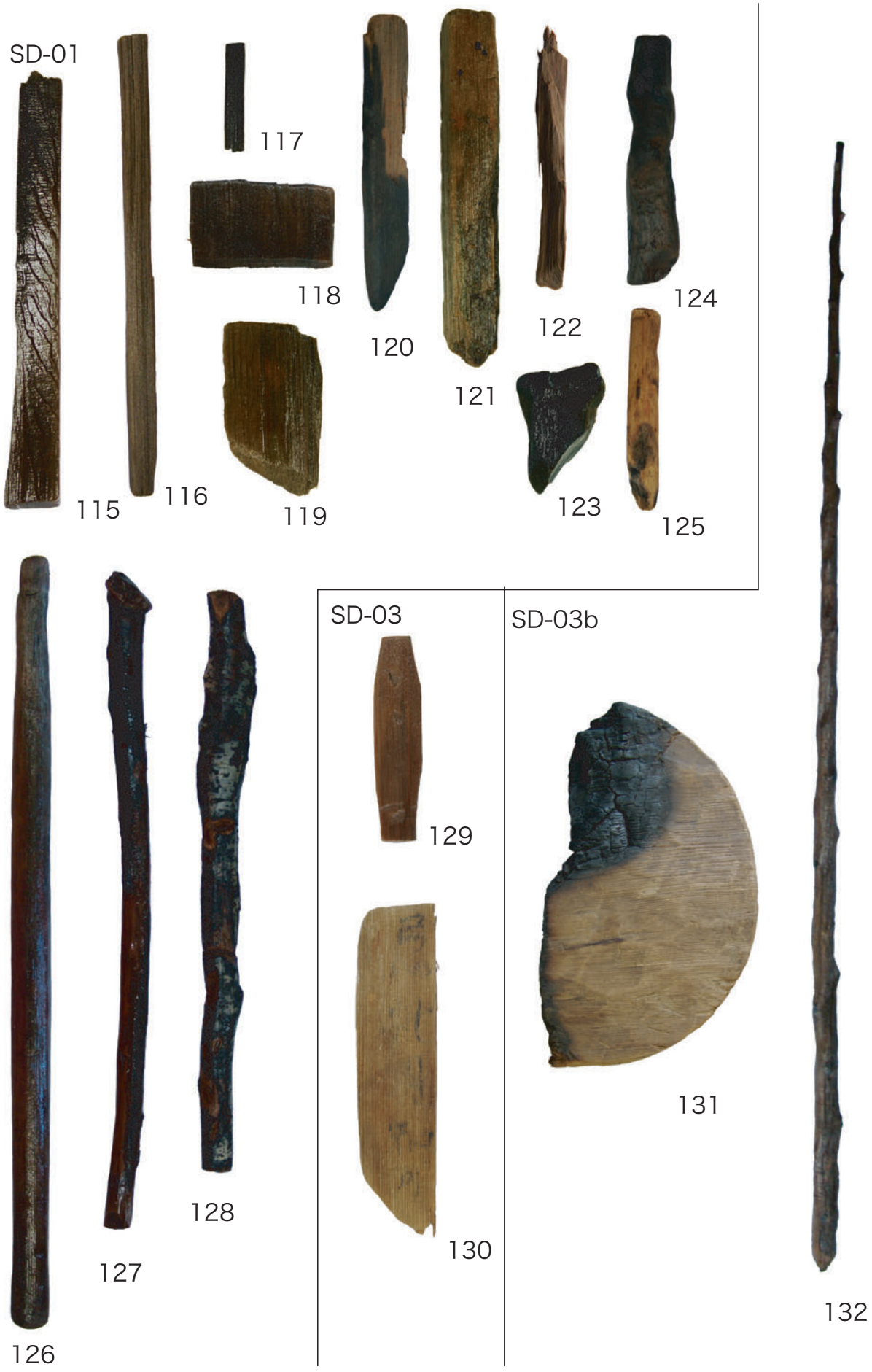


写真 124　出土遺物 11

写真 125　出土遺物 12

写真 126　出土遺物 13

写真 127　出土遺物 14

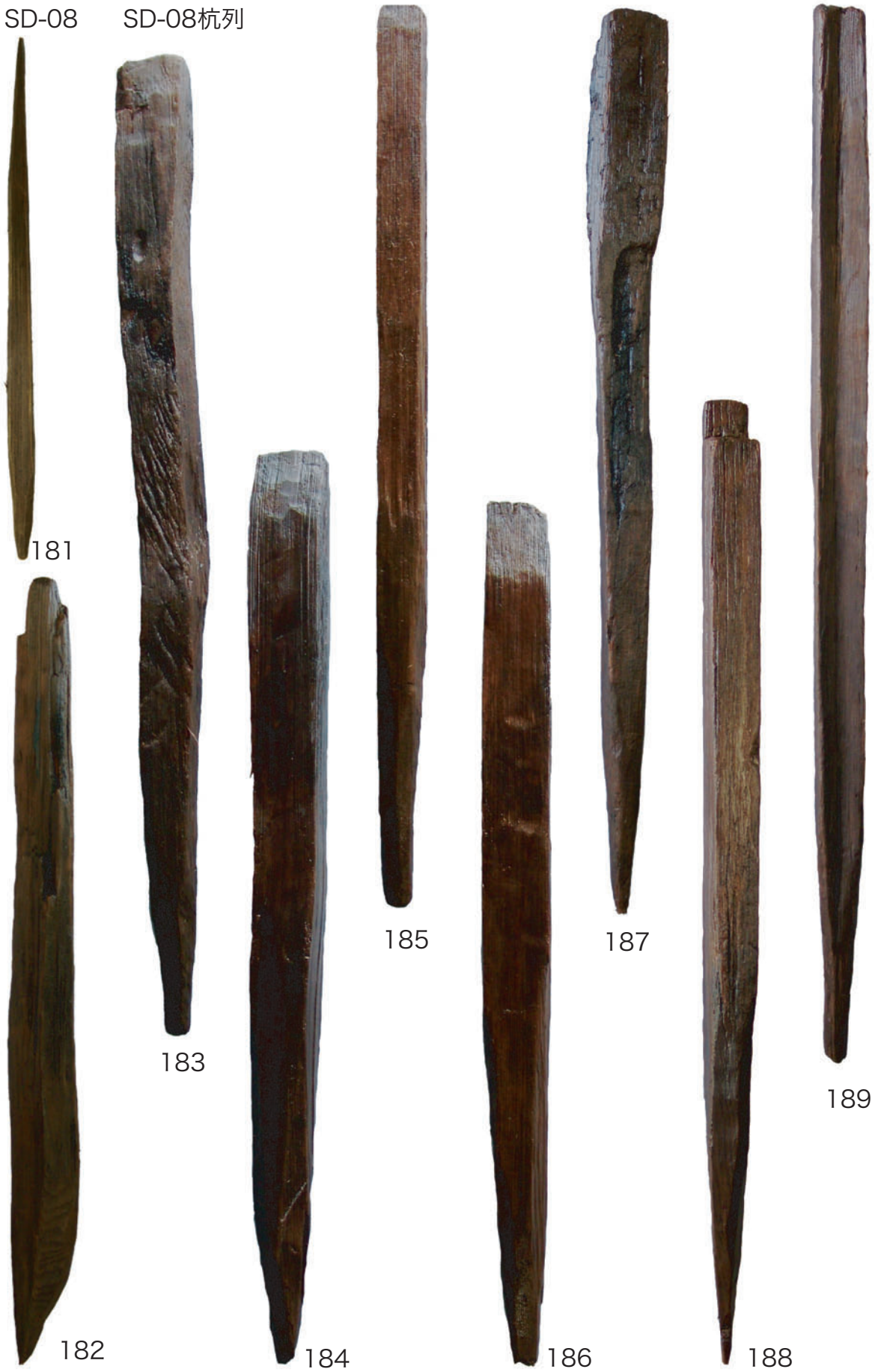


写真 128　出土遺物 15

写真 129　出土遺物 16

写真 130　出土遺物 17

写真 131　出土遺物 18

写真 132　出土遺物 19

写真 133　出土遺物 20

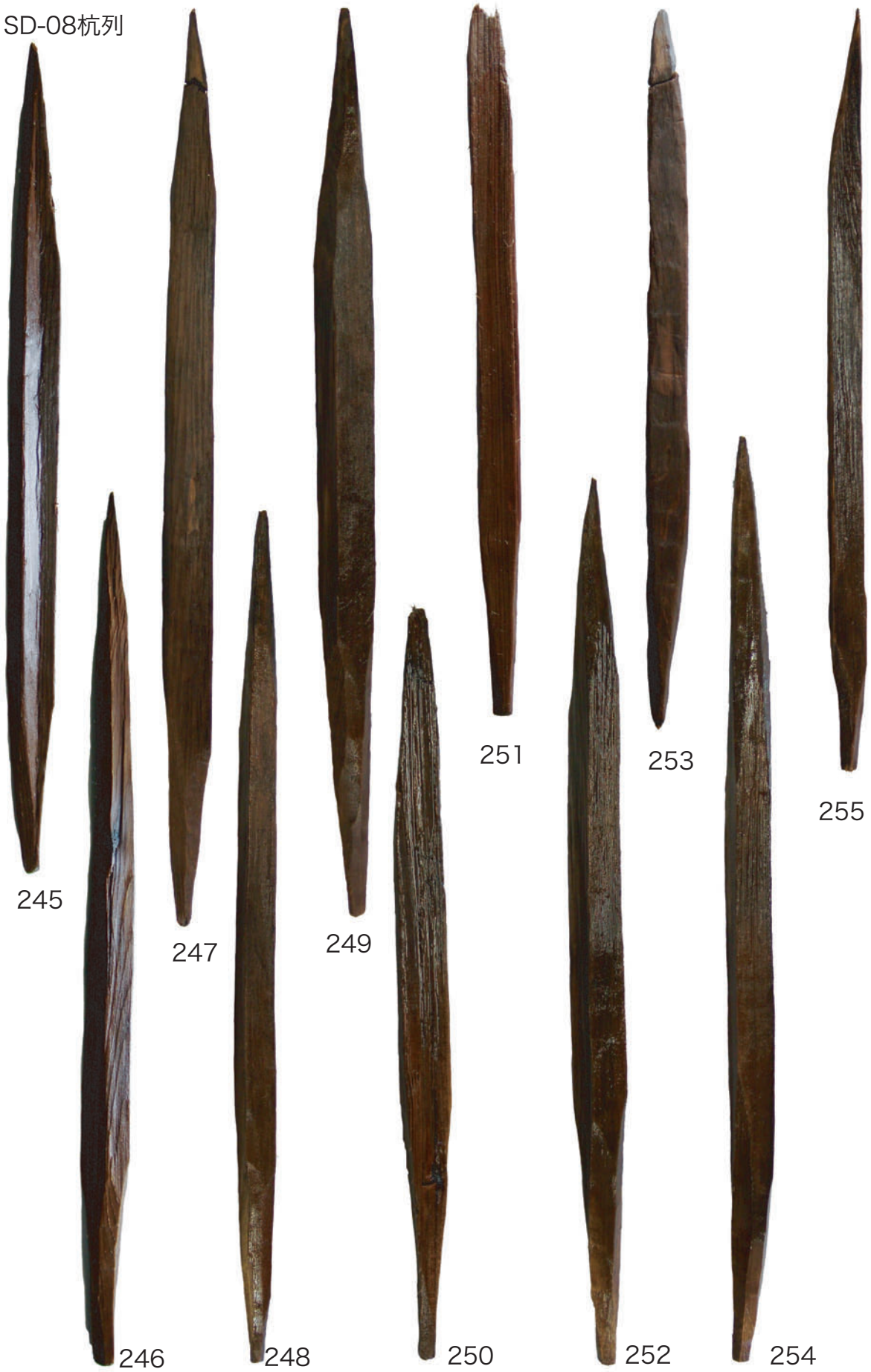


写真 134　出土遺物 21

写真 135　出土遺物 22

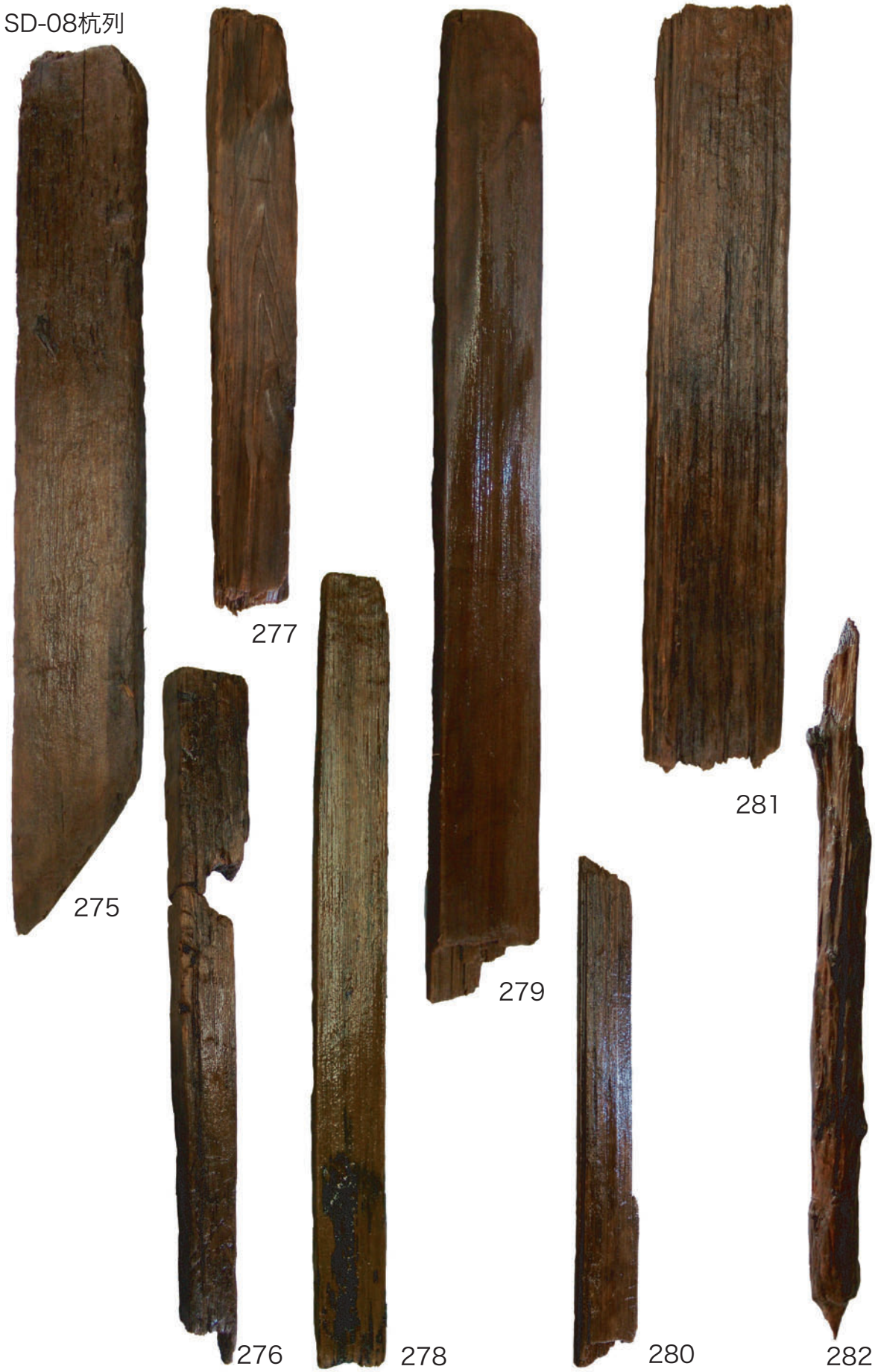


写真 136　出土遺物 23

写真 137　出土遺物 24

第 13 表　遺物観察表 6

図版	No.	出土地区	遺構名	層　位	分　類	大きさ			年輪年代		実測者番号	備　考
						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	分析	年代		
49	65-1	A	SD-01	フク下 W-843	扇	254.0	36.5	2.3	○	880	T-31	7 枚 1 セット、中位の末側の両端に三角状の切り込みが入る。
	65-2			フク下 W-844		255.0	35.0	1.5				
	65-3			フク下 W-845		256.5	35.5	2.0				
	65-4			フク下 W-846		256.5	35.5	2.5				
	65-5			フク下 W-847		257.0	36.5	2.0				
	65-6			フク下 W-848		257.0	37.0	2.3				
	65-7			フク下 W-849		256.0	36.0	2.8				

図版	No.	出土地区	遺構名	層　位	分類	法　量			年輪年代		実測者番号	備　考
						口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	分析	年代		
50	66	A	SD-01	フク下 W-734	椀 (漆)	13.2	2.9	8.0			T-207	明漆 1 層、底面にロクロ爪跡
	67	A	SD-01	フク下 W-773	曲物	23.4	22.8	23.0			T-230	

図版	No.	出土地区	遺構名	層　位	分　類	大きさ			年輪年代		実測者番号	備　考
						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	分析	年代		
50	68	A	SD-01	フク下W-735-1-1・735-1-2・735-1-3	瓢箪	(96.0)	(88.5)	7.0			T -44	
	69	A	SD-01	フク下 W-735-2	瓢箪	(46.0)	(29.0)	3.2			T-186	
51	70	A	SD-01	フク下 W-788	木簡状木製品	(247.0)	31.0	3.0			T-76	
	71	A	SD-01	フク W-839	木簡状木製品	256.3	28.0	3.8			T-75	
	72	A	SD-01	フク下 W-840	木簡状木製品	(206.5)	34.5	4.2			T-71	
	73	A	SD-01	フク下 W-841・842	木簡状木製品	(170.0)	32.0	3.2			T-106・82	
	74	A	SD-01	フク下 W-851	木簡状木製品	251.0	31.5	5.5			T-48	
	75	A	SD-01	フク下 W-852・853・859・860	木簡状木製品	235.0	29.0	4.0			T-46・49・50・61	
	76	A	SD-01	フク下 W-854	木簡状木製品	(245.0)	32.5	4.8			T-87	
	77	A	SD-01	フク下 W-855	木簡状木製品	(66.5)	(15.0)	3.5			T-68	

第 14 表　遺物観察表 7

図版	No.	出土地区	遺構名	層　位	分　類	大きさ			年輪年代		実測者番号	備　考
						長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	分析	年代		
52	78	A	SD-01	フク下 W-856・857	木簡状木製品	(204.5)	29.0	5.5			T-41	墨痕有
	79	A	SD-01	フク下 W-858・861・869	木簡状木製品	253.5	29.0	4.8			T-42・55・72	墨痕有
	80	A	SD-01	フク下 W-862	木簡状木製品	246.0	32.0	4.0			T-36	墨痕有
	81	A	SD-01	フク下 W-863	木簡状木製品	259.0	29.5	3.7			T-47	
	82	A	SD-01	フク下 W-864・865	木簡状木製品	256.0	34.5	3.8			T-84・51	
	83	A	SD-01	フク下 W-866	木簡状木製品	(203.5)	29.0	2.3			T-70	
	84	A	SD-01	フク下 W-867・868	木簡状木製品	248.0	35.0	4.5			T-54・69	
	85	A	SD-01	フク下 W-870	木簡状木製品	(151.5)	31.5	4.5			T-81	
53	86	A	SD-01	フク下 W-871	木簡状木製品	(182.0)	29.0	4.5			T-60	
	87	A	SD-01	フク下 W-872・873	木簡状木製品	(147.0)	(17.0)	4.5			T-45・56	
	88	A	SD-01	フク下 W-743	木簡状木製品	(126.0)	(15.0)	3.6			T-62	
	89	A	SD-01	フク中 W-489	木簡状木製品	(189.0)	(19.0)	2.8			T-74	
	90	A	SD-01	フク下 W-834	斎串	(402.0)	25.0	4.5			Ju-28	
	91	A	SD-01	フク下 W-827	用途不明	(248.0)	55.0	4.0			T-114	
54	92	A	SD-01	フク下 W-886	用途不明	(138.0)	29.5	9.0			T-100	
	93	A	SD-01	フク下 W-758	用途不明	275.0	33.0	33.5			T-37	朱塗布
	94	A	SD-01	フク下 W-774	箸	245.0	5.5	5.5			T-406	
	95	A	SD-01	フク下W -663	鏃形	65.5	8.5	5.5			T -198	
	96	A	SD-01	フク中 W-517	木錐 !?	(71.5)	12.5	12.5			T-257	
	97	A	SD-01	フク下 W-559	菰槌	62.0	110.5	50.0			T-151	紐付
	98	A	SD-01	フク中 W-502	下駄	(195.0)	109.0	35.0			T-147	刻線
	99	A	SD-01	フク下 W-721	菰槌？	95.0	56.8	53.0			T-148	
55	100-1	A	SD-01	フク下 W-784-1	編組製品	170.0	491.0	—			T-33	
	100-2	A	SD-01	フク下 W-784-2	編組製品	634.0	328.0	—			T-35	

第 15 表　遺物観察表 8

図版	No.	出土地区	遺構名	層　位	分　類	大きさ			年輪年代		実測者番号	備　考
						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	分析	年代		
56	101	A	SD-01	フク下 W-824	杭	437.0	38.0	27.0			T -449	
	102	A	SD-01	フク下 W-752	杭	(737.0)	39.0	37.0			T -445	
	103	A	SD-01	フク下 W-713	杭	290.0	22.0	19.5			T-438	
	104	A	SD-01	フク下 W-749	杭	(381.0)	31.0	24.5			T -444	
	105	A	SD-01	フク下 W-760	杭	632.0	22.0	9.0			T -446	
	106	A	SD-01	フク下 W-722	杭	(538.0)	22.0	26.0			T-439	
57	107	A	SD-01	フク下 W-731	杭	764.0	40.0	35.0			T -441	
	108	A	SD-01	フク下 W-728	柱	(412.0)	61.5	51.0			T -440	
	109	A	SD-01	フク中 W-645	杭	(178.0)	59.0	60.0			T-437	
	110	A	SD-01	フク下 W-741・750・785	板材	(837.0)	72.0	12.0			T -442	
58	111	A	SD-01	フク下 W-549	用途不明	(103.5)	23.0	5.0			M-13	
	112	A	SD-01	フク下 W-744	用途不明	(166.0)	51.0	3.7			Ju-32	
	113	A	SD-01	フク下 W-780	用途不明	(188.0)	38.5	8.5			M-2	
	114	A	SD-01	フク中 W-478	用途不明	(152.0)	24.0	4.0			Ju-3	
	115	A	SD-01	フク下 W-795	用途不明	(241.0)	30.5	7.5			Mi-1	
	116	A	SD-01	フク下 W-757	用途不明	243.0	15.0	9.0			Mi-8	
	117	A	SD-01	フク中 W-512	用途不明	(59.0)	10.5	5.0			T-435	
	118	A	SD-01	フク下 W-829	用途不明	49.0	78.0	6.0			T -450	
	119	A	SD-01	フク中 W-509	箆	94.0	54.0	15.0			T-434	
	120	A	SD-01	フク下 W-826	箆	156.0	25.5	13.0			M-25	炭化
59	121	A	SD-01	フク中 W-475	用途不明	(163.0)	28.0	15.0			T-432	
	122	A	SD-01	フク下 W-887	用途不明	(144.0)	(18.5)	6.5			T-110	
	123	A	SD-01	フク中 W-503	残核	62.0	42.5	22.0			T-433	一部炭化
	124	A	SD-01	フク下 W-X	用途不明	134.0	25.5	23.0			T -452	
	125	A	SD-01	フク下 W-888	用途不明	111.5	16.5	16.5			T -451	
	126	A	SD-01	フク下 W-767	棒状木製品	556.0	28.0	28.0			T -447	
	127	A	SD-01	フク下 W-778	用途不明	472.0	34.5	33.5			T -448	杭状
	128	A	SD-01	フク下 W-622	用途不明	(411.0)	35.5	24.0			T-436	

第 16 表　遺物観察表 9

図版	No.	出土地区	遺構名	層　位	分　類	大きさ			年輪年代		実測者番号	備　考
						長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	分析	年代		
60	129	A	SD-03	フク下 W-15	用途不明	114.5	26.5	7.4			Ju-2	
	130	A	SD-03	フク下 W-2	木簡	(190.0)	(47.0)	6.0			T-25	第六号木簡
	131	A	SD-03b	フク上 W-5	曲物底板	(196.0)	(115.5)	22.0			T-163	炭化
	132	A	SD-03b	フク上 W-2	杭	2517.0	74.0	74.0			T-382	
	133	A	SD-04	フク下 W-375	菰槌	63.0	146.0	51.5			T-149	
	134	A	SD-04	フク下 W-78	菰槌	56.0	123.0	48.5			T-158	
	135	A	SD-04	フク下 W-377	板材	(37.0)	(106.5)	21.5			T -453	
	136	A	SD-04	フク下 W-378-1	棒状	115.0	17.5	11.0			T -454-1	
	137	A	SD-04	フク下 W-378-2	棒状	104.0	12.5	12.0			T -454-2	
	138	A	SD-04	フク下 W-378-3	棒状	82.0	17.0	12.0			T -454-3	
	139	A	SD-04	フク下 W-378-4	棒状	65.0	9.7	9.7			T -454-4	
	140	A	SD-04	フク下 W-378-5	棒状	54.0	12.5	12.5			T -454-5	
61	141	A	SD-08	フク上 W-18	扇	(231.0)	38.0	3.3			Ju-20	
	142	A	SD-08	フク下 W-10	斎串	309.5	57.0	6.5			T-64	第九号木簡
	143	A	SD-08	フク下 W-91	斎串	482.0	11.0	6.0			T-189	
	144	A	SD-08	フク中 W-20	馬形	15.0	(74.0)	2.0			T-66	
	145	A	SD-08	フク下 W-21	馬形	14.5	(79.5)	1.8			T-67	
	146	A	SD-08	フク下 W-24	馬形	17.0	98.5	2.0			T-92	
	147	A	SD-08	フク上 W-2	用途不明	205.5	53.0	41.5			T-253	
62	148	A	SD-08	フク下 W-50	部材	572.0	72.0	36.0			T-460	一部炭化，櫂？
	149	A	SD-08	フク中 W-13	田下駄状	339.0	72.0	8.5			T-210	
	150	A	SD-08	フク下 W-9	用途不明	186.0	32.5	18.5			T-136	浮子⁉，一部炭化
63	151	A	SD-08	フク上 W-16	用途不明（部材）	631.0	43.0	29.0			T -457	
	152	A	SD-08	フク上 W-74	木錐	155.5	18.0	18.5			Mi-49	木栓⁉
	153	A	SD-08	フク下 W-52	箆状	145.0	7.5	5.0			T -461	
	154	A	SD-08	フク下 W-71	木簡	(250.0)	9.0	3.5			T -422	
	155	A	SD-08	フク下 W-255	箆状	233.0	15.0	5.0			T -470	

第 17 表　遺物観察表 10

図版	No.	出土地区	遺構名	層　位	分　類	大きさ			年輪年代		実測者番号	備　考
						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	分析	年代		
64	156	A	SD-08	フク中 W-11	板材	(372.0)	84.5	16.5			Mi-57	
	157	A	SD-08	フク中 W-36・37-2	板材	(421.0)	43.5	9.0			Mi-59	
	158	A	SD-08	フク上 W-42	板材	(488.0)	42.5	11.0			Mi-60	
	159	A	SD-08	フク上 W-56	板材	(375.0)	43.5	12.0			Mi-61	
	160	A	SD-08	フク下 W-69・70	板材	(216.5)	23.5	8.0			Mi-65	
	161	A	SD-08	フク上 W-151	板材	(240.0)	55.5	15.5			Mi-80	
	162	A	SD-08	フク上 W-154	板材	(213.0)	37.0	5.5			Mi-81	
65	163	A	SD-08	フク上 W-162	板材	(546.0)	98.0	11.0			Mi-82	
	164	A	SD-08	フク上 W-163	板材	(201.5)	28.5	5.0			Mi-83	
	165	A	SD-08	フク下 W-437	板材	(232.0)	40.0	7.5			Ju-70	
	166	A	SD-08	フク中 W-37-1	箆状	(239.0)	20.5	15.0			T -458	
	167	A	SD-08	フク下 W-49	用途不明	(380.0)	22.0	30.0			T -459	
	168	A	SD-08	フク上 W-146	用途不明	(403.0)	38.0	22.0			T -464	
	169	A	SD-08	フク中 W-402	用途不明	(420.0)	22.5	21.0			T -471	
66	170	A	SD-08	フク中 W-72	杭	(1713.0)	(59.0)	(59.0)			T-379	
	171	A	SD-08	フク中 W-90	杭	1790.0	67.0	67.0			T-378	
	172	A	SD-08	フク上 W-73	杭	1747.0	85.0	84.0			T-381	部材からの転用
	173	A	SD-08	フク中 W-15-1	杭	376.5	16.0	20.0			T -455	
	174	A	SD-08	フク上 W-143	杭	405.0	22.0	12.0			T -462	
	175	A	SD-08	フク中 W-15-2	用途不明	222.0	14.0	9.5			T -456	
	176	A	SD-08	フク上 W-144	杭	(581.0)	37.5	35.0			T -463	
67	177	A	SD-08	フク上 W-157	杭	(609.0)	67.5	32.0			T -465	
	178	A	SD-08	フク上 W-159	杭	(640.0)	59.0	30.5			T -466	
	179	A	SD-08	フク上 W-160	杭	(642.0)	48.5	35.0			T -467	
	180	A	SD-08	フク上 W-161	杭	(664.0)	45.5	32.0			T -468	
	181	A	SD-08	フク中 W-403	杭	369.0	18.5	15.0			T -472	
	182	A	SD-08	フク上 W-209	杭	537.0	47.0	36.0			T -469	
	183	A	SD-08 杭列	フク中 W-1	杭	687.0	56.0	35.0			T-291	
	184	A	SD-08 杭列	フク中 W-2	杭	638.0	59.0	39.0			T-292	

第 18 表　遺物観察表 11

図版	No.	出土地区	遺構名	層　位	分　類	大きさ			年輪年代		実測者番号	備考
						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	分析	年代		
68	185	A	SD-08 杭列	フク中 W-3	杭	670.0	38.0	33.0			T-293	
	186	A	SD-08 杭列	フク中 W-4	杭	650.0	50.0	40.0			T-294	
	187	A	SD-08 杭列	フク中 W-11	杭	637.0	55.0	35.0			T-295	
	188	A	SD-08 杭列	フク中 W-13	杭	673.0	36.0	40.5			T-296	
69	189	A	SD-08 杭列	フク W-16	杭	753.0	38.0	32.0			T-297	
	190	A	SD-08 杭列	フク W-17	杭	779.0	57.5	36.0			T-298	
	191	A	SD-08 杭列	フク W-18	杭	617.0	34.0	30.0			T-299	
	192	A	SD-08 杭列	フク W-19	杭	654.0	39.8	34.5			T-300	
70	193	A	SD-08 杭列	フク W-20	杭	(615.0)	41.5	31.0			T-301	
	194	A	SD-08 杭列	フク W-26	杭	550.0	32.0	22.5			T-302	
	195	A	SD-08 杭列	フク W-27	杭	524.0	33.0	19.5			T-259	
	196	A	SD-08 杭列	フク W-28	杭	401.0	22.0	21.0			T-260	
	197	A	SD-08 杭列	フク W-29	杭	658.0	31.0	25.5			T-303	
71	198	A	SD-08 杭列	フク W-30	杭	624.0	35.0	28.7			T-304	
	199	A	SD-08 杭列	フク W-31	杭	661.0	32.5	22.5			T-305	
	200	A	SD-08 杭列	フク W-32	杭	574.0	33.0	21.0			T-306	
	201	A	SD-08 杭列	フク W-33	杭	652.0	32.5	24.5			T-307	
	202	A	SD-08 杭列	フク W-34	杭	662.0	32.0	24.5			T-308	
72	203	A	SD-08 杭列	フク W-35	杭	585.0	31.5	31.5			T-309	
	204	A	SD-08 杭列	フク中 W-36	杭	660.0	28.5	22.0			T-310	
	205	A	SD-08 杭列	フク中 W-37	杭	654.0	31.5	27.5			T-311	
	206	A	SD-08 杭列	フク中 W-38	杭	666.0	43.5	29.0			T-312	
73	207	A	SD-08 杭列	フク中 W-39	杭	518.0	31.0	26.0			T-261	
	208	A	SD-08 杭列	フク中 W-42	杭	(534.0)	30.8	18.0			T-313	
	209	A	SD-08 杭列	フク中 W-44	杭	578.0	39.0	15.0			T-314	
	210	A	SD-08 杭列	フク中 W-45	杭	575.0	43.0	26.0			T-321	
74	211	A	SD-08 杭列	フク中 W-48	杭	630.0	31.5	13.5			T-315	
	212	A	SD-08 杭列	フク中 W-50	杭	607.0	32.5	20.0			T-316	
	213	A	SD-08 杭列	フク中 W-51	杭	762.0	35.0	24.0			T-317	
	214	A	SD-08 杭列	フク中 W-52	杭	770.0	56.5	29.0			T-318	

第 19 表　遺物観察表 12

図版	No.	出土地区	遺構名	層　位	分　類	大きさ			年輪年代		実測者番号	備考
						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	分析	年代		
75	215	A	SD-08 杭列	フク中 W-53	杭	426.0	14.5	11.0			T-266	
	216	A	SD-08 杭列	フク中 W-54	杭	671.0	34.0	28.0			T-319	
	217	A	SD-08 杭列	フク中 W-55	杭	(646.0)	39.0	29.0			T-320	
	218	A	SD-08 杭列	フク中 W-56	杭	484.0	32.5	20.0			T-267	
	219	A	SD-08 杭列	フク中 W-57	杭	662.0	30.0	21.8			T-322	
76	220	A	SD-08 杭列	フク中 W-58	杭	619.0	36.0	24.0			T-323	
	221	A	SD-08 杭列	フク中 W-60	杭	552.0	25.0	20.0			T-324	
	222	A	SD-08 杭列	フク中 W-61	杭	(584.0)	34.5	22.0			T-325	
	223	A	SD-08 杭列	フク中 W-62	杭	(469.0)	37.0	26.0			T-268	
	224	A	SD-08 杭列	フク中 W-63	杭	651.5	35.5	32.0			T-326	
77	225	A	SD-08 杭列	フク中 W-64	杭	630.0	27.0	16.0			T-327	
	226	A	SD-08 杭列	フク中 W-65	杭	570.0	34.0	25.0			T-328	
	227	A	SD-08 杭列	フク中 W-66	杭	588.0	30.5	32.0			T-329	
	228	A	SD-08 杭列	フク中 W-67	杭	557.0	34.5	18.5			T-269	
	229	A	SD-08 杭列	フク中 W-68	杭	(637.0)	34.5	34.0			T-330	
78	230	A	SD-08 杭列	フク中 W-69	杭	575.0	37.5	22.0			T-331	
	231	A	SD-08 杭列	フク中 W-71	杭	670.0	39.0	27.0			T-332	
	232	A	SD-08 杭列	フク中 W-72	杭	(652.0)	31.5	21.0			T-333	
	233	A	SD-08 杭列	フク中 W-73	杭	(636.0)	37.5	27.0			T-334	
79	234	A	SD-08 杭列	フク中 W-77	杭	573.0	31.0	22.5			T-335	
	235	A	SD-08 杭列	フク中 W-78	杭	(584.0)	30.0	27.0			T-336	
	236	A	SD-08 杭列	フク中 W-79	杭	446.0	28.0	12.0			T-272	
	237	A	SD-08 杭列	フク中 W-81	杭	633.0	35.0	20.0			T-337	
	238	A	SD-08 杭列	フク中 W-88	杭	(459.0)	51.0	32.0			T-277	
80	239	A	SD-08 杭列	フク中 W-89	杭	647.0	32.5	20.7			T-339	
	240	A	SD-08 杭列	フク中 W-90	杭	(433.0)	34.0	14.0			T-278	
	241	A	SD-08 杭列	フク中 W-91	杭	(505.0)	68.0	44.0			T-279	
	242	A	SD-08 杭列	フク中 W-92	杭	(641.0)	56.0	37.0			T-340	
	243	A	SD-08 杭列	フク中 W-101	杭	468.0	30.0	12.0			T-284	

第 20 表　遺物観察表 13

図版	No.	出土地区	遺構名	層　位	分　類	大きさ			年輪年代		実測者番号	備　考
						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	分析	年代		
81	244	A	SD-08 杭列	フク中 W-94	杭	(590.0)	37.0	20.5			T-341	
	245	A	SD-08 杭列	フク中 W-97	杭	640.5	35.5	19.0			T-342	
	246	A	SD-08 杭列	フク中 W-98	杭	633.0	30.0	27.0			T-343	
	247	A	SD-08 杭列	フク中 W-100	杭	672.0	33.0	29.0			T-344	
82	248	A	SD-08 杭列	フク中 W-106	杭	670.0	35.0	31.0			T-345	
	249	A	SD-08 杭列	フク中 W-107	杭	674.0	37.5	29.5			T-346	
	250	A	SD-08 杭列	フク中 W-109	杭	(546.0)	39.0	15.5			T-347	
	251	A	SD-08 杭列	フク中 W-112	杭	(507.0)	30.5	16.0			T-289	
83	252	A	SD-08 杭列	フク中 W-113	杭	677.0	35.0	32.0			T-348	
	253	A	SD-08 杭列	フク中 W-114	杭	528.0	30.5	18.0			T-290	
	254	A	SD-08 杭列	フク中 W-115	杭	687.0	38.5	32.0			T-349	
	255	A	SD-08 杭列	フク中 W-116	杭	582.0	30.0	24.0			T-350	
84	256	A	SD-08 杭列	フク中 W-117	杭	568.0	37.5	15.5			T-351	
	257	A	SD-08 杭列	フク中 W-118	杭	649.0	38.0	30.0			T-352	
	258	A	SD-08 杭列	フク中 W-119	杭	673.0	36.0	32.0			T-353	
	259	A	SD-08 杭列	フク中 W-46	杭	412.0	29.0	18.0			T-263	
	260	A	SD-08 杭列	フク中 W-47	杭	(404.0)	27.0	22.0			T-264	
	261	A	SD-08 杭列	フク中 W-49	杭	354.0	28.0	14.0			T-265	
85	262	A	SD-08 杭列	フク中 W-70	杭	(218.0)	26.0	15.0			T-358	
	263	A	SD-08 杭列	フク中 W-80	杭	(275.0)	23.5	22.0			T-273	
	264	A	SD-08 杭列	フク中 W-82	杭	418.0	19.0	13.0			T-274	
	265	A	SD-08 杭列	フク中 W-83	杭	410.0	30.0	17.0			T-275	
	266	A	SD-08 杭列	フク中 W-84	杭	425.0	24.5	9.0			T-276	
	267	A	SD-08 杭列	フク中 W-93	杭	(204.0)	13.0	19.0			T-280	
	268	A	SD-08 杭列	フク中 W-95	杭	361.0	12.0	10.0			T-281	
	269	A	SD-08 杭列	フク中 W-96	杭	(376.0)	26.0	7.0			T-282	
	270	A	SD-08 杭列	フク中 W-99	杭	312.0	15.5	10.0			T-283	
	271	A	SD-08 杭列	フク中 W-102	杭	(163.0)	11.5	10.0			T-285	

第 21 表　遺物観察表 14

図版	No.	出土地区	遺構名	層位	分類	大きさ			年輪年代		実測者番号	備考
						長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	分析	年代		
86	272	A	SD-08 杭列	フク中 W-108	杭	387.5	17.5	14.0			T-286	
	273	A	SD-08 杭列	フク中 W-111	杭	414.0	27.0	19.0			T-288	
	274	A	SD-08 杭列	フク中 W-110	杭	402.0	24.0	13.0			T-287	
	275	A	SD-08 杭列	フク中 W-14	板材	675.0	98.0	31.0	○	ー	T-357	
	276	A	SD-08 杭列	フク中 W-104	板材	(543.0)	61.0	38.5			T-360	
87	277	A	SD-08 杭列	フク中 W-120	板材	(448.0)	62.5	30.0			T-361	
	278	A	SD-08 杭列	フク中 W-7	板材	(577.0)	56.0	12.0	○	ー	T-354	
	279	A	SD-08 杭列	フク中 W-8	板材	(652.0)	73.0	22.0	○	ー	T-355	
	280	A	SD-08 杭列	フク中 W-12	板材	(337.0)	52.0	13.5			T-356	
	281	A	SD-08 杭列	フク中 W-103	板材	(594.0)	118.0	14.0	○	ー	T-359	
88	282	A	SD-08 杭列	フク中 W-43	杭	533.0	38.0	35.0			T-262	
	283	A	SD-08 杭列	フク中 W-74	杭	(498.0)	50.0	52.0			T-270	
	284	A	SD-08 杭列	フク中 W-75・76	杭	(494.0)	43.0	45.0			T-271	
	285	A	SD-08 杭列	フク中 W-87	杭	(540.0)	60.5	54.0			T-338	
89	286	A	SD-08b	フク上 W-23	田下駄状	319.5	83.0	12.5			T -420	
	287	A	SD-08b	フク上 W-15	箆状	(203.5)	20.0	6.0			T -473	
	288	A	SD-08b	フク上 W-17	板材	(355.0)	35.0	6.5			T -474	
	289	A	SD-08b	フク上 W-24	杭	(499.0)	38.5	27.0			T -475	

第Ⅵ章　新田(1)遺跡（丘陵地部分）

新田（１）遺跡の沖積地上に立地するＡ区より一段高い丘陵部のＢ区は調査前は店舗跡地や畑地や農道として利用されていた土地で、それ以前の昭和の時代にはりんご畑として利用されていたという話である。

発掘調査区の一部では前述の土地利用に伴う撹乱が確認されるケースが多く見受けられた。この影響は隣接する土地区画整理事業の発掘調査区でも同様の様相であった。

第Ⅴ章の冒頭で述べたとおり、隣接する土地区画整理事業の発掘調査区内に遺構が延びており、掘立柱建物跡や溝跡などの遺構の規模については両地区の成果を併せなければ判断できない資料も含まれる。

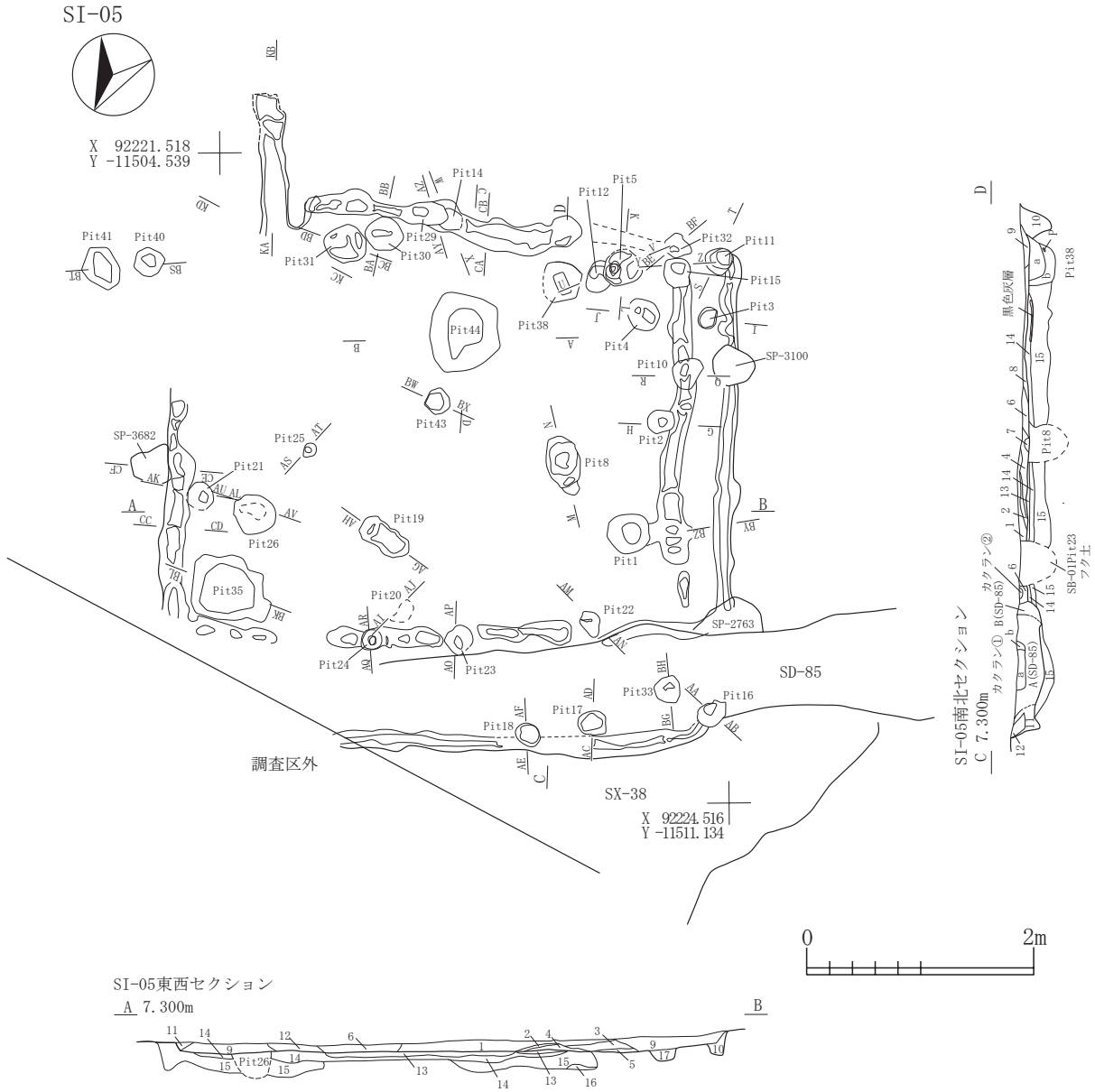
第１節　遺構

１.竪穴建物跡

ＳＩ－０５　（第９０～９５図）

Ｂ－１拡張区X 92223.000, Y -11508.000 付近で検出した。平面形は不整方形で、５０５×４８６×９ｃｍ、面積は（２０.３４１）m^2を測る。ＳＤ－８５，ＳＢ－０１Ｐｉｔ１５・２２・２３・３１，ＳＰ－２７６３・２７６４・２７６５・２９３６・３０２１・３０５６・３０８３・３１００・３６８２，ＳＮ－５０と重複しており、基本的に本遺構が最も古い。また、本遺構は建て替えられており最低新旧２段階の変遷を経ているが、旧段階の資料については長方形を呈し、４５０×３６８ｃｍの規模で、面積は１７.２３７m^2を測る。

新段階のものについては壁溝が東壁の南端と南壁の西側の一部で欠落しているが、残存部分について各壁から検出している。欠落部分の南東隅側については図示していないが、現代の井戸のコンクリートブロック枠が残存して破壊されており、部分的な確認であったが、Ｐｉｔ４０・４１としてピットと浅い落ち込みが確認されており、出入口の可能性が考えられる。主柱配置については他の遺構の柱穴等が密集している箇所であり、一部錯誤等の要因も考慮しなければならないが、Ｐｉｔ１・２６・３６の段階のものとＰｉｔ８・３８・４２・３５の段階のものが考えられる。東西軸のセクション上でＰｉｔ８－Ｐｉｔ３８の軸線に対応する形で、掘り方が掘りこまれており、前述の新旧２段階とは異なる時期が存在した可能性についても考慮される。また、支柱として壁溝上にあるピットが機能したことが考えられる。また、ＳＮ－５０として取り扱った遺構の重複部分周辺の建物跡中央部分（堆積土第１層に対応）で、炭化物・焼土粒・灰などを確認しており、灰や炭についてはＳＤ－８５堆積土上でも確認されている。このことから、直接本遺構で焼失したというよりは、本遺構やＳＤ－８５の遺構が埋没後、ＳＮ－５０使用時の段階で焼土等が伴う焼成が行われたと認定できる。ただし、床面下の１４層と１５層の層界面には黒色灰の堆積層が認められることから、構築段階もしくは前段階からの変遷時に焼成が行われた可能性はある。堆積土中に火山灰は確認されていない。カマドは南壁Ｓ１（１８：８２）の位置から１基検出した。前述のコンクリートブロックの影響箇所がカマド前庭部は右袖相当位置周辺の調査以外不可能で、煙道主体の調査であった。壁際からの長さは１１０ｃｍを測り、主軸についてはＮ－１５２°－Ｅである。前底部の底面付近に堆積する第１１層は黒色灰層で、右袖側の第１３層にはカマド構築材がブロック化して堆積していることから破壊の要素が強い状況である。旧段階のカマドについては不明である。



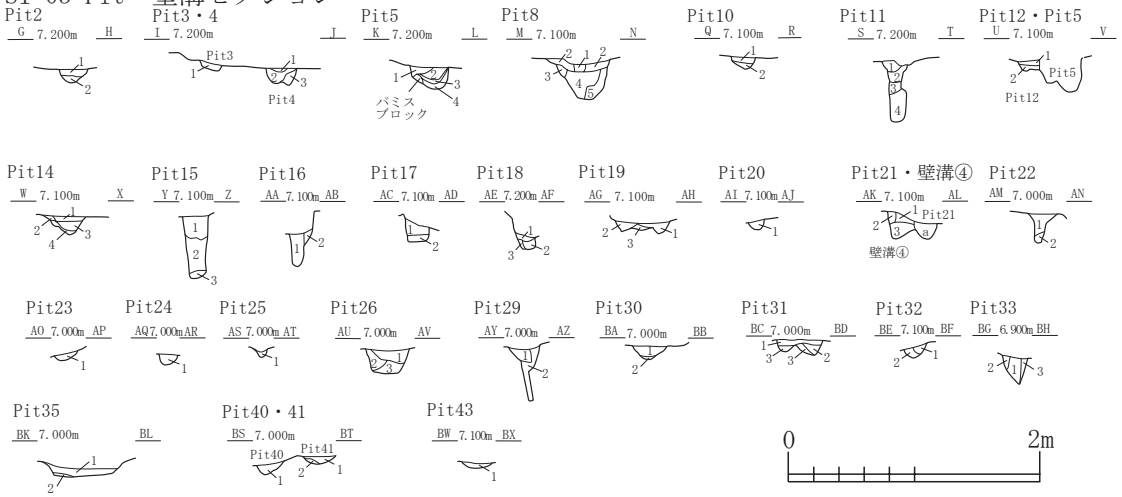
SI-05

第１層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)中量,炭化粒(φ5㎜)少量,焼土粒(φ5～10㎜)中量
第２層　10YR2/1　黒色土
第３層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ3～5㎜)中量･ブロック(φ10～15㎜)少量
第４層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ3～5㎜)少量
第５層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5㎜)微量･ブロック(φ10～15㎜)極微量
第６層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ15～20㎜)少量
第７層　10YR2/1　黒色土
第８層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ15㎜)極微量
第９層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ15～20㎜)少量,黒色土が斑状に混入
第10層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量　(壁溝①と同一)
第11層　10YR2/1　黒色土
第12層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5㎜)少量
第13層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)中量･ブロック(φ11～60㎜)多量,ローム粒(φ5～10㎜)少量,
炭化粒(φ5～10㎜)少量
第14層　10YR4/4　褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)多量･ブロック(φ11～40㎜)中量,ローム粒(φ5㎜)微量,焼土粒(φ5㎜)微量
第15層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)･ブロック(φ11～40㎜)中量
第16層　10YR5/6　黄褐色土
第17層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量･ブロック(φ20～40㎜)中量

カクラン①第ａ層　10YR4/1　褐灰色土　礫(砕石)を下層に含む
カクラン①第ｂ層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ3～5㎜)少量
カクラン②　10YR2/1　黒色土

第 90 図　SI-05-1

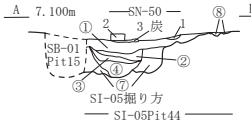
SI-05 Pit・壁溝セクション



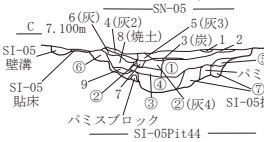
SI-05Pit2
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量,炭化粒(φ1～2mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)中量,炭化粒(φ1mm程度)微量,焼土粒(φ1～2mm)微量
SI-05Pit3
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)極多量,炭化粒(φ1～2mm)微量,にぶい褐色(7.5YR5/4)ローム(φ5～10mm)中量
SI-05Pit4
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)少量,炭化粒(φ1～5mm)少量,焼土粒(φ1～3mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～3mm)微量,焼土粒(φ1～3mm)微量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)多量,炭化粒(φ1～3mm)微量
SI-05Pit5
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量,炭化粒(φ1～3mm)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)多量,炭化粒(φ1～2mm)微量,焼土粒(φ1～3mm)微量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)微量
第4層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)多量,炭化粒(φ1～5mm)少量
SI-05Pit8
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)多量・ブロック(φ15～30mm)中量,ローム粒(φ1～10mm)中量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量・ブロック(φ15～30mm)少量,にぶい橙(7.5YR7/3)ローム粒(φ1～10mm)多量
第5層　7.5YR5/6　明褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量,黒褐色土(10YR2/2)中量
SI-05Pit10
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量,にぶい褐色(7.5YR6/3)ローム粒(φ1～5mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)少量,にぶい褐色(7.5YR6/3)ローム粒(φ1～5mm)少量
SI-05Pit11
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～2mm)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)多量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)中量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)多量
SI-05Pit12
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ15～30mm)微量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)極多量,黒色土(10YR2/1)少量
SI-05Pit14
第1層　7.5YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量,炭化粒(φ1～2mm)微量,焼土粒(φ1～3mm)少量,暗褐色(7.5YR3/4)焼土粒(φ1～10mm)中量,浅黄橙色(10YR8/4)灰粒?(φ1～10mm)中量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量,炭化粒(φ1～2mm)微量,焼土粒(φ1～3mm)中量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量,炭化粒(φ1～2mm)微量,焼土粒(φ1～5mm)中量,浅黄橙色(10YR8/4)灰?(φ1～10mm)少量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量
SI-05Pit15
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15mm)多量,ローム粒(φ1～3mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)中量,ロームブロック(φ10～15mm)微量・(φ40mm)1個
第3層　7.5YR5/8　明褐色土　暗褐色土(10YR3/4)少量混入
SI-05Pit16
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15mm)多量
第2層　10YR5/6　黄褐色土
SI-05Pit17
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量・ブロック(φ15mm)1個,炭化粒(φ1～3mm)少量,焼土粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
SI-05Pit18
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)多量
第2層　10YR5/8　黄褐色土
第3層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～2mm)中量
SI-05Pit19
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ3～15mm)中量,炭化粒(φ2～5mm)少量,焼土粒(φ2～9mm)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)多量,炭化粒(φ1～3mm)少量
第3層　10YR5/6　黄褐色土　黒褐色土(10YR2/2)(φ2～10mm)混入
SI-05Pit20
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)微量,焼土粒(φ1～2mm)微量
SI-05Pit21
第a層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～25mm)多量,炭化粒(φ1～2mm)少量
SI-05壁溝④
第1層　10YR2/2黒褐色土と7.5YR4/6褐色土の混合土　パミス粒・ブロック(φ1～12mm)多量,ローム粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR5/8　黄褐色土
第3層　10YR2/2黒褐色土と7.5YR4/6褐色土と10YR5/8黄褐色土の混合土
SI-05Pit22
第1層　10YR3/3暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合土
第2層　10YR4/6　褐色土
SI-05Pit23
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)少量
SI-05Pit24
第1層　10YR2/2黒褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)中量
SI-05Pit25
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～3mm)微量,炭化粒(φ5mm)微量
SI-05Pit26
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量・ブロック(φ20～60mm)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ20～40mm)中量
第3層　10YR5/6　黄褐色土　パミス粒(φ1～3mm)・ブロック(φ40～50mm)多量
SI-05Pit29
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～30mm)多量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量
SI-05Pit30
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量,焼土粒(φ3～5mm)微量,にぶい黄褐色土(10YR5/4)粒・ブロック(φ5～10mm)少量
第2層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　黒褐色土(10YR2/2)少量
SI-05Pit31
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)少量,炭化粒(φ1～5mm)少量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15mm)中量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第3層　10YR5/6　黄褐色土　黒褐色土(10YR2/3)少量
SI-05Pit32
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～10mm)中量
SI-05Pit33
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～10mm)中量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～12mm)多量
第3層　10YR5/6　黄褐色土　黒褐色土(10YR2/2)混入
SI-05Pit35
第1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ1～3mm)極多量・ブロック(φ10～20mm)多量
第2層　10YR4/1　褐灰色砂
SI-05Pit40
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～12mm)多量
SI-05Pit41
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～9mm)中量,炭化粒(φ2～3mm)微量
第2層
SI-05Pit43
第1層　10YR2/2　黒褐色土　褐色土(10YR4/6)混合

第91図　SI-05-2

SI-05Pit44・SN-50セクション①



SI-05Pit44・SN-50セクション②

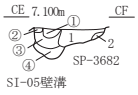


SI-05内壁溝①

SI-05内壁溝③

SI-05内壁溝⑤

SI-05壁溝・SP-3682



SI-05Pit44
第①層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ5～10mm)少量,焼土粒(φ5～10mm)微量
第②層　10YR2/2黒褐色シルト質土と10YR2/3黒褐色土と10YR4/1褐灰色土の混合土(灰混じりの層)
第③層　10YR4/1　褐灰色灰　パミス粒(φ5mm)微量,焼土粒(φ3～5mm)微量
第④層　10YR1.7/1　黒色土　炭化粒(φ2～3mm)多量
第⑤層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)微量
第⑥層　10YR3/3　暗褐色土　パミスブロック(φ40～50mm)少量
第⑦層　10YR3/3　暗褐色土　パミスブロック(φ30～50mm)多量
第⑧層　10YR3/2　黒褐色土　炭化粒(φ3～5mm)微量,焼土粒(φ3～5mm)微量

SI-05壁溝①
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)中量
第2層　10YR3/3暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土　パミス粒・ブロック(φ1～30mm)多量

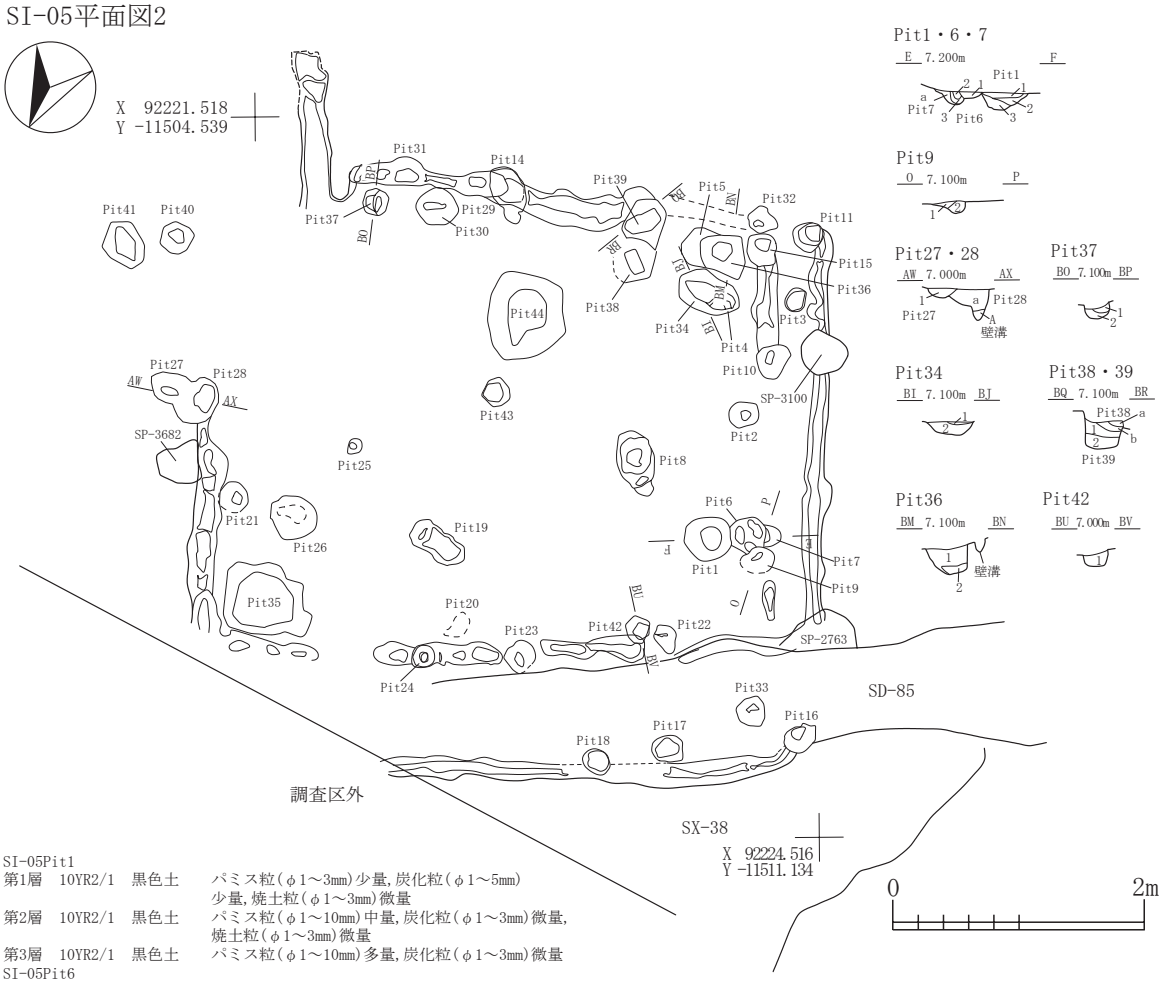
SI-05壁溝③
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15mm)中量,褐色土(10YR4/4)少量混入

SI-05壁溝⑤
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ8mm)微量
第2層　10YR4/4　褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～30mm)中量,炭化粒(φ5mm)微量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量・ブロック(φ15～40mm)多量

(SP-3682)
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ2～25mm)中量,炭化粒(φ3～5mm)微量
第2層　10YR5/6　黄褐色土

SI-05壁溝
第①層 10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～9mm)少量,炭化粒(φ3～5mm)微量
第②層 7.5YR4/6 褐色土
第③層 10YR3/3　暗褐色土　パミス粒・ブロック(φ2～15mm)多量
第④層 10YR3/3暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土

SI-05平面図2



Pit1・6・7

Pit9

Pit27・28

Pit37

Pit34

Pit38・39

Pit36

Pit42

SI-05Pit1
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)少量,炭化粒(φ1～5mm)少量,焼土粒(φ1～3mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,炭化粒(φ1～3mm)微量,焼土粒(φ1～3mm)微量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)多量,炭化粒(φ1～3mm)微量

SI-05Pit6
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)少量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量

SI-05Pit7
第a層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)中量

SI-05Pit9
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)・ブロック(φ15～30mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)少量・ブロック(φ15～30mm)中量,炭化粒(φ1～3mm)微量

SI-05Pit27
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15mm)中量

SI-05Pit28
第a層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～50mm)少量,ローム粒・ブロック(φ1～30mm)微量

SI-05Pit34
第1層　10YR4/6　褐色土　パミス粒・ブロック(φ3～5mm)多量,ローム粒(φ3～9mm)中量
第2層　10YR4/6　褐色土　パミス粒(φ5～9mm)少量

SI-05Pit36
第1層　10YR4/6　褐色土　ローム粒・ブロック(φ5～10mm)中量,黒褐色土(10YR2/3)粒(φ5～9mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)多量

SI-05Pit37
第1層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ3～5mm)少量,焼土粒(φ3～5mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ3～15mm) 多量,焼土粒(φ3～5mm)少量

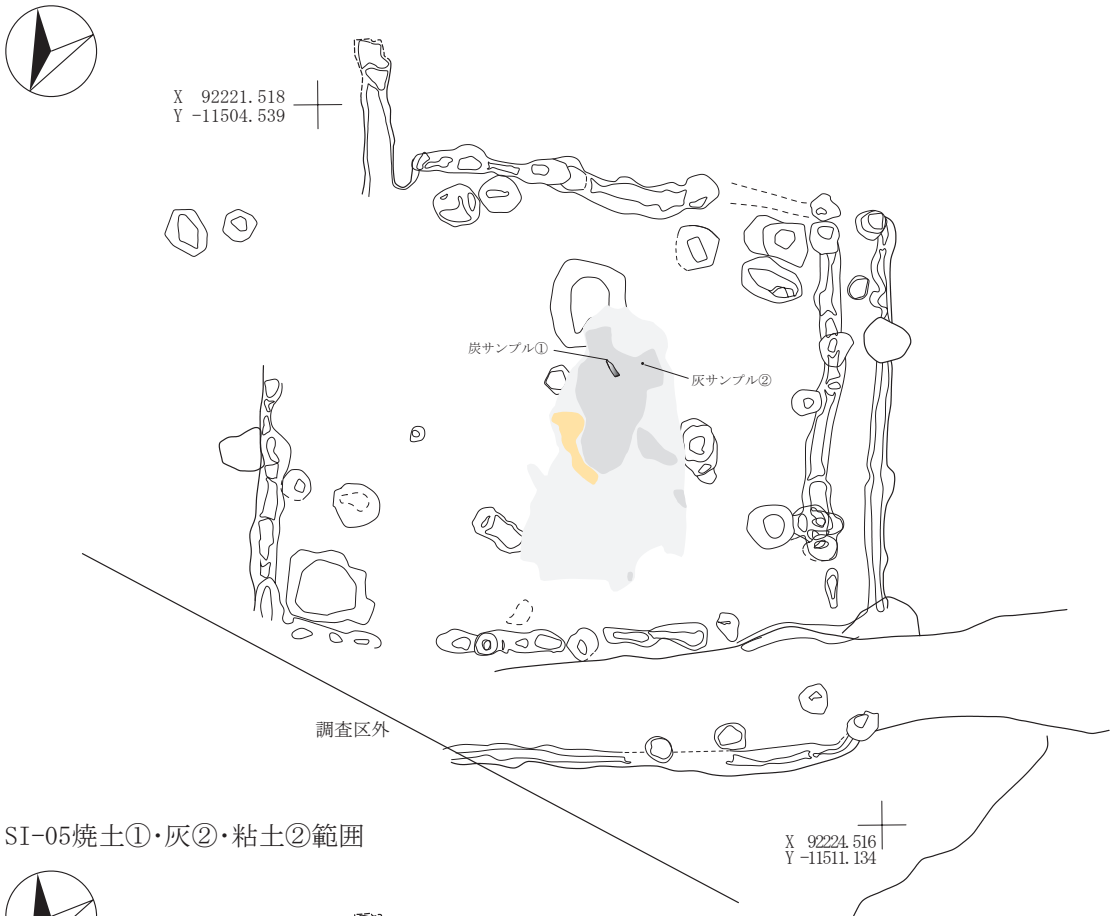
SI-05Pit38
第a層　10YR5/6　黄褐色土　パミス粒(φ1～10mm)多量・ブロック(φ15～20mm)少量
第b層　10YR4/2　灰黄褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,ローム粒・ブロック(φ5～20mm)少量,焼土粒(φ5～10mm)少量

SI-05Pit39
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ11～40mm)多量,ロームブロック(φ15～40mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量・ブロック(φ40mm)微量

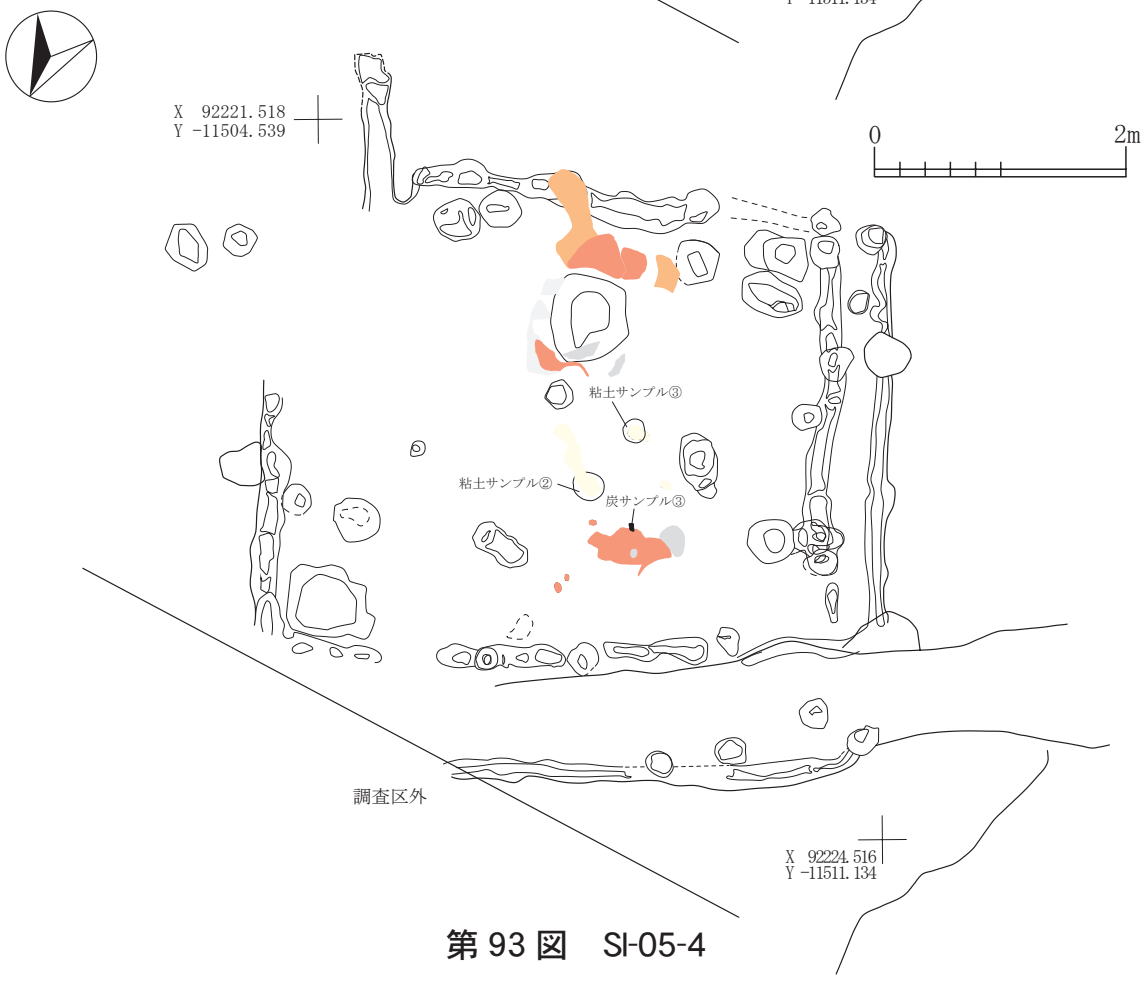
SI-05Pit42
第1層　10YR5/6　黄褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～40mm)多量

第92図　SI-05-3

SI-05灰①・粘土①範囲

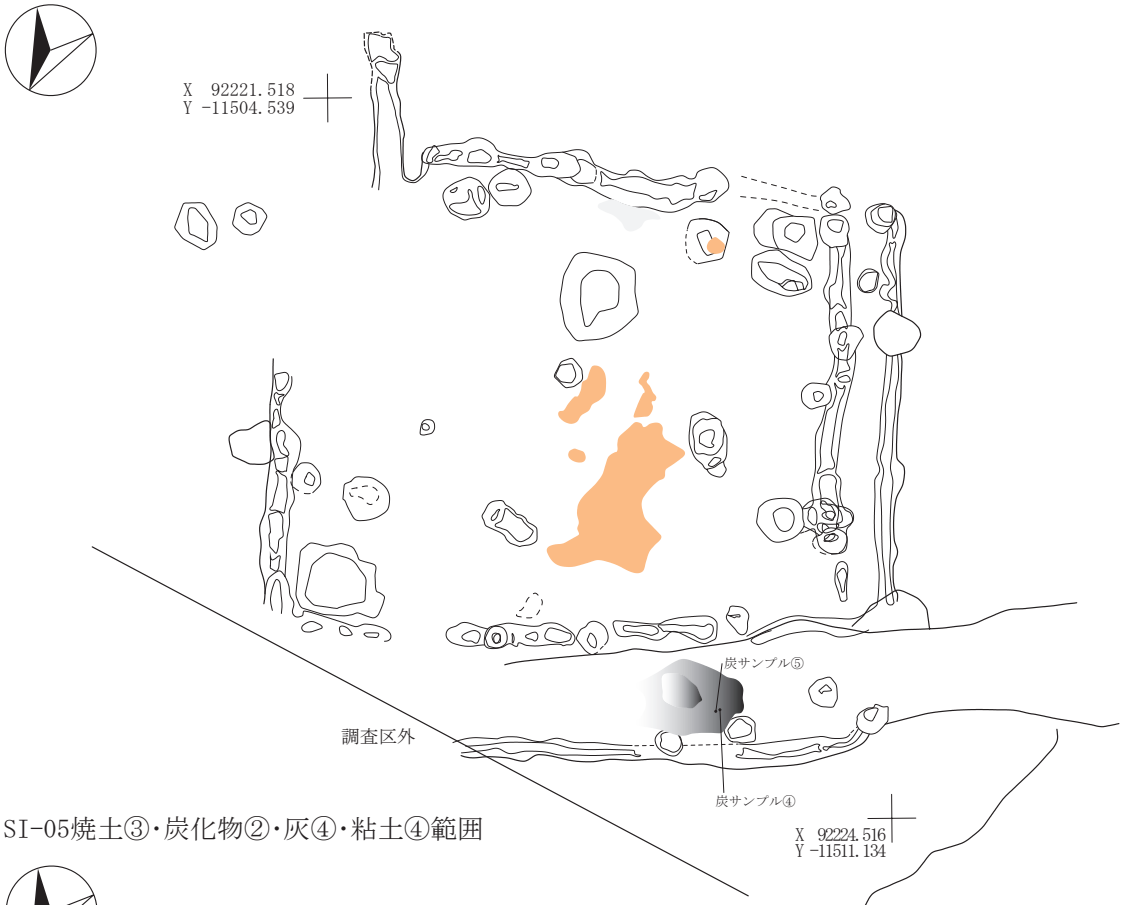


SI-05焼土①・灰②・粘土②範囲

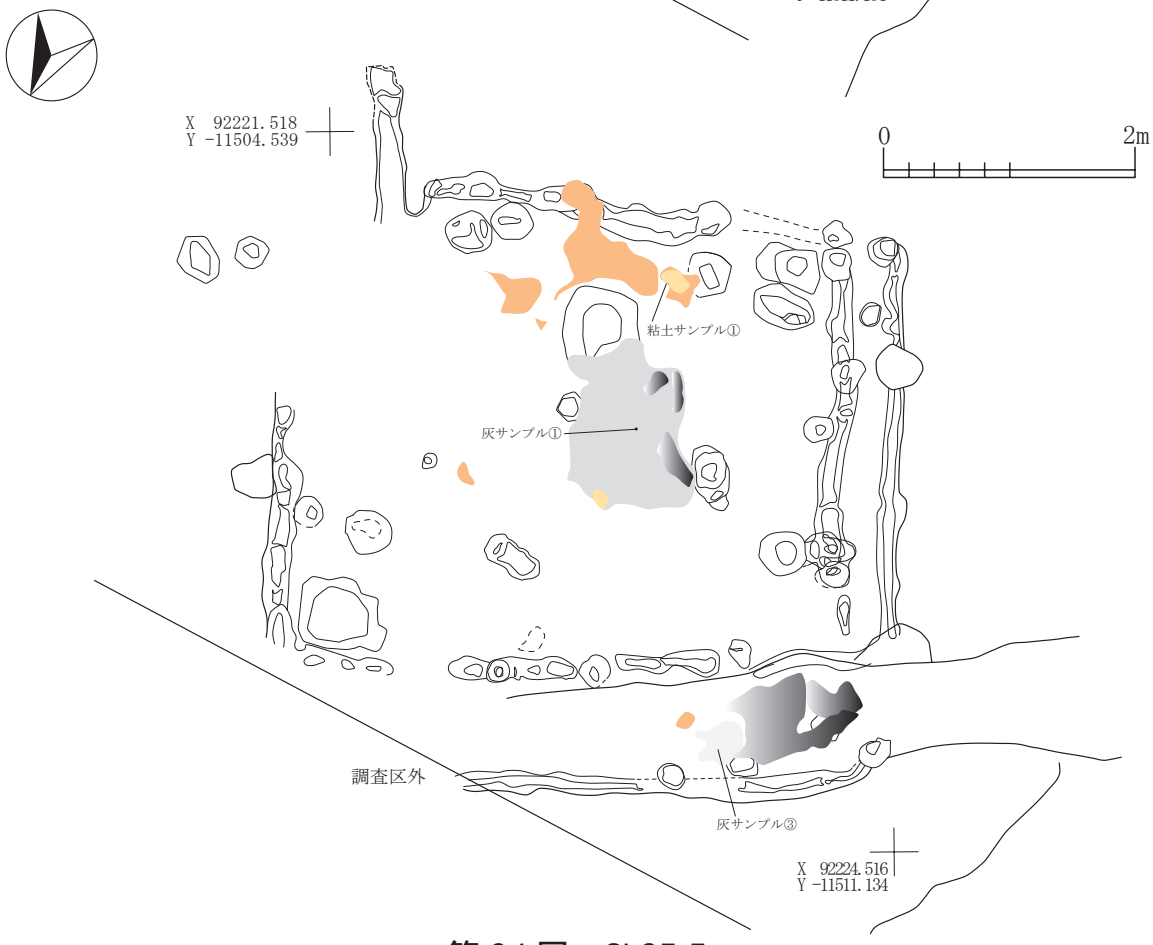


第 93 図　SI-05-4

SI-05焼土③・炭化物①・灰③範囲

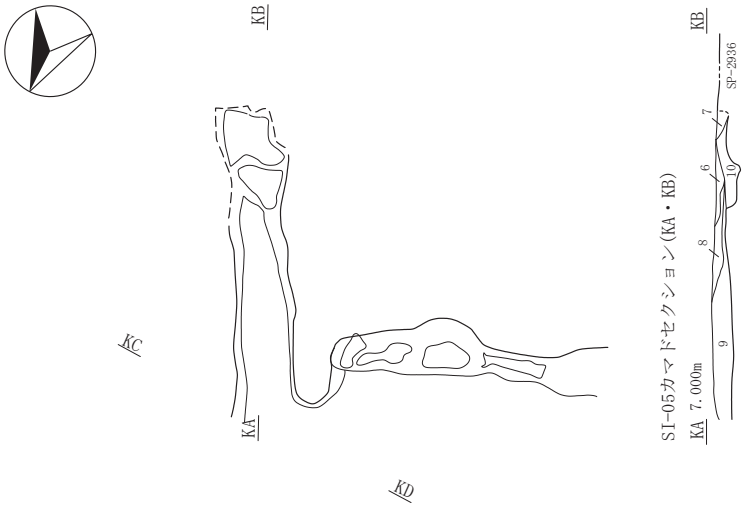


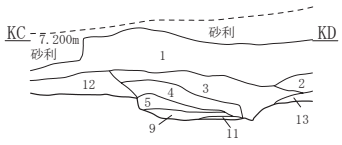
SI-05焼土③・炭化物②・灰④・粘土④範囲



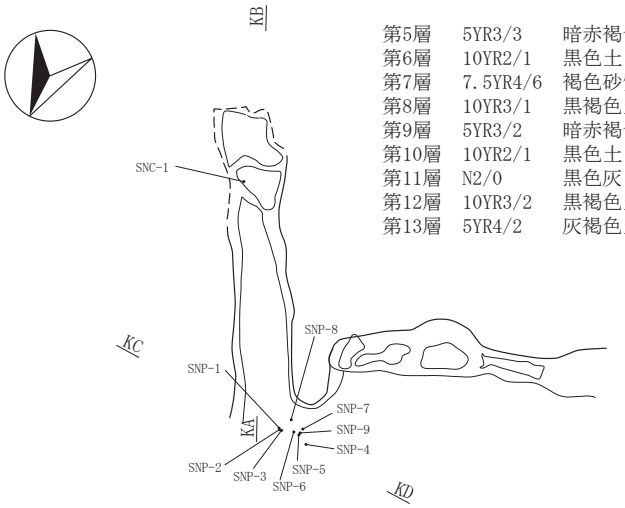
第 94 図　SI-05-5

SI-05カマド





SI-05カマド出土遺物位置図



SI-05カマド

第1層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ5～10mm)中量･ブロック(φ15mm)微量, 焼土粒(φ5mm)微量
第2層	10YR4/6	褐色ロームブロック層	
第3層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ5～10mm)局所的に多量, 焼土粒(φ1mm)少量, 灰(φ10mm)少量
第4層	7.5YR3/2	黒褐色土	焼土ブロック(φ10～20mm)多量, ロームブロック(φ10～20mm)少量
第5層	5YR3/3	暗赤褐色土	焼土粒(φ5mm)微量
第6層	10YR2/1	黒色土	パミスブロック(φ20～30mm)少量
第7層	7.5YR4/6	褐色砂質パミスブロック層	
第8層	10YR3/1	黒褐色土	パミスブロック(φ15～20mm)微量
第9層	5YR3/2	暗赤褐色土	砂粒(φ1mm以下)多量
第10層	10YR2/1	黒色土	パミスブロック(φ20～30mm)極多量
第11層	N2/0	黒色灰	灰層
第12層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ5～10mm)少量･ブロック(φ20～40mm)多量
第13層	5YR4/2	灰褐色土	ロームブロック(熱変成)(φ20～30mm)中量, 焼土粒(φ5～10mm)少量

第 95 図　SI-05-6

ＳＩ－０７（第９６図）

Ｂ－１拡張区 X92214.000, Y -11516.000 付近で検出した。西側は土地区画整理事業の調査区に遺構が延びており、本調査区内では東壁の壁溝と柱穴の一部の確認にとどまった。調査区西壁際で確認したＰｉｔ１８・１９のセクション図でも堆積土の一部にくい込んで盛土の堆積が見られることからもわかるように撹乱による影響が著しい。また、他の遺構との重複が激しく、本遺構より新しい遺構が多い状況である。

本遺構内の柱穴としてＰｉｔ１～１９まで１９基を遺構内として取り扱ったが、根拠に乏しい資料も含まれる。東壁側は壁溝の一部が拡張しており、張り出し部が存在したものと考えられる。張り出し部は１９６×７２ｃｍを測る。本遺構については土地区画整理事業の調査区の報告の際に再報告する予定である。

２．土坑

ＳＫ－１１１（第９７図）

Ｂ－１拡張区Ｘ 92225.000, Ｙ -11518.000 付近で検出した。調査区外に延び、調査区内での規模は（８８）×（６６）×５０ｃｍを測る。遺構確認面上で焼土を検出しており、堆積土中第④・⑥層は黒色灰の堆積層である。この黒色灰については骨片（人骨：四肢骨破片）が介在しており、隣接するＳＫ－１１２等でも確認されていることから時期的な鍵層となるものと判断される。

ＳＫ－１１２（第９７図）

Ｂ－１拡張区Ｘ 9224.000, Ｙ -11518.000 付近で検出した。規模は１８３×１１９×８２ｃｍを測る。ＳＰ－２９８５・２９６７と重複しており、いずれよりも本遺構の方が新しい。平面形は不整方形、断面形は浅く凹凸のある形状が基本であるが、南壁が段状の形状で、平面形についても北壁側に比べて一回り大きな形状である。前述のＳＫ－１１１で記述したとおり、本遺構にも黒色灰及び骨片を含む堆積層が認められる。本遺構の堆積状況は縞状に堆積しており、上位の層は南壁側から流れ込んだ堆積状況である。

ＳＫ－１１３（第９７図）

Ｂ－１拡張区Ｘ 9222.000, Ｙ -11518.000 付近で検出した。調査区外に約半分が延び規模は１１３×（６９）×１０１ｃｍを測る。ＳＰ－２８１１と重複しており本遺構の方が古い。検出部分の平面形は円形で、断面形は円筒形を呈する。埋没過程で坑底部に堆積する第６～１１層までの段階と坑上位に堆積する第２～５層までの堆積段階には時間的な幅がある堆積状況である。

ＳＫ－１１４（第９８図）

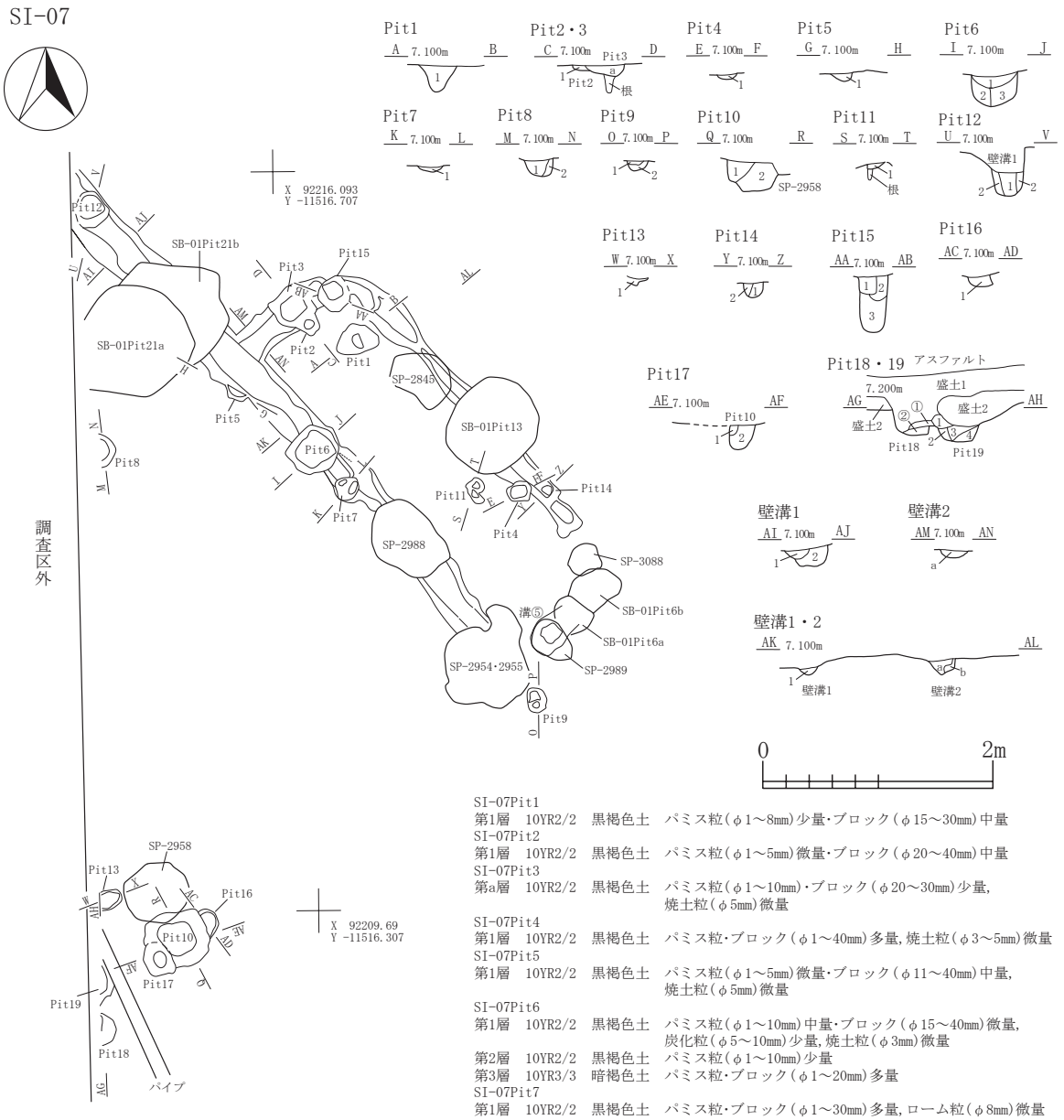
Ｂ－１拡張区Ｘ 92217.000, Ｙ -11518.000 付近で検出した。規模は（１５７）×１２７×２４６ｃｍを測る。ＳＤ－８４と重複しており本遺構の方が新しい。土坑として調査は行っているが、深さ等から考えると井戸跡である可能性が考えられる。因みに井戸枠等の木製品は出土していない。堆積土は中位の第７層まで分層した。堆積土中からＳＫ－１１１・１１２等で検出した黒色灰を第４層で確認した。

ＳＫ－１１５（第９８図）

Ｂ－１拡張区Ｘ 92207.000, Ｙ -11510.000 付近で検出した。規模は１６０×１１０×２６ｃｍを測る。ＳＰａ－０２と重複しており、本遺構の方が古い。平面形は不整楕円形、断面形は壁が垂直に近い形で立ち上がり、底面がやや凹凸のある形状を呈する。

ＳＫ－１１６（第９８図）

Ｂ－１拡張区Ｘ 92198.480, Ｙ -11507.550 付近で検出した。本遺構より新しいＳＤ－８１・１２６，



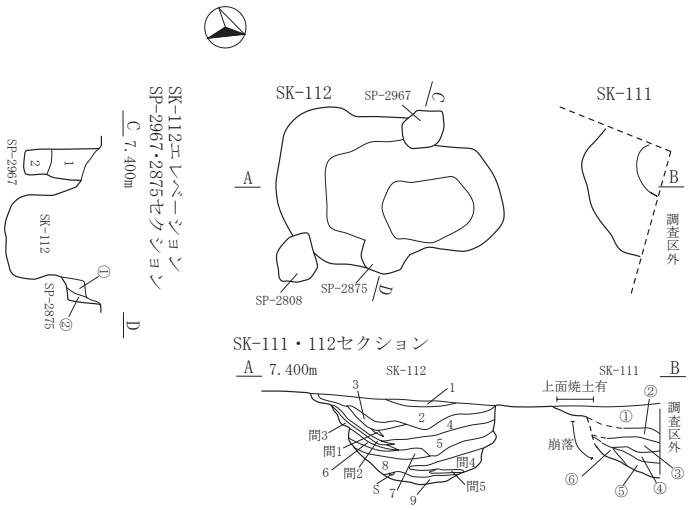
SI-07Pit1
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)少量・ブロック(φ15～30mm)中量
SI-07Pit2
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)微量・ブロック(φ20～40mm)中量
SI-07Pit3
第a層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)少量,
焼土粒(φ5mm)微量
SI-07Pit4
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～40mm)多量,焼土粒(φ3～5mm)微量
SI-07Pit5
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)微量・ブロック(φ11～40mm)中量,
焼土粒(φ5mm)微量
SI-07Pit6
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量・ブロック(φ15～40mm)微量,
炭化粒(φ5～10mm)少量,焼土粒(φ3mm)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量
第3層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)多量
SI-07Pit7
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～30mm)多量,ローム粒(φ8mm)微量
SI-07Pit8
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)微量・ブロック(φ15mm)少量
第2層　10YR4/4　褐色土　パミス粒(φ1～5mm)多量
SI-07Pit9
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～6mm)少量,焼土粒(φ3mm)微量
第2層　10YR4/4　褐色土　パミス粒(φ1～10mm)多量
SI-07Pit10
第1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～60mm)多量,焼土粒
(φ3～5mm)微量
第2層　10YR4/4　褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)中量,ロームブロック
(φ30～60mm)少量,焼土粒(φ3～5mm)微量
SI-07Pit11
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)中量
SI-07Pit12
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～30mm)少量,炭化物(φ20mm)微量
第2層　10YR4/4　褐色土　パミス粒(φ1～10mm)多量
SI-07Pit13
第1層　10YR4/4　褐色土　パミス粒(φ1～5mm)・ブロック(φ11～30mm)中量
SI-07Pit14
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)少量
第2層　10YR5/6　黄褐色土　黒褐色土(10YR2/3)粒・ブロック(φ5～10mm)少量
SI-07Pit15
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量・ブロック(φ11～50mm)多量,
ローム粒・ブロック(φ5～20mm)中量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～50mm)中量,ローム粒・ブロック
(φ5～20mm)少量
第3層　10YR4/4褐色土と10YR2/2黒褐色土の混合土　パミス粒・ブロック(φ1～50mm)多量
SI-07Pit16
第1層　10YR4/4　褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量・ブロック(φ11～50mm)多量,焼土粒
(φ5mm)微量

SI-07Pit17
第1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ1～10mm)多量
第2層　10YR5/6　黄褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)多量,
ロームブロック(φ40mm)微量
SI-07Pit18
第①層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量,パミス
ブロック(φ20mm)微量
第②層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量,パミス
ブロック(φ11～30mm)中量
SI-07Pit19
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)微量,焼土粒
(φ3mm)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量,パミス
ブロック(φ40mm)中量
第4層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量

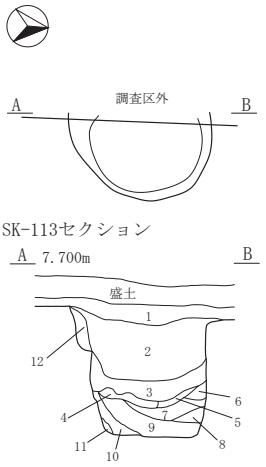
SI-07壁溝1
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15mm)中量,
炭化粒(φ2～3mm)微量,焼土粒
(φ1～5mm)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ2～30mm)多量
SI-07壁溝2
第a層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ2～10mm)中量,
炭化粒(φ1～3mm)少量,焼土粒
(φ2～5mm)微量
第b層　10YR5/8　黄褐色土　パミスブロック(φ10～15mm)多量,
黒褐色土(10YR2/3)少量

第 96 図　SI-07

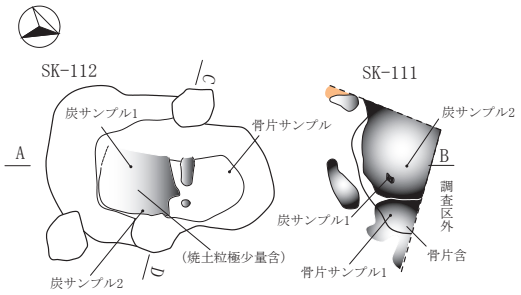
SK-111・112



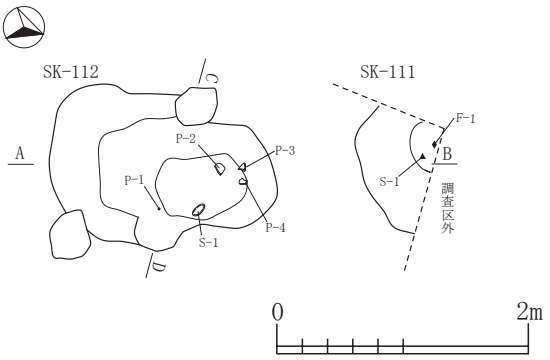
SK-113



SK-111・112炭・焼土範囲



SK-111・112出土遺物位置図



SK-111

第①層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量,炭化物(φ10～15㎜)少量,焼土粒(φ5～10㎜)微量
第②層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量,焼土粒(φ5～10㎜)微量
第③層　7.5YR3/3　暗褐色土　焼土粒･ブロック(φ5～10㎜)中量
第④層　N2/0　黒色灰
第⑤層　10YR3/3　暗褐色土　パミスブロック(φ20㎜)微量
第⑥層　N2/0　黒色灰

SP-2875

第①層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)中量
第②層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量･ブロック(φ20㎜)微量

SP-2967

第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)微量,礫(φ40㎜)極微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量

SK-112

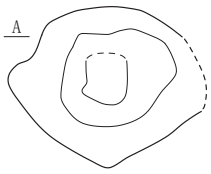
第1層　10YR2/3　黒褐色土　ロームブロック(φ10～30㎜)多量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒(φ1～5㎜)･ブロック(φ10～30㎜)少量,焼土粒(φ1～3㎜)微量,骨片(φ1㎜以下)少量
第3層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　黒褐色土(10YR3/2)少量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)微量
第5層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第6層　N2/0　黒色土
第7層　10YR1.7/1　黒色土
第8層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ20～30㎜)少量,骨片含む
第9層　10YR7/6　明黄褐色土　暗褐色土(10YR2/3)少量
間第1層　10YR3/1　黒褐色灰　黒色灰層
間第2層　10YR3/1　黒褐色灰　黒色灰層
間第3層　N2/0　黒色灰　焼土粒(φ5㎜)微量,炭化物混じり黒色灰層
間第4層　10YR6/6　明黄褐色ロームブロック
間第5層　10YR3/1　黒褐色シルト　灰混じり

SK-113

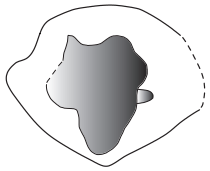
盛土　10YR4/2　灰黄褐色土～にぶい黄褐色土
第1層　10YR3/3暗褐色土と10YR3/2黒褐色土の混合土　パミス粒(φ3～5㎜)微量
第2層　10YR3/2黒褐色土と10YR2/2黒褐色土の混合土　パミス粒(φ3～5㎜)少量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5㎜)･ブロック(φ200～300㎜)少量
第4層　10YR2/1　黒色土
第5層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5㎜)微量
第6層　10YR8/6　黄橙色土　黒色土微量混入
第7層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ3～5㎜)･ブロック(φ200～300㎜)少量
第8層　10YR8/6　黄橙色土
第9層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5㎜)微量
第10層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ150㎜)少量
第11層　10YR8/6　黄橙色土
第12層　10YR2/3　黒褐色土　暗褐色土(10YR3/3)少量混入

第 97 図　SK ①

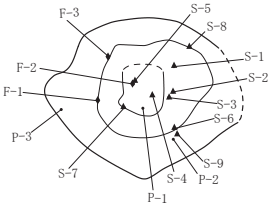
SK-114



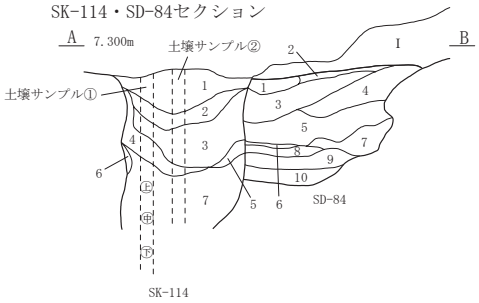
SK-114炭範囲



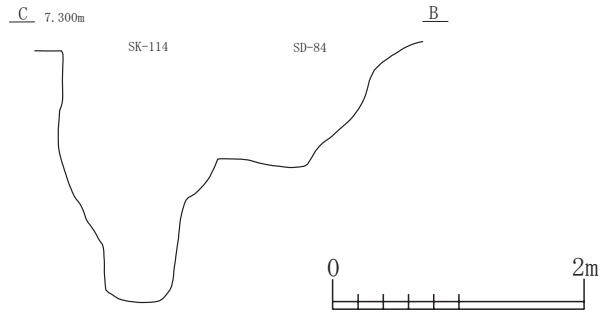
SK-114出土遺物位置図



SK-114・SD-84セクション



SK-114・SD-84エレベーション



SK-114

第Ⅰ層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)少量･ブロック(φ10～25mm)微量, ローム粒(φ3～9mm)極微量, 炭化粒(φ3～9mm)微量, 焼土粒(φ2～5mm)極微量

第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)少量, 炭化粒(φ3～5mm)極微量, 焼土粒(φ3～9mm)極微量

第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)･ブロック(φ10～80mm)少量, ロームブロック(φ20～40mm)微量, 炭化粒(φ3～9mm)微量

第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)･ブロック(φ10～25mm)少量, ロームブロック(φ10～20mm)微量, 炭化粒(φ2～9mm)少量, 焼土粒(φ2～6mm)極微量, 一部暗褐色土(10YR3/3)混入

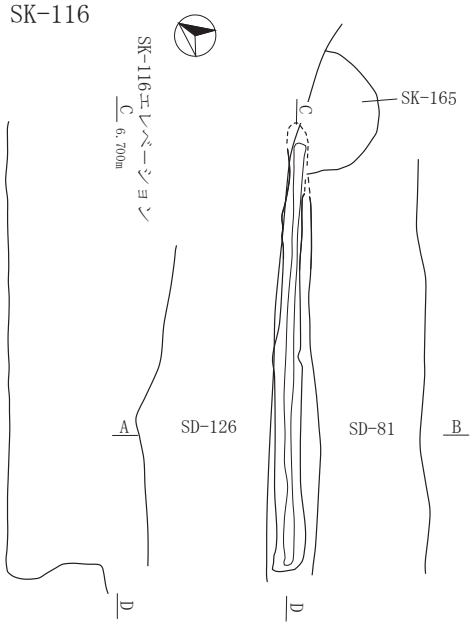
第4層　10YR1.7/1黒色炭･灰　炭化粒(φ3～9mm)少量

第5層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)少量

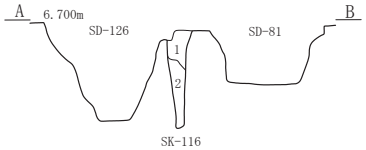
第6層　10YR2/1　黒色土とパミスブロック(φ20～40mm)中量の崩落ブロック

第7層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～9mm)･ブロック(φ10～25mm)少量, 炭化粒(φ2～6mm)少量, 焼土粒(φ2～5mm)極微量, 小礫(φ40mm程度)少量(第4層少量混入)

SK-116



SK-116セクション･SD-81･126エレベーション

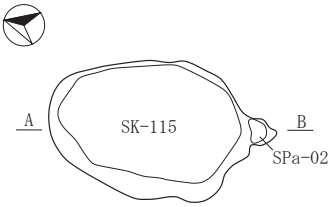


SK-116

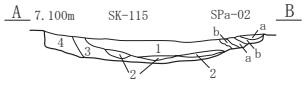
第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～3mm)微量, 炭化物(φ1～2mm)極微量

第2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～3mm)微量, 粘土粒(φ5～10mm)少量

SK-115



SK-115・SPa-02セクション



SK-115

第1層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)少量

第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)微量

第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)･ブロック(φ10～20mm)少量

第4層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量

SPa-02

第a層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)少量

第b層　10YR5/6　黄褐色土

第 98 図　SK ②

ＳＫ－１６５に切られているため、残存値であるが、（３３４）×２３×８０ｃｍを測る。本遺構は溝状土坑である。

ＳＫ－１１７（第９９図）

Ｂ－１拡張区Ｘ 92198.000, Ｙ -11511.000 付近で検出した。ＳＤ－１１１とＳＰ－３０９１と重複しており、いずれの遺構より本遺構が古い。ＳＤ－１１１によって北側部分が切られており、全体形の状況は不明であるが、残存部の規模は（１１３）×１２８×３３ｃｍを測る。堆積土図の第１・２層は重複するＳＰ－３０９１の堆積土の介在部分である。

ＳＫ－１２０（第９９図）

Ｂ－１拡張区Ｘ 92196.000, Ｙ -11513.000 付近で検出した。ＳＤ－１２６と重複しおり、ＳＤ－１２６の調査優先の状況であったため、南側の情報は欠落しているが、明確な新旧関係の判断はされていない。残存部の規模は１５５×１２０×３９ｃｍを測り、平面形は不整方形を呈し、断面形は箱形に近い形状を呈する。東壁側にＰｉｔ１と取り扱ったピットを検出しているが、堆積土で第２・４・５層がピットの堆積土として認定でき、第２層の堆積状況は本遺構より一段高い部分からの掘り込みであることが考えられる。

ＳＫ－１３３（第９９図）

Ｂ－１拡張区Ｘ 92198.000, Ｙ -11516.000 付近で検出した。ＳＤ－８７・１１１，ＳＰ－２７８２と重複しており、ＳＰ－２７８２より古く、ＳＤ－８７・１１１より本遺構が新しいが、ＳＤ－１１１の調査優先のため、南側の情報は欠落している。残存部の規模は（８８）×（１９）×２５ｃｍを測る。平面形は不整方形、断面形は箱形に近い形状であるが、坑底面は凹凸がある形状である。

ＳＫ－１３４（第９９図）

Ｂ－１拡張区Ｘ 92196.000, Ｙ -11514.000 付近で検出した。隣接するＳＫ－１２０同様重複するＳＤ－１２６優先の調査であったため、南側の情報は欠落しており、明確な新旧関係の判断はされていない。残存部の規模は（８３）×８０×２９ｃｍを測り、平面形は不整形、断面形は擂鉢形を呈する。

ＳＫ－１３５（第９９図）

Ｂ－１拡張区Ｘ92198.000, Ｙ-11518.000付近で検出した。規模は８７×７２×２５ｃｍを測り、平面形は隅丸方形状を呈し、断面形は坑中央に２２×（１３）×１３ｃｍの小ピットがあり、柱穴状を呈する。

ＳＫ－１３６（第９９図）

Ｂ－１拡張区Ｘ 92202.000, Ｙ -11518.000 付近で検出した。ＳＤ－８７，ＳＰ－２９６５と重複しており、ＳＤ－８７＜ＳＫ－１３６＜ＳＰ－２９６５の関係である。規模は１３６×９６×１１ｃｍを測り、平面形は不整楕円形を呈し、断面形は浅い凹凸のある形状である。

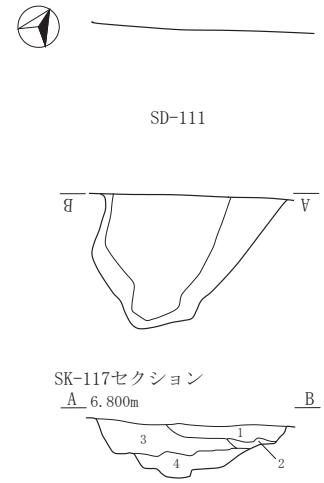
ＳＫ－１５９（第 100 図）

Ｂ－１拡張区Ｘ 92202.000, Ｙ -11507.000 付近で検出した。ＳＤ－１１１，ＳＸ－３３と重複しており、いずれの遺構より本遺構が新しいが、各遺構の調査優先で本遺構の南側約半分の情報が欠落している。残存部の規模は６８×（２８）×３４ｃｍを測り、平面形は不整円形、断面形は円筒形を呈する。ＳＸ－３３の堆積土の崩落土が第３層として堆積している。

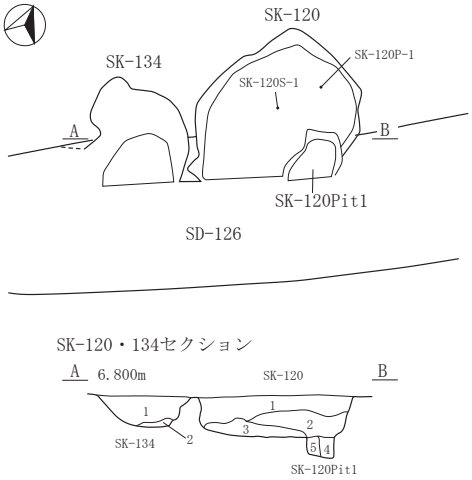
ＳＫ－１６１（第 100 図）

Ｂ－１拡張区Ｘ92197.000, Ｙ-11507.000付近で検出した。ＳＤ－８１，ＳＰ－２７４７と重複しており、新旧関係についてはＳＤ－８１＜ＳＫ－１６１＜ＳＰ－２７４７であるが、ＳＤ－８１調査優先で

SK-117



SK-120・134



SK-117

第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)極微量, ローム粒(φ2～5mm)微量, 炭化粒(φ2mm)極微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(2～8mm)・ブロック(φ10～30mm)少量, 炭化粒(φ2mm)極微量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10～50mm)微量, 炭化粒(φ1～3mm)微量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～9mm)中量・ブロック(φ10～50mm)少量, 炭化粒(φ2～3mm)微量

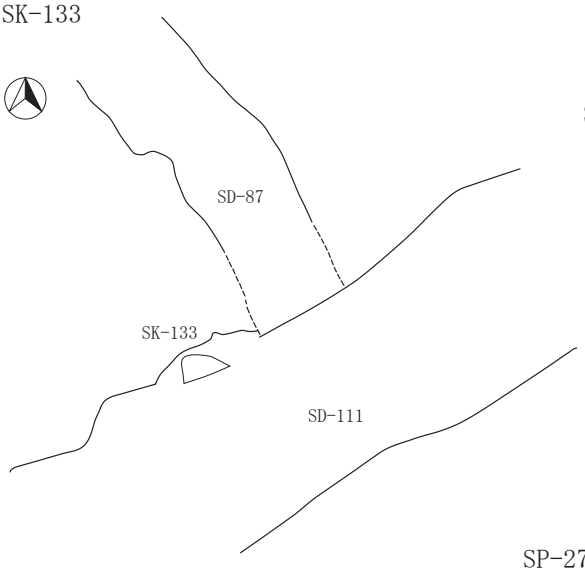
SK-120

第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～10mm)少量・ブロック(φ15～20mm)極微量, 炭化粒(φ1～10mm)極微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～10mm)少量, 炭化粒(φ2～3mm)極微量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ3～5mm)少量, ローム粒(φ1～10mm)微量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～2mm)少量
第5層　10YR2/1　黒色土　ローム粒(φ1～10mm)少量

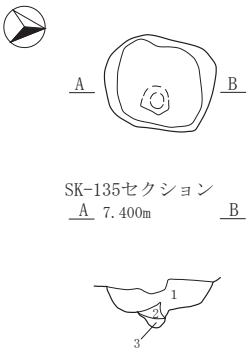
SK-134

第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～10mm)少量, 炭化粒(φ2～3mm)極微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒(φ1～10mm)少量

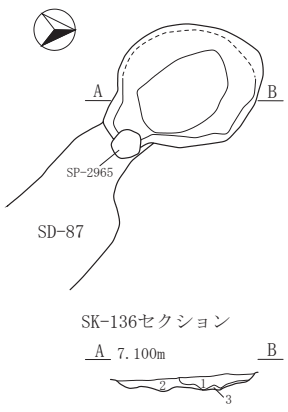
SK-133



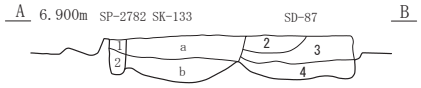
SK-135



SK-136

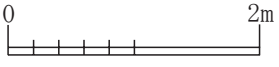


SK-133・SD-87セクション



SP-2782

第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)微量
第2層　10YR4/2　灰黄褐色土　パミス粒(φ3～10mm)微量



SK-133

第a層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～9mm)少量・ブロック(φ10～30mm)微量, 炭化粒(φ1mm)極微量, 粘土粒(φ5mm)極微量
第b層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20～40mm)少量, ローム粒(φ1～9mm)少量

SD-87

第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量・ブロック(φ11～100mm)多量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量・ブロック(φ30mm)微量
第4層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)微量

SK-135

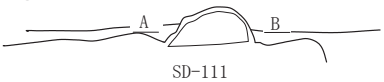
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ2～50mm)多量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～9mm)少量, 炭化粒(φ1～3mm)微量
第3層　10YR4/3にぶい黄褐色土と10YR2/2黒褐色土の混合土

SK-136

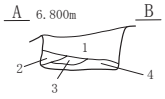
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量, 炭化粒(φ1～5mm)中量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～50mm)多量, 炭化粒中量
第3層　10YR5/8　黄褐色土　黒褐色土(10YR2/2)粒・ブロック(φ5～15mm)少量

第 99 図　SK ③

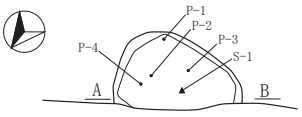
SK-159



SK-159セクション

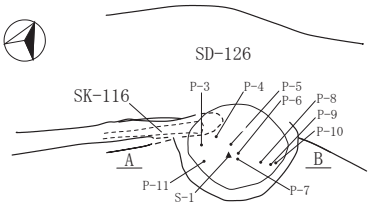


SK-161

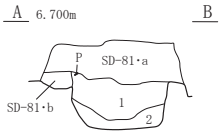


SK-161セクション

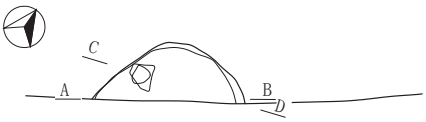
SK-165



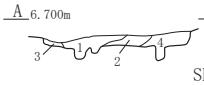
SK-165セクション



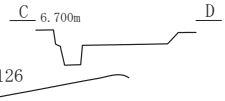
SK-176



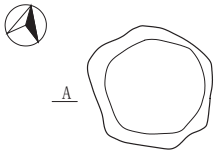
SK-176セクション



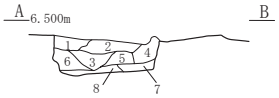
SK-176エレベーション



SK-305



SK-305セクション

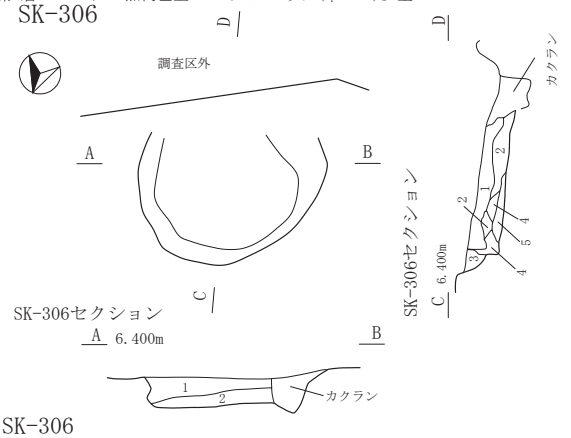


SK-159
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2mm)微量, ローム粒(φ1～10mm)少量, 炭化粒(φ1～2mm)極微量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ3mm)極微量, ローム粒(φ1～9mm)少量 ・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ2mm)極微量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)微量, ローム粒(φ1～10mm)少量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3mm)極微量, ローム粒(φ1～10mm)少量・ブロック(φ30mm)極微量, 炭化粒(φ1～5mm)極微量

SK-161
第1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～10mm)中量, 炭化粒(φ1～5mm)微量, 焼土粒(φ1mm)極微量, 粘土粒(φ5～10mm)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～3mm)中量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)微量

SK-305
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)やや多量
第4層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第5層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1mm)少量
第6層　10YR3/2　黒褐色土　10YR2/1黒色土少量, パミス粒(φ1～8mm)多量
第7層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～8mm)少量
第8層　10YR3/1　黒褐色土　パミスブロック(φ20mm)少量

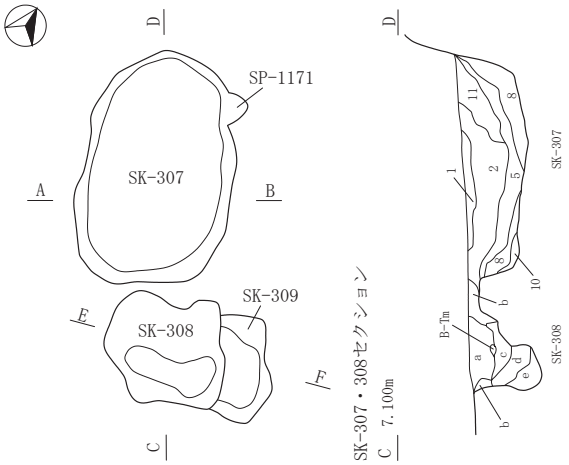
SK-306



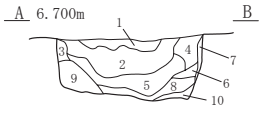
SK-306
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)やや多量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～15mm)やや多量
第3層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)多量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ10～20mm)多量
第5層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)少量

SK-307
第1層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～20mm)少量
第3層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)微量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)少量
第5層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)・ブロック(φ10～50mm)微量
第6層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～3mm)多量
第7層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)少量・ブロック(φ10mm)微量
第8層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10～50mm)微量
第9層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～3mm)多量
第10層　10YR2/3　黒褐色土　明黄褐色土(10YR6/8)パミス粒(φ1～2mm)多量
第11層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1mm)・ブロック(φ10mm)微量

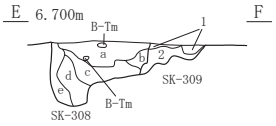
SK-307・308・309



SK-307セクション



SK-308・309セクション



SK-308
第a層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)微量, B-Tm火山灰(φ40～60mm)微量
第b層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)微量
第c層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第d層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)微量
第e層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)多量・ブロック(φ10～20mm)少量

SK-309
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　黄褐色土(10YR5/6)パミス粒(φ1～2mm)多量

第 100 図　SK ④

本遺構の北側約半分の情報が欠落している。残存部の規模は（１０５）×７０×１９ｃｍを測る。

ＳＫ－１６５（第100図）

Ｂ－１拡張区Ｘ92199.000, Y-11506.000付近で検出した。ＳＤ－８１・１２６，ＳＫ－１１６と重複しており、新旧関係はＳＫ－１１６＜ＳＤ－８１＜ＳＫ－１６５＜ＳＤ－１２６である。ＳＤ－１２６との重複部分の北側の一部が欠落しているが、残存部分の規模は（８８）×８３×４７ｃｍを測る。平面形は不整円形、断面形は円筒形を呈する。

ＳＫ－１７６（第100図）

Ｂ－１拡張区Ｘ92198.000, Y-11510.000付近で検出した。ＳＤ－１２６と重複しておりＳＤ－１２６の調査優先のため、南側半分が欠落しており、残存部分の堆積土についてもＳＤ－１２６と同質の堆積土が入っている。また、第１層や第４層で遺構認定がなされていないが、ピットの可能性がある土層堆積の影響も受けていることから明確な新旧関係は不明である。残存部分の規模は（１１５）×（５５）×１７ｃｍを測る。前述のとおり、第１・４層は他のピットと推定される遺構の影響による土層堆積で、第１層の影響部分の西壁寄りの箇所からピット１基を検出している。底面上で確認した規模は２４×２０×１６ｃｍを測る。

ＳＫ－３０１（第101図）

ＳＫ－３０１～３０４・３２４・３２８・３２９については土地区画整理事業調査区と新幹線の調査区にまたがり重複関係のある遺構であることから、双方の調査区の資料を報告することとした。土地区画整理事業調査区Ｂ－１区Ｘ92198.000, Y-11502.000付近で検出した。ＳＰａ－０１，ＳＫ－３０２と重複し、ＳＫ－３０１≒３０２＜ＳＰａ－０１の関係である。規模は１５９×１３５×２４ｃｍを測り、平面形は不整方形を呈し、断面形は壁上部が緩やかに立ち上がる形状を呈する。

ＳＫ－３０２（第101図）

ＳＫ－３０１同様土地区画整理事業調査区Ｂ－１区Ｘ92197.000, Y-11503.000付近で検出した。ＳＫ－３０１・３２８と重複関係にあり、ＳＫ－３０１との関係は前述のとおりで、ＳＫ－３２８との関係は本遺構の方が古い。規模は１２９×１１０×３１ｃｍを測り、平面形は不整円形、断面形は擂鉢形を呈する。第④層中から被熱痕のない人骨の頭骨が、上層から四肢骨の出土があり、土葬墓の可能性がある。

ＳＫ－３０３（第101図）

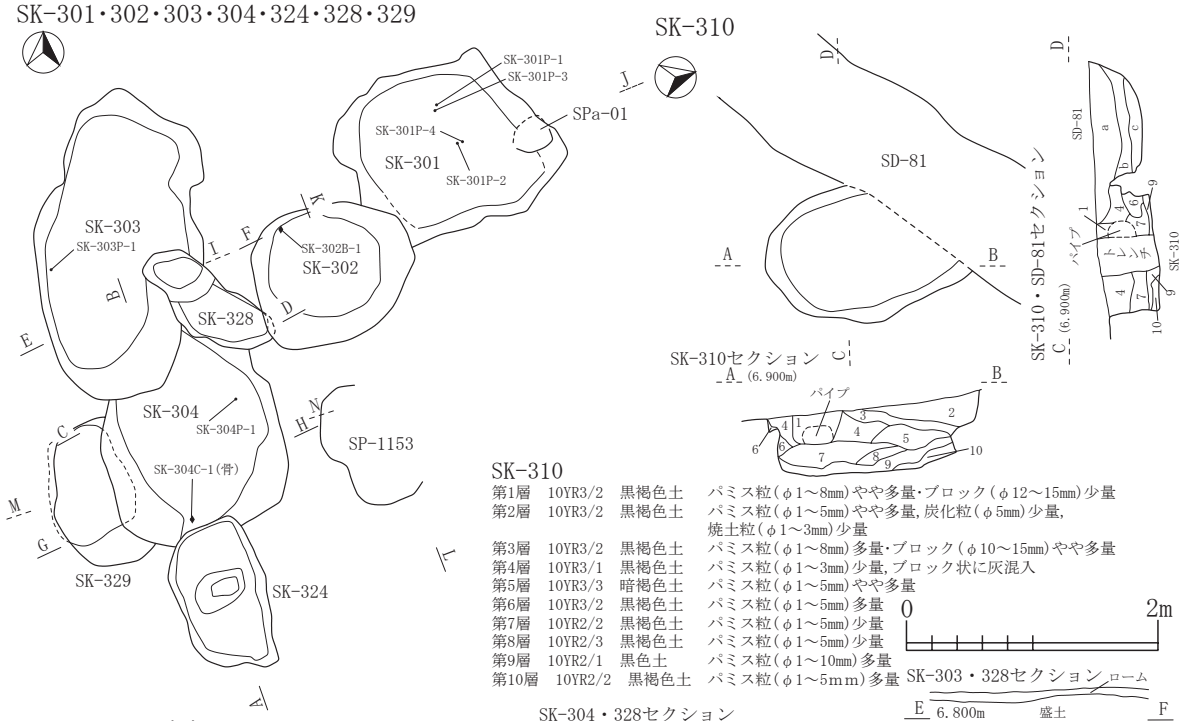
Ｂ－１区Ｘ92197.000, Y-11505.000付近で検出した。ＳＫ－３０４・３２８と重複しており、いずれの遺構よりも本遺構が新しい。規模は２４６×１３４×８１ｃｍを測り、平面形は不整楕円形、断面形は緩やかに立ち上がる形状を呈している。第ｅ・ｆ層は壁の崩落層に相当し、上位の第ｃ～ａ層で埋没が完了している。

ＳＫ－３０４（第101図）

Ｂ－１区Ｘ92195.000, Y-11504.000付近で検出した。ＳＫ－３０３・３２４・３２８・３２９と重複しており、新旧関係はＳＫ－３２８・３２９＜ＳＫ－３０４＜ＳＫ－３０３・３２４の関係である。重複している関係で、欠落している箇所があるが、残存部分の規模は１６４×１４５×７６ｃｍを測り、平面形は不整方形、断面形は一部ＳＫ－３２９側について袋状に入り込むが、直立に近い形で立ち上がる箇所がある。堆積土から人骨(四肢骨）が出土している。

ＳＫ－３０５（第100図）

Ｂ－１区Ｘ92193.000, Y-11505.000付近で検出した。規模は１０６×９５×４４ｃｍを測り、平面形



SK-310
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)やや多量・ブロック(φ12～15mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)やや多量,炭化粒(φ5mm)少量,焼土粒(φ1～3mm)少量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)多量・ブロック(φ10～15mm)やや多量
第4層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量,ブロック状に灰混入
第5層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～5mm)やや多量
第6層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)多量
第7層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第8層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第9層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)多量
第10層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)多量

SK-301
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第2層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量,10YR2/1黒色土粒(φ10mm)やや多く混入
第3層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)やや多量
第4層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)やや多量

SK-302
第①層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第②層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)やや多量,炭化粒(φ1～3mm)微量
第③層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)やや多量
第④層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)多量,焼土粒・炭化粒(φ1～3mm)微量

SPa-01(SK-301と重複)
第①層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～7mm)多量,10YR3/1黒褐色土(φ10mm)少量
第②層　10YR3/1　黒褐色土

SP-1153(SK-302と重複)
第a層　10YR4/2　灰黄褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第b層　10YR4/2　灰黄褐色土　パミスブロック(φ3～50mm)多量

SK-303
第a層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～8mm)少量・ブロック(φ10～15mm)極微量,炭化粒(φ1～5mm)極微量
第b層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm微量,パミスブロック(φ12mm)極微量,炭化粒(φ1～2mm)極微量,焼土粒(φ1～2mm)極微量
第c層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～8mm)少量,ロームブロック(φ15mm)極微量,炭化粒(φ1～2mm)微量
第d層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量,パミスブロック(φ20～40mm)極微量,炭化粒(φ1～2mm)極微量
第e層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)多量・ブロック(φ40mm)極微量,ローム粒(φ1～2mm)極微量,炭化粒(φ1～3mm)極微量
第f層　10YR3/3　暗褐色土　黄褐色(10YR5/6)パミス粒(φ1～5mm)多量
第g層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量,ローム粒(φ1～3mm)微量,炭化粒(φ1～2mm)極微量
第h層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)微量,明黄褐色(10YR6/6)ロームと黒色土(10YR2/1)が縞状に混入

SK-304
第①層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)極微量,炭化粒(φ1～2mm)少量
第②層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)微量,炭化粒(φ1～2mm)微量
第③層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)少量・ブロック(φ10～60mm)微量,炭化粒(φ1～3mm)極微量
第④層　10YR5/6黄褐色パミスと10YR2/1黒色土が縞状に混入,パミス粒(φ1～8mm)少量・ブロック(φ10～20mm)微量,炭化粒(φ1～3mm)極微量,鉄極微量
第⑤層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)少量・ブロック(φ10～40mm)少量,炭化粒(φ1～2mm)極微量
第⑥層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)微量・ブロック(φ40～50mm)多量,ローム粒(φ1～3mm)微量・ブロック(φ30mm)極微量,炭化粒(φ1～2mm)極微量
第⑦層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量,炭化粒(φ1～2mm)極微量

SK-324
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)微量・ブロック(φ10～20mm)極微量,炭化粒(φ1～2mm)極微量,焼土粒(φ1～2mm)極微量

SK-328
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)中量・ブロック(φ40mm)極微量,炭化粒(φ1～2mm)極微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量,炭化粒(φ1～2mm)極微量
第3層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～8mm)中量,炭化粒(φ1～2mm)極微量
第4層　10YR6/6　明黄褐色パミス
第5層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)微量・ブロック(φ10～15mm)少量,黒色土(10YR2/1)粒・ブロック(φ3～40mm)少量
第6層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)微量,黄褐色土(10YR5/6)中量
第7層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～8mm)微量,炭化粒(φ1～2mm)極微量,焼土粒(φ1～2mm)極微量
第8層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～3mm)微量・ブロック(φ40mm)極微量
第9層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)極微量

SK-329
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量,炭化物粒(φ1mm)極微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)少量,炭化物粒(φ1～2mm)微量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)少量,パミスブロック(φ10～15・20・40mm)微量,炭化物粒(φ1～2mm)極微量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　10YR4/6褐色土少量,パミス粒(φ1～8mm)多量,ローム粒(φ1～3mm)微量,L.B.(φ15mm)極微量,炭化物粒(φ1～2mm)極微量
第5層　10YR5/8　黄褐色土(パミス)　10YR2/2黒褐色土少量

第101図　SK⑤

は不整円形を呈し、断面形は円筒形を呈する。

ＳＫ－３０６（第100図）

Ｂ－１区Ｘ92192.000, Y-11505.000付近で検出した。南側の部分が現代の用水により破壊されており、情報が欠落しているが、残存部分の規模は１４９×（１０３）×２０ｃｍを測り、平面形は不整円形、断面形は一部浅いフラスコ状を呈する。

ＳＫ－３０７（第100図）

Ｂ－１区Ｘ92194.000, Y-11509.000付近で検出した。ＳＫ－３０８・ＳＰ－１１７１と重複しており、ＳＰ－１１７１＜ＳＫ－３０７＜ＳＫ－３０８の関係である。規模は１８４×１１８×６２ｃｍを測り、平面形は不整楕円形、断面形は鍋底形を呈する。崩落等も含めた緩やかな堆積状況を呈する。

ＳＫ－３０８（第100図）

Ｂ－１区Ｘ92193.000, Y-11508.000付近で検出した。ＳＫ－３０７・３０９と重複しており、本遺構がいずれの遺構よりも新しい。規模は９７×８６×６０ｃｍを測り、平面形は不整長方形、断面形は段状を呈する。堆積土最上層に堆積する第ａ層からＢ－Ｔｍ火山灰を粒状に検出した。

ＳＫ－３０９（第100図）

Ｂ－１区Ｘ92193.000, Y-11508.000付近で検出した。ＳＫ－３０８と重複しており、新旧関係は前述のとおりで、西側の部分がＳＫ－３０８に切られている。残存部分の規模は８５×（３９）×２３ｃｍを測り、平面形は不整方形、断面形は凹凸のある形状を呈する。

ＳＫ－３１０（第101図）

Ｂ－１区Ｘ92194.000, Y-11511.000付近で検出した。ＳＤ－８１と重複しており、本遺構の方が古い。一部現代の排水パイプによって破壊されており、また北側の部分がＳＤ－８１によって切られており、残存部分の規模は１７０×１０９×５３ｃｍを測り、平面形は小判形、断面形は鍋底形を呈する。

ＳＫ－３１１（第102図）

Ｂ－１区Ｘ92192.000, Y-11513.000付近で検出した。規模は１１２×８３×１５ｃｍ、平面形は不整楕円形、断面形は壁の一部が緩やかに立ち上がる鍋底形を呈する。北側の上面の一部がＳＤ－８１の堆積土が堆積しており、本遺構よりＳＤ－８１の方が新しい関係である。

ＳＫ－３１２（第102図）

Ｂ－１区Ｘ92191.000, Y-11514.000付近で検出した。規模は１６３×１３１×６５ｃｍを測る。平面形は楕円形、断面形は南壁側が浅いテラス状、北側が袋状を呈する。土層堆積で確認した限りには南側のテラス部分は第３層以下の堆積土によって袋状の部分が埋没した後、再掘削によって形成されたものであると認定できる。

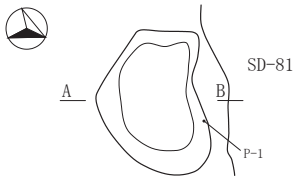
ＳＫ－３１３（第102図）

Ｂ－１区Ｘ92189.000, Y-11516.000付近で検出した。南側は現代の用水側の斜面によって情報が、欠落しており、北側はＳＤ－８６と重複し、ＳＤ－８６によって切られているため、残存部の情報であるが、規模は（２６１）×１４８×６６ｃｍを測る。底面から径１０～１５ｃｍ前後の小ピットを９基検出している。第２層中から焼土を検出しているが、底面等から焼成の要素は確認されなかった。

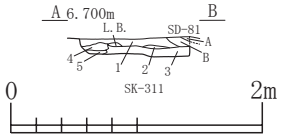
ＳＫ－３２０（第102図）

Ｂ－１拡張区Ｘ92194.000, Y-11514.000付近で検出した。ＳＤ－８１と重複しており、本遺構の方が古い。南壁側はＳＤ－８１によって切られているため、残存部の規模は１８５×（９７）×３４ｃｍを測

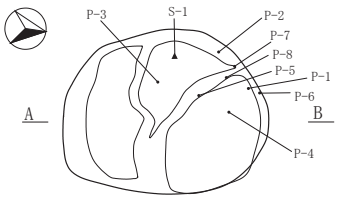
SK-311



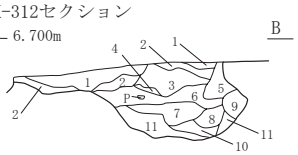
SK-311・SD-81セクション



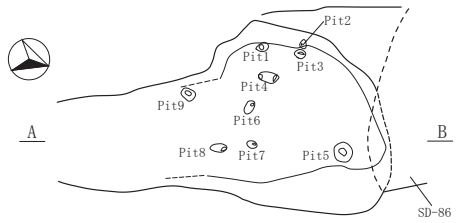
SK-312



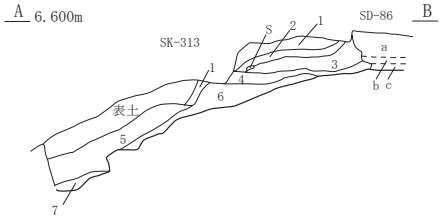
SK-312セクション



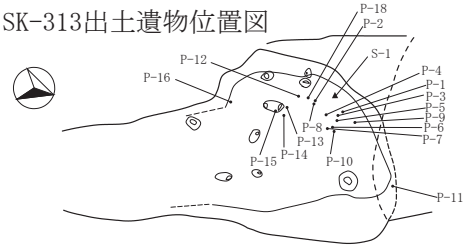
SK-313



SK-313・SD-86セクション



SK-313出土遺物位置図



SK-311

第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5mm)微量,ロームブロック(φ30mm)微量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5mm)微量
第4層　10YR5/6　黄褐色土　パミスブロック層
第5層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量

SD-81(SK-311と重複)

第A層　10YR2/3　黒褐色土　礫(φ20mm)微量
第B層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,パミスブロック(φ10～50mm)多量

SD-81(SK-310と重複:第101図)

第a層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)やや多量,ローム粒(φ5mm)少量
炭化粒(φ1～5mm)少量,焼土粒(φ1～3mm)少量
第b層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)やや多量,下部に炭化粒薄い層状に存在
第c層　10YR4/2　灰黄褐色土　パミス粒(φ2～3mm)少量,ブロック(φ1～2mm)やや多量

SK-312

第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5mm)少量,炭化物(φ5mm)少量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)少量・ブロック(φ15～20mm)
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒・ブロック(φ1～15mm)中量
第4層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1mm)中量・ブロック(φ15mm)少量
第5層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5mm)少量
第6層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量・ブロック(φ15mm)微量
第7層　10YR1.7/1黒色土　パミスブロック(φ20mm)中量
第8層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)・ブロック(φ30～40mm)少量
第9層　10YR2/2　黒褐色土
第10層　10YR2/1　黒色土　ロームブロック(φ30mm)微量
第11層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)少量・ブロック(φ10～20mm)中量
ロームブロック(φ30mm)極微量

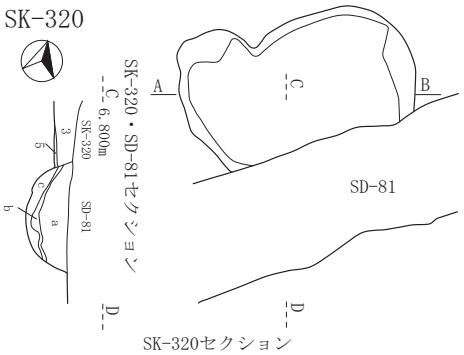
SK-313

表土　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20mm)微量
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)中量
第2層　7.5YR2/3　黒褐色土　焼土粒(φ5～10mm)少量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)少量,ローム粒(φ5～10mm)少量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)中量,ロームブロック(φ15mm)少量
第5層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)微量
第6層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,ブロック(φ10～40mm)多量
第7層　10YR2/3　黒褐色土

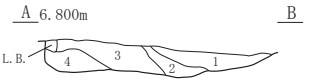
SD-86(SK-313と重複)

第a層　7.5YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)・ブロック(φ10～30mm)中量
第b層　10YR5/6　黄褐色土
第c層　10YR3/4　暗褐色土　パミスブロック(φ20mm)少量

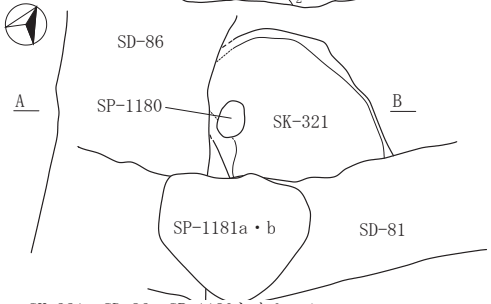
SK-320



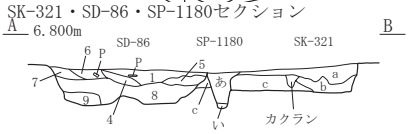
SK-320セクション



SK-321



SK-321・SD-86・SP-1180セクション



SK-320

第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量,ブロック(φ10mm)微量
第2層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～30mm)多量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)・ブロック(φ10mm)少量,明赤褐色(5YR5/8)焼土粒(φ1～5mm)
第4層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第5層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量

SK-321(SD-86と重複)

第a層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)やや多量,炭化粒(φ1～3mm)少量
焼土粒(φ1～3mm)少量
第b層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第c層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)やや多量

SD-86(SK-321と重複)

第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)やや多量,炭化物(φ1～3mm)少量
焼土粒(φ1～3mm)少量
第2層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～6mm)多量
第3層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第4層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　焼土粒(φ2～8mm)やや多量
第5層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第6層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)多量
第7層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～8mm)やや多量,炭化粒(φ1～3mm)少量
焼土粒(φ1～3mm)少量
第8層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)やや多量
第9層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)・ブロック(φ12～15mm)少量

第 102 図　SK ⑥

り、平面形は不整楕円形、断面形は壁の一部で緩やかに立ち上がる形状である。

ＳＫ－３２１（第102図）

Ｂ－１区X92192.000, Y-11516.000付近で検出した。ＳＤ－８１・８６，ＳＰ－１１８０・１１８１と重複しており、いずれの遺構より本遺構の方が古い。残存部の規模は（１２６）×（１２２）×２５ｃｍを測り、平面形は（楕円形）、断面形は箱形に近い形状を呈する。

３．焼成遺構

ＳＮ－５０（第 103 図）

Ｂ－１拡張区X 92222.000, Y -11507.000 付近のＳＩ－０５の遺構内から検出した。ＳＩ－０５Ｐｉｔ４４とした柱穴の上面での焼成で、第９３・９４図に図示したＳＩ－０５内での焼土や炭化物等の検出状況は本遺構の焼土の面と連続した取扱いとなる。そのため、厳密には本遺構そのものはＳＩ－０５の埋没時点に一部落ち込みを形成し焼成が行われたものと判断される。落ち込み部分の規模は１１５×１０２×１０ｃｍを測る。

４．性格不明遺構

ＳＸ－３３（第 103 図）

Ｂ－１拡張区X 92201.000, Y -11508.000 付近で検出した。ＳＤ－９９・１１１，ＳＫ－１５９，ＳＰ－２７３０・２７９２・３０６２・３０６６と重複しており、ＳＤ－９９・１１１＜ＳＸ－３３＜ＳＫ－１５９，ＳＰ－２７３０・２７９２・３０６２・３０６６の関係である。ＳＤ－１１１調査優先のため、中央部分の情報が欠落している。残存部の規模は（４２９）×１４９×５０ｃｍを測る。断面図のみの記録であるが、底面相当位置に径２０ｃｍ程度の小ピットが３箇所確認されている。

ＳＸ－３８（第 103 図）

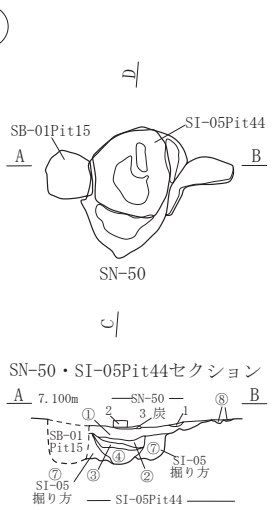
Ｂ－１拡張区X 92225.000, Y -11510.000 付近で検出した。ＳＤ－８５，ＳＢ－０１Ｐｉｔ３０，ＳＰ－２８１７～２８１９と重複しており、本遺構が最も古い。北側は調査区外に延び、東～南壁が欠落しているため、詳細な情報は不明であるが、竪穴状の遺構であった可能性が考えられる。

５．ピット

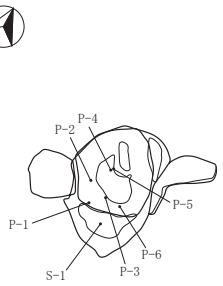
本調査区からピットとして調査時に３８３基、整理時に追加確認２基の合計３８５基確認されている。その他、調査時に掘立柱建物跡の柱穴として４５基確認したが、組み合わせ等について屋外作業の時点での検討が不十分で、屋内作業に入った時点で、八戸市教育委員会佐々木浩一氏のご教示により掘立柱建物跡の再構成を行った。再構成を実施した掘立柱建物跡についてはＳＢの略号の後にａを加えＳＢａ－番号として取扱うこととした。なお、確認された掘立柱建物跡は整理途中の土地区画整理事業の調査区内の柱穴と関連する遺構がほとんどであることから、全体の規模については土地区画整理事業調査区の報告時に再報告する予定である。

今回の報告に際しては、本項のピットの部分では、調査時の掘立柱建物跡の柱穴として取り扱った資料も含めたピットの情報について一覧表形式で報告することとし、再構成された掘立柱建物跡については、次項で記載することとした。

SN-50



SN-50出土遺物位置図



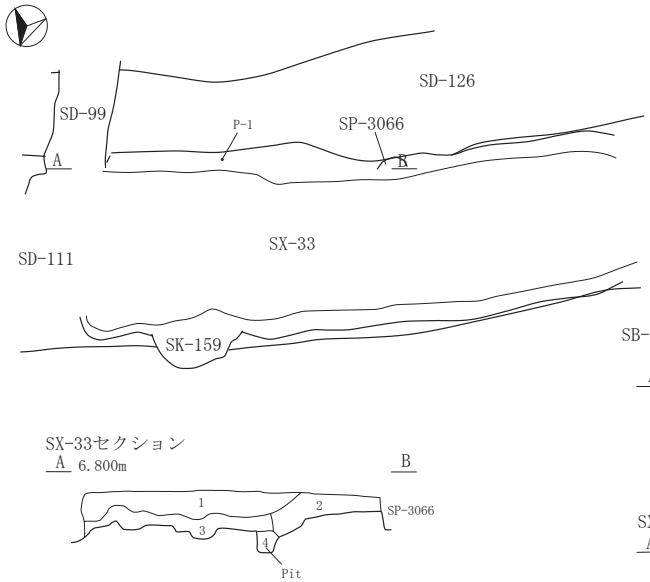
SN-50

第1層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ3～5mm)微量,焼土ブロック(φ30～40mm)微量
第2層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ3～5mm)少量・ブロック(φ20～30mm)微量,炭化粒(φ3～5mm)少量,焼土粒(φ3～5mm)少量
第3層	10YR1.7/1	黒色炭化物	焼土粒(φ5～10mm)少量,灰まじり
第4層	10YR3/3	暗褐色土	焼土ブロック(φ30mm)極微量,灰まじり
第5層	7.5YR2/2	黒褐色土	焼土粒(φ3～5mm)少量,炭化物5mmの厚みで下層に堆積
第6層	10YR5/2	灰黄褐色灰	骨片(φ1～3mm)少量含
第7層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ3～5mm)微量
第8層	2.5YR5/8	明赤褐色焼土	
第9層	10YR2/2	黒褐色土	パミスブロック(φ20～30mm)微量

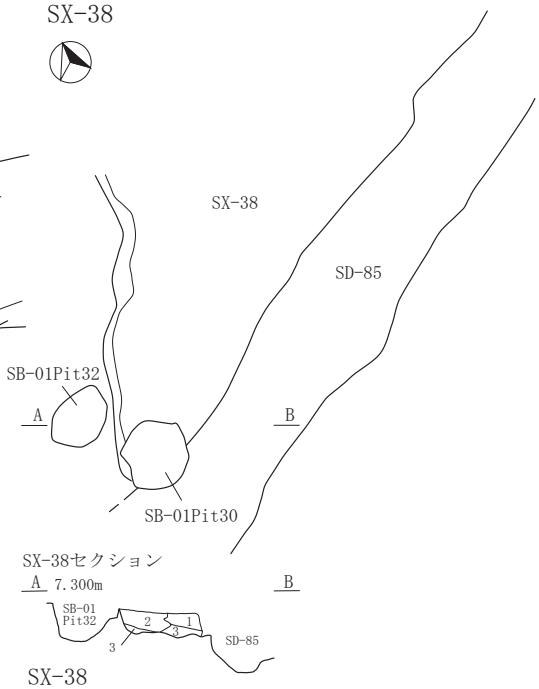
SN-50灰・粘土・焼土範囲 1面目

SN-50焼土範囲 2面目

SX-33



SX-38



SX-33

第1層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ5～10mm)微量,ローム粒(φ1～5mm)少量
第2層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ3～5mm)微量,ローム粒(φ1～10mm)少量・ブロック(φ15～30mm),炭化粒(φ2～5mm)極微量
第3層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ1～10mm)中量・ブロック(φ20～30mm)極微量,粘土粒(φ5～10mm)少量
第4層	10YR3/2	黒褐色土	ローム粒(φ1～3mm)少量,粘土粒(φ5mm)微量

SX-38

第1層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～3mm)少量,炭化粒(φ3～5mm)微量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第2層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1～9mm)多量・ブロック(φ10～30mm)少量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第3層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒・ブロック(φ5～20mm)多量

第 103 図　SN・SX

第 22 表　ピット(SP)観察表 1

図版番号	遺構番号	分割図	位置		重　複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	特記事項
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
110・116	SP-1152	F	92195	-11507	SP-1167	SP-1152 ＞ SP-1167	66	34	21	e	i	
110・116	SP-1161	F	92195	-11505	SK-329	SP-1161 ＞ SK-329	19	17	10	e	h	
110・116	SP-1162	F	92194	-11505	SK-329	SP-1162 ＞ SK-329	39	28	25	e	i	
110・116	SP-1163	F	92194	-11505			29	22	8	e	h	
110・116	SP-1164	F	92195	-11508			25	19	13	e	h	
110・116	SP-1165	F	92195	-11506	SP-1166	SP-1165 ＜ SP-1166	30	29	25	e	i	
110・116	SP-1166	F	92195	-11506	SP-1165	SP-1166 ＞ SP-1165	49	37	18	e	i	
110・116	SP-1167	F	92194	-11506	SP-1152・2718	SP-1152 ＞ SP-1167 ＞ SP-2718	81	43	10	e	i	
110・116	SP-1168	F	92195	-11507			24	20	18	c	j	
110・116	SP-1169	F	92195	-11507			25	20	19	c	h	
110・116	SP-1170	F	92195	-11508			39	30	22	e	h	
110・116	SP-1171	F	92195	-11509	SK-307	SP-1171 ＜ SK-307	24	(17)	30	x	j	
110・116	SP-1172	F	92195	-11510			23	18	2	e	a	
110・116	SP-1173	F	92193	-11510			27	22	11	e	e	
110・116	SP-1174	F	92192	-11508			43	36	37	e	j	
109・115	SP-1175	E	92193	-11512			31	28	12	e	h	第 1 層より B-Tm 火山灰検出
110・116	SP-1176	F	92193	-11511			33	26	10	f	d	
110・116	SP-1177	F	92192	-11510			28	26	14	e	e	
109・115	SP-1178	E	92192	-11513	SP-1179	SP-1178 ? SP-1179	33	18	13	e	g	
109・115	SP-1179	E	92192	-11513	SP-1178	SP-1179 ? SP-1178	27	23	17	e	h	
109・115	SP-1180	E	92192	-11516	SK-321	SP-1180 ＞ SK-321	30	21	36	f	g	
109・115	SP-1181a	E	92191	-11516	SD-81・86，SP-1181b	SP-1181a ＞ SD-81・86，SP-1181a ＞ SP-1181b	100	(60)	54	e	j	
109・115	SP-1181b	E	92191	-11516	SD-81，SP-1181a	SP-1181a ＞ SP-1181b ＞ SD-81	120	100	92	e	j	
109・115	SP-1183	E	92190	-11517	SD-81・93	SP-1183 ＞ SD-81・93	43	23	12	e	(h)	
109・115	SP-1184	E	92190	-11517	SD-93	SP-1184 ＞ SD-93	42	(33)	22	e	h	
109・115	SP-1185	E	92189	-11517	SD-93	SP-1185 ＞ SD-93	28	26	22	e	j	
110・116	SP-2717	F	92194	-11505			28	27	18	h	c	
110・116	SP-2718	F	92194	-11506	SP-1167	SP-2718 ＜ SP-1167	16	15	8	e	h	
110・116	SP-2719	F	92194	-11508			22	17	10	e	h	
110・116	SP-2739	F	92196	-11507			22	22	16	h	h	
107・113	SP-2720	C	92200	-11512			31	22	31	e	d	
110・116	SP-2721	F	92197	-11509	SD-81	SP-2721 ＞ SD-81	22	20	17	c	d	
106・112	SP-2722	B	92221	-11506			22	15	10	e	g	
106・112	SP-2723	B	92218	-11509			32	28	37	e	h	
110・116	SP-2726	F	92198	-11506	SP-2727・2729	SP-2726 ＞ SP-2727・2729	28	(14)	14	(e)	h	
110・116	SP-2727	F	921980	-11506	SP-2726・2728	SP-2726 ＞ SP-2727 ＞ SP-2728	26	24	19	e	(h)	
110・116	SP-2728	F	92198	-11506	SP-2727	SP-2728 ＜ SP-2727	18	(20)	14	e	(h)	
110・116	SP-2729	F	92198	-11505	SP-2726	SP-2729 ＜ SP-2726	22	16	15	e	(g)	
108・114	SP-2730	D	92201	-11508	SX-33，SD-111	SP-2730 ＞ SX-33 ＞ SD-111	17	11	35	e	g	
107・113	SP-2731	C	92201	-11511			22	20	24	e	h	
107・113	SP-2732	C	92201	-11511			18	14	15	e	j	
107・113	SP-2733	C	92201	-11511			23	20	25	e	h	
107・113	SP-2734	C	92200	-11512	SP-2735，SD-111	SP-2735 ＞ SP-2734 ＞ SD-111	(34)	(24)	50	(e)	g	
107・113	SP-2735	C	92200	-11511	SP-2734・2736，SD-111	SP-2736 ＞ SP-2735 ＞ SP-2734，SD-111	(25)	18	18	(e)	(l)	
107・113	SP-2736	C	92200	-11511	SP-2735，SD-111	SP-2736 ＞ SP-2735，SD-111	(28)	(20)	5	x	h	

第 23 表　ピット (SP) 観察表 2

図版番号	遺構番号	分割図	位置		重複	新旧関係	規模 (cm)			平面形	断面形	特記事項
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
107・113	SP-2737	C	92201	-11511	SD-111	SP-2737 ＞ SD-111	32	(26)	20	(e)	i	
110・116	SP-2738	F	92199	-11511			32	24	34	e	c	
110・116	SP-2742	F	92196	-11510	SP-3071	SP-2742 ＜ SP-3071	25	(15)	34	e	g	
110・116	SP-2744	F	92199	-11508	SD-126	SP-2744 ＞ SD-126	28	18	27	(f)	(d)	
108・114	SP-2746	D	92200	-11508			18	16	13	e	h	
110・116	SP-2747	F	92197	-11507	SK-161	SP-2747 ＞ SK-161	26	21	18	e	h	
110・116	SP-2748	F	92197	-11508			26	22	13	e	g	
110・116	SP-2749	F	92198	-11506			14	10	15	e	h	
110・116	SP-2750	F	92197	-11507			40	36	26	e	h	
110・116	SP-2751	F	92197	-11506			19	18	19	e	h	
108・114	SP-2756	D	92201	-11506	SD-99	SP-2756 ＜ SD-99	23	20	24	e	h	
108・114	SP-2757	D	92200	-11506			22	17	19	e	h	
110・116	SP-2758	F	92198	-11510			27	23	18	f	h	
105・111	SP-2760	A	92216	-11516			47	29	13	e	i	
105・111	SP-2761	A	92215	-11515			25	21	17	e	h	
105・111	SP-2762	A	92217	-11517			20	18	24	e	h	
106・112	SP-2763	B	92223	-11510	SI-05，SD-85	SP-2763 ＞ SD-85，SI-05	57	(29)	24	(e)	j	
106・112	SP-2764	B	92224	-11509	SI-05，SD-85	SP-2764 ＞ SD-85，SI-05	24	18	13	e	h	
106・112	SP-2765	B	92225	-11506	SI-05Pit35	SP-2765 ＞ SI-05Pit35	49	45	7	e	i	
105・111	SP-2766	A	92213	-11513			32	19	24	e	i	
105・111	SP-2770	A	92218	-11512	SB-01Pit18	SP-2770 ＜ SB-01Pit18	55	(14)	20	(e)	h	
105・111	SP-2771	A	92219	-11517	SD-84，SP-2773	SP-2771 ＞ SD-84，SP-2773	35	(16)	20	(e)	g	
105・111	SP-2773	A	92218	-11518	SD-84，SP-2771	SP-2771 ＞ SP-2773 ＞ SD-84	(58)	(28)	31	x	h	
109・115	SP-2774	E	92196	-11516	SD-111	SP-2774 ＞ SD-111	29	(25)	26	(e)	h	
109・115	SP-2775	E	92195	-11517	SD-111	SP-2775 ＞ SD-111	31	(20)	24	(e)	h	SBa-05
105・111	SP-2776	A	92221	-11514	SD-85	SP-2776 ＞ SD-85	29	(27)	65	e	(j)	
105・111	SP-2777	A	92225	-11514	SD-84	SP-2777 ＞ SD-84	24	19	15	e	h	
105・111	SP-2778	A	92224	-11514	SD-84	SP-2778 ＞ SD-84	31	26	25	e	h	SBa-01
105・111	SP-2780	A	92224	-11515	SD-84	SP-2780 ＞ SD-84	43	31	50	e	h	SBa-01
105・111	SP-2781	A	92224	-11515	SD-84	SP-2781 ＞ SD-84	14	9	37	e	j	
109・115	SP-2782	E	92198	-11516	SK-133，SD-111	SP-2782 ＞ SD-111，SK-133	17	14	18	e	(h)	
105・111	SP-2783	A	92222	-11513	SD-85	SP-2783 ＞ SD-85	15	13	5	e	h	
109・115	SP-2784	E	92196	-11516	SD-111	SP-2784 ＞ SD-111	33	26	30	e	g	
108・114	SP-2792	D	92202	-11508	SD-111，SX-33	SP-2792 ＞ SX-33 ＞ SD-111	28	22	41	e	e	
107・113	SP-2793	C	92220	-11512	SD-111	SP-2793 ＞ SD-111	50	29	19	e	i	
109・115	SP-2794	E	92197	-11514			29	27	14	e	i	
110・116	SP-2795	F	92197	-11510	SD-126	SP-2795 ＞ SD-126	16	11	38	e	g	
109・115	SP-2797	E	92197	-11518			48	(25)	9	x	i	SBa-05
109・115	SP-2798	E	92194	-11517			36	24	39	e	h	
105・111	SP-2799	A	92217	-11514			36	24	25	e	h	
109・115	SP-2800	E	92198	-11516	SD-87，SB-02Pit7	SP-2800 ＞ SD-87，SP-2800 ？ SB-02Pit7	33	(28)	16	(e)	h	
105・111	SP-2801	A	92225	-11517			29	24	15	e	g	
105・111	SP-2802	A	92225	-11517			26	19	14	e	h	
105・111	SP-2803	A	92225	-11516			25	21	11	e	h	
105・111	SP-2804	A	92225	-11516			18	14	10	e	g	

第 24 表　ピット (SP) 観察表 3

図版番号	遺構番号	分割図	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	特記事項
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
105・111	SP-2805	A	92224	-11517			27	25	21	e	h	
105・111	SP-2806	A	92224	-11517			25	22	10	e	(e)	
105・111	SP-2807	A	92226	-11516			21	16	9	e	d	
105・111	SP-2808	A	92223	-11517	SK-112	SP-2808 ＞ SK-112	43	33	35	e	h	
105・111	SP-2809	A	92223	-11519			32	21	13	e	h	
105・111	SP-2810	A	92222	-11517			64	34	56	e	c	SBa-01
105・111	SP-2811	A	92221	-11518	SK-113	SP-2811 ＞ SK-113	19	18	15	h	i	
105・111	SP-2812	A	92223	-11516	SD-84	SP-2812 ＞ SD-84	21	20	27	e	h	
105・111	SP-2813a	A	92218	-11513	SD-85	SP-2813a ＞ SD-85	71	56	26	e	i	
105・111	SP-2813b	A	92219	-11513	SD-85	SP-2813b ＞ SD-85	29	26	19	e	h	
105・111	SP-2813c	A	92218	-11513	SD-85	SP-2813c ＞ SD-85	(22)	(19)	18	(e)	e	
105・111	SP-2813d	A	92218	-11513	SD-85	SP-2813d ＞ SD-85	(18)	(14)	16	(e)	h	
105・111	SP-2813e	A	92218	-11513	SD-85	SP-2813e ＞ SD-85	(28)	(15)	19	(e)	g	
105・111	SP-2813f	A	92219	-11513	SD-85	SP-2813f ＞ SD-85	31	19	22	e	(l)	
105・111	SP-2813g	A	92218	-11514	SD-85	SP-2813g ＞ SD-85	17	(12)	12	e	g	
105・111	SP-2813h	A	92218	-11514	SD-85	SP-2813h ＞ SD-85	23	14	15	e	h	
105・111	SP-2814	A	92225	-11515	SD-84，SP-2973	SP-2814 ＞ SD-84，SP-2973	36	31	54	e	h	
105・111	SP-2815	A	92225	-11512			31	30	15	e	i	
105・111	SP-2816	A	92225	-11512			46	36	52	e	j	
106・112	SP-2817	B	92225	-11511	SX-38	SP-2817 ＞ SX-38	35	33	28	e	h	
106・112	SP-2818	B	92225	-11510	SX-38	SP-2818 ＞ SX-38	48	47	25	e	h	SBa-02
106・112	SP-2819	B	92226	-11509	SX-38	SP-2819 ＞ SX-38	46	32	34	e	g	
105・111	SP-2820	A	92224	-11513	SD-84	SP-2820 ＞ SD-84	50	50	29	e	i	
105・111	SP-2821	A	92222	-11511			32	30	63	e	h	
105・111	SP-2822	A	92222	-11512	SD-85	SP-2822 ＞ SD-85	40	22	29	e	g	
105・111	SP-2823	A	92222	-11512	SP-2824	SP-2823 ＞ SP-2824	33	27	20	e	h	
105・111	SP-2824	A	92222	-11511	SP-2823	SP-2824 ＜ SP-2823	(33)	31	14	e	(l)	
105・111	SP-2825	A	92221	-11512			43	30	43	e	i	
106・112	SP-2826	B	92222	-11511			33	29	20	e	h	
105・111	SP-2827	A	92221	-11511			28	24	27	e	h	
105・111	SP-2828	A	92220	-11511	SP-2829	SP-2828 ＞ SP-2829	35	(24)	24	e	h	
105・111	SP-2829	A	92220	-11511	SP-2828	SP-2829 ＞ SP-2828	36	28	42	e	(h)	
106・112	SP-2830	B	92220	-11511			29	29	15	h	h	
105・111	SP-2831	A	92224	-11515	SD-84	SP-2831 ＞ SD-84	34	22	7	e	h	
105・111	SP-2832	A	92223	-11515	SD-84	SP-2832 ＞ SD-84	22	21	34	e	h	
105・111	SP-2833	A	92223	-11515	SD-84	SP-2833 ＞ SD-84	26	21	16	e	h	
105・111	SP-2835	A	92222	-11515	SD-84	SP-2835 ＞ SD-84	31	23	3	e	h	
105・111	SP-2836	A	92220	-11515			24	22	31	e	h	
105・111	SP-2839	A	92219	-11515	SP-2953・2978	SP-2839 ＞ SP-2953・2978	32	29	34	e	h	
105・111	SP-2840	A	92220	-11516			32	29	22	e	g	
105・111	SP-2841	A	92217	-11515			79	77	47	e	i	
105・111	SP-2842	A	92214	-11517	SI-07	SP-2842 ? SI-07	70	53	80	e	h	上面に炭化物あり
105・111	SP-2843	A	92213	-11518	SI-07	SP-2843 ? SI-07	25	24	22	e	h	
105・111	SP-2844	A	92214	-11516	SP-2845，SI-07	SP-2844 ＞ SP-2845，SP-2844 ? SI-07	48	39	20	e	i	
105・111	SP-2845	A	92214	-11515	SP-2844，SI-07	SP-2845 ＜ SP-2844，SP-2845 ? SI-07	55	38	15	e	i	

第 25 表　ピット (SP) 観察表 4

図版番号	遺構番号	分割図	位置		重複	新旧関係	規模 (cm)			平面形	断面形	特記事項
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
107・113	SP-2846	C	92212	-11515	SP-2991，SI-07	SP-2846 ＞ SP-2991，SP-2846 ？ SI-07	47	35	36	e	h	
107・113	SP-2847	C	92210	-11516			47	30	13	e	i	SBa-03
107・113	SP-2848	C	92209	-11517			20	19	11	h	h	
107・113	SP-2849	C	92210	-11514			40	32	32	e	g	
107・113	SP-2850	C	92209	-11514			50	39	18	e	h	SBa-03
107・113	SP-2851	C	92210	-11514			55	41	33	e	h	
107・113	SP-2852	C	92209	-11515			16	15	13	e	h	
107・113	SP-2853	C	92208	-11517			28	23	13	e	h	SBa-04
107・113	SP-2855	C	92206	-11518			28	25	10	e	(h)	
107・113	SP-2856	C	92204	-11517			29	17	13	e	h	
107・113	SP-2857	C	92204	-11518			41	33	46	e	j	SBa-04
107・113	SP-2858	C	92203	-11516	SI-07	SP-2958 ＞ SI-07	48	45	23	e	h	
107・113	SP-2859	C	92204	-11515			25	23	11	e	h	
107・113	SP-2860	C	92204	-11515			52	37	26	e	h	
107・113	SP-2861	C	92202	-11517			34	32	24	e	h	SBa-04
107・113	SP-2862	C	92202	-11516			27	27	31	e	h	
107・113	SP-2863	C	92202	-11516			24	22	9	e	h	
107・113	SP-2864	C	92203	-11516			34	32	22	e	g	
107・113	SP-2865	C	92203	-11515			46	43	36	h	h	SBa-03
107・113	SP-2866	C	92202	-11516			16	15	6	e	h	
107・113	SP-2867	C	92202	-11514			32	31	30	e	h	
107・113	SP-2868	C	92202	-11514			38	36	50	e	h	
107・113	SP-2869	C	92203	-11514			26	25	16	e	h	SBa-04
107・113	SP-2870	C	92203	-11514			23	21	15	e	h	
107・113	SP-2871	C	92200	-11515			25	20	17	e	h	
107・113	SP-2872	C	92199	-11514			32	27	24	e	c	
109・115	SP-2873	E	92199	-11514			26	18	14	c	h	
109・115	SP-2874	E	921998	-11517			25	23	41	h	h	
105・111	SP-2875	A	92224	-11517	SK-112	SP-2875 ＜ SK-112	37	(23)	30	x	x	
105・111	SP-2876	A	92219	-11512			25	25	36	e	g	
106・112	SP-2877	B	92220	-11510	SB-01Pit16	SP-2877 ＞ SP-01Pit16	29	(24)	19	e	h	
105・111	SP-2878	A	92216	-11512			21	19	21	c	h	
105・111	SP-2879	A	92215	-11512			32	29	12	e	h	
105・111	SP-2880	A	92214	-11513			21	20	6	e	(d)	
105・111	SP-2881	A	92214	-11512			30	24	8	e	g	
105・111	SP-2882	A	92214	-11511			27	26	20	e	h	
106・112	SP-2883	B	92213	-11511	SP-2884	SP-2883 ＜ SP-2884	47	37	21	e	(h)	
106・112	SP-2884	B	92213	-11511	SP-2883	SP-2884 ＞ SP-2883	61	38	22	e	e	
107・113	SP-2885	C	92212	-11512			29	29	67	e	(h)	
107・113	SP-2886	C	92211	-11513			67	50	15	e	i	
107・113	SP-2887	C	92211	-11516			42	40	16	h	h	
107・113	SP-2888a	C	92211	-11515	SP-2888b	SP-2888a ？ SP-2888b	37	37	33	e	j	
107・113	SP-2888b	C	92211	-11515	SP-2888a	SP-2888b ？ SP-2888a	40	24	42	e	j	
107・113	SP-2889	C	92208	-11515			25	21	19	e	h	
107・113	SP-2890	C	92207	-11514			40	39	20	e	h	

第 26 表　ピット(SP)観察表 5

図版番号	遺構番号	分割図	位置		重　複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	特記事項
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
107・113	SP-2891	C	92208	-11513	SP-2892	SP-2891 ＞ SP-2892	35	33	32	e	h	
107・113	SP-2892	C	92208	-11513	SP-2891	SP-2892 ＜ SP-2891	43	34	14	e	(h)	SBa-03
107・113	SP-2893	C	92207	-11513			25	23	9	e	(h)	
107・113	SP-2894	C	92207	-11514			47	43	13	e	h	
107・113	SP-2895	C	92209	-11511			33	30	39	e	h	
107・113	SP-2896	C	92208	-11511			21	18	5	e	(g)	
107・113	SP-2897	C	92208	-11511			24	19	7	e	g	
107・113	SP-2898	C	92208	-11511			28	25	21	e	g	
108・114	SP-2899	D	92208	-11510			21	20	8	e	g	
107・113	SP-2900	C	92207	-11512	SP-2901	SP-2900 ＞ SP-2901	33	32	47	e	j	
107・113	SP-2901	C	92207	-11512	SP-2900	SP-2901 ＜ SP-2900	31	25	46	e	h	
107・113	SP-2902	C	92206	-11512			51	50	17	e	i	SBa-03
107・113	SP-2903	C	92206	-11512			38	25	18	e	i	
107・113	SP-2904	C	92206	-11512			49	36	23	e	i	
107・113	SP-2905	C	92205	-11511	SP-3017	SP-2905 ？ SP-3017	(34)	29	41	e	j	
107・113	SP-2906	C	92205	-11511			31	28	55	e	a	
107・113	SP-2907	C	92206	-11511			29	26	36	e	a	
107・113	SP-2908	C	92204	-11513	SP-3018	SP-2908 ？ SP-3018	31	(10)	18	(e)	j	
107・113	SP-2909	C	92204	-11513			33	29	30	e	h	
107・113	SP-2910	C	92204	-11513	SP-2911	SP-2910 ＞ SP-2911	52	38	34	e	e	
107・113	SP-2911	C	92204	-11513	SP-2910	SP-2911 ＜ SP-2910	27	(13)	28	(e)	(h)	
107・113	SP-2912	C	92204	-11512			39	34	37	e	h	
108・114	SP-2913	D	92204	-11510			44	30	25	e	e	
106・112	SP-2914	B	92219	-11507			47	39	42	e	c	
106・112	SP-2915	B	92219	-11507			26	26	10	e	h	
106・112	SP-2916	B	92218	-11507			59	46	31	e	h	
106・112	SP-2917	B	92218	-11507			27	22	17	e	a	
106・112	SP-2918	B	92217	-11508			22	20	14	h	i	
106・112	SP-2919	B	92216	-11509			21	20	6	e	h	
106・112	SP-2920	B	92215	-11510			33	27	25	e	a	
108・114	SP-2921	D	92209	-11509			25	23	7	e	h	
108・114	SP-2922	D	92206	-11590			21	16	45	e	a	
108・114	SP-2923	D	92206	-11508			33	32	42	e	a	
108・114	SP-2924	D	92205	-11508			37	28	23	e	j	
108・114	SP-2925	D	92206	-11507			17	15	7	e	h	
108・114	SP-2926	D	92206	-11507			13	13	5	e	h	
108・114	SP-2927	D	92207	-11506			14	13	8	e	g	
108・114	SP-2928	D	92206	-11506			23	20	9	e	h	
108・114	SP-2929	D	92205	-11506			30	21	10	e	h	
108・114	SP-2930	D	92206	-11505	SP-3101	SP-2930 ？ SP-3101	30	25	34	(f)	j	
106・112	SP-2931	B	92225	-11505	SP-2932	SP-2931 ＞ SP-2931	41	34	9	e	g	
106・112	SP-2932	B	92224	-11504	SP-2931	SP-2932 ＜ SP-2931	25	(17)	6	(e)	d	
106・112	SP-2936	B	92221	-11504	SI-05 内 SN	SP-2936 ＞ SI-05 内 SN	41	33	23	e	a	SBa-02
106・112	SP-2937	B	92220	-11504			35	28	17	e	d	
106・112	SP-2939	B	92218	-11506			33	24	14	e	h	

第 27 表　ピット (SP) 観察表 6

図版番号	遺構番号	分割図	位置		重複	新旧関係	規模 (cm)			平面形	断面形	特記事項
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
106・112	SP-2940	B	92217	-11506			24	22	11	e	h	
108・114	SP-2948	D	92213	-11506			56	38	20	e	e	
108・114	SP-2949	D	92208	-11505			36	31	27	e	a	
105・111	SP-2953	A	92219	-11515	SP-2839	SP-2953 ＜ SP-2839	27	(15)	12	(e)	(h)	
107・113	SP-2954	C	92212	-11515	SP-2955	SP-2954 ＞ SP-2955	29	-	12	e	h	
107・113	SP-2955	C	92212	-11515	SP-2954・2988, SI-07	SP-2954 ＞ SP-2955 ＞ SP-2988, SP-2955 ＞ SI-07	79	60	54	e	j	
107・113	SP-2956	C	92209	-11516			34	30	37	e	j	
107・113	SP-2957	C	92209	-11518	SI-07Pit7	SP-2957 ? SI-07Pit7	31	30	15	e	d	
107・113	SP-2958	C	92210	-11518	SP-2972	SP-2958 ＜ SP-2972	56	52	21	e	d	SBa-01
107・113	SP-2959	C	92210	-11518			52	(26)	12	x	x	
107・113	SP-2960	C	92209	-11515			26	15	6	c	h	
107・113	SP-2961	C	92205	-11517			35	33	35	e	d	SBa-03
107・113	SP-2962a	C	92205	-11516	SP-2962b	SP-2962a ? SP-2962b	70	39	39	e	j	
107・113	SP-2962b	C	92203	-11516	SP-2962a	SP-2962b ? SP-2962a	42	(31)	34	e	(j)	
107・113	SP-2963	C	92203	-11516			45	35	25	e	d	
107・113	SP-2964	C	92202	-11517			55	49	26	e	i	
107・113	SP-2965	C	92201	-11518	SD-87, SK-136	SP-2965 ＞ SD-87, SK-136	23	22	17	e	h	
106・112	SP-2966	B	92217	-11504			53	53	41	h	j	第 1 層より炭化物多量
105・111	SP-2967	A	92224	-11518	SK-112	SP-2967 ＜ SK-112	33	30	61	e	j	
107・113	SP-2968	C	92210	-11515	SP-2969	SP-2968 ＞ SP-2969	24	18	9	e	h	
107・113	SP-2969	C	92209	-11515	SP-2968	SP-2969 ＜ SP-2968	39	(25)	9	e	h	
107・113	SP-2970	C	92203	-11516			19	19	6	e	h	
107・113	SP-2971	C	92205	-11515	SB-02Pit2	SP-2971 ＜ SB-02Pit2	(41)	34	10	e	h	SBa-04
107・113	SP-2972	C	92210	-11517	SP-2958	SP-2972 ＞ SP-2958	22	(9)	6	x	h	
105・111	SP-2973	A	92225	-11515	SD-84, SP-2814	SP-2814 ＞ SP-2973 ＞ SD-84	87	78	56	e	a	
105・111	SP-2974	A	92221	-11517	SD-84	SP-2974 ＞ SD-84	52	42	29	e	(h)	
105・111	SP-2975	A	92222	-11516	SD-84	SP-2975 ＞ SD-84	57	35	68	e	g	
105・111	SP-2976	A	92221	-11514			37	25	44	e	g	
105・111	SP-2977	A	92221	-11515	SD-84	SP-2977 ＞ SD-84	74	40	17	e	(d)	
105・111	SP-2978	A	92219	-11515	SP-2839, SB-01Pit27	SP-2978 ＜ SP-2839, SB-01Pit27	27	(25)	40	(e)	j	
105・111	SP-2979	A	92220	-11515	SP-2980	SP-2979 ? SP-2980	54	(38)	25	e	x	
105・111	SP-2980	A	92220	-11516	SP-2978	SP-2980 ? SP-2979	(50)	(45)	23	e	x	
105・111	SP-2981	A	92220	-11516	SD-84	SP-2981 ＞ SD-84	48	38	29	e	g	
105・111	SP-2982	A	92219	-11516			56	40	10	e	i	
105・111	SP-2983	A	92218	-11516			24	23	20	e	g	
105・111	SP-2984	A	92218	-11516			(26)	18	7	e	g	
105・111	SP-2985	A	92216	-11516	SB-01Pit20	SP-2985 ＞ SB-01Pit20	38	30	20	e	i	
105・111	SP-2986	A	92217	-11514			24	14	12	e	g	
105・111	SP-2987	A	92217	-11514			22	15	8	e	h	
107・113	SP-2988	C	92213	-11516	SP-2955, SI-07	SP-2988 ＜ SP-2955, SP-2988 ? SI-07	73	54	16	e	i	
107・113	SP-2989	C	92212	-11514			42	28	8	e	h	
107・113	SP-2990	C	92211	-11517	SI-07	SP-2990 ? SI-07	52	26	10	e	d	
107・113	SP-2991	C	92212	-11516	SP-2846, SI-07	SP-2991 ＜ SP-2846, SP-2991 ? SI-07	26	(20)	20	(e)	a	
107・113	SP-2992	C	92211	-11518	SI-07	SP-2992 ? SI-07	19	17	14	e	a	
107・113	SP-2993	C	92210	-11518	SI-07	SP-2993 ? SI-07	27	20	14	e	a	

第 28 表　ピット(SP)観察表 7

図版番号	遺構番号	分割図	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	特記事項
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
107・113	SP-2994	C	92210	-11517	SI-07	SP-2994 ? SI-07	34	26	37	e	a	
107・113	SP-2995	C	92210	-11517	SP-2996b	SP-2995 ＞ SP-2996b	40	31	17	e	i	
107・113	SP-2996a	C	92211	-11516	SP-2996b	SP-2996a ＞ SP-2996b	30	27	13	e	h	
107・113	SP-2996b	C	92211	-11516	SP-2995・2996a	SP-2996b ＜ SP-2995・2996a	(35)	30	26	e	i	
107・113	SP-2997	C	92211	-11515	SI-07	SP-2997 ? SI-07	39	(18)	14	e	h	SBa-03
107・113	SP-2998	C	92210	-11515			44	28	17	e	i	
107・113	SP-2999	C	92204	-11516			23	18	24	e	g	
107・113	SP-3000	C	92202	-11515	SP-3001	SP-3000 ? SP-3001	39	34	42	e	x	
107・113	SP-3001	C	92202	-11515	SP-3000・3002	SP-3001 ? SP-3000・3002	36	(20)	37	e	x	
107・113	SP-3002	C	92202	-11515	SP-3001	SP-3002 ? SP-3001	37	36	49	e	x	
107・113	SP-3003	C	92201	-11515			44	34	17	e	x	
105・111	SP-3004	A	92219	-11513	SP-3005	SP-3004 ＞ SP-3005	(55)	45	75	e	c	
105・111	SP-3005	A	92220	-11513	SP-3004	SP-3005 ＜ SP-3004	48	39	31	e	j	
105・111	SP-3006	A	92220	-11511			18	13	23	e	g	
105・111	SP-3007a	A	92217	-11511	SP-3007b	SP-3007a ? SP-3007b	32	31	61	e	j	
105・111	SP-3007b	A	92217	-11511	SP-3007a，SB-01Pit11	SP-3007b ? SP-3007a，SP-3007b ＞ SB-01Pit11	32	31	63	e	x	
106・112	SP-3008	B	92217	-11510			32	28	9	e	h	
105・111	SP-3009	A	92214	-11512			35	23	11	e	h	
105・111	SP-3010	A	92213	-11511			56	24	14	e	i	
106・112	SP-3011	B	92213	-11511			30	17	10	e	i	
107・113	SP-3012	C	92211	-11514			21	18	6	e	h	
107・113	SP-3013	C	92210	-11514			22	20	26	e	j	
107・113	SP-3014	C	92208	-11513			20	18	15	e	b	
107・113	SP-3015	C	92208	-11511	SP-3016	SP-3015 ＞ SP-3016	29	(18)	9	(e)	(h)	
107・113	SP-3016	C	92209	-11511	SP-3015	SP-3016 ＜ SP-3015	72	70	43	e	h	
107・113	SP-3017	C	92206	-11511	SP-2905	SP-3017 ? SP-2905	39	27	33	e	(h)	
107・113	SP-3018	C	92205	-11513	SP-2908	SP-3018 ? SP-2908	43	37	32	e	(h)	SBa-03
107・113	SP-3019	C	92205	-11512			24	17	10	e	(h)	
107・113	SP-3020	C	92206	-11511			91	39	17	e	x	
106・112	SP-3021	B	92220	-11509	SI-05Pit11	SP-3021 ＞ SI-05Pit11	31	26	10	e	(j)	
106・112	SP-3022	B	92218	-11509			18	17	16	h	h	
106・112	SP-3023	B	92220	-11508			71	66	43	e	h	
106・112	SP-3024	B	92216	-11509			47	36	42	e	j	
106・112	SP-3025	B	92216	-11507			35	30	10	e	(h)	
106・112	SP-3026	B	92215	-11507			28	18	9	e	h	
106・112	SP-3027	B	92214	-11507			30	26	13	e	h	
106・112	SP-3028	B	92214	-11507			42	30	21	e	j	
106・112	SP-3029	B	92215	-11508			19	16	15	e	h	
108・114	SP-3030a	D	92212	-11507	SP-3030b	SP-3030a ＜ SP-3030b	46	46	52	e	j	
108・114	SP-3030b	D	92212	-11507	SP-3030a	SP-3030b ＞ SP-3030a	26	(20)	18	e	h	
108・114	SP-3031	D	92210	-11509			37	34	39	e	e	
108・114	SP-3032	D	92209	-11510			36	33	51	e	g	
108・114	SP-3033	D	92209	-11508			46	35	33	e	e	
108・114	SP-3034	D	92208	-11509			29	19	10	e	a	
108・114	SP-3035	D	92207	-11509			30	29	23	c	h	

第 29 表　ピット (SP) 観察表 8

図版番号	遺構番号	分割図	位置		重複	新旧関係	規模 (cm)			平面形	断面形	特記事項
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
108・114	SP-3036	D	92207	-11508			23	19	37	e	h	
108・114	SP-3037	D	92205	-11507			29	25	30	e	h	
108・114	SP-3038	D	92204	-11509	SP-3039	SP-3038 ＞ SP-3039	29	18	10	e	h	
108・114	SP-3039	D	92204	-11508	SP-3038	SP-3039 ＜ SP-3038	36	27	19	e	(j)	
108・114	SP-3040	D	92202	-11509			20	17	18	e	d	
106・112	SP-3041	B	92219	-11505			24	19	8	e	c	
108・114	SP-3045	D	92204	-11505			22	12	12	e	g	
108・114	SP-3047	D	92205	-11510			65	55	16	e	a	
108・114	SP-3048	D	92204	-11506			35	26	16	e	h	
108・114	SP-3049	D	92204	-11506			36	24	8	e	i	
108・114	SP-3050	D	92205	-11508			19	17	41	e	h	
105・111	SP-3054	A	92219	-11511			25	20	18	(e)	j	
106・112	SP-3055	B	92219	-11511	SB-01Pit17	SP-3055 ＞ SB-01Pit17	37	(25)	18	e	h	
106・112	SP-3056	B	92221	-11508	SI-05Pit38・39	SP-3056 ＞ SI-05Pit38・39	29	22	30	e	h	
106・112	SP-3058	B	92218	-11505	SB-01Pit1	SP-3058 ＞ SB-01Pit1	(52)	(51)	57	(e)	x	
109・115	SP-3061	E	92199	-11513	SD-111	SP-3061 ＜ SD-111	24	(14)	14	(e)	j	
108・114	SP-3062	D	92202	-11507	SD-111，SX-33	SP-3062 ＞ SX-33 ＞ SD-111	20	19	33	e	h	
110・116	SP-3063	F	92200	-11511	SD-111	SP-3063 ＞ SD-111	37	27	28	e	j	SBa-05
109・115	SP-3064	E	92198	-11513	SD-111	SP-3064 ＞ SD-111	27	23	28	e	i	
110・116	SP-3065	F	92199	-11510	SD-111	SP-3065 ＞ SD-111	25	23	18	e	g	
108・114	SP-3066	D	92201	-11508	SD-111	SP-3066 ＞ SX-33 ＞ SD-111	22	(8)	24	e	e	
109・115	SP-3067	E	92196	-11515			29	27	26	e	h	
109・115	SP-3068	E	92197	-11513			21	19	18	e	h	
110・116	SP-3069	F	92198	-11510	SD-126	SP-3069 ? SD-126	30	22	28	e	j	
110・116	SP-3071	F	92196	-11510	SD-126，SP-2742	SD-126 ＞ SP-3071 ＞ SP-2742	28	25	35	e	(j)	
110・116	SP-3072	F	92197	-11509	SD-126	SP-3072 ? SD-126	39	27	34	e	h	
110・116	SP-3073	F	92196	-11509			21	20	11	e	h	
110・116	SP-3074	F	92196	-11508			43	27	26	e	i	
110・116	SP-3075	F	92196	-11508			23	19	18	e	h	
110・116	SP-3076	F	92198	-11506	SP-3080	SP-3076 ＜ SP-3080	23	(20)	15	e	(g)	
109・115	SP-3079	E	92194	-11517	SD-126	SP-3079 ? SD-126	36	30	49	e	j	
110・116	SP-3080	F	92197	-11506	SP-3076	SP-3080 ＞ SP-3076	(30)	21	12	e	(j)	
105・111	SP-3081	A	92222	-11511	SB-01Pit24	SP-3081 ? SB-01Pit24	21	(15)	21	(e)	h	
105・111	SP-3082	A	92216	-11513			22	20	2	e	(d)	
106・112	SP-3083	B	92223	-11509	SI-05	SP-3083 ? SI-05	33	26	41	e	j	
109・115	SP-3084	E	92195	-11515	SD-126	SP-3084 ? SD-126	29	28	20	e	h	
109・115	SP-3085	E	92195	-11515	SD-126	SP-3085 ? SD-126	33	26	41	e	b	
105・111	SP-3086	A	92213	-11516	SI-07，SB-01Pit14	SP-3086 ? SI-07，SP-3086 ＞ SB-01Pit14	23	23	44	e	h	
105・111	SP-3087	A	92213	-11517	SI-07，SB-01Pit14	SP-3087 ? SI-07，SP-3087 ＞ SB-01Pit14	64	54	79	e	j	
105・111	SP-3088	A	92213	-11514	SI-07，SB-01Pit6b	SP-3088 ? SI-07，SB-01Pit6b	28	25	31	e	h	
108・114	SP-3089	D	92202	-11506	SD-111，SX-33	SP-3089 ＞ SX-33 ＞ SD-111	17	14	14	e	h	
109・115	SP-3090	E	92197	-11514	SD-111	SP-3090 ＞ SD-111	(25)	20	49	e	(j)	
110・116	SP-3091	F	92198	-11511	SK-117	SP-3091 ＞ SK-117	20	14	26	e	h	
109・115	SP-3092	E	92197	-11518	SD-111	SP-3092 ＞ SD-111	34	24	41	e	b	
108・114	SP-3093	D	92220	-11508			24	17	21	e	h	

第 30 表　ピット(SP)観察表 9

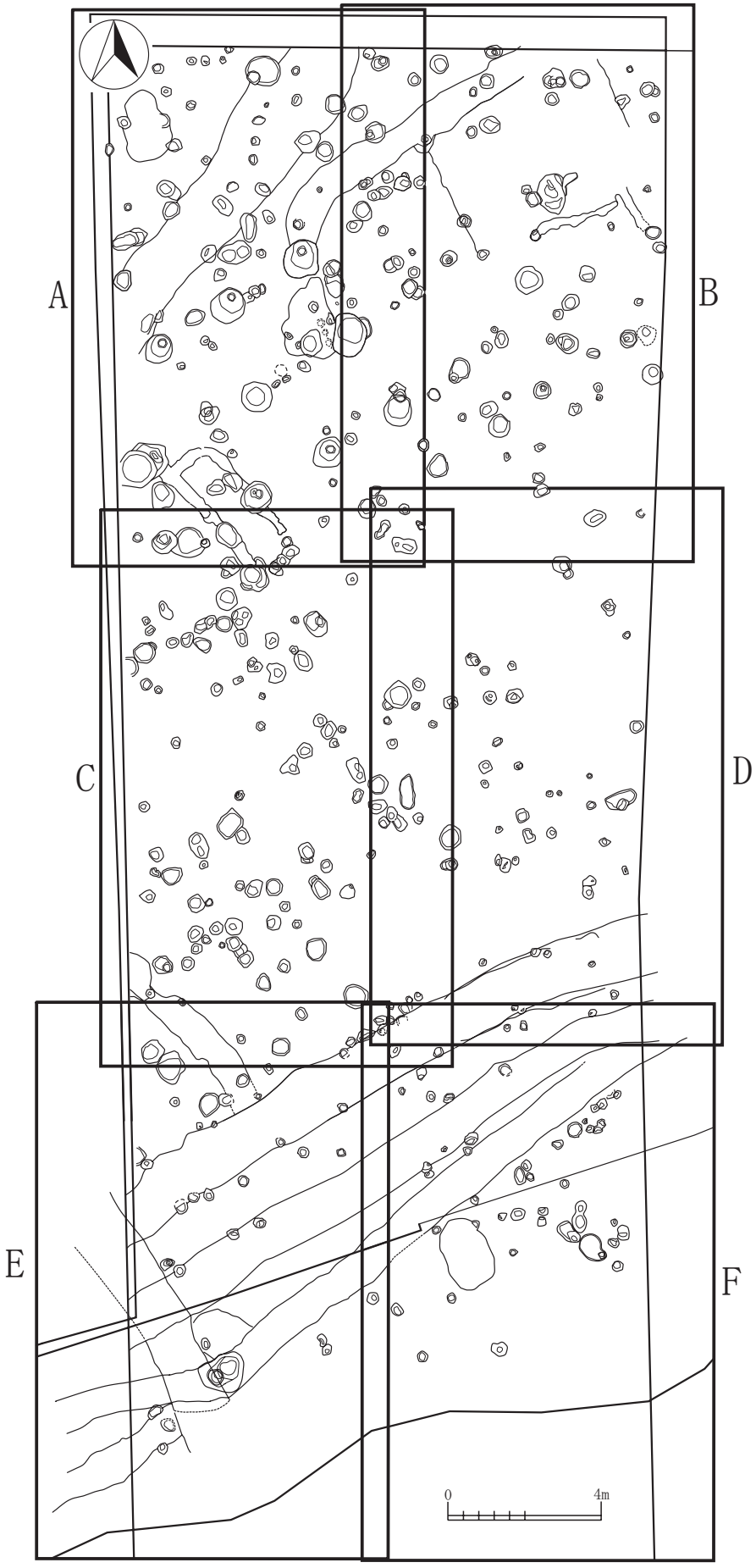
図版番号	遺構番号	分割図	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	特記事項
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
108・114	SP-3094	D	92211	-11506			38	30	48	e	h	
108・114	SP-3095	D	92210	-11505			21	16	4	e	(d)	
108・114	SP-3096	D	92210	-11508			24	23	10	e	h	
108・114	SP-3097	D	92204	-11508			21	17	28	e	h	
107・113	SP-3098	C	92200	-11512	SD-111	SP-3098 ＞ SD-111	24	22	17	e	i	
107・113	SP-3099	C	92206	-11514			28	22	23	e	i	
106・112	SP-3100	B	92221	-11509	SI-05	SP-3100 ? SI-05	36	32	29	e	h	
108・114	SP-3101	D	92206	-11505	SP-2930	SP-3101 ? SP-2930	81	39	8	e	(d)	
108・114	SP-3102	D	92209	-11509			34	34	50	h	j	
109・115	SP-3103	E	92199	-11515	SD-87	SP-3103 ＞ SD-87	36	32	8	e	i	
107・113	SP-3104	C	92201	-11517	SD-87	SP-3104 ＞ SD-87	20	16	27	e	h	
106・112	SP-3105	B	92222	-11508	SI-05	SP-3105 ＞ SI-05	26	23	36	e	j	
106・112	SP-3106	B	92224	-11507	SI-05	SP-3106 ＞ SI-05	36	33	17	e	h	
109・115	SP-3107	E	92199	-11518			63	53	10	e	(h)	
109・115	SP-3108	E	92199	-11517			87	76	14	e	(h)	
109・115	SP-3109	E	92198	-11516	SD-111	SP-3109 ＞ SD-111	15	14	16	e	(h)	
109・115	SP-3110	E	92198	-11515	SD-111・87	SP-3110 ＞ SD-111・87	14	(13)	8	(e)	(h)	
106・112	SP-3668	B	92217	-11506			15	15	8	c	g	
108・114	SP-3669	D	92213	-11505	SN-45	SP-3669 ? SN-45	20	(19)	13	e	h	
106・112	SP-3682	B	92224	-11505	SI-05	SP-3682 ＞ SI-05	32	30	17	e	(h)	
106・112	SP-3683	B	92225	-11505			15	15	8	e	a	
106・112	SP-3684	B	92224	-11504			25	23	12	e	a	
106・112	SP-3685	B	92222	-11505			18	16	7	e	a	
101	SPa-01	B-1 区	92197	-11501	SK-301	SPa-01 ＜ SK-301	(33)	(26)	(35)	x	(j)	
108・114	SPa-02	D	92206	-11510	SK-115	Spa-02 ＞ SK-115	(21)	21	15	e	i	

第 31 表　ピット(SB)観察表 10

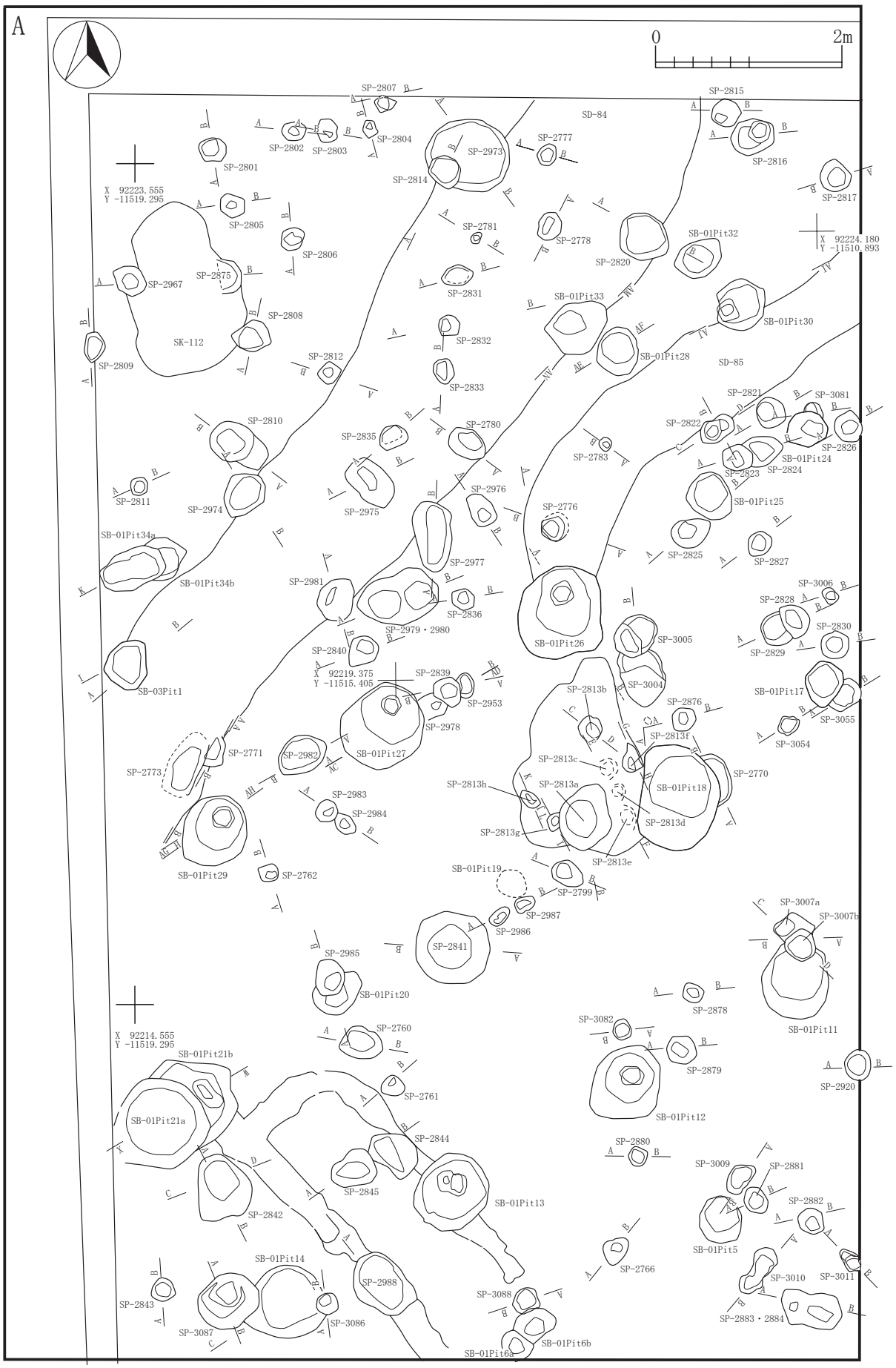
図版番号	遺構番号	分割図	位置		重複	重複関係	規模(cm)			平面形	断面形	特記事項
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
117・119	SB-01Pit1	B	92218	-11505	SP-3058	SB-01Pit1 ＜ SP-3058	46	43	35	e	j	炭サンプルあり SBa-02
117・119	SB-01Pit2	B	92217	-11507			45	44	23	h	a	SBa-02
117・119	SB-01Pit3	B	92216	-11508			60	54	23	e	I	SBa-01
117・119	SB-01Pit4	B	92215	-11510			61	50	14	e	a	SBa-01
117・119	SB-01Pit5	A	92214	-11512			51	45	25	e	h	SBa-01
117・119	SB-01Pit6a	C	92213	-11514	ＳＢ-０１Ｐｉｔ６ｂ，SP-2989	SB-01Pit6a ＞ SB-01Pit6b, SP-2989	34	(26)	21	e	j	
117・119	SB-01Pit6b	C	92212	-11514	ＳＢ-０１Ｐｉｔ６ａ，SP-3088	SB-01Pit6b ＜ SB-01Pit6b, SB-01Pit6b ? SP-3088	(38)	33	32	e	h	SBa-01
117・119	SB-01Pit7	C	92211	-11516	SI-07	SB-01Pit7 ? SI-07	59	54	27	e	e, h	SBa-01
117・119	SB-01Pit8	B	92220	-11506			41	39	26	e	h	SBa-02
117・119	SB-01Pit9	B	92218	-11508			44	34	31	e	h	SBa-02
117・119	SB-01Pit10	B	92217	-11510			67	49	37	e	a, e	SBa-01
117・119	SB-01Pit11	B	92216	-11511	SP-3007b	SB-01Pit11 ＜ SP-3007b	81	71	44	e	c	SBa-01
117・119	SB-01Pit12	A	92215	-11513			81	70	54	e	j	SBa-01
117・119	SB-01Pit13	A	92214	-11515			82	73	38	e	I	SBa-01

第 32 表　ピット (SB) 観察表 11

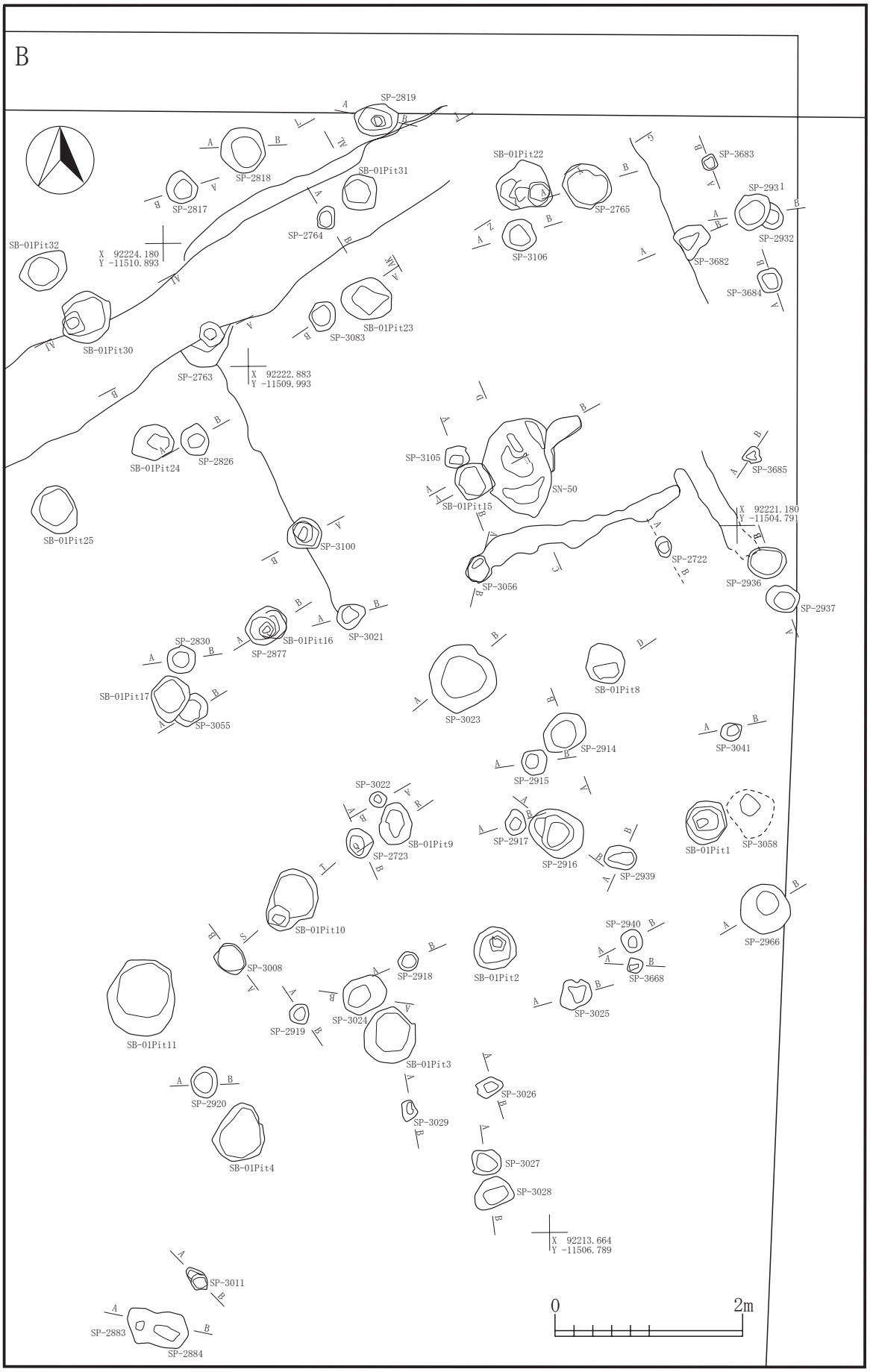
図版番号	遺構番号	分割図	位置		重複	重複関係	規模 (cm)			平面形	断面形	特記事項
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
117・119	SB-01Pit14	A	92213	-11517	SP-3086・3087	SB-01Pit14 ＜ SP-3086・3087	(87)	78	19	e	b, h	SBa-01
117・119	SB-01Pit15	B	92222	-11508	SI-05, SN-50	SB-01Pit15 ＞ SI-05, SN-50	38	36	21	e	h	SBa-02
117・119	SB-01Pit16	B	92220	-11510	SP-2877	SB-01Pit16 ＜ SP-2877	43	36	40	e	I	SBa-02
117・119	SB-01Pit17	B	92219	-11511	SP-3055	SB-01Pit17 ＜ SP-3055	44	37	35	e	a	3 層に火山灰微量, SBa-01
117・119	SB-01Pit18	A	92218	-11512	SP-2770, SD-85	SB-01Pit18 ＞ SP-2770, SD-85	109	83	54	e	h	SBa-01
117・119	SB-01Pit19	A	92217	-11514			32	–	20	(e)	h	SBa-01
117・119	SB-01Pit20	A	92216	-11516	SP-2985	SB-01Pit20 ＜ SP-2985	54	43	34	e	g	SBa-01
117・119	SB-01Pit21a	A	92215	-11518	SB-01Pit21b, SI-07	SB-01Pit21a ＞ SB-01Pit21b, SB-01Pit21a ? SI-07	100	(91)	20	e	h	SBa-01
117・119	SB-01Pit21b	A	92215	-11517	SB-01Pit21a, SI-07	SB-01Pit21b ＜ SB-01Pit21a, SB-01Pit21b ? SI-07	96	(46)	57	e	j	
117・119	SB-01Pit22	B	92225	-11507	SI-05	SB-01Pit22 ＞ SI-05	55	50	34	e	j	SBa-02, 漆紙出土
117・119	SB-01Pit23	B	92224	-11509			53	44	23	e	h	SBa-02
117・119	SB-01Pit24	B	92222	-11511	SP-3081	SB-01Pit24 ? SP-3081	42	38	60	e	h	SBa-02
117・119	SB-01Pit25	B	92221	-11512			51	44	49	e	h	SBa-01
117・119	SB-01Pit26	A	92220	-11514	SD-85	SB-01Pit26 ＞ SD-85	96	89	63	e	I	SBa-01
117・119	SB-01Pit27	A	92219	-11516	SP-2978	SB-01Pit27 ＞ SP-2978	92	82	53	e	I	SBa-01
117・119	SB-01Pit28	A	92223	-11513			49	44	42	e	a	SBa-01
117・119	SB-01Pit29	A	92218	-11517			79	68	46	e	e	SBa-01
117・119	SB-01Pit30	B	92223	-11512	SD-85, SX-38	SB-01Pit30 ＞ SD-85, SX-38	54	53	35	e	e	
117・119	SB-01Pit31	B	92225	-11509	SI-05, SD-85	SB-01Pit31 ＞ SI-05, SD-85	37	36	28	e	a	
117・119	SB-01Pit32	B	92224	-11512			51	39	17	e	e	SBa-02
117・119	SB-01Pit33	A	92223	-11513	SD-84	SB-01Pit33 ＞ SD-84	65	52	34	e	(g)	
117・119	SB-01Pit34a	A	92221	-11518	SB-01Pit34b	SB-01Pit34a ＞ SB-01Pit34b	69	41	31	e	(a)	
117・119	SB-01Pit34b	A	92221	-11518	SB-01Pit34a	SB-01Pit34b ＜ SB-01Pit34a	45	(26)	22	e	(a)	
117・118	SB-02Pit1	C	92204	-11517			52	43	20	e	c	SBa-05
117・118	SB-02Pit2	C	92205	-11515	SP-2971	SB-02Pit2 ＞ SP-2971	70	54	21	e	a	SBa-05
117・118	SB-02Pit3	C	92204	-11514			43	42	15	e	I	SBa-05
117・118	SB-02Pit4	C	92202	-11513			57	51	9	e	d	SBa-05
117・118	SB-02Pit5	C	92201	-11512			64	59	27	e	e	SBa-05
117・118	SB-02Pit6	E	92200	-11514			45	44	13	e	(d)	SBa-05
117・118	SB-02Pit7	E	92198	-11516	SP-2800	SB-02Pit7 ? SP-2800	59	49	13	e	a	SBa-05
117・118	SB-03Pit1	A	92220	-11518	SD-84	SB-03Pit1 ＞ SD-84	52	45	37	e	e, (h)	SBa-01



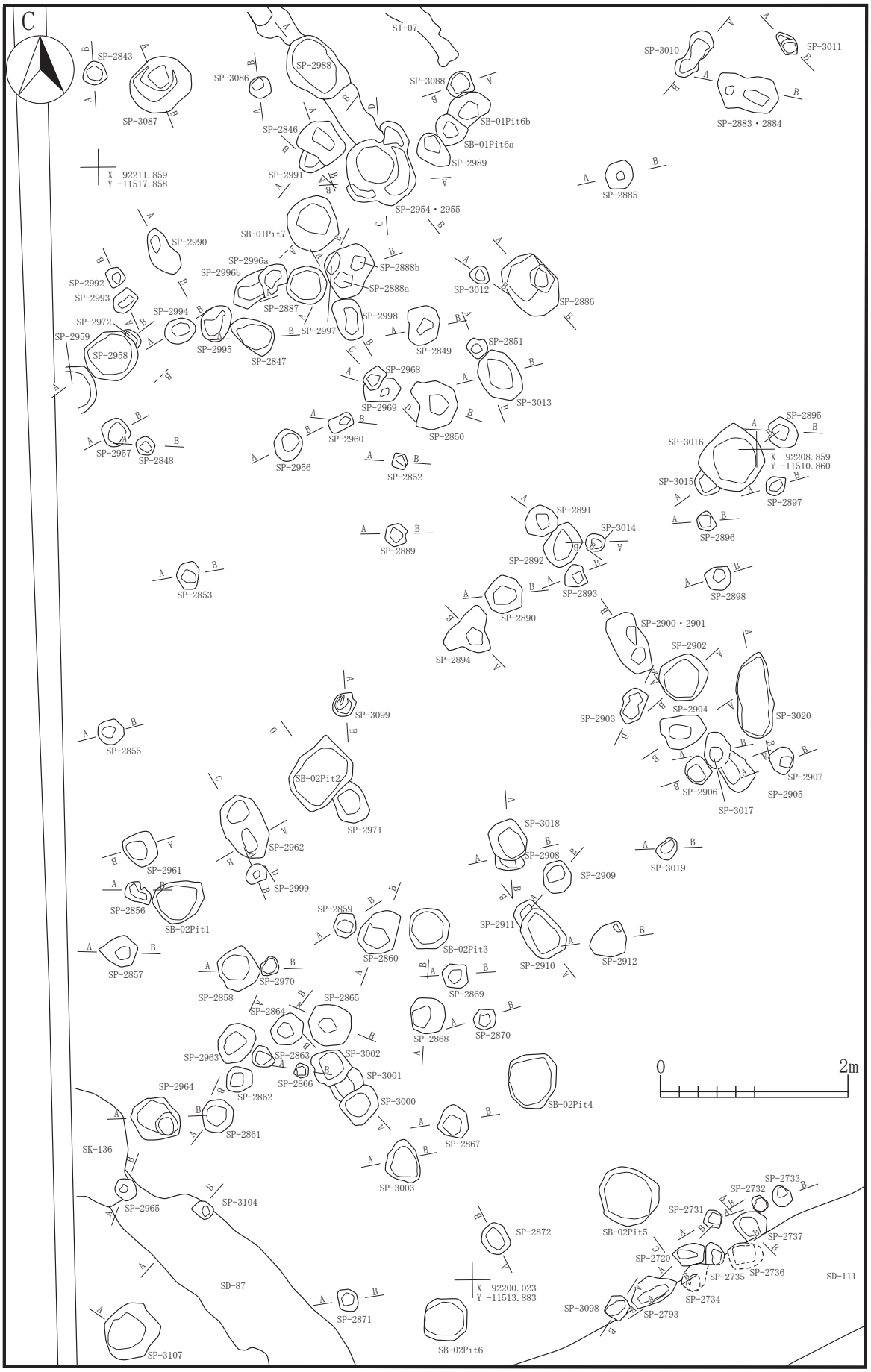
第 104 図　ピット分割区分図



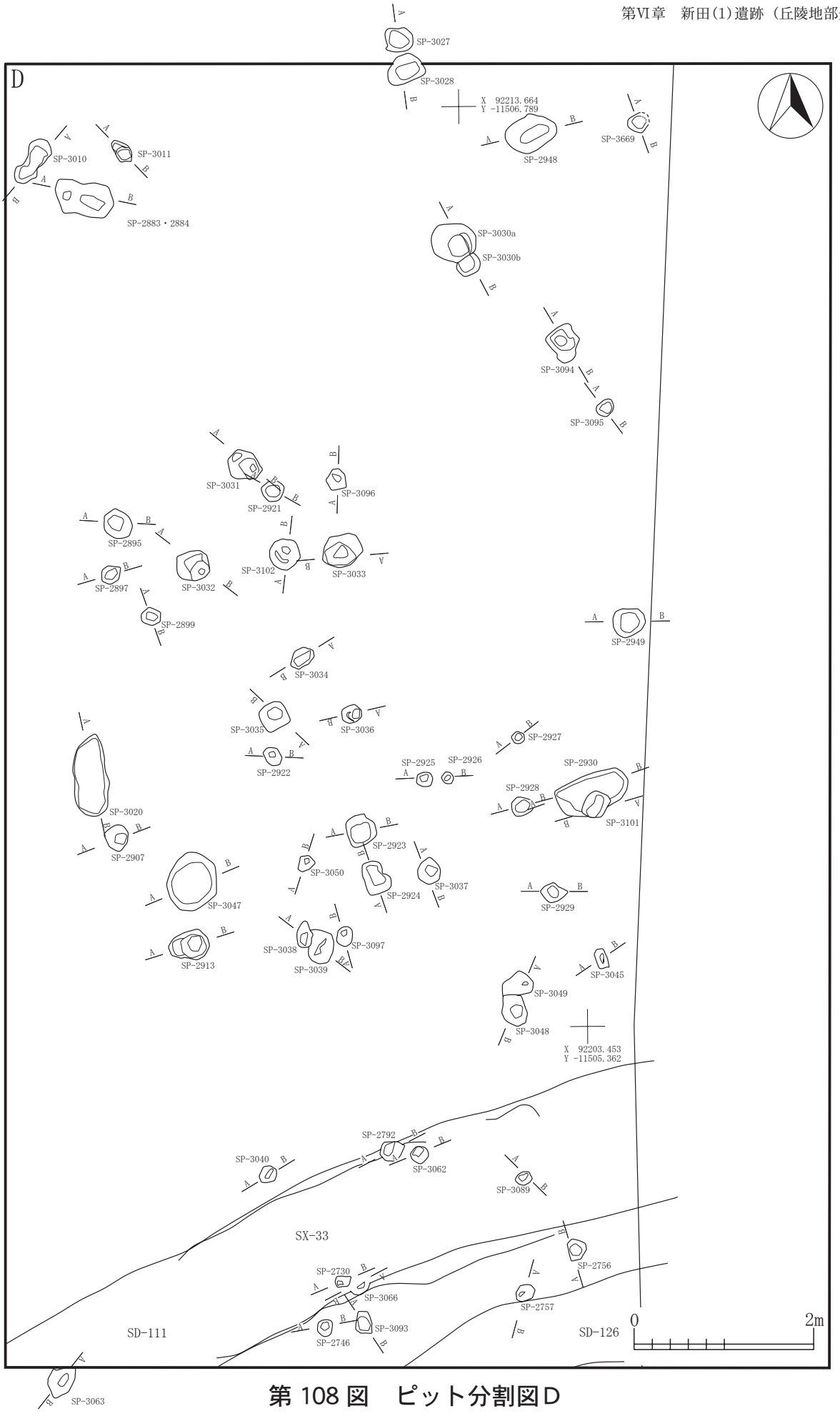
第 105 図　ピット分割図 A



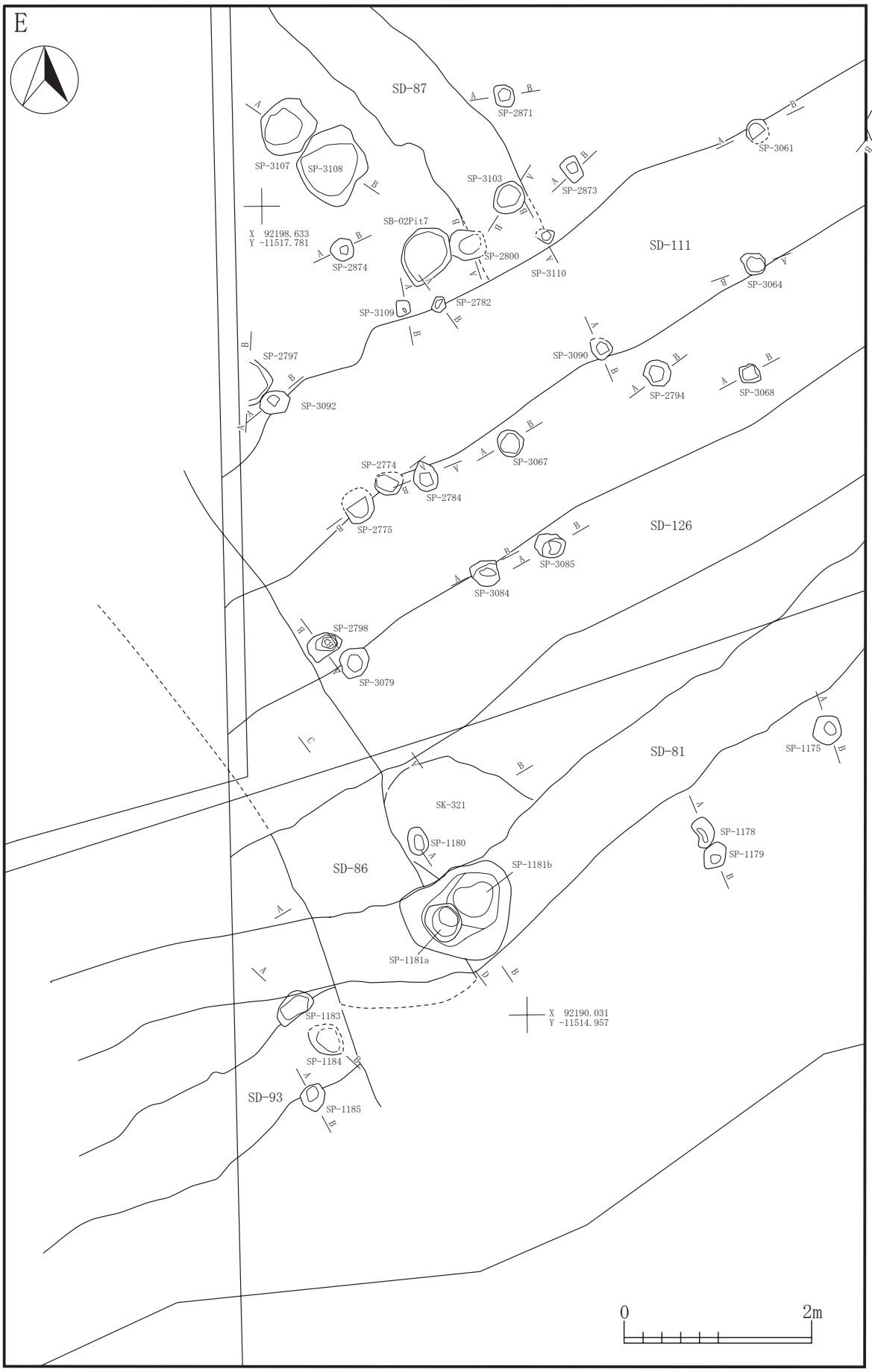
第 106 図　ピット分割図 B



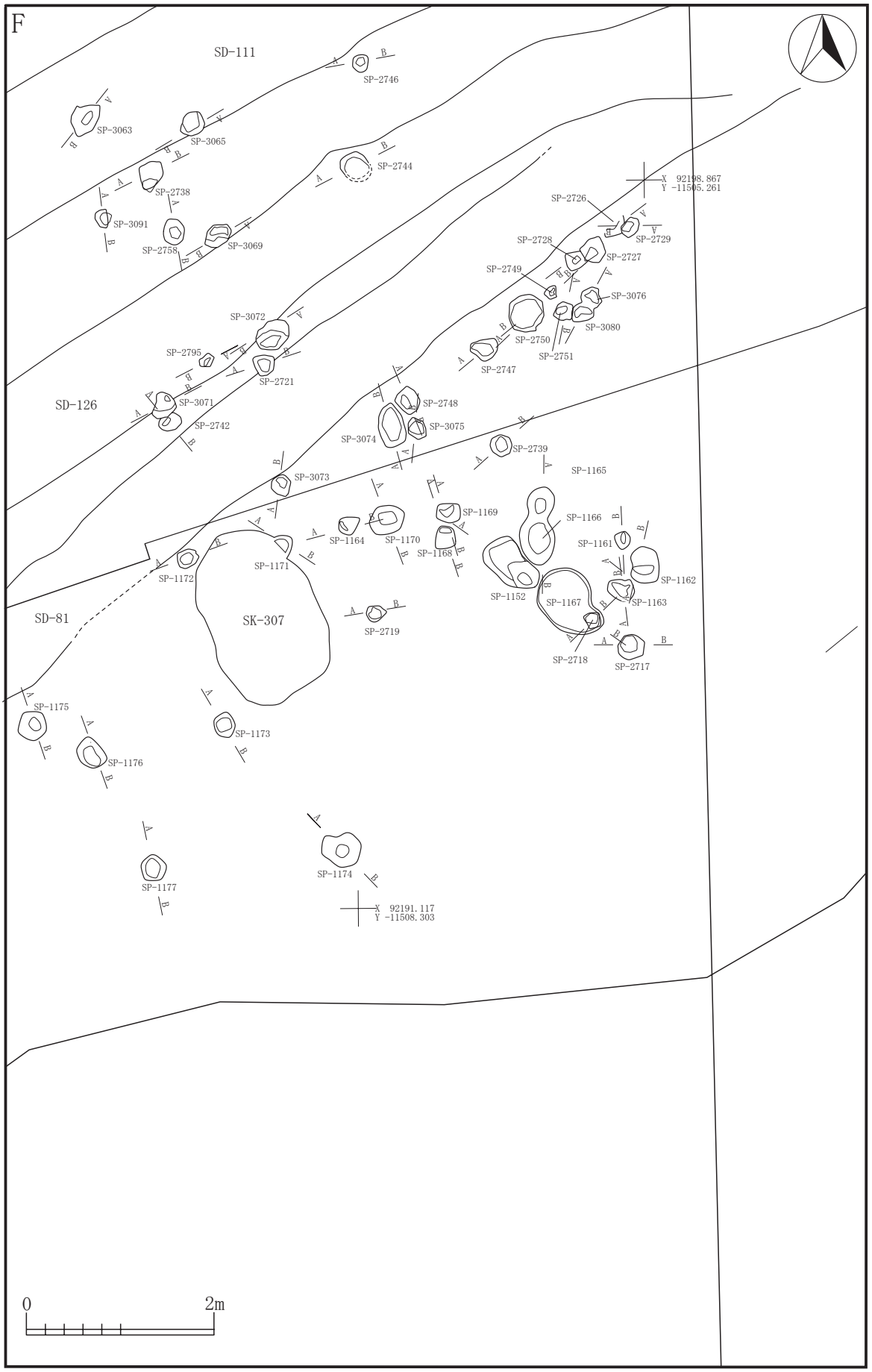
第 107 図　ピット分割図 C



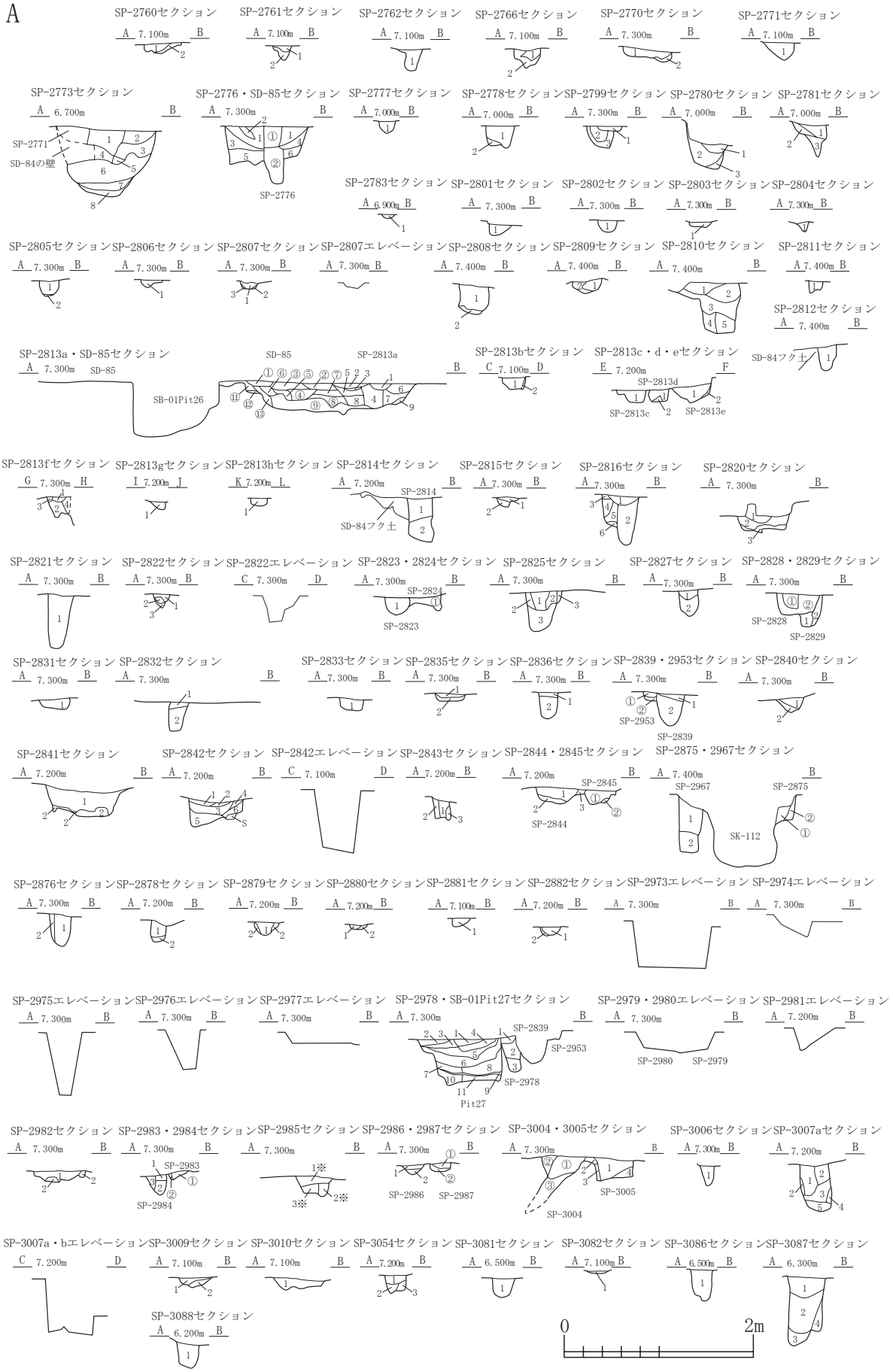
第 108 図　ピット分割図D



第 109 図　ピット分割図 E



第 110 図　ピット分割図Ｆ

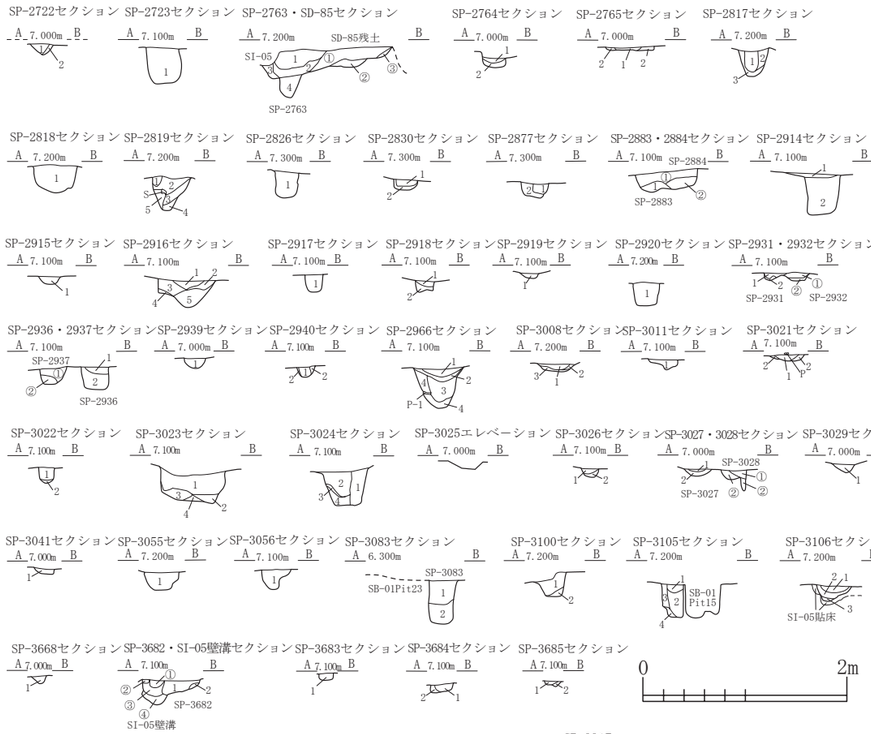


第 111 図　ピットセクション図等Ａ

SP-2760
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量,ローム粒(φ1～3mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ3～10mm)
SP-2761
第1層　10YR2/2黒色土と10YR3/4暗褐色土の混合土　パミスブロック(φ30mm)多量
第2層　10YR4/6　褐色土
SP-2762
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15mm)多量
SP-2766
第1層　10YR3/4　暗褐色砂
第2層　10YR3/3　暗褐色土
SP-2770
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～30mm)中量,焼土粒(φ3mm)微量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量・ブロック(φ20～30mm)少量
SP-2771
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～50mm)中量,焼土粒(φ1～3mm)微量
SP-2773
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)少量,炭化粒(φ1～2mm)少量,焼土粒φ1～3mm)微量　(
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)中量,炭化粒(φ1～2mm)少量,焼土粒φ1～3mm)微量　(
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ5～40mm)多量,ローム粒・ブロックφ1～30mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第4層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)中量,ローム粒(φ1～2mm)中量,化粒(φ1～3mm)少量　炭
第5層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～15mm)多量
第6層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量,ローム粒(φ1～5mm)少量,化粒(φ1～5mm)少量　炭
第7層　10YR4/6　褐色土
第8層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒(φ3～5mm)少量
SP-2776
第①層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～7mm)少量,焼土粒(φ3～5mm)
第②層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)少量
SD-85
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ2～15mm)中量,ロームブロック(φ15mm)極微量,炭化粒(φ1～9mm)少量,焼土粒(φ1～5mm)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～7mm)多量,炭化粒(φ2～5mm)少量,焼土粒(φ1～7mm)少量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～7mm)多量・ブロック(φ10～15mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)少量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ3～10mm)中量,ロームブロック(φ10～11mm)少量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第5層　10YR7/6　明黄褐色土　パミスブロック(φ10～40mm)中量,ローム粒・ブロック(φ1～40mm)少量,黒褐色土(10YR2/2)少量混入
第6層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ3～20mm)多量,ローム粒・ブロック(φ5～10mm)少量,焼土粒(φ1～3mm)少量
SP-2777
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量,炭化粒(φ1～3mm)中量
SP-2778
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)少量,焼土粒φ1～2mm)微量　(
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ3～15mm)中量
SP-2799
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量,炭化粒(φ1～2mm)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15mm)中量,炭化粒(φ1～5mm)微量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量
SP-2780
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15mm)中量,炭化粒(φ3～5mm)中量,焼土
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～9mm)少量,炭化粒(φ3～5mm)少量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)中量
SP-2781
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)少量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ2～15mm)少量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
SP-2783
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)少量,焼土粒φ1～2mm)微量　(
SP-2801
第1層　10YR4/1　褐灰色土　砕石多量
SP-2802
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5mm)微量
SP-2803
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3mm)微量,暗褐色土がブロック状に混じる
SP-2804
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ3mm)微量
SP-2805
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5mm)少量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)中量
SP-2806
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)少量
SP-2807
第1層　10YR4/1　褐灰色土　砕石多量
第2層　10YR2/1　黒色土
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ30mm)極微量
SP-2808
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ5mm)・ブロック(φ15～20mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ15～20mm)極微量
SP-2809
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)微量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ3～5mm)少量
SP-2810
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5mm)・ブロック(φ20mm)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)・ブロック(φ10～20mm)少量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)中量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ15mm)中量
第5層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ15～30mm)微量
SP-2811
第1層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ10mm)極微量
SP-2812
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)微量・ブロック(φ10mm)極微量
SP-2813a
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)微量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)少量,焼土粒(φ1～5mm)微量,灰(φ1～3mm)少量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)微量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)中量,焼土粒(φ1～2mm)少量
第5層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)多量
第6層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15mm)少量,焼土粒(φ5mm)極微量
第7層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ5～40mm)中量,ロームブロック(φ10～12mm)微量
第8層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ3～30mm)中量
第9層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ5～15mm)中量,焼土粒(φ5mm)極微量
SD-85
第①層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)少量,炭化粒(φ1～5mm)少量,焼土粒(φ1～3mm)少量
第②層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15mm)少量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第③層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量,焼土粒(φ1～3mm)少量,灰(φ1～2mm)微量
第④層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ5～15mm)中量,焼土粒・ブロック(φ5～15mm)微量
第⑤層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)少量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第⑥層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)中量
第⑦層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ5～15mm)中量
第⑧層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ5～15mm)少量
第⑨層　10YR5/8　黄褐色土　黒褐色土(10YR2/3)中量混入
第⑩層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ5～15mm)中量
第⑪層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ3～15mm)中量
第⑫層　10YR4/6　褐色土　黒褐色土(10YR2/3)少量混入
第⑬層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～50mm)中量
SP-2813b
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)少量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ2～15mm)中量
SP-2813c
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ2～20mm)少量,ロームブロック(φ10～15mm)微量,炭化粒(1～3mm)少量,焼土粒(φ1～2mm)少量
SP-2813d
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(2～15mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)少量,焼土粒(φ1～3mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ3～15mm)中量
SP-2813e
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ5～30mm)少量,焼土粒(φ1～2mm)少量
第2層　10YR3/3　暗褐色砂
SP-2813f
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～9mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ3～15mm)中量
第3層　10YR3/3　暗褐色砂
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)微量
SP-2813g
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量,焼土粒(φ5mm)微量
SP-2813h
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)中量,焼土粒(φ5mm)微量
SP-2814
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～7mm)極微量
SP-2815
第1層　10YR4/1　褐灰色土　砕石少量混入(カクラン)
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～7mm)少量
SP-2816
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5mm)微量,黄褐色砂(φ20～40mm)混入
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ3～5mm)微量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～7mm)少量
第4層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～7mm)中量
第5層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)少量
第6層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3mm)中量
SP-2820
第1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ5～10mm)中量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20～30mm)少量
SP-2821
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)少量,炭化物(φ10～20mm)微量
SP-2822
第1層　10YR2/1　黒色土　焼土粒(φ5mm)少量
第2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)少量,黒褐色土粒(φ1～10mm)少量
第3層　10YR5/6　黄褐色土　暗褐色土(10YR3/3)ブロック(φ10～20mm)中量
SP-2823
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)少量
SP-2824
第①層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)少量
SP-2825
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)中量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)微量
SP-2827
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)中量
SP-2828
第①層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第②層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)中量
SP-2829
第1層　10YR2/3　黒褐色土
第2層　10YR6/6　明黄褐色パミスブロック

SP-2831
第1層　7.5YR2/1　黒色土　炭化粒(φ1～5mm)中量
SP-2832
第1層　10YR2/3　黒褐色土
第2層　7.5YR2/3　極暗褐色土　パミスブロック(φ15～20mm)微量
SP-2833
第1層　7.5YR2/3　極暗褐色土　パミス粒(φ5～10mm)少量
SP-2835
第1層　7.5YR2/3　極暗褐色土　パミスブロック(φ10～15mm)少量
第2層　7.5YR2/3　極暗褐色土
SP-2836
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量
SP-2839
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)中量
第2層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
SP-2953
第①層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ15～20mm)多量
第②層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)中量
SP-2840
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ3～5mm)中量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ30mm)少量
SP-2841
第1層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ10～15mm)微量
第2層　10YR6/8　明黄褐色砂
SP-2842
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)微量,上面に炭化物を含む
第2層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ15～20mm)少量,ローム粒(φ5～10mm)微量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ3～5mm)微量
第4層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3mm)少量
第5層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～3mm)微量,円礫(φ20mm河原石?)少量含
第6層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ2～3mm)微量
SP-2843
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)極微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～7mm)少量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3mm)少量
SP-2844
第1層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ10～15mm)中量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3mm)多量・ブロック(φ10～15mm)少量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ2～3mm)極微量
SP-2845
第①層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)・ブロック(φ30～40mm)微量
第②層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)少量
SP-2875
第①層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ5～10mm)中量
第②層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ5～10mm)少量・ブロック(φ20mm)微量
SP-2967
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)微量,礫(φ40mm)極微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)微量
SP-2876
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)少量
第2層　10YR4/4　褐色土
SP-2878
第1層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ20～30mm)少量
第2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土
SP-2879
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量
第2層　10YR5/6　黄褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)多量
SP-2880
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3mm)微量
第2層　10YR5/6　黄褐色土　黒褐色土少量混入
SP-2881
第1層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ20～30mm)少量
SP-2882
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3mm)少量・ブロック(φ20mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3mm)微量,炭化物(φ15～20mm)少量
SP-2978
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ3～5mm)少量,ローム粒(φ1～8mm)中量・ブロック(φ10～15mm)少量,炭化粒(φ3～5mm)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒(φ1～9mm)少量・ブロック(φ10～25mm)微量,炭化粒(φ2mm)極微量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10mm)少量
SP-2982
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)中量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)少量
SP-2983
第①層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ20～30mm)多量
第②層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
SP-2984
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)中量,炭化粒(φ1～3mm)微量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ5～10mm)少量
第3層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ5～10mm)中量
SP-2985
第1※層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～10mm)少量・ブロック(φ20～50mm)中量
第2※層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ30mm)微量
第3※層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ1～10mm)多量
SP-2986
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)微量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)多量
SP-2987
第①層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)微量
第②層　10YR7/8　黄橙色パミス
SP-3004
第①層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5mm)少量・ブロック(φ20mm)微量
第②層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第③層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)少量
SP-3005
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1mm)微量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～15mm)微量
第4層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ20～40mm)少量
SP-3006
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1mm)少量
SP-3007a・b
第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ5～10mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)少量
第3層　10YR4/4　褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)中量
第4層　10YR3/2　黒褐色土
第5層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30mm)少量
SP-3009
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)多量
第2層　10YR6/6　明黄褐色パミスブロック
SP-3010
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)多量,炭化粒(φ5mm)少量
SP-3054
第1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック(φ15～20mm)多量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1mm)微量
第3層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック(φ15～20mm)多量
SP-3081
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)中量
SP-3082
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
SP-3086
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)多量,焼土粒(φ5mm)微量
SP-3087
第1層　7.5YR7/6　橙色土　ロームブロック(φ10～30mm)中量,焼土粒(φ5～10mm)少量,黒色土(10YR2/1)ブロック(φ10～20mm)中量
第2層　10YR6/6　明黄褐色土　パミスブロック(φ10～30mm)中量,ロームブロック(φ10～20mm)中量
第3層　10YR7/6　明黄褐色パミス
第4層　10YR5/6　黄褐色パミスブロック
SP-3088
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～40mm)中量
第2層　7.5YR6/2　灰褐色ロームブロック

B



SP-2722
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ3～15mm)中量, 炭化粒(φ1～3mm)微量, 焼土粒(φ1～3mm)微量
第2層　10YR5/6　黄褐色土　黒褐色土(10YR2/3)粒(φ2～5mm)少量混入
SP-2723
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～7mm)少量, 炭化粒(φ1～3mm)少量, 焼土粒(φ1～2mm)微量
SP-2763
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～9mm)多量・ブロック(φ10～30mm)中量・(φ150mm)微量, 炭化粒(φ1～2mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～9mm)少量, 炭化粒(φ1～2mm)少量, 焼土粒(φ1～5mm)少量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)微量・ブロック(φ30mm)微量, 焼土粒(φ1～2mm)極微量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)中量, 炭化粒(φ1～3mm)少量, 焼土粒(φ1～2mm)微量

SD-85の残土
第①層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～10mm)中量・(φ100mm)微量, 炭化粒(φ1～5mm)少量, 焼土粒(φ1～2mm)微量
第②層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)中量, 炭化粒(φ1～2mm)極微量, 焼土粒(φ1～2mm)微量
第③層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ30mm)微量
SP-2764
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量, ローム粒・ブロック(φ1～10mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ3～30mm)多量
SP-2765
第1層　7.5YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量, ローム粒(φ1～5mm)多量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～30mm)多量

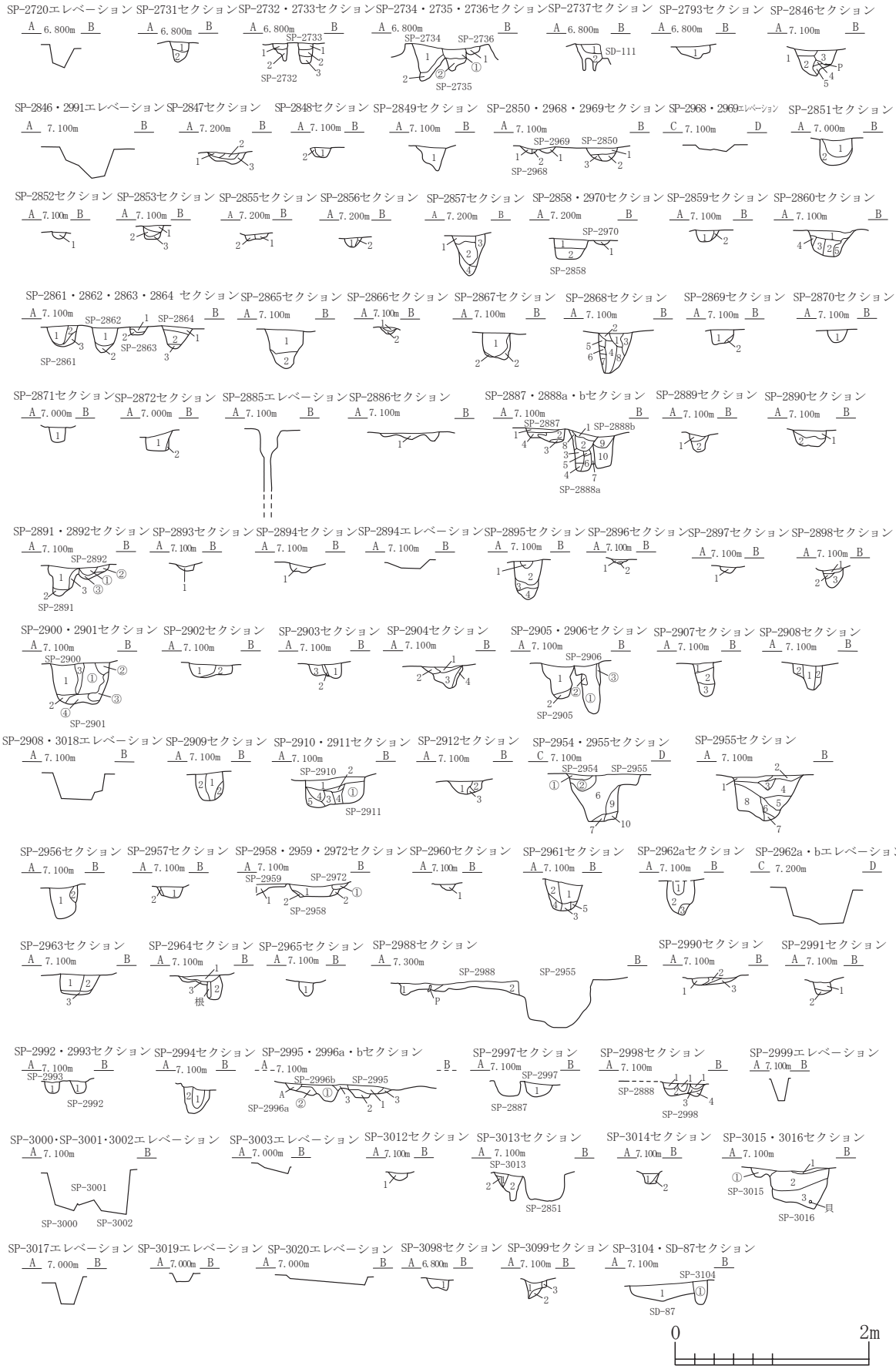
SP-2916
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～9mm)微量・ブロック(φ10～30mm)中量
第2層　10YR2/1　黒色土　焼土ブロック(φ20～30mm)少量, 炭化粒層利面に堆積
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1mm)多量・ブロック(φ10～30mm)中量
第4層　10YR7/6　明黄褐色パミス
第5層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)中量
SP-2917
第1層　10YR2/3　黒褐色土　炭化粒(φ5mm)少量, 焼土粒(φ5～10mm)微量
SP-2918
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)多量
SP-2919
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
SP-2920
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)少量
SP-2931
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)中量
第2層　10YR6/6　明黄褐色土
SP-2932
第①層　10YR3/1　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30mm)少量
第②層　10YR6/6　明黄褐色土
SP-2936
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)中量
第2層　10YR5/8　黄褐色土
SP-2937
第①層　10YR5/8　黄褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)少量
第②層　10YR2/2　黒褐色土
SP-2939
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)中量
SP-2940
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)多量
SP-2966
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)少量, 炭化物(φ10～20mm)多量
第2層　10YR8/8黄橙色ロームブロックと7.5YR7/6橙色パミスブロックの混合層
第3層　10YR6/6　明黄褐色パミスブロック
第4層　7.5YR6/4　にぶい橙色ロームブロック
SP-3008
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミスブロック(φ20mm)
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1mm)微量
第3層　10YR4/1　褐灰色土　パミスブロック(φ20～30mm)中量
SP-3011
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)中量
SP-3021
第1層　10YR2/1　黒色土　炭化粒(φ5mm)少量
第2層　10YR1.7/1　黒色土　パミスブロック(φ20～30mm)中量
SP-3022
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～9mm)少量・ブロック(φ10～30mm)中量, 焼土粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR7/6明黄褐色土と10YR2/1黒褐色土の混合土
SP-3023
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)微量・ブロック(φ30～60mm)少量
第2層　10YR4/1　褐灰色土　パミスブロック(φ30～60mm)少量
第3層　7.5YR6/6　橙色ロームブロック
第4層　7.5YR7/6　橙色パミス
SP-3024
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒・ブロック(φ1～30mm)中量
第2層　10YR7/6　明黄褐色土　パミスブロック(φ20～40mm)多量, 焼土粒(φ1～3mm)微量
第3層　10YR2/1　黒色土
第4層　10YR5/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)少量
SP-3026
第1層　10YR2/1　黒色土　炭化粒(φ5mm)微量
第2層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ5～10mm)中量
SP-3027
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR6/6　明黄褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)少量, 黒色土(10YR2/1)ブロック(φ20mm)少量
SP-3028
第①層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)中量
第②層　10YR7/6　明黄褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～30mm)多量

SP-2817
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～7mm)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ2～3mm)多量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～7mm)中量
SP-2818
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～7mm)・ブロック(φ20～30mm)少量
SP-2819
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)極微量, ローム粒(φ5～10mm)微量, 焼土粒(φ3～5mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3mm)少量, 炭化粒(φ3～5mm)極微量, 焼土粒(φ3～5mm)極微量, 礫(φ10～15mm大)混入
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)中量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)多量
第5層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)中量
SP-2826
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ20～30mm)微量, 炭化粒(φ5～10mm)少量
SP-2830
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)多量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)微量
SP-2877
第1層　10YR3/2　黒褐色土
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)多量, 炭化粒(φ5mm)微量
SP-2883
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ50mm)微量
SP-2884
第①層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ50～60mm)少量
第②層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ30mm)少量
SP-2914
第1層　10YR2/1　黒色土　炭化粒(φ5mm)少量, 焼土粒(φ5～10mm)微量
第2層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)微量
SP-2915
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)中量

SP-3029
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)中量・ブロック(φ20mm)微量
SP-3041
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)中量
SP-3055
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)多量, 炭化粒(φ5mm)多量
SP-3056
第1層　10YR2/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量, 炭化粒(φ5～10mm)少量
SP-3083
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ20mm)微量
SP-3100
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ1～5mm)微量
第2層　10YR7/6　明黄褐色土　黒褐色土(10YR3/2)少量
SP-3105
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)微量, ローム粒(φ1～10mm)微量, 炭化粒(φ1～3mm)微量, 焼土粒(φ1mm程度)極微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)微量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量, 炭化粒(φ1～5mm)微量, 焼土粒(φ1mm程度)微量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)少量
SP-3106
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)少量, 炭化粒(φ1～3mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色シルト　パミス粒(φ1～3mm)少量, 炭化粒(φ1～3mm)少量, 焼土粒(φ1～3mm)微量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)中量
SP-3668
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)多量, 炭化粒(φ5mm)微量
SP-3682
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ2～25mm)中量, 炭化粒(φ3～5mm)微量
第2層　10YR5/6　黄褐色土
SP-3683
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量, 炭化粒(φ1～3mm)微量
SP-3684
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)少量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ2～20mm)多量
SP-3685
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)微量
第2層　10YR2/2黒褐色土と10YR4/6褐色土の混合土

第 112 図　ピットセクション図等 B

C

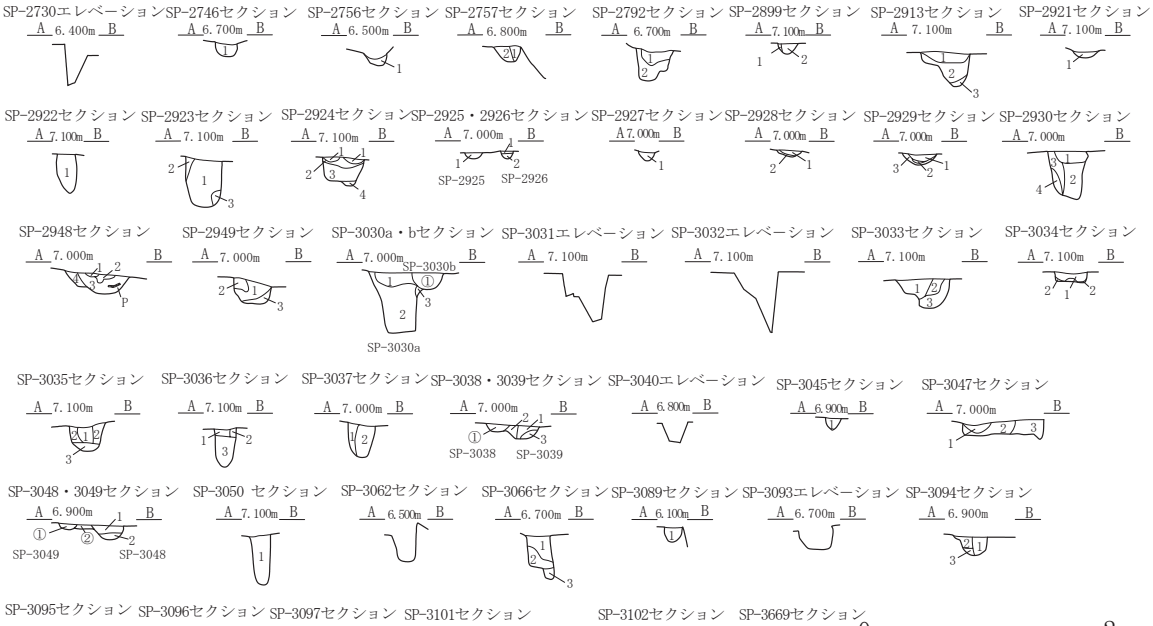


第 113 図　ピットセクション図等C

SP-2731
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～7㎜)中量,炭化粒(φ1～3㎜)少量,焼土粒(φ1～3㎜)少量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)中量,炭化粒(φ1～2㎜)微量
SP-2732
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量,炭化粒(φ1～2㎜)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～3㎜)少量,炭化粒(φ1～2㎜)微量
SP-2733
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量,炭化粒(φ1～2㎜)少量,焼土粒(φ1～2㎜)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～2㎜)微量・ブロック(φ10㎜)少量,炭化粒(φ1～2㎜)微量
第3層　10YR4/4　褐色土　パミス粒(φ1～2㎜)少量,炭化粒(φ1～3㎜)少量
SP-2734
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3㎜)少量,炭化粒(φ１～2㎜)微量,焼土粒(φ1～2㎜)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)中量,炭化粒(φ1～2㎜)少量
SP-2735
第①層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)中量,炭化粒(φ1～2㎜)微量,焼土粒(φ1～2㎜)微量
第②層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～8㎜)中量,炭化粒(φ1～2㎜)微量
SP-2736
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3㎜)少量,炭化粒(φ1～2㎜)微量
SP-2737
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～2㎜)少量,炭化粒(φ1～2㎜)微量
第2層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～8㎜)中量,炭化粒(φ1～3㎜)少量
SP-2793
第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～5㎜)少量
SP-2846
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ15～20㎜)少量,上層に黒色土少量混入
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ50～60㎜)微量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ3～7㎜)中量・ブロック(φ15～20㎜)微量,上層に黒色土微量混入
第4層　10YR2/3黒褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土
第5層　10YR2/3黒褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土
SP-2847
第1層　10YR2/1黒色土と10YR4/1褐灰色土の混合土　パミス粒(φ5～10㎜)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3㎜)微量,灰黄褐色土(10YR4/2)が斑状に混入
第3層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ15～20㎜)中量
SP-2848
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ3～5㎜)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ2～3㎜)中量
SP-2849
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～7㎜)微量
SP-2850
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～7㎜)少量,褐灰色土(10YR4/1)少量混入
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3㎜)微量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5㎜)少量・ブロック(φ10㎜)微量
SP-2968
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5㎜)少量
第2層　10YR6/8　明黄褐色土　黒色土少量混入
SP-2969
第1層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ20～30㎜)少量
SP-2851
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ3～5㎜)少量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3㎜)微量
SP-2852
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3㎜)微量
SP-2853
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5㎜)少量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ2～3㎜)多量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～3㎜)微量
SP-2855
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5㎜)少量,褐灰色土(10YR4/1)少量混入
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ2～3㎜)多量・ブロック(φ30㎜)極微量
SP-2856
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
SP-2857
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量
第2層　10YR1.7/1　黒色土　パミスブロック(φ10～20㎜)微量
第3層　10YR3/3　暗褐色土　パミスブロック(φ20～30㎜)極微量
第4層　10YR3/4　暗褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
SP-2858
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)中量
第2層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量
SP-2970
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)中量
SP-2859
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10㎜)微量
第2層　10YR5/8　黄褐色パミスブロック
SP-2860
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)中量
第2層　10YR1.7/1　黒色土
第3層　10YR2/1　黒色土
第4層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第5層　10YR5/6　黄褐色土
SP-2861
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量・ブロック(φ20～30㎜)微量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)多量・ブロック(φ20～30㎜)少量
第3層　10YR5/6　黄褐色パミスブロック
SP-2862
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1㎜)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土
SP-2863
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
第2層　10YR3/4　暗褐色土
SP-2864
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
第3層　10YR4/3　にぶい黄褐色土
SP-2865
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量・ブロック(φ30～40㎜)微量
第2層　10YR5/6　黄褐色土　暗褐色土(10YR3/3)少量混入
SP-2866
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量,焼土粒(φ1㎜)微量
第2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量
SP-2867
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量
第2層　10YR5/6　黄褐色土
SP-2868
第1層　10YR5/8　黄褐色土
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)中量
第4層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)・ブロック(φ20～30㎜)少量
第5層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ20～30㎜)中量
第6層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1㎜)少量
第7層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ20～30㎜)中量
第8層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)多量・ブロック(φ30～40㎜)中量
SP-2869
第1層　10YR2/1　黒色土
第2層　10YR5/6　黄褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)中量
SP-2870
第1層　10YR2/1　黒色土　焼土粒(φ1㎜)微量
SP-2871
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20㎜)少量
SP-2872
第1層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ10～30㎜)少量
第2※層10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)微量
SP-2886
第1層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ30㎜)少量
SP-2887
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ30～40㎜)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～7㎜)少量
第3層　10YR5/6　黄褐色土　黒色土少量混入
第4層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ2～3㎜)中量・ブロック(φ20～30㎜)微量,炭化粒(φ5㎜)極微量
SP-2888a
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～3㎜)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～7㎜)少量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5㎜)少量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5㎜)微量
第5層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3㎜)少量
第6層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5㎜)微量
第7層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ15～20㎜)少量
第8層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ3～5㎜)少量・ブロック(φ30㎜)極微量
SP-2888b
第9層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ30㎜)微量
第10層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～3㎜)・ブロック(φ20㎜)微量
SP-2889
第1層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ30㎜)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～5㎜)微量
SP-2890
第1層　10YR3/2　黒色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量
第2層　10YR2/1　黒褐色土　パミスブロック(φ30～40㎜)多量
SP-2891
第1層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ10㎜)多量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)中量
SP-2892
第①層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)中量
第②層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ10～25㎜)少量
第③層　10YR5/6　黄褐色パミスブロック
SP-2893
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)中量
SP-2894
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)中量
SP-2895
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)微量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)多量
第3層　10YR2/3　黒褐色土
第4層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ20～30㎜)中量
SP-2896
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1㎜)少量
第2層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
SP-2897
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)中量
SP-2898
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)中量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ30～40㎜)中量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量
SP-2900
第1層　10YR6/6　明黄褐色土　パミスブロック(φ20～30㎜)多量,ロームブロック(φ20～30㎜)多量
第2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　黒褐色土(10YR3/2)ブロック(φ10～20㎜)中量
第3層　10YR3/1　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)中量
SP-2901
第①層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
第②層　10YR1.7/1　黒色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
第③層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ロームブロック(φ20～30㎜)少量
第④層　10YR6/6　明黄褐色土　パミスブロック(φ30～40㎜)少量

SP-2902
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量,炭化粒(φ5～10㎜)少量
第2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック(φ30～50㎜)多量
SP-2903
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)微量
第2層　10YR7/6　明黄褐色パミスブロック
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
SP-2904
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30㎜)中量
第2層　10YR3/1　黒褐色土
第3層　10YR4/1　褐灰色土
第4層　10YR7/6　明黄褐色土
SP-2905
第1層　10YR3/2　黒褐色土　　パミス粒(φ1～10㎜)中量･ブロック(φ10～30㎜)
第2層　10YR6/6　明黄褐色パミス
SP-2906
第①層 10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量･ブロック(φ10～30㎜)中量
第②層 10YR7/6　明黄褐色ロームブロック
第③層 10YR3/3　暗褐色土　ローム粒(φ1～10㎜)中量
SP-2907
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)中量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)中量
SP-2908
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒･ブロック(φ1～30㎜)少量
SP-2909
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)･ブロック(φ20～30㎜)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量･ブロック(φ20～30㎜)多量
SP-2910
第1層　10YR2/1　黒色土　　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量
第3層　10YR2/1　黒色土　　パミス粒(φ5～10㎜)中量
第4層　10YR2/1　黒色土　　パミスブロック(φ20～30㎜)多量
第5層　10YR4/4　褐色土　　パミス粒(φ1～10㎜)少量
SP-2911
第①層 10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)多量･ブロック(φ11～20㎜)少量
SP-2912
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)･ブロック(φ11～20㎜)中量
第3層　10YR5/8　黄褐色土
SP-2954
第①層 10YR3/1　黒褐色土
第②層 10YR3/2　黒褐色土
SP-2955
第1層　10YR3/1　黒褐色土
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)多量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)多量
第5層　10YR2/1　黒色土　　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第6層　10YR2/1　黒色土　　パミス粒(φ1～10㎜)微量
第7層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
第8層　10YR5/6　黄褐色パミスブロック
第9層　10YR2/1　黒色土　　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第10層　10YR7/6　明黄褐色土
SP-2956
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量
第2層　10YR5/6　黄褐色パミスブロック
SP-2957
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量
第2層　10YR5/6　黄褐色パミスブロック
SP-2958
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)中量,炭化粒(φ5～10㎜)少量
第2層　10YR6/6　明黄褐色土
SP-2959
第1層　10YR2/1　黒色土　　炭化物(φ20～30㎜)少量
SP-2972
第①層 10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量
SP-2960
第1層　10YR2/1　黒色土　　パミスブロック(φ10～30㎜)中量
SP-2961
第1層　10YR2/1　黒色土　　パミス粒(φ5～10㎜)微量,炭化粒(φ5㎜)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量,炭化粒(φ5㎜)微量
第3層　10YR2/1　黒色土　　パミス粒(φ5㎜)微量
第4層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒･ブロック(φ5～20㎜)少量
第5層　10YR5/3　にぶい黄褐色土
SP-2962a
第1層　10YR2/1　黒色土　　パミス粒(φ1～5㎜)少量
第2層　10YR2/1　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)多量
第3層　10YR3/3　暗褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)多量
SP-2963
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)多量
第3層　10YR5/8　黄褐色パミス粒
SP-2964
第1層　10YR2/1　黒色土　　パミスブロック(φ20～30㎜)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)中量
第3層　10YR5/6　黄褐色パミスブロック
SP-2965
第1層　10YR2/1　黒色土　　パミス粒(φ1㎜)少量
SP-2988
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)微量･ブロック(φ10～15㎜)中量,炭化粒(φ5㎜)微量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)多量
SP-2990
第1層　10YR1.7/1 黒色土　　パミス粒(φ5～10㎜)少量,焼土粒(φ1㎜)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)中量
第3層　10YR2/1　黒色土　　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
SP-2991
第1層　10YR2/1　黒色土　　パミスブロック(φ10～30㎜)少量
第2層　10YR7/6　明黄褐色パミスブロック
SP-2992
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1㎜)少量,焼土粒(φ1㎜)微量
SP-2993
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1㎜)少量,焼土粒(φ1㎜)微量
SP-2994
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)少量
SP-2995
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30㎜)中量
第2層　10YR7/6　明黄褐色パミスブロック
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)多量
SP-2996a
第A層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒･ブロック(φ1～20㎜)多量
SP-2996b
第①層 10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)多量
第②層 10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量
SP-2997
第1層　10YR2/1　黒色土　　パミス粒(φ1～5㎜)･ブロック(φ10～20㎜)少量
SP-2998
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)中量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30㎜)多量
第3層　10YR5/6　黄褐色パミスブロック
第4層　10YR2/1　黒色土
SP-3012
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)多量
SP-3013
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)多量
第2層　10YR2/1　黒色土　　パミス粒(φ1㎜)少量
SP-3014
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)中量
第2層　10YR7/6　明黄褐色パミス
SP-3015
第①層 10YR3/2　黒褐色土　パミス粒･ブロック(φ1～15㎜)多量
SP-3016
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒･ブロック(φ1～15㎜)多量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1㎜)微量
SP-3098
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒･ブロック(φ1～30㎜)多量
SP-3099
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第2層　10YR5/6　黄褐色パミス
第3層　10YR3/1　黒褐色土　パミスブロック(φ10～15㎜)微量,根混入
SD-87
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)中量･ブロック(φ11～100㎜)多量
SP-3104
第①層 10YR2/2　黒褐色土 パミス粒(φ1～10㎜)微量,炭化粒(φ5㎜)微量

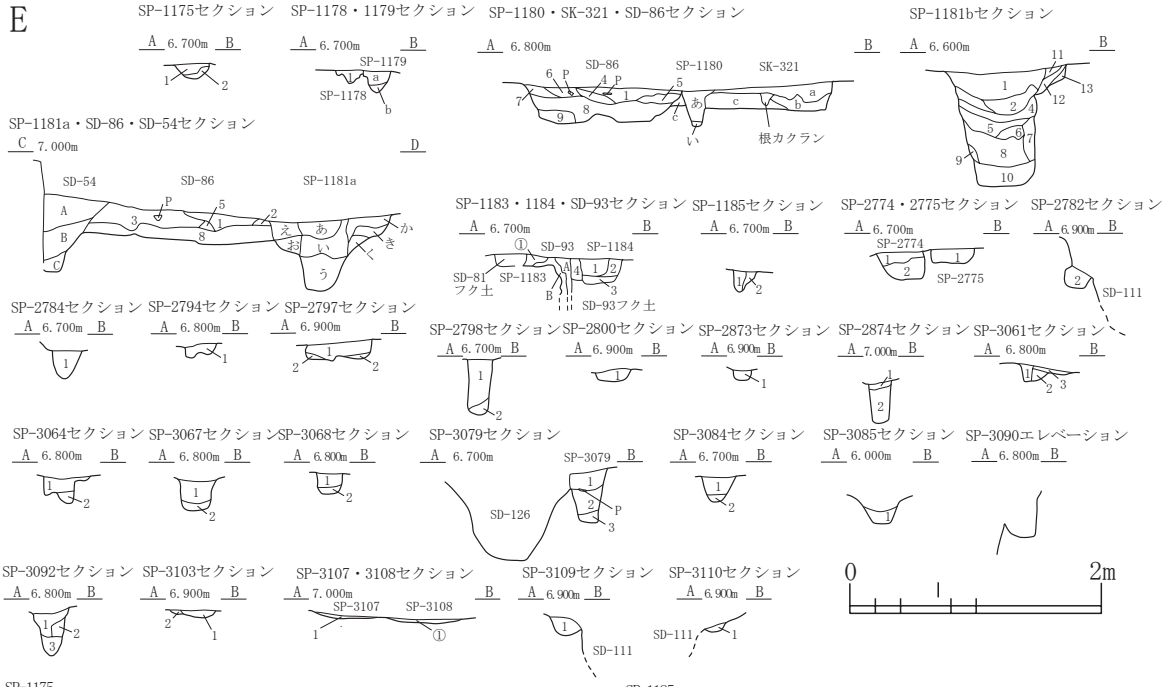
D



SP-2746
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量,炭化粒(φ1～2㎜)微量
SP-2756
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量,炭化粒(φ1～3㎜)少量
SP-2757
第1層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ1～2㎜)少量,炭化粒(φ1～2㎜)微量
第2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ1～2㎜)微量・ブロック(φ15～20㎜)少量,炭化粒(φ1～2㎜)微量
SP-2792
第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～15㎜)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20㎜)中量
SP-2899
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
第2層　10YR6/6　明黄褐色パミスブロック
SP-2913
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～9㎜)少量・ブロック(φ10～20㎜)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
第3層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～10㎜)中量
SP-2921
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30㎜)少量
SP-2922
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量
SP-2923
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第3層　10YR5/8　黄褐色パミスブロック
SP-2924
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)中量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
第3層　10YR2/3　黒褐色土
第4層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ15～20㎜)微量
SP-2925
第1層　10YR2/3　黒褐色土
SP-2926
第1層　10YR2/3　黒褐色土
第2層　10YR6/6　明黄褐色土
SP-2927
第1層　10YR2/3　黒褐色土
SP-2928
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)多量
第2層　10YR2/3　黒褐色土
SP-2929
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30㎜)少量
第2層　7.5YR3/4　暗褐色土　パミスブロック(φ20～30㎜)少量
第3層　10YR4/3　にぶい黄褐色土
SP-2930
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30㎜)少量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
第3層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ5～10㎜)中量
第4層　10YR6/6　明黄褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)中量
SP-2948
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1㎜)少量
第2層　5YR3/6　暗赤褐色土
第3層　N2/0　黒色土　ロームブロック(φ10～20㎜)中量,焼土粒(φ1㎜)微量
第4層　10YR1.7/1　黒色土
SP-2949
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量
第2層　10YR5/6　黄褐色パミスブロック
第3層　10YR1.7/1　黒色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
SP-3030a
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)・ブロック(φ10～20㎜)中量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)多量・ブロック(φ30～40㎜)中量
第3層　10YR6/6　明黄褐色パミスブロック
SP-3030b
第①層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)・ブロック(φ20～30㎜)多量
SP-3033
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量・ブロック(φ30㎜)微量
第2層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量
第3層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック(φ30～40㎜)多量
SP-3034
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
SP-3035
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)中量
第2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)微量
第3層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
SP-3036
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5㎜)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)中量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
SP-3037
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒・ブロック(φ5～20㎜)多量
SP-3038
第①層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1㎜)微量
SP-3039
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ20㎜)極微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30㎜)中量
第3層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ20～30㎜)中量
SP-3045
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10㎜)多量
SP-3047
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ5～30㎜)中量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ30～40㎜)多量
SP-3048
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒・ブロック(φ5～20㎜)多量
SP-3049
第①層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ30～40㎜)微量
第②層　10YR6/6　明黄褐色パミス粒
SP-3050
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量
SP-3066
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)中量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
第3層　10YR3/3　暗褐色土　ロームブロック(φ20㎜)微量
SP-3089
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5㎜)少量,炭化粒少量
SP-3094
第1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)少量
第2層　10YR5/6　黄褐色土　暗褐色土(10YR3/3)中量含む
第3層　10YR6/6　明黄褐色パミス
SP-3095
第1層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ10～30㎜)中量
SP-3096
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)・ブロック(φ20～30㎜)少量
SP-3097
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)中量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1㎜)少量
SP-3101
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15㎜)中量,焼土粒(φ1㎜)微量
SP-3102
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3㎜)中量・ブロック(φ20㎜)
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5㎜)少量,炭化粒(φ5㎜)少量
第3層　10YR6/6　明黄褐色パミスブロック
第4層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)少量
第5層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)少量
第6層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1㎜)少量
第7層　10YR7/6　明黄褐色パミス
第8層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量・ブロック(φ20～30㎜)中量
第9層　10YR3/3　暗褐色土　パミスブロック(φ10～30㎜)少量
SP-3669
第1層　10YR6/6　明黄褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)多量,ローム粒・ブロック(φ1～30㎜)多量,炭化粒(φ3～5㎜)微量

第 114 図　ピットセクション図等D

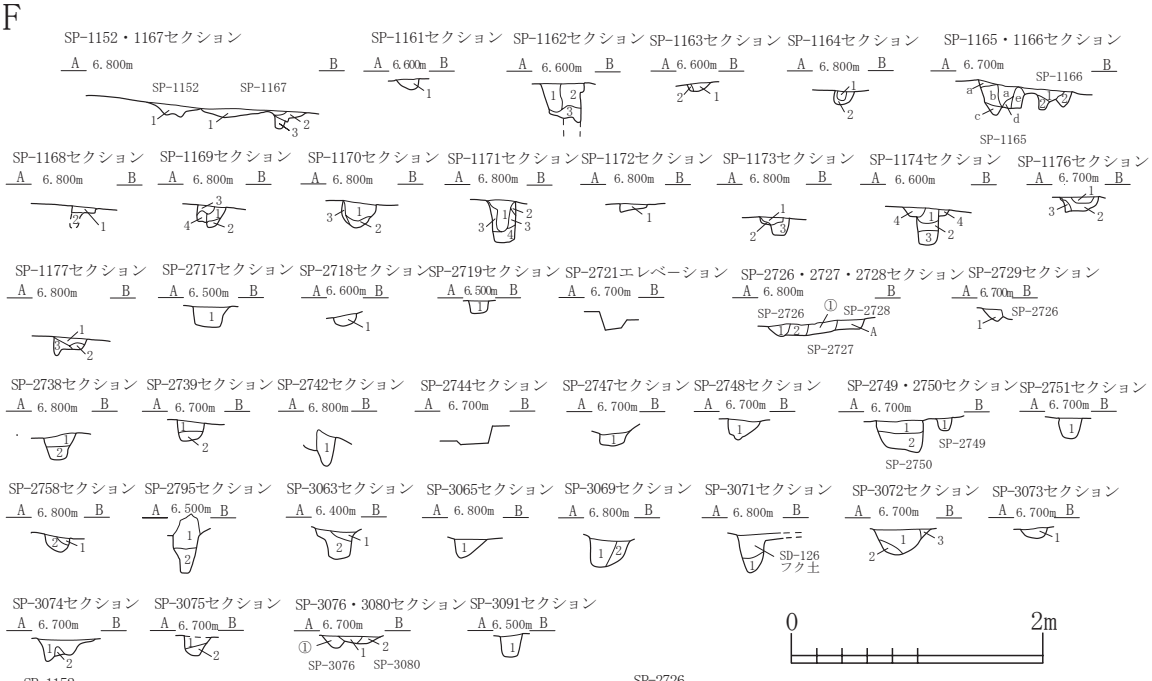
E



SP-1175
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量,B-Tm火山灰(φ5㎜)極微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20㎜)中量
SP-1178
第1層　7.5YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5㎜)少量
SP-1179
第a層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量・ブロック(φ10～15㎜)中量
第b層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)微量
SP-1180
第あ層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3㎜)少量
第い層　10YR2/1黒色土と10YR5/6黄褐色土の混合土
SK-321
第a層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)やや多量,炭化粒(φ1～3㎜)少量,
焼土粒(φ1～3㎜)少量
第b層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3㎜)少量
第c層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10㎜)やや多量
SD-86
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)やや多量,炭化物(φ1～3㎜)少量,
焼土粒(φ1～3㎜)少量
第2層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～6㎜)多量
第3層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量
第4層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　焼土粒(φ2～8㎜)やや多量
第5層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～3㎜)少量
第6層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)多量
第7層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～8㎜)やや多量,炭化粒(φ1～3㎜)少量,
焼土粒(φ1～3㎜)少量
第8層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10㎜)やや多量
第9層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)・ブロック(φ12～15㎜)少量
SP-1181b
第１層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3㎜)極微量,炭化粒(φ1～5㎜)極微量,
焼土粒(φ1～3㎜)極微量
第２層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)極微量,炭化粒(φ1～10㎜)微量,
炭化物状のもの(10×20cm)範囲で多量,焼土粒(φ2.3㎜)極微量
第３層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)微量,炭化粒(φ1～5㎜)少量,
炭化材(φ15㎜)極微量,炭化物状のもの(φ2～4cm)少量
第４層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量,炭化粒(φ1～5㎜)微量,
焼土粒(φ2㎜)極微量
第５層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量,炭化粒(φ1～3㎜)微量,
炭化材(φ15㎜)極微量,炭化物粒のもの(3×3cm)の範囲で微量,
焼土粒(φ1～3㎜)極微量
第６層　10YR4/4　褐色土　パミスブロック
第７層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)中量,パミスブロック(φ10～15㎜)微量,
焼土粒(φ1～3㎜)微量
第８層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5㎜)微量,炭化粒(φ1～8㎜)微量,
焼土粒(φ1～3㎜)極微量
第９層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3㎜)中量
第10層　10YR2/2　黒褐色土とパミス粒(φ1～10㎜)が縞状に堆積,炭化粒(φ2～5㎜)微量
第11層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3㎜)少量,炭化物粒(φ2～3㎜)極微量,
焼土粒(φ2㎜)極微量
第12層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8㎜)少量,炭化粒(φ1～3㎜)微量
焼土粒(φ2～5㎜)極微量
第13層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2㎜)微量,炭化粒(φ1～2㎜)極微量,
火山灰(1×2cm)の範囲で少量
SP-1181a
第あ層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3㎜)少量,炭化粒(φ1～3㎜)少量,
焼土粒(φ1～3㎜)少量
第い層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2㎜)少量
第う層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2㎜)少量
第え層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3㎜)やや多量,焼土粒(φ1㎜)微量
第お層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3㎜)やや多量
第か層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3㎜)やや多量,炭化粒(φ3～10㎜)やや多量,
焼土粒(φ2～4㎜)少量
第き層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)多量,焼土粒(φ5㎜)少量
第く層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～3㎜)多量
SP-1183
第①層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ20㎜)微量
SP-1184
第1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒(φ1㎜)少量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量,焼土粒(φ5㎜)微量
第3層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)中量,白色ローム粒(φ1～10㎜)少量,
炭化粒(φ5～10㎜)・炭化物(φ11～15㎜)少量
第4層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5㎜)少量
SP-1185
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)少量
SP-2774
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)微量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～30㎜)多量
SP-2775
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量・ブロック(φ11～20㎜)中量,
焼土粒(φ3～5㎜)少量
SP-2782(第99図参照)
第2層　10YR4/2　灰黄褐色土 パミス粒(φ3～10㎜)微量
SP-2784
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)中量
SP-2794
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～5㎜)微量,ローム粒(φ2～5㎜)少量,
炭化粒(φ2㎜)微量
SP-2797
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)中量
第2層　10YR4/2　灰黄褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20㎜)多量
SP-2798
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20㎜)中量
第2層　10YR2/3黒褐色土と10YR6/6明黄褐色土の混合土
SP-2800
第1層　10YR2/3 黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)中量・ブロック(φ11～70㎜)多量
SP-2873
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量・ブロック(φ20～30㎜)少量
SP-2874
第1層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ10㎜)少量
第2層　10YR1.7/1　黒色土　パミスブロック(φ10～30㎜)微量
SP-3061
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5㎜)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)中量
SP-3064
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)中量
第2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)多量
SP-3067
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)微量
第2層　10YR5/6　黄褐色パミスブロック
SP-3068
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)中量
第2層　10YR5/6　黄褐色パミスブロック
SP-3079
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10㎜)中量
第3層　10YR4/2　灰黄褐色土　ロームブロック(φ10～30㎜)中量
SP-3084
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15㎜)少量
SP-3085
第1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20㎜)多量
SP-3092
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ3～15㎜)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ5～50㎜)多量
第3層　10YR5/6黄褐色土と10YR2/2黒褐色土(少量)の混合土
SP-3103
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)微量・ブロック(φ20～30㎜)少量
第2層　10YR4/4　褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)多量
SP-3107
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20㎜)少量
SP-3108
第①層　10YR2/2　黒褐色土 パミス粒(φ1～10㎜)少量
SP-3109
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)中量・ブロック(φ20㎜)少量
SP-3110
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)多量

第 115 図　ピットセクション図等E

F

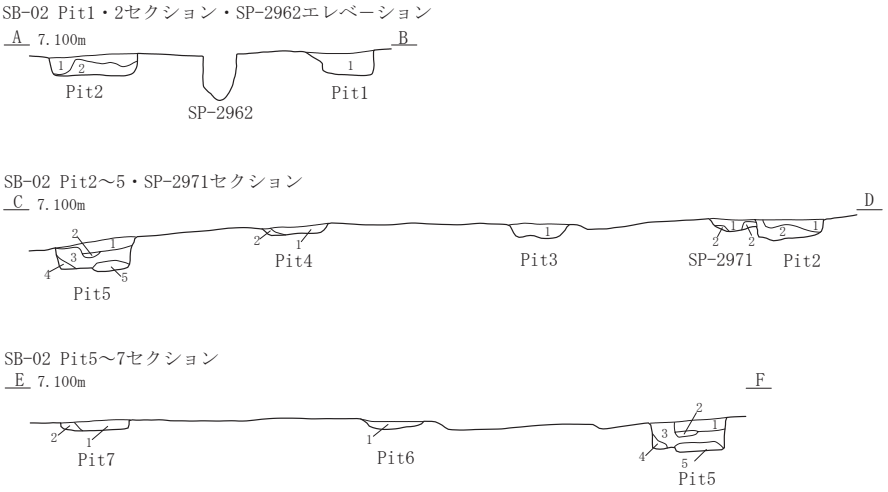


SP-1152
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10～20mm)微量
SP-1167
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ20mm)微量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量・ブロック(φ10mm)微量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量・ブロック(φ10mm)微量
SP-1161
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5mm)微量
SP-1162
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)微量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15mm)中量
第3層　10YR3/3暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合土　パミスブロック(φ10～40mm)中量
SP-1163
第1層　10YR3/2　黒褐色土　　パミス粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～15mm)中量
SP-1164
第1層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ1～3mm)多量・ブロック(φ10mm)微量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
SP-1165
第a層　10YR2/2　黒褐色土　　パミス粒(φ5mm)少量, 礫(φ5～10mm)少量
第b層　10YR3/2　黒褐色土　　パミス粒(φ1～10mm)やや多量
第c層　10YR2/3　黒褐色土　　パミス粒(φ1～10mm)中量・ブロック(φ20～25mm)多量
第d層　10YR3/3　暗褐色土　　パミス粒(φ1mm)多量
第e層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック(φ20mm)少量
SP-1166
第1層　10YR2/1　黒色土　　パミス粒・ブロック(φ5～20mm)少量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)中量
SP-1168
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ10～20mm)微量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
SP-1169
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第2層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ5mm)少量
第3層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～35mm)多量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ30mm)微量
SP-1170
第1層　10YR2/3　黒褐色土　　パミス粒(φ5～10mm)・ブロック(φ20mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　　パミスブロック(φ20mm)少量
第3層　7.5YR4/3 にぶい黄褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)多量
SP-1171
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)・ブロック(φ10～20mm)中量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ30～40mm)中量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)・ブロック(φ10～15mm)少量,
　焼土粒(φ5mm)微量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)・ブロック(φ20mm)微量
SP-1172
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5mm)中量
SP-1173
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)多量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)微量, 砂混入
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)多量・ブロック(φ10mm)微量
SP-1174
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5mm)極微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)少量
第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)中量
第4層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒・ブロック(φ1～20mm)やや多量
SP-1176
第1層　10YR3/2　黒褐色土　　パミスブロック(φ30～70mm)少量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　　パミス粒(φ5mm)少量
第3層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ5mm)微量
SP-1177
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)微量
第2層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ1～2mm)多量・ブロック(φ10mm)少量
第3層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～2mm)・ブロック(φ10mm)微量
SP-2717
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～3mm)微量,
　ローム粒(φ1～5mm)少量
SP-2718
第1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～2mm)微量
SP-2719
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～3mm)極微量,
　ローム粒(φ1～10mm)微量
SP-2726
第1層　10YR2/1　黒色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　ローム粒(φ1～10mm)少量
SP-2727
第①層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～10mm)少量, 炭化粒(φ3mm)極微量,
　焼土粒(φ2mm)極微量
SP-2728
第A層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～50mm)中量
SP-2729
第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～10mm)少量
SP-2738
第1層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～3mm)・ブロック(φ10mm)少量, 炭化粒
　(φ1～3mm)少量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量, 炭化粒(φ1～2mm)少量
SP-2739
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～9mm)少量, ローム粒(φ1～5mm)微量,
　炭化粒(φ1～2mm)微量, 焼土粒(φ1～3mm)微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～7mm)微量, ローム粒(φ1～7mm)・
　ブロック(φ10～12mm)微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
SP-2742
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)・ブロック(φ20～30mm)少量,
　炭化粒(φ1～2mm)微量
SP-2747
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)微量, ローム粒(φ1～3mm)微量・ブロック
　(φ20mm)極微量, 炭化粒(φ1～2mm)微量, 焼土粒(φ1～2mm)微量
SP-2748
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)微量, ローム粒(φ1～5mm)微量・
　ブロック(φ10～60mm)中量, 炭化粒(φ1～2mm)微量,
　焼土粒(φ2mm)微量
SP-2749
第1層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ1～2mm)少量, 炭化粒(φ1～2mm)微量
SP-2750
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量, ローム粒(φ1～2mm)少量,
　炭化粒(φ1～2mm)少量, 焼土粒(φ1～2mm)微量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～3mm)・ブロック(φ10～25mm)少量,
　ローム粒(φ1～2mm)微量, 炭化粒(φ1～2mm)微量
SP-2751
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量, 炭化粒(φ1～2mm)少量, 焼土粒
　(φ1～2mm)微量
SP-2758
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)少量, 炭化粒(φ1～2mm)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量, 炭化粒(φ1～3mm)微量
SP-2795
第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～2mm)極微量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ1～20mm)中量
SP-3063
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミスブロック(φ10～30mm)中量
第2層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1mm)少量
SP-3065
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)少量
SP-3069
第1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)微量
第2層　10YR3/4　暗褐色土　　パミス粒(φ1～5mm)中量
SP-3071
第1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒(φ1～5mm)多量
SP-3072
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)中量
第2層　10YR7/6　明黄褐色　パミス
第3層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ20mm)微量
SP-3073
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1mm)微量
SP-3074
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～5mm)微量
第2層　10YR5/6　黄褐色　パミスブロック
SP-3075
第1層　10YR2/1　黒色土　　パミス粒(φ5～10mm)少量
第2層　10YR5/6　黄褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)多量
SP-3076
第①層　10YR3/1　黒褐色土　焼土粒(φ5mm)少量
SP-3080
第1層　10YR4/1　褐灰色土　　ローム粒(φ5～10mm)少量
第2層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　パミス粒・ブロック(φ5～20mm)多量
SP-3091
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)微量

第 116 図　ピットセクション図等F

第 117 図　SB-01・02・03 位置図

SB-02セクション



SB-03セクション

SB-02Pit1
第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～9mm)少量･ブロック(φ10～20mm)微量,炭化粒(φ1～7mm)微量,焼土粒(φ1～5mm)極微量

SB-02Pit2
第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～9mm)少量･ブロック(φ10～20mm)微量,炭化粒(φ1～7mm)微量,焼土粒(φ1～5mm)極微量
第2層　10YR2/1　黒色土　ローム粒(φ1～7mm)少量･ブロック(φ10～20mm)微量,炭化粒(φ2mm)極微量,焼土粒(φ3mm)極微量

SB-02Pit3
第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～9mm)･ブロック(φ10～45mm)少量,炭化粒(φ1～7mm)微量,焼土粒(φ1～6mm)極微量

SB-01Pit4
第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～9mm)少量･ブロック(φ10～40mm)微量,炭化粒(φ1～9mm)微量,焼土粒(φ1mm)極微量
第2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒(φ1～5mm)少量･ブロック(φ10～30mm)中量

SB-02Pit5
第1層　10YR2/1　黒色土　ローム粒(φ1～9mm)少量･ブロック(φ10～20mm)微量,炭化粒(φ1～8mm)微量,焼土粒(φ2mm)極微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～9mm)少量･ブロック(φ10～15mm)微量,炭化粒(φ4mm)極微量,焼土粒(φ2mm)極微量
第3層　10YR4/4　褐色土　ローム粒(φ1～9mm)･ブロック(φ15～50mm)少量,炭化粒(φ5～9mm)微量
第4層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)少量･ブロック(φ15～20mm)微量
第5層　10YR5/6　黄褐色土　ローム粒(φ1～7mm)少量･ブロック(φ10～20mm)中量,炭化粒(φ2mm)極微量

SB-02Pit6
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9mm)微量,ローム粒(φ1～9mm)少量･ブロック(φ10mm)微量,炭化粒(φ3mm)極微量,焼土粒(φ1～5mm)極微量

SB-02Pit7
第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～9mm)･ブロック(φ10～20mm)少量,炭化粒(φ1～5mm)微量,焼土粒(φ1～2mm)極微量
第2層　10YR4/4　褐色土　ローム粒(φ2～6mm)少量･ブロック(φ10mm)微量

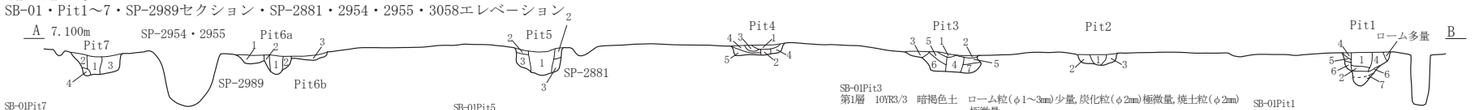
SP-2971
第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)微量･ブロック(φ20mm)微量,パミスブロック(φ25mm)微量,炭化粒(φ2mm)極微量,焼土粒(φ2mm)極微量
第2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～8mm)中量･ブロック(φ10～40mm)多量

SB-03Pit1
第1層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒(φ1～5mm)少量･ブロック(φ10mm)微量,炭化粒(φ2～5mm)微量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)･ブロック(φ20mm)微量,炭化粒(φ2～5mm)微量,焼土粒(φ1mm)極微量･ブロック(φ15mm)微量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒(φ1～6mm)少量･ブロック(φ25mm)微量,炭化粒(φ2mm)極微量,焼土粒(φ1～6mm)微量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～6mm)微量,炭化粒(φ3mm)極微量

第 118 図　SB-02・03 セクション

SB-01セクション

SB-01・Pit1～7・SP-2989セクション・SP-2881・2954・2955・3058エレベーション



SB-01Pit7
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～8mm)少量・ブロック(φ10～20mm)微量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ2～5mm)微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ1～3mm)微量, 焼土粒(φ2mm)微量
第3層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1～9mm)少量・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ2mm)微量
第4層 10YR3/4 暗褐色土 パミス粒(φ2mm)少量, ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～20mm)多量

SB-01Pit6
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)・ブロック(φ10～25mm)少量, 炭化粒(φ5mm)極微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～8mm)少量・ブロック(φ10～20mm)中量, 炭化粒(φ3mm), 焼土粒(φ5mm)極微量
第3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)中量・ブロック(φ10～45mm)多量, 炭化粒(φ2～5mm)微量, 炭化物(φ10mm)極微量, 焼土粒(φ2mm)極微量

SB-01Pit5
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10mm)少量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ3mm)極微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)微量, 炭化粒(φ3mm)極微量, 焼土粒(φ1mm)極微量
第3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10～25mm)微量, 炭化粒(φ5mm)極微量

SB-01Pit4
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～7mm)・ブロック(φ10～20mm)微量, 炭化粒(φ2～5mm)微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ4mm)微量・ブロック(φ12mm)極微量, 炭化粒(φ2mm)極微量
第3層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1～8mm)少量・ブロック(φ15mm)微量, 炭化粒(φ2mm)極微量
第4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ2mm)極微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第5層 10YR4/6 褐色土 ローム粒(φ3～7mm)少量・ブロック(φ10～25mm)多量

SB-01Pit3
第1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1～3mm)少量, 炭化粒(φ2mm)極微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ7mm)少量, 炭化粒(φ2mm)極微量, 焼土粒(φ2mm)微量, にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土ブロック(φ10mm)微量
第3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～7mm)・ブロック(φ10～45mm)少量, 炭化粒(φ3mm)極微量, 焼土粒(φ4mm)極微量, にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土ブロック(φ10mm)微量
第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)少量, 炭化粒(φ2～9mm)微量
第5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)微量, 炭化粒(φ5mm)極微量
第6層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～7mm)中量・ブロック(φ10～30mm)少量, 炭化粒(φ2mm)極微量, 焼土粒(φ1mm)極微量
第7層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～7mm)少量・ブロック(φ10～40mm)中量, 炭化粒(φ3mm)微量, 焼土粒(φ2mm)極微量

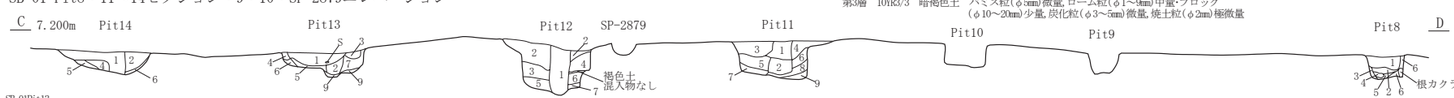
SB-01Pit2
第1層 10YR2/3 黒褐色土 パミス粒(φ5mm)微量, ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ20mm)微量, 炭化粒(φ3mm)微量, 焼土粒(φ3mm)微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ5mm)微量, ローム粒(φ1～7mm)・ブロック(φ10～15mm)中量, 炭化粒(φ3～7mm)微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第3層 10YR3/3 暗褐色土 パミス粒(φ5mm)微量, ローム粒(φ1～9mm)中量・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ3～5mm)微量, 焼土粒(φ2mm)極微量

SB-01Pit1
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～7mm)・ブロック(φ10～15mm)中量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ2mm)微量
第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～7mm)微量・ブロック(φ10mm)極微量, 炭化粒(φ5mm)極微量
第3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ2mm)・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ2mm)微量, 焼土粒(φ1mm)極微量
第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)中量・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ2～5mm)微量, 焼土粒(φ1mm)極微量
第5層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ2～5mm)微量, 焼土粒(φ1mm)極微量
第6層 10YR5/8 黄褐色土 パミスブロック(φ10mm)少量
第7層 10YR4/6 褐色土 パミスブロック(φ10～15mm)少量

SB-01 Pit7・14・21セクション・SP-2842エレベーション

SB-01Pit14
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～8mm)・ブロック(φ10～25mm)少量, 炭化粒(φ2mm)微量, 焼土粒(φ1～2mm)微量, 明褐色(7.5YR5/6)粘土ブロック(φ10～15mm)微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～50mm)中量
第3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ3mm)微量, 炭化粒(φ2mm)極微量
第4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ5mm)中量・ブロック(φ10～60mm)多量, 焼土粒(φ3mm)微量
第5層 10YR5/6 黄褐色ローム パミス粒(φ5mm)少量
第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10～30mm)中量(Pit13の5層と対応)
第7層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10～30mm)多量

SB-01 Pit8・11～14セクション・9・10・SP-2879エレベーション



SB-01Pit13
第1層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ5～7mm)微量, ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10～13mm)少量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ1～3mm)極微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～7mm)少量・ブロック(φ10～20mm)微量, 炭化粒(φ5mm)極微量, 焼土粒(φ1mm)極微量
第3層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～5mm)微量・ブロック(φ10mm)極微量, 炭化粒(φ2mm)極微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第4層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ2mm)極微量
第5層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ5mm)少量・ブロック(φ30mm)中量, (Pit14の6層と対応)
第6層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～7mm)・ブロック(φ10～30mm)多量, に.5Y 褐色(7.5YR5/4)粘土ブロック(φ20mm)微量
第7層 10YR2/1黒色土と10YR2/2黒褐色土の混合土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ15mm)微量, 炭化粒(φ3mm)極微量, 褐色(10YR4/6)粘土ブロック(φ20mm)微量
第8層 10YR5/6 黄褐色ローム パミス粒(φ7mm)微量
第9層 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10～30mm)多量, 黒褐色土(10YR2/2)少量混入

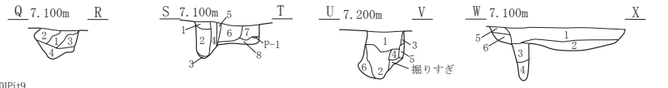
SB-01Pit12
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～15mm)少量, 炭化粒(φ3～5mm)微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～7mm)少量・ブロック(φ10～30mm)微量, 炭化粒(φ2～5mm)極微量, 焼土粒(φ3～5mm)微量
第3層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～30mm)微量, 炭化粒(φ2mm)極微量
第4層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～30mm)微量, 炭化粒(φ2mm)極微量, 層下部に褐色土(10YR4/4)層状に混入
第5層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ5～7mm)・ブロック(φ10～30mm)多量, 焼土粒(φ5mm)極微量, 橙色(7.5YR5/6)粘土ブロック(φ20mm)少量
第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ3mm)極微量
第7層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5mm)微量・ブロック(φ10～25mm)中量

SB-01Pit11
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)少量・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ5mm)微量
第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10～15mm)少量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ5mm)微量
第3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～7mm)・ブロック(φ10～30mm)多量, 炭化粒(φ6mm)微量, 焼土粒(φ3mm)微量
第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)微量, 炭化粒(φ3mm)極微量, 焼土粒(φ3mm)極微量
第5層 10YR2/1 黒色土 ローム粒・ブロック(φ1～10mm)微量
第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～3mm)微量, 炭化粒(φ2mm)極微量
第7層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～7mm)・ブロック(φ10～30mm)多量
第8層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～5mm)微量
第9層 10YR4/4 褐色 パミス粒(φ3～7mm)微量, ローム粒(φ1～5mm)中量

SB-01Pit8
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～9mm)多量・ブロック(φ10～15mm)微量, 炭化粒(φ2mm)微量, 焼土粒(φ1～5mm)微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)少量・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ2mm)極微量, 焼土粒(φ1mm)極微量, 褐色(10YR4/6)粘土ブロック(φ40mm)中量
第3層 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒(φ1～7mm)中量・ブロック(φ10～30mm)多量, 炭化粒(φ2mm)極微量, 焼土粒(φ1mm)極微量
第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ5mm)極微量
第5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5mm)微量・ブロック(φ40mm)中量, 焼土粒(φ4mm)極微量
第6層 10YR5/6 黄褐色土 パミスブロック(φ3mm)微量, ローム粒(φ1～7mm)少量

F

SB-01 Pit9セクションSB-01 Pit10セクション SB-01 Pit15セクション SB-01 Pit21セクション

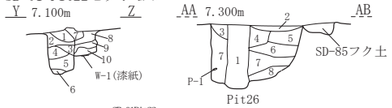


SB-01Pit9
第1層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ5mm)微量, ローム粒(φ1～8mm)・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ3～5mm)微量, 焼土粒(φ3mm)極微量
第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～7mm)・ブロック(φ10～60mm)少量, 炭化粒(φ2～5mm)微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～20mm)中量, 炭化粒(φ3mm)微量, 焼土粒(φ5mm)極微量
第4層 10YR5/6 黄褐色土 パミス粒(φ5mm)微量

SB-01Pit10
第1層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)微量, 炭化粒(φ5mm)極微量, 焼土粒(φ3mm)極微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ3mm)極微量・炭化物(φ10mm)微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第3層 7.5YR4/4 褐色土 ローム粒(φ5mm)微量, 褐色(10YR4/6)粘土ブロック(φ10～20mm)多量
第4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ2～5mm)極微量
第5層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～5mm)微量, 炭化物(φ10mm)微量
第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～15mm)少量, 炭化粒(φ1～5mm)極微量, 焼土粒(φ1～2mm)極微量
第7層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10～20mm)微量, 炭化粒(φ1～7mm)極微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第8層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1～6mm)・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ1～5mm)極微量, 焼土粒(φ2mm)極微量

SB-01Pit15
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～6mm)・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ1～3mm)微量, 焼土粒(φ1～3mm)微量
第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～7mm)少量・ブロック(φ10～15mm)中量, 炭化粒(φ1～3mm)少量
第3層 10YR3/3 暗色土 ローム粒(φ1～5mm)中量, 炭化粒(φ1～2mm)微量, 焼土粒(φ1～3mm)少量
第4層 10YR2/3 褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量, 炭化粒(φ1～2mm)微量, 焼土粒(φ1～3mm)微量
第5層 7.5YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～6mm)・ブロック(φ15mm)少量, 炭化粒(φ1～3mm)微量
第6層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1～7mm)・ブロック(φ10～25mm)少量, 炭化粒(φ1～3mm)微量

SB-01 Pit22セクション SB-01 Pit26セクション



SB-01Pit22
第1層 7.5YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10mm)少量, 炭化粒(φ3mm)微量, 焼土粒(φ1～9mm)少量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ3mm)極微量, 焼土粒(φ1～5mm)微量
第3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ20mm)微量, 炭化粒(φ3mm)極微量, 焼土粒(φ1～2mm)微量
第4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ15mm)微量, 炭化粒(φ2～5mm)微量, 焼土粒(φ1～3mm)少量
第5層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)微量, 炭化粒(φ1～5mm)微量
第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～15mm)少量, 炭化粒(φ1～5mm)極微量, 焼土粒(φ1～3mm)極微量
第7層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～2mm)微量, 炭化粒(φ3～5mm)極微量, 焼土粒(φ1mm)微量
第8層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ1～7mm)極微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第9層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～30mm)中量, 炭化粒(φ2～5mm)微量, 焼土粒(φ1～3mm)微量
第10層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10～30mm)中量, 炭化粒(φ2～5mm)微量, 焼土粒(φ1mm)微量
第11層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ2mm)微量, 焼土粒(φ5mm)・ブロック(φ15mm)微量

SB-01Pit26
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)中量・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ3mm)微量, 焼土粒(φ2～5mm)微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)少量・ブロック(φ20mm)微量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ2～5mm)微量・ブロック(φ15mm)極微量
第3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～7mm)・ブロック(φ20mm)中量, 炭化粒(φ5mm)極微量, 焼土粒(φ1～2mm)微量, にぶい黄褐色(10YR5/3)粘土ブロック(φ20～55mm)中量
第4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～7mm)中量・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ3mm)極微量, 焼土粒(φ5mm)微量
第5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10～20mm)中量, 炭化粒(φ2mm)極微量, 焼土粒(φ3～7mm)微量
第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)中量・ブロック(φ15～50mm)多量, 炭化粒(φ3mm)微量, 焼土粒(φ2～5mm)微量, にぶい黄橙色(10YR6/4)粘土ブロック(φ10mm)微量
第7層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10～40mm)微量, 炭化粒(φ3mm)微量, 焼土粒(φ2～7mm)微量, にぶい黄橙色(10YR6/4)粘土ブロック(φ30mm)微量
第8層 10YRL 7/1 黒色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～20mm)多量

SB-01Pit27
第1層 10YR2/3 暗褐色土 パミス粒(φ1～9mm)微量, ローム粒(φ1～5mm)中量・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ2mm)極微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第2層 10YR5/6 黄褐色土 パミス粒(φ4mm)微量, ローム粒(φ5mm)中量・ブロック(φ10～50mm)多量, 炭化粒(φ3mm)極微量, 焼土粒(φ1mm)極微量
第3層 10YR2/3 黒褐色土 パミスブロック(φ10mm)微量, ローム粒(φ1～6mm)多量・ブロック(φ10～20mm)中量, 炭化粒(φ2～5mm)微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第4層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ5mm)微量, ローム粒(φ1～9mm)多量・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ2～9mm)微量, 焼土粒(φ3mm)極微量
第5層 10YR4/4 褐色土 パミスブロック(φ10～20mm)微量, ローム粒(φ1～9mm)多量・ブロック(φ10～50mm)中量
第6層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)少量・ブロック(φ20mm)微量, 炭化粒(φ2mm)極微量, 焼土粒(φ2～3mm)・ブロック(φ10mm)微量, 白色混入物(骨片?)有
第7層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ5mm)中量・ブロック(φ10～80mm)多量
第8層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～40mm)少量, 焼土粒(φ1～5mm)微量
第9層 10YRL 7/1 黒色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ15mm)微量
第10層 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒(φ5mm)・ブロック(φ10mm)少量
第11層 10YR5/8 黄褐色土 ロームブロック(φ10～50mm)多量
第12層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10～15mm)微量, 炭化粒(φ2mm)微量, 焼土粒(φ2mm)極微量

SB-01Pit28
第1層 10YR2/3 黒褐色土 パミス粒(φ5mm)極微量, ローム粒(φ1～9mm)少量, 炭化粒(φ3mm)微量, 焼土粒(φ2mm)微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～4mm)微量, 炭化粒(φ3mm)微量, 焼土粒(φ3mm)極微量
第3層 10YR2/3 黒褐色土 パミス粒(φ5mm)微量, ローム粒(φ1～5mm)微量, 炭化粒(φ3mm)極微量, 焼土粒(φ5mm)極微量
第4層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10～20mm)中量, 炭化粒(φ3mm)極微量
第5層 10YR5/6 黄褐色土 パミス粒(φ5mm)少量
第6層 10YR5/6 黄褐色土

SB-01Pit30
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)微量・ブロック(10～50mm)少量, 炭化粒(φ1～6mm)微量, 焼土粒(φ5mm)微量
第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～30mm)少量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)・ブロック(φ20mm)少量, 炭化粒(φ3mm)極微量, 焼土粒(φ1mm)極微量
第4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)多量・ブロック(φ10～30mm)少量

SB-01Pit31
第1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～3mm)微量, 炭化粒(φ7mm)極微量, 焼土粒(φ1～3mm)微量
第2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ2mm)微量, 炭化粒(φ2mm)極微量, 焼土粒(φ1～5mm)少量, にぶい黄橙色(10YR4/3)灰層全体に多量混入
第3層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～9mm)微量, 炭化粒(φ5mm)極微量, 焼土粒(φ1～3mm)極微量
第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～50mm)少量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ3mm)極微量, にぶい黄橙色(10YR3/3)灰少量混入
第5層 10YRL 7/1 黒色土 ローム粒(φ1～2mm)微量, 炭化粒(φ3mm)極微量, 焼土粒(φ1～5mm)微量

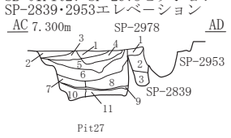
SB-01Pit32
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ1～5mm)微量, 焼土粒(φ1～5mm)微量
第2層 10YR4/4 褐色土 ローム粒(φ5mm)微量, 褐色(10YR4/6)粘土ブロック(φ10～70mm)多量
第3層 10YR4/6 褐色土 ローム粒(φ1～5mm)多量・ブロック(φ10～80mm)中量, 炭化粒(φ2mm)微量, 焼土粒(φ2～5mm)微量
第4層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ15mm)微量, 炭化粒(φ3mm)微量, 焼土粒(φ1mm)微量
第5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～20mm)少量, 焼土粒(φ1～3mm)微量

SB-01Pit33
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～2mm)微量・ブロック(φ10～20mm)少量, 焼粒(φ7mm)微量, 焼土粒(φ2～5mm)微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)微量・ブロック(φ10～18mm)微量, 炭化粒(φ3～5mm)微量, 焼土粒(φ1～5mm)微量
第3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)微量, 炭化粒(φ1～5mm)微量
第4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10～60mm)少量, 焼土粒(φ1～5mm)微量
第5層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)微量, 炭化粒(φ1～5mm)微量
第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)微量, 炭化粒(φ3～5mm)極微量, 焼土粒(φ1mm)微量
第7層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～2mm)微量, 炭化粒(φ3～5mm)極微量, 焼土粒(φ1mm)微量
第8層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ1～5mm)微量, 焼土粒(φ1～3mm)微量
第9層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～30mm)少量, 炭化粒(φ2～5mm)微量, 焼土粒(φ1～3mm)微量
第10層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10～30mm)中量, 炭化粒(φ2～5mm)微量, 焼土粒(φ1mm)微量
第11層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ2mm)微量, 焼土粒(φ5mm)・ブロック(φ15mm)微量

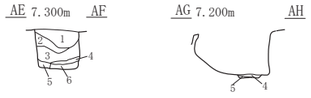
SB-01Pit34
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量, 炭化粒(φ2～3mm)・焼土粒(φ1～3mm)微量
第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)少量・ブロック(φ10～30mm)中量, 炭化粒(φ1～5mm)微量, 焼土粒(φ5mm)微量
第3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)・ブロック(φ10～30mm)中量, 炭化粒(φ3mm)微量
第4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～15mm)少量, 炭化粒(φ3mm)微量
第5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～50mm)少量, 炭化粒(φ2mm)極微量
第6層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10～30mm)微量, 炭化粒(φ3mm)極微量, 焼土粒(φ3mm)微量
第7層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～8mm)・ブロック(φ10～15mm)少量, 炭化粒(φ3mm)微量, 焼土粒(φ1～7mm)微量

SB-01Pit17
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～10mm)少量, 炭化粒(φ1～3mm)微量, 焼土粒(φ1～2mm)極微量
第2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～10mm)中量, 炭化粒(φ1～3mm)少量
第3層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～2mm)微量, 炭化粒(φ1～2mm)微量, 焼土粒(φ1～2mm)極微量, 火山灰粒(φ1～3mm)微量
第4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ1～2mm)微量, 焼土粒(φ1～2mm)極微量
第5層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量, 炭化粒(φ1～2mm)
第6層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)中量・ブロック(φ10～20mm)少量, 炭化粒(φ1～3mm)少量

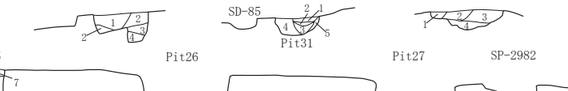
SB-01Pit27・SP-2978セクション・SP-2839・2953エレベーション



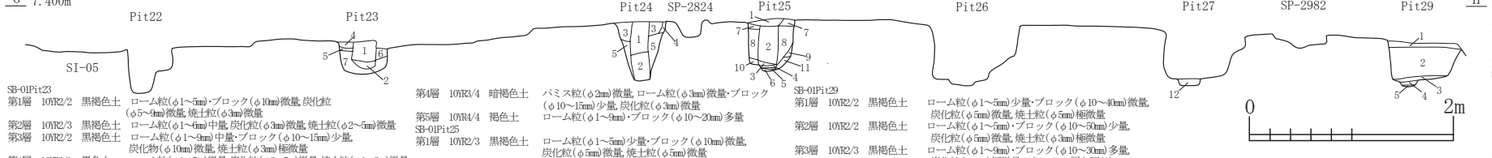
SB-01 Pit28セクション SB-01 Pit29セクション



SB-01 Pit30セクション SB-01 Pit31セクション SB-01 Pit33セクション



SB-01 Pit23～25・29セクション・Pit22・26・27・SP-2824・2982エレベーション



SB-01Pit23
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ5～9mm)微量, 焼土粒(φ3mm)微量
第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)中量, 炭化粒(φ3mm)微量, 焼土粒(φ2～5mm)微量
第3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)中量・ブロック(φ10～15mm)少量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ1～3mm)極微量
第4層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～5mm)微量, 炭化粒(φ2～5mm)微量, 焼土粒(φ1～3mm)微量
第5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10～15mm)少量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ2mm)極微量
第6層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)中量・ブロック(φ10～20mm)微量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ3mm)極微量
第7層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10～15mm)多量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ2～3mm)微量

SB-01Pit24
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10～15mm)多量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ2～5mm)微量, 褐色(10YR4/6)粘土ブロック(φ20mm)微量
第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)中量・ブロック(φ10～20mm)微量, 炭化粒(φ5mm)極微量, 焼土粒(φ3mm)極微量
第3層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～9mm)少量
第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ15mm)多量(Pit22の4層と同質)
第5層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ15mm)極微量
第6層 10YR4/6 褐色土 パミスブロック(φ10mm)少量
第7層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～20mm)多量, 炭化粒(φ1～3mm)極微量, 焼土粒(φ3mm)極微量
第8層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～8mm)・ブロック(φ10～20mm)多量, 炭化粒(φ1～3mm)少量

SB-01Pit25
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10mm)微量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ5mm)微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～7mm)・ブロック(φ10～15mm)微量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ3mm)極微量
第3層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～9mm)少量
第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ15mm)多量(Pit22の3層と同質)
第5層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ15mm)極微量
第6層 10YR4/6 褐色土 パミスブロック(φ10mm)少量
第7層 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～20mm)多量, 炭化粒(φ1～3mm)極微量, 焼土粒(φ3mm)極微量
第8層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～8mm)・ブロック(φ10～20mm)多量, 炭化粒(φ1～3mm)少量
第9層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～20mm)少量
第10層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10mm)微量
第11層 10YR4/6 褐色土

SB-01Pit29
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量・ブロック(φ10～40mm)微量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ5mm)極微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)・ブロック(φ10～50mm)少量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ3mm)極微量
第3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)・ブロック(φ10～30mm)多量, 炭化粒(φ5mm)微量, 焼土粒(φ3mm)極微量
第4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量, 炭化粒(φ5mm)極微量
第5層 10YR6/6 明黄褐色土 ロームブロック(φ30mm)多量, 黒色土(10YR2/1)少量混入

SB-01Pit34
第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)少量, 炭化粒(φ2～3mm)・焼土粒(φ1～3mm)微量
第2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～9mm)少量・ブロック(φ10～30mm)中量, 炭化粒(φ1～5mm)微量, 焼土粒(φ5mm)微量
第3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～6mm)・ブロック(φ10～30mm)中量, 炭化粒(φ3mm)微量
第4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～15mm)少量, 炭化粒(φ3mm)微量
第5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10～50mm)少量, 炭化粒(φ2m

６．掘立柱建物跡

前項のピットの項目の記述のとおり、整理後認定された掘立柱建物跡について記載することとする。なお、隣接する土地区画整理事業の調査区に延びるため、全容については土地区画整理事業の調査区の報告の際に記載する。

ＳＢａ－０１（第 120 図）

Ｂ－１拡張区Ｘ 92218.000, Ｙ -11512.000 周辺で検出した東西棟建物である。調査時のピットで該当する遺構名は、ＳＢ－０１Ｐｉｔ３・４・５・６ｂ・７・１０・１１・１２・１３・１４・１７・１８・１９・２０・２１ａ・２５・２６・２７・２８・２９，ＳＢ－０３Ｐｉｔ1，ＳＰ－２７７８・２７８０・２８１０・２９５８である。その他ＳＤ－８４上に柱穴が存在した可能性があるが、調査時には確認していない。桁行側の西側の部分が土地区画整理事業の調査区に延びるため、部分的な状況であるが、３面庇で、４間以上×２間で北側には孫庇が付く。主軸はＮ－６０°－Ｅである。各柱穴から土師器を主体とする破片の出土が見られたが、ＳＢ－０３Ｐｉｔ１から青磁劃花文の皿が出土していることから１２世紀後半～１３世紀前半以降の資料となる。

ＳＢａ－０２（第 120 図）

Ｂ－１拡張区Ｘ92222.000, Ｙ-11508.000周辺で検出した東西棟建物である。調査時のピットで該当する遺構名は、ＳＢ－０１Ｐｉｔ１・２・８・９・１５・１６・２２・２３・２４・３２，ＳＰ－２８１８・２９３６である。ＳＩ－０５上に本遺構の柱穴が構築されていることから本遺構が新しい。東側の桁行側の部分が土地区画整理事業の調査区に延びるため部分的な状況であるが、２間以上×３間で、南側に庇が付く。主軸はＮ－５７．５°－Ｅである。柱穴からはＳＢ－０１Ｐｉｔ２２から漆紙が出土した以外は、土師器が主体の出土であったが、ＳＢａ－０１と軸線が類似しており、時期的に近接している可能性がある。

ＳＢａ－０３（第 121 図）

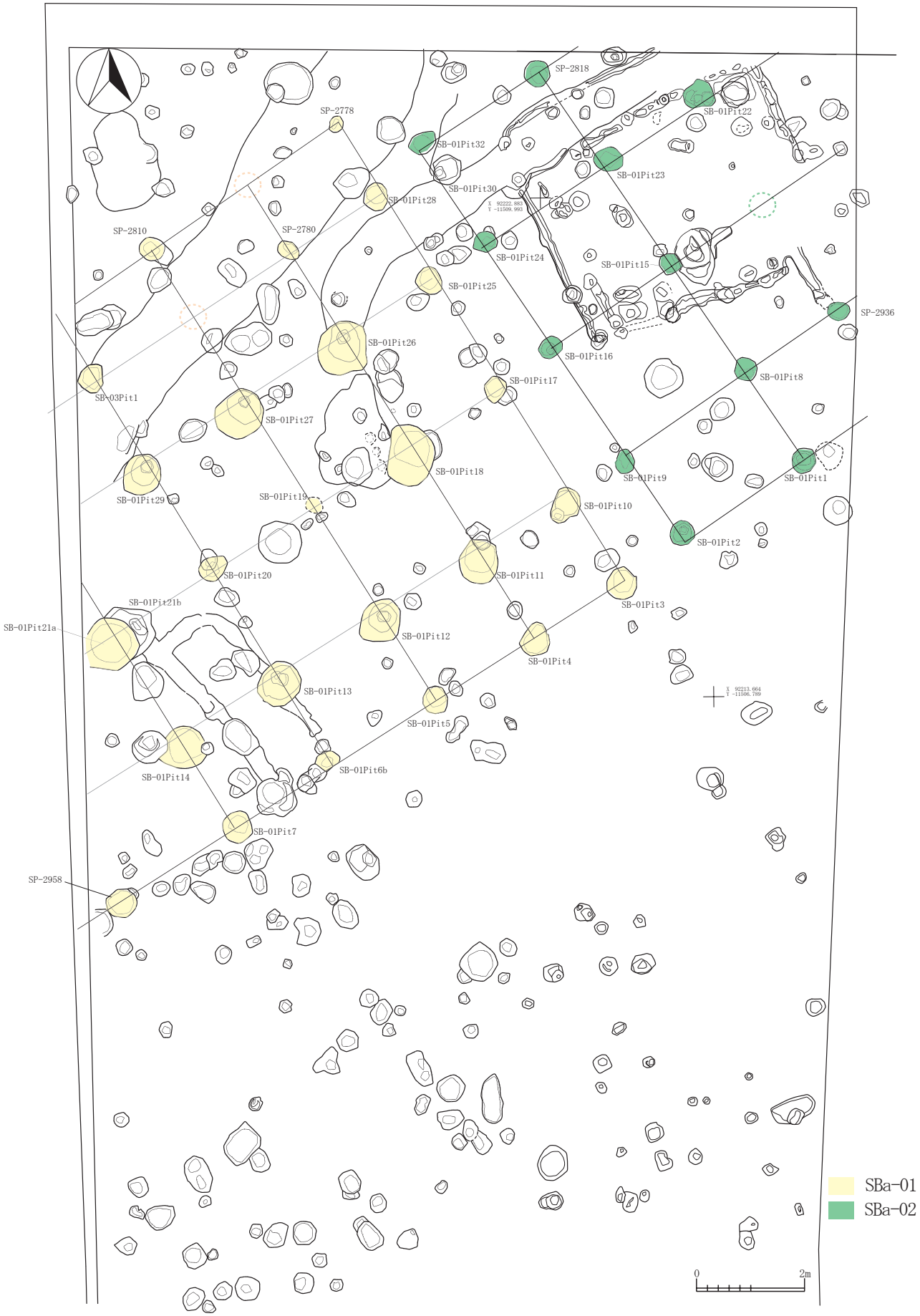
Ｂ－１拡張区Ｘ92209.000, Ｙ-11516.000付近で検出した南北棟建物である。調査時のピットで該当する遺構名は、ＳＰ－２８４７・２８５０・２８６５・２８９２・２９０２・２９６１・２９９７・３０１８である。桁行が西側の部分が土地区画整理事業の調査区に延びるため部分的な状況であるが、３間以上×２間で、主軸はＮ－４０°－Ｗである。

ＳＢａ－０４（第 121 図）

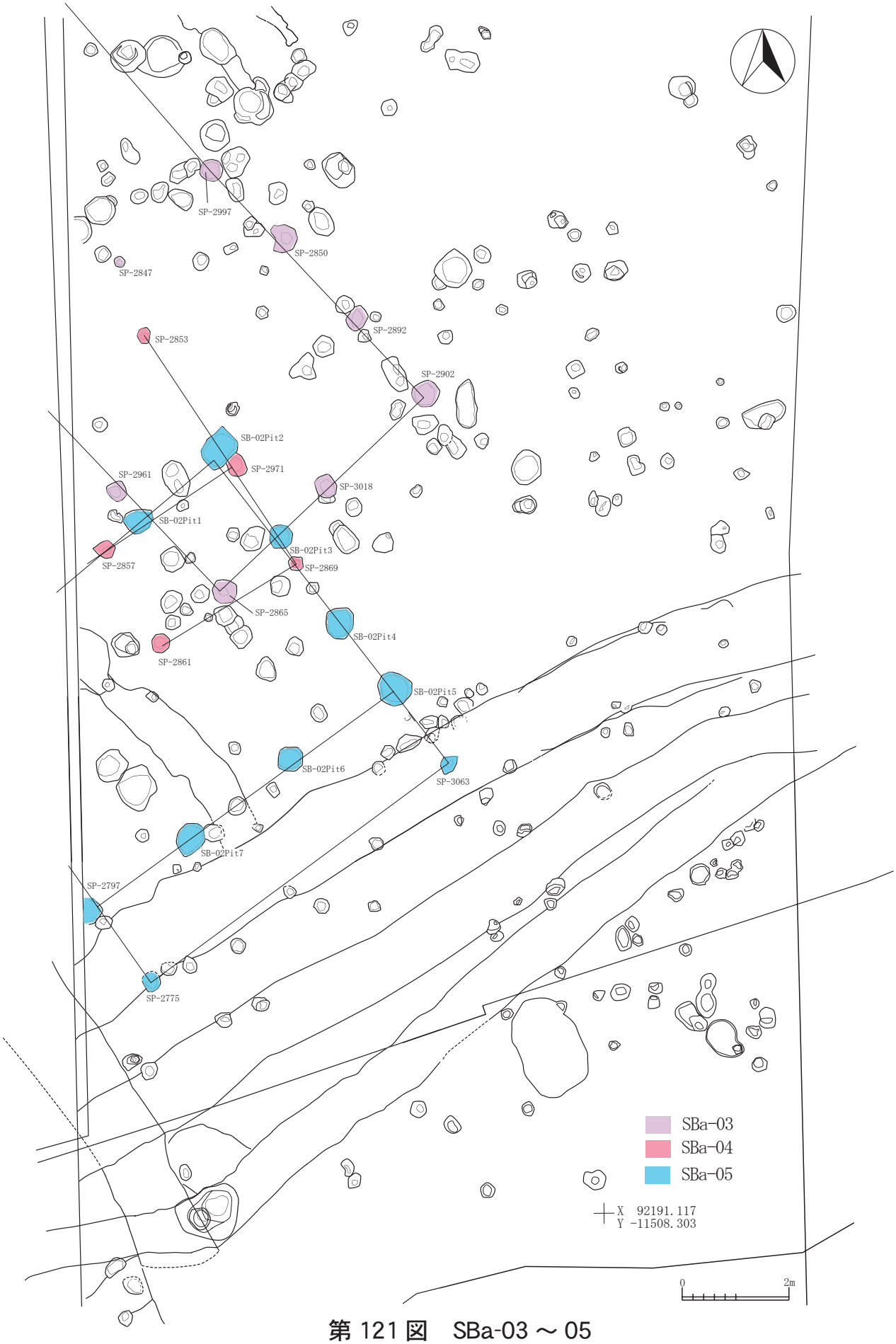
Ｂ－１拡張区Ｘ92205.000, Ｙ-11516.500付近で検出した東西棟建物である。調査時のピットで該当する遺構名は、ＳＰ－２８５３・２８５７・２８６１・２８６９である。桁行が西側の土地区画整理事業の調査区内に延びているため部分的な状況であるが、１間以上×２間で、主軸はＮ－５７．５°－Ｅである。

ＳＢａ－０５（第 121 図）

Ｂ－１拡張区Ｘ92197.500, Ｙ-11517.200付近で検出した東西棟建物跡である。調査時のピットで該当する遺構名は、ＳＢ－０２Ｐｉｔ１～7，ＳＰ－２７７５・２７９７・３０６３である。その他ＳＤ－１１１上に該当する柱穴があった可能性があるが、調査時には確認していない。北西側が土地区画整理事業の調査区に延びるため部分的であるが、３×３間で、南側に庇が付く。主軸はＮ－５３°－Ｅである。



第 120 図　SBa-01・02



第 121 図　SBa-03 ～ 05

７．溝跡

ＳＤ－５４（第 122 ～ 124 図）

本遺構名は土地区画整理事業調査区のＢ－２区で検出・調査を実施した溝跡で、本調査区Ｂ－１区拡張側で名付けたＳＤ－１２６とつながることから一部の図面上で名称が使用されている。実質的にＳＤ－１２６と同じである。

ＳＤ－８１（第 122 ～ 127 図）

Ｂ－１区・Ｂ－１拡張区で検出した溝跡で、本調査区内ではＸ 92190.570, Ｙ -11518.120 ～Ｘ 92199.770, Ｙ -11504.830 で検出した。幅７６～９０ｃｍ前後、深さ３７～５６ｃｍを測る。土坑・ピットの新旧関係は各項目で記述したとおりであるが、重複するピットより古く、土坑よりも新しい傾向にある。また、ＳＤ－８６・１２６と重複しており、ＳＤ－８６＜ＳＤ－８１＜ＳＤ－１２６の関係である。堆積土から土師器主体であるが、一部珠洲焼なども混入している箇所がある。

ＳＤ－８４（第 128 ～ 130 図）

Ｂ－１拡張区Ｘ92217.700, Y-11518.560～Ｘ92225.570, Y-11513.160付近で検出した。北東方向へ流れる溝跡で、西側は土地区画整理事業の調査区へ延びており、北東側は調査区外の国道７号西バイパス側に延びている。幅１３６×２２０ｃｍ、深さ８５～１４０ｃｍを測る。調査区内では重複する土坑やピットより古い関係にある。堆積土から土師器等古代の遺物が主体を占める。

ＳＤ－８５（第131・132図）

Ｂ－１拡張区Ｘ92217.650, Y-11513.450～Ｘ92225.630, Y-11506.840付近で検出した。西側で弧状に曲がり、途中で一部分断されている。ＳＩ－０５より新しく、ＳＢ－０１Ｐｉｔ２６・３０やＳＰ－２８１３ａなどの柱穴・ピットより古い。幅７０～１３５ｃｍ、深さ１９～２８ｃｍを測る。ＳＤ－８４同様堆積土から土師器等古代の遺物が主体を占める。

ＳＤ－８６（第 122 ～ 125 図）

Ｂ－１区・Ｂ－１拡張区Ｘ 92193.720, Y-11517.950 ～Ｘ 92189.000, Y-11515.920 付近で検出した。北北西側から沖積地側に向かって流れるものと推定されるが、下流の南南東側は現代の用水によって破壊されており、詳細は不明である。北北西側は土地区画整理事業の調査区に延びている。幅１１５～１３０ｃｍ、深さ３５～４５ｃｍを測る。ＳＫ－３１３，ＳＤ－８１・１１１・１２６（５４）と重複しており、ＳＫ－３１３より新しく、他のＳＤより古い。本報告に際して破片資料主体であったため図示はしていないが、出土遺物は古代の土師器主体である。

ＳＤ－８７（第 122・123・125 図）

Ｂ－１拡張区Ｘ 92201.320, Ｙ -11517.830 ～Ｘ 92197.790, Ｙ -11514.920 付近で検出した。重複するＳＤ－１１１や土坑・ピットにより切られており、本遺構が古い関係にある。幅４０～８５ｃｍ、深さ１６～３６ｃｍを測る。出土遺物はＳＤ－８６同様土師器主体である。

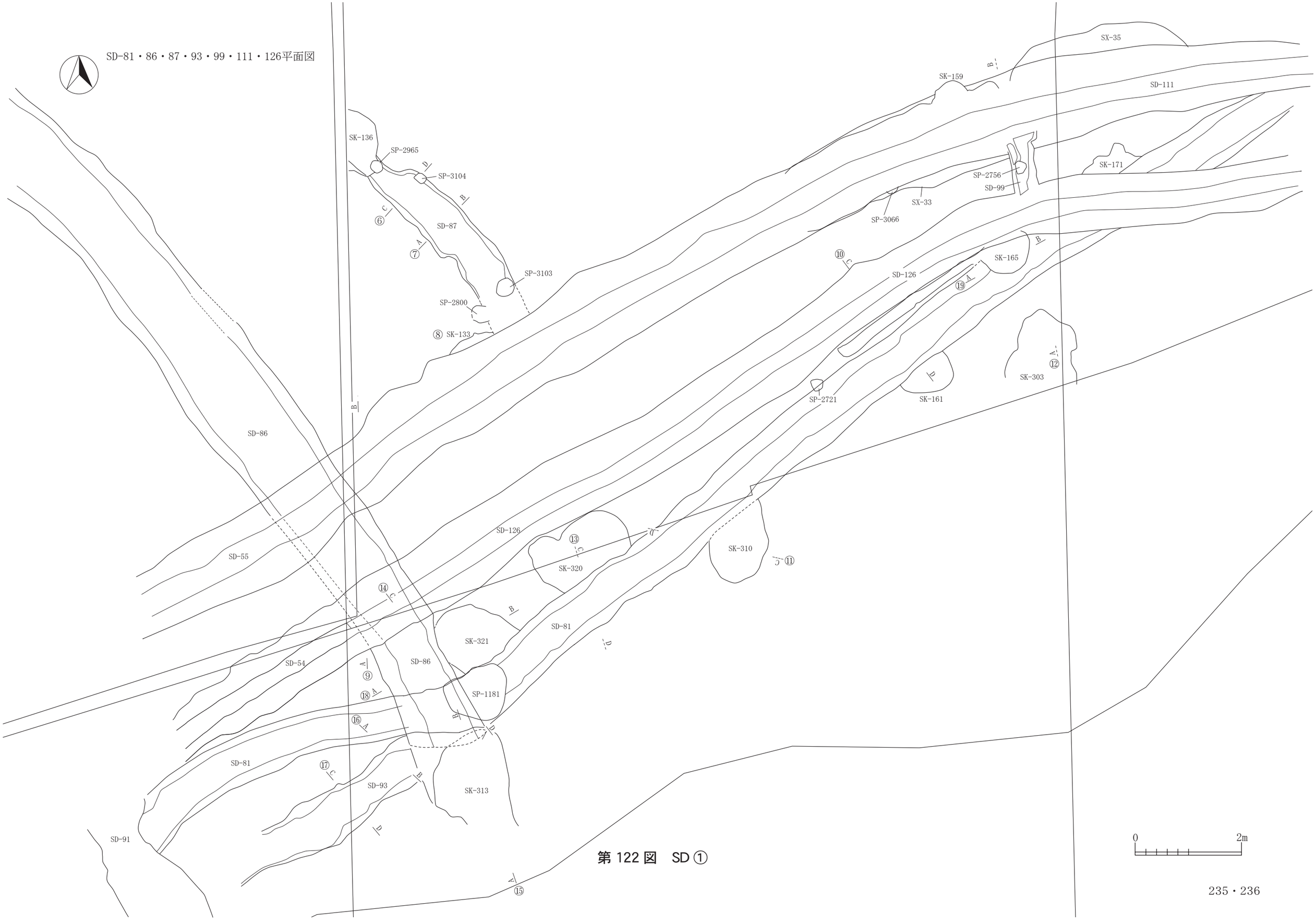
ＳＤ－９３（第 122・124・125 図）

Ｂ－１区Ｘ92189.000, Y-11518.000～Ｘ92190.220, Y-11516.780付近で検出した。ＳＤ－８１の前段階の溝跡と考えられる溝跡である。調査区内では一部のみの調査で幅６１～７５ｃｍ、深さ３０～３５ｃｍを測る。出土遺物はＳＤ－８６同様の状況である。

ＳＤ－９９（第 122・123 図）

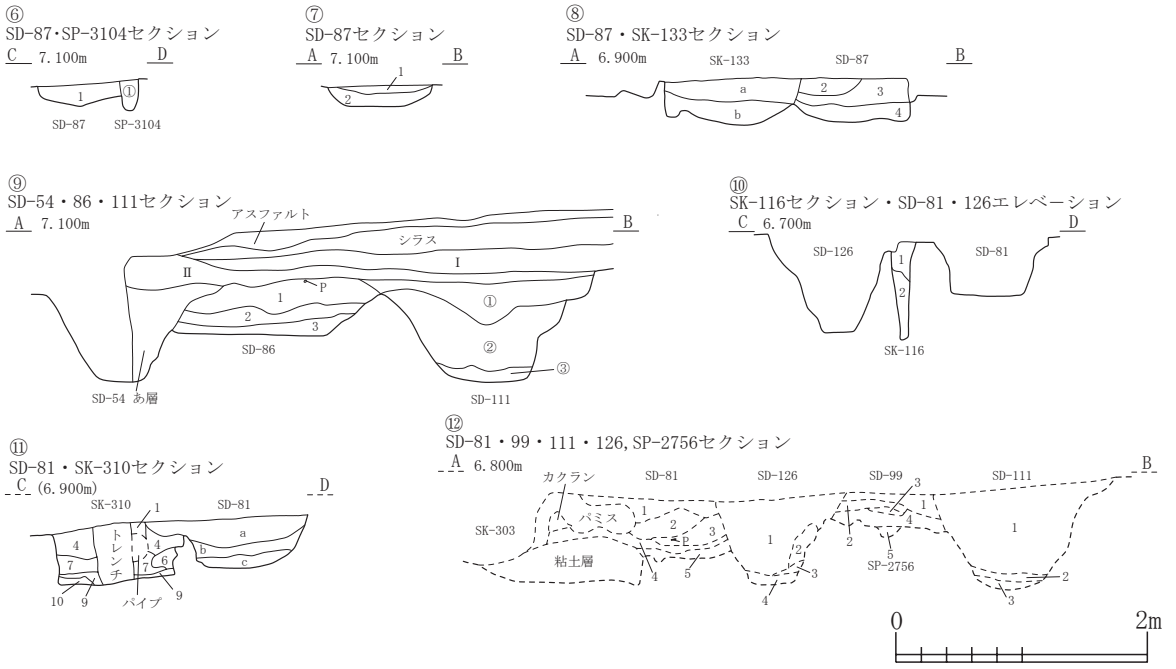
Ｂ－１拡張区Ｘ92201.100, Y-11505.500付近で検出した。ＳＤ－１１１・１２６によって切られており、残存部は幅４５ｃｍ、長さ１００ｃｍ、深さ２５ｃｍを測る。ＳＰ－２７５６よりも新しい。

SD-81・86・87・93・99・111・126平面図



第 122 図　SD ①

SD-54・81・86・87・93・99・111・126セクション



SDセクション⑥

SD-87

第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)中量･ブロック(φ11～100㎜)多量

SP-3104

第①層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)微量, 炭化粒(φ5㎜)微量

SDセクション⑦

SD-87

第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量･ブロック(φ11～30㎜)微量, 炭化粒･ブロック(φ3～20㎜)微量, 焼土粒(φ3～5㎜)少量･ブロック(φ30㎜)微量, 灰がセクションベルト上に微量混入

第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)中量･ブロック(φ11～100㎜)多量

SDセクション⑧

SD-87(SK-133と重複)

第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)中量･ブロック(φ11～100㎜)多量

第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量･ブロック(φ30㎜)微量

第4層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3㎜)微量

SK-133

第a層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～9㎜)少量･ブロック(φ10～30㎜)微量, 炭化粒(φ1㎜)極微量, 粘土粒(φ5㎜)極微量

第b層　10YR3/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20～40㎜)少量, ローム粒(φ1～9㎜)少量

SDセクション⑨

SD-54

第あ層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)微量, ローム粒･ブロック(φ3～5㎜)少量, 焼土粒(φ3～5㎜)微量

SD-86

第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)･ブロック(φ20～70㎜)少量, 炭化粒(φ3～10㎜)少量, 焼土粒(φ5～10㎜)微量

第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒･ブロック(φ1～60㎜)中量, 炭化粒(φ3～10㎜)少量, 焼土粒(φ5～10㎜)微量

第3層　10YR4/2　灰黄褐色土　パミス粒･ブロック(φ1～80㎜)多量, ロームブロック(φ20～40㎜)少量

SD-111

第①層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量, 焼土粒(φ2㎜)微量

第②層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)少量, 炭化粒(φ5～10㎜)微量, 焼土粒(φ5㎜)微量

第③層　10YR4/1　褐灰色土　炭化粒(φ5㎜)微量, 焼土粒(φ5㎜)微量

第Ⅰ層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒･ブロック(φ1～20㎜)微量

第Ⅱ層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)微量　硬化面

SDセクション⑪

SD-81

第a層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)やや多量, ローム粒(φ5㎜)少量 炭化粒(φ1～5㎜)少量, 焼土粒(φ1～3㎜)少量

第b層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～10㎜)やや多量, 下部に炭化粒薄い層状に確認

第c層　10YR4/2　灰黄褐色土　パミス粒(φ2～3㎜)少量, ブロック(φ1～2㎜)やや多量

SK-310

第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～8㎜)やや多量･ブロック(φ12～15㎜)少量

第4層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～3㎜)少量, ブロック状に灰混入

第6層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)多量

第7層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)少量

第9層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10㎜)多量

第10層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5㎜)多量

SDセクション⑫

SD-81

第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5㎜)極微量, ローム粒(φ1～9㎜)微量, 炭化粒(φ2～3㎜)微量

第2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～7㎜)中量･ブロック(φ10～15㎜微量, 炭化粒(φ1㎜)微量, 粘土ブロック(φ10㎜)極微量

第3層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3㎜)微量, ローム粒(φ1～5㎜)少量･ブロック(φ10～15㎜)極微量, 炭化粒(φ1㎜)微量

第4層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ2～3㎜)微量, ローム粒(φ1～3㎜)微量･ブロック(φ15㎜)極微量, 炭化粒(φ1㎜)極微量

第5層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～5㎜)微量･ブロック(φ10～15㎜)少量, 炭化粒(φ2～5㎜)微量, 粘土ブロック(φ20～30㎜)微量

SD-126

第1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～9㎜)微量･ブロック(φ25～30㎜)極微量, 炭化粒(φ3～5㎜)極微量

第2層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒(φ1～8㎜)少量･ブロック(φ10㎜)微量 SD-99第4層の崩落土

第3層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　ローム粒(φ2～5㎜)少量, 粘土ブロック(φ10㎜)微量

第4層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～8㎜)極微量

SD-111

第1層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～9㎜)･ブロック(φ10～20㎜)微量, 炭化粒(φ3㎜)極微量

第2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～5㎜)極微量

第3層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒(φ1～5㎜)少量, 炭化粒(φ2～3㎜)極微量

SD-99

第1層　10YR2/3　黒褐色土　ローム粒(φ1～3㎜)微量, 炭化粒(φ1～2㎜)微量

第2層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～2㎜)微量

第3層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒(φ1㎜)微量

第4層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒(φ1～8㎜)中量･ブロック(φ10～15㎜)少量

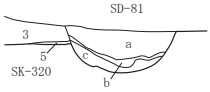
SP-2756

第5層　10YR3/3　暗褐色土　ローム粒(φ1～3㎜)少量･ブロック(φ10㎜)極微量

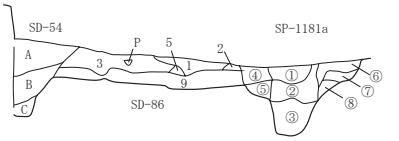
第 123 図　SD ②

SD-54・81・86・93セクション

⑬
SD-81・SK-320セクション
C 6.800m D

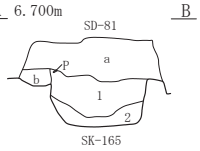


⑭
SD-86・SD-54・SP-1181aセクション
C 7.000m D

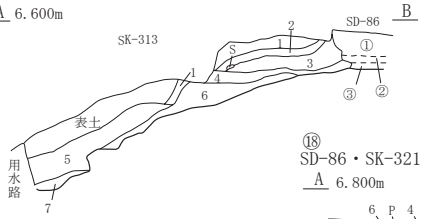


⑰
SD-93エレベーション
C 6.500m D

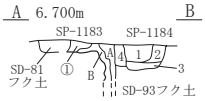
⑲
SK-165・SD-81セクション
A 6.700m B



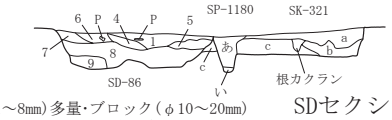
⑮
SD-86・SK-313セクション
A 6.600m B



⑯
SD-93・SP-1183・1184セクション
A 6.700m B



⑱
SD-86・SK-321・SP-1180セクション
A 6.800m B



SDセクション⑬

SD-81
第a層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)多量・ブロック(φ10～20mm)微量,炭化物(φ10mm)微量,明赤褐色(5YR5/8)焼土粒(φ1～5mm)微量
第b層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)・ブロック(φ10mm)微量,黒褐色(10YR1.7/1)炭化粒多量
第c層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)・ブロック(φ10mm)少量,明赤褐色(5YR5/8)焼土粒(φ1～5mm)微量

SK-320
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～8mm)・ブロック(φ10mm)少量,明赤褐色(5YR5/8)焼土粒(φ1～5mm)微量
第5層　10YR3/4　暗褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量

SDセクション⑭

SD-54
第A層　10YR4/2　灰黄褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量,ローム粒(φ1～10mm)やや多量
第B層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～3mm)少量
第C層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～3mm)やや多量

SD-86
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)やや多量,炭化物(φ1～3mm)少量,焼土粒(φ1～3mm)少量
第2層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～6mm)多量
第3層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)少量
第5層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第9層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)・ブロック(φ12～15mm)少量

SP-1181a
第①層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)少量焼土粒(φ1～3mm)少量
第②層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)少量
第③層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～2mm)少量
第④層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)やや多量,焼土粒(φ1mm)微量
第⑤層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)やや多量
第⑥層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)やや多量,炭化粒(φ3～10mm)やや多量,焼土粒(φ2～4mm)少量
第⑦層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)多量,焼土粒(φ5mm)少量
第⑧層　10YR3/3　暗褐色土　パミス粒(φ1～3mm)多量

SDセクション⑮

SD-86
第①層　7.5YR3/2 黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)・ブロック(φ10～30mm)中量
第②層　10YR5/6　黄褐色土
第③層　10YR3/4　暗褐色土　パミスブロック(φ20mm)少量

SK-313
表土　10YR2/2　黒褐色土　パミスブロック(φ20mm)微量
第1層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ20～30mm)中量
第2層　7.5YR2/3 黒褐色土　焼土粒(φ5～10mm)少量
第3層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)少量,ローム粒(φ5～10mm)少量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5～10mm)中量,ロームブロック(φ15mm)少量
第5層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ5～10mm)微量
第6層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,ブロック(φ10～40mm)多量
第7層　10YR2/3　黒褐色土

SDセクション⑯

SD-93
第A層　10YR2/2 黒褐色土　ローム粒(φ5mm)微量
第B層　10YR2/3 黒褐色土　パミス粒(φ5mm)少量

SP-1183
第①層　10YR2/3　黒褐色土　パミスブロック(φ20mm)微量

SP-1184
第1層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒(φ1mm)少量
第2層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)少量,焼土粒(φ5mm)微量
第3層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～10mm)中量,白色ローム粒(φ1～10mm)少量,炭化粒(φ5～10mm)・炭化物(φ11～15mm)少量
第4層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ5mm)少量

SDセクション⑱

SD-86
第1層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)やや多量,炭化物(φ1～3mm)少量焼土粒(φ1～3mm)少量
第4層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　焼土粒(φ2～8mm)やや多量
第5層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第6層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)多量
第7層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～8mm)やや多量,炭化粒(φ1～3mm)少量焼土粒(φ1～3mm)少量
第8層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)やや多量
第9層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)・ブロック(φ12～15mm)少量

SK-321
第a層　10YR3/1　黒褐色土　パミス粒(φ1～5mm)やや多量,炭化粒(φ1～3mm)少量焼土粒(φ1～3mm)少量
第b層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第c層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～10mm)やや多量

SP-1180
第あ層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ1～3mm)少量
第い層　10YR2/1黒色土と黄褐色土(10YR5/6)ロームとの混合層

SDセクション⑲

SK-165
第1層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ3mm)微量,ローム粒・ブロック(φ2～20mm)少量,炭化粒(φ2mm)極微量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　ローム粒(φ1～5mm)少量

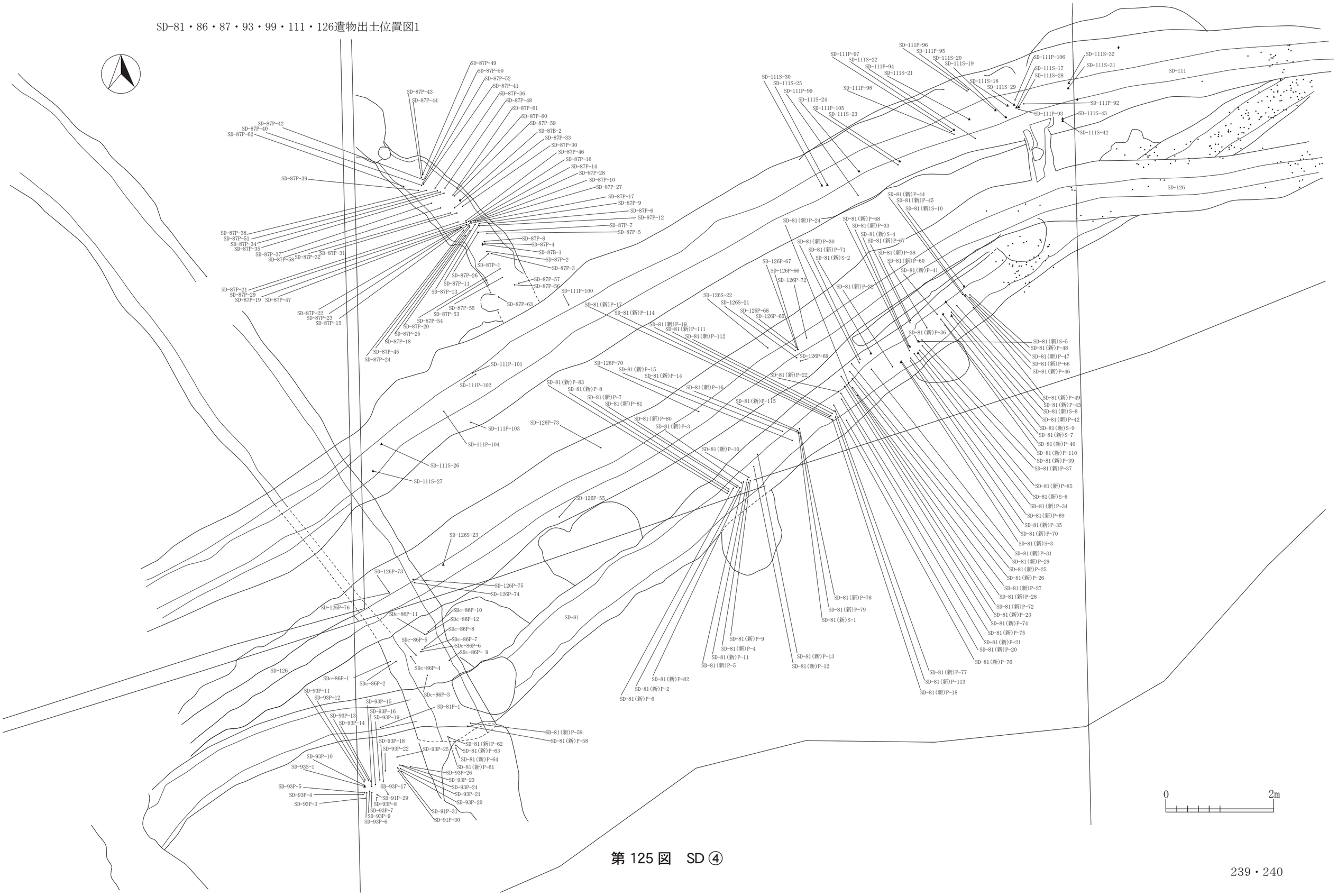
SD-81
第a層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ3～5mm)微量,ローム粒・ブロック(φ2～20mm)微量,炭化粒(φ2～5mm)微量
第b層　10YR2/2　黒褐色土　ローム粒・ブロック(φ2～9mm)中量,炭化粒(φ2～3mm)極微量

第124図　SD③

ＳＤ－１１１（第122・123・125・127図）

Ｂ－１拡張区Ｘ92195.340, Y-11518.000～Ｘ92202.290, Y-11504.830付近で検出した。幅１２３～１３５ｃｍ、深さ８５ｃｍを測る。西側は土地区画整理事業の調査区Ｂ－２・４区内はＳＤ－５５と呼称している。また、東側の土地区画整理事業のＢ－１区拡張内では本調査区と同一の呼称が用いられている。ＳＸ－３３やＳＫ－１５９よりは古いが新相を示す堆積土が堆積しており、堆積土の一部から近世の陶磁器が混入して出土している。

SD-81・86・87・93・99・111・126遺物出土位置図1



第 125 図　SD ④

第 126 図　SD ⑤

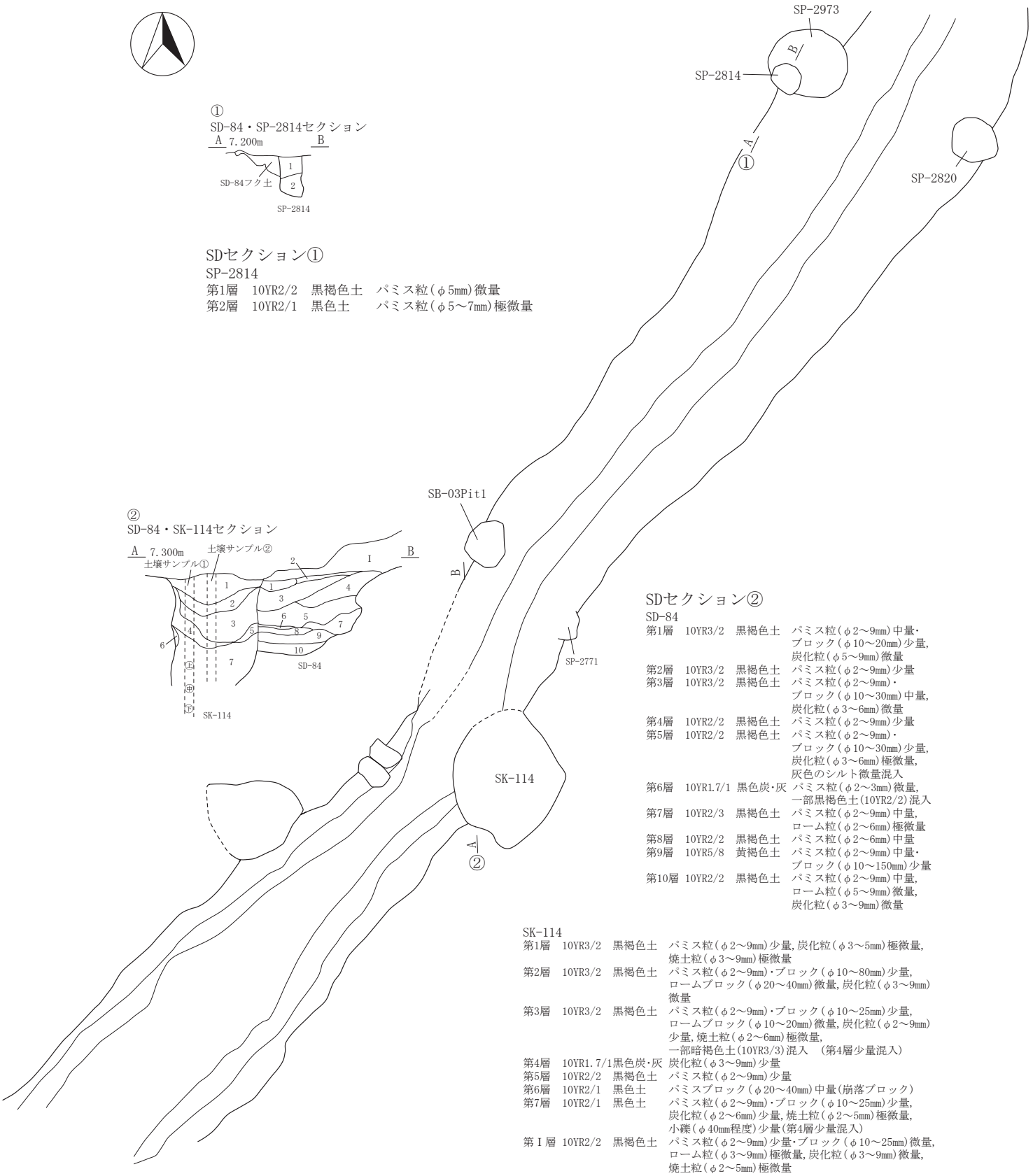
ＳＤ－１２６（第 122・123・125・126 図）

Ｂ－１拡張区Ｘ92192.460, Y-11518.160～Ｘ92200.170, Y-11504.830付近から検出した。ＳＤ－５４の項目で記載したが、土地区画整理事業のＳＤ－５４と同一で、土地区画整理事業調査区のＢ－１拡張区内では本遺構と同一名称が使用されている。重複するＳＤ－８１・８６よりも新しく、ＳＤ－１１１と同様新相を示す要素が多いが、堆積土中から出土した遺物は土師器主体である。調査区内の規模は幅８７～１３１ｃｍ、深さ６６～７８ｃｍを測る。

SD-81・111遺物出土位置図3

第 127 図　SD ⑥

SD-84



①
SD-84・SP-2814セクション

SDセクション①
SP-2814
第1層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ5㎜)微量
第2層　10YR2/1　黒色土　　パミス粒(φ5～7㎜)極微量

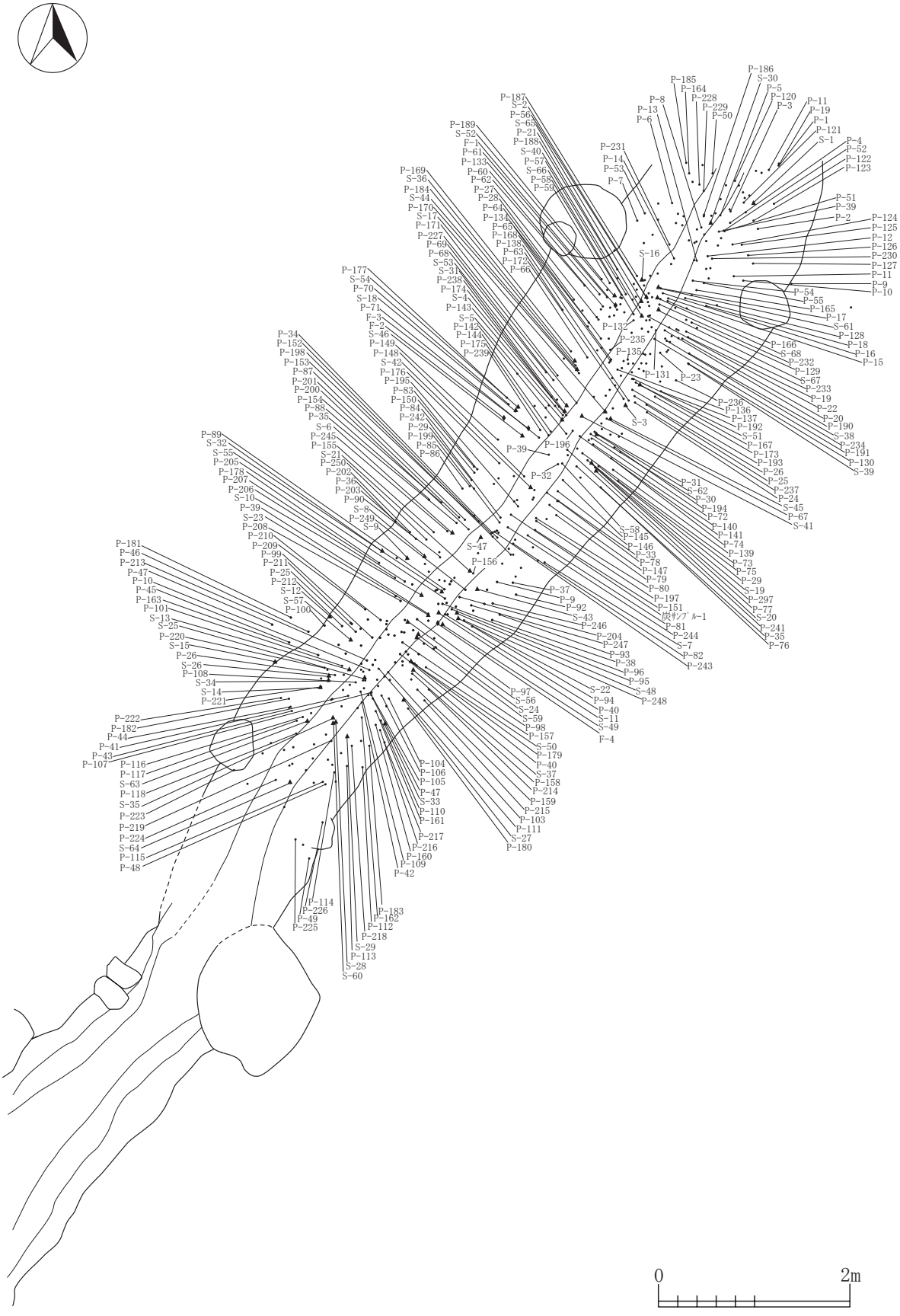
②
SD-84・SK-114セクション

SDセクション②
SD-84
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)中量・ブロック(φ10～20㎜)少量，炭化粒(φ5～9㎜)微量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)少量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)・ブロック(φ10～30㎜)中量，炭化粒(φ3～6㎜)微量
第4層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)少量
第5層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)・ブロック(φ10～30㎜)少量，炭化粒(φ3～6㎜)極微量，灰色のシルト微量混入
第6層　10YR1.7/1 黒色炭・灰　パミス粒(φ2～3㎜)微量，一部黒褐色土(10YR2/2)混入
第7層　10YR2/3　黒褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)中量，ローム粒(φ2～6㎜)極微量
第8層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～6㎜)中量
第9層　10YR5/8　黄褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)中量・ブロック(φ10～150㎜)少量
第10層 10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)中量，ローム粒(φ5～9㎜)微量，炭化粒(φ3～9㎜)微量

SK-114
第1層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)少量，炭化粒(φ3～5㎜)極微量，焼土粒(φ3～9㎜)極微量
第2層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)・ブロック(φ10～80㎜)少量，ロームブロック(φ20～40㎜)微量，炭化粒(φ3～9㎜)微量
第3層　10YR3/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)・ブロック(φ10～25㎜)少量，ロームブロック(φ10～20㎜)微量，炭化粒(φ2～9㎜)少量，焼土粒(φ2～6㎜)極微量，一部暗褐色土(10YR3/3)混入　(第4層少量混入)
第4層　10YR1.7/1黒色炭・灰　炭化粒(φ3～9㎜)少量
第5層　10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)少量
第6層　10YR2/1　黒色土　パミスブロック(φ20～40㎜)中量(崩落ブロック)
第7層　10YR2/1　黒色土　パミス粒(φ2～9㎜)・ブロック(φ10～25㎜)少量，炭化粒(φ2～6㎜)少量，焼土粒(φ2～5㎜)極微量，小礫(φ40㎜程度)少量(第4層少量混入)
第Ⅰ層 10YR2/2　黒褐色土　パミス粒(φ2～9㎜)少量・ブロック(φ10～25㎜)微量，ローム粒(φ3～9㎜)極微量，炭化粒(φ3～9㎜)微量，焼土粒(φ2～5㎜)極微量

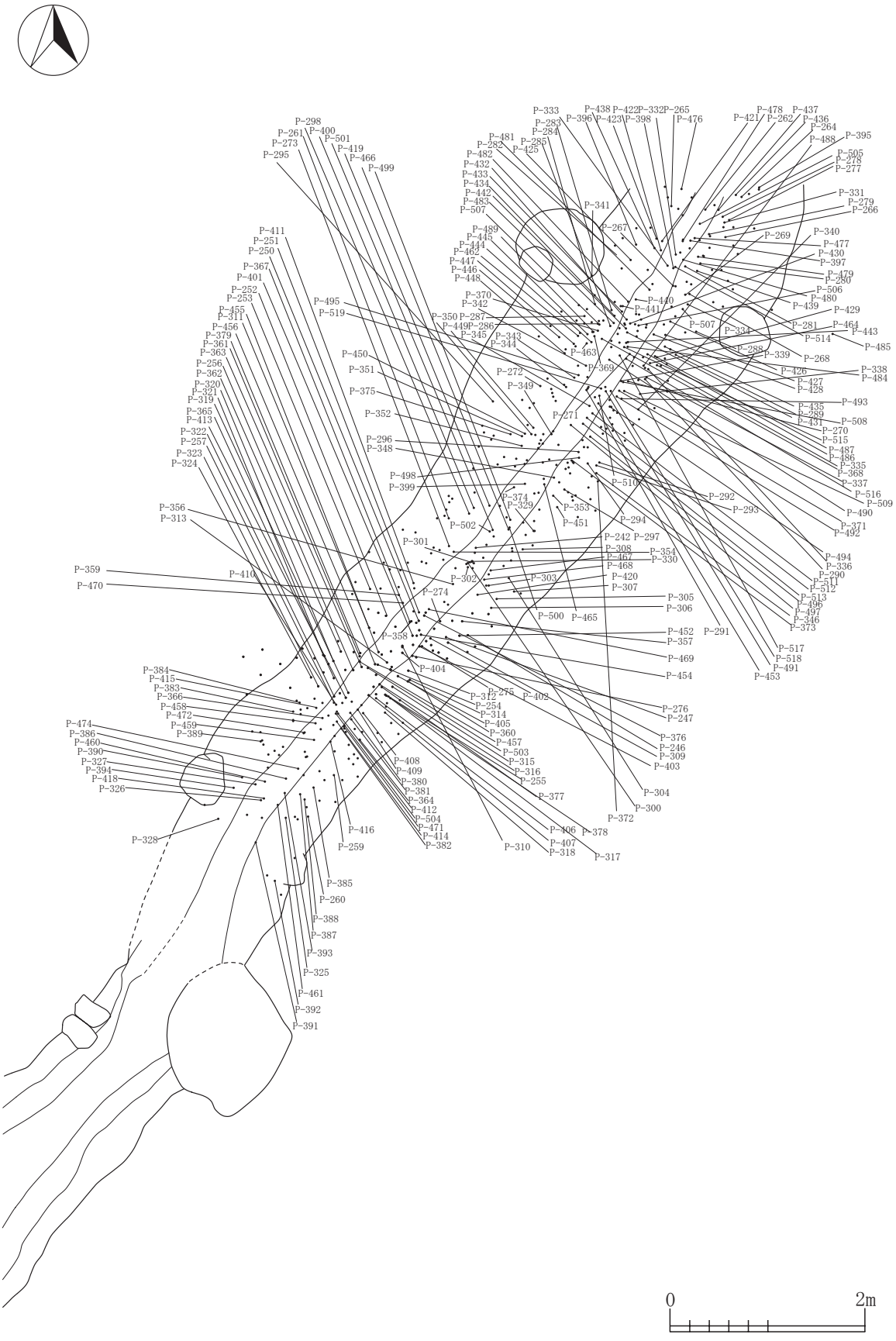
第 128 図　SD ⑦

SD-84遺物出土位置図1

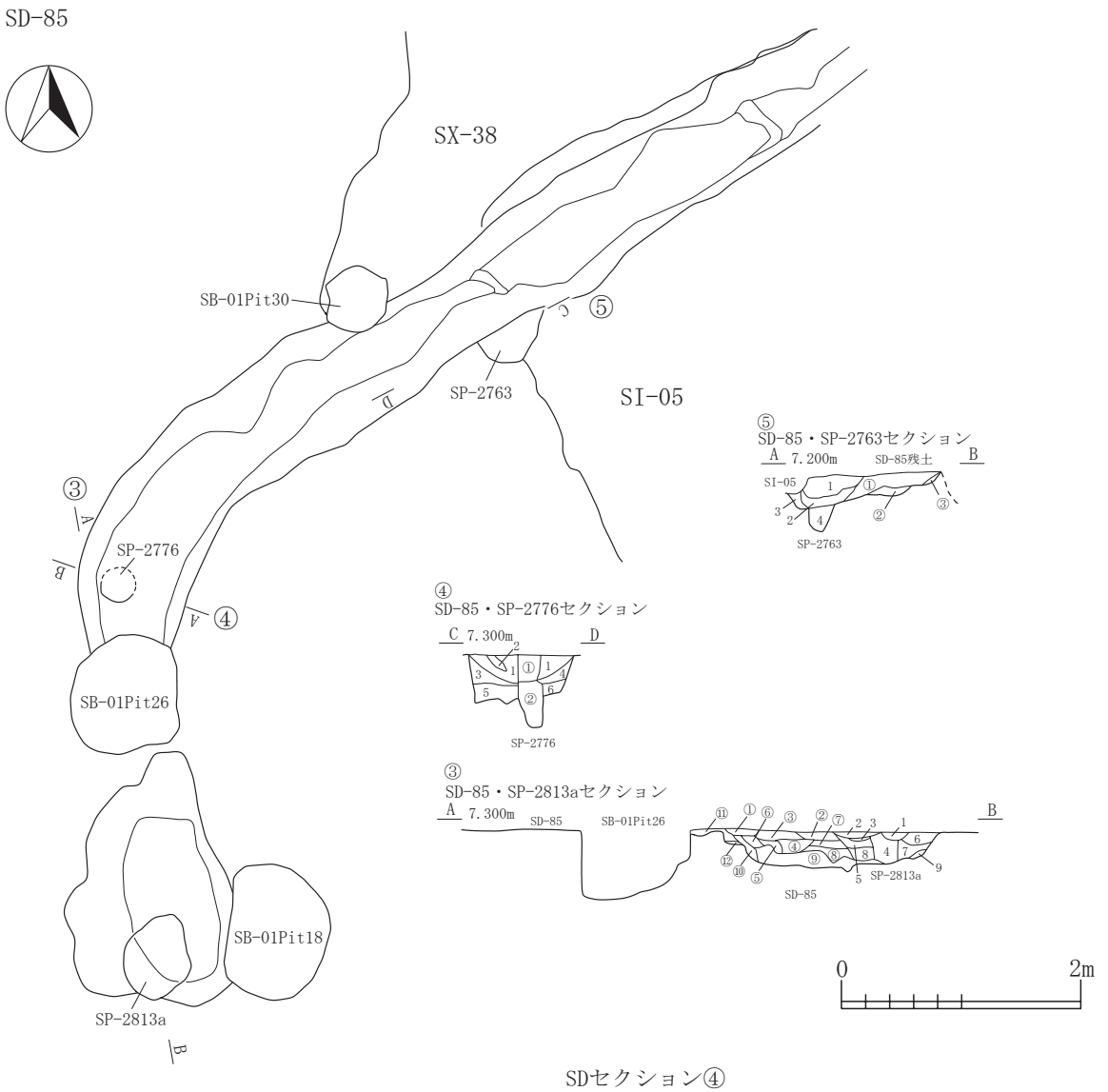


第 129 図　SD ⑧

SD-84遺物出土位置図2



第 130 図　SD ⑨



SDセクション③

SP-2813a

第1層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～3mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)微量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～2mm)少量,焼土粒(φ1～5mm)微量,灰(φ1～3mm)少量
第3層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～2mm)微量
第4層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ1～20mm)中量,焼土粒(φ1～2mm)少量
第5層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～3mm)多量
第6層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ1～15mm)少量,焼土粒(φ5mm)極微量
第7層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ5～40mm)中量,ロームブロック(φ10～12mm)微量
第8層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ3～30mm)中量
第9層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ5～15mm)中量,焼土粒(φ5mm)極微量

SD-85

第①層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～2mm)少量,炭化粒(φ1～5mm)少量,焼土粒(φ1～3mm)少量
第②層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ1～15mm)少量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第③層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～5mm)中量,焼土粒(φ1～3mm)少量,灰(φ1～2mm)微量
第④層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ5～15mm)中量,焼土粒・ブロック(φ5～15mm)微量
第⑤層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～2mm)少量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第⑥層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ2～9mm)中量
第⑦層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ5～15mm)中量
第⑧層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ5～15mm)少量
第⑨層	10YR5/8	黄褐色土	黒褐色土(10YR2/3)中量混入
第⑩層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ5～15mm)中量
第⑪層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ3～15mm)中量
第⑫層	10YR4/6	褐色土	黒褐色土(10YR2/3)少量混入

SDセクション④

SD-85

第1層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ2～15mm)中量,ロームブロック(φ15mm)極微量,炭化粒(φ1～9mm)少量,焼土粒(φ1～5mm)微量
第2層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1～7mm)多量,炭化粒(φ2～5mm)少量,焼土粒(φ1～7mm)少量
第3層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1～7mm)多量・ブロック(φ10～15mm)少量,炭化粒(φ1～3mm)少量
第4層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ3～10mm)中量,ロームブロック(φ10～11mm)少量,炭化粒(φ1～5mm)少量
第5層	10YR7/6	明黄褐色土	パミスブロック(φ10～40mm)中量,ローム粒・ブロック(φ1～40mm)少量,黒褐色土(10YR2/2)少量混入
第6層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ3～20mm)多量,ローム粒・ブロック(φ5～10mm)少量,焼土粒(φ1～3mm)少量

SP-2776

第①層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ2～7mm)少量,焼土粒(φ3～5mm)
第②層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～2mm)少量

SDセクション⑤

SD-85残土

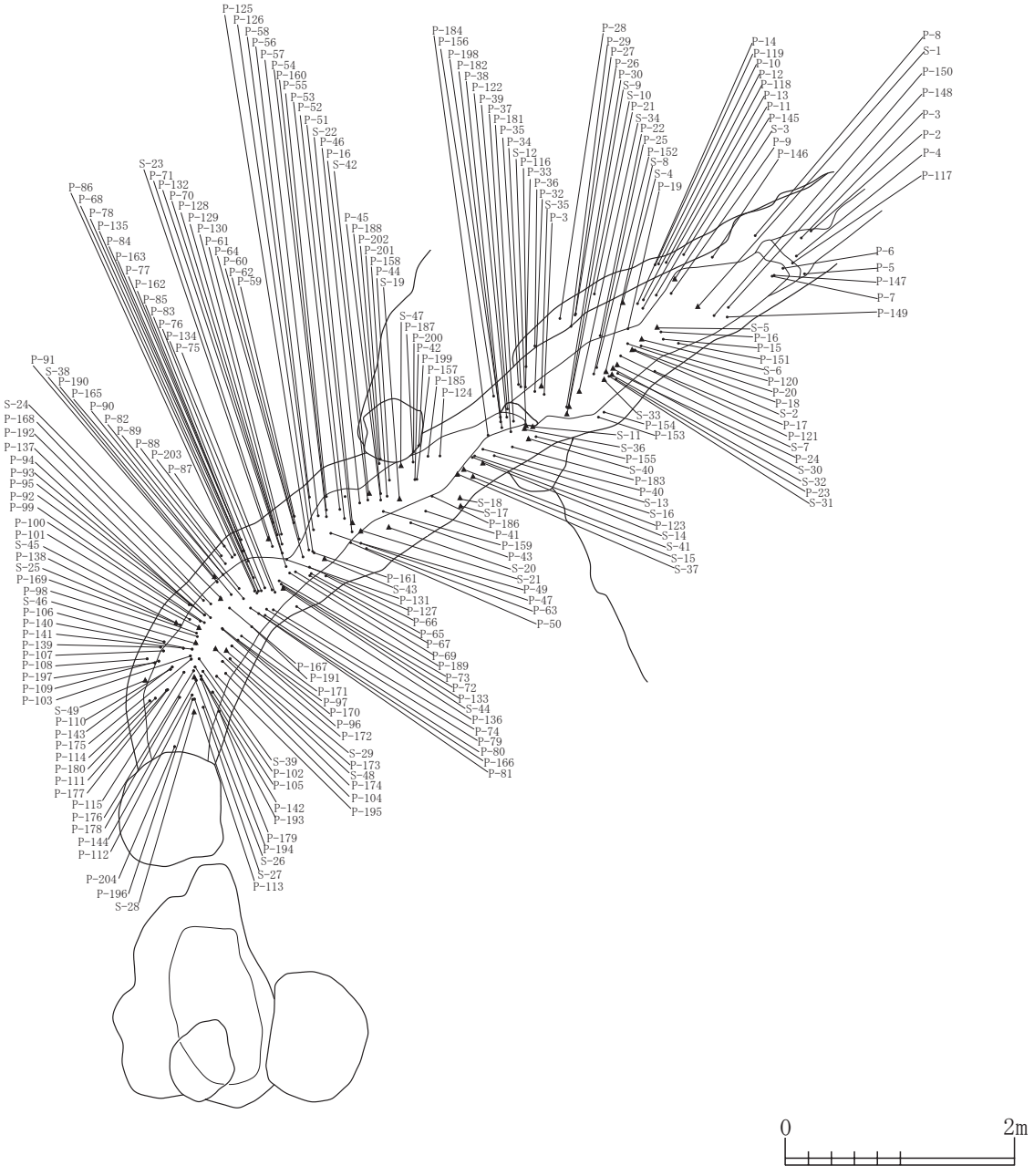
第①層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ1～10mm)中量・(φ100mm)極微量,炭化粒(φ1～5mm)少量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第②層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ1～20mm)中量,炭化粒(φ1～2mm)極微量,焼土粒(φ1～2mm)微量
第③層	10YR2/2	黒褐色土	パミスブロック(φ30mm)微量

SP-2763

第1層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～9mm)多量・ブロック(φ10～30mm)中量・(φ150mm)1個,炭化粒(φ1～2mm)少量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～9mm)少量,炭化粒(φ1～2mm)少量,焼土粒(φ1～5mm)少量
第3層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1～5mm)微量・ブロック(φ30mm)極微量,焼土粒(φ1～2mm)極微量
第4層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ1～20mm)中量,炭化粒(φ1～3mm)少量,焼土粒(φ1～2mm)微量

第131図　SD⑩

SD-85遺物出土位置図



第 132 図　SD ⑪

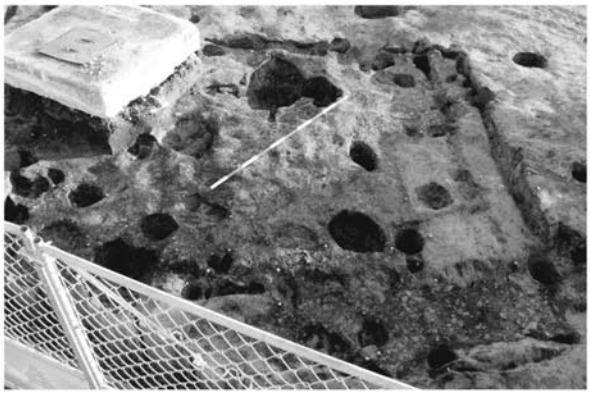


写真138 SI-05完掘(ＮＷ→)

写真139　SI-05焼土・灰出土状況(Ｅ→)

写真140　SI-05カマド東西セクション(Ｓ→)

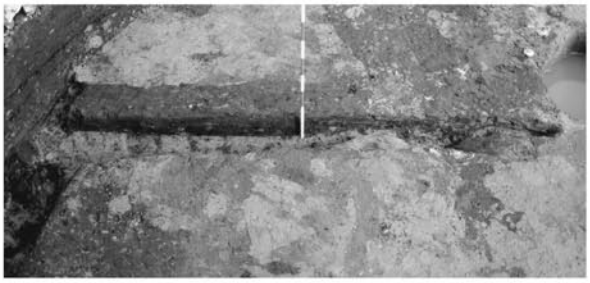


写真141　SI-05カマド南北セクション(W→)

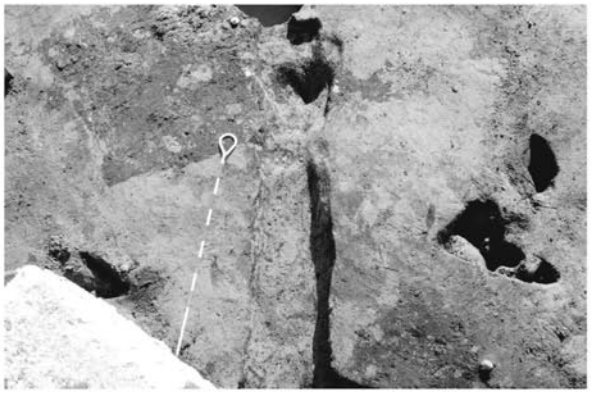


写真142　SI-05カマド完掘(Ｎ→)

写真143　SI-05掘り方完掘(ＮＷ→)

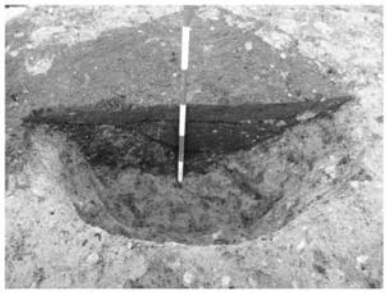


写真144 SI-05Pit1ｾｸｼｮﾝ(E→)

写真145 SI-05Pit4ｾｸｼｮﾝ(SE→)

写真146 SI-05Pit5ｾｸｼｮﾝ(NE→)

写真147 SI-05Pit8ｾｸｼｮﾝ(W→)

写真148 SI-05Pit15ｾｸｼｮﾝ(N→)

写真149 SI-05Pit38ｾｸｼｮﾝ(N→)

写真150 SI-07完掘(W→)

写真151 SI-07Pit1ｾｸｼｮﾝ(E→)

写真152 SI-07Pit8ｾｸｼｮﾝ(N→)

写真153 SI-07Pit10ｾｸｼｮﾝ(N→)

写真154 SI-07Pit12ｾｸｼｮﾝ(E→)

写真155 SI-07Pit15ｾｸｼｮﾝ(N→)

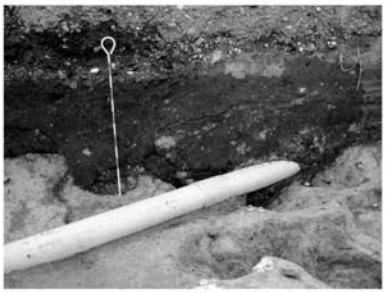


写真156 SI-07Pit8・19ｾｸｼｮﾝ(E→)

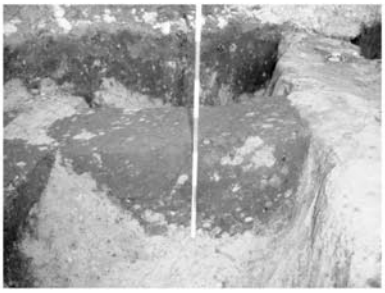


写真157 SI-07セクション(E→)

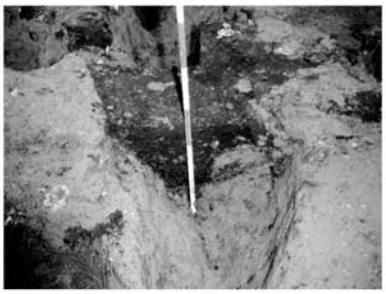


写真158 SI-07壁溝ｾｸｼｮﾝ(E→)

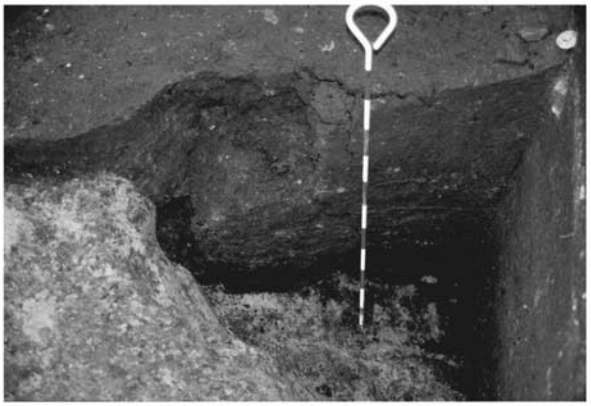


写真159 SK-111セクション(E→)

写真160 SK-111完掘(E→)

写真161 SK-112セクション(E→)

写真162 SK-112完掘(S→)

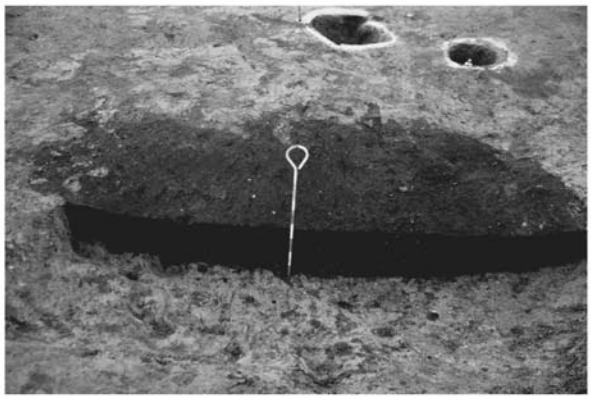


写真163 SK-115セクション(W→)

写真164 SK-115完掘(S→)

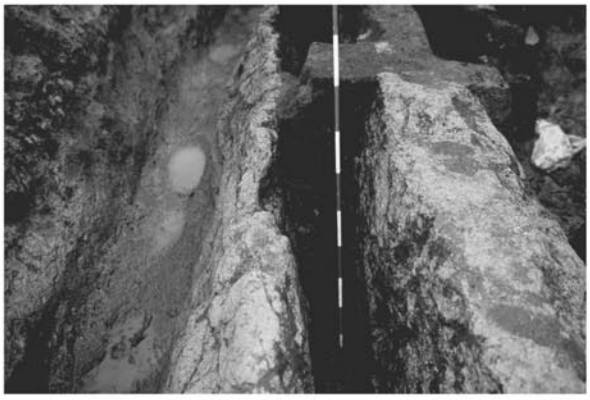


写真165 SK-116セクション(SW→)

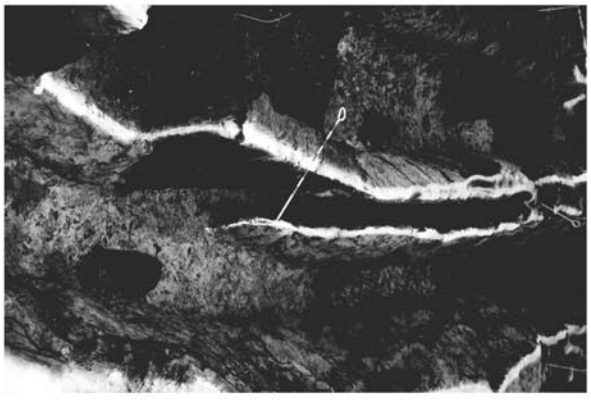


写真166 SK-116完掘(NW→)

写真167 SK-117セクション(W→)

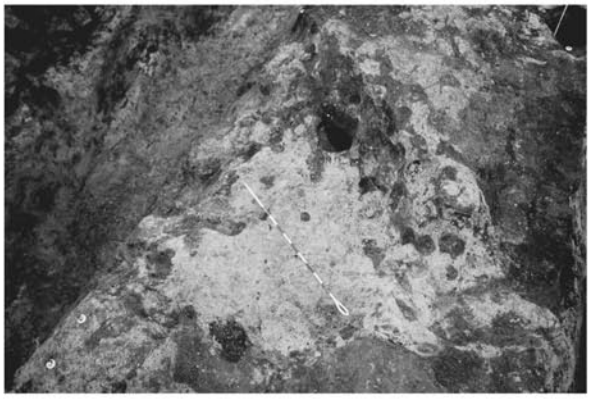


写真168 SK-117完掘(SW→)

写真169 SK-120・134セクション(Ｓ Ｅ→)

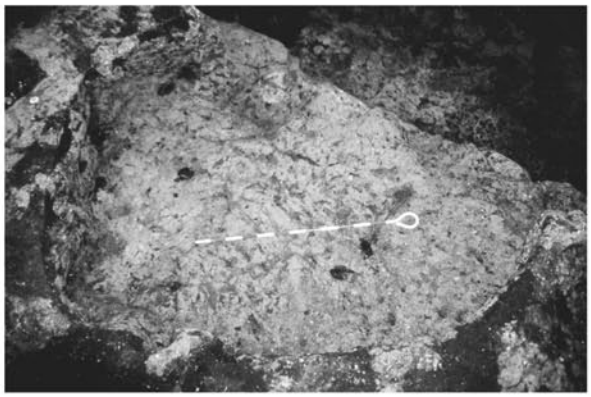


写真170 SK-120完掘(Ｗ→)

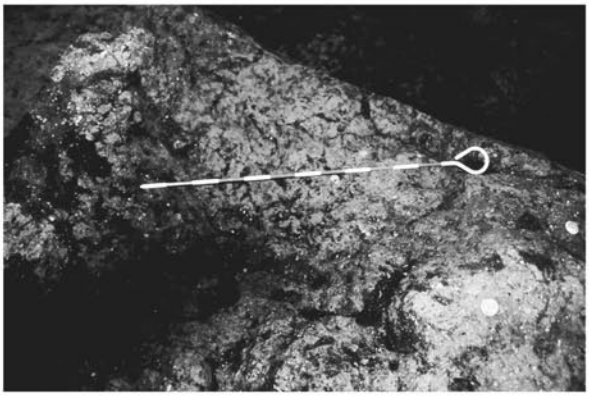


写真171 SK-134完掘(Ｗ→)

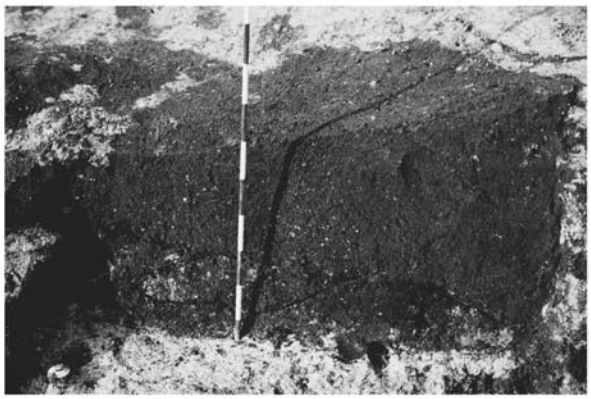


写真172 SK-159セクション(Ｓ→)

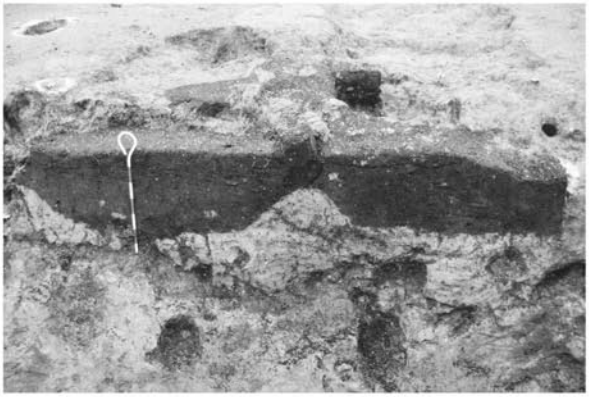


写真173 SK-133・SD-87セクション(Ｅ→)

写真174 SK-133完掘(Ｅ→)

写真175 SK-161セクション(ＮＷ→)

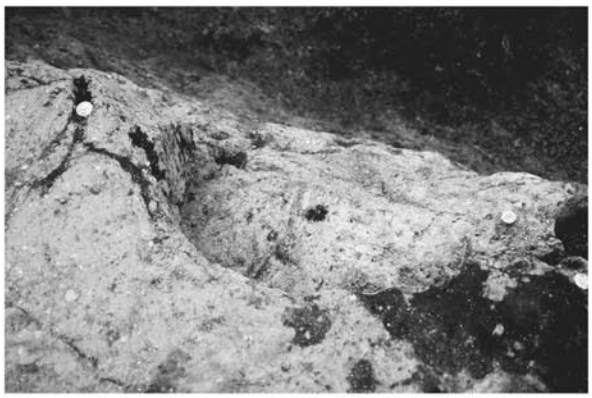


写真176 SK-161完掘(Ｗ→)

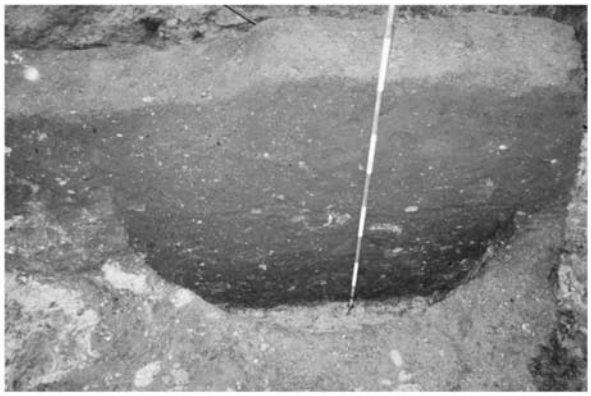


写真177 SK-165(下)・SD-81(上)セクション(S→)

写真178 SK-165完掘(S→)

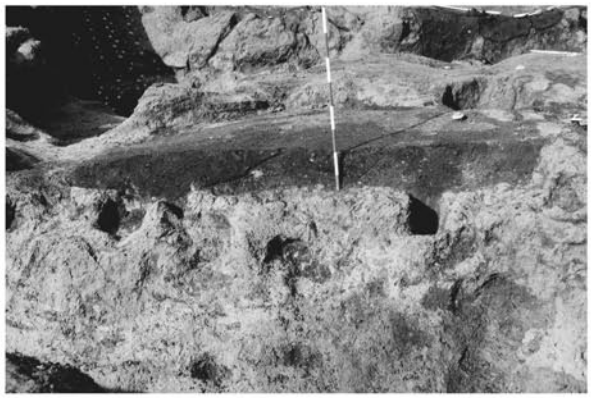


写真179 SK-176セクション(S→)

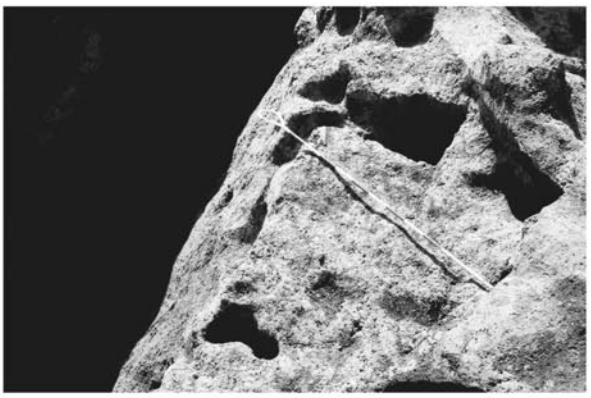


写真180 SK-176完掘(NE→)

写真181 SK-303・304セクション(E→)

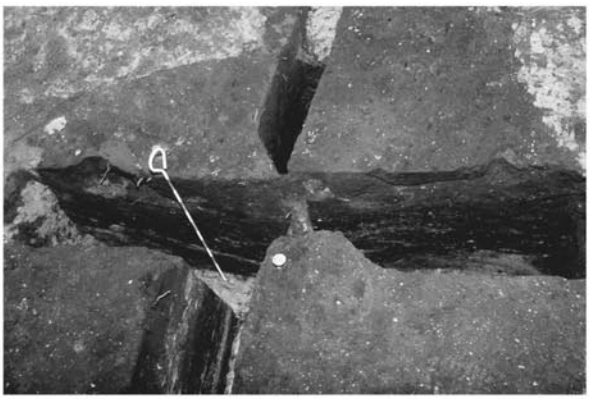


写真182 SK-304セクション(N→)

写真183 SK-303・328セクション(S→)

写真184 SK-303・304・324・328完掘(W→)

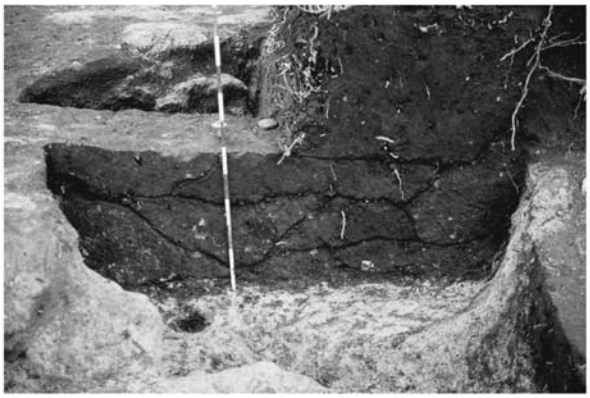


写真185 SK-305セクション(S→)

写真186 SK-305・306完掘(S→)

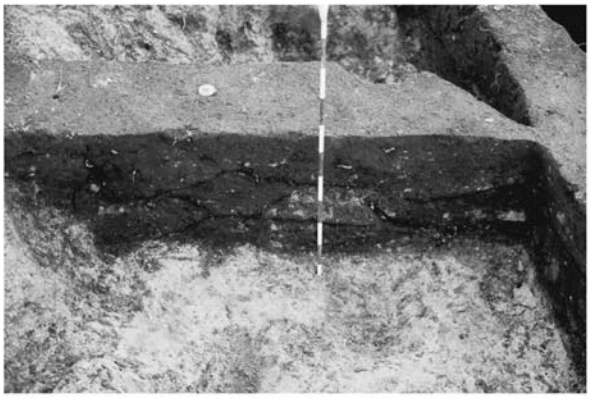


写真187 SK-306セクション(W→)

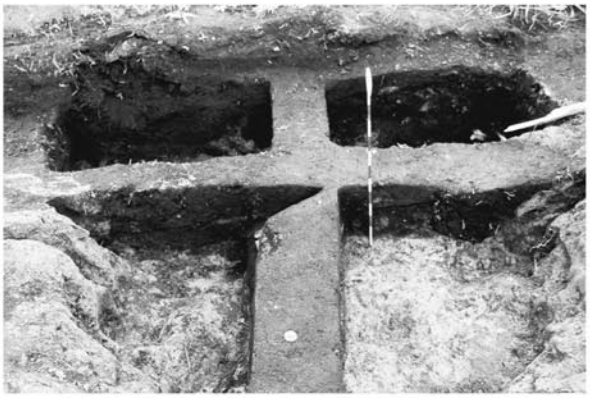


写真188 SK-306セクション(N→)

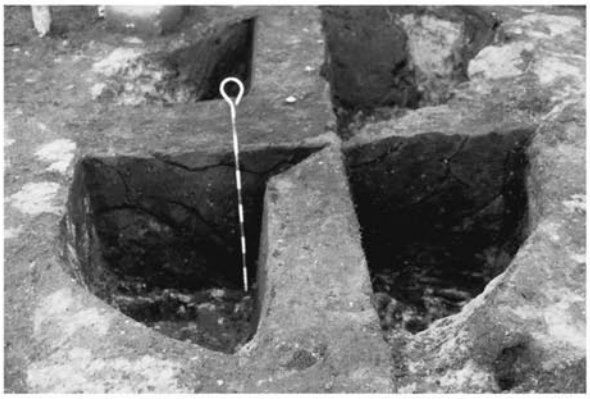


写真189 SK-307セクション(S→)

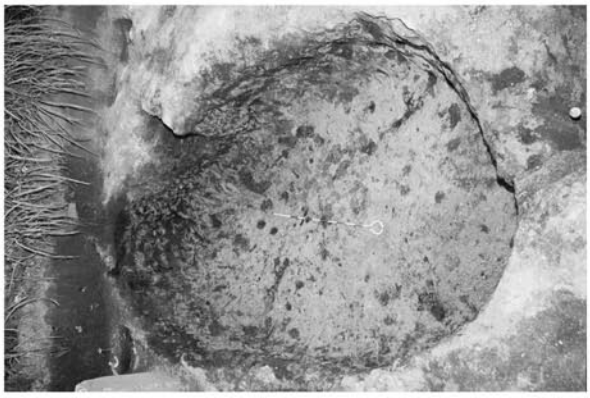


写真190 SK-307完掘(W→)

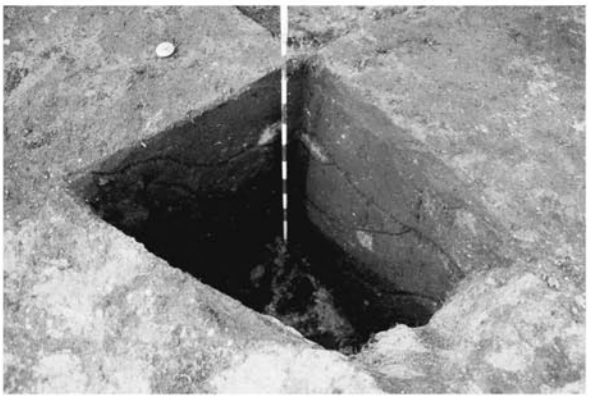


写真191 SK-308セクション(S W→)

写真192 SK-308完掘(S→)

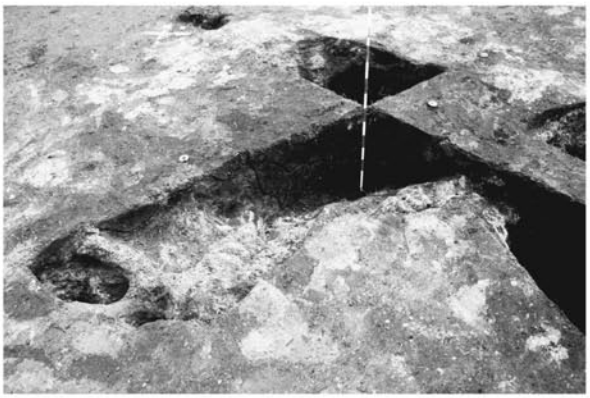


写真193 SK-309セクション(E→)

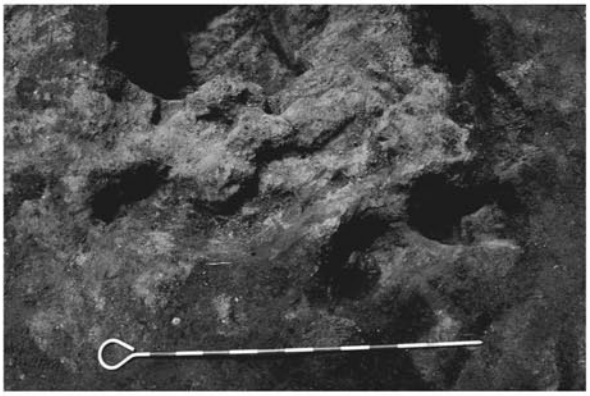


写真194 SK-309完掘(N E→)

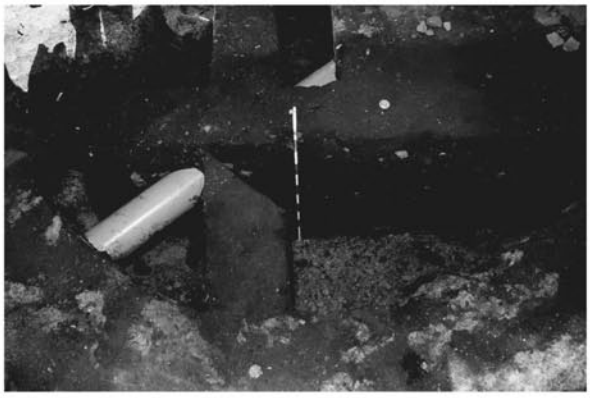


写真195 SK-310セクション(S E→)

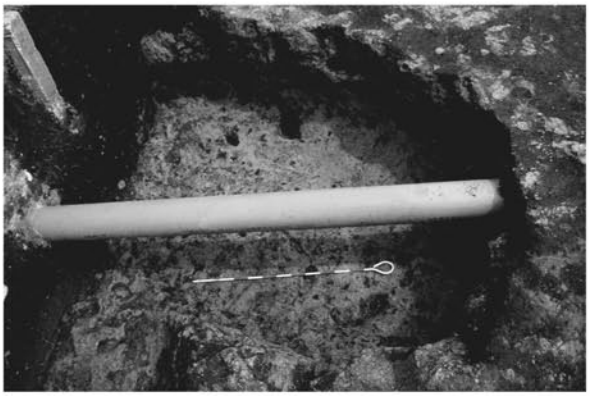


写真196 SK-310完掘(W→)

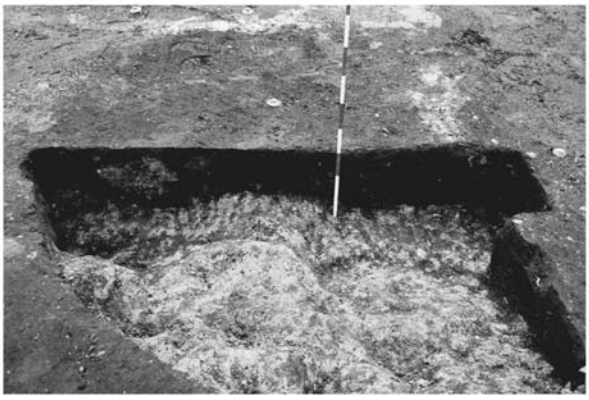


写真197 SK-311セクション(E→)

写真198 SK-311完掘(S→)

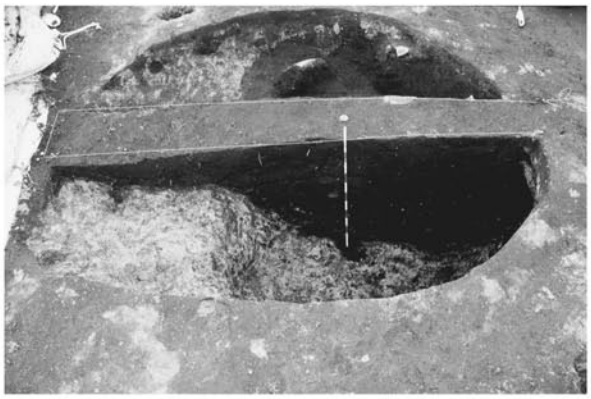


写真199 SK-312セクション(E→)

写真200 SK-312完掘(S→)

写真201 SK-313セクション(Ｅ→)

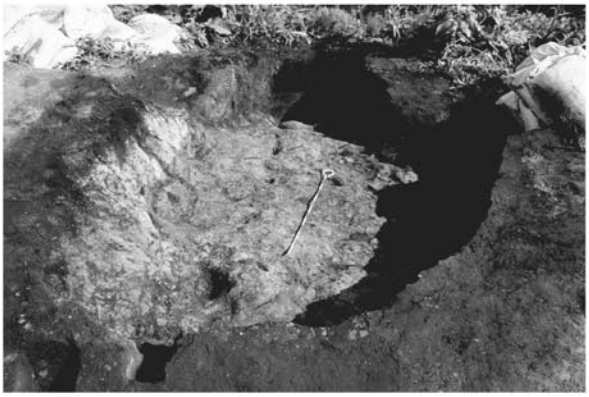


写真202 SK-313完掘(ＮＷ→)

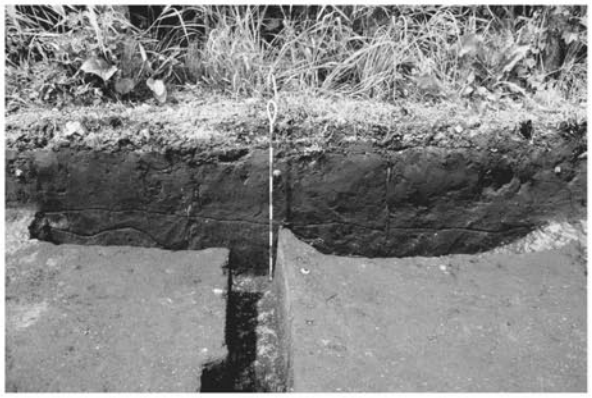


写真203 SK-320セクション(Ｓ→)

写真204 SK-320完掘(Ｓ→)

写真205 SK-321･SD-86･SP-1180セクション(S→)

写真206 SK-321(右)･SD-86(左)完掘(Ｓ→)

写真207 SK-324セクション(Ｓ→)

写真208 SK-329セクション(Ｓ→)

写真209 SN-50セクション(E→)

写真210 SN-50セクション(S→)

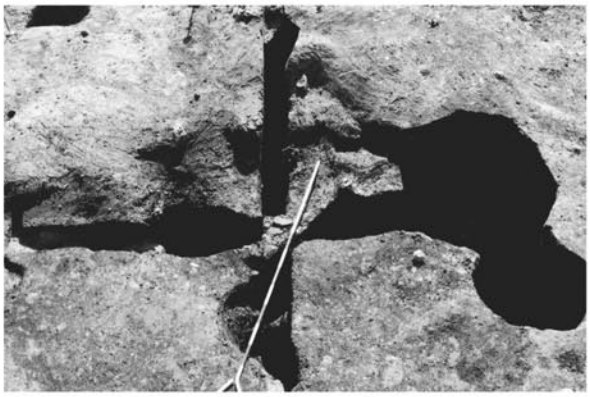


写真211 SN-50焼成面(N→)

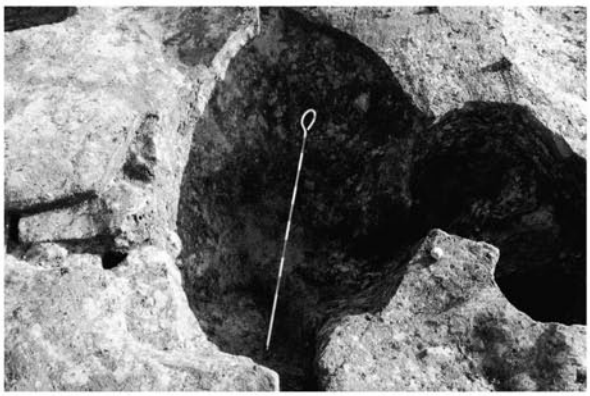


写真212 SN-50完掘(N→)

写真213 SB-01Pit5ｾｸｼｮﾝ(SE→)

写真214 SB-01Pit6ｾｸｼｮﾝ(SE→)

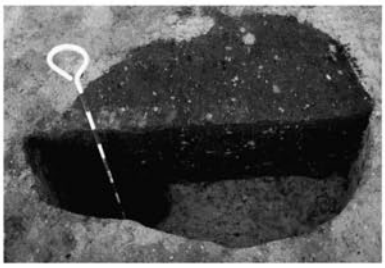


写真215 SB-01Pit10ｾｸｼｮﾝ(SE→)

写真216 SB-01Pit11ｾｸｼｮﾝ(SE→)

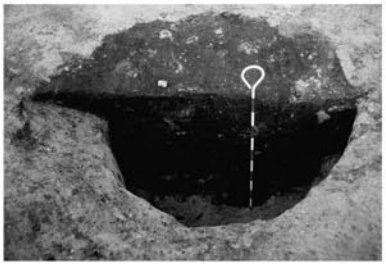


写真217 SB-01Pit12ｾｸｼｮﾝ(SE→)

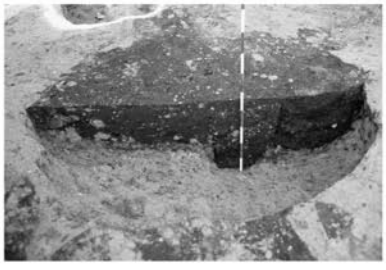


写真218 SB-01Pit13ｾｸｼｮﾝ(SE→)

写真219 SB-01Pit17ｾｸｼｮﾝ(NW→)

写真220 SB-01Pit18ｾｸｼｮﾝ(W→)

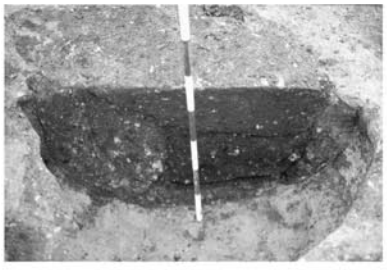


写真221 SB-01Pit19ｾｸｼｮﾝ(NW→)

写真222 SB-01Pit20ｾｸｼｮﾝ(SE→)

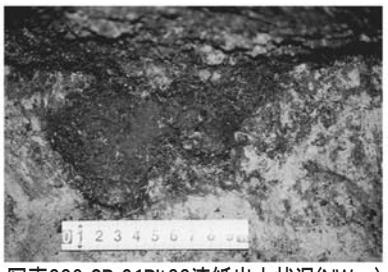


写真223 SB-01Pit22漆紙出土状況(NW→)

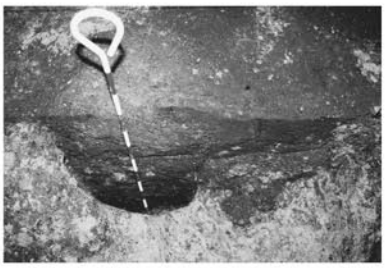


写真224 SB-01Pit22ｾｸｼｮﾝ(NW→)

写真225 SB-01Pit24ｾｸｼｮﾝ(NW→)

写真226 SB-01Pit25ｾｸｼｮﾝ(NW→)

写真227 SB-01Pit26ｾｸｼｮﾝ(NW→)

写真228 SB-01Pit27・SP-2978ｾｸｼｮﾝ(SE→)

写真229 SB-01Pit28ｾｸｼｮﾝ(SE→)

写真230 SB-01Pit30ｾｸｼｮﾝ(NW→)

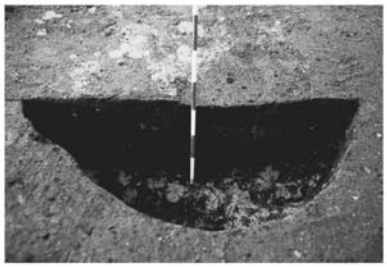


写真231 SB-01Pit31ｾｸｼｮﾝ(E→)

写真232 SB-01Pit32ｾｸｼｮﾝ(NW→)

写真233 SB-01Pit34ｾｸｼｮﾝ(SE→)

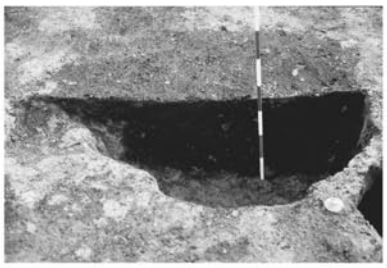


写真234 SB-02Pit1ｾｸｼｮﾝ(SE→)

写真235 SB-02Pit3ｾｸｼｮﾝ(NW→)

写真236 SB-02Pit4ｾｸｼｮﾝ(NW→)

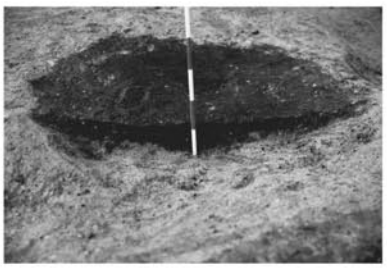


写真237 SB-02Pit6ｾｸｼｮﾝ(NW→)

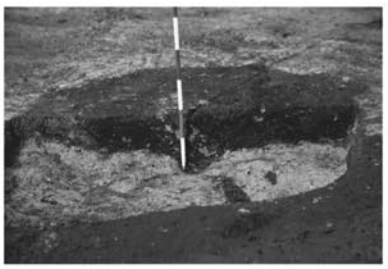


写真238 SB-02Pit7ｾｸｼｮﾝ(SE→)

写真239 SB-03Pit1ｾｸｼｮﾝ(E→)

写真240 SX-33セクション(ＮＷ→)

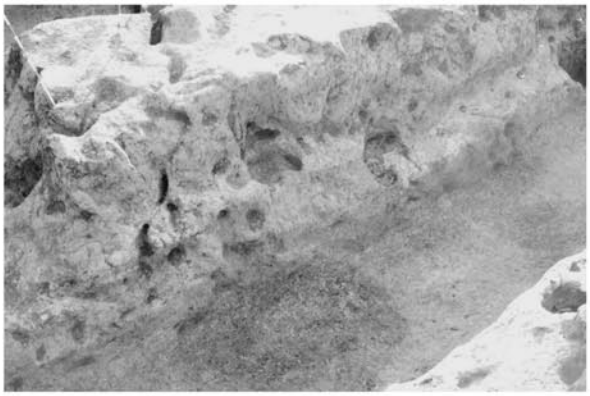


写真241 SX-33完掘(ＮＥ→)

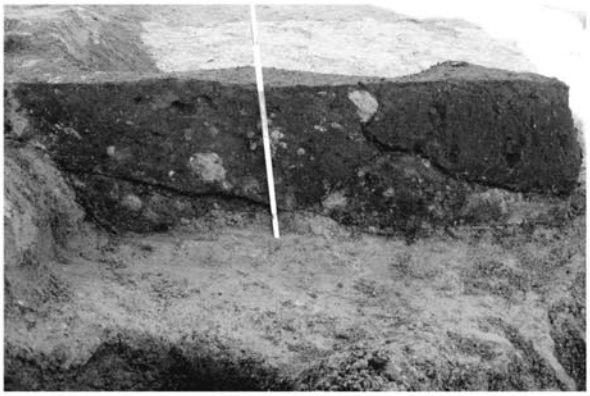


写真242 SX-38セクション(Ｓ→)

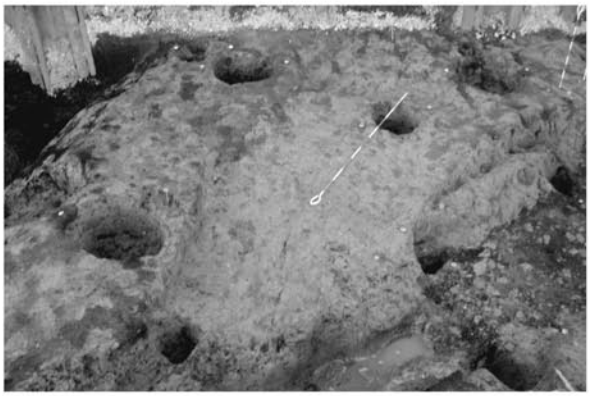


写真243 SX-38完掘(Ｓ→)

写真244 SD-81(右)・SK-310(左)ｾｸｼｮﾝ(Ｎ→)

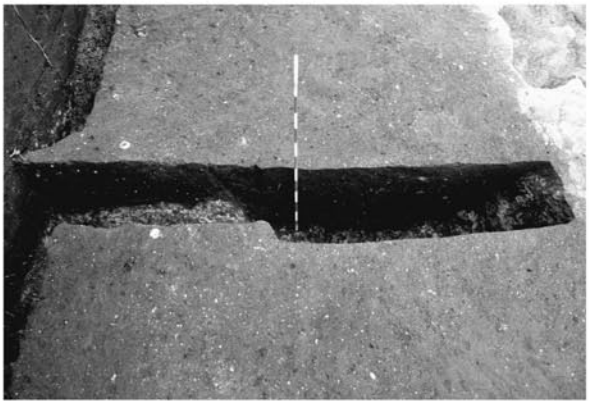


写真245 SD-81(右)・SK-320(左)ｾｸｼｮﾝ(Ｗ→)

写真246 SD-54(SD-126)・86ｾｸｼｮﾝ(Ｅ→)

写真247 SD-111ｾｸｼｮﾝ(Ｅ→)

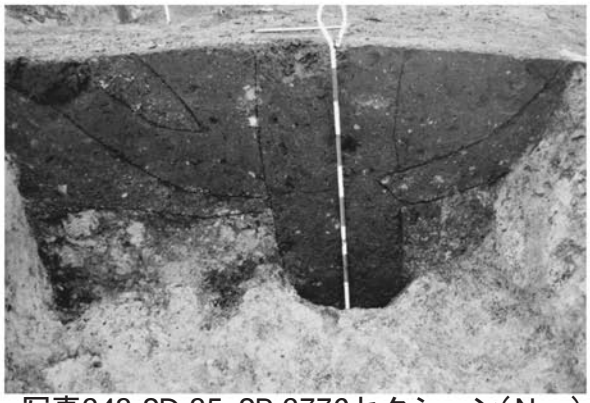


写真248 SD-85・SP-2776セクション(N→)

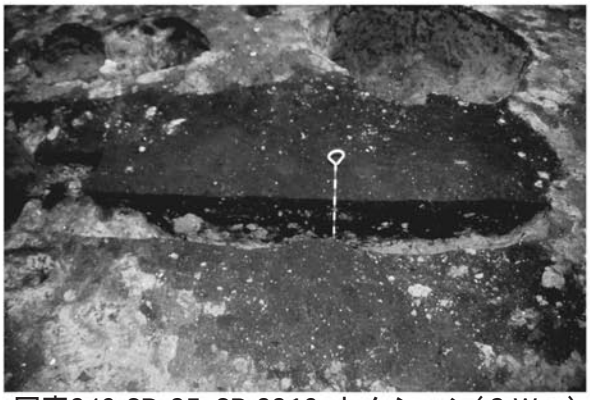


写真249 SD-85・SP-2813aセクション(S W→)

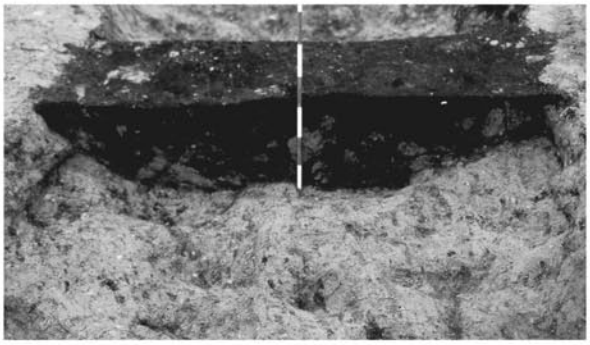


写真250 SD-87セクション(E→)

写真251 SD-87・SP-3104セクション(E→)

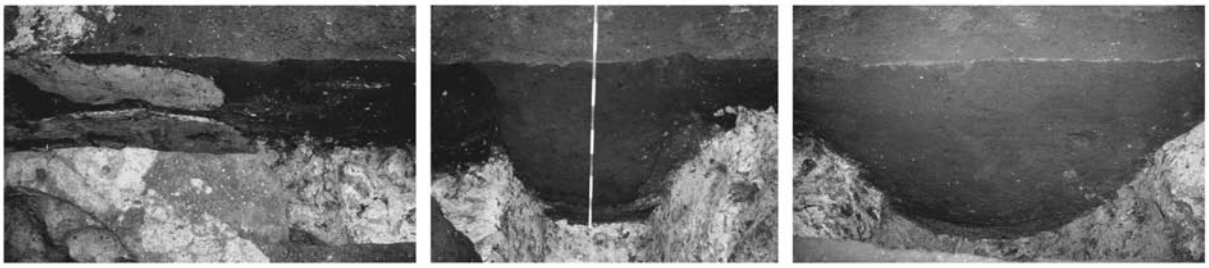


写真252-1～3 SD-81・99・111・126・SP-2756セクション(E→)

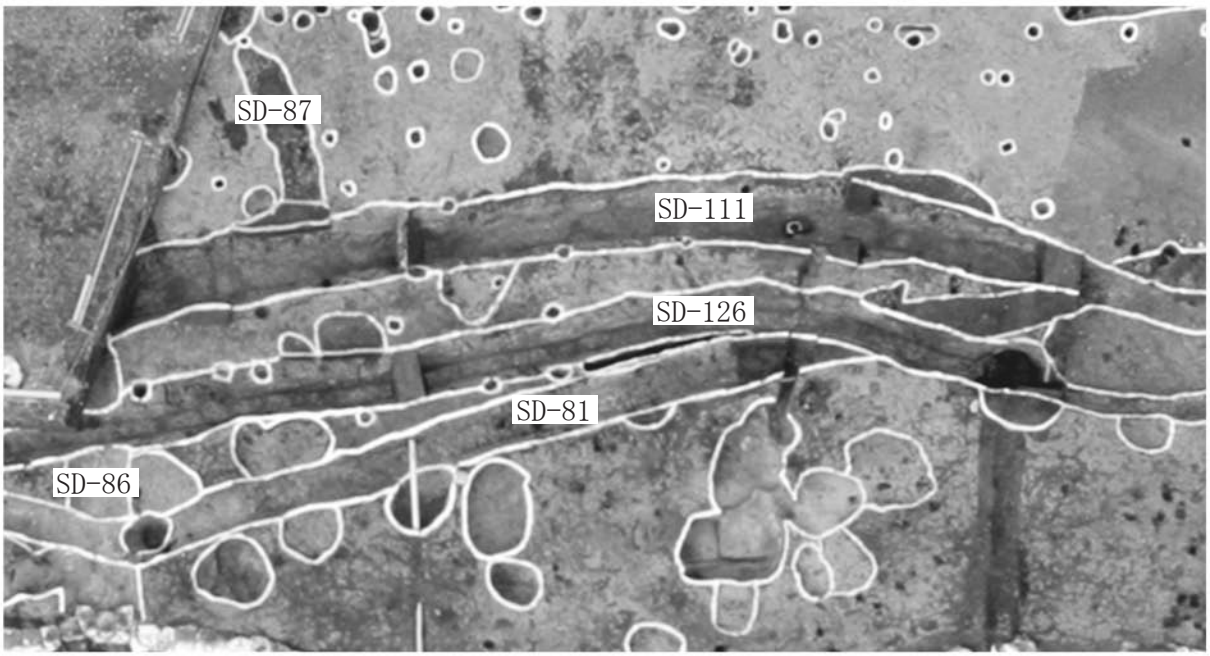


写真253 SD-81・86・87・111・126(真上→)

写真254 平成16年度新田(1)調査区全景(ＳＷ→)

写真255 土地区画整理事業調査区(Ｅ→)

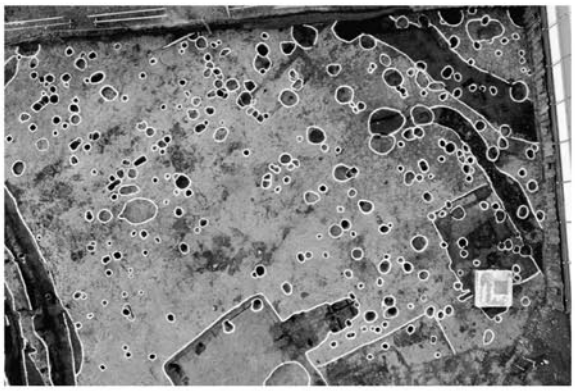


写真256 新幹線調査区(真上→)

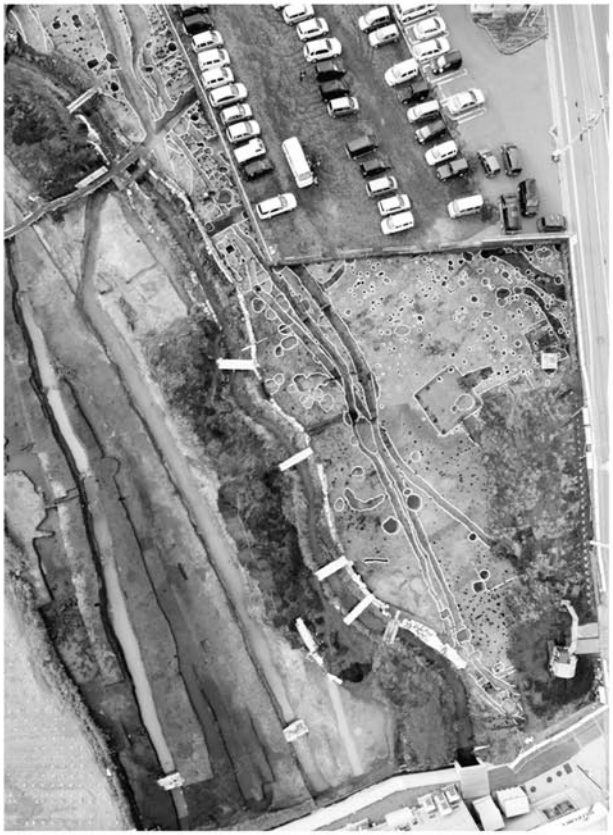


写真257 新幹線調査区・土地区画整理事業調査区(真上→)

第２節　遺物

１．土器

ＳＩ－０５（第１３３図－１～１６）

１６点図示した。１は掘り方出土の須恵器鉢の口縁部～体部にかけての資料で、口唇部は欠損している。焼成が甘く、還元化が不十分である。破断面の一部が二次被熱を受けている。体部に「〆」のヘラ記号が刻書されている。２は床面出土の土師器皿で口径１５．２ｃｍを測る。口唇部が先細りの皿形に開き気味の器形で、全体形については８の器形のように逆ハ字状に開き気味に立ち上がる。図示していないが、口唇部の一部にＶ字形の小さな打欠きがあり、破断面は摩滅しており、流動の要因が考慮できる。３は床面直上出土の土師器椀で口径１４．０ｃｍを測る。口唇部が先細りの形状であるが、口縁部直下の内面側にやや強めに押さえることによって膨らみを持たせ、さらに口唇部付近では外面側を再度ロクロナデにより面を意識させた形状を作出している。破断面の摩滅や汚れが著しく破片化した状況で流動した状況が考えられる。７は床面直上と堆積土第１層出土の破片の接合資料の土師器椀で、口径１４．４ｃｍ、器高５．３ｃｍ、底径７．０ｃｍを測り、器高指数３６．８、底径指数４８．６である。床面出土の破片は一部剥落があるが、色調等について大きな変色がない。しかしながら第１層出土の破片は剥落が顕著で、色調についても汚れが著しく、一部二次被熱痕が観察される。ＳＩ－０５と重複するＳＮ－５０段階での焼成の影響を受けた可能性について考慮される。体部中央で粘土紐の接合痕が観察されることから巻上げ成形であると判断され、口唇部が先細りで、底径幅が広く逆ハ字形で体部中央で一度角度を変え、開き気味に外反させている。口唇部も先細りで内側の口当たり部分を意識した外反のさせ方をしている。底部切離しは静止糸切である。８は床面直上及び堆積土第１層出土の土師器皿で、口径１４．８ｃｍ、器高４．０ｃｍ、底径７．０ｃｍを測り、器高指数２７．８、底径指数４７．３である。床面直上出土の破片が二次被熱を受けており、他の破片と非整合である。各破片は破断面に隙間や摩滅が生じており、破片化した状況で流動した可能性が考慮される。口唇部は先細りの形状を意識しているが、やや肉厚である特徴を有する。逆ハ字形を意識した形状で伸ばし上げるように器形を立ち上げさせている。底面の中央を指で押さえた痕跡があり、また、外面体部には墨痕が観察されるが、判読不能であった。９は堆積土下層や上層及び炭化物堆積層上面から出土した土師器椀で、口径２０．６ｃｍを測り、大型の部類に入る。堆積土下層出土の破片資料の割れ口は摩滅が少なく、鋭利な状況であるが、炭化物堆積層上面出土の資料は摩滅が著しく色調についても退色しており、炭化物の影響で、黒ずんだ色調を呈する箇所がある。本遺跡内出土の土師器甕によく見られる硬質のザラザラした質感を有する胎土で、浮石粒のサイズが３～５mm程のものが含まれる。器形は体部に膨らみを持ち口縁部付近で軽く外反させるように立ち上がる器形である。１０は床面直上出土と堆積土第１層出土の非ロクロ土師器甕の口縁部資料で、口径１４．８ｃｍを測る。他の資料同様床面直上出土資料については摩滅の要因が少ないが、第１層出土資料については摩滅が生じている。炭化物は体部に付着しており、口縁部内面には付着していない。頸部が短めで、口縁部はヨコナデを若干強く行うことにより外反させている。１１は床面直上出土の非ロクロ土師器甕で、口径１７．０ｃｍを測る。粘りの強い胎土で、硬質な印象を与えるが、黒斑が体部上半に残っている。口縁部は段状に立ち上がる形状で、口唇直下を指で折り返すようにして口縁部を形成しており、指頭圧痕が顕著に観察される。１２は堆積土第１層出土の土師器非ロクロ小甕で、口径９．０ｃｍを測る。二次被熱が著しい破片資料が含まれ、器面の色調に変化が生じている箇所が観察される。直胴形の器形で、口唇部は平滑に作られており、内面は横方向のナデによる整形で、外面は斜め方向のヘラケズリが施されている。１３は炭化物堆積層上面出土の非

ロクロ土師器甕の口縁部資料で、口径１４．８ｃｍを測る。砂粒の混入が少ない硬質な胎土で、破断面には摩滅が部分的に認められる。頸部が短く肩部が張る形状を呈しており、調整手法は外面が下半方向からヘラケズリ、内面が横方向のヘラによるナデという伝統的な調整手法である。その他１４に図示した土師器甕の体部資料などの出土がある。それ以外に１５・１６は床面直上出土の擦文土器の甕で、１５は口径１８．２ｃｍを測る。口縁部がキャリパー状に内湾する器形である。器面はハケメによる調整が体部では縦方向、頸部では横方向に施された後、口縁部は擦り消されて三角状の刺突文が５列施されている。頸部の一部にハケメを残し、その直下に刺突列を１列施し境界とし、その直下にはヘラ状の工具により２条１単位の格子文を施している。同一個体資料である１６は格子文の下半部以下の破片資料で、格子文直下には隆帯が貼られ、隆帯上に綾杉文が施される。その文様帯以下はハケメが残存している。

ＳＫ－３０３（第１３４図－１７）

堆積土中層出土の深鉢形の縄文土器片１点のみ図示した。破片は縄文時代後期前半十腰内Ⅰ式期に帰属する。

ＳＫ－３０６（第１３４図－１８）

堆積土下層出土の鉢形の縄文土器１点を図示した。口径１７．６ｃｍ、器高１１．５ｃｍ、底径７．６ｃｍを測る。ＳＫ－３０３出土資料同様縄文時代後期前半十腰内Ⅰ式期に属する。

ＳＫ－３１１（第１３４図－１９）

堆積土出土の土師器椀１点を図示した。口径１２．４ｃｍ、器高３．７ｃｍ、底径５．４ｃｍを測り、器高指数２９．８、底径指数４３．５と非常に浅身の形状である。粒度のきめ細かい胎土で、外面に炭化物が付着しており、破断面は摩滅により丸みを帯びている。口唇部が先細りの形状で、内外面ともヘラミガキによる調整で、成形について観察は限られた。底部切離しは静止糸切である。

ＳＫ－３１２（第１３４図－２０・２１）

堆積土出土の縄文土器の破片資料２点を図示した。２０は堆積土第２層出土の縄文土器片で刺突文およびコンパス文が施され縄文時代前期初頭表館式に属する。２１は堆積土第３層等出土の縄文土器片で、折り返し口縁で、沈線による格子目文が施される。縄文時代後期前半十腰内Ⅰ式に属する。

ＳＫ－３１３（第１３４図－２２～２５）

４点図示した。２２は堆積土第２・３層出土の土師器椀で底径６．２ｃｍを測る。海綿骨針を含むやや砂質がかった胎土で、内面側がピッチの付着が顕著である。器形は口縁部が欠損するが開き気味に立ち上がる形状である。底部切離しは右回転糸切で、ヘラオコシ痕が観察される。２３は上層出土の土師器椀底部で底径５．６ｃｍを測る。２２と同質の胎土で、やや硬質な質感を有する。内面にピッチの付着が認められるが、破断面によって切られており、また、割れ口もほぼ全周し、円形に近い形状にされていることや、破断面も摩滅が少なく、鋭利であることなどの理由から意図的にこの形状にした上で廃棄されているものと判断できる。底部切離しは右回転糸切で、２２と同様ヘラオコシ痕が観察される。２４はＳＫ－３１３の上面の耕作土層部分から出土した破片とＳＫ－３２１堆積土出土資料との遺構間接合資料の土師器椀で、底径７．２ｃｍを測る。両遺構は３ｍ程度の近接した距離間にあり、いずれの破片も破断面や器面の摩滅が著しいことから破片化の状態で流動等も含めた状況が想定される。同様に２５の非ロクロの土師器甕の資料についてもＳＫ－３２１との遺構間接合資料であり、両遺構が埋没段階において時期的にも近接した関係であったことが伺い知れる。２５は口径２１．０ｃｍを測る。砂粒の少ないザラザラした質感を有する胎土で、硬質な質感がある。口縁部を横方向に強く撫でることによって外反させている。

ＳＫ－３２１（第１３４図－２６～３０）

５点図示した。このほかＳＫ－３１３との遺構間接合の資料については前述のとおりである。２６は堆積土上層等出土の黒色土器椀で、口径１４．２ｃｍ、器高５．２ｃｍ、底径６．２ｃｍを測り、器高指数３６．６、底径指数４３．７である。海綿骨針を含むザラザラした質感を有する胎土で、やや粘りに欠け、底部は少し柱状気味になっており、体部は椀形に膨らみながら開き気味に立ち上がる。内面の黒色処理は黒灰色気味で、ヘラミガキは見込部分周辺のみで体部上半には行われていない。２７～２９は堆積土出土の底部の破片資料で、ＳＫ－３１３同様底面を残すように体部下半を打ち欠いた資料である。２６同様微柱状気味の器形である。底部切離しは回転糸切主体であるが２９は静止糸切である。３０は堆積土上層出土の土師器椀で口径１４．４ｃｍを測る。椀形の器形で、口唇部は先細りの形状で、開き気味に立ち上がる器形である。

ＳＰ－２８４２（第１３５図－３１・３２）

２点図示した。３１は堆積土第１層出土の非ロクロ土師器甕で口径１５．６ｃｍを測る。砂粒を含むやや粘りのある胎土で、破断面は鋭利である。内面にスス状の炭化物が付着しており、外面には粘土状の付着物が観察される。頸部が短く口縁部をヨコナデによって外反して作り上げている。１２７は底面近くの第５層出土の非ロクロ土師器甕で、口径２１．８ｃｍを測る。砂礫を多く含むザラザラ質感を有する胎土で、体部側は粘土紐の接合箇所に沿って割れており、側面については割れ口が鋭利である。第１３３図－１１に図示したＳＩ－０５出土の資料と類似した口縁部形態を有するが、本資料の方が器壁が薄く、粘土紐の接合箇所が十分撫で消されていない特徴がある。内外面ともスス状の炭化物が付着している。

ＳＰ－２９１３（第１３５図－３３）

１点図示した。３３は堆積土出土の擦文土器の口縁部資料で、口唇部には間隔の狭い沈線を一条施し、その直下に幅広の凹線状に３条沈線を施し沈線間を隆起させ、各沈線内に木口で綾杉状に刺突を行い充填している。

ＳＰ－２９５９（第１３５図－３４・３５）

２点図示した。３４は堆積土第１層出土の土師器椀で、口径１３．８ｃｍを測る。海綿骨針を含むパサパサした質感を有する粘りに欠ける胎土で､粒度の大きな浮石粒なども観察される。破断面は鋭利である。図示していないが、巻上げ成形の粘土紐の接合痕が局所的に観察される。椀形の器形であるが、開き気味に外反している。３５は堆積土第１層出土の非ロクロ土師器甕で、口径（１５．６）ｃｍを測る。やや粘りのある胎土で、破断面は鋭利である。内面側に煮沸痕の可能性がある付着物が観察される。外面の頸部までヘラケズリが行われるタイプで、頸部の幅が短く口唇部直下をつまみ返すように外反させている。

ＳＰ－２９６６（第１３５図－３６）

１点図示した。３６は堆積土第４層出土の五所川原産須恵器の壺形土器の底部で底径１０．６ｃｍを測る。体部下半から底面にかけて約半分に自然釉が付着しており、特に底面の部分が著しい状況にある。底面はヘラケズリによる調整で、菊花状ケズリは行われておらず、ヘラ記号「－」が浅く刻書されている。

ＳＢ－０１Ｐｉｔ１（第１３５図－３７）

１点図示した。３７は堆積土第２層出土の非ロクロ土師器甕の底部資料で、底径１２．２ｃｍを測る。粘りの弱いザラザラした質感を有する胎土で、粒度の細かい砂粒の混入が目立つ。破断面は鋭利である。

ＳＢ－０１Ｐｉｔ１２（第１３５図－３８）

１点図示した。３８は堆積土第１層出土の土師器甕の底部資料で、底径７．８ｃｍを測る。３７に比べ

やや粘りのある胎土で、破断面は摩耗している。底面は砂底である。

ＳＢ－０１Ｐｉｔ２６（第１３５図－３９）

１点図示した。３９は堆積土出土の土師器椀で、口径１３．８ｃｍを測る。やや粘りのある胎土で、φ５ｍｍ前後の礫を含んでいる。破断面の摩滅は著しい。椀形の器形で、体部に浅い稜を持ち、口唇部直下でつまみ伸ばすように外反させている。

ＳＢ－０１Ｐｉｔ３０（第１３５図－４０ａ・ｂ，４１）

図上復元を含め、同一個体資料について３点図示した。４０は堆積土第１層出土の珠洲焼擂鉢で、口縁部資料を４０ａ、体部～底部にかけてを４０ｂとし、合成した図についても図示した。図上復元値は口径３３．６ｃｍ、器高（１１．６）ｃｍ、底径１５．０ｃｍを測る。口唇部に波状文が施され、卸目の間隔も狭い特徴がある。４１も同一層出土の資料で、同一個体である。珠洲焼のⅤ期に属し、１５世紀前半に属する。

ＳＢ－０３Ｐｉｔ１（第１３５図－４２）

１点図示した。４２は堆積土第２層出土の龍泉窯青磁劃花文皿で、底径５．０ｃｍを測る。二次被熱を受けており、釉部分が変質している。青森市内では三内沢部（３）遺跡の青森県埋蔵文化財調査センターが平成１５年度に調査した調査区遺構外から類似した資料が出土している。（青森県教育委員会２００５：青森県埋蔵文化財調査報告書第３９０集）

ＳＤ－８１（第１３６図－４３～４９）

７点図示した。４３は下層出土の手づくねかわらけの底部資料で、底径８．０ｃｍを測る。海綿骨針を微量含む砂質がかった胎土で、破断面は摩滅が著しい。４４は中層出土の土師器椀で、口径１２．６ｃｍ、器高４．０ｃｍ、底径５．４ｃｍを測り、器高指数３１．７、底径指数４３．５である小型の浅身の形状である。海綿骨針を含むやや粘りのある胎土で、体部には巻上げ成形痕が確認され、体部中半には黒斑が観察される。底部切離しは右回転糸切である。４５は中層出土の非ロクロ土師器甕の口縁部資料で、口径１９．２ｃｍを測る。砂粒が少ない粘りの弱い胎土で硬質な質感を有する。破断面は摩滅している。外面体部には輪積痕が残存しているが、内面はヘラにより撫で消されている。頸部を横方向に強く撫でることによって外反させている。４６は中層出土の非ロクロ土師器甕の口縁部資料で、口径（１５．８）ｃｍを測る。二次被熱による変色や摩滅が著しい。海綿骨針を含むやや粘りのある胎土で、口縁部は口唇部を軽くつまみ返す程度である。４７は中層出土の非ロクロ土師器甕の口縁部資料で、口径２０．０ｃｍを測る。器面および破断面の摩滅・風化が顕著である。４６と類似した胎土で、外面の頸部直下までヘラケズリが行われており、口唇部直下を軽くつまみ返している。４８は上層出土の非ロクロ土師器甕の口縁部資料で、口径２２．０ｃｍを測る。海綿骨針を含む粘りの弱いザラザラした質感を有する胎土で、器面・破断面ともに摩滅しており、内面は一部剥落している。頸部を軽く撫でることによって外反させている。４９は中層出土の須恵器甕の底部資料である。外面は交差叩き、内面はナデによ調整であり、底面中央付近は摩滅した状況である。

ＳＤ－８４（第１３６図－５０～第１３７図－７３）

２５点図示した。５０は中層出土の土師器椀で、口径１２．６ｃｍを測る。やや粘りのある胎土で、二次被熱が著しく、器面・破断面とも摩滅している。巻上げ成形で、内面の接合箇所についてヘラ状の工具で撫であげている。５１は中層出土の土師器椀で、口径１５．２ｃｍを測る。海綿骨針を含むやや粘りのある胎土で、器面・破断面とも摩滅している。口唇部の一部が玉縁状に丸みを帯びている。５２は中層出

土の土師器椀底部資料で、底径５．０ｃｍを測る。粘りの弱いパサパサした質感を有する胎土で、二次被熱を受けており、破断面がやや摩滅している。底部が微柱状高台状を呈しており、体部にかけて椀形の膨らみのある形状を呈する。５３・５４は上層出土の資料で、地点は離れているが、類似した形状・胎土を有する資料である。両資料とも口径１４．８ｃｍで、５３の資料が口唇部直下からつまみ上げるように外反させており、５４の資料は体部中半から直線的に外反させている差異がある。両資料とも破断面は摩滅している。５５は上層出土の土師器椀で、口径１３．２ｃｍ、器高６．９ｃｍ、底径４．８ｃｍを測り、器高指数５２．３、底径指数３６．４である。椀形の深身の形状で、海綿骨針を含む粘りのある胎土で、浮石粒が少量混入している。体部下半～底面にかけて黒斑が観察される。底部切離しは静止糸切である。５６は上層出土の非ロクロ椀で、口径１５．４ｃｍを測る。海綿骨針を含む粘りの弱いザラザラした質感を有する胎土で、器壁および器面の摩滅が強い。外面側は粘土紐の接合痕を撫で消していないが、内面側はヘラ状の工具で撫で消されている。５７は上層出土の土師器椀で、口径１５．０ｃｍを測る。粘りのややある胎土で内外面ともスス状炭化物が付着しているが、退色しており、破断面の摩滅も著しい。口唇部が先細りの薄手のつくりをしている。５８は中層出土の非ロクロ土師器甕で、口径２０．６ｃｍを測る。海綿骨針を含む粘りのややある胎土で、破断面は鋭利であるが、器面の一部は摩滅している。外面頸部直下までヘラケズリによる調整である。５９は中層出土とＳＰ－２７７８との上層の出土が接合した非ロクロ土師器甕で、口径２０．８ｃｍを測る。やや粘りの弱い胎土で、硬質な質感がある。５８より口縁部の幅があるが、調整手法は同一である。破断面はやや鋭利で、剥落が生じている箇所がある。６０は中層出土の土師器甕で、口径１６．８ｃｍを測る。やや粘りのある胎土で、口唇端部の内側が凹線状になっており、平滑な面が作りだされている。口縁部は幅を狭く横方向に撫でることによって外反させており、体部は鉈削り的なヘラケズリが施されている。６１は上層出土の非ロクロ土師器甕で、口径１６．０ｃｍを測る。胎土は５９と同質であるが、口縁部の幅は極端に狭く、ヘラケズリを口唇部直下まで及ぼしている。体部下半が剥落しており、破断面も鋭利である。６２は上層出土の非ロクロ土師器甕で、口径２０．４ｃｍを測る。砂粒を多く含む粘りの弱いパサパサした質感を有する胎土で、破断面は鋭利である。外面側は輪積痕が撫で消されておらず、内面側の一部ではヘラにより撫で消されている。６３は上層出土の非ロクロ土師器甕の体部資料で、幅５．４×４．９ｃｍ、厚さ０．５ｃｍを測り、重さ１２．５ｇを量る。紡輪として転用されている。第１３７図－６４～６７は擦文土器の破片資料、６８はコンパス文＋刺突文から縄文時代前期初頭表館式、６９は摩滅しているため詳細は不明であるが円筒式土器で、繊維混入痕が認められることから前期に帰属すると思われる。７０は詳細時期不明であるが、縄文時代晩期の深鉢形土器の体部資料で、７１～７３は縄文時代晩期大洞Ａ式期に帰属する。

ＳＤ－８５（第１３７図－７４～８３）

遺構間接合資料も含め１０点図示した。７４はＳＤ－８４中層出土資料とＳＤ－８５上層出土資料の遺構間接合資料の土師器甕の体部資料である。ＳＤ－８４と８５の接合箇所は退色し、破断面が摩滅した資料で、その他ＳＤ－８５出土の資料の一部には退色や摩滅が少ない資料が含まれている。７５は下層出土の非ロクロ土師器甕で口径（１５．４）ｃｍを測る。同質の胎土・調整手法で類似した資料は第１３５図－３１に掲載したＳＰ－２８４２出土資料である。本遺構出土の資料はＳＰ－２８４２よりも破断面や器面の状態が良好である。７６は下層出土のロクロ土師器小甕口径１２．４ｃｍを測る。粘りのある胎土で、器面および破断面の摩滅剥離が著しい。内面頸部付近に煮沸混が観察される。器形はロクロナデにより成形されているが、頸部が短く外反させている。７７は上層および下層出土の土師器椀で、底径６．４ｃｍ

を測る。海綿骨針を含むややねばりのある胎土で、破断面は鋭利であるが、割れ口部分まで付着物が付着していることから破片化した状態で、二次的な影響にさらされた可能性が考えられる。椀形の微柱状状に立ち上がる器形である。７８は上層出土の黒色土器椀で、口径１３．０ｃｍを測る。海綿骨針を含み、粒度のやや細かい砂粒を中量含む粘りのある胎土で、破断面は鋭利である。椀形の器形で、口縁部は口唇部のみをつまみ返すような外反をさせている。内面のヘラミガキは横方向主体である。７９は上層出土の土師器椀で口径１３．６ｃｍを測る。海綿骨針を含むやや粘りのある胎土で、体部下半に粘土紐の接合痕が観察され、全体的に形状が不均一で、薄造りである。８０・８１はいずれも上層出土の非ロクロ土師器甕で、近接した位置から出土しており、調整手法ならびに口径についても同一個体の可能性が高い資料である。砂粒を多く含む粘りのややある胎土で、口縁部の幅はやや広いが、ヘラケズリが頸部を越え口唇部側寄りに及んでいる箇所がある。８１の方がやや摩滅・流動の要因が高い。８２は上層出土の非ロクロ土師器甕で、口径１４．６ｃｍを測る。砂粒の少ない粘りのある胎土で、破断面はやや摩滅しており、割れ口部分にも内面に付着しているものと同様の炭化物が付着していることから破片化した状態で二次的な影響を受けているものと判断される。口縁部は頸部が短く、口唇部を軽く外反させるようにつまみ返している。体部外面はは乱方向にヘラケズリされている。８３は上層出土の須恵器甕体部資料で、３ｃｍあたりの条線は１０で、外面の色調が７．５ＹＲ４／４の赤みを帯びた褐色を呈しているが、内面の色調は７．５Ｙ４／１の灰色を呈している。断面の色調は五所川原産の特徴のサンドイッチ状を呈している。

ＳＤ－１１１（第１３８図－８４・８５）

２点図示した。８４は上層出土の肥前系陶磁器染付で、高台径４．０ｃｍを測る。底面に「大明年製」と記銘されている。８５は中層出土の土師器椀で口径１５．０ｃｍを測る。粘りの弱いザラザラした質感を有する胎土で、破断面は摩滅している。口唇部に成形時についた浅い抉りが残存している。

ＳＤ－１２６（第１３８図－８６・８７）

２点図示した。８６は堆積土出土の須恵器甕の口縁部資料で、口径１８．２ｃｍを測る。摩滅・剥離が著しく、破片化した状態で、かなり流動した資料であると考えられる。８７は浅鉢形の縄文土器で口径（２５．０）ｃｍを測る。縄文時代後期前半十腰内Ⅰ式に属する。

遺構外出土土器（第１３８図－８８～９０）

３点図示した。８８は耕作土出土の越前の甕の破片資料で１５世紀代に帰属する。８９は包含層出土の土師器椀の底部資料で、底径５．８ｃｍを測る。粘りの強い態度で、体部外面にはヘラ記号「／」が記入されている。９０はＳＫ－３１３周辺から出土した土師器甕で口径１６．０ｃｍを測る。砂粒が多く、粘りの弱いザラザラした質感を有する胎土で、破断面は鋭利である。外面にススが付着している。

２．石器・石製品

ＳＤ－８１（第１３９図－９１・９２）

２点図示した。９１は上層出土の砥石で、１９．９×１５．８×６．３ｃｍを測り、１５４４．０ｇを量る。石質は凝灰岩である。両面使用されているが、中央にススが付着しており、欠損部にはススが付着していないことから左側縁の欠損は使用後であると考えられる。９２は上層出土の砥石で、８．５×３．９×３．２ｃｍを測り、１６０．６ｇを量る。石質は頁岩である。平滑な面の利用が各面に及んでおり、一部敲打痕が観察される。

ＳＤ－８４（第１３９図－９３・９４）

２点図示した。９３は上層出土の不定形石器で、４．５５×１．７×０．９ｃｍを測り、４．７ｇを量る。石質は珪質頁岩である。９４は上層出土の敲磨器で７．６×６．９５×３．３ｃｍを測り、２４３．２ｇを量る。石質は凝灰岩である。

ＳＤ－１２６（第１３９図－９５）

１点図示した。９５は上層出土の磨石で、７．０×２．９×４．５ｃｍを測り、１０８．５ｇを量る。石質はデイサイトである。

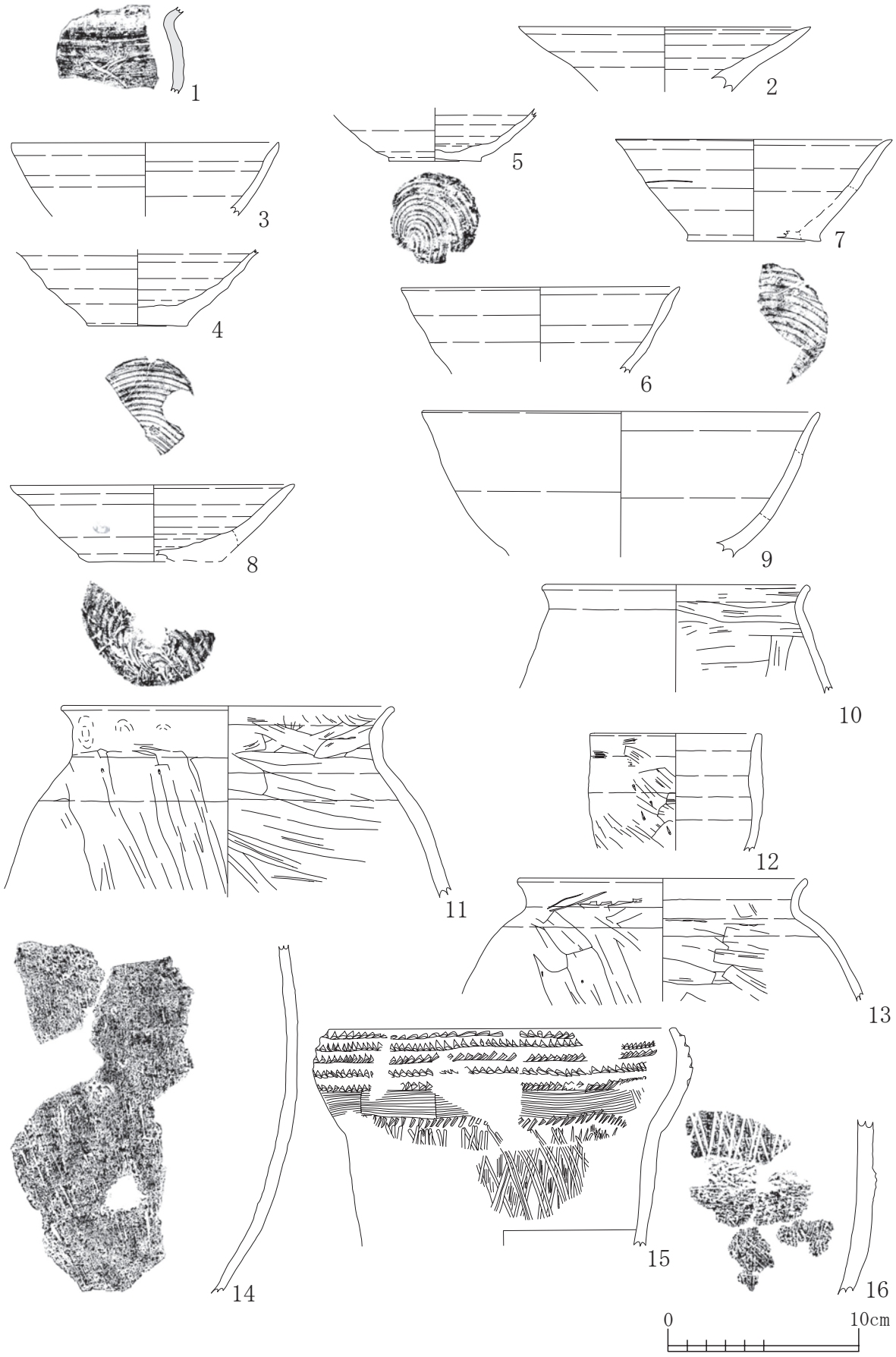
ＳＰ－２８３９（第１３９図－９６）

１点図示した。９６は上層出土の石製勾玉で、６．７５×２．６×２．２ｃｍを測り、３０．４ｇを量る。石質は凝灰岩である。穿孔についてはやや斜めに両端から孔があけられたものと判断される。

第３節　小結

新田（１）遺跡の平成１６年度の調査区は標高６．４～７．３ｍの火山性台地上の丘陵地部分の調査で、平安時代の竪穴建物跡２軒、土坑３１基（うち１基は井戸跡)、焼成遺構１基、中世の掘立柱建物跡５棟、古代及び近世のその他の遺構２基、平安時代以降の溝跡９条、古代～中世のピット３７１基（掘立柱建物跡の柱穴として認定した５９基を除く）を検出した。平成１５年度調査の沖積地部分に広がった古代の溝跡が使用された段階の居住空間が丘陵地上に展開していたものと考えられる。溝跡は丘陵地上でも走っており、利水以外にも区画等の要素についても検討される資料群である。本調査区検出の溝跡のほとんどが土地区画整理事業の調査区につながり、土地区画整理事業の調査区の成果と連動する。また、溝跡だけではなく、中世の掘立柱建物跡についても同様であり、遺跡内の各施設の配置状況や変遷過程については多岐にわたるものであり、本報告内の調査区の成果のみでは不明な点が数多く存在する。今後、土地区画整理事業の調査区内での成果等を踏まえ遺跡内での複雑な変遷過程の様相について迫る必要性がある。

SI-05



第 133 図　出土遺物 1（土器）

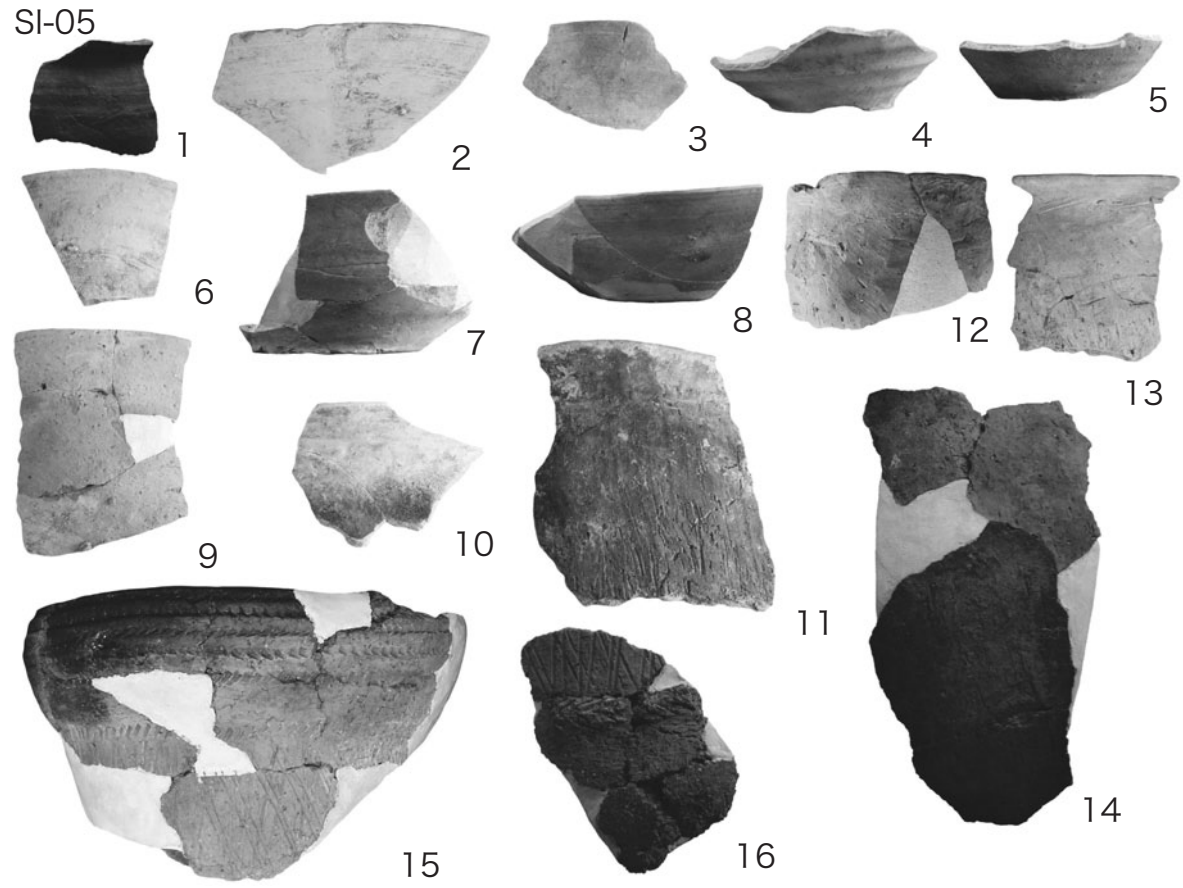
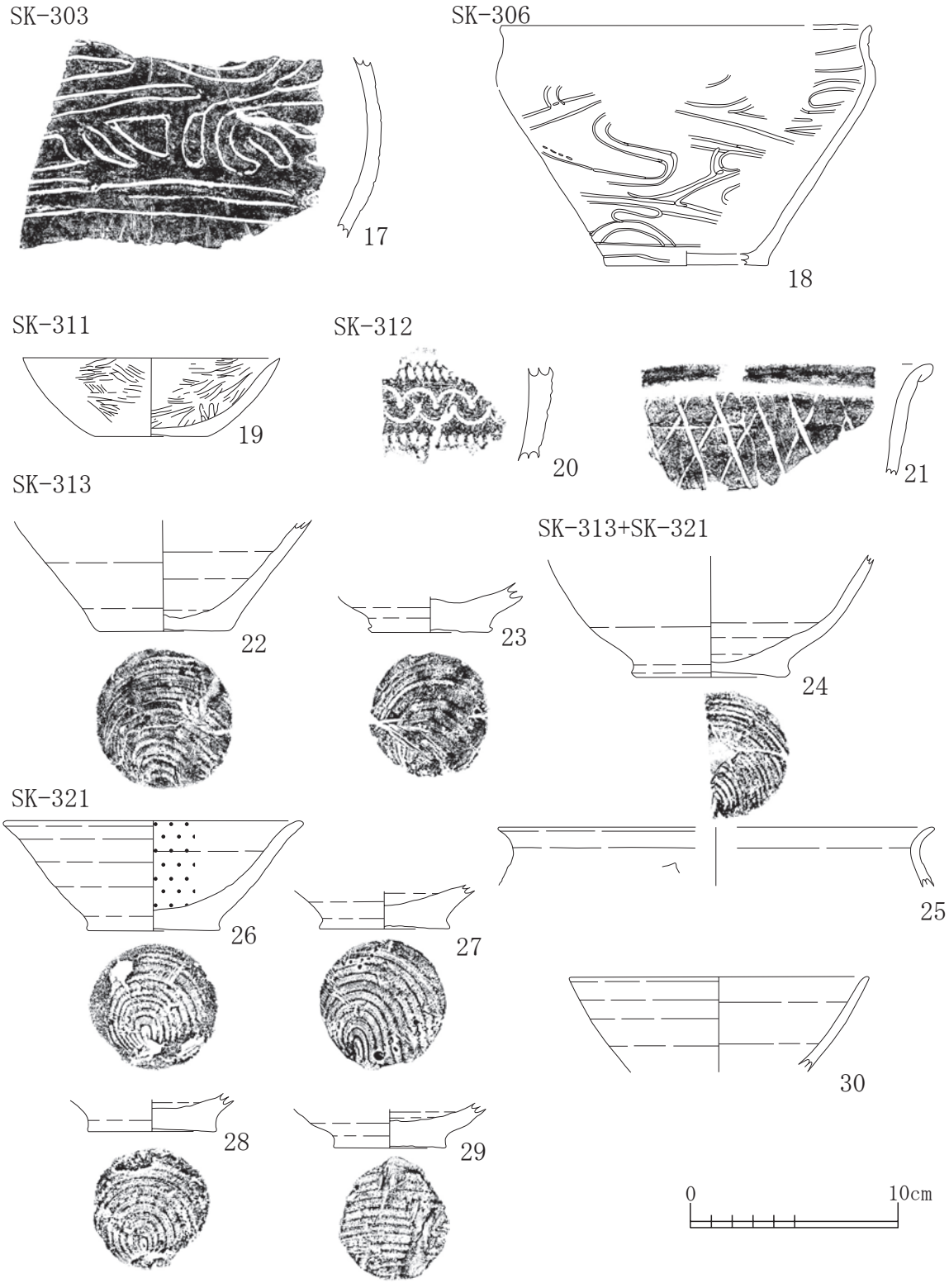


写真 258　出土遺物 1（土器）

第 33 表　遺物観察表 1

No.	出土地区	遺構名	層位	種別	器種	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率		色調外面	色調内面	焼成	礫	砂	骨	赤	外面調整	内面調整	底部調整	備考
										口縁	底部											
1	B-1・拡張新	SI-05(SD-85)	掘り方 P-X	須恵器	鉢	体部	-	-	-			10YR3/2	7.5YR4/3	良	-	微	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ		酸化焼成
2	B-1・拡張新	SI-05	床面 P-121	土師器	皿	口縁部	15.2	-	-	2.2/12		10YR7/4	10YR7/4	並	-	少	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		
3	B-1・拡張新	SI-05	床直 P-75	土師器	椀	口縁部～体部	14.0	-	-	1.0/12		10YR5/2	10YR4/1	並	-	少	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		
4	B-1・拡張新	SI-05	床直 P-58・59	土師器	椀	体部～底部	-	-	5.2		1.6/12	7.5YR7/6	7.5YR7/6	並	-	中	微	少	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	
5	B-1・拡張新	SI-05	掘り方上 P-X	土師器	椀	体部～底部	-	-	4.8		12/12	7.5YR6/6	7.5YR7/6	並	-	少	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	
		SI-05Pit38	フク② P-X																			
6	B-1・拡張新	SI-05	フク 1P-6	土師器	椀	口縁部	14.6	-	-	1.5/12		5YR7/6	5YR7/6	並	-	少	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		
7	B-1・拡張新	SI-05	床直 P-65・77、フク 1P-15・41	土師器	椀	口縁部～底部	14.4	5.3	7.0	0.3/12	4.5/12	5YR6/6	7.5YR6/6	並	-	少	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	輪積痕有
8	B-1・拡張新	SI-05	床直 P-64・66・83・84、フク 1P-17・32	土師器	椀	口縁部～底部	14.8	4.0	7.0	2.2/12	6.2/12	10YR7/4	10YR6/3	並	微	少	微	微	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	墨書有，指圧痕有
9	B-1・拡張新	SI-05	フク上 P-75、フク下 P-150、SD-85 側炭上 P-87・99	土師器	椀	口縁部～体部	20.6	-	-	1.3/12		10YR6/3	7.5YR6/4	並	微	中	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ		粘土付着
10	B-1・拡張新	SI-05	床直 P-54、フク 1P-1	土師器	甕	口縁部～体部	13.6	-	-	0.6/12		7.5YR8/4	10YR7/4	並	微	中	-	-	ユビナデ	ヘラナデ		スス付着
11	B-1・拡張新	SI-05	床直 P-46	土師器	甕	口縁部～体部	17.0	-	-	2.5/12		10YR4/1	7.5YR4/1	並	中	多	-	-	ユビナデ / ヘラケズリ	ユビナデ / ヘラナデ		指頭圧痕有，輪積痕有，付着物有
12	B-1・拡張新	SI-05	フク 1P-27・28・37	土師器	甕	口縁部～体部	9.0	-	-	4.3/12		5YR7/6	10YR5/2	並	微	少	-	微	ハケメ / ヘラケズリ	ナデ		
13	B-1・拡張新	SI-05	SD-85 側炭上 P-107	土師器	甕	口縁部～体部	14.8	-	-	1.2/12		10YR7/3	7.5YR6/4	並	-	中	微	-	ユビナデ / ヘラケズリ	ユビナデ / ヘラナデ		輪積痕有
14	B-1・拡張新	SI-05	SD-85 側炭上 P-98	土師器	甕	体部	-	-	-			7.5YR5/4	7.5YR4/4	良	少	中	-	-	ヘラケズリ	ナデ		付着物有，炭化物付着
		SD-85	フク上 P-28・34、フク下 P-151																			
15	B-1・拡張新	SI-05	床 直 P-56・57・73・76・79・81、フク 1P-4・8・22・24・33	擦文	甕	口縁部～体部	18.2	-	-	8.5/12		10YR3/1	10YR2/1	並	微	中	微	-	刺突 / ハケ / 沈線（格子目文）	ヘラミガキ		スス付着
16	B-1・拡張新	SI-05	床直 P-70・78	擦文	甕	体部	-	-	-			5YR5/6	7.5YR5/4	並	中	多	-	中	ミガキ＋ハケメ	ナデ		



第 134 図　出土遺物 2（土器）

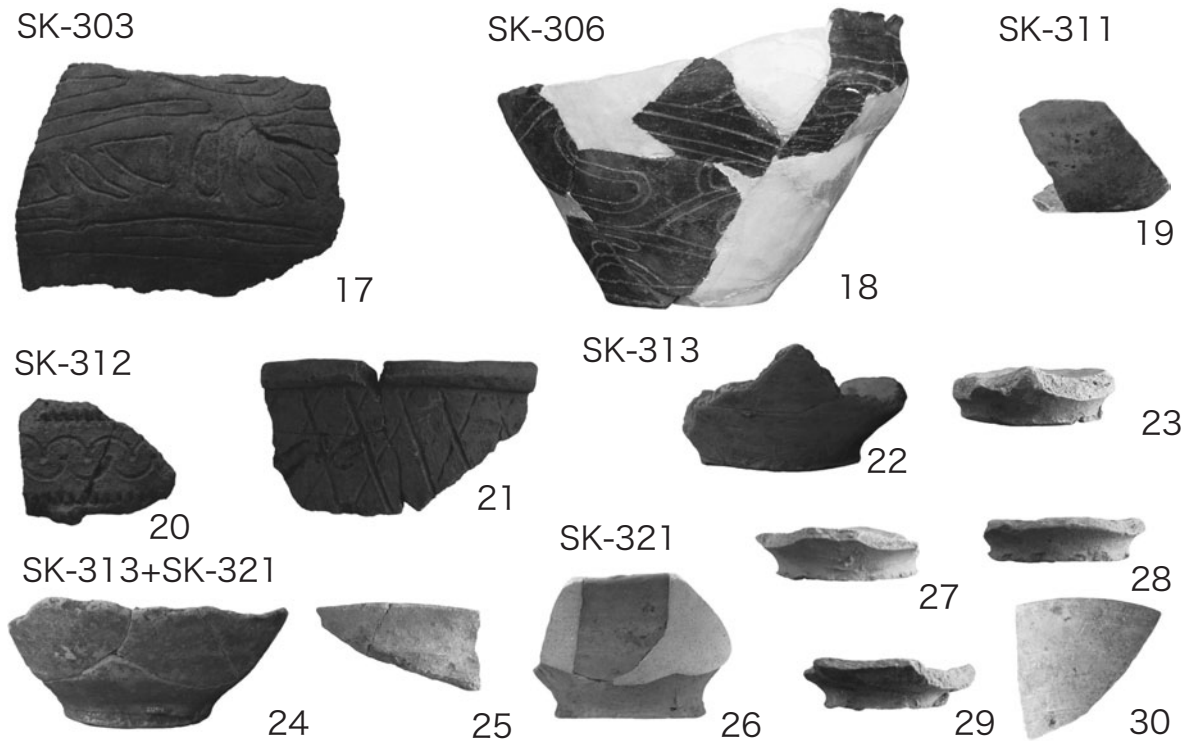
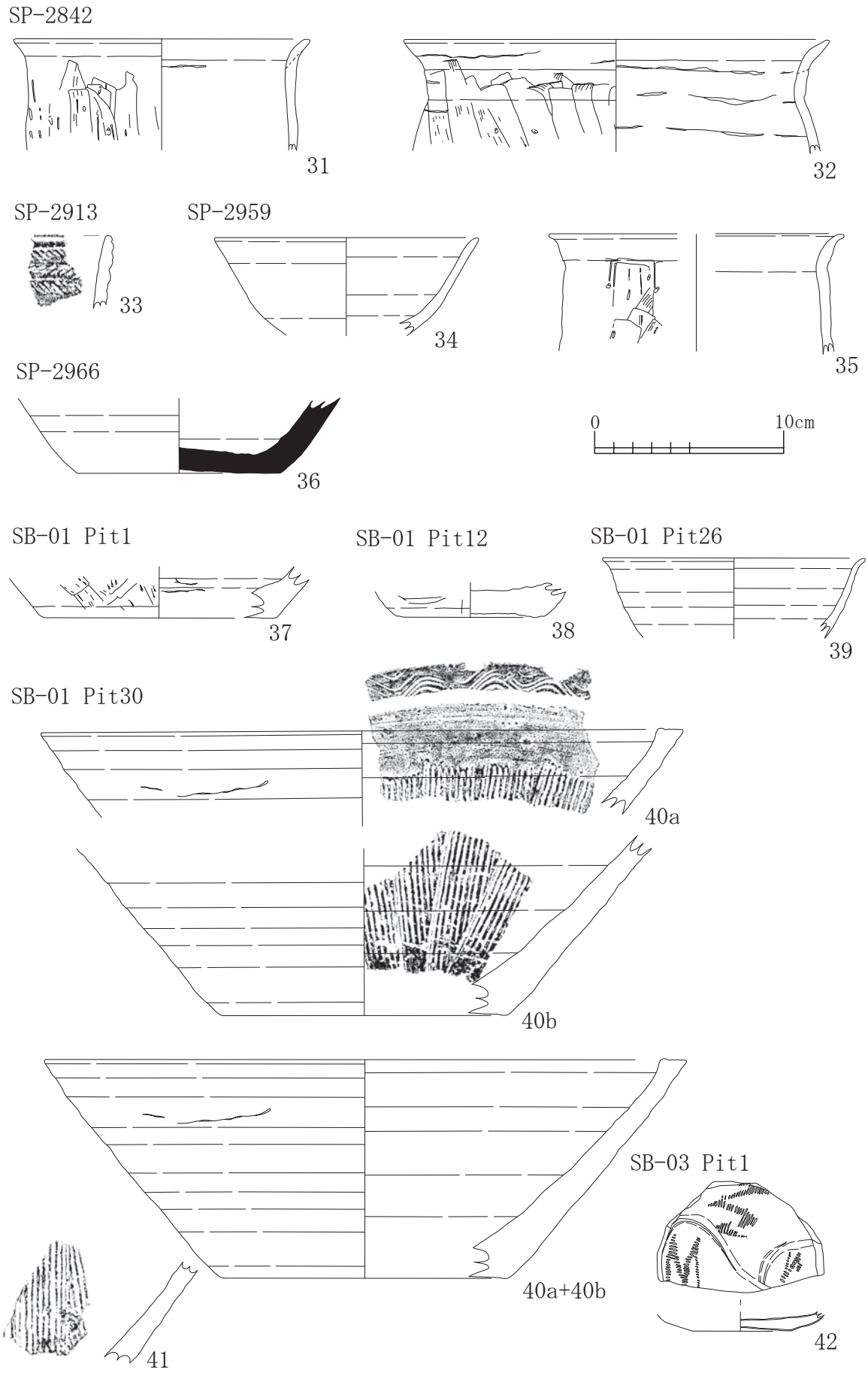


写真 259　出土遺物 2（土器）

第 34 表　遺物観察表 2

No.	出土地区	遺構名	層位	種別	器種	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率		色調外面	色調内面	焼成	礫	砂	骨	赤	外面調整	内面調整	底部調整	備考
										口縁	底部											
17	B-1・拡張新	SK-303	フク中P-1	縄文	深鉢	体部	-	-	-			10YR5/6	10YR5/4	良	微	中	少	-	ミガキ＋沈線	ミガキ		
18	B-1・新	SK-306	フク下P-X,フクP-X	縄文	鉢	口縁～体部	17.6	11.5	7.6	1.5/12	1.9/12	2.5Y3/1	N2/0	良	-	微	微	微	沈線	ヘラミガキ		十腰内Ⅰ，炭化物付着
19	B-1・新	SK-311	フクP-1	土師器	椀	底部	12.4	3.7	5.4	0.5/12	8/12	10YR8/4	10YR7/4	並	微	少	-	微	ミガキ	ミガキ	静止糸切	スス付着
20	B-1・新	SK-312	フク2P-2	縄文	深鉢	体部	-	-	-			10YR5/3	10YR5/4	良	-	微	少	-	刺突＋竹管文沈線（コンパス文）	ミガキ		
21	B-1・新	SK-312	フク3P-3,フク上P-X,フク中P-7	縄文	深鉢	口縁～体部	-	-	-	1.8/12		10YR4/6	7.5YR4/4	良	少	少	-	-	ミガキ＋沈線	ミガキ		十腰内Ⅰ
22	B-1・新	SK-313	フク3P-X,フク2P-7	土師器	椀	体部～底部	-	-	6.2		12/12	7.5YR6/4	7.5YR6/4	良	微	少	少	少	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切，ヘラオコシ痕有	内面付着物有
23	B-1・新	SK-313	フク上P-X	土師器	椀	底部	-	-	5.6		12/12	10YR5/2	10YR6/3	並	微	少	少	微	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切，ヘラオコシ痕有	炭化物付着，スス付着
24	B-1・新	SK-313	耕作土P-X	土師器	椀	体～底部	-	-	7.2	6/12		7.5YR8/6	10YR8/4	並	-	中	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	
		SK-321	フクP-1																			
25	B-1・新	SK-313	フク上P-X	土師器	甕	口縁部	21.0	-	-	1.7/12		10YR5/2	7.5YR5/3	並	-	少	-	微	ナデ/ヘラ	ナデ		
		SK-321	フク上P-X																			
26	B-1・新	SK-321	フクP-9，フク上P-X	黒色土器	椀	口縁～底部	14.2	5.2	6.2	0.8/12	12/12	5YR6/6	5Y3/1	良	微	少	少	中	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	黒色処理
27	B-1・新	SK-321	フクP-2	土師器	椀	底部	-	-	6.2		12/12	7.5YR6/4	10YR6/4	良	微	少	中	少	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	底部粘土付着
28	B-1・新	SK-321	フク1P-X	土師器	椀	底部	-	-	6.0		12/12	7.5YR5/4	10YR5/2	並	微	中	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	炭化物付着
29	B-1・新	SK-321	フクP-3	土師器	椀	底部	-	-	5.2		12/12	7.5YR6/6	7.5YR6/6	並	微	微	-	少	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切，ヘラオコシ痕有	スス付着
30	B-1・新	SK-321	フク上P-X	土師器	椀	口縁部	14.4	-	-	1.7/12		10YR6/4	10YR7/4	良	-	微	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ		



第 135 図　出土遺物 3（土器）

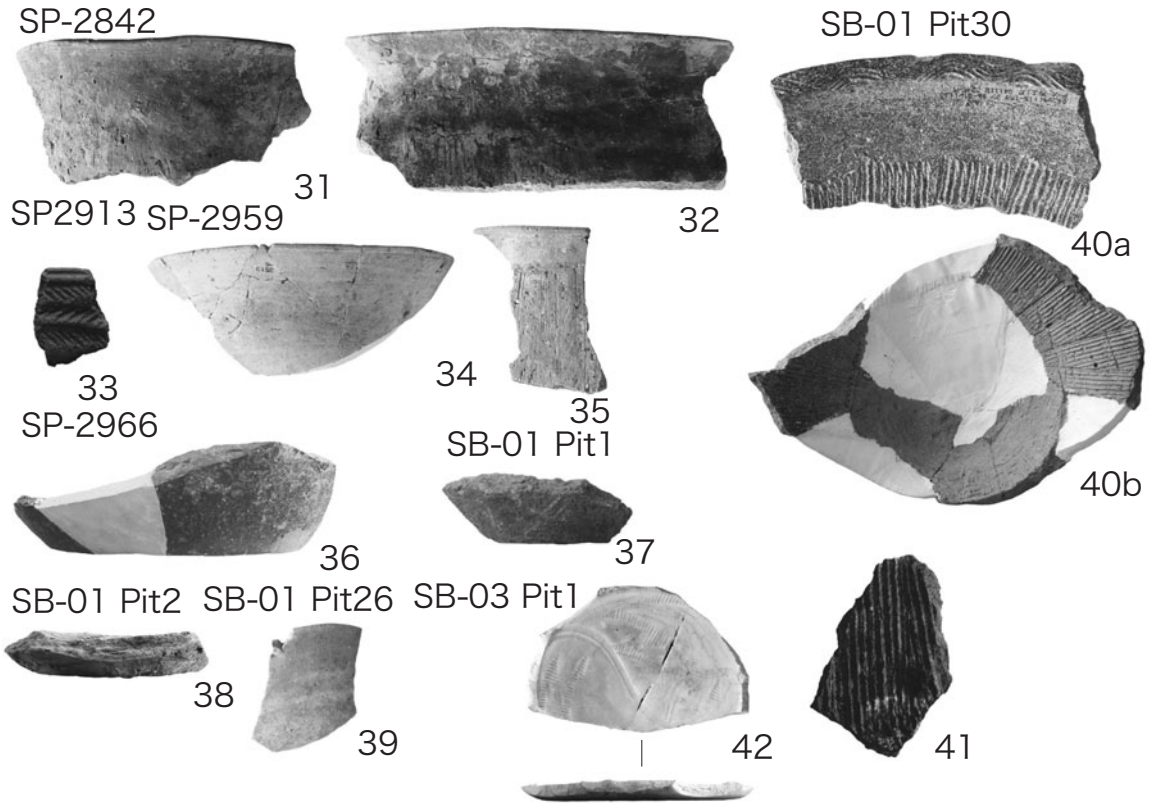
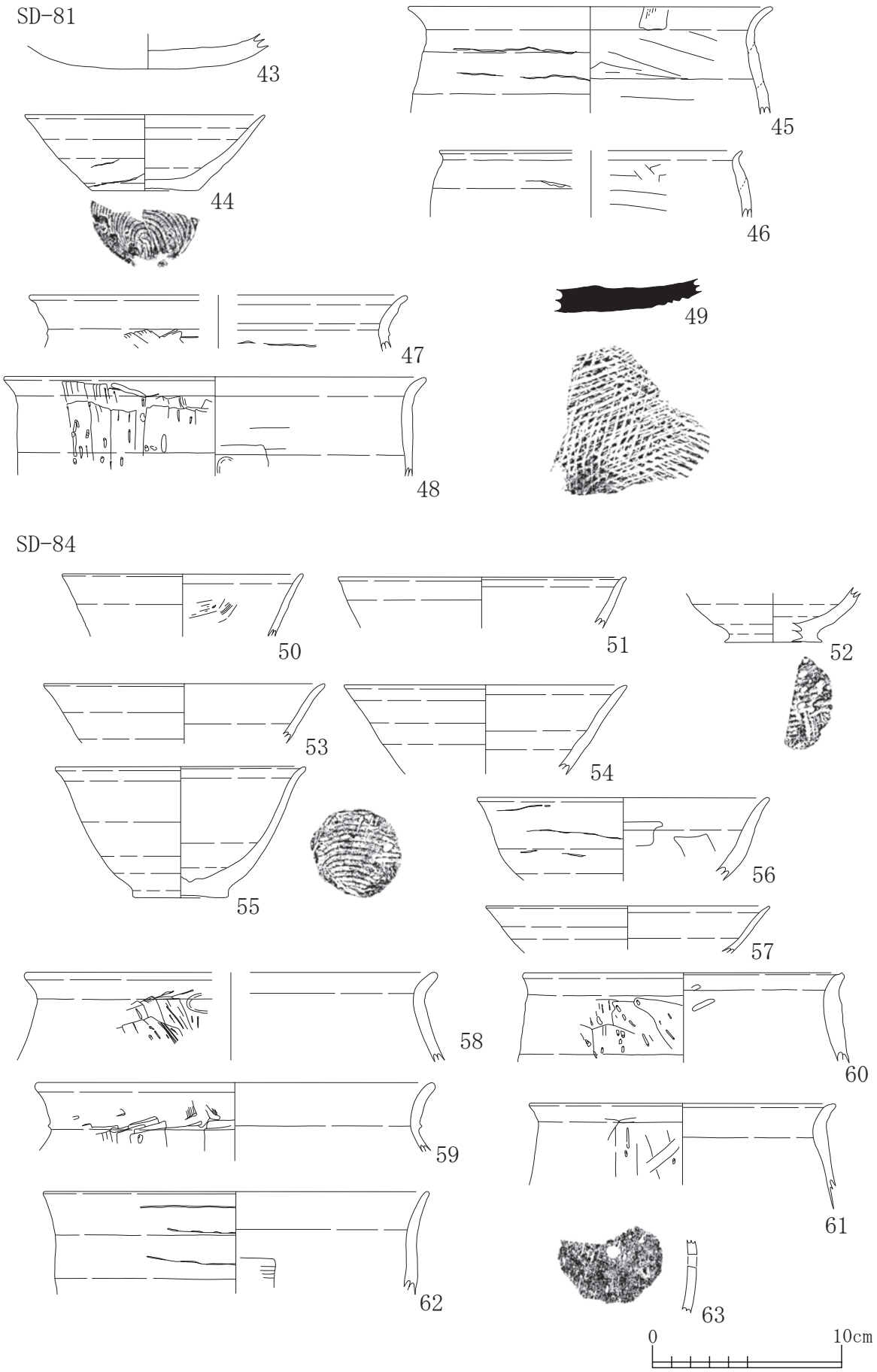


写真 260　出土遺物 3（土器）

第 35 表　遺物観察表 3

No.	出土地区	遺構名	層位	種別	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率		色調外面	色調内面	焼成	礫	砂	骨	赤	外面調整	内面調整	底部調整	備考
										口縁	底部											
31	B-1・拡張新	SP-2842	フク 1P-11	土師器	甕	口縁部	15.6	-	-	3.5/12		10YR5/3	10YR5/3	並	微	中	-	微	ナデ／ヘラ	ナデ		スス付着，輪積痕有，粘土付着
32	B-1・拡張新	SP-2842	フク 5P-17	土師器	甕	口縁部	21.8	-	-	2.8/12		7.5YR6/4	10YR7/3	並	多	多	-	多	ナデ／ヘラ	ナデ		スス付着，輪積痕有
33	B-1・拡張新	SP-2913	フク P-X	擦文	甕	口縁部	-	-	-	0.4/12		5YR4/6	10YR4/3	並	微	中	-	-	沈線／綾杉状刺突	ミガキ		
34	B-1・拡張新	SP-2959	フク 1P-3・6、フク P-X	土師器	椀	口縁～体部	13.8	-	-	5.2/12		7.5YR7/6	7.5YR7/4	並	微	少	微	微	ロクロナデ	ロクロナデ		
35	B-1・拡張新	SP-2959	フク 1P-4	土師器	甕	口縁部	(15.4)	-	-	1/12		5YR5/6	2.5YR6/6	並	微	少	-	微	ナデ／ヘラ	ナデ		内面付着物有
36	B-1・拡張新	SP-2966	フク 4P-1・2	須恵器	壺	底部	-	-	10.6		6.9/12	N4/0	7.5Y5/1	良	少	少	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラケズリ	底部ヘラ記号「-」
37	B-1・拡張新	SB-01Pit1	フク 2P-1	土師器	甕	底部	-	-	12.2		1.6/12	7.5YR5/4	7.5YR6/4	並	微	多	-	微	ヘラ	ナデ	ヘラ	輪積痕有
38	B-1・拡張新	SB-01Pit12	フク 1P-1	土師器	甕	底部	-	-	7.8		5.8/12	10YR5/3	10YR7/4	並	少	多	-	微	ヘラ	ヘラ	砂底	
39	B-1・拡張新	SB-01Pit26	フク P-X	土師器	椀	口縁部	13.8	-	-	0.8/12		10YR6/4	10YR6/4	並	微	微	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ		
40a 40b	B-1・拡張新	SB-01Pit30	フク 1P-X	珠洲焼	擂鉢	口縁～底部	33.6	(11.6)	15.0	1.2/12	0.5/12	7.5Y5/1	7.5Y5/2	良	少	少	-	微	ロクロナデ	卸目	ナデ	
41	B-1・拡張新	SB-01Pit30	フク 1P-X	珠洲焼	擂鉢	体部	-	-	-			10YR5/1	10YR3/1	良	-	少	-	微	ロクロナデ	卸目		
42	B-1・拡張新	SB-03Pit1	フク 2P-1・2	青磁	Ⅲ	底部	-	-	5.0		8/12	2.5GY6/1	2.5GY7/1	良	-	微	-	微	ロクロナデ	劃花文	ケズリ	



第 136 図　出土遺物 4（土器）

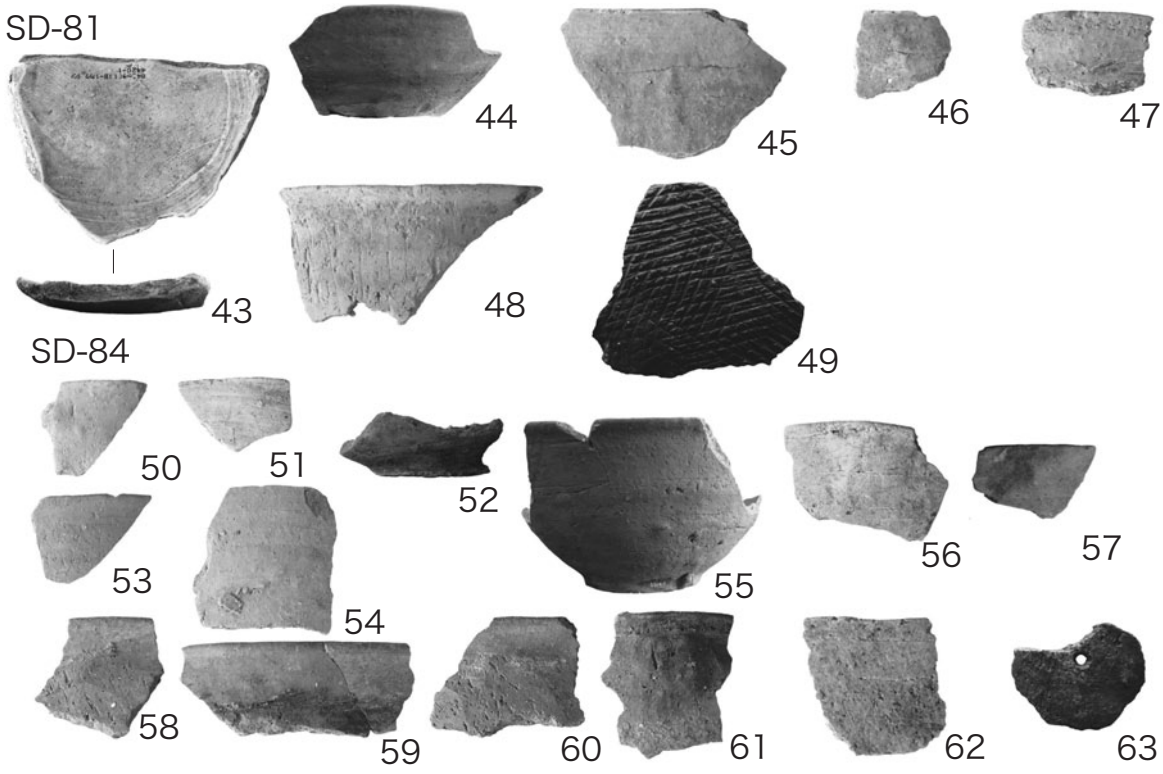
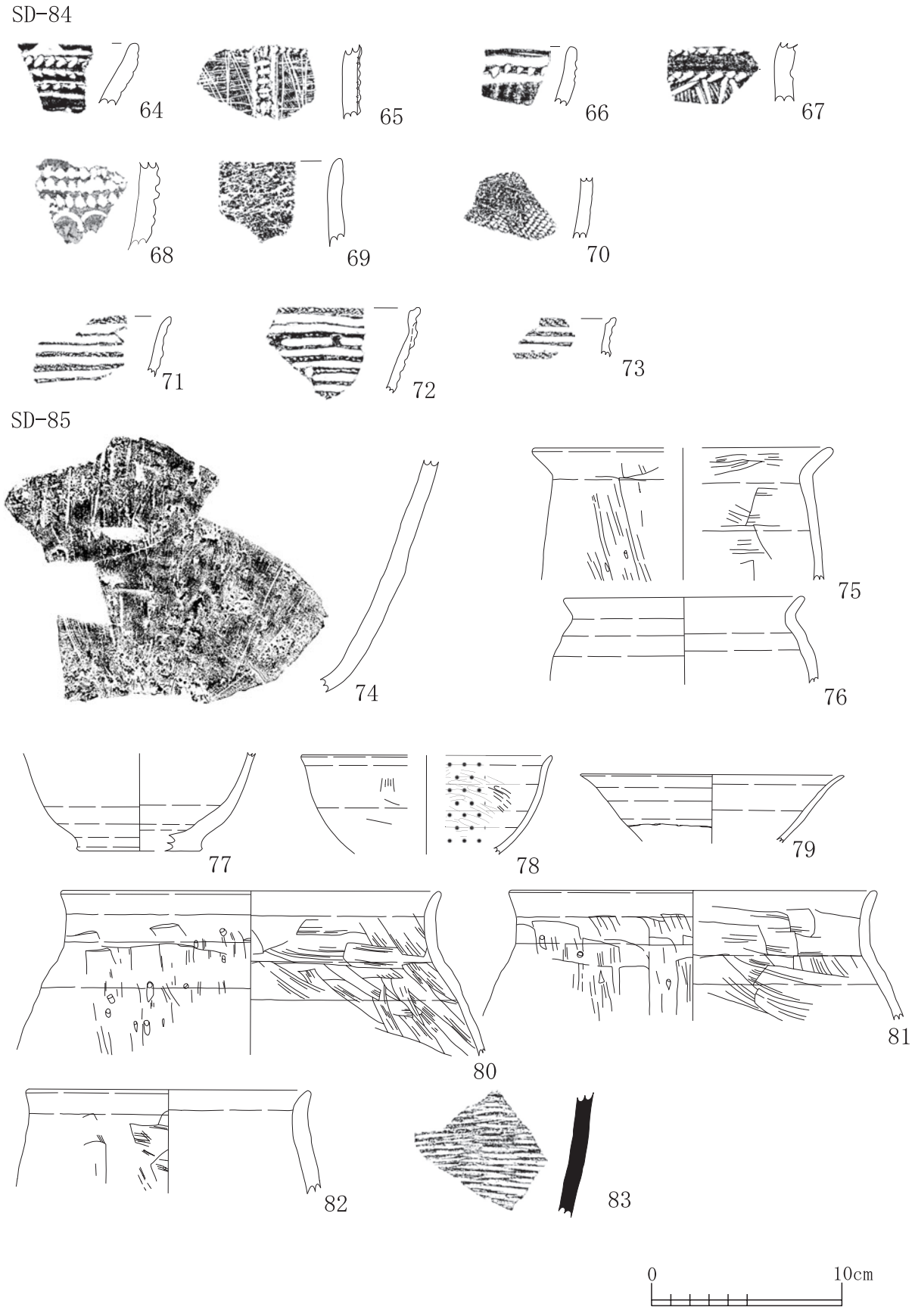


写真 261　出土遺物 4（土器）

第 36 表　遺物観察表 4

No.	出土地区	遺構名	層位	種別	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率		色調外面	色調内面	焼成	礫	砂	骨	赤	外面調整	内面調整	底部調整	備考
										口縁	底部											
43	B-1・拡張新	SD-81	フク下 P-12	かわらけ	皿	底部	-	-	8.0		4/12	10YR7/4	10YR6/4	良	-	微	微	微	ナデ	ナデ	ヘラオコシ	
44	B-1・拡張新	SD-81	フク中 P-43・48	土師器	椀	口縁～底部	12.6	4.0	5.4	1.5/12	6.2/12	10YR6/3	10YR6/4	並	微	少	微	少	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	粘土付着，輪積痕有，炭化物付着，付着物有
45	B-1・拡張新	SD-81	フク中 P-31	土師器	甕	口縁部	19.2	-	-	1.2/12		10YR6/4	10YR6/3	並	-	微	-	微	ナデ	ヘラ		輪積痕有
46	B-1・拡張新	SD-81	フク中 P-40	土師器	甕	口縁部	(15.8)	-	-	0.5/12		7.5YR6/4	5YR6/6	並	微	微	微	微	ナデ	ナデ / ヘラ		粘土付着
47	B-1・拡張新	SD-81	フク中 P-139	土師器	甕	口縁部	20.0	-	-	0.5/12		5YR6/6	7.5YR6/6	並	微	少	微	微	ナデ / ヘラ	ナデ		輪積痕有
48	B-1・拡張新	SD-81	フク上 P-58	土師器	甕	口縁部	22.0	-	-	1.9/12		5YR6/6	5YR6/6	並	微	少	微	微	ヘラ	ナデ / ヘラ		付着物有，指頭圧痕有
49	B-1・拡張新	SD-81	フク中 P-49	須恵器	甕	底部	-	-	-			5 Y 5/1	7.5Y5/1	良	微	少	-	-	タタキ	ナデ		
50	B-1・拡張新	SD-84	フク中 P-498	土師器	椀	口縁部	12.6	-	-	0.9/12		5YR6/6	7.5YR6/4	並	-	微	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ / ヘラ		
51	B-1・拡張新	SD-84	フク中 P-408	土師器	椀	口縁部	15.2	-	-	0.9/12		10YR7/4	10YR7/4	並	微	微	微	微	ロクロナデ	ロクロナデ		
52	B-1・拡張新	SD-84	フク中 P-316	土師器	椀	底部	-	-	5.0		4/12	10YR6/3	10YR6/4	良	微	微	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切	
53	B-1・拡張新	SD-84	フク上 P-222	土師器	椀	口縁部	14.8	-	-	1.1/12		7.5YR5/4	7.5YR5/4	並	-	微	微	微	ロクロナデ	ロクロナデ		
54	B-1・拡張新	SD-84	フク上 P-94	土師器	椀	口縁部	14.8	-	-	0.9/12		7.5YR6/4	7.5YR6/4	並	微	少	微	中	ロクロナデ	ロクロナデ		粘土付着
55	B-1・拡張新	SD-84	フク上 P-327・385	土師器	椀	口縁～底部	13.2	6.9	4.8	1.4/12	12/12	7.5YR6/6	5YR6/6	良	微	少	-	少	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切，ヘラオコシ痕有	黒班有
56	B-1・拡張新	SD-84	フク上 P-166	土師器	椀	口縁部	15.4	-	-	1.2/12		2.5Y7/2	10YR6/4	並	微	微	微	微	ナデ	ナデ / ヘラ		輪積痕有
57	B-1・拡張新	SD-84	フク上 P-301	土師器	椀	口唇部	15.0	-	-	1.2/12		10YR5/4	7.5YR6/4	良	-	微	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ		炭化物付着
58	B-1・拡張新	SD-84	フク中 P-476	土師器	甕	口縁部	20.6	-	-	0.5/12		5YR4/6	10YR6/3	並	微	中	微	微	ナデ / ヘラ	ナデ		指頭痕有
59	B-1・拡張新	SP-2778	フク上 P-441	土師器	甕	口縁部	20.8	-	-	1.6/12		10YR5/3	7.5YR7/3	並	微	少	-	中	ナデ / ヘラ	ナデ		
		SD-84	フク中 P-489																			
60	B-1・拡張新	SD-84	フク中 P-382	土師器	甕	口縁部	16.8	-	-	0.6/12		10YR5/3	10YR5/4	並	-	中	-	少	ナデ / ヘラ	ヘラ / ナデ		
61	B-1・拡張新	SD-84	フク上 P-128	土師器	甕	口縁部	16.0	-	-	1.1/12		2.5Y4/2	10YR5/3	並	少	少	-	微	ナデ / ヘラ	ナデ		炭化物付着
62	B-1・拡張新	SD-84	フク上 P-236	土師器	甕	口縁部	20.4	-	-	0.9/12		5YR5/6	5YR6/6	不良	少	多	-	少	ナデ	ナデ / ヘラ		輪積痕有
63	B-1・拡張新	SD-84	フク上 P-302	土師器	甕	体部	5.4 × 4.9 × 0.5cm, 重量 12.5g					10YR5/2	10YR5/4	良	-	少	-	-	ヘラケズリ	ナデ		貫通孔有・紡輪



第 137 図　出土遺物 5（土器）

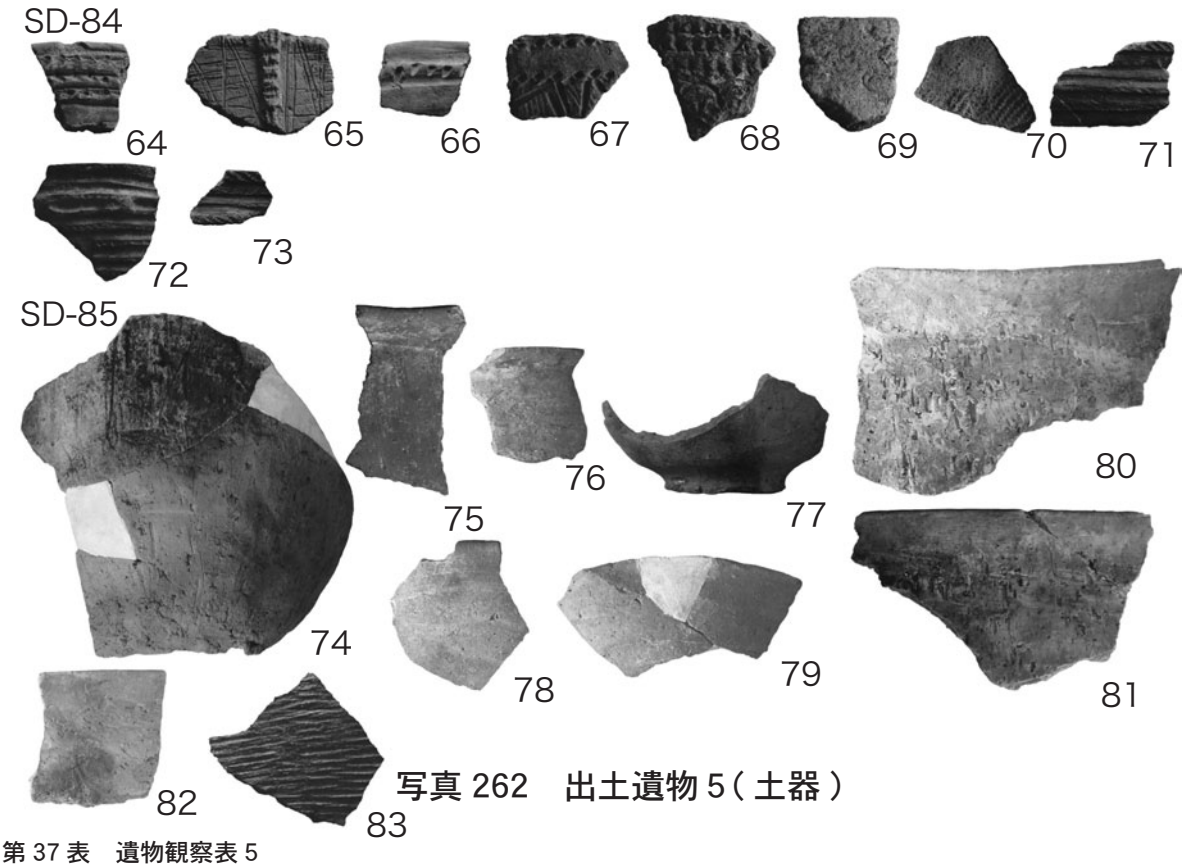
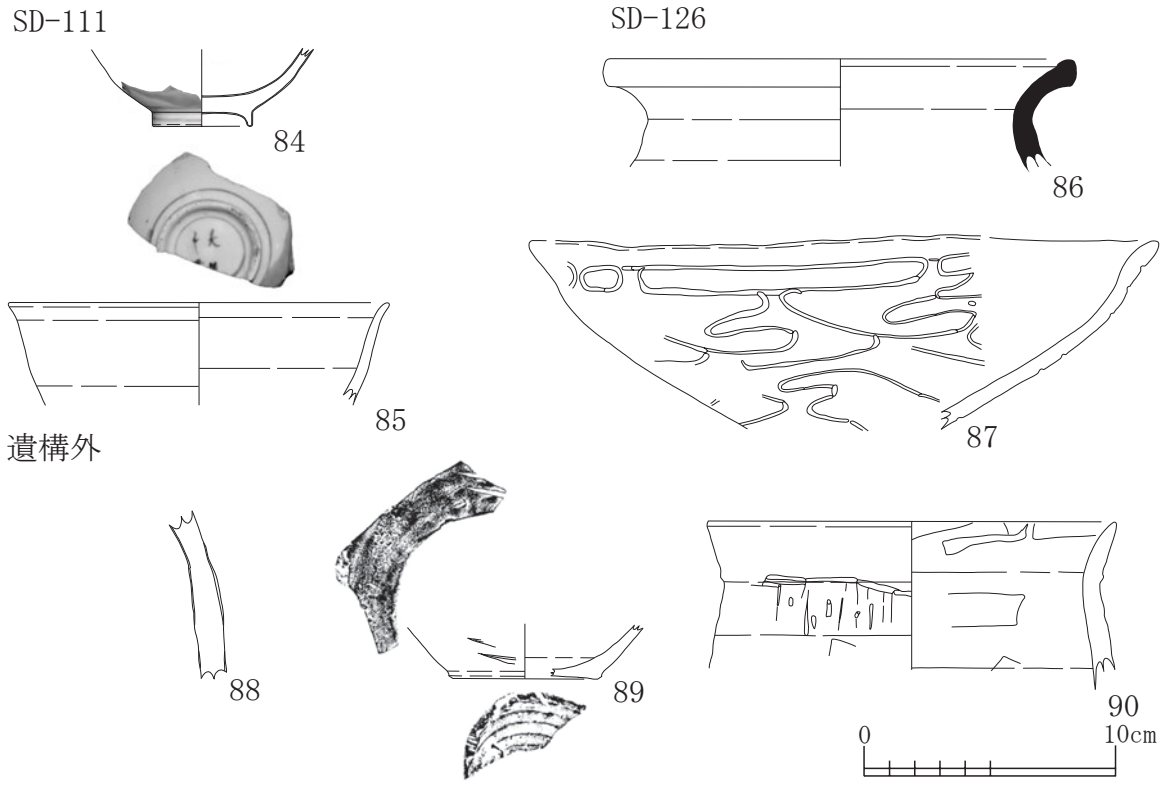


写真 262　出土遺物 5（土器）

第 37 表　遺物観察表 5

No.	出土地区	遺構名	層位	種別	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 口縁	残存率 底部	色調外面	色調内面	焼成	礫	砂	骨	赤	外面調整	内面調整	底部調整	備考
64	B-1・拡張新	SD-84	フク中 P-491	擦文	甕	口縁部	-	-	-	0.7/12		10YR5/6	10YR4/4	良	-	微	-	-	ミガキ＋沈線	ヘラミガキ		
65	B-1・拡張新	SD-84	フク中 P-345	擦文	甕	体部	-	-	-			7.5YR6/6	7.5YR5/6	良	-	少	-	微	ハケメ / ミガキ / 沈線	ミガキ		
66	B-1・拡張新	SD-84	フク上 P-69	擦文	甕	口縁部	-	-	-	0.6/12		7.5YR6/6	5YR5/6	良	微	微	-	-	ミガキ / 沈線 / 刺突	ミガキ		
67	B-1・拡張新	SD-84	フク最上 P-15	擦文	甕	体部	-	-	-			10YR4/3	10YR3/4	良	-	中	-	-	ミガキ＋沈線	ミガキ		
68	B-1・拡張新	SD-84	フク上 P-86	縄文	深鉢	体部	-	-	-			2.5Y6/1	10YR6/3	並	中	少	-	-	刺突 / 竹管文(コンパス文)	ミガキ		
69	B-1・拡張新	SD-84	フク上 P-273	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	0.6/12		10YR6/4	10YR2/4	並	-	少	-	-	摩滅	ミガキ		
70	B-1・拡張新	SD-84	フク上 P-300	縄文	深鉢	体部	-	-	-			10YR6/6	10YR7/4	良	-	微	-	-	L R	ケズリ		
71	B-1・拡張新	SD-84	フク最上 P-10	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	0.4/12		10YR3/2	10YR5/2	良	-	中	少	微	R L / ミガキ / 沈線	ミガキ		
72	B-1・拡張新	SD-84	フク上 P-89	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	1.2/12		10YR3/2	10YR2/1	良	-	微	微	-	R L / ミガキ / 沈線	ミガキ		
73	B-1・拡張新	SD-84	フク上 P-290	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	0.3/12		10YR5/3	10YR5/2	良	-	微	-	-	R L / ミガキ / 沈線	ヘラミガキ		
74	B-1・拡張新	SD-84 SD-85	フク中 P-380 フク上P-65・139	土師器	甕	体部	-	-	-			10YR5/4	10YR6/4	良	-	中	-	微	ヘラケズリ	ナデ		炭化物付着
75	B-1・拡張新	SD-85	フク下 P-184	土師器	甕	口縁部	(15.4)	-	-	0.9/12		5YR6/8	5YR6/6	並	少	中	-	-	ユビナデ / ヘラケズリ	ユビナデ / ヘラナデ		
76	B-1・拡張新	SD-85	フク下 P-201	土師器	小甕	口縁部	12.4	-	-	1/12		7.5YR6/3	10YR4/1	並	-	中	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ		煮沸痕有
77	B-1・拡張新	SD-85	フク上 P-116、フク下 P-153	土師器	椀	底部	-	-	6.4		3.5/12	10YR5/3	10YR5/3	並	-	少	微	微	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	
78	B-1・拡張新	SD-85	フク上 P-15	黒色土器	椀	口縁部	13.0	-	-	0.5/12		5YR7/8	5Y2/1	並	-	中	少	-	ロクロナデ＋ヘラ	ヘラミガキ		内面黒色処理
79	B-1・拡張新	SD-85	フク上 P-53・67	土師器	椀	口縁～体部	13.6	-	-	2.5/12		5YR6/6	7.5YR5/4	並	-	中	少	-	ロクロナデ	ロクロナデ		外面輪積痕有、内面付着物有
80	B-1・拡張新	SD-85	フク上 P-82・83	土師器	甕	口縁部	19.8	-	-	2.2/12		7.5YR8/6	7.5YR7/6	並	中	多	微	微	ユビナデ / ヘラケズリ	ユビナデ / ヘラナデ		灰・スス付着
81	B-1・拡張新	SD-85	フク上 P-84・86	土師器	甕	口縁部	19.2	-	-	2.5/12		7.5YR6/6	10YR5/2	並	中	多	微	-	ユビナデ / ヘラケズリ	ユビナデ / ヘラナデ		
82	B-1・拡張新	SD-85	フク上 P-204	土師器	甕	口縁部	14.6	-	-	0.9/12		7.5YR7/4	10YR6/4	並	微	中	-	-	ユビナデ / ヘラケズリ	ユビナデ		炭化物付着
83	B-1・拡張新	SD-85	フク上 P-26	須恵器	甕	体部	-	-	-			7.5YR4/4	7.5Y4/1	良	-	少	少	少	タタキ	ナデ		



第 138 図　出土遺物 6（土器）

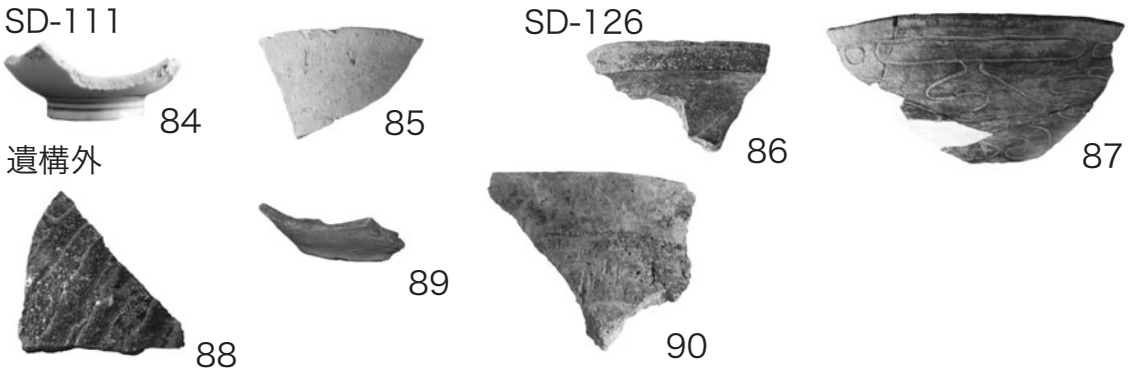
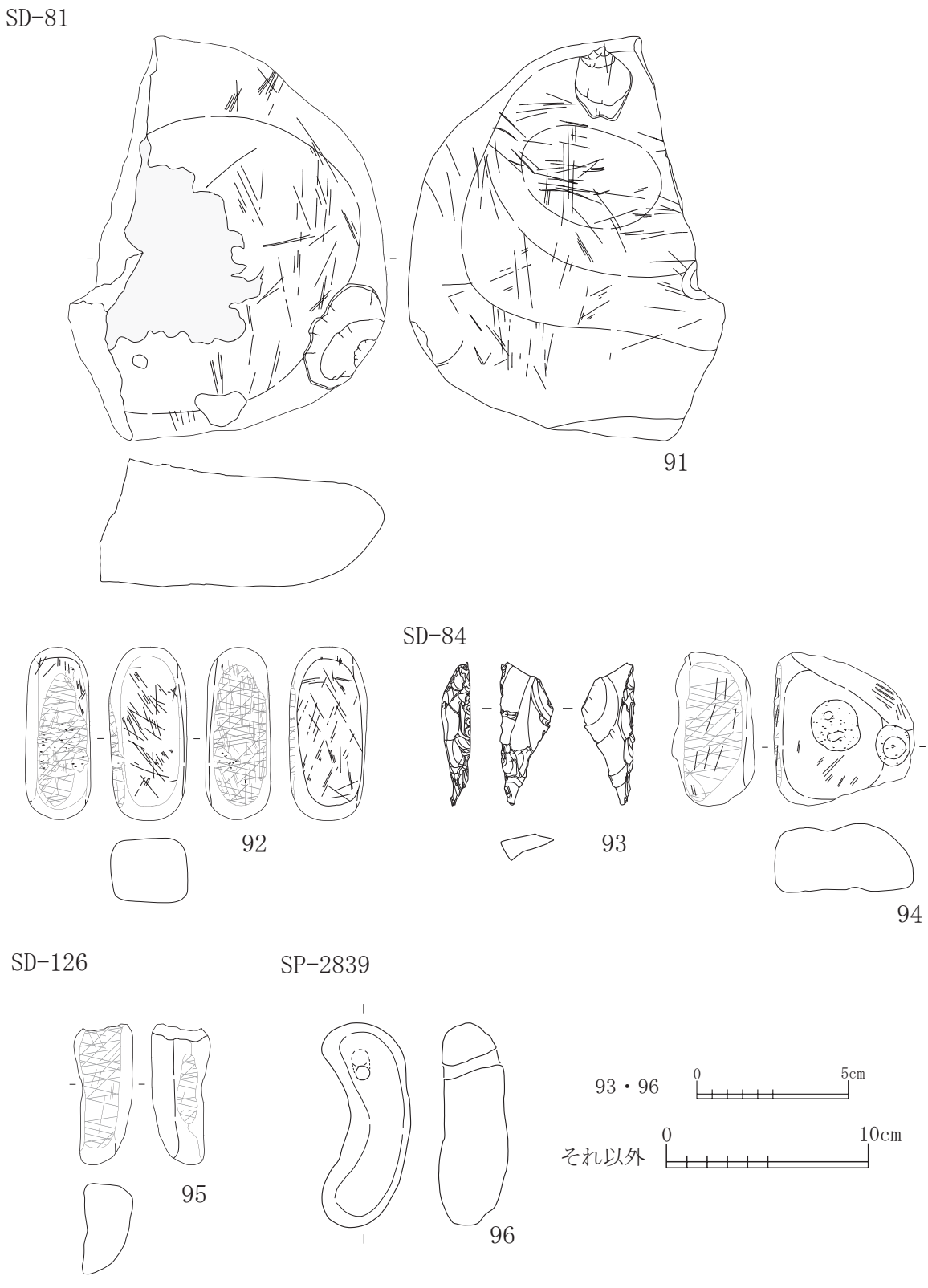


写真 263　出土遺物 6（土器）

第 38 表　遺物観察表 6

No.	出土地区	遺構名	層位	種別	器種	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残存率		色調外面	色調内面	焼成	礫	砂	骨	赤	外面調整	内面調整	底部調整	備　考
										口　縁	底　部											
84	B-1・拡張新	SD-111	フク上 P-99	染付	碗	体～底部	-	-	4.0 (高台)		0.5/12	10Y8/1	乳白色	良	-	微	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	
85	B-1・拡張新	SD-111	フク中 P-100	土師器	椀	口縁部	15.0	-	-	1.8/12		7.5YR7/6	7.5YR7/6	良	-	少	-	少	ロクロナデ	ロクロナデ		
86	B-1・拡張新	SD-126	フク P-X	須恵器	甕	口縁部	18.2	-	-	1.2/12		N1.5/0	7.5Y6/1	良	微	微	-	微	ロクロナデ	ロクロナデ		
87	B-1・拡張新	SD-126	フ ク 上 P-65・66・67・68・69	縄文	浅鉢	口縁～体部	(25.0)	-	-	2.9/12		10YR6/4	10YR6/4	並	微	微	-	微	沈線	ヘラミガキ		スス付着
88	B-1・拡張新 2-1		耕作土 P-X	越前	甕	体部	-	-	-			2.5 Y 3/1	10YR4/3	並	-	少	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		輪積痕有、内外面自然釉付着
89	B-1・拡張新 2-2		包含層 P-X	土師器	椀	底部	-	-	5.8		4.8/12	10YR7/4	10YR7/4	並	-	少	微	微	ロクロナデ＋ヘラ	ロクロナデ	回転糸切	ヘラ記号
90	B-1・新	SK-313 付近	フク P-X	土師器	甕	口縁部	16.0	-	-	2/12		10YR5/3	7.5YR6/6	並	微	中	微	少	ヘラナデ	ヘラ		外面スス付着



第 139 図　出土遺物 7（石器・石製品）

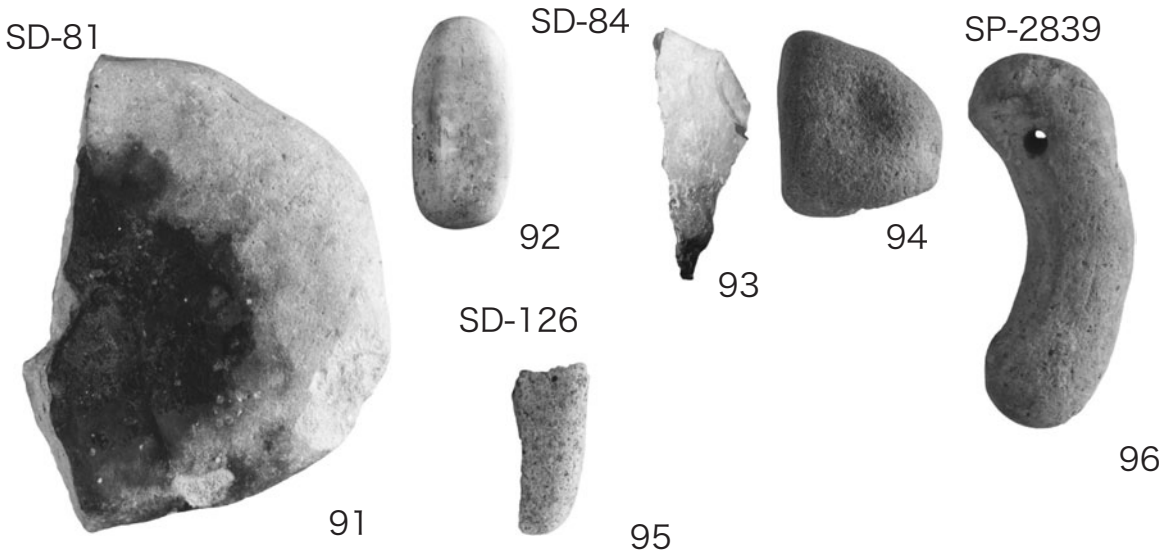


写真 264　出土遺物 7（石器・石製品）

第 39 表　遺物観察表 7

No.	種　別	出土地区	遺構名	層　位	最大計測値（cm）・計量値（g）				石　質
					長さ	幅	厚さ	重量	
91	砥石	B-1 拡張	SD-81	フク上 S-1	19.9	15.8	6.3	1544.0	凝灰岩
92	砥石	B-1 拡張	SD-81	フク上 S-8	8.5	3.9	3.2	160.6	頁岩
93	不定形石器	B-1 拡・新	SD-84	フク上 P-117	4.55	1.7	0.9	4.7	頁岩
94	敲磨器	B-1 拡・新	SD-84	フク上 P-217	7.6	6.95	3.3	243.2	凝灰岩
95	磨石	B-1 拡・新	SD-126	フク上 S-23	7.0	2.9	4.5	108.5	デイサイト
96	勾玉	B-1 拡・新	SP-2839	フク上 S-1	6.75	2.6	2.2	30.4	凝灰岩

第Ⅶ章　分析と考察

第１節　年輪年代法による新田（1）、高間（1）遺跡出土木材の年代測定

奈良国立文化財研究所
埋蔵文化センター　光谷拓実

はじめに

現在、東北地方においては年輪年代法による年代調査が実施出来る樹種はスギとヒバの二種類である。スギの暦年標準パターン（年代を１年単位で割り出す際に基準となる標準パターンという）の作成は205 年～ 1285 年まで、ヒバが 745 年～ 1329 年までのものができている。これまでにこの２種類の暦年標準パターンを応用した代表的な事例は秋田県史跡払田柵跡、秋田県胡桃館遺跡埋没家屋、山形県史跡城輪柵跡など数多い[1)]。

青森市内においては、2003 年から 2006 年にかけて新田（1）遺跡、高間（1）遺跡の発掘調査がおこなわれ、多量の木製品が出土した。これらのなかから、年輪がおよそ 100 層以上あるヒバ材やスギ材を選び出し、年輪年代法による年代測定を実施してきた。ここでは、これまで４年間にわたって年代測定をおこなってきた結果の概略について報告する。

選定木材と方法

年代測定用に選ばれた木材は、主に柾目に木取りされた板類が多い。これらは、奈良文化財研究所の年代学研究室に搬入され、専用の年輪読取器を使用して 10 ミクロン単位で年輪幅の計測がおこなわれた。計測、収集した年輪幅の計測値（年輪データという）は、コンピュータに入力し、青森県下の遺跡出土木材（ヒバ材）の年輪データで作成した暦年標準パターン（745 年～ 1329 年）との照合に備えた。コンピュータによる年輪パターンの照合法は、ヨーロッパの年輪年代学研究者が使っている方法（相関分析法）によった[2)]。

これまでに㈱吉田生物研究所の吉田氏によって搬送されてきた木製品は 50 点以上にのぼる。その多くがヒバ材の柾目板類であった。この他には、田下駄状のものや檜扇も調査対象とした。

結果

現時点で年輪年代が確定した木製品は 20 点にのぼる。これらの計測年輪数や年輪年代については、表－１と図－１に示したとおりである。

ここで各試料から得られた年輪年代は、その形状によっては年代の取扱いが異なってくるので、このことについて整理しておく必要がある。まず、対象試料に樹皮が付いているか、あるいは樹皮をはいだ状態のものであれば、年輪年代は伐採年代を示す。このような形状のものをここではＡタイプとよぶ。つぎに対象試料の一部に辺材が残存しておれば、年輪年代は伐採年代に近い年代を示す。この形状のものをＢタイプとよぶ。最後に対象試料そのものが心材のみから作られているものは伐採年代よりかなり古い年輪年代を示すのでその取扱いは要注意である。この形状のものをＣタイプという。このことを理解したうえで、各遺構と年輪年代との対応関係について見ていただきたい。

新田（1）遺跡

〈A － 1 地区・C 地区における年輪年代〉

今回扱った木材の出土遺構は、SD － 01、SD － 04、SD － 08、SD － 08 杭列、SF － 01 南②、SF － 01 木組み、SD － 09 の 7 遺構のうち以下の 6 遺構について年輪年代との関係を検討しておこう。

〈SD － 01〉：この遺構から出土した木材の中で年輪年代が確定したのは板材 2 点、部材 1 点、檜扇 1 点の総数 4 点であった。このなかで、A タイプのものは 2 点の板材と 1 点の部材の 3 点であった。このうち 2 点の板材の出土層位は下層からのもので 1037 年と 1038 年の伐採年代が得られた。中層からの板材の伐採年代は 1048 年のものであった。この結果は、下層ものに比べて 10 ～ 11 年後に伐採されたものであるから、下層と中層の年代差を示唆するものである。したがって、下層は 1038 年以降に、中層は 1048 年以降に埋まったことがわかる。

また、檜扇の材種はヒノキ材ではなくヒバ材であった。したがって、この檜扇は中央から持ち込まれたものではなく、東北産のヒバ材で作られたものである。この檜扇の製作年代は、C タイプの形状のものであるから、この檜扇の材から得られた年輪年代の 880 年は伐採年代の上限を示しており、年代測定に供した木材と同一層位であることから 11 世紀代のものであろう。

〈SD － 04〉：この遺構から出土した木材の年輪年代は、3 点あるがいずれも C タイプのものであり、遺構、遺物の年代を直接的に示す年代情報ではない。この場合、3 点のなかで最も新しい年輪年代を示した田下駄状の 971 年の年代が上限年代となり加工時に削除された年輪を加算するとその伐採年代は 1000 年前後が推定される。

〈SF － 01 木組み〉：この遺構から出土した 2 点の木材の年輪年代は、A タイプのものは 1041 年、AorB タイプのものは 1040 年であった。この 2 点の伐採年は同年の可能性が高い。したがって、この道路遺構は、1041 年以降のものであろう。

〈SD － 08〉：この遺構から出土した木材のなかで、年輪年代が確定したのは 4 点であった。このうち A タイプのものが 1 点あり、これの伐採年代が 1040 年と判明した。B タイプのものは、下層の木組みに使われていた板材からのもので 1024 年と確定した。この板材の伐採年代は、中層から発見されたものであることを考えると、下層の 1040 年の伐採年代が得られた板材に近い伐採年代が推定される。

〈SD － 08 杭列〉：この遺跡出土した C タイプの板材の 1 点に年輪年代が確定したことから、この杭列は 1016 年以降のものである。この板材の伐採年代は、C タイプのものであることを考えると確定的ではないものの 11 世紀中頃が考えられる。

〈SD － 09〉：C 地区の SD － 09 から出土した板材の年輪年代は C タイプのもので 1013 年であった。これにどの程度の年輪数を加算すれば伐採年代になるのかは確定しがたいが、辺材部の年輪数が 30 ～ 40 層程度だと考えると 11 世紀中頃が推定される。したがって、この遺構の年代もこれとほぼ同じ頃と見てよかろう。

以上、A － 1 地区・C 地区における遺構ごとの年輪年代をみてきた。しかし、この地区で検出された遺構は溝跡であり、溝に投棄された板材は、当初は家屋等の構築物に使われていたものであろう。このように、遺構の性格から見て、溝内出土の板材等から得られる年輪年代は A タイプのものであっても、遺構の造られた年代に直接結びつくものではない。しかし、これらの年輪年代はこの溝の周囲にあったであろう何らかの建築物が作られた年代や溝が機能していた年代幅を知る手がかりにはなろう。また、得られた年輪年代は、供伴土器の年代推定にも貴重な年代情報を与えることになった。

B － 4 地区における年輪年代

B － 4 － 28 地区においては SE － 09 が検出された。また、B － 4 － 41 地区においては、SE － 102 が検出された。これら 2 基の井戸跡からは、板材が井戸内に廃棄された状態で出土しており、必ずしも井戸の築造に伴う板材ではない。

普通、井戸枠の年輪年代は、転用材ではないかぎり、その地区での生活がスタートした時点を示すことが多いので、遺構の年代を考える場合に重要な年代情報となる。しかし、この場合は井戸の築造年代に直接結びつく年代情報とはならない。

このように、遺構と木材の年輪年代とを結びつけて考えるときには、遺構と出土木材との出土状況を十分に把握しておかなければ、間違った年代解釈をすることになるので注意が必要である。

〈**SE － 09**〉：この井戸に投棄されていた板材 2 枚の年輪年代は C タイプのものからで 1010 年、991 年と判明した。この井戸は井戸内に廃棄された板材であることから、この井戸は 1010 年＋α年（削除された外周部の年輪と板材として加工されてからの使用年数）以降は使われなくなったことを間接的に示している。

〈**SE － 102**〉：この井戸内で発見された板材 3 点からは、A タイプのもので 1021 年、AorB タイプのもので 1022 年、C タイプのもので 1017 年と確定した。

この結果から、この井戸は 1022 年（＋使用期間）以降、使われなくなったことを示している。以上、新田 (1) 遺跡から出土した木材の年輪年代をみてきたが、対象とした出土木材がいずれも溝跡や井戸跡に投棄されたものであったために、遺構の年代を直接的に示す年代情報にはならなかった。しかし、新田 (1) 遺跡の全体的な年代評価としては、11 世紀初めから中頃にかけてのものであることが判明したことの意義は大きい。

高間 (1) 遺跡

高間 (1) 遺跡は、平成 15 年度～ 16 年度にかけて遺跡北東部と北西部を調査した際に、縄文時代や平安時代、中世の遺構や木材が発見された。なかでも平安時代の遺構では竪穴住居跡や円形周溝が見つかり、土器や須恵器が出土した。また、北西部では溝跡や井戸跡が発見された。

今回対象とした木材は、SK － 97 の井戸内から出土したヒバの板材とスギのマナ板状木製品の 2 点であった。ヒバとスギの暦年標準パターンとの照合の結果、ヒバの板材は年輪パターンの照合が成立し (t=6.3)1493 年と確定した。一方、スギ材の木製品の年輪パターンと暦年標準パターンとの照合は不成立であった。この結果から、SK － 97 はこの板材が投棄される 1493 年以降までは機能していたことになろう。

おわりに

平安時代中頃の東北日本において、中央の文化が波及した地域は盛岡付近が北限であったと考えられていたが、新田 (1) 遺跡での発掘調査によって考古学的に津軽半島地域にまで及んでいたことがあきらかになった。とくに、今回は出土木材の年輪年代法による年代測定によって、多くの年代値が提供され、新田 (1) 遺跡の年代評価が一段と高まった。この意味では、年輪年代法の応用は東北地方の古代史をひもとくうえで避けてはとおれない方法として、大変重要である。今後も、好個の出土木材が出土する機会があれば、その都度積極的におこなうことが望まれる。

最後に、㈱吉田生物研究所の吉田氏には現地から出土木材を機会あるごとに当研究室に搬入していただき、多くの便宜を計っていただいた。ここに厚く御礼申し上げる次第である。

文献

1）光谷拓実「十三湊遺跡出土木材の年輪年代調査」、『十三湊遺跡（第Ⅴ分冊）』、青森県埋蔵文化財調査報告書第 398 集、青森県教育委員会、2005

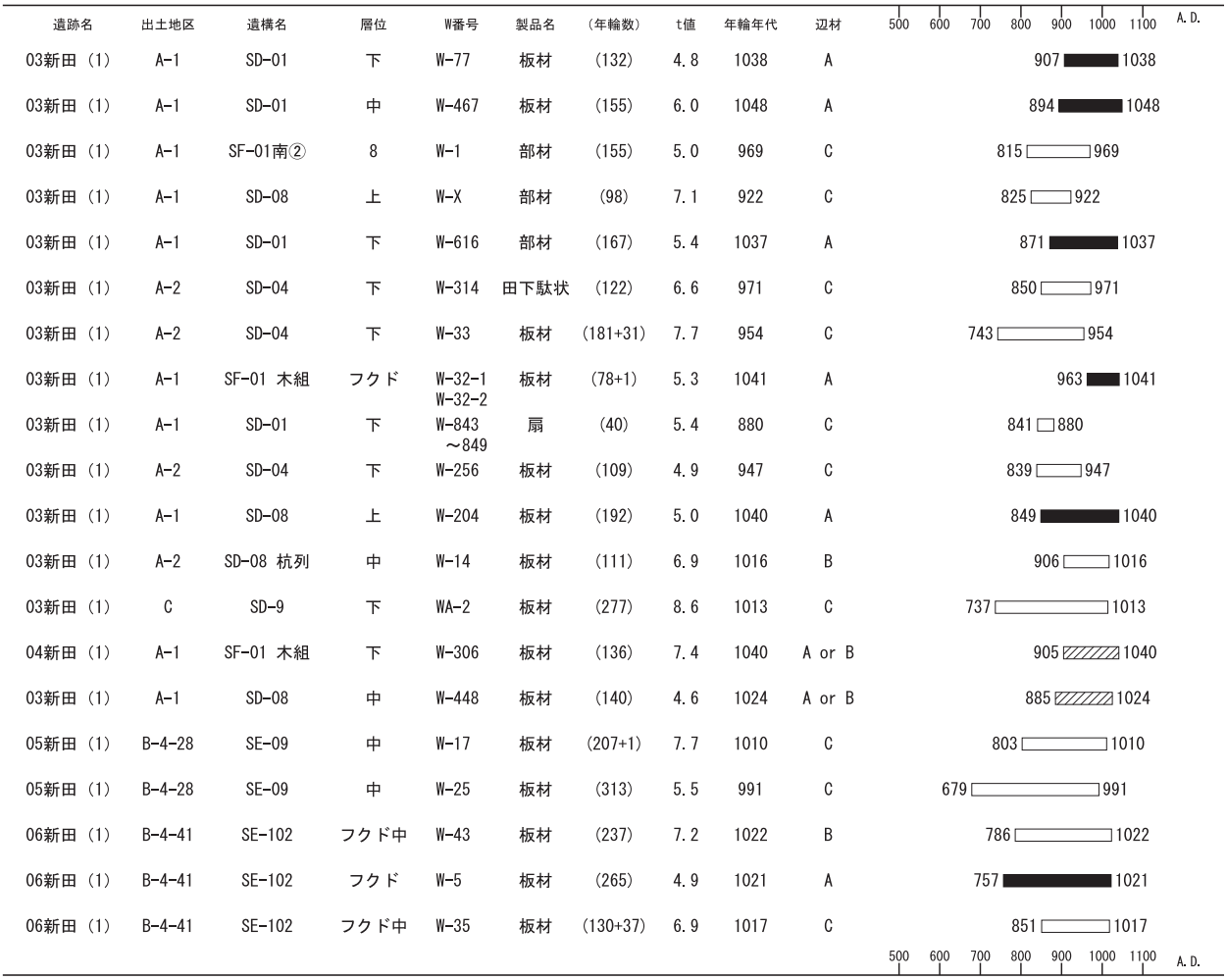
2）田中琢、光谷拓実『年輪に歴史を読む－日本における古年輪学の成立－』、奈良国立文化財研究所学報第 48、同朋舎出版、1990

表 1

遺跡名	出土地区	遺構名	層　位	W 番号	製品名	年輪数	t 値	年輪年代	辺　材	備考
03 新田（1）	A-1	SD-01	下	W-77	板材	132	4.8	1038	A	
03 新田（1）	A-1	SD-01	中	W-467	板材	155	6.0	1048	A	
03 新田（1）	A-1	SF-01 南②	8	W-1	部材	155	5.0	969	C	
03 新田（1）	A-1	SD-08	上	W-X	部材	98	7.1	922	C	
03 新田（1）	A-1	SD-01	下	W-616	部材	167	5.4	1037	A	
03 新田（1）	A-2	SD-04	下	W-314	田下駄状	122	6.6	971	C	
03 新田（1）	A-2	SD-04	下	W-33	板材	181+31	7.7	954	C	
03 新田（1）	A-1	SF-01 木組	フクド	W-32-1, W-32-2	板材	78+1	5.3	1041	A	
03 新田（1）	A-1	SD-01	下	W-843 ～ 849	扇	40	5.4	880	C	
03 新田（1）	A-2	SD-04	下	W-256	板材	109	4.9	947	C	炭化している
03 新田（1）	A-1	SD-08	上	W-204	板材	192	5.0	1040	A	
03 新田（1）	A-2	SD-08 杭列	中	W-14	板材	111	6.9	1016	B	
03 新田（1）	C	SD-09	下	WA-2	板材	277	8.6	1013	C	
04 新田（1）	A-1	SF-01 木組	下	W-306	板材	136	7.4	1040	A or B	
03 新田（1）	A-1	SD-08	中	W-448	板材	140	4.6	1024	A or B	
05 新田（1）	B-4-28	SE-09	中	W-17	板材	207+1	7.7	1010	C	
05 新田（1）	B-4-28	SE-09	中	W-25	板材	313	5.5	991	C	
06 新田（1）	B-4-41	SE-102	フクド中	W-43	板材	237	7.2	1022	B	
06 新田（1）	B-4-41	SE-102	フクド	W-5	板材	265	4.9	1021	A	
06 新田（1）	B-4-41	SE-102	フクド中	W-35	板材	130+37	6.9	1017	C	

04 高間（1）	E-1	SK-97	下	W-13	板材	243	6.3	1493	A?	

図－1　　青森市新田（1）遺跡出土木材の年輪年代



第２節　青森市新田（１）遺跡出土漆器の塗膜構造調査

㈱吉田生物研究所

１．はじめに

青森市に所在する新田（１）遺跡から出土した古代～中世の漆器１点について、製作技法を明らかにする目的で塗膜構造調査を行ったので、以下にその結果を報告する。

２．調査資料

調査した資料は、表１に示す古代～中世の漆器１点である。

表１　調査資料

No.	器種	遺物 No.	保存処理 No.	樹種＊	概　　要
1	椀	Ａ－１区 ＳＤ－０１ W734 下層	12	モクレン属	内外とも全面黒色の漆椀。

＊：樹種については別稿の樹種同定報告書を参照のこと。

３．調査方法

表１の資料本体の内外面から数㎜四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片プレパラートを作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。

４．断面観察結果

塗膜断面の観察結果を表２に示す。

表２　断面観察結果表

No.	器種	部位	写真 No.	塗膜構造（下層から）		
				下地		漆層構造
				膠着剤	混和材	
1	椀	内面	1,2	柿渋	木炭粉	透明漆１層
		外面	3,4	柿渋	木炭粉	透明漆１層

塗膜構造：両面とも下層から、下地、漆層と重なる様子が観察できた。

下地：濃褐色を呈する柿渋に木炭粉を混和した、炭粉渋下地であった。

漆層：下地の上に黄褐色を呈する透明漆１層のみがみられる。

５．摘要

青森市新田（１）遺跡から出土した、内外黒色の漆椀の塗膜構造調査を行った。

下層から下地、漆層と重なる様子が観察された。

下地は炭粉渋下地であった。

漆層は下地の上に透明漆１層という構造であった。

SD-01　下層　W-734

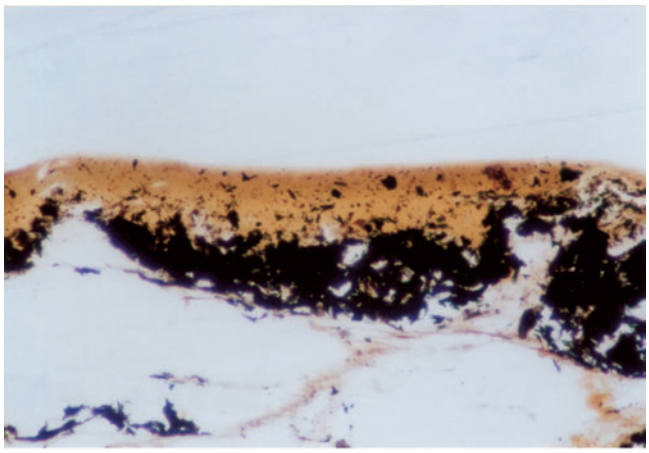


写真１
内面
断面写真　×600

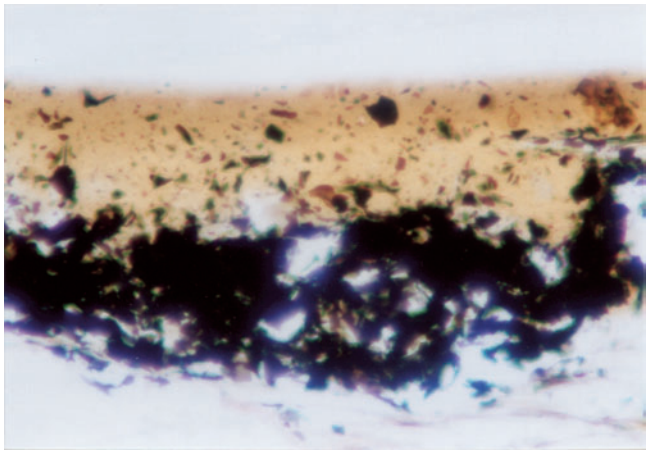


写真２
内面
断面写真　×1200

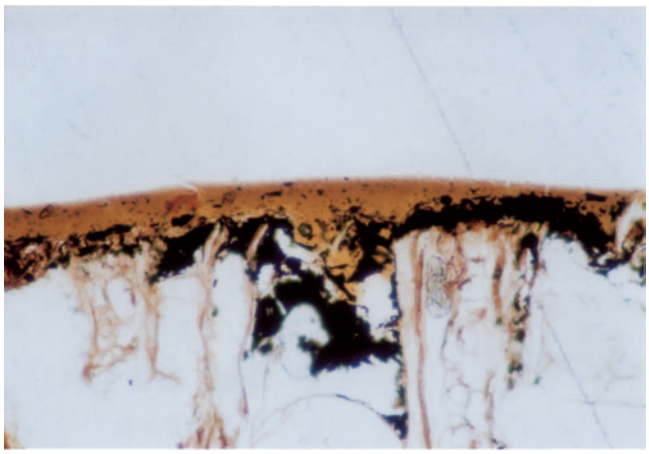


写真３
外面
断面写真　×600

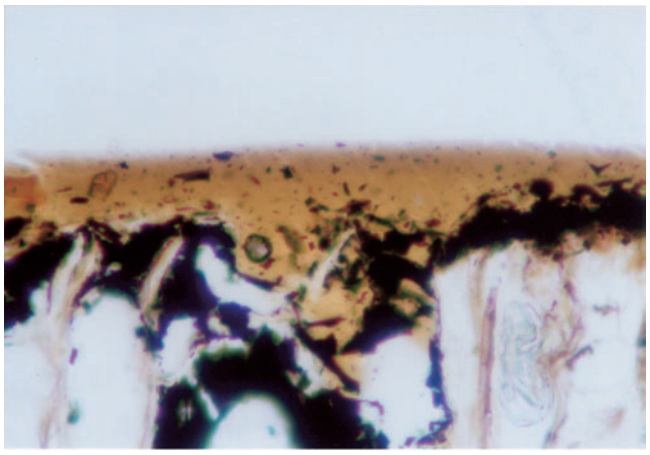


写真４
外面
断面写真　×1200

第３節　青森市新田（1）遺跡出土木製品の樹種調査結果

㈱吉田生物研究所

１．試料

試料は青森市新田（1）遺跡から出土した農具１点、服飾具１点、容器２点、籠編物２点、文房具 10 点、祭祀具６点の合計 35 点である。

２．観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

３．結果

樹種同定結果（針葉樹３種、広葉樹４種、樹皮１種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

１）ヒノキ科アスナロ属（*Thujopsis sp.*）

（遺物 No.1,2,4,5,8 ～ 10,12,15 ～ 24,26,28,30 ～ 35）

（写真 No.1,2,4,5,8 ～ 10,12,15 ～ 24,26,28,30 ～ 35）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

２）ヒノキ科クロベ属クロベ（*Thuja standishii Carriere*）

（遺物 No.11,25,27,29）

（写真 No.11,25,27,29）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部に偏って接線状に存在する。柾目では放射組織の分野壁孔はスギ型で１分野に２～６個ある。放射柔細胞の水平壁が接線壁と接する際に水平壁は山形に厚くなり、接線壁との間に溝のような構造（インデンチャー）ができ、よく発達しているのが認められる。板目では放射組織は全て単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。クロベは本州、四国に分布する。

３）ブナ科クリ属クリ（*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*）

（遺物 No.14a）

（写真 No.14a）

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管（～ 500 μ m）が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは２～３個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向

要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり（ストランド）、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する。

4）モクレン科モクレン属（*Magnolia sp.*）

（遺物 No.3）

（写真 No.3）

散孔材である。木口ではやや小さい道管（～ 110 μm）が単独ないし２～４個複合して多数分布する。軸方向柔組織は１～２層の幅で年輪界に配列する。柾目では道管は単穿孔と側壁に階段壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなる同性と平伏と直立細胞からなる異性がある。道管放射組織間壁孔は階段状である。板目では放射組織は１～３細胞列、高さ～ 700 μmとなっている。モクレン属はホオノキ、コブシなどがあり、北海道 、本州、四国、九州に分布する。

5）ユキノシタ科アジサイ属ノリウツギ（*Hydrangea paniculata Sieb.*）

（遺物 No.13）

（写真 No.13）

散孔材である。木口ではきわめて小さい道管（～ 50 μm）が単独ないし複数個が接線状、塊状に複合して分布する。柾目では道管は階段穿孔と側壁に階段壁孔を有する。放射組織は平伏、直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は階段状である。道管内には平板状のチロースがある。板目では放射組織は１～２細胞列、高さ～ 1.5mmからなる。直立細胞からなる単列翼部はきわめて長い。ノリウツギは北海道、本州、四国、九州に分布する。

6）散孔材

（遺物 No.6a,7）

（写真 No.6a,7）

散孔材である。道管経は中庸で単純のものが不規則に分散している。道管には階段穿孔がある。放射組織は異性である。板目では放射組織は１～３細胞列、放射組織の単列部分が長く、複数列部分を互いに繋げていることもあり、高さは１㎜以上にもなる。木繊維には螺旋肥厚がある。

7）針葉樹

（遺物 No.14b）

（写真 No.14b）

木口と柾目は採取出来なかった。板目では繊維状の仮道管が見られ、放射細胞はすべて単列であった。

8）樹皮

（遺物 No.6b）

（写真 No.6b）

木口は採取出来なかった。柾目ではじん皮繊維、放射組織と結晶を含む軸方向柔細胞が見られる。板目では放射組織は単列であった。

◆参考文献◆

島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）

島地 謙・伊東隆夫「図説木材組織」 地球社（1982）

伊東隆夫 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」京都大学木質科学研究所（1999）

北村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ・Ⅱ」 保育社（1979）

深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

◆使用顕微鏡◆

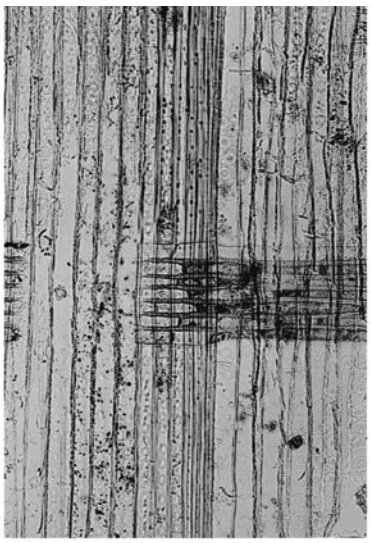
Nikon

MICROFLEX UFX-DX Type 115

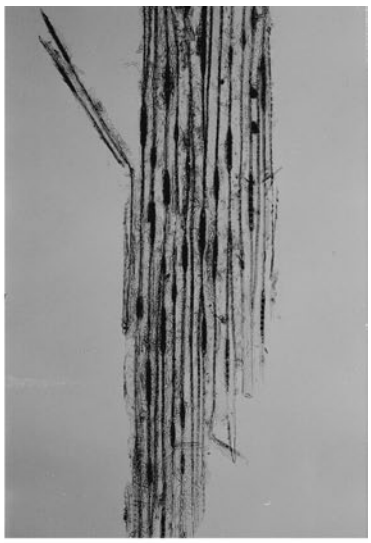
No.	出土地点	遺構名	層位	W 番号	機種	樹種
1	A	SD-01	下	W843 ～ W849	桧扇	ヒノキ科アスナロ属
2	A	SD-01	下	W773	曲物	ヒノキ科アスナロ属
3	A	SD-01	下	W734	漆器椀	モクレン科モクレン属
4	A	SD-08	中	W-13	田下駄	ヒノキ科アスナロ属
5	A	SD-08	下	W-10	斎串	ヒノキ科アスナロ属
6	A	SD-01	下	W-784-1	a 網代（大）よこ条 b 〃 たて条	散孔材 樹皮
7	A	SD-01	下	W-784-2	網代（小）	散孔材
8	A	SD-01	下	W-851	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
9	A	SD-01	下	W-863	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
10	A	SD-08	下	W-24	馬形	ヒノキ科アスナロ属
11	A	SD-08	中	W-20	馬形	ヒノキ科クロベ属クロベ
12	A	SD-08	下	W-21	馬形	ヒノキ科アスナロ属
13	A	SD-01	下	W-886	用途不明	ユキノシタ科アジサイ属 ノリウツギ
14	A	SD-01	下	W-559	a 菰槌（本体） b 〃（紐）	ブナ科クリ属クリ 針葉樹
15	A	SD-01	中	W-489	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
16	A	SD-01	下	W-743	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
17	A	SD-01	下	W-788	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
18	A	SD-01	下	W-827	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
19	A	SD-01	-	W-839	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
20	A	SD-01	下	W-840	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
21	A	SD-01	下	W-841,W-842	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
22	A	SD-01	下	W-853,W-852, W-859,W-860	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
23	A	SD-01	下	W-854	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
24	A	SD-01	下	W-855	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
25	A	SD-01	下	W-856,W-857	木簡状	ヒノキ科クロベ属クロベ
26	A	SD-01	下	W-858,W-861,W-869	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
27	A	SD-01	下	W-862	木簡状	ヒノキ科クロベ属クロベ
28	A	SD-01	下	W-864,W-865	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
29	A	SD-01	下	W-866	木簡状	ヒノキ科クロベ属クロベ
30	A	SD-01	下	W-870	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
31	A	SD-01	下	W-871	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
32	A	SD-01	下	W-867,W-868	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
33	A	SD-01	下	W-872,W-873	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
34	A	SD-08	下	W-9	木簡状	ヒノキ科アスナロ属
35	A	SD-08	下	W-71	木簡状	ヒノキ科アスナロ属

No. 1

ヒノキ科アスナロ属



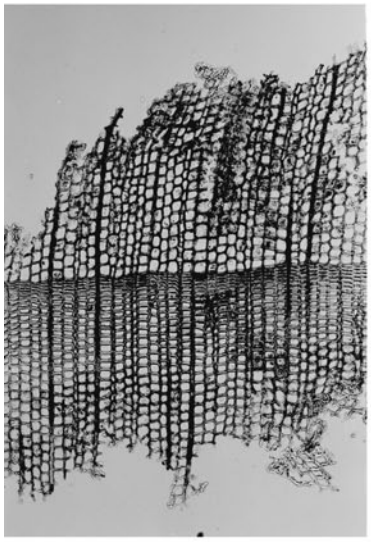
柾目　×100



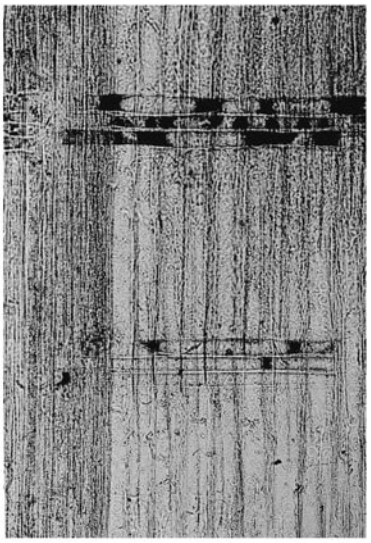
板目　×40

No. 2

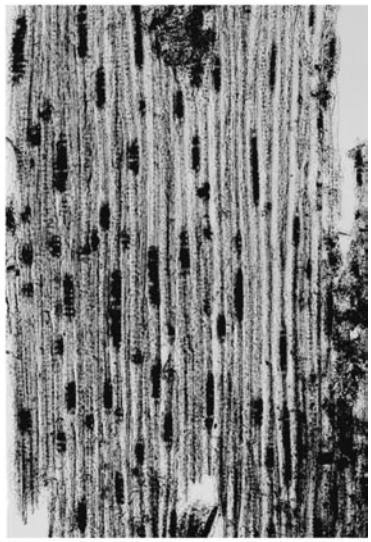
ヒノキ科アスナロ属



木口　×40



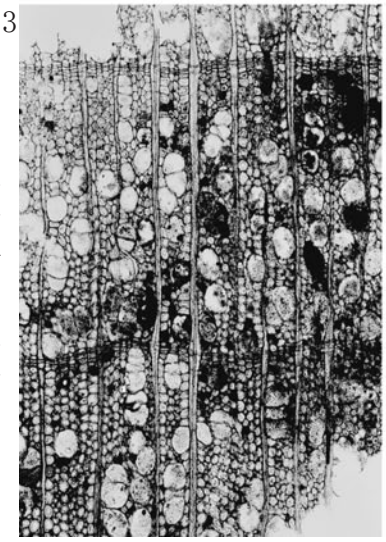
柾目　×100



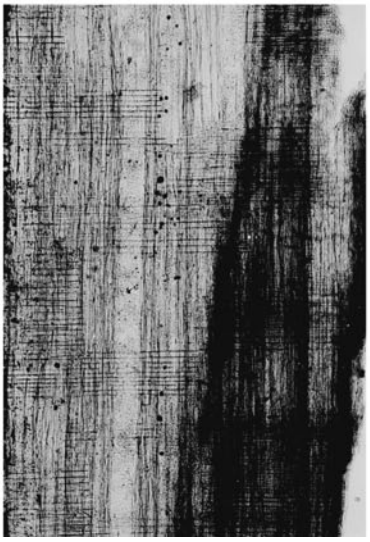
板目　×40

No. 3

モクレン科モクレン属



木口　×40

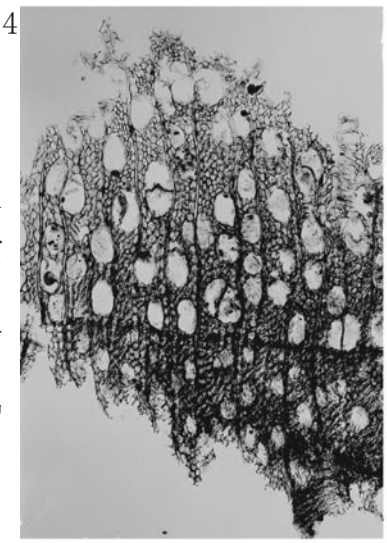


柾目　×40

板目　×40

No. 4

ヒノキ科アスナロ属



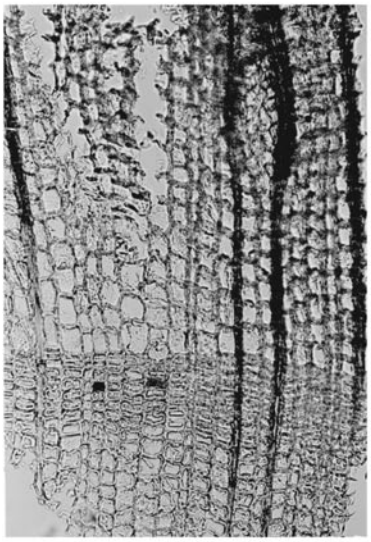
木口　×40

柾目　×40

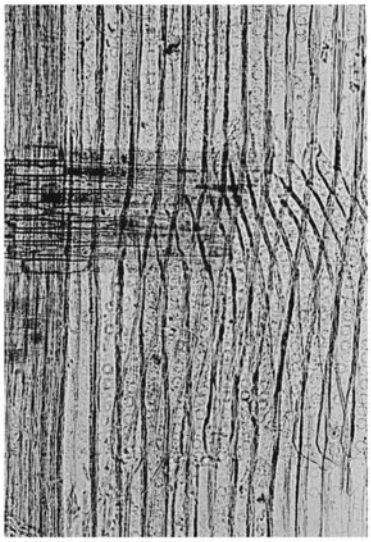
板目　×40

No. 5

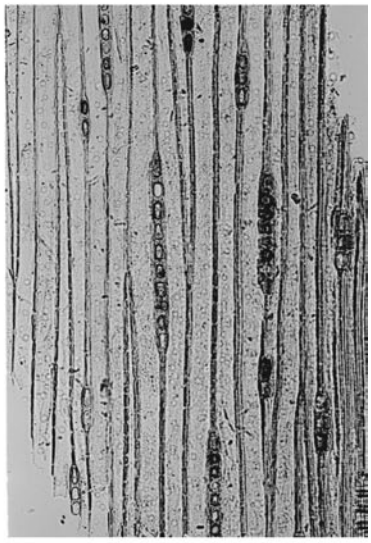
ヒノキ科アスナロ属



木口　×100



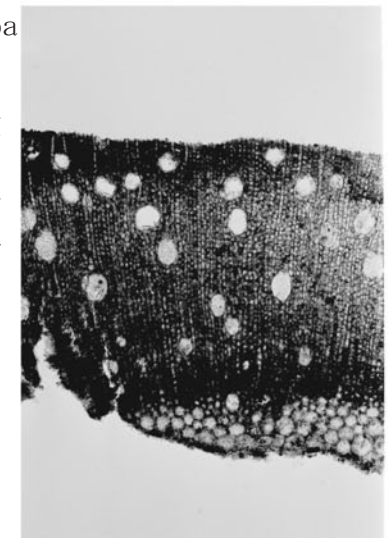
柾目　×100



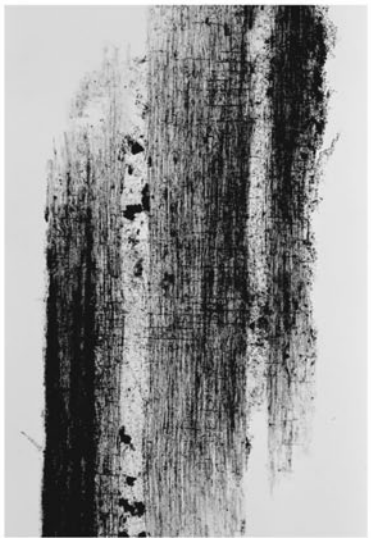
板目　×100

No. 6a

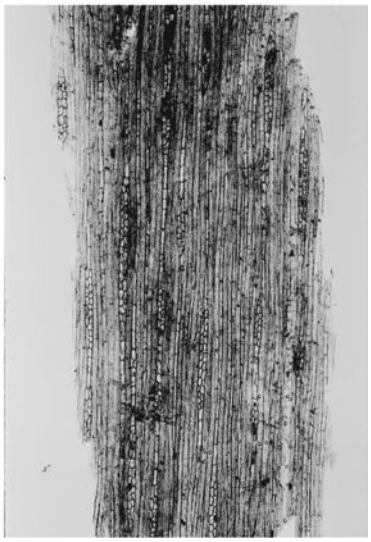
散孔材



木口　×40



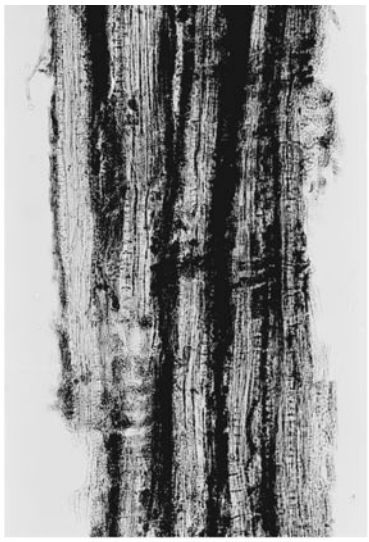
柾目　×40



板目　×40

No. 6b

樹皮

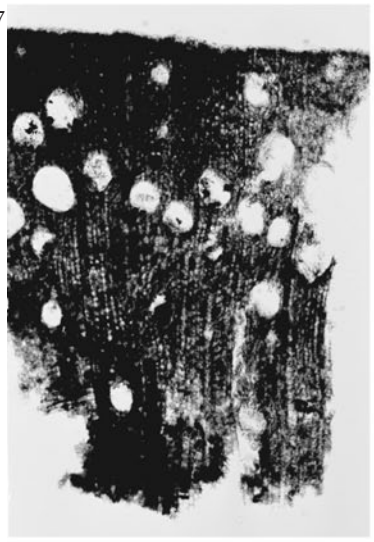


柾目　×100

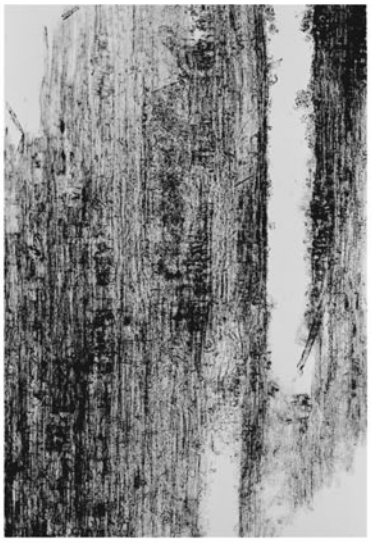
板目　×40

No. 7

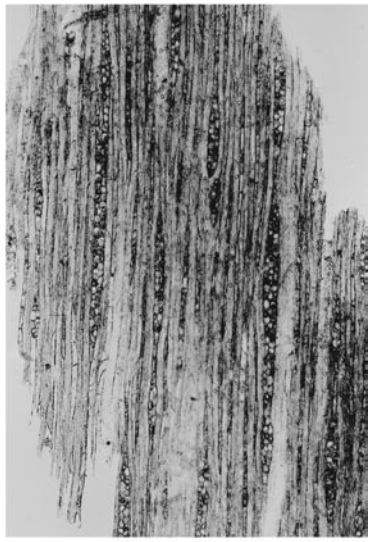
散孔材



木口　×40



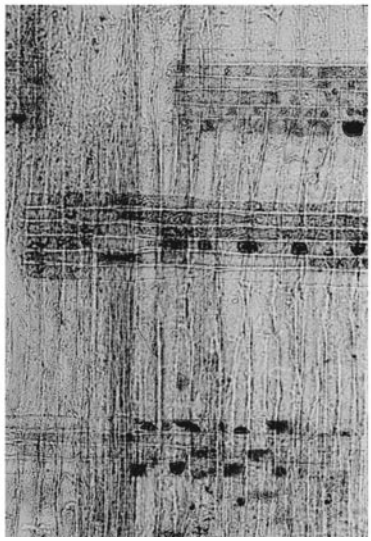
柾目　×40



板目　×40

No. 8

ヒノキ科アスナロ属

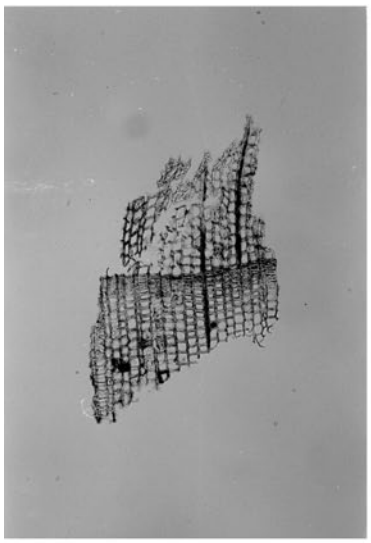


柾目　×100

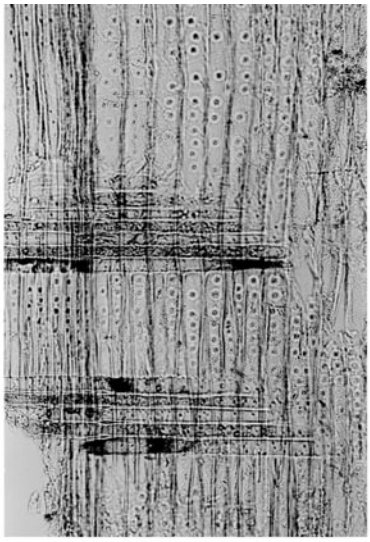
板目　×40

No. 9

ヒノキ科アスナロ属



木口　×40

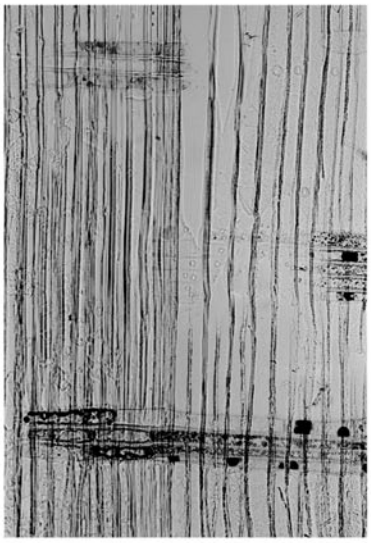


柾目　×100

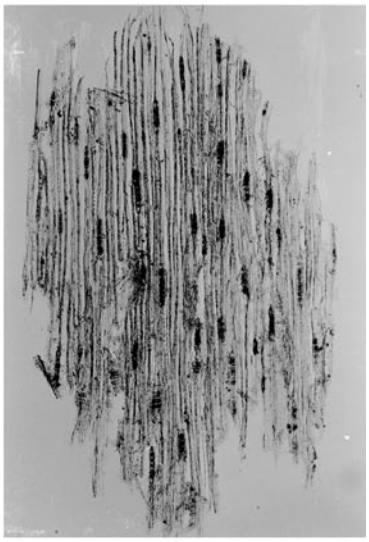
板目　×40

No. 10

ヒノキ科アスナロ属



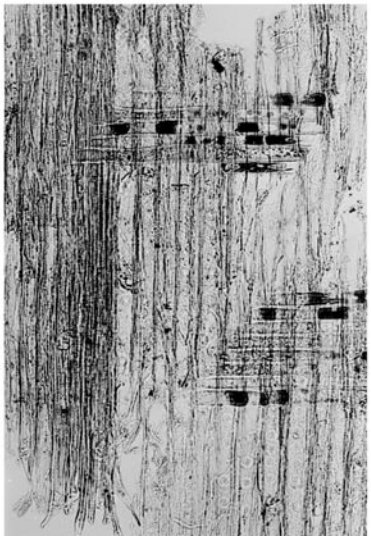
柾目　×100



板目　×40

No. 11

ヒノキ科クロベ属クロベ

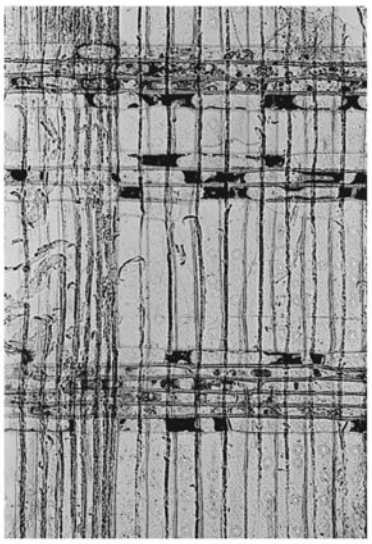


柾目　×100

板目　×40

No. 12

ヒノキ科アスナロ属



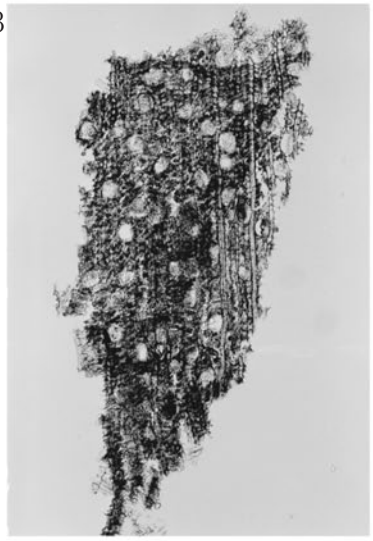
柾目　×100

板目　×40

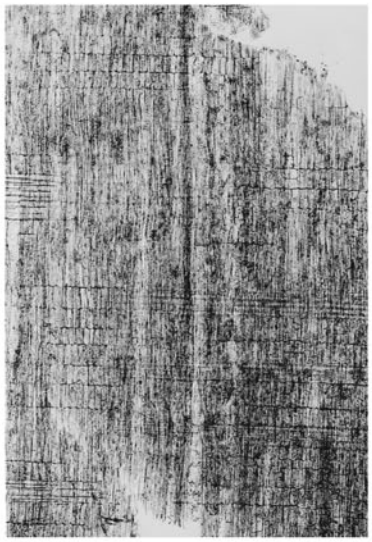
No. 13

アジサイ属ノリウツギ

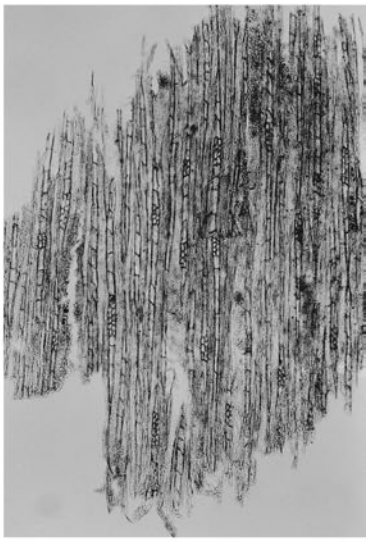
ユキノシタ科



木口　×40



柾目　×40

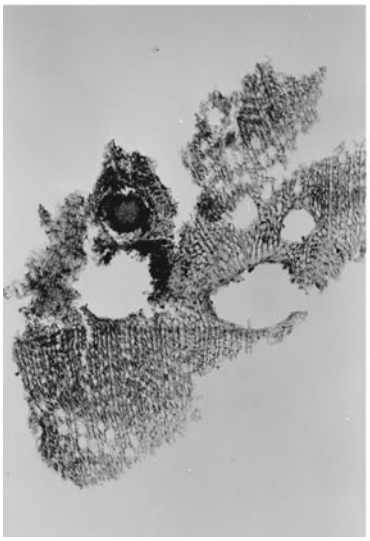


板目　×40

No. 14a

針葉樹

ブナ科クリ属クリ



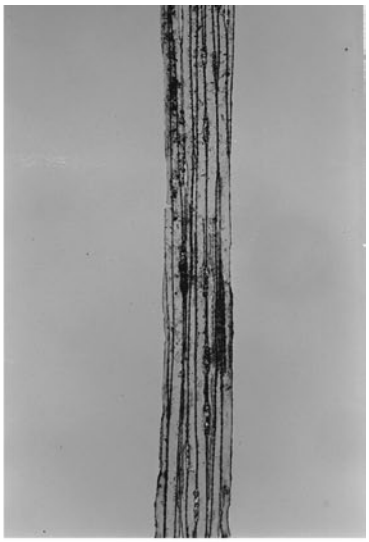
木口　×40

柾目　×100

板目　×40

No. 14b

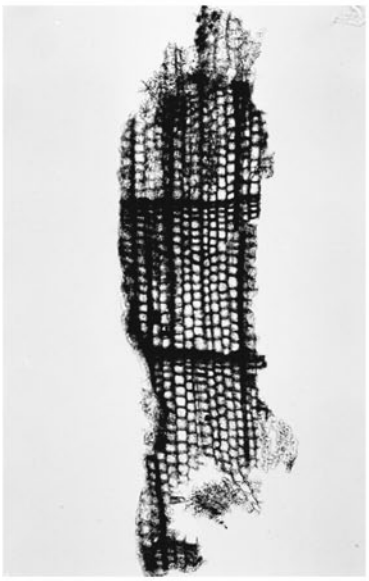
針葉樹
ブナ科クリ属クリ



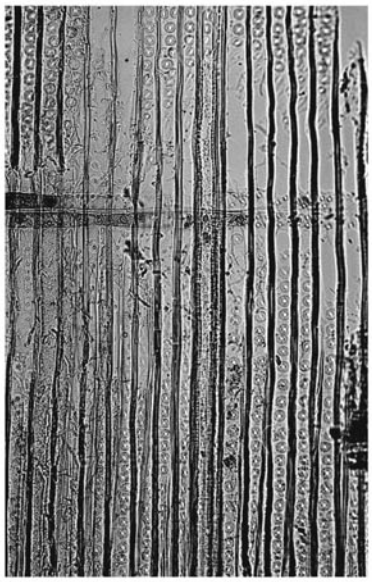
板目　×40

No. 15

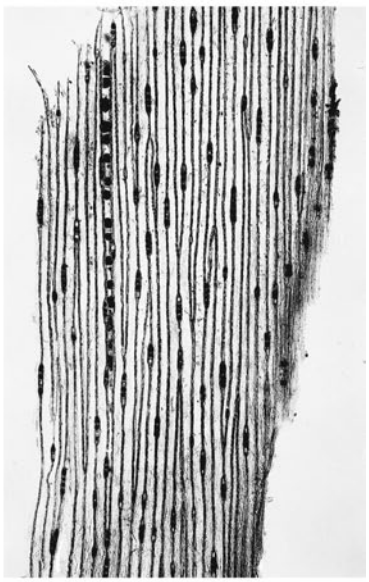
ヒノキ科アスナロ属



木口　×40



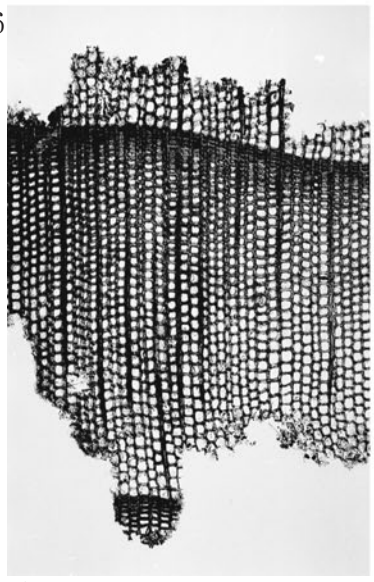
柾目　×100



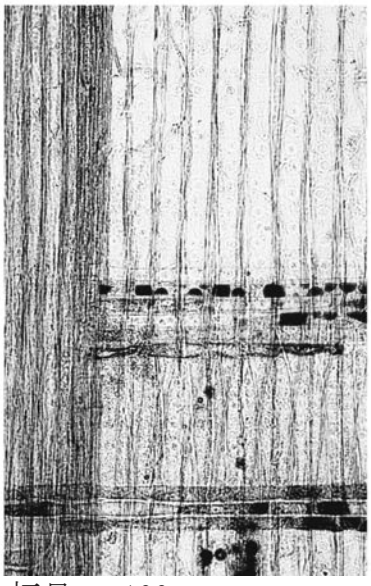
板目　×40

No. 16

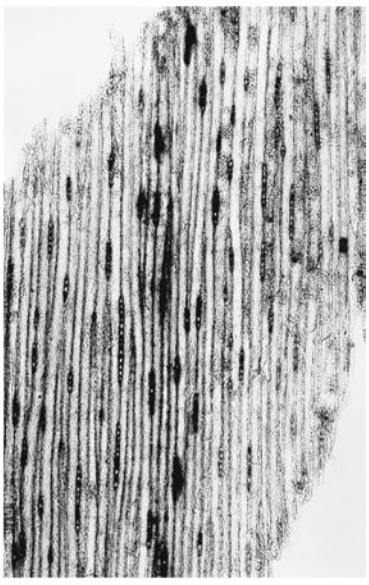
ヒノキ科アスナロ属



木口　×40



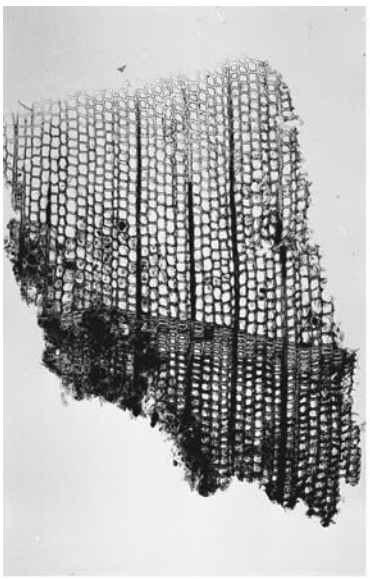
柾目　×100



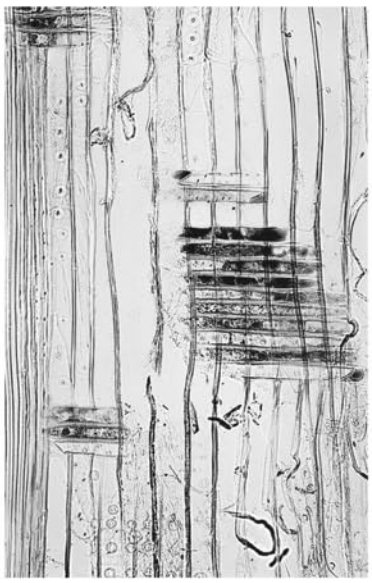
板目　×40

No. 17

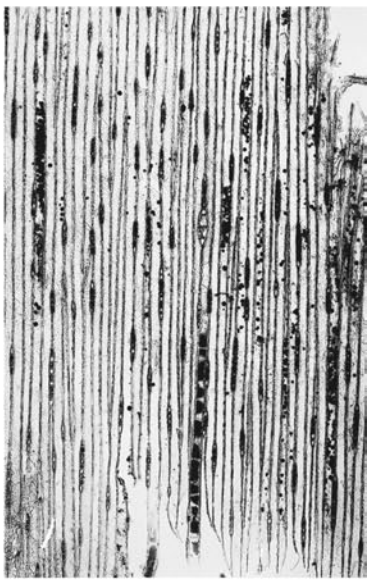
ヒノキ科アスナロ属



木口　× 40



柾目　×100

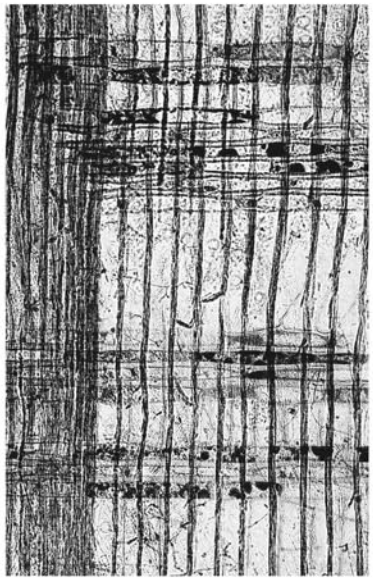


板目　×40

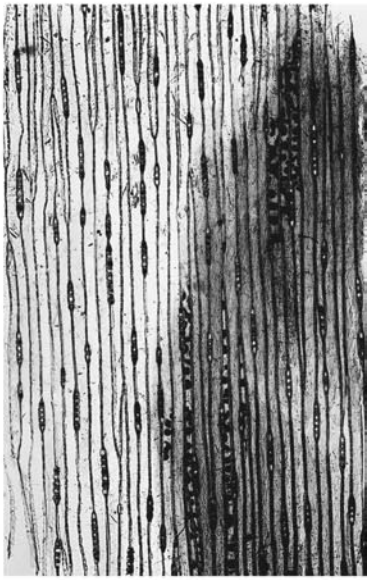
No. 18

ヒノキ科アスナロ属

木口　×40



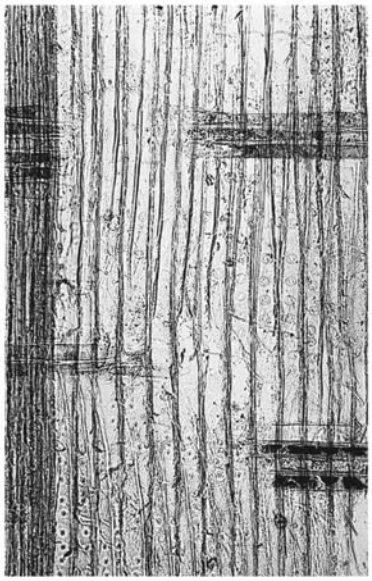
柾目　×100



板目　×40

No. 19

ヒノキ科アスナロ属



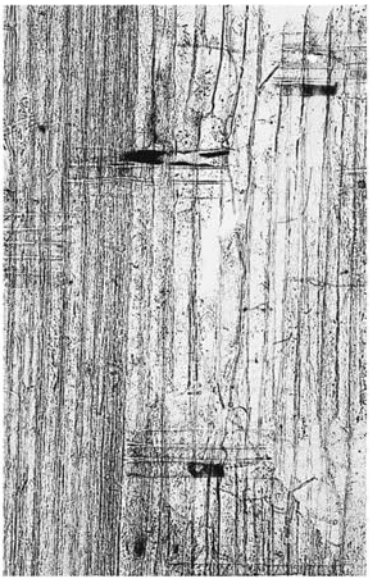
柾目　×100

板目　×40

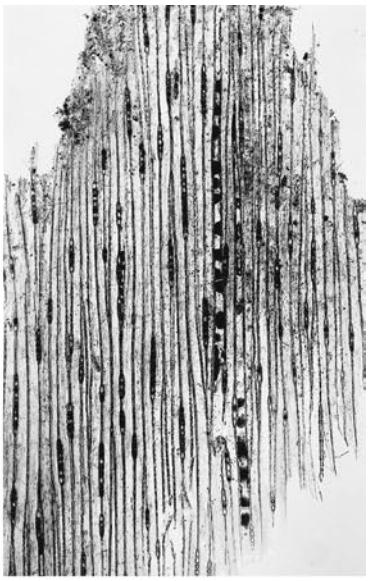
No. 20

ヒノキ科アスナロ属

木口　× 40



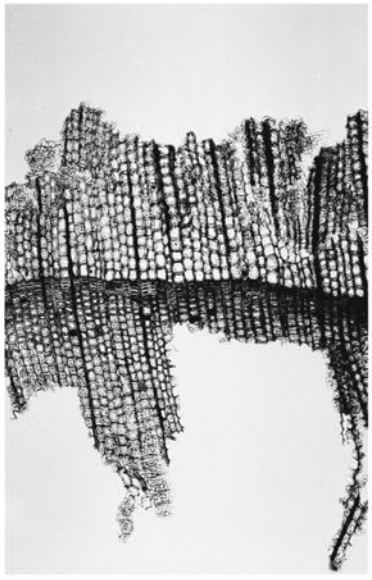
柾目　×100



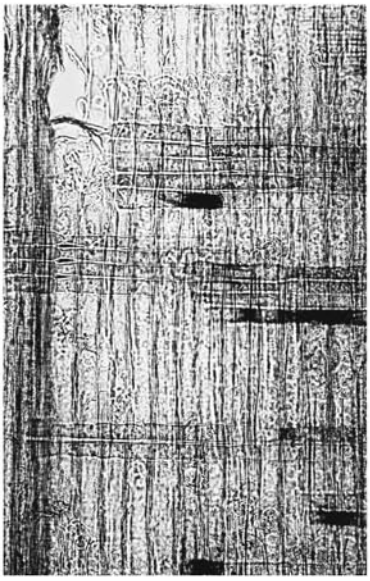
板目　×40

No. 21

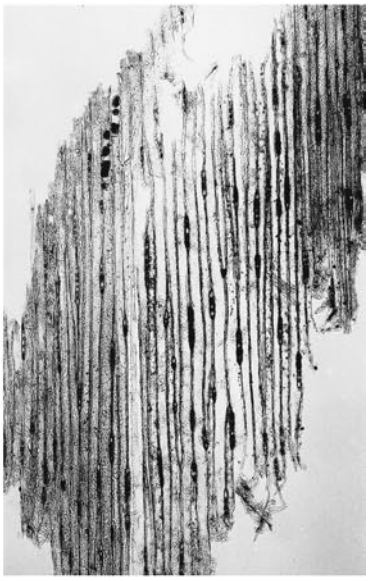
ヒノキ科アスナロ属



木口　×40



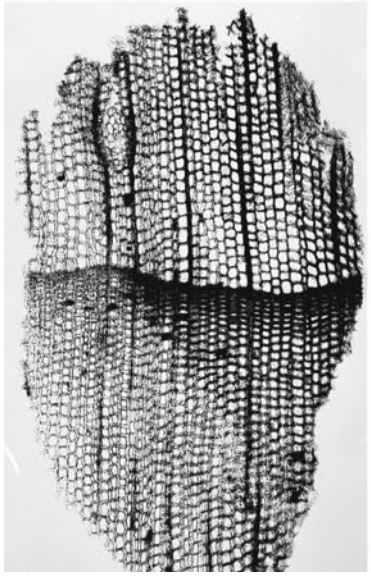
柾目　×100



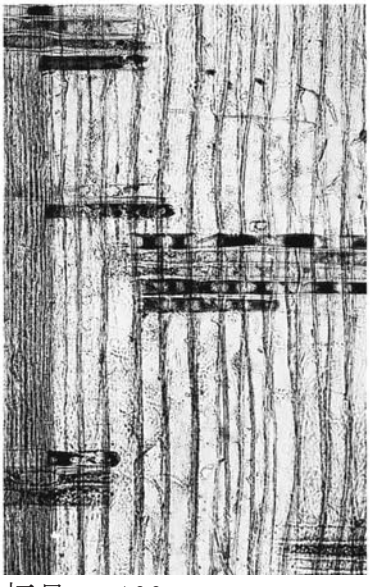
板目　×40

No. 22

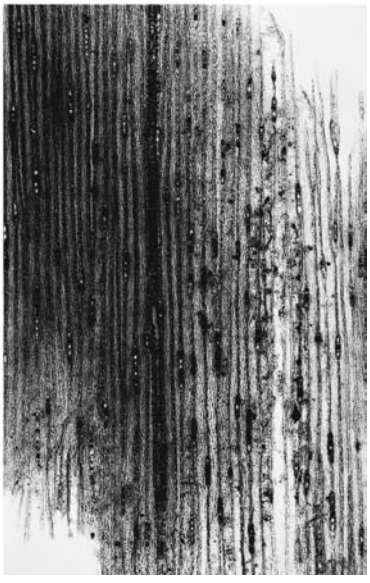
ヒノキ科アスナロ属



木口　×40



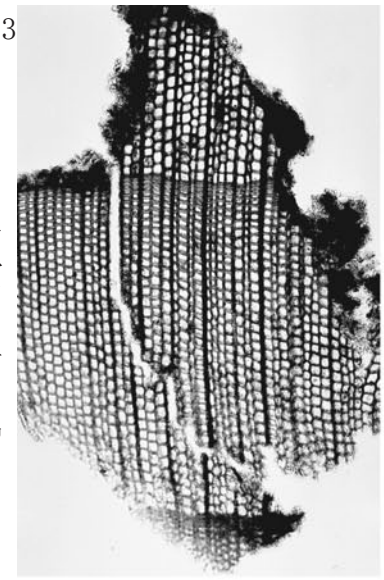
柾目　×100



板目　×40

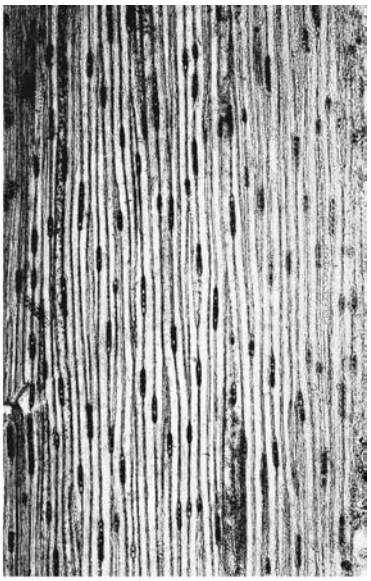
No. 23

ヒノキ科アスナロ属



木口　×40

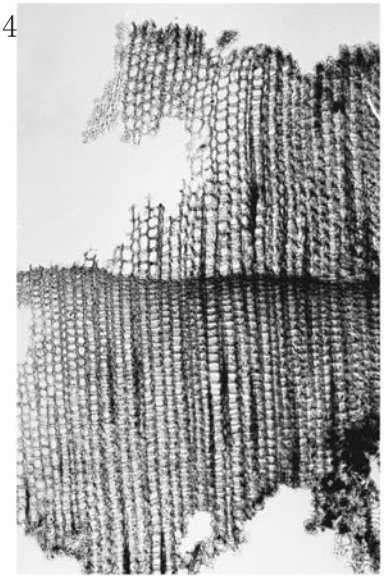
柾目　×100



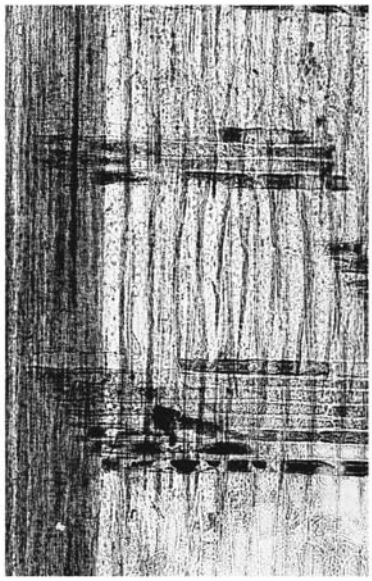
板目　×40

No. 24

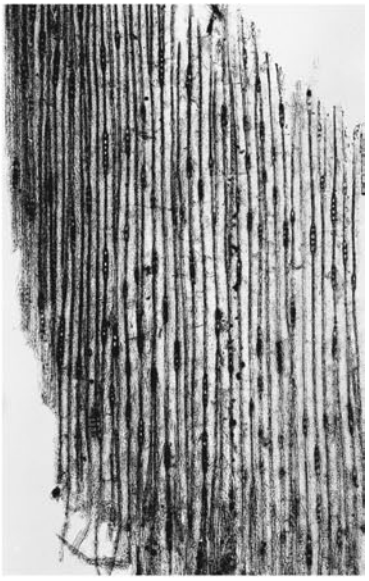
ヒノキ科アスナロ属



木口　×40



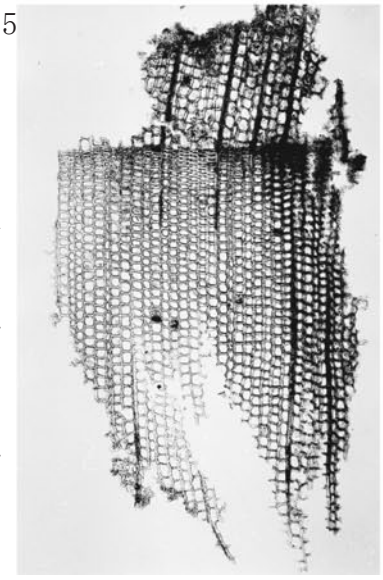
柾目　×100



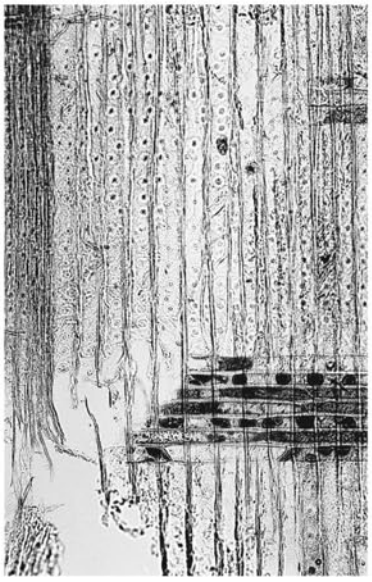
板目　×40

No. 25

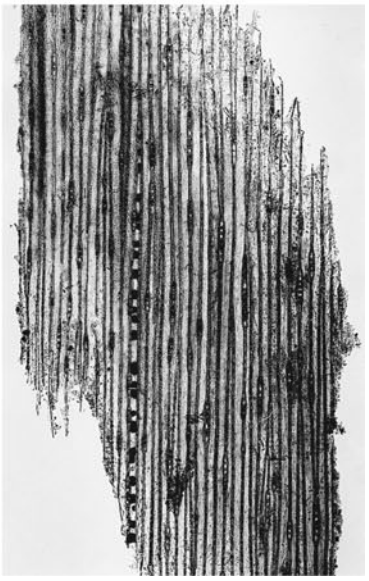
ヒノキ科クロベ属クロベ



木口　×40



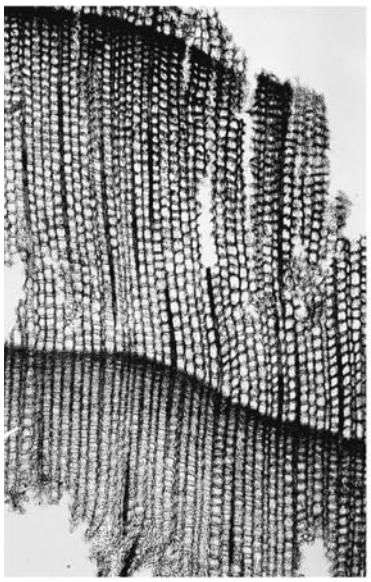
柾目　×100



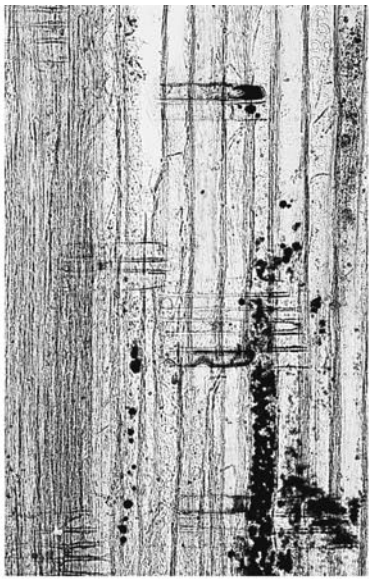
板目　×40

No. 26

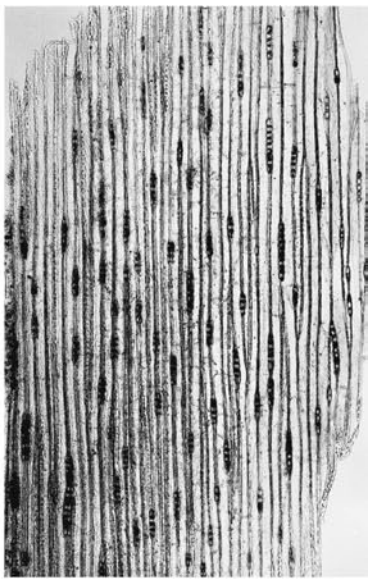
ヒノキ科アスナロ属



木口　×40



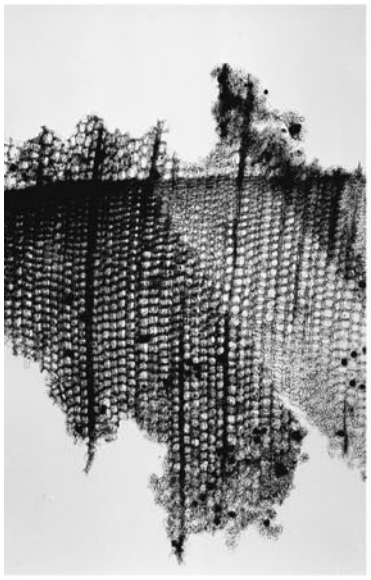
柾目　×100



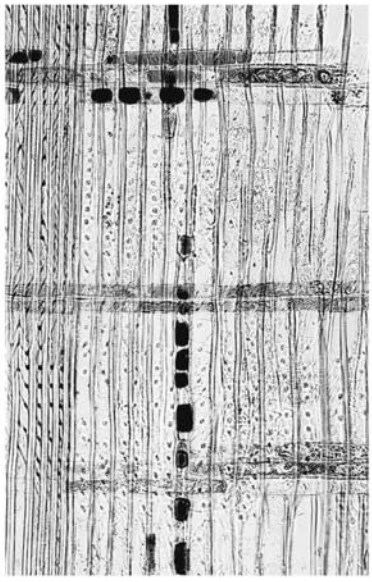
板目　×40

No. 27

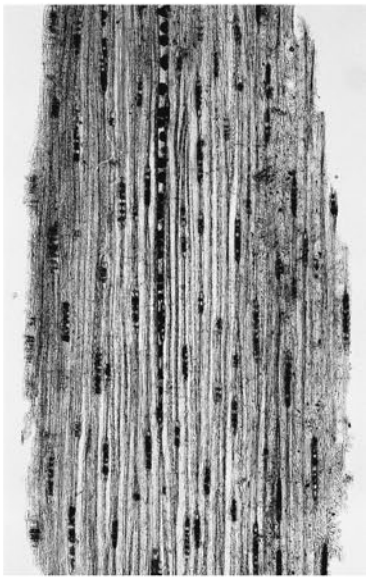
ヒノキ科クロベ属クロベ



木口　×40



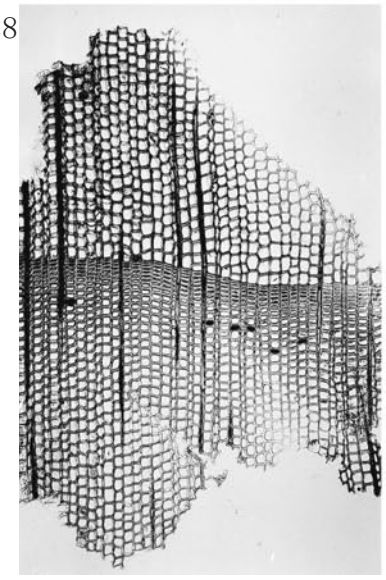
柾目　×100



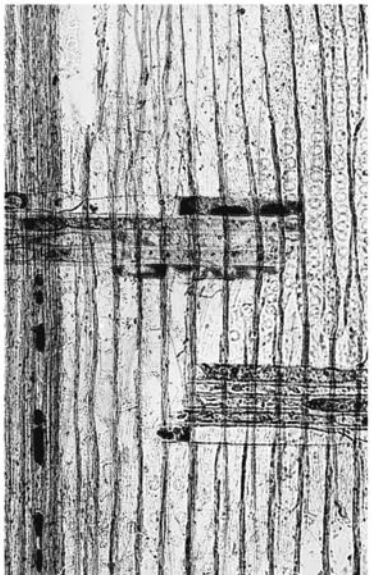
板目　×40

No. 28

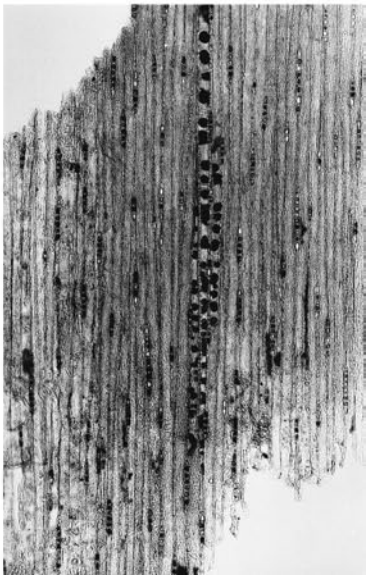
ヒノキ科アスナロ属



木口　×40



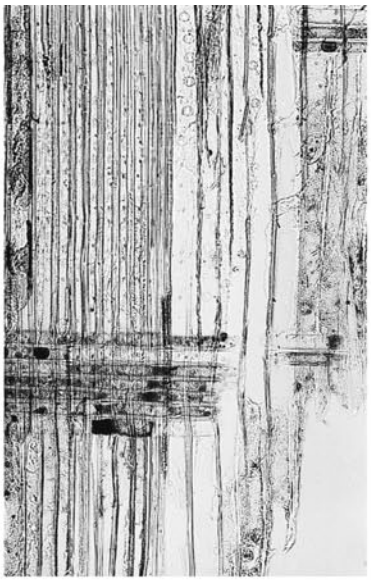
柾目　×100



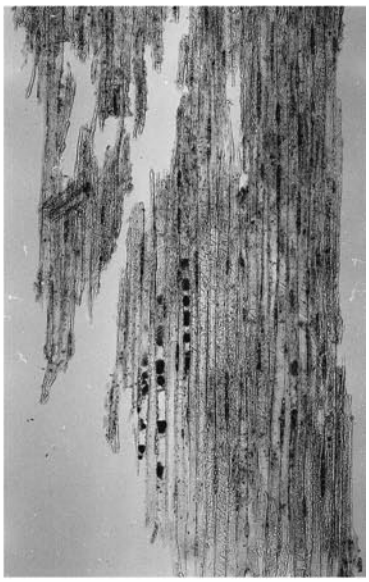
板目　×40

No. 29

ヒノキ科クロベ属クロベ



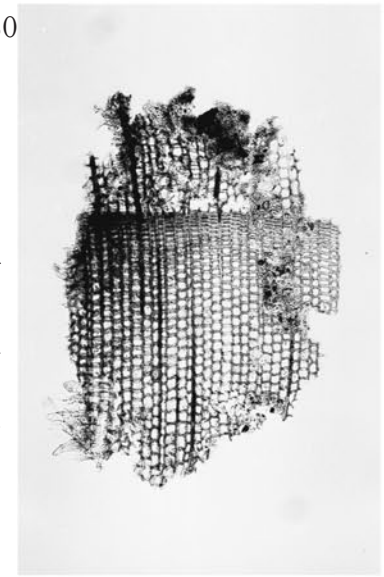
柾目　×100



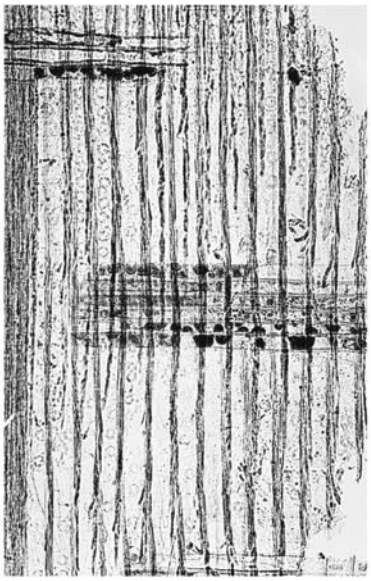
板目　×40

No. 30

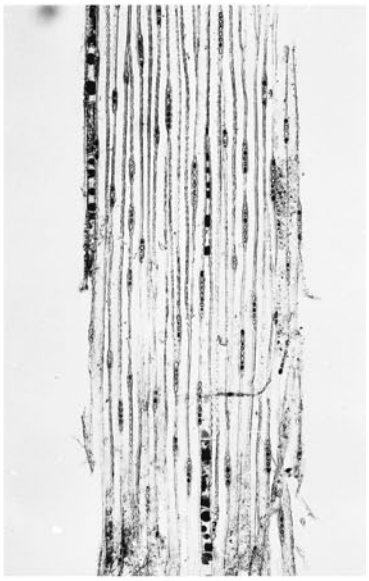
ヒノキ科アスナロ属



木口　×40



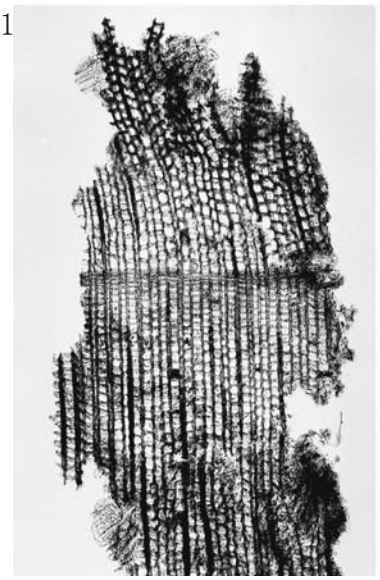
柾目　×100



板目　×40

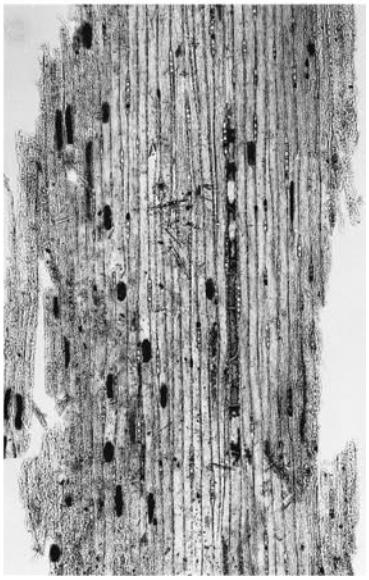
No. 31

ヒノキ科アスナロ属



木口　×40

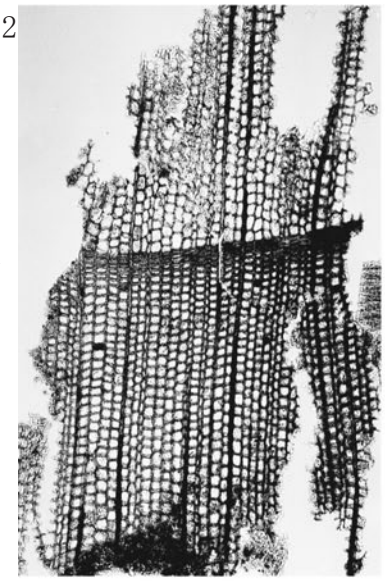
柾目　×100



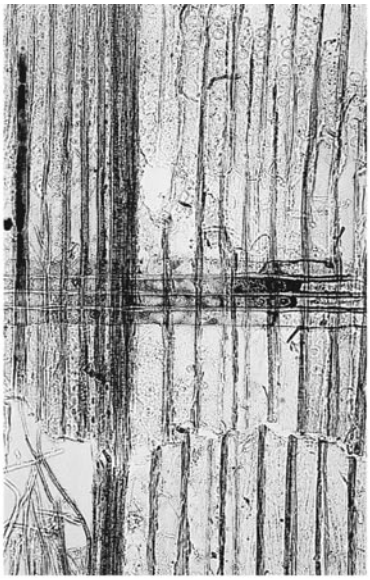
板目　×40

No. 32

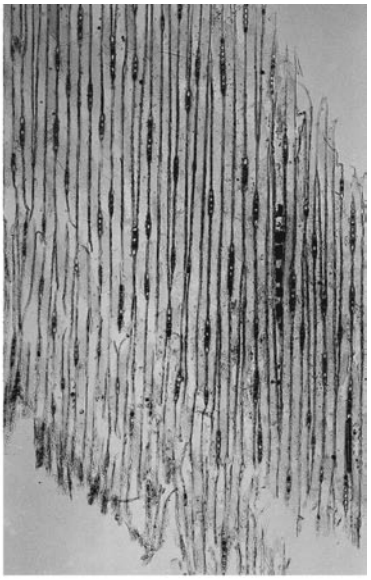
ヒノキ科アスナロ属



木口　×40



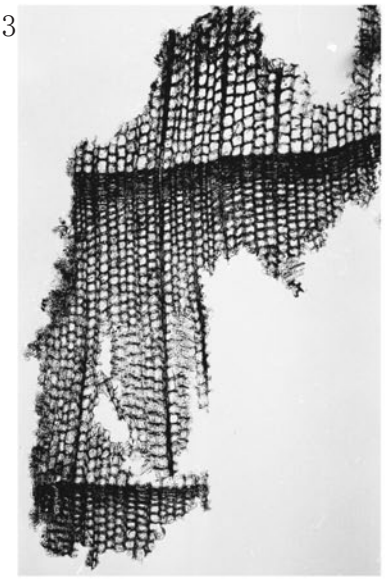
柾目　×100



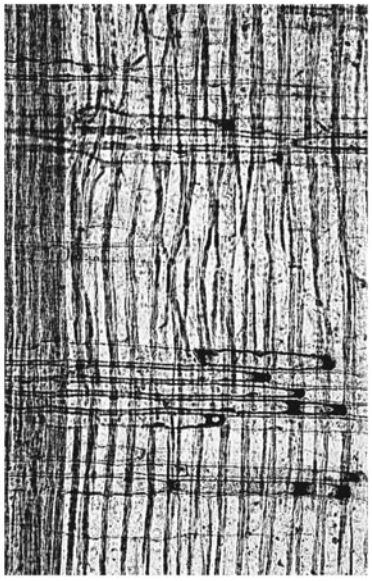
板目　×40

No. 33

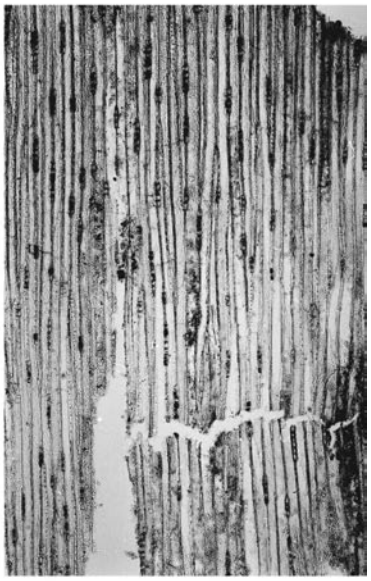
ヒノキ科アスナロ属



木口　×40



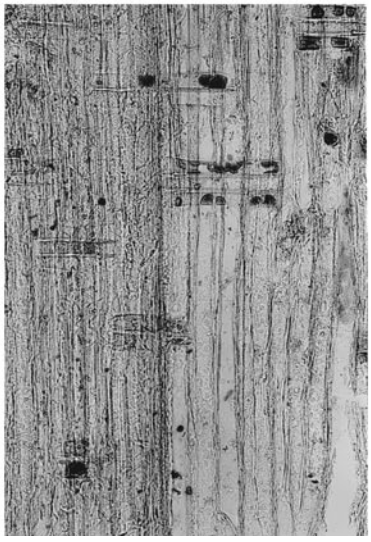
柾目　×100



板目　×40

No. 34

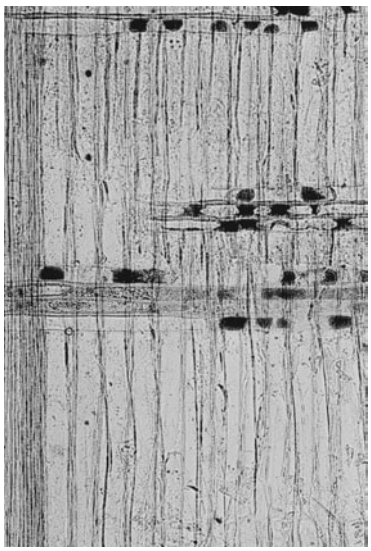
ヒノキ科アスナロ属



柾目　×100

No. 35

ヒノキ科アスナロ属



柾目　×100

第４節　新田（1）遺跡から出土した編組製品の素材同定と観察

佐々木由香（パレオ・ラボ）
能城修一（森林総合研究所）

１　はじめに

新田(1)遺跡は青森市西部の石江地区の沖積地に位置する。扇や木簡等の木製品が多量した溝跡(SD-01)からは、大型の編組製品が出土した。溝跡の時期は、出土遺物の時期と放射性炭素年代測定、年輪年代の結果から、10 世紀後半から 11 世紀代と考えられている。出土した編組製品は保存処理に先立って吉田生物研究所によって樹種同定が行われ、素材についてヨコ材散孔材、タテ材は樹皮という同定結果が得られた。ここでは作成されたプレパラートを用いて樹種の再検討を行い、得られた同定結果を基に製品の形状観察を行って、若干の考察を行う。

２　試料と方法

試料は調査区 A-1 の SD-01 の下層から出土した編組製品（出土番号 W-784-1、784-2）である。大きく２つに分かれていたが、両者は近接して出土した（第Ⅴ章 p.88 写真 99)。

同定方法は、作成されたプレパラートを光学顕微鏡下で観察し、森林総合研究所所蔵の現生標本と対比して同定を行った。なお、作成されたプレパラートは吉田生物研究所に保管されている。

また製品について計測および観察を行った。ここでの法量はタテ材の長さを高さとし、ヨコ材の長さを幅として計測した。なお、タテ材とヨコ材の定義は野田（2005)、「ござ目編み」や「網代編み」などの編組パターンの呼称は佐々木（2006）に従った。

３　同定結果

同定の結果、ヨコ材はマタタビ属、タテ材は針葉樹の樹皮と同定された（表１)。またプレパラート下の観察ではマタタビ属は１年生のものであった。以下に同定を行った試料のうち、各分類群を代表する試料について写真図版（図版 1）を付し、その材組織を記載した。

表１　編組製品の樹種同定結果

調査区	遺構名	層位	遺物番号	部位	同定結果	備考
A-1	SD-01	下層	W-784-1	(サイズ小)	タテ材　針葉樹樹皮	
					ヨコ材　マタタビ属	
A-1	SD-01	下層	W-784-2	(サイズ大)	タテ材　針葉樹樹皮	
					ヨコ材　マタタビ属	「ござ目編み」部分

(1) マタタビ属 *Actinidia* マタタビ科　図版１：1-4（W-784-1)，6-7（W-784-2)

孤立道管が年輪内でやや径を減少して疎らに散在する半環孔材。木部柔組織はいびつな接線状。道管の穿孔は単一。放射組織は異性で、多列部は２～３細胞幅の紡錘形となり、その上下に数細胞高の単列部をもつ。単列部は上下の放射組織の単列部と連続して、縦に長く連なる。

日本産のマタタビ科にはマタタビ、サルナシ、ミヤママタタビ、シマサルナシの４種があり、ミヤママタタビは亜高山帯、シマサルナシは亜熱帯に分布する。マタタビとサルナシは日本各地に分布するつる性の落葉の木本植物である。

(2) 樹皮　Bark　針葉樹　図版１：5（W-784-2)

単列同性の放射組織をもつ針葉樹の樹皮。菱形結晶をもつ多室柔細胞が目立つ。木部は遺存しておらず、針葉樹の分類群を絞ることはできない。

4　製品の観察結果

W-784-1(p.116 第Ⅴ章第 55 図 100-1): 幅約 57.0cm、高さ約 26.0cm

タテ材は樹皮を板目方向に裂いた割裂き材、ヨコ材はマタタビ属の割裂き材（半割もしくは 1/4）が使用される。タテ材の素材の幅は 10 ～ 13mm 程度、ヨコ材の幅は平均 5 ～ 6mm。タテ材はほとんど遺存していないが、ヨコ材の間隔はほとんどなく目が詰まる。ヨコ材はすべて外皮側が上になって出土した。

残存しているタテ材は 10 本ほどであるが、ヨコ材の編組技法の観察から、残存しているタテ材の間に本来１～３本のタテ材があったことが推察される。図１の下図はタテ材を上方向にして、残存していないタテ材を編組技法の観察から補って示したものである（観察可能であった上部のみ復元）。さらに残存しているタテ材でとぎれている部分は補った。タテ材を復元してみると、タテ材・ヨコ材共に１本１単位で、１超え、１潜り、１送りの編組技法で作成される「ござ目編み」の製品であったと推定される。

W-784-2(p.116 第Ⅴ章第 55 図 100-2): 幅約 48.5cm、高さ 9.5cm

製品内で２種の編組技法が使用される。タテ材を上とした場合、W-784-1 から続く「ござ目編み」で形成される上部および左下部分と、「網代編み」で形成される右下部分がある。

①「ござ目編み」部分

タテ・ヨコ材ともに１本１単位の「ござ目編み」である。タテ材は樹皮、ヨコ材はマタタビ属の割裂き材（半割もしくは 1/4）が使用される。タテ材の幅は８～ 11mm 程度、ヨコ材の幅は平均５～ 6mm。タテ材はほとんど遺存していないが、その間隔は 20 ～ 30mm で、ヨコ材の間隔はほとんどなく目が詰まる。

②「網代編み」部分

２本１単位の「網代編み」で、タテ材とヨコ材ともにマタタビ属の割裂き材が使用される。ヨコ材の端の部分が折り返されてタテ材となり、２本を１単位として網代編みされ、端部が処理されている。タテ材とヨコ材の間隔はほとんどなく目が詰まる。

5　考察

「ござ目編み」部分のヨコ材および「網代編み」部分のタテ・ヨコ材の素材には、マタタビ属が使用されていた。出土遺物でマタタビ属を用いた編組製品は主にかごに使用される例が知られており、石川県西念南新保遺跡（鈴木・能城 1992）および戸水Ｃ遺跡でマタタビ属と同定された他（山本 1989）、鳥取県青谷上寺地遺跡ではマタタビとして種の同定がされた（金原 2005）。いずれも弥生時代の出土例であり、本遺跡のような平安時代のものは知られていない。また考古遺物の出土例ではマタタビ属と樹皮を組み合わせたものの出土例はこれまでなく、マタタビ属を用いた平面的で大型の製品の出土例もない。

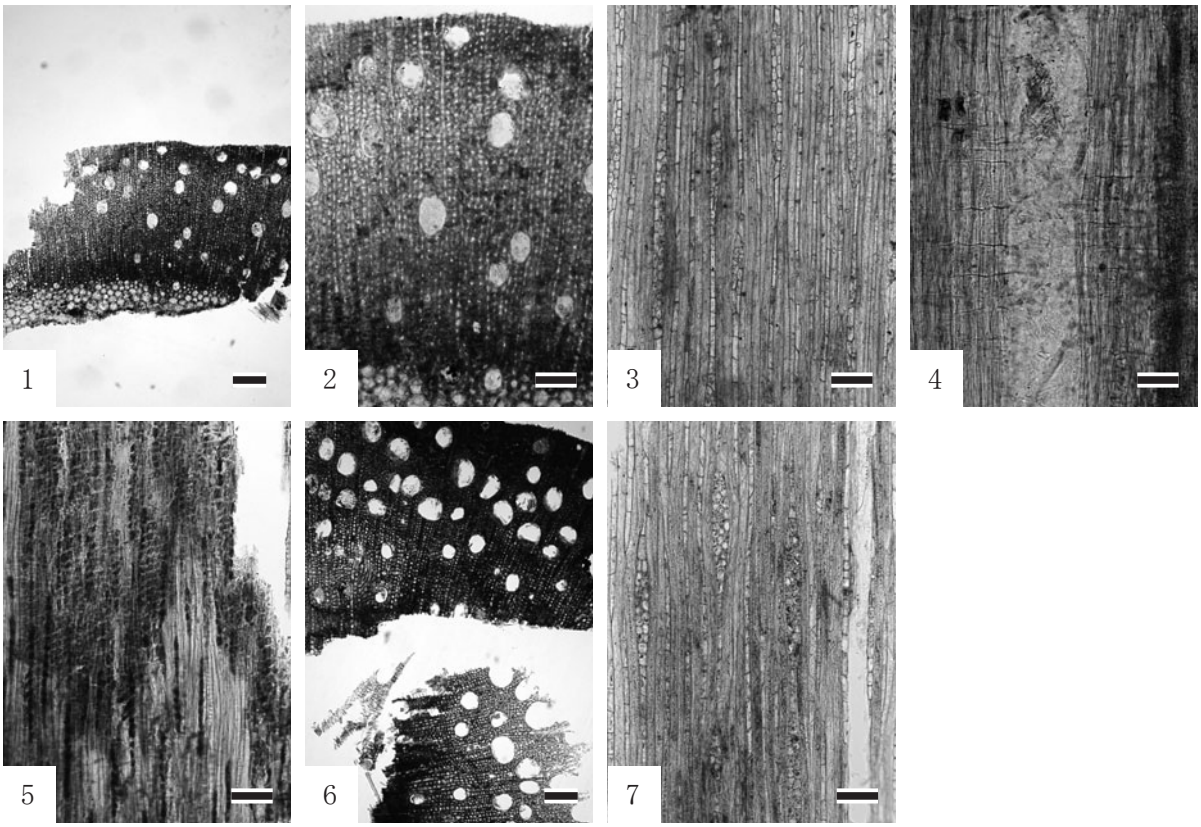
民俗例ではサルナシを用いる製品とマタタビを用いる製品は器種や用途が異なることが知られており、また同じ器種でもマタタビとタケでは機能差があることが明らかとなっている（岡田 2002・2005）。出土資料においてもマタタビ属の種の違いによって使い分けされたことが想定されるが、木材組織上では両者の区別はつけられなかった。

マタタビ製の編組製品は、遺跡出土製品と民俗例から日本海側の豪雪地帯に分布することが指摘されている（渡辺 1996、野田 2005）。これまでに青森県出土の遺物からは確認されていないが、本遺跡は渡辺が推定した地域に含まれることから、地域性を反映した素材ということができる。

また製品全体の形状は不明であるが、一部に網代編みで端部を処理した縁仕舞がみられることから、平面的な製品であったことが推定される。２破片をあわせれば、幅 60cm 弱、高さ 40cm 弱の比較的大型の製品になる。しかし、民具にも類例を見いだせず、現段階では全体の形状や用途は不明である。

引用文献

金原正明．2005．青谷上寺地遺跡出土かごの材質同定．青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告１
木製容器・かご，155-158．鳥取県埋蔵文化財センター．
野田真弓．2005．青谷上寺地遺跡出土のかご．青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告１
木製容器・かご，93-138．鳥取県埋蔵文化財センター．
岡田　賢．2002．飛騨みやがわ考古民俗館蔵の編組製品の素材について．人類誌集報2002,127-132.
東京都立大学考古学報告8.
岡田　賢．2005．編組製品の素材差と機能差についてーショウケを例にー．人類誌集報2003，5-12.
東京都立大学考古学報告9.
佐々木由香．2006．割裂き木部材・蔓・草の編み組み加工容器．考古学ジャーナル542，13-19.
鈴木三男・能城修一．1992．金沢市西念・南新保遺跡出土木製品の樹種．
金沢市西念・南新保遺跡III，285-290，PL1-4．金沢市・金沢市教育委員会．
渡辺誠．1996．マタタビ製のカゴ類．名古屋大学古川総合研究資料館報告．No.12，83-92.
山本直人．1989．石川県におけるワラ・タケ以外のカゴ類．北陸の考古学Ⅱ．32，39-60.



図版1　新田(1)遺跡出土編組製品の木材組織顕微鏡写真
1-4：マタタビ属（W-784-1,ヨコ材），5：針葉樹樹皮（W-784-1,タテ材），6,7：マタタビ属（W-784-2，ヨコ材）
1，2，6：横断面．　3，5，7　：接線断面　．4：放射断面．スケール＝200μm(1,6),100μm(2,3,5,7),50μm（4）

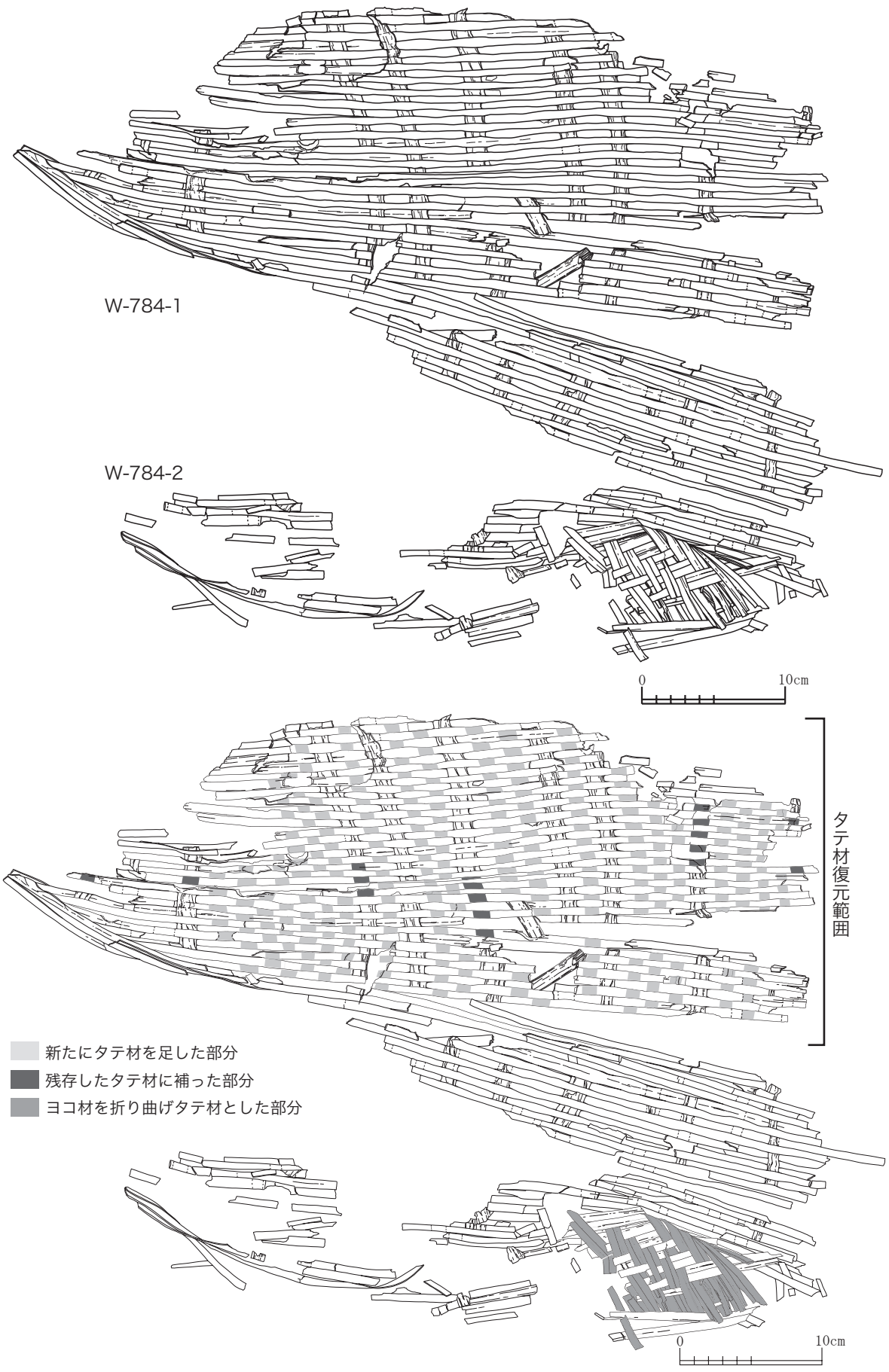


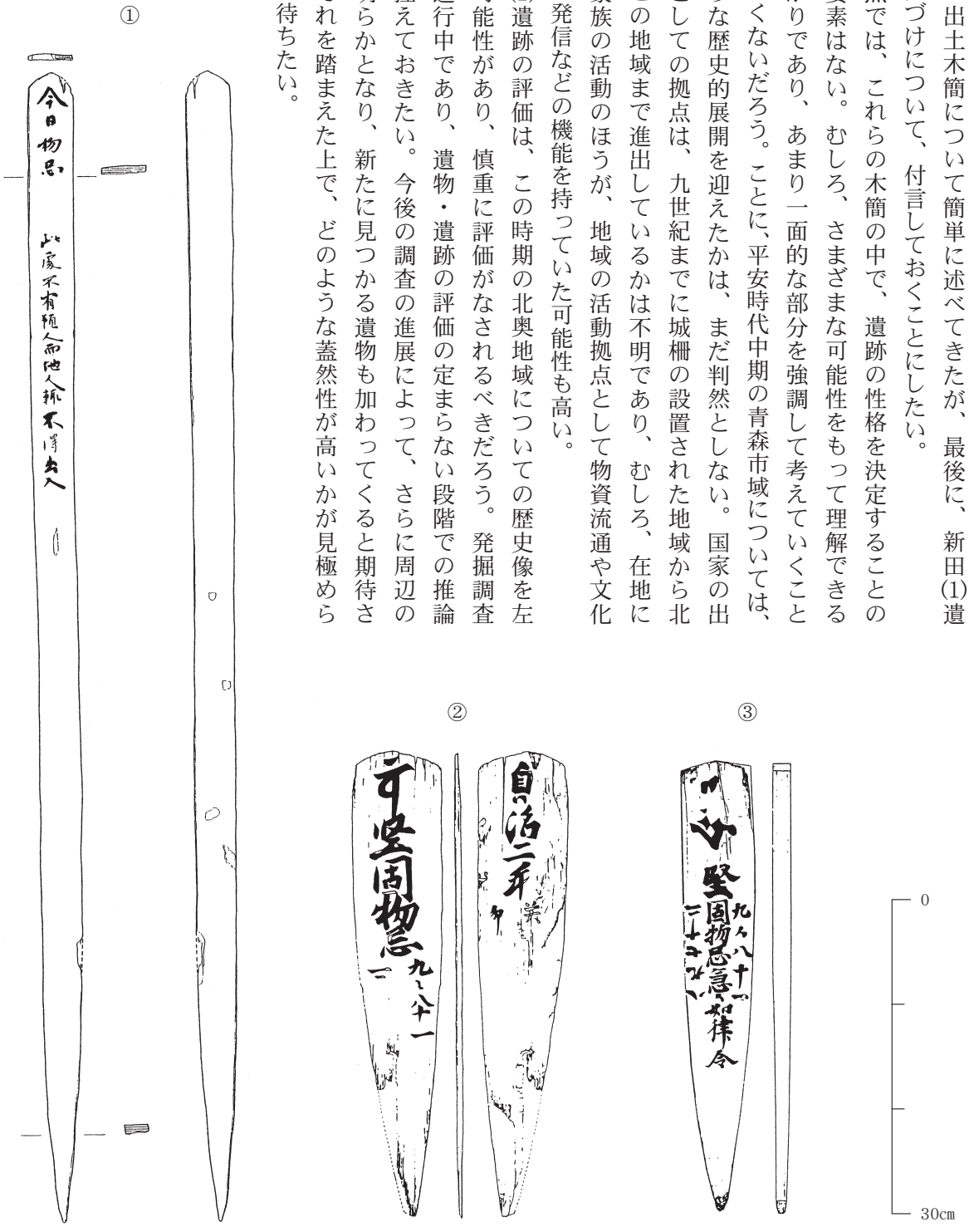
図１　編組製品全体図（上：残存状態、下：タテ材を復元した状態）

おわりに

以上、出土木簡について簡単に述べてきたが、最後に、新田(1)遺跡の位置づけについて、付言しておくことにしたい。

現時点では、これらの木簡の中で、遺跡の性格を決定することのできる要素はない。むしろ、さまざまな可能性をもって理解できるものばかりであり、あまり一面的な部分を強調して考えていくことは望ましくないだろう。ことに、平安時代中期の青森市域については、どのような歴史的展開を迎えたかは、まだ判然としない。国家の出先機関としての拠点は、九世紀までに城柵の設置された地域から北では、どの地域まで進出しているかは不明であり、むしろ、在地における豪族の活動のほうが、地域の活動拠点として物資流通や文化の伝播・発信などの機能を持っていた可能性も高い。

新田(1)遺跡の評価は、この時期の北奥地域についての歴史像を左右する可能性があり、慎重に評価がなされるべきだろう。発掘調査はまだ進行中であり、遺物・遺跡の評価の定まらない段階での推論は差し控えておきたい。今後の調査の進展によって、さらに周辺の遺構が明らかとなり、新たに見つかる遺物も加わってくると期待される。それを踏まえた上で、どのような蓋然性が高いかが見極められるのを待ちたい。



参考資料
物忌札の実例
①長岡京左京三条三坊一町出土／②③元興寺極楽坊出土

また中世に見られる「物忌」という用語が使われているわけでもない。この点は、これまでに知られている物忌札のどの事例とも異なっているが、しかしながら、「忌札」という文言は、物忌札を指すものとして理解せざるを得ないだろう。

以上のように、この木簡は、物忌札としてはこれまでにない文言であり、また形態としてもそのまま利用されたものかどうかまだ考慮の余地があるが、文言の内容からみれば、物忌札と考えざるを得ないものである。「忌札､見に知るべし」とは､「これは忌札であるから、そのことを実際に理解しなさい」という意味合いになる。出入りする人物に対して示したものとみれば、物忌中であることを示しているだけだが、それで出入を禁じる効果はあるだろう。また、別な可能性としては、物忌中に進入を企てようとするさまざまな鬼神や魔物に対して、「これは忌札である。この効力を知れ」として、鬼神や魔物を退けるような文言にも解する余地はあり、魔除けの札のような性格の可能性も残る。

いずれにせよ、全国的にもあまり類例のない文言であり、平安時代中期の物忌札の出土事例がさらに増えることによって、この木簡の評価はより確定していくであろう。現時点ではなかなか評価を定めがたいが、「忌札」の文言から、物忌札の類例の一つとして理解しておくのが穏当であろうと考えられる。また、その使用方法については、形態の上では明らかにはしがたく、何らかの形で掲示したとみるのが穏当なところであろうか。この木簡が下書きであった可能性は否定できないが、文字の大きさなどからみると、そのまま見せることを意図していた可能性は高いとみられる。

③　墨痕のある斎串（第九号木簡）について

第九号木簡の形態は、卒塔婆状の三段の切り込みがある点が、非常に特徴的である。地面に突き刺す形状であることから、斎串の一例として考えておくことにするが、全国的には斎串としてあまり多く見られる形態ではない。むしろ、つがる市（旧木造町）石上神社遺跡で、同様の形態の木製品が見つかっていることが注目される。大きさ、形状ともにほぼ同じであり、石上神社遺跡のものには墨痕があったとはされていないことだけが、唯一異なっている点と言えるだろう。しかしながら、この第九号木簡も墨痕じたいは非常に不鮮明で、出土時には確認できたがすぐに退色してしまった。石上神社遺跡のものも、地下での保存状態によるが、もともとは同様のものであった可能性が考えられよう。

新田(1)遺跡では、仏像や塔身など、仏教関連の遺物がいくつか出土している。卒塔婆状の木製品も、こうした仏教関連遺物の中に含めて考えていく必要があるだろう。石上神社遺跡では「寺」と記された墨書土器が見つかっている。「寺」墨書土器は、全国各地から見つかっているが、東北地方北部では、明確な寺院からでなく、集落の竪穴住居やその周辺から見つかる事例もいくつか知られている。したがって、こうした遺物がみつかったことが、寺院の存在に直接結びつくわけではない。むしろ、仏教がどのように展開しているのかを、遺跡・遺物の状況からさらに詳しく分析していくことが必要になる。一般の集落の中でもこうした遺物が出土し得るものとして、信仰の形態や、それに基づく呪術・祭祀の状況を考えていかなければならないだろう。少なくとも、第九号木簡の出土によって、津軽平野と青森市域との間で、共通の木製品が使われていたことは明らかになったと言ってよいだろう。今後の検討にゆだねられる部分が多いが、注目される遺物である。

かの判断は難しい。

荷札木簡の実例は、奈良時代から平安時代初期にかけては全国的に豊富であるが、平安時代中期には類例が少なくなり、全国的にどのような荷札木簡が作成されて物品が流通していくのかは、まだ未解明の部分が多い。この木簡が荷札木簡であるかどうかという点も含めて、新田(1)遺跡周辺の物資の流れについては、さらに別な角度からの分析が必要であり、遺跡の全体に関してより多くの情報がそろった段階での判断を待つべきであろう。

②物忌札（第六号木簡）について

第六号木簡は特徴的な文言から、いわゆる物忌札の機能を持つ木簡と考えられる。物忌札は外界との接触を断っている物忌の状態の際に、そのことを外界に示すために使われる。もっとも古い事例としては、八世紀末の都であった長岡京跡左京三条三坊一町出土のもので、「今日物忌」と冒頭に記され、それに続けて「此処不有預人而他人輒不得出入（この処、預人に有らずして、他人たやすく出入することを得ざれ）」と記されている。あらかじめ届けてある特定の人物以外には出入りを禁じる文言である。この木簡は長さ一一〇センチメートル余り、幅四・三センチメートルで細長く、下端を尖らせて地面に突き刺すようにできている。おそらく都の中の邸宅の入口に突き刺して、外界に出入を禁じていることを示したのであろう。同様の大きさのものとしては、大分県国東町飯塚遺跡の、八世紀後半から九世紀にかけての遺構から、長さ一五六センチメートル、直径二・五センチメートルで下端を尖らせた杭状のものに、「今日物忌不可出入」と記したものも見つかっている。これらの事例は、出入口に突き刺して立てたと考えられる。

物忌札は、中世にも各地で使われており、滋賀県守山市大宮遺跡の出土事例では、「固物忌　急々如律令」と記したあとに割書で「九々八十一」「八九七十二」（「八九七十二」は天地逆向きに記される）と記している。この物忌札は長さ七八センチメートルで下端を尖らせており、やはり地面に突き刺したとみてよいだろう。奈良県奈良市元興寺極楽坊からも物忌札が複数点見つかっており、下端は尖っていたみが進んでおり、地面に突き刺したと考えられる。元興寺の事例は、三五～四五センチメートルほどの長さであり、地面に突き刺したとすれば短いものでは地上に三〇センチメートルほどの長さしか出ないことになる。七〇センチメートルから一〇〇センチメートルを超えるような長さのものと比べて、あまり目立たなくなるような印象を受けるが、これで十分通用していたのであろう。古い時代の物忌札の事例が少ないため、推論にわたることとなるが、概して時代が新しくなるにつれて、物忌札の大きさは小型化しているような印象を受ける。

一方で、物忌札に記される文言の点では、八世紀末から九世紀の事例では、出入りを禁じる文言を記すものが多いが、中世には「固物忌」「堅固物忌」あるいは「物忌」という文言が前面に出た表現となり、あわせて「急々如律令」や「九々八十一」「八九七十二」といった呪句が記されるようになる。同じ物忌札の機能をもった木簡でも、時代によって、このように記される文言は変化しているということが言えるだろう。

新田(1)遺跡出土の第六号木簡は、形態の上では下端を削って加工してはいるが、地面に突き刺す機能を持たせたとは考えにくい形状である。大きさの点からみても、他の地面に突き刺した事例に比べて小さく、このまま地面に立てたとは考えにくい。外界からの侵入者に対して示すならば、何らかの手段でほかの部材に付けて掲げる必要があるだろう。また、文言の点からは、八世紀末から九世紀のような「不可出入」といった出入りを禁じる明確な文言ではない。

ＳＤ〇三出土

第六号木簡

「忌札見知可

(190)×(47)×6　051

上端は丁寧に加工され、丸みを帯びた方頭状を呈している。下端はやや尖らせた形状であるが、地面に突き刺すなどのための加工としては角度が鈍く、また文字が尖らせた部分にも達しており、実際に突き刺したとは考えにくい。右側が欠損しているが、左右対称の形態であったとすれば、下端部の加工の状態からみて、文字が左右幅の中央に記されていたと考えられる。現状で五文字が確認され、文言としては完結しており、下端部の加工の状態から考えても、これより下部に文字はなかった可能性が高い。三文字目の「見」については、やや右に寄っていて左側にかすかに墨痕ともとれる部分もあり、「現」の可能性も残る。ただし、この木簡の文言においては「見」＝「現」として通用すると考えてよく、どちらであっても内容には変わりはない。「忌札（いみふだ）、見（げん）に知る可（べ）し」と読む。漢文の文字順としては崩れているが、日本語の語順に漢字を並べる表記は多く見られ、この木簡もそうした表記をとったものであろう。

第七号木簡

□□□□□

(177)×(12)×6.3　081

上下端と左側を欠損している。上部に数文字の墨痕が確認できる。

ＳＤ〇四出土

第八号木簡

「〈□＿＿＿

(230)×19×6.6

上端はやや丸みを帯びた形状に加工され、左右から切り込みを入れる。下端は欠損。切り込み部分から下端まで薄い墨痕が続くが、文字数は不明。

第九号木簡

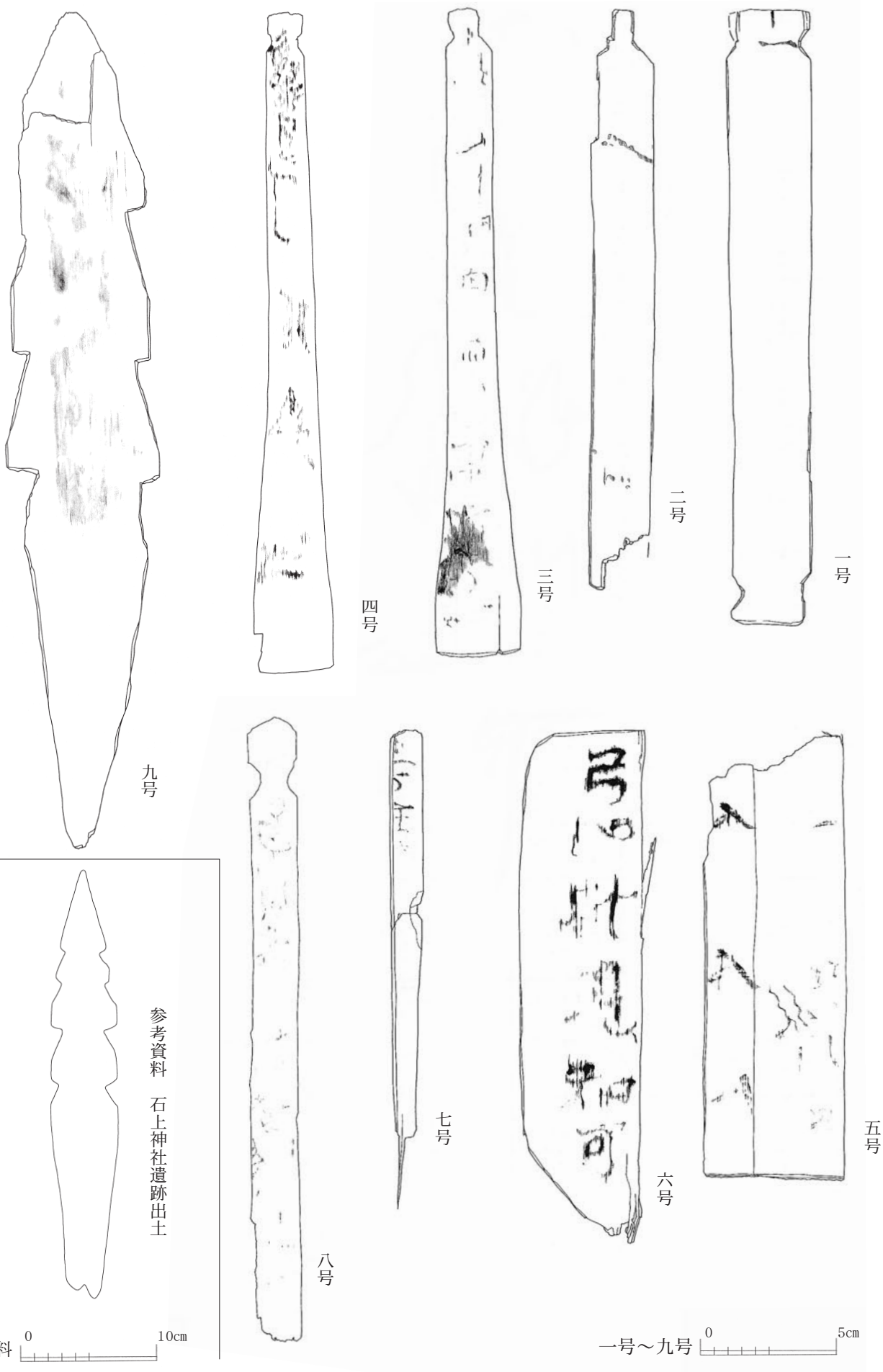
「＿＿＿＿」

309.5×57×6.5

卒塔婆状に三段の切り込みを入れ、下端部を尖らせている。遺物出土時に墨痕がみられたが、にじんだ状態であり、判読はできなかった。出土直後より墨痕が退色し、現状ではほとんど確認できない。

①　荷札状の木簡（第一号木簡）について

新田(1)遺跡では、墨痕のないものも含めると、複数の荷札状の木製品が出土している。第一号木簡は、その中で墨痕がみられたものとして、木簡として扱っているが、墨痕のないものも荷札木簡状の木製品として同じひとくくりに扱うこともできるかもしれない。こうした荷札木簡状の木製品については、各地で出土例が知られており、荷札木簡の未製品とみるか、あるいは別な用途（祭祀なども含む）の木製品とみるかは、それぞれの出土例についてもまだ判断の難しいところである。いずれにせよ、律令制下の各地でみられる荷札木簡状の木製品と同じような範疇のものとして考えておきたい。現段階では、新田(1)遺跡からは明瞭に荷札としての役割を果たしたものが見出せないため、荷札木簡がこの地で作成されていたかどう



(2)

第5節　新田(1)遺跡出土の木簡について

学習院大学　鐘江宏之

最初に、出土している九点の木簡について、釈文と寸法、若干の説明を掲げ、これを踏まえて、注目される点などについて述べることにしたい。

SD〇一出土

第一号木簡

「V□□V」

228×31×4.5　031

上端・下端ともに切り込みを入れた荷札木簡の形態だが、上端に縦方向と横方向の墨線が、それぞれ一本ずつ確認できたにとどまる。側面についても丁寧に削られており、全体は非常に丁寧に成形されている。

第二号木簡

「V□　□

(214)×24×6　039

下端は折損。上端は、切り込み状の痕跡が残り、もとは荷札木簡のような切り込みがあったことがわかる。上部と下部に部分的に墨痕が確認される。

第三号木簡

「V□□」

240×31×7　032

現在の形態は箆状を呈しているが、墨痕の残り方などからみて、もともと長方形の材に墨書された木簡を転用して加工された結果、現状の形態になったとみられる。数文字分に相当する墨痕があるが、判然としない。上端部左右に切り込みがあるが、箆状の形態との関係は不明。

第四号木簡

「V□□」

244×29×5　032

第三号木簡と同様の形態であり、墨痕の残り方などからみて、同様に木簡が転用され加工されたものとみられる。やはり数文字分の墨痕があるが、判然としない。第三号木簡と同様に、上端部左右に切り込みがあるが、箆状の形態との関係は不明。

第五号木簡

□　□　□

□

入　入　入」

(164)×53×4　019

上端は欠損している。表面に柿渋のようなものが塗られている。曲物の側板状だが、用途は不明。左端に沿って、「入」の文字が三つ確認されるほか、右端にも複数文字、中央に一文字分の墨痕が確認される。「入」は同筆とみられることから、習書であろう。

ま と め

石江遺跡群は、青森市大字石江字高間、大字新田字忍、大字新城字平岡に所在する高間（1）・（6）遺跡、新田（1）・（2）遺跡、新城平岡（2）・（4）・（5）遺跡の７つの遺跡を統括した呼称で、青森市教育委員会では東北新幹線建設事業に伴い、高間（1）遺跡と新田（1）遺跡について発掘調査を実施した。

高間（1）遺跡は、標高５．７～８．５ｍの丘陵地上の調査で、平安時代の竪穴建物跡１軒、土坑１１基、ピット１３基、掘立柱建物跡１棟以上、溝跡９条、その他の遺構１基を検出した。

新田（1）遺跡は、標高４．５～５．４ｍの沖積地部分と標高６．４～７．３ｍの丘陵地部分の調査を行った。沖積地部分は平安時代の溝跡６条、平安時代以降の溝跡２条、近現代の溝跡２条、中世以降のピット１６基を検出した。また、丘陵地部分からは平安時代の竪穴建物跡２軒、土坑３１基（うち１基は井戸跡）、焼成遺構１基、中世の掘立柱建物跡５棟、古代及び近世のその他の遺構２基、平安時代以降の溝跡９条、古代～中世のピット３７１基を検出した。沖積地上の平安時代に帰属する溝跡からは夥しい量の木製品が出土し、木簡、斎串・馬形等の祭祀具や曲物・下駄等生活用具、杭・部材など多種多様な製品が出土しており、青森県内では古代の資料として初の木簡や扇などは特筆される点である。古代には中央の直接的な支配外であったこの地域では、本遺跡出土の資料はこれまでの価値観を変える新資料となったのは言うまでもない。

ただ、本報告（以下本報分）中で再三にわたって述べているが、本報分の新幹線建設事業に伴う調査区の隣接部分には、青森市が計画実施している土地区画整理事業に伴う高間（1）遺跡、新田（1）遺跡の調査区があり、本報分の調査区内で検出した遺構が土地区画整理事業の調査区へ延びるものもあり、また、未報告ではあるが土地区画整理事業の調査区の調査成果で本報分の調査区では欠落している時期の遺構や変遷過程を検討できる資料が見つかってる関係上、本報分は、遺跡全体の報告としては途中であり、遺跡の内容を検討するにはまだ時期尚早である。

新田（1）遺跡については、前述のとおり青森県内としてはこれまで類例のない資料が相次いだことから、これまで公表された出土遺物等の内容を基に一部の研究者によって遺跡の性格づけや意義付けがなされている。

本報分で垣間見られたが、新田（1）遺跡そのものは継続幅のある複雑な遺構変遷を経ている遺跡であり、新田（1）遺跡にだけ特化される訳でなく、発掘調査が今後進展する新田（2）遺跡の調査成果等も踏まえた検討が必要とされる。延いては、高間（1）遺跡のSD－０１のように広大な範囲を区画する溝跡や土地区画整理事業の調査区の新田（1）遺跡と高間（1）遺跡で共通する文字の墨書土器が出土した事例等が確認されていることなどを踏まえても石江遺跡群全体で関連性が生じる時期や、特定の遺跡内のみで完結する事例など各遺跡間の消長について興味深い成果が蓄積されている。石江遺跡群全体を対象とした検討が今後必要とされる。

（木　村）

引用参考文献

青森県教育委員会 1977『石上神社遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第 35 集
青森県教育委員会 1978『青森市三内遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 37 集
青森県教育委員会 1978『三内澤部遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第 41 集
青森県教育委員会 1994『三内丸山 (2) 遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 157 集
青森県教育委員会 1998『岡町 (2) 遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 232 集
青森県教育委員会 1999『三内丸山 (6) 遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 257 集
青森県教育委員会 1999『三内丸山 (5) 遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 269 集
青森県教育委員会 2001『安田 (2) 遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 303 集
青森県教育委員会 2005『三内沢部 (3) 遺跡 柴山 (1) 遺跡 洗平 (2) 遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 390 集
青森市教育委員会 1962『三内霊園遺跡調査概報』青森市の文化財 1
青森市教育委員会 2001『野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』青森市埋蔵文化財調査報告書第 54 集
青森市教育委員会 2002『市内遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第 64 集
青森市教育委員会 2003『雲谷山吹 (4) ～ (7) 遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第 65 集
青森市教育委員会 2003『深沢 (3) 遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第 67 集
青森市教育委員会 2003『市内遺跡発掘調査報告書 11』青森市埋蔵文化財調査報告書第 69 集
青森市教育委員会 2004『市内遺跡発掘調査報告書 12』青森市埋蔵文化財調査報告書第 74 集
青森市教育委員会 2004『江渡遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第 75 集
青森市教育委員会 2006『三内沢部 (3) 遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第 82 集
秋田県教育委員会 2001『中谷地遺跡』秋田県文化財調査報告書第 316 集
秋田県教育委員会 2006『樋口遺跡』秋田県文化財調査報告書第 411 集
秋田県立博物館　2002『影印本　栖家の山（写本)』
五所川原市教育委員会 2003『五所川原須恵器窯跡群』
新潟市教育委員会 1993『新潟市的場遺跡』
長野県教育委員会ほか 1999『更埴条里遺跡・屋代遺跡群』上信越自動車道埋蔵文化財調査報告書 26
奈良文化財研究所 1985『木器集成図録 近畿古代編』
日本考古学協会 1997 年度秋田大会実行委員会 1997『蝦夷・律令国家・日本海』
埋蔵文化財研究会 1996『古代の木製食器』第 39 回埋蔵文化財研究集会資料集
木簡学会 2004『木簡研究』第 26 号
北日本須恵器生産・流通研究会 2007『五所川原産須恵器の年代と流通の実態』
加藤真二 1996「桧扇考」『考古学雑渉－西野元先生退官記念論集－』pp.205-212
佐藤光次 1985『石江史実』
齋藤淳　2001「津軽海峡領域における古代土器の変遷について」『青森大学考古学研究所研究紀要』第 4 号 pp.1-29
塚本浩司 2002「擦文土器の編年と地域差について」『紀要』第 17 号 pp.145-184 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部考古学研究室
武田和宏 2003「ブラシを使用しない洗浄方法について」『第 1 回東北古代文字研究会資料』pp.132-134

報 告 書 抄 録

ふりがな	いしえいせきぐんはっくつちょうさほうこくしょ
書名	石江遺跡群発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第94集
編著者名	木村淳一
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒038-8505　青森県青森市柳川二丁目1番1号　TEL017-761-4796
発行年月日	西暦2007年3月30日

ふりがな 所収遺跡名		ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号	北緯	東経			
石江遺跡群	たかまいせき 高間(1)遺跡	あおもりけんあおもりしおおあざ 青森県青森市大字 いしえあざたかま 石江字高間 ほか 109-2 他	02201	01070	40° 49′ 49″	140° 41′ 36″	20040611 ～ 20041112	2,700㎡	東北新幹線建設事業
	にったいせき 新田(1)遺跡	あおもりけんあおもりしおおあざ 青森県青森市大字 いしえあざたかま 石江字高間 ほか 57-3 他	02201	01078	40° 49′ 59″	140° 41′ 36″	20040611 ～ 20041210	1,200㎡	東北新幹線建設事業

所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石江遺跡群	高間(1)遺跡	集落跡	縄文時代 平安時代	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 溝跡	縄文土器・土師器・ 須恵器	
	新田(1)遺跡	集落跡	縄文時代 平安時代 中世	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 溝跡	縄文土器・土師器 擦文土器・かわらけ 木製品	木簡・馬形 漆器・扇

要約

1．石江遺跡群は青森市西部の石江地区に所在する７遺跡の総称で、東北新幹線新青森駅建設に関して、高間（１）遺跡・新田（１）遺跡の２遺跡を対象に発掘調査を行った。

2．高間（１）遺跡は、標高５.７～８.５ｍの丘陵地上を調査を行い、平安時代の竪穴建物跡１軒、掘立柱建物跡１棟以上、土坑11基（うち５基は縄文に帰属）、ピット13基、溝跡９条、その他の遺構１基を検出した。遺跡の主体は平安時代である。

3．新田（１）遺跡は、標高４.５～５.４ｍの沖積地上と、標高６.４～７.３ｍの丘陵地上の２地点の調査を行い、沖積地上は平安時代の溝跡６条、平安時代以降の溝跡２条、近代～現代の溝跡２条、中世以降のピット１６基を検出した。丘陵地上は平安時代の竪穴建物跡２軒、中世の掘立柱建物跡５棟、土坑31基（うち１基は井戸跡）、焼成遺構１基、古代～中世のピット371基を検出した。遺跡の主体は平安時代および中世である。丘陵地上に居住施設があり、丘陵地及び沖積地上に囲郭および利水的機能を果たす溝跡が開削されている。

4．新田（１）遺跡の沖積地上の溝跡からは土地区画整理事業の調査区の出土資料を含め2,000点以上の木製品の出土があり、青森県の古代の資料としては初めての木簡や扇をはじめ、斎串や馬形等の木製祭祀具などが出土した。

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財１　１９６２『三内霊園遺跡調査概報』
〃　２　１９６５『四ツ石遺跡調査概報』
〃　３　１９６７『玉清水遺跡調査概報』
〃　４　１９７０『三内丸山遺跡調査概報』
〃　５　１９７１『野木和遺跡調査報告書』
〃　６　１９７１『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
〃　７　１９７１『大浦遺跡調査報告書』
〃　８　１９７３『孫内遺跡発掘調査報告書』
　　１９７９『蛍沢遺跡』
　　１９８３『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財　１９８３『山野峠遺跡』
〃　１９８５『長森遺跡発掘調査報告書』
〃　１９８６『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
〃　１９８７『横内城跡発掘調査報告書』
〃　１９８８『三内丸山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書
〃　第１６集　１９９１『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』
〃　第１７集　１９９２『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃　第１８集　１９９３『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』
〃　第１９集　１９９３『市内遺跡発掘調査報告書』
〃　第２０集　１９９３『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃　第２１集　１９９４『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第２２集　１９９４『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃　第２３集　１９９４『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』
〃　第２４集　１９９５『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』
〃　第２５集　１９９５『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第２６集　１９９５『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』
〃　第２７集　１９９６『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』
〃　第２８集　１９９６『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』
〃　第２９集　１９９６『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第３０集　１９９６『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃　第３１集　１９９７『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第３２集　１９９７『桜峯(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃　第３３集　１９９７『新町野遺跡試掘調査報告書』
〃　第３４集　１９９７『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』
〃　第３５集　１９９７『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃　第３６集　１９９８『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』
〃　第３７集　１９９８『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃　第３８集　１９９８『野木遺跡発掘調査報告書』
〃　第３９集　１９９８『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第４０集　１９９８『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃　第４１集　１９９８『野木遺跡発掘調査概報』
〃　第４２集　１９９８『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃　第４３集　１９９９『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃　第４４集　１９９９『葛野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃　第４５集　１９９９『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃　第４６集　１９９９『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
〃　第４７集　１９９９『稲山遺跡発掘調査概報』
〃　第４８集　２０００『熊沢遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書
〃　第４９集　２０００『稲山遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃　第５０集　２０００『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃　第５１集　２０００『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
〃　第５２集　２０００『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
〃　第５３集　２０００『市内遺跡発掘調査報告書』
〃　第５４集　２００１『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃　第５５集　２００１『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
〃　第５６集　２００１『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
〃　第５７集　２００１『稲山遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃　第５８集　２００１『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃　第５９集　２００１『市内遺跡発掘調査報告書』
〃　第６０集　２００２『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
〃　第６１集　２００２『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
〃　第６２集　２００２『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃　第６３集　２００２『稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ』
〃　第６４集　２００２『市内遺跡発掘調査報告書』
〃　第６５集　２００３『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』
〃　第６６集　２００３『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃　第６７集　２００３『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
〃　第６８集　２００３『近野遺跡発掘調査報告書』
〃　第６９集　２００３『市内遺跡発掘調査報告書 11』
〃　第７０集　２００３『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
〃　第７１集　２００４『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃　第７２集　２００４『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃　第７３集　２００４『新町野遺跡発掘調査概報』
〃　第７４集　２００４『市内遺跡発掘調査報告書 12』
〃　第７５集　２００４『江渡遺跡発掘調査報告書』
〃　第７６集　２００５『栄山(3)遺跡発掘調査報告書』
〃　第７７集　２００５『赤坂遺跡発掘調査報告書』
〃　第７８集　２００５『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』
〃　第７９集　２００５『市内遺跡発掘調査報告書 13』
〃　第８０集　２００５『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
〃　第８１集　２００５『石江遺跡群発掘調査概報』
〃　第８２集　２００６『三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書』
〃　第８３集　２００６『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃　第８４集　２００６『新町野遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃　第８５集　２００６『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅸ』
〃　第８６集　２００６『市内遺跡発掘調査報告書 14』
〃　第８７集　２００６『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃　第８８集　２００６『史跡高屋敷館遺跡環境整備報告書Ⅱ』
〃　第８９集　２００６『篠原遺跡発掘調査報告書』
〃　第９０集　２００７『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』
〃　第９１集　２００７『市内遺跡発掘調査報告書 15』
〃　第９２集　２００７『新町野遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃　第９３集　２００７『合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書』
〃　第９４集　２００７『石江遺跡群発掘調査報告書』

青森市埋蔵文化財調査報告書第94集

石江遺跡群発掘調査報告書

発行年月日　2007年（平成19年）３月30日
編　　集　青森市教育委員会
〒038-8505　青森県青森市柳川二丁目1番1号
TEL 017-761-4796
印　　刷　第一印刷株式会社
〒038－0003　青森市大字石江字江渡３番１号
TEL 017－782－2333　FAX 017－781－9153